2020年度
キャリアデザイン学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2020/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

基幹科目_必修【C7040】キャリアデザイン学入門［梅崎　修、寺崎　里水、荒川　裕子］春学期 1
基幹科目_必修【C7001】【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（A-E）［仲　修平］秋学期 2
基幹科目_必修【C7002】【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（F-P）［大倉　韻］秋学期 3
基幹科目_選択必修（調査法）【C7003】キャリア研究調査法（質的調査）［池田　心豪］春学期 4
基幹科目_選択必修（調査法）【C7004】キャリア研究調査法（質的調査）［濱中　義隆］春学期 5
基幹科目_選択必修（調査法）【C7005】キャリア研究調査法（質的調査）［佐藤　恵］春学期 6
基幹科目_選択必修（調査法）【C7006】キャリア研究調査法（質的調査）［田中　研之輔］春学期 7
基幹科目_選択必修（調査法）【C7007】キャリア研究調査法（質的調査）［西村　純］春学期 8
基幹科目_選択必修（調査法）【C7008】キャリア研究調査法（質的調査）［前浦　穂高］春学期 9
基幹科目_選択必修（調査法）【C7009】キャリア研究調査法（質的調査）［河村　裕樹］春学期 10
基幹科目_選択必修（調査法）【C7010】キャリア研究調査法（質的調査）［井上　公人］春学期 11
基幹科目_選択必修（調査法）【C7011】キャリア研究調査法（質的調査）［山﨑　正枝］春学期 12
基幹科目_選択必修（調査法）【C7012】キャリア研究調査法（量的調査）［北村　美穂］春学期 13
基幹科目_選択必修（調査法）【C7013】キャリア研究調査法（量的調査）［濱中　義隆］春学期 14
基幹科目_選択必修（調査法）【C7014】キャリア研究調査法（量的調査）［井上　公人］春学期 15
基幹科目_選択必修（調査法）【C7015】キャリア研究調査法（量的調査）［熊谷　智博］春学期 16
基幹科目_選択必修（調査法）【C7016】キャリア研究調査法（量的調査）［伊藤　慎悟］春学期 17
基幹科目_選択必修（調査法）【C7017】キャリア研究調査法（量的調査）［齋藤　嘉孝］春学期 18
基幹科目_選択必修（調査法）【C7018】キャリア研究調査法（量的調査）［長瀬　毅］春学期 19
基幹科目_選択必修（調査法）【C7019】キャリア研究調査法（量的調査）［坂爪　洋美］春学期 20
基幹科目_選択必修（調査法）【C7020】キャリア研究調査法（量的調査）［坂田　哲人］春学期 21
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7050】発達・教育キャリア入門Ａ［遠藤　野ゆり］春学期 22
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7051】発達・教育キャリア入門Ｂ［石川　茜恵］秋学期 23
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7052】発達・教育キャリア入門Ｃ（生涯学習入門Ⅰ）［笹川　孝一］春学期 24
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7053】発達・教育キャリア入門Ｃ（生涯学習入門Ⅰ）［朝岡　幸彦］春学期 25
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7055】発達・教育キャリア入門Ｄ（生涯学習入門Ⅱ）［笹川　孝一］秋学期 26
基幹科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7056】発達・教育キャリア入門Ｄ（生涯学習入門Ⅱ）［朝岡　幸彦］秋学期 27
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7058】ビジネスキャリア入門Ａ［妹尾　渉］秋学期 28
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7059】ビジネスキャリア入門Ｂ［湯川　志保］春学期 29
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7060】ビジネスキャリア入門Ｃ［中野　貴之］春学期 30
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7061】ビジネスキャリア入門Ｄ［酒井　理］秋学期 30
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7062】ライフキャリア入門Ａ［田中　研之輔］春学期 31
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7063】ライフキャリア入門Ｂ［齋藤　嘉孝］秋学期 32
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7064】ライフキャリア入門Ｃ［北村　美穂］春学期 33
基幹科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7065】ライフキャリア入門Ｄ［金山　喜昭］秋学期 33
基幹科目_選択 【C7080】労働法［砂押　以久子］秋学期 34
基幹科目_選択 【C7081】ファシリテーション論［鈴木　まり子］春学期 35
基幹科目_選択 【C7082】若者の自立支援［大山　宏］秋学期 36
基幹科目_選択 【C7083】職業選択論Ⅰ［上西　充子］春学期 37
基幹科目_選択 【C7084】ライフコース論［武石　恵美子］秋学期 38
基幹科目_選択 【C7085】生活設計論Ⅰ（社会保障）［圓山　里子］春学期 39
基幹科目_選択 【C7086】生活設計論Ⅱ（生活設計）［林　奈生子］秋学期 40
基幹科目_選択 【C7087】キャリアモデル・ケーススタディ［熊谷　智博］秋学期 41
基幹科目_選択 【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ［梅崎　修］春学期 42
展開科目_選択必修（体験型）【C7100】キャリアサポート事前指導［廣川　進］春学期 43
展開科目_選択必修（体験型）【C7102】キャリアサポート事前指導［児美川　孝一郎］春学期 44
展開科目_選択必修（体験型）【C7103】キャリアサポート事前指導［荒川　裕子］春学期 45
展開科目_選択必修（体験型）【C7104】キャリアサポート事前指導［渡邊　有紀子］春学期 46
展開科目_選択必修（体験型）【C7106】キャリアサポート実習［児美川　孝一郎］秋学期 47
展開科目_選択必修（体験型）【C7107】キャリアサポート実習［渡邊　有紀子］秋学期 48
展開科目_選択必修（体験型）【C7108】キャリアサポート実習［荒川　裕子］秋学期 48
展開科目_選択必修（体験型）【C7109】キャリアサポート実習［廣川　進］秋学期 49
展開科目_選択必修（体験型）【C7114】キャリア体験事前指導（A・B コース）［中野　貴之］春学期 49

展開科目_選択必修（体験型）【C7115】キャリア体験事前指導（A・B コース）［酒井　理］春学期 50
展開科目_選択必修（体験型）【C7116】キャリア体験事前指導（A・B コース）［田中　研之輔］春学期 51
展開科目_選択必修（体験型）【C7117】キャリア体験事前指導（A・B コース）［松浦　民恵］春学期 52
展開科目_選択必修（体験型）【C7118】キャリア体験事前指導（C コース）［山岡　義卓］春学期 53
展開科目_選択必修（体験型）【C7119】キャリア体験学習（A・B コース）［中野　貴之］秋学期 54
展開科目_選択必修（体験型）【C7120】キャリア体験学習（A・B コース）［酒井　理］秋学期 55
展開科目_選択必修（体験型）【C7121】キャリア体験学習（A・B コース）［田中　研之輔］秋学期 56
展開科目_選択必修（体験型）【C7122】キャリア体験学習（A・B コース）［松浦　民恵］秋学期 57
展開科目_選択必修（体験型）【C7123】キャリア体験学習（C コース）［山岡　義卓］秋学期 58
展開科目_選択必修（体験型）【C7124】キャリア体験事前指導（国際）［御園生　純］春学期 59
展開科目_選択必修（体験型）【C7125】キャリア体験学習（国際）［御園生　純］秋学期 60
展開科目_選択必修（体験型）【C7126】キャリア体験事前指導（国際）［松尾　知明、郭　艶娜、笹川　孝一］春学期 61
展開科目_選択必修（体験型）【C7127】キャリア体験学習（国際）［松尾　知明、郭　艶娜、笹川　孝一］秋学期 ... 62
展開科目_選択必修（体験型）【C7128】メディアリテラシー実習Ⅰ［坂本　旬］春学期 63
展開科目_選択必修（体験型）【C7129】メディアリテラシー実習Ⅱ［坂本　旬］秋学期 64
展開科目_選択必修（体験型）【C7130】地域学習支援Ⅰ［寺崎　里水］春学期 65
展開科目_選択必修（体験型）【C7131】地域学習支援Ⅱ［寺崎　里水、田澤　実、金山　喜昭、児美川　孝一郎、坂本　旬、笹川　孝一、熊谷　智博、荒川　裕子］秋学期 66
展開科目_選択必修（体験型）【C7134】多文化教育Ⅰ［村田　晶子］春学期 67
展開科目_選択必修（体験型）【C7135】多文化教育Ⅱ［村田　晶子］秋学期 68
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7189】【2014 年度以降入学者用】教育マネジメントⅠ［梅澤　希恵］春学期 69
展開科目_選択必修（体験型）【C7189】【2013 年度以前入学者用】教育マネジメントⅠ［梅澤　希恵］春学期 70
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7270】【2014 年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］春学期 71
展開科目_選択必修（体験型）【C7270】【2013 年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］春学期 72
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7271】【2014 年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］秋学期 73
展開科目_選択必修（体験型）【C7271】【2013 年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ［松本　真尚、田口　香織、市川　大樹］秋学期 74
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7150】キャリア研究調査実習 A（子ども・家庭生活研究）［岩崎　香織］秋学期 75
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7151】キャリア研究調査実習 B（恋愛の質的研究）［大森　美佐］秋学期 76
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7152】外書講読Ａ（発達・教育）［福田　紀子］春学期 77
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7153】外書講読Ｂ（発達・教育）［長岡　智寿子］春学期 78
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7154】生涯発達心理学Ⅰ［松浦　千春］春学期 79
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7155】生涯発達心理学Ⅱ［廣川　進］秋学期 80
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7156】臨床教育相談論Ⅰ［飯野　雄大］春学期 81
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7157】臨床教育相談論Ⅱ［飯野　雄大］秋学期 82
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7158】キャリアカウンセリングⅠ［廣川　進］春学期 83
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7159】キャリアカウンセリングⅡ［高橋　浩］秋学期 84
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7160】キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）［宮脇　優子］秋学期 85
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7162】教育相談［児玉　茉奈美］春学期 86
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7163】教育相談［土屋　弥生］秋学期 87
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7164】教育相談［山上　真貴子］秋学期 89
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7165】教育相談［遠藤　裕子］秋学期 90
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7166】教育相談［土屋　弥生］春学期 91
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7168】教育心理学［杉本　英晴］秋学期 92
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7169】教育心理学［児玉　茉奈美］春学期 93
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7170】教育心理学［山上　真貴子］春学期 94
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7171】教育心理学［遠藤　裕子］春学期 95
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7172】教育心理学［児玉　茉奈美］秋学期 96
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7173】学校論Ⅰ（キャリア形成）［松尾　知明］春学期 97
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7174】学校論Ⅱ（キャリア形成）［遠藤　野ゆり］秋学期 98
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7175】学校論Ⅲ（キャリア教育）［児美川　孝一郎］春学期 99
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7176】学校論Ⅳ（キャリア教育）［寺崎　里水］秋学期 100

展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7177】生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）［笹川　孝一］春学期 101
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7178】生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）［朝岡　幸彦］春学期 102
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7179】生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）［笹川　孝一］秋学期 103
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7180】生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）［朝岡　幸彦］秋学期 104
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7181】図書館情報学概論Ⅰ［村上　郷子］春学期 105
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7182】図書館情報学概論Ⅰ［原田　隆史］春学期 106
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7183】図書館情報学概論Ⅱ［丹　一信］秋学期 107
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7184】図書館情報学概論Ⅱ［原田　隆史］秋学期 108
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7185】図書館情報学概論Ⅱ［菅原　真悟］秋学期 109
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7186】図書館情報学概論Ⅱ［丹　一信］春学期 110
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7187】メディア教育論Ⅰ［村上　郷子］春学期 111
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7188】メディア教育論Ⅱ［村上　郷子］秋学期 112
展開科目_選択必修（体験型）【C7190】【2013 年度以前入学者用】教育マネジメントⅡ［福島　真治］秋学期 113
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7190】【2014 年度以降入学者用】教育マネジメントⅡ［福島　真治］
秋学期 114
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7191】教育政策［村上　純一］秋学期 115
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7192】現代教育思想［岩本　俊一］秋学期 116
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7193】生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ）［森本　扶］春学期 117
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7194】生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ）［朝岡　幸彦］秋学期 118
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7195】学習の社会史Ａ［山口　真里］秋学期 119
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7196】学習の社会史Ｂ［寺崎　里水、金山　喜昭］春学期 120
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7197】教育社会学Ⅰ［筒井　美紀］春学期 121
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7198】教育社会学Ⅱ［筒井　美紀］秋学期 122
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7199】教育経済学［荒木　宏子］秋学期 123
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7250】キャリア研究調査実習 C(データで語るキャリア）［久保田　貴文］
秋学期 124
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7251】キャリア研究調査実習 D（仕事とビジネスの質的研究）［山口
塁］秋学期 125
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7252】外書講読Ａ（ビジネス）［中野　貴之］秋学期 126
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7253】外書講読Ｂ（ビジネス）［杉原　弘恭］春学期 127
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7254】職業選択論Ⅱ［上西　充子］秋学期 128
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7255】人材育成論Ⅰ［佐藤　厚］春学期 129
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7256】人材育成論Ⅱ［池田　心豪］秋学期 130
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7257】産業・組織心理学Ⅰ［坂爪　洋美］春学期 131
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7258】産業・組織心理学Ⅱ［坂爪　洋美］秋学期 132
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7259】キャリア開発論［武石　恵美子］春学期 133
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7260】リーダーシップ論［佐野　達］秋学期 134
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7261】経営統計論 A（心理データ）［北村　康宏］春学期 135
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7262】企業会計論［松本　徹］春学期 136
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7263】経営統計論 B（企業データ）［中野　貴之］秋学期 137
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7264】経営組織論Ⅰ［梅木　眞］春学期 138
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7265】経営組織論Ⅱ［梅木　眞］秋学期 139
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7266】戦略経営論Ⅰ［木村　琢磨］春学期 140
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7267】戦略経営論Ⅱ［小山　浩一］秋学期 141
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7268】経営分析論Ⅰ［中野　貴之］春学期 142
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7269】経営分析論Ⅱ［中野　貴之］秋学期 142
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7272】職業キャリア論［松浦　民恵］春学期 143
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7273】労働経済学［梅崎　修］春学期 144
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7274】シティズンシップ論［榎並 利博］春学期 145
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7275】生産システム論［小林　哲也］秋学期 146
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7276】国際経営論［森　直子］春学期 147
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7277】日本経済論［長谷部　弘道］秋学期 148
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7278】産業論［青木　成樹］秋学期 149
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7280】マーケティング論［酒井　理］春学期 150
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7281】流通・マーケティング戦略論［首藤　禎史］秋学期 151
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7282】流通・サービスビジネス論［酒井　理］春学期 152
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7283】就業機会発見実務［田辺　康広］春学期 153

展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7300】キャリア研究調査実習 E（幸福論）［小塩　靖崇］春学期 154
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7301】キャリア研究調査実習 F（まちづくり論）［大西　未希］春学期 ... 155
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7302】外書講読A（ライフ）［門脇　仁］春学期 156
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7303】外書講読B（ライフ）［門脇　仁］秋学期 157
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7304】コミュニティ社会論Ⅰ［佐藤　恵］春学期..... 158
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7305】コミュニティ社会論Ⅱ［佐藤　恵］秋学期..... 159
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7306】家族論［齋藤　嘉孝］春学期 160
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7307】若者文化論［山崎　鎮親］秋学期..... 161
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7308】世代間交流論［北村　美穂］秋学期..... 162
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7309】身体表現論［楠原　竜也］サマーセッション/Summer Session 162
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7310】地域文化論［緑川　岳志］秋学期..... 163
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7311】アイデンティティ論［熊谷　智博］春学期 164
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7312】余暇集団論［丁野　朗］春学期 165
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7313】ＮＰＯ論［山口　佳子］秋学期 166
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7314】公共サービス論［前浦　穂高］秋学期..... 167
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7315】アート・マネジメント論［山口　佳子］春学期 168
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7316】文化経営論［荒川　裕子］秋学期..... 169
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7317】メディア文化論［堤　信子］秋学期..... 170
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7318】文化マーケティング論［横石　崇］春学期 171
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7319】ブランド創造論［首藤　禎史］春学期..... 172
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7320】産業文化論［上原　義子］秋学期..... 173
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7321】ミュージアム概論［金山　喜昭］春学期 174
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7322】ミュージアム経営論［杉長　敬治］秋学期 175
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7323】ミュージアム経営論［金山　喜昭］春学期 176
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7324】多文化社会論Ⅰ［小田　昌教］春学期 177
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7325】多文化社会論Ⅱ［金　泰植］春学期 179
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7326】多文化社会論Ⅲ［加藤　丈太郎］春学期 180
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7327】アジア社会論Ⅰ［趙　宏偉］春学期 182
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7328】アジア社会論Ⅱ［趙　宏偉］秋学期 183
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7329】国際関係論Ⅰ［趙　宏偉］春学期 184
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7330】国際関係論Ⅱ［趙　宏偉］秋学期 185
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7331】国際地域研究Ⅰ［福井　令恵］春学期 185
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7332】国際地域研究Ⅱ［福井　令恵］秋学期 186
展開科目_総合【C7350】就業機会とキャリア［酒井　理］秋学期..... 187
展開科目_選択必修（体験型）【C7351】【2013 年度以前入学者用】職業能力ベーシックスキルⅠ［島村　泰子］春学期188
展開科目_総合【C7351】【2014 年度以降入学者用】職業能力ベーシックスキルⅠ［島村　泰子］春学期 189
展開科目_選択必修（体験型）【C7352】【2013 年度以前入学者用】職業能力ベーシックスキルⅡ［島村　泰子］秋学期190
展開科目_総合【C7352】【2014 年度以降入学者用】職業能力ベーシックスキルⅡ［島村　泰子］秋学期 191
演習科目【C7400】演習（発達・教育）2 年生［遠藤　野ゆり］秋学期 192
演習科目【C7401】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［遠藤　野ゆり］春学期..... 193
演習科目【C7402】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［遠藤　野ゆり］秋学期..... 194
演習科目【C7403】演習（発達・教育）2 年生［松尾　知明］秋学期 194
演習科目【C7414】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［松尾　知明］春学期..... 195
演習科目【C7415】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［松尾　知明］秋学期..... 195
演習科目【C7405】演習（発達・教育）2 年生［児美川　孝一郎］秋学期 196
演習科目【C7406】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［児美川　孝一郎］春学期..... 197
演習科目【C7407】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［児美川　孝一郎］秋学期..... 198
演習科目【C7408】演習（発達・教育）2 年生［坂本　旬］秋学期 199
演習科目【C7409】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［坂本　旬］春学期 200
演習科目【C7410】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［坂本　旬］秋学期 201
演習科目【C7412】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［笹川　孝一］春学期..... 202
演習科目【C7413】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［笹川　孝一］秋学期..... 203
演習科目【C7417】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［高野　良一］春学期..... 204
演習科目【C7418】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［高野　良一］秋学期..... 205
演習科目【C7419】演習（発達・教育）2 年生［田澤　実］秋学期 206
演習科目【C7420】演習（発達・教育）3・4 年生（春）［田澤　実］春学期 207
演習科目【C7421】演習（発達・教育）3・4 年生（秋）［田澤　実］秋学期 207

演習科目【C7422】演習（発達・教育）2年生［筒井　美紀］秋学期 208
演習科目【C7423】演習（発達・教育）3・4年生（春）［筒井　美紀］春学期 208
演習科目【C7424】演習（発達・教育）3・4年生（秋）［筒井　美紀］秋学期 209
演習科目【C7425】演習（発達・教育）2年生［寺崎　里水］秋学期 210
演習科目【C7426】演習（発達・教育）3・4年生（春）［寺崎　里水］春学期 211
演習科目【C7427】演習（発達・教育）3・4年生（秋）［寺崎　里水］秋学期 211
演習科目【C7428】演習（発達・教育）2年生［廣川　進］秋学期 212
演習科目【C7429】演習（発達・教育）3・4年生（春）［廣川　進］春学期 213
演習科目【C7430】演習（発達・教育）3・4年生（秋）［廣川　進］秋学期 213
演習科目【C7452】演習（ビジネス）2年生［上西　充子］秋学期 214
演習科目【C7475】演習（ビジネス）3・4年生（春）［上西　充子］春学期 215
演習科目【C7476】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［上西　充子］秋学期 216
演習科目【C7453】演習（ビジネス）2年生［梅崎　修］秋学期 216
演習科目【C7454】演習（ビジネス）3・4年生（春）［梅崎　修］春学期 217
演習科目【C7455】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［梅崎　修］秋学期 218
演習科目【C7456】演習（ビジネス）2年生［木村　琢磨］秋学期 219
演習科目【C7457】演習（ビジネス）3・4年生（春）［木村　琢磨］春学期 220
演習科目【C7458】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［木村　琢磨］秋学期 221
演習科目【C7462】演習（ビジネス）2年生［酒井　理］秋学期 222
演習科目【C7463】演習（ビジネス）3・4年生（春）［酒井　理］春学期 223
演習科目【C7464】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［酒井　理］秋学期 224
演習科目【C7465】演習（ビジネス）2年生［坂爪　洋美］秋学期 225
演習科目【C7466】演習（ビジネス）3・4年生（春）［坂爪　洋美］春学期 226
演習科目【C7467】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［坂爪　洋美］秋学期 227
演習科目【C7468】演習（ビジネス）2年生［武石　惠美子］秋学期 228
演習科目【C7469】演習（ビジネス）3・4年生（春）［武石　惠美子］春学期 229
演習科目【C7470】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［武石　惠美子］秋学期 229
演習科目【C7471】演習（ビジネス）2年生［中野　貴之］秋学期 230
演習科目【C7472】演習（ビジネス）3・4年生（春）［中野　貴之］春学期 230
演習科目【C7473】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［中野　貴之］秋学期 231
演習科目【C7474】演習（ビジネス）2年生［佐藤　厚］秋学期 231
演習科目【C7450】演習（ビジネス）3・4年生（春）［佐藤　厚］春学期 232
演習科目【C7451】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［佐藤　厚］秋学期 233
演習科目【C7477】演習（ビジネス）2年生［松浦　民恵］秋学期 234
演習科目【C7478】演習（ビジネス）3・4年生（春）［松浦　民恵］春学期 235
演習科目【C7479】演習（ビジネス）3・4年生（秋）［松浦　民恵］秋学期 236
演習科目【C7500】演習（ライフ）2年生［荒川　裕子］秋学期 237
演習科目【C7501】演習（ライフ）3・4年生（春）［荒川　裕子］春学期 238
演習科目【C7502】演習（ライフ）3・4年生（秋）［荒川　裕子］秋学期 239
演習科目【C7503】演習（ライフ）2年生［福井　令恵］秋学期 240
演習科目【C7504】演習（ライフ）3・4年生（春）［福井　令恵］春学期 241
演習科目【C7505】演習（ライフ）3・4年生（秋）［福井　令恵］秋学期 242
演習科目【C7506】演習（ライフ）2年生［金山　喜昭］秋学期 243
演習科目【C7507】演習（ライフ）3・4年生（春）［金山　喜昭］春学期 244
演習科目【C7508】演習（ライフ）3・4年生（秋）［金山　喜昭］秋学期 245
演習科目【C7509】演習（ライフ）2年生［齋藤　嘉孝］秋学期 246
演習科目【C7510】演習（ライフ）3・4年生（春）［齋藤　嘉孝］春学期 247
演習科目【C7511】演習（ライフ）3・4年生（秋）［齋藤　嘉孝］秋学期 248
演習科目【C7512】演習（ライフ）2年生［佐藤　恵］秋学期 249
演習科目【C7513】演習（ライフ）3・4年生（春）［佐藤　恵］春学期 250
演習科目【C7514】演習（ライフ）3・4年生（秋）［佐藤　恵］秋学期 251
演習科目【C7515】演習（ライフ）2年生［田中　研之輔］秋学期 252
演習科目【C7516】演習（ライフ）3・4年生（春）［田中　研之輔］春学期 253
演習科目【C7517】演習（ライフ）3・4年生（秋）［田中　研之輔］秋学期 254
演習科目【C7519】演習（ライフ）3・4年生（春）［趙　宏偉］春学期 255
演習科目【C7520】演習（ライフ）3・4年生（秋）［趙　宏偉］秋学期 256
演習科目【C7521】演習（ライフ）2年生［安田　節之］秋学期 257

演習科目【C7522】演習（ライフ）3・4年生（春）［安田　節之］春学期 258
演習科目【C7523】演習（ライフ）3・4年生（秋）［安田　節之］秋学期 259
演習科目【C7524】演習（ライフ）2年生［熊谷　智博］秋学期 260
演習科目【C7525】演習（ライフ）3年生（春）［熊谷　智博］春学期 261
演習科目【C7526】演習（ライフ）3年生（秋）［熊谷　智博］秋学期 262
演習科目【C7600】卒業論文（発達・教育）［遠藤　野ゆり］年間 263
演習科目【C7602】卒業論文（発達・教育）［児美川　孝一郎］年間 264
演習科目【C7603】卒業論文（発達・教育）［坂本　旬］年間 265
演習科目【C7604】卒業論文（発達・教育）［笹川　孝一］年間 266
演習科目【C7605】卒業論文（発達・教育）［高野　良一］年間 267
演習科目【C7606】卒業論文（発達・教育）［田澤　実］年間 268
演習科目【C7607】卒業論文（発達・教育）［筒井　美紀］年間 269
演習科目【C7608】卒業論文（発達・教育）［寺崎　里水］年間 270
演習科目【C7609】卒業論文（発達・教育）［廣川　進］年間 271
演習科目【C7610】卒業論文（発達・教育）［松尾　知明］年間 272
演習科目【C7620】卒業論文（ビジネス）［上西　充子］年間 273
演習科目【C7622】卒業論文（ビジネス）［梅崎　修］年間 274
演習科目【C7624】卒業論文（ビジネス）［木村　琢麿］年間 275
演習科目【C7626】卒業論文（ビジネス）［酒井　理］年間 276
演習科目【C7627】卒業論文（ビジネス）［坂爪　洋美］年間 277
演習科目【C7628】卒業論文（ビジネス）［佐藤　厚］年間 278
演習科目【C7629】卒業論文（ビジネス）［武石　恵美子］年間 279
演習科目【C7630】卒業論文（ビジネス）［中野　貴之］年間 280
演習科目【C7631】卒業論文（ビジネス）［松浦　民恵］年間 281
演習科目【C7640】卒業論文（ライフ）［荒川　裕子］年間 282
演習科目【C7641】卒業論文（ライフ）［金山　喜昭］年間 283
演習科目【C7642】卒業論文（ライフ）［齋藤　嘉孝］年間 284
演習科目【C7644】卒業論文（ライフ）［佐藤　恵］年間 285
演習科目【C7645】卒業論文（ライフ）［田中　研之輔］年間 286
演習科目【C7646】卒業論文（ライフ）［趙　宏偉］年間 287
演習科目【C7648】卒業論文（ライフ）［安田　節之］年間 288
演習科目【C7650】卒業論文（ライフ）［福井　令恵］年間 289
演習科目【C7660】キャリアデザイン学総合演習［坂本　旬］秋学期 290
関連科目【C7700】国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）［Robert　Durham］春学期 291
関連科目【C7701】国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）［Robert　Durham］秋学期 292
関連科目【C7702】国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）/Foreign　Language　Exercise　（English　Ⅲ）
※GO科目［クレッグ　ジョンストン］春学期 293
関連科目【C7703】国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）/Foreign　Language　Exercise　（English　Ⅳ）
※GO科目［クレッグ　ジョンストン］秋学期 294
関連科目【C7704】国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）/Foreign　Language　Exercise　（English　V）
※GO科目［クレッグ　ジョンストン］春学期 295
関連科目【C7710】就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- ［梅崎　修、武石　恵美子］秋学期 296
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ ［鈴木　美伸］春学期 297
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ ［鈴木　美伸］秋学期 298
関連科目【C7800】教職入門［児玉　洋介］秋学期 300
関連科目【C7801】教職入門［天野　一哉］春学期 301
関連科目【C7802】教職入門［高野　良一］秋学期 302
関連科目【C7803】教職入門［寺崎　里水］春学期 303
関連科目【C7804】教育原理［筒井　美紀］秋学期 304
関連科目【C7805】教育原理［天野　一哉］秋学期 305
関連科目【C7807】教育原理［飯窪　真也］秋学期 306
関連科目【C7808】教育原理［澤里　翼］春学期 307
関連科目【C7809】教育の制度・経営［植竹　丘］秋学期 308
関連科目【C7811】教育の制度・経営［植竹　丘］春学期 309
関連科目【C7812】教育の制度・経営［仲田　康一］秋学期 310
関連科目【C7813】教育の制度・経営［高野　良一］秋学期 311
関連科目【C7814】教育課程論［松尾　知明］春学期 312

関連科目【C7815】教育課程論［黄　郁倫］秋学期 312
関連科目【C7816】教育課程論［飯窪　真也］春学期 313
関連科目【C7817】教育課程論［飯窪　真也］秋学期 314
関連科目【C7818】教育課程論［川津　貴司］春学期 315
関連科目【C7819】教育方法論［岩本　俊一］春学期 315
関連科目【C7820】教育方法論［松尾　知明］春学期 316
関連科目【C7821】教育方法論［黄　郁倫］春学期 317
関連科目【C7822】教育方法論［黄　郁倫］秋学期 317
関連科目【C7823】教育方法論［川津　貴司］秋学期 318
関連科目【C7900】図書館演習［有吉　末充］年間 318
関連科目【C7901】図書館演習［村上　郷子］年間 319
関連科目【C7902】図書館演習【通年】［丹　一信］年間 320
関連科目【C7903】図書館演習［丹　一信］年間 321
関連科目【C7905】図書館サービス概論［丹　一信］春学期 322
関連科目【C7908】情報サービス演習【通年】［田中　順子］年間 323
関連科目【C7909】情報サービス演習【通年】［奥泉　和久］年間 324
関連科目【C7910】情報サービス演習［菅原　真悟］年間 325
関連科目【C7911】図書館情報資源概論［小黒　浩司］春学期 326
関連科目【C7912】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期 327
関連科目【C7913】図書館情報資源概論［村上　郷子］春学期 328
関連科目【C7914】図書館情報資源特論［小黒　浩司］秋学期 329
関連科目【C7915】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期 330
関連科目【C7916】図書館情報資源特論［村上　郷子］秋学期 331
関連科目【C7924】読書と豊かな人間性［有吉　末充］秋学期 332
関連科目【C7925】情報メディアの活用［坂本　旬］秋学期 333
関連科目【C7926】情報メディアの活用［村上　郷子］秋学期 334
関連科目【C7928】ミュージアム資料論［田中　裕二］秋学期 335
関連科目【C7929】ミュージアム教育論［荒川　裕子］春学期 336
関連科目【C7930】ミュージアム教育論［山下　治子］秋学期 337
関連科目【C7943】社会教育演習［笹川　孝一］年間 338
関連科目【C7948】現代生活・文化と社会教育Ⅰ［鈴木　悌遍］春学期 339
関連科目【C7949】現代生活・文化と社会教育Ⅱ［佐々木　美貴］秋学期 340
関連科目【C4054】【2016 年度以前入学者用】社会・地歴科教育法［石出　法太］年間 341
関連科目【C4060】【2016 年度以前入学者用】社会・地歴科教育法［本山　明］年間 342
関連科目【C4066】【2016 年度以前入学者用】社会・地歴科教育法［石出　法太］年間 343
関連科目【C4072】【2016 年度以前入学者用】社会・公民科教育法［八木橋　正之］年間 344
関連科目【C4078】【2016 年度以前入学者用】社会・公民科教育法［松尾　知明］年間 345
関連科目【C4084】【2016 年度以前入学者用】社会・公民科教育法［石出　法太］年間 346
関連科目【C4090】【2016 年度以前入学者用】商業科教育法［加藤　美樹雄］年間 347
関連科目【C4032】【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論［土屋　創］春学期 348
関連科目【C4033】【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論［田口　賢太郎］春学期 349
関連科目【C4034】【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論［渡邉　優子］秋学期 350
関連科目【C4035】【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論［田口　賢太郎］秋学期 351
関連科目【C4036】【2016 年度以前入学者用】特別活動論［中村　岳夫］春学期 352
関連科目【C4037】【2016 年度以前入学者用】特別活動論［中村　岳夫］春学期 353
関連科目【C4038】【2016 年度以前入学者用】特別活動論［児玉　洋介］春学期 354
関連科目【C4039】【2016 年度以前入学者用】特別活動論［中村　岳夫］秋学期 355
関連科目【C4040】【2016 年度以前入学者用】特別活動論［森本　扶］秋学期 356
関連科目【C4041】【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論［岩本　俊一］春学期 357
関連科目【C4042】【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論［渡部　忠治］春学期 358
関連科目【C4043】【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論［児玉　洋介］秋学期 359
関連科目【C4044】【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論［児美川　孝一郎］秋学期 360
関連科目【C4045】【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論［綿貫　公平］秋学期 361
関連科目【C4740】【2016 年度以前入学者用】図書館制度・経営論［森　智彦］秋学期 362
関連科目【C4741】【2016 年度以前入学者用】児童サービス論［田中　順子］秋学期 363
関連科目【C4742】【2016 年度以前入学者用】情報サービス論（2013 年度より開設）［田中　順子］春学期 364
関連科目【C4743】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織論［丹　一信］春学期 364

関連科目【C4744】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習［丹　一信］年間 365
関連科目【C4745】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習［村上　郷子］年間 366
関連科目【C4746】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習［鈴木　祐滋］年間 367
関連科目【C4747】【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習［菅原　真悟］年間 368
関連科目【C4749】【2016 年度以前入学者用】学校経営と学校図書館［松田　ユリ子］秋学期 369
関連科目【C4750】【2016 年度以前入学者用】学習指導と学校図書館［松田　ユリ子］秋学期 370
関連科目【C4748】【2016 年度以前入学者用】学校図書館メディアの構成［有吉　末充］秋学期 371
関連科目【C4756】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論［今野　農］春学期 372
関連科目【C4757】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論［清水　玲子］秋学期 373
関連科目【C4759】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム展示論［渡邉　尚樹］秋学期 374
関連科目【C4760】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム展示論［渡邉　尚樹］春学期 375
関連科目【C4761】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論［柏女　弘道］春学期 376
関連科目【C4762】【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論［石川　貴敏］秋学期 377
関連科目【C4763】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅰ［田中　裕二］年間 378
関連科目【C4764】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅰ［金山　喜昭］年間 379
関連科目【C4765】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ［小西　雅徳］年間 380
関連科目【C4766】【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ［杉山　享司］年間 381
関連科目【C4751】【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論［御園生　純］年間 382
関連科目【C4752】【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論［御園生　純］年間 383
関連科目【C4753】【2016 年度以前入学者用】社会教育活動Ⅰ［桔川　純子］春学期 384
関連科目【C4754】【2016 年度以前入学者用】社会教育活動Ⅱ［佛木　完］秋学期 385
関連科目【C4758】【2016 年度以前入学者用】職業指導（仕事の場と学び）［高橋　浩］年間 386

BSP100MA

キャリアデザイン学入門　基幹科目

梅崎　修、寺崎　里水、荒川　裕子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：1〜2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインとは何かを本学部の三領域（発達・教育キャリア，ビジネスキャリア，ライフキャリア）の視点から提示し、キャリアデザイン学の基礎概念を講義します。併せて，これらによりキャリアデザイン学の確立を目指す一員として学生の自覚を高め，キャリアデザインを考える能力を養成します。

【到達目標】
キャリアデザイン学部の専門科目やゼミナールでの学習のための準備としてキャリアデザイン学の基礎的な概念を理解すること、また激動する現代社会を生きるためのキャリアデザイン学を学び、研究することの意義を見付けることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
緊急）4 月 28 日開始です。授業支援システムに資料をアップする予定ですが、現在支援システムが混雑してアクセスできないよう状況です (現在 (4 月 20 日現在)。配布資料方式ですので、焦らずに。大丈夫です。
学部の三領域（発達・教育キャリア，ビジネスキャリア，ライフキャリア）の教員３名によるオムニバス授業です。毎回授業では、それぞれの分野の基礎概念を学んだ後に、それぞれの分野における具体的テーマを学生たちと議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (28 日開始)	キャリアデザイン学とは何かを学び、講義内容の構成を理解する。(梅崎・荒川・寺崎)
第 2 回	自立と自律	ビジネスキャリアの選択行動を学ぶ。合理的期待形成、限定合理性、リスクと不確実性（uncertainty）、デザインとドリフト、トランジションなどの基礎概念を理解する。(梅崎)
第 3 回	経営戦略とリーダーシップ	企業組織の経営戦略を学び、組織内における活性化する優れたリーダーの役割とそのようなリーダーの育成を考察する。(梅崎)
第 4 回	経済構造と職業構成	工業化、ポスト工業化という経済成長に伴う経済構造の変化を学び、その変化の中で求められる雇用される能力の変化を考察する。(梅崎)
第 5 回	学ぶ主体	「勉強する」と「学ぶ」とは何が違うのか、「わかる」とはなにか、nature と nurture、所得に影響を与えるのはどちらか、といったことについて考える。(寺崎)
第 6 回	家庭・学校の環境と発達・教育	発達に課題のある子ども、教育達成と社会的地位達成、学歴主義、格差と不平等などについて学び、学校や教育の問題を扱う学問領域の多様さを考える。(寺崎)
第 7 回	学習機会の時間的・空間的広がり	キャリア教育、就労支援、コミュニティ、地域移動などについて学び、働くこと、生活することと学ぶこととの関連について考察する。(寺崎)
第 8 回	個人のウェルビーイング	ライフキャリアを学ぶ意義を理解し，個人のアイデンティティや主観的幸福感の視点からウェルビーイングについて考える。(荒川)
第 9 回	文化と人間形成	個人や地域のアイデンティティをかたちづくるものとしての文化に注目し、その多様性や多文化共生の意義について考える。(荒川)
第 10 回	地域社会と文化創造	マクロな視点から社会やコミュニティと個人のかかわりを考え、まちづくりや地域創生をめぐる政策や文化産業の推進などについて学ぶ。(荒川)
第 11 回	ゲスト講師	現在調整中
第 12 回	キャリアデザイン学の展望	これまでの授業を振り返りつつ、ビジネスキャリア・ライフキャリア・発達教育キャリアの関連する領域を議論する。(荒川)
第 13 回	.	.
第 14 回	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
定期的に授業の振り返りのための課題を出しますので、課題文書、講義内容、参加した議論を振り返り、課題レポートを作成します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。

【参考書】
金山善昭，児美川孝一郎，武石恵美子編著 2013『キャリアデザイン学への招待』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
(旧)
授業への参加度（出席と課題の提出等）50 %，期末試験 50 %。
(新）コロナ対応後
成績評価については、
出席点（ウェブ上で提出）：毎回の課題＋４回目代わりのレポート（およそ５０%）
レポート評価：３領域で１題ずつのレポート（およそ５０%）

【学生の意見等からの気づき】
三分野の繋がりを意識して事例紹介をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等で授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
In this class, we will present something about career design from the viewpoints of the three areas of our faculty - development and education career, business career, life career - and give lectures on basic concepts of career design studies.
Through these activities, we will raise students' awareness as a member who aims to establish career design studies and foster their abilities to think career design.

BSP100MA

【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（A-E）

基幹科目

仲　修平

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：1〜2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。各講義の最後は、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する——カット＆ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第 8 回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第 9 回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3〜4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1 ——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第 13 回	観察法：その 2 ——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第 14 回	質的調査のまとめ 総括	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。 2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示

【参考書】
マシュー・J. サルガニック,2019,『ビット・バイ・ビット – デジタル社会調査入門』有斐閣.
仲修平,2018,『岐路に立つ自営業』勁草書房.

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容と個人・ペア・グループによる活動を連動する取り組みを導入した. 各講義でポイントになる点をいくつかの演習にわけて理解を深めるように努めた.

【Outline and objectives】
Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.

BSP100MA

【2017 年度以降入学者のみ】キャリア研究調査法入門（F-P）

基幹科目

大倉　韻

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・4　｜　配当年次：1〜2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】
本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。各講義の最後に、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する——カット＆ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第 8 回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第 9 回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3〜4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1 ——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第 13 回	観察法：その 2 ——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第 14 回	質的調査のまとめ 総括	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。 2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示

【参考書】
マシュー・J. サルガニック,2019,『ビット・バイ・ビット – デジタル社会調査入門』有斐閣.
原純輔, 浅川達人,2005,『社会調査』放送大学教育振興会.

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

池田　心豪

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンライン】授業の到達目標・テーマ、概要・方法。（シラバスを読み、教科書、参考書を各自用意する）
2	キャリア研究と質的調査	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号「解題」と「座談会」の第 I 節を読む。
3	事例調査の方法	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号「座談会」第 II 節を読む。
4	インタビューの方法	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号「座談会」第 III 節を読む。
5	調査結果のまとめ方	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号「座談会」第 IV 節を読む。
6	調査計画の立て方	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号「座談会」第 V 節を読む。
7	オーラルヒストリー	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号特集山下論文を読む。
8	アクションリサーチ	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号特集榧野論文を読む。
9	グラウンデッドセオリーアプローチ	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号特集若林論文を読む。
10	エスノグラフィー	【オンライン】『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号特集山崎論文を読む。
11	調査実習（1）	【オンライン】インタビュー調査の企画を立てて、実際にインタビューをしてみる。（ビデオ通話でも可）
12	調査実習（2）	【オンライン】自分で行った調査結果をレポートにまとめる（期末課題）
13	全 12 回のため休講	全 12 回のため休講
14	全 12 回のため休講	全 12 回のため休講

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の内容をよりよく理解するために、参考書やその他の参考文献を自身で入手して自習してください。

【テキスト（教科書）】
『日本労働研究雑誌』2015 年 12 月号特集「労働研究と質的調査」
（以下のウェブサイトから全文ダウンロードできる）
https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2015/12/index.html

【参考書】
『労働・職場調査ガイドブック』
（梅崎修・池田心豪・藤本真編著、中央経済社、2019 年）

【成績評価の方法と基準】
第 2 回から第 10 回の各回ごとの小レポート（50 %）と学期末課題提出（50 %）
○小レポートと学期末課題を学期末にまとめて提出すること。
○小レポートは A4 版 1 ページとし、課題の内容の要約を 1200 字程度にまとめる。
○各回の授業との対応がわかるように、1 行目に各回の授業タイトルと日付を入れること。
○専門誌の調査法特集を題材とするため、理解するのが難しいと感じた場合は参考書を適宜読んで知識を補うこと。
○その他、教科書やウェブサイト等を参照してレポートを書いた場合は参考文献を示すこと。
○学期末レポートは A 4 紙 5 枚程度に調査計画と調査結果をまとめること。

【学生の意見等からの気づき】
今回はオンライン授業という初の試みであるため、この状況にまだ慣れていない学生のペースに合わせて授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】
第 11 回と第 12 回の調査実習の回には双方向システムを使って、学生がまとめた調査計画や調査結果について教員がアドバイスできるようにしたい。
また、各回の授業についても、学生からの質問を受け付け、補足的な解説をするために双方向システムの活用を考えたい

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

濱中　義隆

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は 4 月 24 日を初回授業とします。第１回目の課題を同日に学習支援システムに掲示しますので、確認してください。
２回目以降の授業も、原則として、学習支援システムに教材（文献）・資料を掲示し、課題を課す等の方法により、実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期中の課題提出（５０％）、期末課題レポート（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。
毎回 3〜4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

佐藤　恵

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
2020 年 4 月 20 日追記
春学期はオンラインでの開講となります。
学習支援システムに資料を掲示し、資料の理解度や自習の成果を小レポート等の課題で確認するといった方法で、オンライン授業を実施します。少人数授業という授業の特性に応じて、Zoom 等を用いたリアルタイム配信型授業も部分的に取り入れることがあります。
初回授業日は５月７日（木）です。
成績評価方法は変更ありませんが、「平常点」は小レポートや授業への参加、「提出課題」は期末レポートとします。

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（１）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（２）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（３）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（１）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（２）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（３）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（１）	観察法の解説。
10	観察法（２）	観察法の調査事例。
11	観察法（３）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（１）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（２）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０％）、平常点（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。
毎回 3〜4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査)　基幹科目

田中　研之輔

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【重要】コロナ対応で ZOOM で実施します。初回講義は、4/27 月 13:00 に下記、URL から入室してください
Zoom ミーティングに参加する
https://us02web.zoom.us/j/87078225912
ミーティング ID: 870 7822 5912
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
　社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
　本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
　質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
　調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
　各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特に指定しません。

【参考書】
　授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　提出課題（５０％）、平常点（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
　参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.I t is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies.　Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

西村　純

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。
初回授業は 4 月 21 日（火）に行います。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。
毎回 3〜4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

前浦　穂高

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法について。※シラバスを読んでおくこと。
2	観察法（1）	社会調査とは/質的調査と量的調査の違い/観察法に関する資料を読む。
3	観察法（2）	観察法を用いて書かれた論文を読み、観察法の調査計画を立てる。
4	オーラルヒストリー（1）	オーラルヒストリーに関する資料や論文を読み、調査計画を立てる。
5	オーラルヒストリー（2）	オーラルヒストリーの実践（オンライン）。
6	オーラルヒストリー（3）	オーラルヒストリーの実践（オンライン）。
7	オーラルヒストリー（4）	オーラルヒストリーの調査結果をレポートにまとめて提出する。
8	インタビュー法（1）	インタビュー法を用いて書かれた論文を読み、調査計画を立てる。
9	インタビュー法（2）	調査計画の検討・修正、インタビュー調査の実施（オンライン）。
10	インタビュー法（3）	インタビュー調査の実施（オンライン）、調査結果の整理。
11	インタビュー法（4）	インタビュー調査の実施（オンライン）、調査結果の整理、レポートの作成
12	インタビュー法（5）	調査結果を学期末レポートにまとめて提出する。
13	全 12 回のため休講	全 12 回のため休講
14	全 12 回のため休講	全 12 回のため休講

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使用した論文や資料、参考書を読んで、予習・復習をするようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストを使いません。授業で使用する資料等は、授業前に学習支援システムにアップします。授業前に学習支援システムを確認しておいてください。

【参考書】
『労働・職場調査ガイドブック』（梅崎修・池田心豪・藤本真編著、中央経済社、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０％）、学期末レポート（５０％）。提出課題とは、定期的に課されるレポート等の提出を意味します。提出課題と学期末レポートの内容や提出方法等は、その都度、指示します。

【学生の意見等からの気づき】
今回は、オンラインによる授業になるため、すぐに対応できない学生もいるかと思います。学生の様子や状況を見ながら、柔軟に対応していきたいと考えています。

【その他の重要事項】
学習支援システムの仕組みを理解し、使えるように準備をしておいてください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

河村　裕樹

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
授業形態がオンラインになったことを踏まえ、みなさんとペースを確認しつつ進めていきます。
授業は 100 分のうち前半をオンデマンド（講義を録画した動画を視聴する）とし、後半をライブ形式にして課題遂行の時間とします。後半は教員が常時待機し、課題遂行のサポートをします。授業計画では前半を内容、後半を課題と表記してあります。
第 1 回目の授業は、4 月 27 日（月）13:00 からオンラインで行いますが、ネットワーク環境が整っていない可能性もあるため、「ライブ形式」で行うか「資料の配布＋録音・録画での解説」で行うかはネットワーク環境の確認結果を踏まえて決めます。決まり次第、学習支援システム上でお知らせします。第 1 回目（4/27）の授業は、教員が配布する資料に基づいて行います。資料は授業当日 12:00 に Hoppii に upload します。
シラバスの下部【その他の重要事項】も確認してください（4/20 追記）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【内容】授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	【内容】社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。 【課題】ニュース等で使われている調査から一つ選び、その調査が質的・量的のどちらであるのかを授業内容を踏まえて考える。
3	観察法（1）	【内容】観察法の解説。 【課題】公的に利用可能な動画を見て、フィールドノートを書いてみよう。
4	観察法（2）	【内容】観察法の解説と前回の課題のフィードバック。 【課題】前回と異なる動画を見て、フィールドノートをもう一度書いてみよう。
5	インタビュー法（1）	【内容】インタビュー法の概説・リサーチクエスチョンの立て方。 【課題】自らの問題関心に沿ってリサーチクエスチョンを立ててみよう。
6	インタビュー法（2）	【内容】インタビューでの質問の仕方を「純ジャパ」問題を手掛かりに学ぶ。 【課題】「純ジャパ」問題をまとめ、自分の考えをまとめてレポートを書く。
7	ライフストーリー法（1）	【内容】ライフストーリー法概説 【課題】ライフストーリー法を用いた論文を読み、ワークシートに答える。
8	ライフストーリー法（2）	【内容】ライフストーリー法の議論を踏まえ、調査の依頼の仕方や調査倫理について学ぶ。 【課題】依頼文の書き方など
9	各調査方法のまとめと関係	【内容】各調査法のまとめをします。 【課題】期末レポートの主題探しと調査計画を立てる。
10	調査結果のまとめ方	【内容】調査結果のまとめ方について学びます。 【課題】期末レポートの主題探しと調査計画を立てる。
11	個別指導	個別指導と全体へのフィードバック。
12	個別指導	個別指導と全体へのフィードバック。
13	全 12 回に変更のため休講	全 12 回に変更のため休講
14	全 12 回に変更のため休講	全 12 回に変更のため休講

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業時に課された課題を行ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各回の提出課題（５０％）、期末レポート（５０％）。
・各回の提出課題はその都度指示します。
・期末レポートの内容については、授業を進めるなかで決めます。

【学生の意見等からの気づき】
オンラインでの授業となり、最初のうちは試行錯誤が続くかと思います。受講生のみなさんが公平に授業を受け、課題をこなせるよう工夫しますが、教員では気づかないこともあるかと思います。なにか気づいた点がありましたら、教えてくださるようお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii を通じた資料の配布と課題の提出となりますので、定期的に Hoppii を確認するようにしてください。

【その他の重要事項】
第 1 回目の授業に先立ち、受講生のネットワーク環境の確認を行うために学習支援システムを通じて連絡します。受講生のみなさんは 4 月 23 日（木）までに必ず学習支援システムへ登録するようお願いします。
第 1 回目の授業は、4 月 27 日（月）13:00 からオンラインで行いますが、ネットワーク環境が整っていない可能性もあるため、「ライブ形式」で行うか「資料の配布＋録音・録画での解説」で行うかはネットワーク環境の確認結果を踏まえて決めます。
第 2 回目以降は確認の結果を踏まえて、受講生全員が公平に授業を受けることができるような工夫を行います。授業は教員が用意したレジュメを Hoppii 上に pdf ファイルで upload し、それを用いて進めていきます。授業で課された課題については、授業の後半に行います。定期的に Hoppii を確認するようにしてください。
また、受講にあたってなんらかのサポートが必要な場合は相談に応じますので、初回の授業で提示する担当教員の連絡先までご連絡ください。
いずれにしましても、受講生のみなさん全員が公平な形で履修できる環境を整えるよう努めます。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査)　基幹科目

井上　公人

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。
《4/20 22:50 追記》
現時点では、学習支援システムのサーバーがアクセス過多により正常にアクセスできません。サーバーの増強に期待して、授業開始を 1 週間先送りし、4/29(祝・水) とします。
授業時間帯に学習支援システムにアクセスしなくても構いませんが、遅くとも翌日までには授業のサイトにアクセスした上で資料の閲覧・DL を行い、課題の取り組みを初めるようにしてください。現時点では、課題の提出は 1 週間 (次回の授業日まで) とする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明と自己紹介
2	社会調査とは何か 質的調査と量的調査	社会調査と質的調査の特質を把握する
3	調査設計 (1)	問いの立て方
4	調査設計 (2)	調査の企画と流れ
5	データの収集方法 (1)	方法選択の方法
6	データの収集方法 (2)	観察法
7	データの収集方法 (3)	インタビュー調査
8	データの収集方法 (4)	ライフストーリー法
9	実査の技法	調査の記録方法
10	調査レポートの作成方法	調査レポート執筆に先立ち、その作成方法を学びます
11	調査レポートの執筆 (1)	調査レポートを執筆します
12	調査レポートの執筆 (2) または調査結果報告会	調査レポートの執筆または調査結果報告会を行います
.	.	.
.	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間に調査実習を行い、調査レポートを執筆します。もし対面授業が実施できる状況になれば、最終回を調査結果報告会とします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出・取り組み状況 (100 %)

【学生の意見等からの気づき】
以下の記載内容は、オンライン授業においては実現不可能ですが、もし対面授業が実施できれば、重視したいと思います。

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。
毎回 3〜4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【学生が準備すべき機器他】
本授業は COVID-19 感染症の蔓延に伴い、春学期の全授業をオンライン授業とする前提で実施します。ただし、学生諸君のネットワーク環境、通信負荷等を考慮し、Zoom 等でのリアルタイムの双方向型のやり取りや、録画した動画によるオンデマンド授業とはせず、学習支援システムへの PDF 等の資料の掲示・配布とその読解・まとめを行う作業を基本とします。教員は、学生からの提出物の提出をもってその回の授業に出席したものとみなし、その内容を評価するとともに、適宜アドバイスを加えます。
学習支援システム上に掲出される資料の閲覧については、どのような端末を用いても構いませんが、提出物の作成に Microsoft Word/Excel/(場合によっては)PowerPoint を用います。スマートフォンやタブレットでは不便な点も多いですので、これらが使用可能なパソコンを準備してください。

【その他の重要事項】
《4/20 に内容を大きく修正しました。》
COVID-19 感染症の蔓延に伴い、春学期の全授業をオンライン授業とする前提で授業内容・回数等を大きく組み替えました。【授業計画】より下は大きく変更になっていますので、注意してください。
なお、【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】はどちらも「あり」としていますが、対面授業が行えない場合は実施しません。ただし、調査実習については、対面授業が行えない場合であっても実施いたします。その場合は、メールや電話のほか、テレビ電話や Zoom 等、リアルタイムの双方向型のコミュニケーション手段を用いて実施をお願いする場合がありますので、準備をお願いします。
《》

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

山﨑　正枝

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】
質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、4 月 22 日（水）に開始します。学習支援システムにレジュメをアップする予定です。
授業は、学習支援システムを利用し、受講生の通信環境を確認しながら、オンラインでの双方向授業を検討して行く予定です。
授業においては、質的調査の基本的学習を論文講読を中心に学習します。
授業外の時間に各手法を用いての調査実習を行っていただく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【内容】教員自己紹介、全体カリキュラムの中での質的調査法の位置づけ、到達目標、授業の概要と進め方、成績評価と基準
2	質的調査概論	【内容】質的研究の特徴、質的研究のプロセス 【課題】論文講読
3	インタビュー法（1）	【内容】インタビュー法の解説と実践。 【課題】論文講読
4	インタビュー法（2）	【内容】インタビュー法の調査事例。KJ 法 【課題】論文講読
5	観察法（1）	【内容】観察法の解説。 【課題】論文講読
6	観察法（2）	【内容】エスノグラフィーの解説 【課題】論文講読
7	ライフストーリー法（1）	【内容】ライフストーリー法の調査事例。TEM の解説 【課題】論文講読
8	ライフストーリー法（2）	【内容】ライフストーリー法の事例、トランスクリプトとコーディング、カテゴリー化の解説 【課題】論文講読
9	ライフストーリー法（3）	【内容】グラウンデッドセオリー・アプローチの解説 【課題】論文講読
10	ライフストーリー法（4）	【内容】ナラティブアプローチの解説 【課題】論文講読
11	インタビュー調査報告とレポート構想（1）	キャリアストーリーインタビューの調査報告とレポートの構想を発表
12	インタビュー調査報告とレポート構想（2）	キャリアストーリーインタビューの調査報告とレポートの構想を発表
13	−	−
14	−	−

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業外の時間にキャリアストーリーインタビュー調査実習を行い、発表会に備えます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講読する論文は、学習支援システムで案内します。

【参考書】
【労働・職場調査ガイドブック】梅崎修・池田心豪・藤本真編著（2019）、中央経済社

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０％）、平常点（５０％）。
詳しくはオリエンテーションで案内します。

【学生の意見等からの気づき】
参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。
毎回 3〜4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【その他の重要事項】
●授業に先立ち、第 1 回授業 4 ／ 22（水）までに履修仮登録をお願いします。
●授業支援システムで、「通信環境調査」アンケートを行っていますので、回答して下さい。
受講生の皆さんの通信環境を確認して、オンライン授業をどの方法で進めるかを検討します。
皆さん全員が、履修できるように進めるように努めます。
●学習支援システムを使って、皆さんとの連絡、やりとりをしていきますので、いつも確認をお願いします。
●オンライン授業は、初めての試みです。受講生の皆さんと共に、状況を確認しながら進めていくつもりです。ご協力、よろしくお願いいたします。また、サポートが必要な場合は、教員までメールでご連絡ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】
2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
This seminar focuses on qualitative methods in the career studies.It is structured as a survey course,exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First,to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

北村　美穂

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・2　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法ならびに、全授業の概要は、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方について
2	社会調査について	研究方法論の重要性 量的調査と質的調査の違い 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値（平均値、中央値、最頻値）
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図と相関
8	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
9	母集団と標本	標本の抽出
10	部分から全体を知る：推測統計学と統計的推定	母数と標本統計量 推定
11	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
....	....	....
....	.....	....
....	....	....

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

濱中　義隆

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・2　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２４日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法ならびに、全 12 回の授業概要は、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1) ：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2) ：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

井上　公人

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法ならびに、全 12 回の授業概要は、学習支援システムで提示する。
《4/20 22:50 追記》
　現時点では、学習支援システムのサーバーがアクセス過多により正常にアクセスできません。サーバーの増強に期待して、授業開始を 1 週間先送りし、4/29(祝・水) とします。
　授業時間帯に学習支援システムにアクセスしなくても構いませんが、遅くとも翌日までには授業のサイトにアクセスした上で資料の閲覧・DL を行い、課題の取り組みを初めるようにしてください。現時点では、課題の提出は 1 週間 (次回の授業日まで) とする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1) ：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2) ：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
廣瀬毅士・寺島拓幸共編，2010，『社会調査のための統計データ分析』オーム社.
ISBN-13: 978-4274067631

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
　課題の提出・取り組み状況 (100 %)

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【学生が準備すべき機器他】
　本授業は COVID-19 感染症の蔓延に伴い、春学期の全授業をオンライン授業とする前提で実施します。ただし、学生諸君のネットワーク環境、通信負荷等を考慮し、Zoom 等でのリアルタイムの双方向型のやり取りや、録画した動画によるオンデマンド授業とはせず、教科書の読解および学習支援システムへの PDF 等の資料の掲示・配布とその読解、それに関連した実習を行うことを基本とします。教員は、学生からの提出物の提出をもってその回の授業に出席したものとみなし、その内容を評価するとともに、適宜アドバイスを加えます。
　それに伴い、【テキスト（教科書)】を変更しました。
　学習支援システム上に掲出される資料の閲覧については、どのような端末を用いても構いませんが、提出物の作成に Microsoft Word/Excel を用います。スマートフォンやタブレットでは不便な点も多いですので、これらが使用できるパソコンを準備してください。
　また、テキスト（教科書）の購入は必須となります。購入できるよう大学生協に手配していますので、必ず入手してください。

【その他の重要事項】
《4/20 に内容を大きく修正しました。》
　COVID-19 感染症の蔓延に伴い、春学期の全授業をオンライン授業とします。【テキスト（教科書)】より下は大きく変更になっていますので、注意してください。
　なお、【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】の実施については「あり」としていますが、対面授業が行えない場合は実施しません。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

熊谷　智博

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２８日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法を学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法についての説明。研究方法論の重要性についての説明。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表と散布図
7	変数の関係を分析する (2)	相関
8	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
9	母集団と標本	標本の抽出
10	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
11	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
12	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。
.	.	.
.	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

伊藤　慎悟

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
本授業は 4 月 21 日 17 ： 50 に学習支援システム（Hoppii）上に初回のオリエンテーション資料を掲示するので、4 月 26 日までにアクセスを行い、課題に回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1) ：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2) ：変数のばらつき	散布度 （範囲、分散、標準偏差）
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	相関係数と散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関係数と共分散 因果関係
9	母集団と標本	標本の抽出 母数と標本統計量 推定
10	部分から全体を知る：推測統計学	帰無仮説と対立仮説 有意水準
11	統計的検定の考え方	統計的検定の手順
12	まとめ	質問紙調査について
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業ではあるが、授業内でデータの分析を行う。
ネットワーク環境と Microsoft Excel、Microsoft Word が使用できるパソコンを用意すること。
パソコンを所持していないが、履修をしたい場合には、4/21〜4/24 の間にかならず相談すること。
双方向でのやり取りを行うために、マイクと Web カメラがあることが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

齋藤　嘉孝

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業の開始日は 4 月 22 日とする。学習支援システムに教材・資料を掲示し、課題を課す等の方法で、オンラインで実施する。学習支援システムの該当ページを毎回必ず参照すること（2020 年 4 月 16 日修正）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

長瀬　毅

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は 4 月 29 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法ならびに、全 12 回の授業概要は、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと社会調査について	研究方法論の重要性。 量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
2	データと変数 変数の特徴を分析する (1) ：変数の分布と中心	変数とは。質的変数と量的変数、尺度水準について。 度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。
3	変数の特徴を分析する (2) ：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
4	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
5	変数の関係を分析する (2)	散布図
6	変数の関係を分析する (3)	相関関係
7	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
8	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
9	母集団と標本	標本の抽出
10	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
11	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
12	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使いエクセル等の表計算ソフトを使用しながら、実際のデータを加工することにより実践力を養います。表計算ソフトの使用可能な PC を準備してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

坂爪　洋美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法ならびに、全 12 回の授業概要は、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1) ：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2) ：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査)　基幹科目

坂田　哲人

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1)　量的な調査法の基礎について理解する
(2)　基本的な統計手法や分析について理解する
(3)　卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２７日とし、具体的なオンライン授業の方法ならびに、全 12 回の授業概要は、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、進め方についての詳細を授業支援システムにて説明する。
2	量的調査概論	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	社会調査について	一般的にみられる社会調査の数々について
4	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
5	変数の特徴を分析する 変数の分布と中心・変数のばらつき	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値（平均値、中央値、最頻値)。 範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する	クロス集計表・散布図・相関
7	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
8	母集団と標本	標本の抽出
9	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
10	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
11	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。
12	全体のまとめ	本講義の全体的なレビューを実施する
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神林博史／三輪哲著　『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』　2011 年　技術評論社

【参考書】
必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007〜2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】
2007〜2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】
The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門A　基幹科目

遠藤　野ゆり

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】
発達・教育に関する 10 のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。
自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。
自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
4 月 21 日を初回とします。15 時に学習支援システムに資料をアップします。①教員自己紹介（動画）、②授業の進め方（パワーポイント）、③授業内容（パワーポイント）をダウンロードし、4 月 26 日（日）17 時までに指定された課題に回答するようにしてください。
第 2 回以降も、学事歴に沿って、授業開始日時に資料をアップします。第 2 回以降は金曜日までに課題をおこなってください。授業に先立って、予習として、テキストの指定範囲を各自で読んでおき、そのうえでアップされた資料を読んでください。
本授業では 10 の教育問題（トピック）を取り上げます。各自教科書の第 1 節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える観点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（枠組みとしてのあたりまえ） テキスト序章	授業の内容、進め方の説明 「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
2	家族の形 テキスト第 1 章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
3	家庭教育 テキスト第 2 章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
4	児童虐待 テキスト第 3 章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。 虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識手見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。
5	つながり孤独 テキスト第 4 章	若者の SNS の問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
6	いじめ テキスト第 5 章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。"
7	恋愛 テキスト第 6 章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
8	カウンセリング テキスト第 7 章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
9	不登校 テキスト第 8 章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
10	発達障害 テキスト第 9 章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
11	キャリア教育 テキスト第 10 章	おとなになることとは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
12	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ。
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストはすべて 1 章が 3 節構成になっています。各章の第 1 節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠藤野ゆり・大塚類（2020）『さらにあたりまえを疑え！　臨床教育学 2』新曜社

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストと課題 50 %、期末レポート 50 %（受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援しすてむを通じて受講生にお知らせします。）

【学生の意見等からの気づき】
受講者数が多く私語が出て聞きづらい、また教員がそれを気にしすぎるという指摘をいただきました。もっと授業に集中してもらえるように工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で授業支援システムにログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンや PC などの機器を持参してください（事前に連絡します）

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて若干の内容調整をすることがあります。

【Outline and objectives】
We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門B　基幹科目

石川　茜恵

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人の学びや発達に視点を置く事柄について基礎的な内容を学ぶ。個人の生き方や社会の在り方について考察する。

【到達目標】
発達および教育が関連するキャリアデザインにかかわる各トピックについての基礎的な知識を身につける。キャリアデザインに関わる社会現象についてデータに基づいて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、リアクションペーパー提出。リアクションペーパーに対するフィードバックを次の授業回に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の枠組や評価方法等を説明する。
第 2 回	青年期を生きる	キャリア形成が青年期の課題となった現代社会に至るまでの歴史を説明する。また，現代社会における青年期のあり方や諸問題との関連を説明する。
第 3 回	進路を選択する	義務教育後の青年の進路および大学卒業者の進路の内訳や時系列的な変化を概観する。実際の進路選択例を取り上げ、大学での学びが与える影響について説明する。
第 4 回	選択肢を拡げる／絞る	「複数の選択肢があればそこから何を選ぶのか」は個人が生き方を選ぶことと関連する。心理学の観点からキャリア発達、意思決定について説明する。
第 5 回	地域を移動する	日本では、高校卒業後および大学卒業後に都道府県間移動をする若者が多いことが知られている。このような地理的な移動を題材に、個人の生き方と社会の在り方の関連を考える。
第 6 回	家族を形成する	近年では、個人が仕事役割と家族役割のバランスをどのように取るのかが注目されることがある。このことについて成人期の発達課題との関連を説明する。
第 7 回	自分を取り巻く社会を考慮する	個人がキャリアを形成する際には，個人の考えだけでなく自分を取り巻く重要な他者，地域，国，世界などの状況を考慮している。実際の例を挙げながらその様子を説明する。
第 8 回	他者を知る	個人の生き方を考える際に、他者とのコミュニケーションは不可欠である。他者を知ることによってどのように自分を知っていくのか説明する。
第 9 回	自信を持つ	個人の行動の原動力を考える。自己効力、学習性無力感、自尊感情について説明する。
第 10 回	将来を見通す	個人の生き方や社会の在り方を考える際に、将来を見通すことは不可欠である。個人および組織の見通しに関連した概念について説明する。
第 11 回	過去をふり返る	将来を見通す際には，未来だけでなく過去を振り返ることも重要である。過去を振り返ることの意義を説明する。
第 12 回	体験から学ぶ	経験学習について説明する。自らの経験から学びを得るプロセスだけでなく、社会人講話などから学びを得るプロセスについて考える。
第 13 回	今後の社会を考える	現在の幼児期の教育が何を目指しているのか、実際の幼児教育の例を取り上げながら、また青年期とのつながりから説明する。
第 14 回	2つ以上のものをつなげる	上記までに扱ったトピックのまとめをして、これらの関連性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。レジュメを配布する。

【参考書】
e-Stat (日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト)
https://www.e-stat.go.jp

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや授業内課題などの授業への取り組み姿勢（30 %）、期末試験（70 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
We learn the basics of matters that focus on personal learning and development. Please consider the way of life of individual and what is society.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）

基幹科目

笹川　孝一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習の本質と歴史〜生涯学習の時代とキャリアデザインの時代との関係性に焦点をあてて〜
☆なお、発達・教育キャリア入門C・D（生涯学習入門はⅠ・Ⅱ）は、内容が一続きのものなので、連続して履修することが望ましい。

【到達目標】
1）人間の生涯学習とキャリア・キャリアデザインとの関係について、ヒト以外の動物と比較しながら、「仕事」「遊び」「表現」「共同体」「学習と教育」「生涯学習」「社会教育」に焦点を当てて考える。
2）近代化、現代化と「生涯学習の時代」「キャリアデザインの時代」の意味と矛盾について考える。
3）日本の歴史に即しながら「生涯学習」「キャリア」「キャリアデザイン」の用語と概念の変遷を追い、そこでの課題と方向性、自分自身で定義することの大切さを考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1）授業の概要：
授業の到達目標及びテーマを参照のこと。
2）授業の方法：
①できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
②学生の人数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する。	授業の狙いと概要、進め方、授業のルール、評価方法等について説明し、合意形成を図る。
2	自然史過程としてのヒトの歴史と人の一生〜生涯学習・社会教育およびキャリアデザインの基盤①	動物の一生が自然史過程であるのと同様に、人間の一生も自然史の一過程であり、個人にも種にも、太陽系と地球にも誕生と死があることを理解する。
3	人の生涯と「仕事」「遊び」「意味づけ」〜同上②	人間が「仕事」という時間的経過の中でのみ成就する意識的活動を始め、それによって生まれた自由な活動時間における「遊び」を行うことで、人生に「意味付け」を行うようになったこと、及び、「仕事」「遊び」の構成要素を理解する。
4	ヒトの表現と次世代育成〜同上③	仕事と遊びをするために、人は様々な表現手段を発達させ、それらを習得し、発展させ、次世代に伝えてきたことを理解する。
5	自立・自律のための共同体経営と伝統型生涯学習社会〜同上④	互いに依存しあいながら自立・自律して生きるために、人々は組織や社会を作り出して生きてきたこと、および伝統型生涯学習社会の構造を理解する。
6	近代化と生涯学習・ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ〜生涯学習の歴史的意義①	産業革命、市民革命を基礎に生まれた近代的個人とその矛盾がキャリアデザインを切り開いてきたことを理解する
7	近代社会における生涯学習・ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝと社会参加〜同上②	近代的個人は自律・自立のみを一方的に推進したのではなく、それを可能にする新しい社会も生み出してきたことを理解する
8	近代社会における契約社会と非契約社会〜同上③	キャリアデザインにとって、非契約関係と、それを基礎とする契約関係との両方が大事なことを理解する。
9	グローバリゼーションと生涯学習〜同上④	いわゆる「グローバリゼーション」のもとで広がる国際的ネットワークと格差や商業主義との鬩ぎ合い、struggleの中で、個人のキャリアも家族、事業所、地域、国家、地球のキャリアも連携しあいながら鍛えられていることを、理解する。
10	女性の時代におけるキャリア形成と生涯学習〜現代における人の生き方・働き方と生涯学習①	人が自らの生き方に自覚的になる上で欠かせないキャリア形成と生涯学習の歴史について、「キャリア組」という男性エリートの世界から「キャリアウーマン」という職業をもつ女性へと「キャリア」「キャリアデザイン』が展開する中で、多面的なキャリアが追求されてきたことを理解する。
11	生涯学習・キャリア形成と男性たちのワークライフ学習ﾊﾞﾗﾝｽ〜同上②	1990 年代を通じて雇用不安にさらされてきた男性たちも「ワークライフバランス」を求め始めてきたことを理解する。
12	21 世紀における生涯学習・ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝの国際的展開〜同上③	21 世紀に至って、日本の中での努力、国際的な影響、地球環境の危機などのよって、バランスのとれた人と組織と地球のキャリア形成がさまざまな人々によって担われ始め、「生涯学習」や「コンピテンシー」「グローカルな知識や技術、ネットワーク」が展開し始めたことを理解する。
13	「生涯学習」「生涯教育」「キャリア」「キャリアデザイン」は自分で定義する〜同上④	「キャリア」と「キャリアデザイン」は論争的なので、一人ひとりが自分の定義をもつことが大事であることを理解する。そのうえで、担当教員自身の定義を紹介する。
14	まとめと補足	学生の質問をもとに補足説明と討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習復習
授業で紹介する参考文献を読むこと本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
授業に使う PP ファイルを「資格課程の web サイト」で配布する。
新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】
ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会
笹川孝一編『生涯学習社会とキャリアデザイン』法政大学出版会

【成績評価の方法と基準】
・平常点（主体的な参加の姿勢など）20 %
・随時出されるレポートの提出とその内容　20 %
・定期試験の結果　60 %

【学生の意見等からの気づき】
・内容をできるだけわかりやすく講義する
・映像や新聞記事の活用
・学生からの質問、感想への積極的な対応
・テキストの内容の要約とコメントの課題は力がつくという評価が多いので、積極的に実施する
・私語への厳しい対応
以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
ワード
パワーポイント
ビデオ、DVD

【その他の重要事項】
・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
・なお、発達・教育キャリア入門は C・D（生涯学習入門Ⅰ・Ⅱ）続けて履修することが望ましい。内容も一連のものとなっている。

【Outline and objectives】
Essentials and History of Lifelong Learning

BSP100MA

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門Ⅰ）

基幹科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門 I) では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】
生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。
＊今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第 3 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設（図書館・公民館など）の無償制原則について理解する。
第 4 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と精度の特徴を理解する。
第 5 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について理解するとともに、国際文書や条約の動向について学ぶ。
第 7 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第 10 回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第 11 回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs 及び ESD の時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第 13 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応
第 14 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年

【参考書】
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所　2017 年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】
Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）

基幹科目

笹川　孝一

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン時代のリテラシーと生涯学習・生涯学習社会について考える「学習」は良いものとして「生涯学習の時代」が語られることも多いが、「学習」に必須なコトバ、文字、多様な表現は、実体とは異なるものなので、それを無批判に扱うと、かえって認識を誤ることも多い。
そこでこの授業では、学習のパラドックスが生まれる原因である、言葉、文字、表現の矛盾に立ち入りながら、幸せに繋がる学習の仕方について、文字・記号、能力・個性論に踏み込んで解説する。そして、幸せに繋がる学習の技法について検討する。
さらに、社会教育、生涯教育、キャリアデザインの異同を踏まえ、国際化を視野に入れた生涯学習社会を展望する。

【到達目標】
1）「リテラシー」と「学力」「能力」を育む struggle としての「生涯学習」と「生涯教育」について、「社会教育」と「社会的教育」について学ぶ。
2）「生涯学習」における「学校」「公民館」「博物館」「図書館」「企業研修」等の施設の役割や「ワークショップ」などのプログラム、教材作成や他の施設との連携等について学ぶ。
3）「生涯学習」にかかわる地方自治体や国、企業や NPO などの社会的な仕組みや権利、国際協力、国連やユネスコ、EU や東アジア共同体の役割を学ぶ。
4）生涯学習に関わる法政大学の伝統を理解し、法政大学出身の生涯学習指導者としての誇りを身につける。
また、次の点についても、重視して、授業を進める。
①理論と実際、②学習内容・方法・形態、③支援と評価、④「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の連携、⑤生涯学習振興施策の立案と推進、⑥「社会教育行政」と一般行政の役割と連携、⑦地方自治体の機能や役割と生涯学習関連法規、⑧学習施設や職員、⑨多様な指導者の役割と連携について、⑩日本的特徴の形成と普遍性について、国際的ネットワークを視野に入れて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
① できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
② 学生の人数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生涯学習の理論と実際の歴史的な展開と到達点	伝統的な生涯学習、「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の分離、統合装置としての現代型生涯学習について、理論的展開と実践的展開の相互関連を視野に入れながら理解する。
2	人格危機の諸相と自己イメージのずれ	人は自分自身の「自己イメージ」によって、自分をコントロールしていること、「自己イメージ」と現実とのずれが、成長や心理的抑うつ状態、「不登校」「出社拒否」などの原因となっていることを理解する。
3	自己イメージの修正と生涯学習の機能〜同上②	自己イメージと実際の自分とのズレの修正作業は、自分と世界についての認識を生涯にわたって再生産していく「生涯学習」の過程であること、またその中核概念としての「自己教育」「相互教育」について理解する。
4	学習のパラドックスと「学習」「学問」「学力」「能力」	「学習」は常に善とは限らず、「学習」によって人は元気にもなり、病気にもなること、「問」＝チェック抜きの「学習」は運転台のない電車のような危うさをもつこと、リテラシーと「学習のパラドックス」について理解する。
5	「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」	学問の基礎が生活・実践にあること、文字記号習得は詰め込みが基礎であること、「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」のメリット・デメリットを理解する。
6	「創造性」「コアコンピテンス」「個人・地域リテラシー」を育む学習内容と方法〜同上③	一般知と経験知、一般的文字記号と経験に基づく文字記号、一般的イメージと個人化・地域化されたイメージとの突き合わせによる「学問」「知識」の創造・発展と「コアコンピテンス」「教養」形成とその機能を、とくに創造性に焦点を当てて理解する。そして、「リテラシー」の習得・活用の世界について、①「健康」をキーワードとする学習内容、②「自分史」や課題発見・解決学習、時間＝歴史学習、空間＝地理学習、時代のキーワード学習などの学習方法の各側面から考察する。
7	学習プログラム編成と学習成果・学習過程の評価および相談	①「学習欲求」「学習必要」「学習要求」と「学習必要自覚化」を重視した、個性的・特色のある学習プログラム編成の実際と、②学習成果・学習過程についての自己評価・相互評価と学習相談の実際等を理解する。
8	生涯学習における、家庭・地域・学校・企業の連携	家庭、地域、学校、企業社会の連携による、「コアコンピテンス」「教養」「ローカルな知とアートの世界」を軸とした、「家庭文化」「地域文化」「学校文化」「企業文化」の世界。その継承・発展とそのための、人の内面・外面にわたる実践過程＝ struggle の実際を理解する。
9	「教育の原理」と「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」「成人教育」の日本的特性	「学習の共有と方向付け」としての「教育の原理」と、「成人の学習・自己教育」を中核とする統合の原理としての「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」について、日本における意義・発展・特質を理解する。その際、ヨーロッパ、アメリカ、東アジアを視野に入れる。
10	現代型生涯学習社会をめざす生涯学習振興政策・施策の立案と推進	現代型の生涯学習社会を目指す、新たな生涯学習振興策の政策・施策の意義と、地方自治体等の現場で施策、プログラムを立案・実施・推進することの具体的な状況について、広義の「キャリア教育」も視野に入れて理解する。
11	生涯学習に関わる法体系と地方自治体での制度と運用	国際人権規約や日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法、博物館法等の現代の教育法体系について、ユネスコ学習権宣言などの国際的な動向を視野に入れて理解するとともに、地方自治体の行財政制度について理解する。
12	社会教育・生涯学習行政と生涯学習の施設の経営と連携	生涯教育は、社会のあらゆるところで行われており、文部科学省や教育委員会がそれらのジャンクションとなることを期待されていること、それらの基本構造が共通していることをラムサール条約や生物多様性条約の CEPA に即して理解する。
13	生涯学習の指導者の役割・連携・研修	社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員など文科省・教育委員会管轄の職員と他の省庁が管轄する施設等の職員の役割と連携、地域において民間の立場から生涯教育をリードしている指導者たちの役割や研修等について、理解する。
14	国際社会・アジア太平洋地域での生涯学習ネットワーク	歴史的な「中華帝国世界」と「欧米列強」との衝突の中で生まれた《大日本帝国》《大東亜共栄圏》の解体後の今日、国際的な企業間競争とナショナリズム、日本とアメリカとの非対称的な関係を踏まえ、今後の太平洋・アジア地域における生涯学習を軸とする連携のための国際戦略と人材育成の方向性を、実際の事例にそくして検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習・復習を行うこと
日頃より、関連事項について、新聞記事等に注目する習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】
ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会

【成績評価の方法と基準】
・平常点（主体的な参加の姿勢など）20 %
・随時出されるレポートの提出とその内容　20 %
・定期試験の結果　60 %

【学生の意見等からの気づき】
・内容をできるだけわかりやすく講義する
・グループワークの活用
・映像や新聞記事の活用

・テキスト内容の要約とコメントの課題は、力がつくという評価が多いので積極的に活用する
・私語への厳しい対応
以上について、心がけたい。

【その他の重要事項】
・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
・学生側の積極的参加を呼びかけたい。

【Outline and objectives】
Literacy and Competency in the Time of Career Design

BSP100MA
発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）
基幹科目

朝岡　幸彦

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門 II) では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】
生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第 2 回	社会教育・生涯学習の現代的課題	社会教育と生涯学習と ESD の関係を通して、現代的な課題について考える。
第 3 回	戦後日本社会教育の流れ①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開、公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第 4 回	戦後日本社会教育の流れ②	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第 5 回	戦後日本社会教育の流れ③	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第 6 回	戦後日本社会教育の流れ④	21 世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990 年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第 7 回	戦後日本社会教育の流れ⑤	近年の教育政策の動向を踏まえて、社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の実践①	信濃生産大学運動を一つの起点とする農業・農民・食に関わる学習運動について学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の実践②	公害教育を手がかりに環境問題に関わる学習運動について学ぶ。
第 10 回	社会教育・生涯学習の実践③	公民館における「地域づくり学習」の事例をもとに、公民館と地域課題との関係を考える。
第 11 回	社会教育・生涯学習の実践④	公民館における講座やサークルの活動を事例に、公民館の特徴と役割を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の実践⑤	戦後社会教育・生涯学習における学習運動の地下水脈として、自由民権運動や憲法起草運動の意味について考える。
第 13 回	社会教育・生涯学習の未来	日本の社会教育・生涯学習の歴史と現状から、生涯学習社会における社会教育・生涯学習の可能性について考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの購読。
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年

【参考書】
千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育　増補版』エイデル研究所　2015 年

【成績評価の方法と基準】
テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業で紹介した資料は Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はありません。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline and objectives】
Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門Ａ　　基幹科目

妹尾　渉

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「一国の経済活動」について、マクロ経済学の理論に基づいて理解する。まず最初に、一国の経済活動を測るための指標（GDP、物価、失業率）について学ぶ。次に、それらが、消費・投資活動、財・サービス市場、労働市場、金融（資金）市場、貿易、政府の介入、などを通じて決定される仕組みについて学ぶ。最後に、最近の世界経済、日本経済が直面している課題について考える。

【到達目標】
①一国の経済活動について、マクロ経済学の理論に基づいて理解できること。②①で学んだ理論を通して、日本経済の現状についての解説ができること。③①②の作業を通して、社会科学の思考法（仮説の立案 → データ・実例による仮説検証 → 仮説の再考）を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
指定するテキストに沿って授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学とは
2	科学としてのマクロ経済学	経済学者はどのように考えるか
3	マクロ経済学のデータ（1）	国内総生産の測定
4	マクロ経済学のデータ（2）	物価、失業の測定
5	長期の経済（1）：国民所得	財・サービスの総生産 国民所得の分配
6	長期の経済（2）：国民所得	財・サービス市場の均衡 金融市場の均衡
7	貨幣システム	貨幣とはなにか
8	インフレーション	原因と影響と社会的コスト
9	開放経済（1）	資本と財の国際的な流れ 小国開放経済の貯蓄と投資
10	開放経済（2）	為替レート
11	短期の経済（1）：	景気循環に関する事実 マクロ経済学における時間的視野
12	短期の経済（2）：	総需要 総供給
13	総需要Ⅰ	IS-LM モデルの構築
14	総需要Ⅱ	IS-LM モデルの応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
マンキュー（2017）『マクロ経済学Ⅰ入門編（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】
講義を通して適宜紹介

【成績評価の方法と基準】
期末テストで評価

【学生の意見等からの気づき】
リアクション・ペーパーの導入

【Outline and objectives】
Understand "economic activities of one country" based on the theory of macroeconomics. First of all, we learn about indices (GDP, price, unemployment rate) to measure the economic activity of a country. Next, we learn about the mechanisms that are determined through consumption and investment activities, goods and services markets, labor markets, financial markets, trade, government intervention, Finally, we think about the recent world economy.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門B　基幹科目

湯川　志保

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・2 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ミクロ経済学の基礎について学んでもらいます。講義で扱う主な内容は、市場メカニズムの基礎、個人や企業の行動に関する理論になります。

【到達目標】
・ミクロ経済学の基本概念と考え方を習得し、応用科目を学ぶために必要な基礎力をつける。
・経済学的な考え方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講の可能性が高い。オンラインで開講する場合には、教科書と配布資料を用いた自宅学習を行ってもらう予定である。授業計画等の変更については適宜、授業支援システムで連絡する。本授業の開始日は 4 月 23 日とする。
対面授業の場合は、スライドと板書を用いた講義を行う。また、受講者の理解度を確認する小テストやレポートを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要について説明します。
第 2 回	経済学の 10 大原理	経済学を学ぶ上で重要な 10 の原理について概観します。
第 3 回	経済学者らしく考える	経済学の考え方について概観します。
第 4 回	相互依存と交易 (貿易) からの利益 (1)	絶対優位について説明します。
第 5 回	相互依存と交易 (貿易) からの利益 (2)	比較優位について説明します。
第 6 回	市場における需要と供給の作用 (1)	消費者の行動原理について説明を行います。また、財の需要量と価格の関係を表す需要曲線を導出します。
第 7 回	市場における需要と供給の作用 (2)	生産者の行動原理について説明を行います。また、財の供給量と価格の関係を表す供給曲線を導出します。
第 8 回	市場における需要と供給の作用 (3)	需要曲線と供給曲線を用いて、市場の均衡がどのように成立するかについて解説します。
第 9 回	消費者、生産者、市場の効率性 (1)	消費者余剰と生産者余剰について解説します。
第 10 回	消費者、生産者、市場の効率性 (2)	余剰の概念を用いて、市場の効率性について解説します。
第 11 回	市場の失敗 (1)	市場の失敗とはなにか、またその原因 (外部性) について説明します。
第 12 回	市場の失敗 (2)	市場の失敗とはなにか、またその原因 (公共財) について説明します。
第 13 回	まとめ (1)	第 1 回から 6 回までの内容のまとめを行います。
第 14 回	まとめ (2)	第 7 回から第 12 回までの内容のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ノートを見直し、要点をノート等にまとめる。
教科書の該当箇所を復習する。

【テキスト（教科書）】
N. グレゴリー マンキュー [著] 足立ほか [訳]『マンキュー経済学 I ミクロ編 (第 4 版)』東洋経済新報社

【参考書】
N. グレゴリー マンキュー [著] 足立ほか [訳]『マンキュー入門経済学第 3 版』東洋経済新報社
ジョセフ・E・スティグリッツ／カール・E・ウォルシュ [著] 藪下ほか [訳]『スティグリッツ　ミクロ経済学（第 4 版)』東洋経済新報社
柳川隆・町野和夫・吉野一郎『ミクロ経済学・入門　ビジネスと政策を読み解く』有斐閣アルマ
吉本 佳生 [著]『出社が楽しい経済学』 日本放送出版協会

【成績評価の方法と基準】
原則、定期試験で行う予定である。教室での試験が不可能である場合には、代替手段について別途授業支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
講義の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学を初めて学ぶ人にもわかりやすい説明を心がけますので、積極的に講義に参加してください。わからないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。
受講者の状況をみて、授業内容を変更する場合もあります。

【Outline and objectives】
In this class, we study the essence of micro economics.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門C　基幹科目

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・1**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ビジネスキャリア入門として、とくに経営学の基礎を学んでいきます。ビジネスが行われる場は、「株式会社」といわれる組織です。この講義では、株式会社の仕組みについて歴史を踏まえながら平易に講義します。

【到達目標】
株式会社をはじめ企業に関する基礎知識について、歴史を踏まえつつ総合的に理解することを目標とします。歴史的な文脈を押さえることにより、今日の企業活動をより正確に理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 5 月 11 日 (月) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	株式会社の仕組み	事例により現在の株式会社の特徴を理解します。
3	世界経済史・経営史 (1)	ルネッサン期のイタリアにおいて企業活動が勃興するプロセスについて学びます。
4	世界経済史・経営史 (2)	16 世紀〜19 世紀に、オランダおよび英国のおいて企業活動が促進されるプロセスについて学びます。
5	世界経済史・経営史 (3)	20 世紀初頭以来の米国企業の台頭の要因について学びます。
6	経営学説 (1)	米国企業隆盛は「科学」の存在が不可欠でした。科学的管理法といわれる理論・方法等について学びます。
7	経営学説 (2)	人が働く動機に関する理論について学びます。
8	経営学説 (3)	集団の心理に関する基礎理論について学びます。
9	中間レビュー	中間レビューを行います。
10	日本経済史・経営史 (1)	明治時代の初頭における日本経済・経営の状況について学びます。
11	日本経済史・経営史 (2)	戦間期および戦時期の日本経済・経営の状況について学びます。
12	日本経済史・経営史 (3)	戦後の日本経済・経営史を鳥瞰します。
13	日本経済史・経営史 (4)	日本的な経営システムについて詳しく議論します。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事を読むなど、企業をめぐる動向に関心をもってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
良いレポートをより積極的に紹介して、受講者のレポート作成に役立つ情報を提供します。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn the basics of business science, especially as an introduction to business career. The place where business is done is an organization called "corporation". In this lecture, we will give a lecture on the structure of the company with ease as it takes history.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門D　基幹科目

酒井　理

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・1**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。
本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための初歩的な知識を学びます。

【到達目標】
本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析する視点を持ってもらうことを目指します。受講者が①経営戦略に関する基本的な用語を説明できること②経営戦略に関する一般的な知識を習得し、企業の行動を理解し説明できること③企業行動、業界構造など実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めますが、受講者自身が何らかのワークを行うことがあります。受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提として、9 回の講義で大まかな企業の経営戦略の輪郭がわかるように進めます。9 回の講義のあと、4 回はビジネスの実際を理解するためにゲストによる講義にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（キャリアデザイン学部において経営を学ぶ意味を考える）	キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのかについて考えます。
2	経営戦略とは何か、ドメインの定義	経営戦略とはどのようなことをいうのかを説明します。 企業が事業活動をおこなうにあたって、何を事業として展開していくべきかを考えます。
3	経営環境と経営資源	経営環境の分析手法について学びます。経営資源を理解します。人、モノ、金、情報といった企業が経営していくうえで必要となる資源の説明を行います。
4	経営戦略を考えるワーク	強み弱み、機会と脅威を考慮した戦略分析手法である SWOT 分析について説明します。
5	経営資源の配分と戦略	どのような状況のときにどのような経営資源が重要となるかなどを考えます。 プロダクトポートフォリオについて説明します。
6	企業業績の決定要因	企業の努力だけで利益が決まるのか？それだけではないのか？ という問題を考えます。 ５フォースによる産業の競争構造について説明します。
7	企業の成長戦略	企業を成長させるための方法について整理します。
8	製品ライフサイクル	ライフサイクルの視点で戦略を考えてみます。ステージ毎の戦略の違いを説明します。
9	市場地位別にみた戦略の違い	市場における立場によって有効な戦略は違うのかどうかを考えます。競争におけるシェアの重要性とリーダーの戦略について説明します。続けて、チャレンジャー、ニッチャーの戦略について説明します。
10	経営の実際、起業の実際（1）	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。
11	経営の実際、起業の実際（2）	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。
12	経営の実際、起業の実際（3）	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。

13	経営の実際、起業の実際（4）	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。
14	試験・まとめと解説	ここまでの総括として試験を行います。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。ただし下記で指示した参考書に沿った内容で授業を進めます。

【参考書】
沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版 (有斐閣アルマ)』2008、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
①経営戦略に関する一般的知識、基本的用語を説明できるか、②企業の行動を十分理解し説明することができるか、③経営における経営戦略の役割を理解し、現実の企業を巡る現象を経営戦略理論に関連付けて説明することができるかを評価します。
定期試験 60%、授業時に行う小テスト 20%、レポート 20%の割合で評価します。
成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムへの講義資料のアップロードを事前に行います。学生の理解度を勘案しながら講義スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システムを使用します。
クリッカー、web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。
授業はプロジェクタを使用します。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
スモールビジネスのコンサルティング経験から得られた情報を組み込んだ授業を展開します。

【Outline and objectives】
Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow.
Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.
In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

BSP100MA

ライフキャリア入門A

基幹科目

田中　研之輔

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4** ｜ 配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
重要：コロナ対応で、5/11 日　月曜日を初回の授業とします。
ZOOM での実施を予定しています。(URL は、後日、こちらに公開します）
人生 100 年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。＊理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】
①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる。
②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる。
③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。
＊コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
2	人生 100 年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生 100 年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
3	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
4	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の＜外＞の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学の＜外＞の学びについて考える
5	人生 100 年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生 100 年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
6	人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生 100 年時代のコミュニティの多様性を確認する
7	人生 100 年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生 100 年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する
8	人生 100 年時代のライフキャリア：野宿生活とコミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、野宿者コミュニティを学ぶ
9	人生 100 年時代のライフキャリア：福祉・介護コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、福祉・介護コミュニティについて考える
10	人生 100 年時代のライフキャリア：災害とコミュニティ ボランタリズムの可能性	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、災害とコミュニティ・ボランタリズムについて学ぶ
11	人生 100 年時代のライフキャリア：若年層のストリート・コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、若者のストリートコミュニティについて学ぶ
12	人生 100 年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生 100 年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
13	人生 100 年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生 100 年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ
14	人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリア	人生 100 年時代のライフキャリアの視点からコミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義のポイントを復習しておく本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔『先生は教えてくれない大学のトリセツ』(2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】
田中研之輔『先生は教えてくれない就活のトリセツ』(2018 ちくまプリマー新書）

【成績評価の方法と基準】
① 授業時の感想メモと平常点　50 %
② 期末レポート、もしくは、期末試験を実施します。 50 %

【学生の意見等からの気づき】
双方型教育にむけて、積極的にソーシャルメディアを授業支援に活用していく。

【その他の重要事項】
例年、大人数での受講となりますが、受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline and objectives】
Life Career (community) is a course designed to assist students with the lifelong process of career development. Students will participate in a variety of experiences as a group and individually. This coursework is designed to help students identify and examine their interests, personality, values, self-esteem, critical thinking skills and to use this increased self-awareness to make decisions about majors and careers. This course will emphasize that making an occupational career choice and life planning is a never-ending process subject to and affected by one's personal maturity and environmental changes.

BSP100MA

ライフキャリア入門Ｂ　　基幹科目

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活におけるキャリアについて。とりわけ家族生活と関係した夫婦や親子の関係性に関するキャリアを扱う。夫婦になる前の男女の関係性や経験も視野に入れる。それらが、時代背景や社会文化背景のなかからいかに個人のキャリアの形成と関係しているかを学ぶ。

【到達目標】
履修前までに意識したことのなかった側面を含めて、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。職業や業績達成だけでない部分において、家族やパートナーとの関係においても、自己の将来について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に、10 代後半から 20〜30 代ぐらいの年齢段階を、授業で扱う対象とする。履修者にとっての現在のステージや近未来的なライフキャリアに注目することで、より現実的・実践的・当事者的な内容になると考えられる。各回においては、ＰＰＴを用いた講義や事例紹介と、それに対しての履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料等も利用する。くわえて、私自身の実施した学生調査の結果なども含め、具体的なデータも示し、そうすることで同時期に生活する人たちが実際にどう考え、行動しているか（してきたか）をより実感してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	交際と結婚①	交際の現状、時代の変遷
3	交際と結婚②	交際と結婚の違いに関する意識、国際比較、男女差等
4	結婚生活①	意識や現状に関する統計・事例
5	結婚生活②	かつてと現在、近代家族
6	結婚生活③	夫婦の生活、働くということ、国際比較等
7	実家との関係①	量的・質的側面、同居・隣居・近居・遠居
8	実家との関係②	嫁姑、自立、親離れ／子離れ、昨今の親役割
9	妊娠・出産①	妊娠生活、その現状
10	妊娠・出産②	里帰り出産、立ち会い出産
11	妊娠・出産③	男性の役割
12	浮気	現状、意識、別居、影響等
13	婚前の男女関係	でき婚、その影響等
14	まとめ	キャリアと家族生活について考えること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定された課題を遂行すること（例：読書課題によるレポート、等）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『親になれない親たち』（斎藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】
必要に応じて適宜解説する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度と小レポート（50 %）、期末試験（50 %）などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【Outline and objectives】
This course deals with people's careers in everyday life, especially, family life and marital relationship and parent-children relationship. Relationship between men and women before marriage is also discussed.　Students think of how these relationships are related with individuals' careers in historical contexts and social and cultural backgrounds.

BSP100MA

ライフキャリア入門C　基幹科目

北村　美穂

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
超高齢化社会におけるライフキャリア・デザインについて、認知科学的視点から理解を深める。特に、人間の基本的な感覚・知覚の仕組みや認知感情の仕組みが、発達過程やライフイベントの中でいかに変化するか理解しながら、心理・身体的変化にもとづいたライフキャリア形成のあり方について考察をおこなう。

【到達目標】
①人間の基本的な心理・身体的仕組みを理解する
②加齢にともなう心理・身体的変化の仕組みを理解する
③心理・身体的変化にもとづいたライフキャリア形成のあり方を考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法ならびに、全授業概要は、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など
2	環境と自己１　身の周りの世界を知る	感覚の仕組みを学ぶ
3	環境と自己２　世界を理解する枠組みをつくる	視覚とその他の感覚の仕組み
4	認知とライフキャリア１　情報を取捨選択する	注意の機能について学ぶ
5	認知とライフキャリア２　情報の蓄積と理解	記憶の機能について学ぶ
6	認知とライフキャリア３　新しいことを学ぶには	学習の機能について学ぶ
7	認知とライフキャリア４　ことばの理解	言語の機能について学ぶ
8	認知とライフキャリア５	知能と思考の機能について学ぶ
9	感情とライフキャリア	感情の機能について学ぶ
10	社会とライフキャリア１　相手を理解する	対人認知とコミュニケーションについて学ぶ
11	社会とライフキャリア２　社会をどう捉えるのか	社会的認知について学ぶ
....	....	....
....	....	....
....	....	....

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分自身の問題としてライフキャリアを現実的・具体的に考えていくために、授業時間外も資料を読んだり、情報を収集することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めませんが、関連文献や資料の情報を伝えます。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
「認知」や「発達」という、やや抽象的な概念をキーワードにした授業ですが、できるだけ現代社会や日々の生活との関連のなかで理解していくことができるよう工夫します。

【Outline and objectives】
Students will understand the position and meaning of the field of life studies in our faculty of Lifelong Learning and Career Studies. In this class, I will approach this field especially from the perspective of cognitive science. We will understand how our basic cognitive and physiological information processing would be modulated by aging and how these changes would affect the designing our life.

BSP100MA

ライフキャリア入門D　基幹科目

金山　喜昭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、マスコミなどでも「地域の衰退化」「都市の空洞化」などが話題になる。地域や都市を活性化するためには、そこで生活や仕事をする人たちなどが、生きがいをもち、その土地の一員としての役割を果たすことが大切である。人の生き方（ライフキャリア）は、地域と密接に関係している。そのことを理解し考えるために、地域において個人が市民としてキャリア形成をはかることをテーマにする。

【到達目標】
具体的には、「まちづくり」や「市民のキャリアデザイン」の考え方や、各々の実情を理解するとともに、そのあり方について具体的にみる。将来、文化、教育、福祉、ビジネス方面から「まちづくり」に関心のある人たちにとって基礎的知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「まちづくり」に関する基礎的な知識を習得することをはじめ、各地の「まちづくり」の実例をみることや、さらに文化をもちいた取り組みについても紹介する。授業は、講義・ワークショップ・現地見学などからなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する
2	民主主義と市民のキャリアデザイン	地域コミュニティや市民のキャリアデザインの考え方を説明する
3	キャリアデザインとまちづくり	市民によるまちづくり活動の考え方と事例をみる
4	地方都市の歴史・生活・文化活動	地方都市の歴史や文化、市民活動などについて紹介する
5	少子高齢化と地方の衰退	急速な少子高齢現象が進む地方の現状と取り組みをみる
6	地方自治とまちづくりⅠ	地方自治（行政）の視点からみた住民自治のあり方を話題にする
7	地方自治とまちづくりⅡ	地方自治（行政）の視点からみた住民自治のあり方を話題にする
8	地方自治とまちづくりⅢ	地方自治（行政）の視点からみた住民自治のあり方を話題にする
9	都市の経営	現代都市の骨格となる制度やコンパクトシティについてみる
10	市町村合併とまちづくり	なぜ市町村合併が行われたのか、その理由とその後の各地の状況を紹介する
11	観光とまちづくり	市民による観光のまちづくりを紹介する
12	現地見学①	文化資源を活用した「まちづくり」を見学する
13	現地見学②	文化資源を活用した「まちづくり」を見学する
14	試験（総括を含む）	試験（総括を含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各地のまちづくりの事例や文化施設を見学する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山 喜昭『公立博物館を NPO に任せたら-市民、自治体、地域の連携-』（同成社、2012 年）

【参考書】
適宜授業内にて資料を配布。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)
課題レポート（20%）
試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
テーマにもとづき系統的に授業を展開する。

【Outline and objectives】
In recent years, “declination of society” and “donut phenomenon” have been coming up in the media.In order to revitalize locals and cities, it is important for the people living and working there to have something to live for and play a role as each member of the areas. The theme of this course is to make a career development as a citizen in the living area in order to understand and consider that way of living (life career) is closely related to each living area.

CAR100MA

労働法

基幹科目

砂押　以久子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、社会における雇用の問題をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な労働法の正しい知識の習得を目標とする。

【到達目標】
　労働法は、働く人たちを保護する法律である。しかし、現実に労働者が正当に保護されているとは言い難い。その理由として、労働法が社会に浸透していないがゆえに、せっかくの保護規制が活かされていないことがあげられる。これは、労働者が労働法の正しい知識をもっていないことから生ずる問題である。
　本講義においては、まず、労働法が用意している労働者の保護規制を的確に理解したうえで、社会に噴出する雇用をめぐるさまざまな問題が現行法制の中でいかに解決が図られるべきかについて学び、そして、将来に向けて、現実に雇用問題に直面したときに、労働者として自己にいかなる権利があり、どのように解決を図ったらよいのかについて正しい知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業形態としては、講義形式を用いる。テーマによっては、リアクションペーパーの提出を求める。授業の具体的内容については、授業計画に示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働法の概要	雇用に関するルールについての概要を示す。
2	「働くこと」をめぐる問題	「働くこと」をめぐる個々的問題に関し、労働法上何が問題なのかについて検討する。
3	戦前の雇用における弊害と労働者保護の必要性	労働法の生成についての歴史を学び、現在にも残る問題について検討する。
4	労働契約の成立	採用内定等の問題を取り上げる。
5	賃金	賃金に関する保護法制について学ぶ。
6	労働時間	労働規制に関する基本的保護法制について学ぶ。
7	長時間労働	長時間労働がもたらす問題について取り上げる。
8	長時間労働の是正	近時の長時間労働の是正のための制度について検討する。
9	時間外割増賃金未払問題	時間外割増賃金が支払われない人たちに関する問題を取り上げる。
10	育児支援	わが国ではどのような育児支援制度が取られているかについて学ぶ。
11	休暇・休日	休暇・休日制度について学ぶ。
12	非正規雇用	期間の定めのある雇用をめぐる問題について検討する。
13	懲戒処分	懲戒処分に関する問題を取り上げる。
14	わが国の雇用政策	これからの雇用のあり方について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準する。準備学習に関しては、次回取り上げる事項について、予め概要を示すので、実際にどのような問題が生じているのか、さまざまな手段を用い調べ、十分な問題意識をもって授業に臨むことが求められる。そして、復習に関しては、授業で示した「働くこと」に関して生じるさまざまな法的問題について、授業で紹介した判例などを調べ、どのような解決方法が社会にとって最も望ましいかについて考察することが求められる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。その都度プリントを配布する。

【参考書】
浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第６版〕』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
　学期末に試験を実施する。
　平常点（リアクション・ペーパー３０％）と試験の点数（７０％）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
働く上で特に重要と考えられる問題にテーマに絞り授業を展開したいと考える。取り上げるテーマについて、具体的に雇用上どのような問題が生じているかについて指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討を加える。
また、可能な限り、提出してもらったリアクションペーパーを紹介し、皆さんからいただいた意見についてコメントしたいと考える。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じ DVD・ビデオ教材を用いる。

【その他の重要事項】
社会の動向に応じて取り上げるテーマの内容を変更する場合があり、また、授業の進行状況によっては、取り扱うテーマが若干前後することがあることを、予め了承いただきたい。

【Outline and objectives】
In this course, we would like to consider various employment issues from the leagal viewpoint. The goal of this course is to get the right knowledge of labor law.

BSP100MA

ファシリテーション論　　基幹科目

鈴木　まり子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・6**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】
この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習システムでその都度掲示する。本授業の開始日は 5 月 12 日（火）とする。この授業は、オンラインビデオ会議システム Zoom を使い双方向で行う予定である。授業開始日までを含めて、具体的なオンライン授業の方法は、学習支援システムで掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方 オンライン授業は 5 月 12 日開始	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】オンラインで参加型の場が求められる背景。ワークショップとファシリテーションとは。【演習】チェックイン
2	参加型の場をつくる３つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】場づくり体験
3	参加型の場をつくる３つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】プログラムデザインとプロセスについて。【演習】広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる３つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】ファシリテーターについて。 【事例紹介】ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】オリエンテーションの OARR とは。【演習】アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】アイスブレイクとは。【演習】アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】グラフィックとタイムキープとは【演習】ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】プログラムデザインとは【演習】プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	7 回目に統合	7 回目に統合
12	8 回目に統合	8 回目に統合
13	9 回目に統合	9 回目に統合
14	10 回目に統合	10 回目に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を事前に配布します。授業では、テキストを予習していることを前提に進めます。

【参考書】
「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」　共著鈴木まり子他　岩波書店「ワークショップ」中野民夫　新しい学びと創造の場』岩波書店（岩波新書）「ファシリテーション革命」中野民夫　岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他　日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバーズ　明石書店「ワールドカフェ」カフェ的会話が未来を創る~: アニータ ブラウン / デイビッド アイザックス　ヒューマンバリュー「対話する力」中野民夫・堀公俊　日本経済新聞社出版社

【成績評価の方法と基準】
演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。
　演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
　ファシリテーションがそれぞれのキャリアデザインとつながっていくか、具体的な事例を取り上げていく予定です。

【その他の重要事項】
◎演習を中心にした授業です。オンラインで開催します。
◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】
Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

BSP100MA

若者の自立支援

基幹科目

大山　宏

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**1～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】
１．若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
２．若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
３．若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、グループワークによって学習をすすめる。
毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第 2 回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第 3 回	若者の生きづらさ	若者の生きづらさの諸相
第 4 回	生きづらさの構造	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第 5 回	生きづらさの根幹	グループワーク 生きづらさについての具体的検討
第 6 回	支援対象の設定	支援の対象をどのようにとらえるか
第 7 回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第 8 回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第 9 回	若者による支援	若者自身による取り組みの位置づけ
第 10 回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第 11 回	若者支援の実践	事例を用いた具体的検討
第 12 回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第 13 回	支援プログラム構想	グループワーク 具体的な支援手法の検討
第 14 回	総括 若者の自立支援とは	自立の要件 若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。
参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロング/フレッド・カートメル・大月書店
など。

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワークでの発言・発表を含む）：４０％
レポート：６０％

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を元にした検討や、グループワーク等の時間を重視し、イメージしやすいよう伝えていく。
特にグループワークをはじめ、学生が主体的に参加できる機会を重視していく。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【Outline and objectives】
The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".
In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

CAR100MA

職業選択論Ⅰ

基幹科目

上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。
なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。
大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は 4 月 23 日とします。
当面の間、各回の授業では、レジュメにより解説や問題提起を行います。適宜、参照すべき文献や映像資料などを提示します。
授業に沿って、4 回のミニ・レポートを課します。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容はその後の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。さらに、中間と期末、2 回のレポート課題を出します。それぞれの課題は、学習支援システムの「課題」提出システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	大卒労働市場を考える（1）	各自の問題意識の共有／現下の情勢をめぐって
3	大卒労働市場を考える（2）	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
4	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	それぞれの特徴／ワークラーフバランス上の課題
5	キャリア教育とインターンシップ	キャリア教育と職業希望／インターンシップの目的・現状・課題
6	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
7	アルバイトから働き方を考える	アルバイト就労の現状、アルバイトと労働法
8	職場の問題への向き合い方	問題のある働かせ方とその改善方法／労働組合とは
9	就職活動と労働条件	就職プロセスと就職情報会社の役割、労働条件への着目の必要性
10	就職活動における客観情報の活用	「就職四季報」の活用、職場実態情報の活用
11	内定・就職をめぐるトラブル／初期キャリアとリアリティショック	トラブルと関係法令、対処法／初期キャリアの課題
12	セーフティネットと転職	雇用保障、失業保険、職業紹介、積極的労働市場政策、転職
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読も可）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。
課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの「教材」欄にレジュメを掲示します。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社
・東洋経済新報社編『就職四季報　総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
4回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価します。なお、それぞれのレポートの代筆・盗用・剽窃が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられます。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて情報の提供、レジュメの掲示、課題の提出などを行いますので、パソコンや通信環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
初回の授業レジュメで授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行いますので、必ず確認してください。

【Outline and objectives】
This course has been designed to provide a basic understanding of the School-to-Work transition. Main topics are characteristics of Japanese School-to-Work transition, career decision, labor problems and labor laws.

CAR100MA

ライフコース論

基幹科目

武石　恵美子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアをデザインしようとする上で、個々人が人生の各段階でどういう課題を担っているのか、それに対して社会にはどのようなリソース（資源）があるのかについて、基礎的な知識を獲得する。特に、従来「ライフサイクル＝人生の周期」という言葉で人生がとらえられてきたが、人生は一人ひとりユニークなものであり、あるパターンが繰り返されるわけではないことから、「ライフコース」が注目されるようになってきた背景を踏まえ、「ライフコース」の意味や概念についての基礎を理解するようにする。その上で、出生から就学、就職、結婚、子育て等を経て高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めるとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチの方法についても理解し活用できるようにする。

【到達目標】
この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とする。学生は、ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義を中心に進める。
適宜、授業内でミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認する。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「授業支援システム」において受講登録者に授業の前に提供する。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしてくることが必須要件となる。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション　ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
2	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法
4	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
5	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
6	成人期	家族の形成（結婚）、結婚をめぐる変化、国際比較
7	出産をめぐる変化、少子化の背景	出産行動の変化とその背景、課題
8	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
9	雇用システムと働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
10	女性の就業	女性の就業選択とその背景、課題
11	男性の働き方	男性の働き方の現状、課題
12	就業形態とライフコース	正規・非正規といった就業形態の違いによるライフコースの特徴
13	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
14	まとめ	授業の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使う資料は授業支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして、全体を読んでから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。授業で適宜資料を配布予定。

【参考書】
安藤由美（2003）『現代社会におけるライフコース』日本放送出版協会
嶋崎尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社
岩上真珠（2013）『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣
武石恵美子（2016）『キャリア開発論』中央経済社

その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験結果を重視します。さらに出席（ミニレポートの内容を含む）点を加味して評価します。場合によっては中間レポートを課すことがあります。
期末試験 70 %、平常点 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
様々なデータを紹介して、データの見方、解釈の仕方も学ぶようにする。

【Outline and objectives】
This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of " life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

CAR100MA

生活設計論Ⅰ（社会保障）　基幹科目

圓山　里子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・1**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの生活設計と密接な関連がある社会保障の仕組みとソーシャルワークの基本について学びます。
生活する中で予期しなかった出来事に遭遇することがしばしばあります。予期しなかった出来事が生活に大きな影響を与え、当初描いていた生活設計が狂ってしまう事態が生じることがあるかもしれません。しかし、私たちの社会はそのような個人的な事態にみえる困難な状況を社会的に支える仕組み＝社会保障制度をつくってきました。また、予期せぬ出来事への対処には制度等の活用のみならず、困難に直面した人個別に対応することも必要になります。このような個別の対応をソーシャルワークといいます。
当初は、このような内容を学ぶトピックスとして、「ひきこもり」「病い」「障害」をあげ、考えるための入り口として映像資料（ドラマ）等の事例を想定していました。しかし、2020 年春、私たちはまさに「生活する中で予期しなかった出来事に遭遇」しています。コロナ禍です。
そこで、この授業では、まず、皆さんがこのコロナ禍に遭遇して感じた不安や疑問等を手がかりとして、困難な状況への個別の対応であるソーシャルワークの方法論と、その個別対応を支える社会福祉・社会保障制度の考え方を学びます。ソーシャルワークも社会保障制度も、細かな技法や制度の詳細を知るというより、基本的な視点や制度・政策を支えている論理を学びます。また、困難な状況を生み出す価値観や社会的背景を考えます。
次に、「障害」をテーマとしてとりあげ、障害の「社会モデル」について理解します。「障害」に取り組むことが誰もが暮らしやすい社会をつくることにつながることを紹介します。
全体を通して生活設計と社会保障制度及びソーシャルワークとの関連について考えます。

【到達目標】
○現代社会を生きる上での生活設計について、多角的な視点から捉えることができる。
○コロナ禍での経験をふまえ、社会保障制度等の考え方について説明できる。
○ソーシャルワークの基本的な方法を学び、困難に直面した時の多様な対応方法を知る。
○自分自身が生きやすくなる考え方のヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
１．授業開始日
この授業は 4 月 24 日（金）を初回授業開始日とします。
２．初回授業の授業実施方法
この授業は学習支援システムに教材・資料を掲示し、課題を課す等の方法で、オンラインで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	予定変更の説明 課題の提示 社会福祉（学) の構成・導入
第 2 回	社会福祉（学）の構成	コロナ禍で生じている困難や不安に対して、どのような対処や対応があるか、社会福祉の視点から、論理的に考える。

第 3 回	ソーシャルワークの視点と日常生活を支援することの特色	ソーシャルワークの焦点とプロセス 日常生活を支える視点
第 4 回	グループや場のもつ意義	個人を支えるグループと場について
第 5 回	社会政策：個別の困難を支える	社会保障制度はどのような仕組み・考え方で成り立っているのか
第 6 回	前半のまとめ	１～５回の内容のまとめ 中間レポートの提示
第 7 回	「障害」とは何か	障害の社会モデルを学び、「障害」を通して援助や社会のあり方を考える。
第 8 回	セルフヘルプ・グループ	障害や依存症等の当事者活動であるセルフヘルプ・グループについて学ぶ。
第 9 回	自立生活運動	「自立」の意味を考え、支援を得て地域で暮らす形を知る。
第 10 回	障害 × 就労支援	障害者の就労支援の活動を学び、「はたらく」ことの意味や多様な働き方の場づくりとまちづくりの関係を考える。
第 11 回	後半のまとめ	７～10 回の内容のまとめ 期末レポートの提示
第 12 回	生活設計と社会保障制度及びソーシャルワーク	全体のまとめ
第 13 回	.	.
第 14 回	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
○事前学習：シラバスで次回のテーマを確認し、そのテーマに関してどのようなことが話題になっているかを調べる。そして、調べた内容に対する自分の印象や感想を簡単にまとめておく。
○事後学習：講義で扱ったテーマについて、事前に抱いていた印象や感想と授業後の考えとを比較検討する。また、提示された参考文献等を読んでみる。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず，オンライン教材を使用。

【参考書】
授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40 %），期末レポート（40 %）、各回の課題への取り組み（20 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Learn about social security systems and the basics of social work , that are closely related to life design.

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計）　基幹科目

林　奈生子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは「仕事」と「お金」なしに人生を歩むことはできません。明確な仕事観があれば、長い職業人生において自身の望むキャリアを積み上げることができます。また、基本的なお金の知識があれば精神的にも物質的にも豊かな生活を送ることができます。しかし、現状では多くの学生が「仕事」と「お金」について学ぶことなく社会人になっていきます。本授業では、「仕事」と「お金」の基本知識を学び、自身の生活を設計することの重要性を理解したうえで、自らにふさわしい「生き方・働き方・人生の目標」を考えます。

【到達目標】
本授業では、「仕事」と「お金」の基本知識を学びます。「仕事」では、組織、チームワーク、コミュニケーション、求められる能力などを通して、働くことの意義について考え、自らの仕事観を持つことを目標にします。「お金」では、家計、予算、金利計算などを学び、リスクを考えながら金融商品を選べる知識を習得するとともに、お金と生活の関係性を理解します。これらを通して生活設計の具体的な方法を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義、グループワークや意見発表、ミニレポートの作成、最終課題の提出などにより、立体的・実践的に進めます。＊授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	まず、授業内容・進め方・授業中のルール、到達目標と成績評価基準、最終課題などについて説明する。次に、「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
2	ライフプランとファイナンシャルプランの関係	自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
3	家計分析	自身の家計について分析し、自身のお金の使い方の特ちょうを知る。
4	予算の立て方	予算を立てることの意義と具体的な予算の立て方について学ぶ。
5	お金の基本知識	お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際のポイントを知る。
6	貯蓄型金融商品	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと選び方を学ぶ。
7	リスクとリターン	リスク商品の基礎知識と活用方法を知る。
8	ポートフォリオの考え方	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法などについて学ぶ。
9	企業活動と消費者	企業活動と消費者の関係を整理し、「働くとは何か」「消費するとは何か」について考える。
10	仕事の選び方と生活設計	「組織・マネジメント・求められる人材」について学び、仕事をどのように選ぶべきかを考える。
11	組織とチームワークの特性	事例を通しチームワークの特性、リーダーシップのとり方を学ぶ。
12	社会人に求められるコミュニケーション能力	社会人に求められるコミュニケーション能力と自身の生活を豊かにするコミュニケーション技術について学ぶ。
13	自身のライフデザイン	前回までの授業を振り返り自身のライフプラン表を作成する。再度、最終課題について説明する。
14	まとめ～最終課題の提出	本授業全体の総括を行う。第１３回で作成したライフプラン表をもとに、自身の将来設計と目標、行動計画についてのレポートを作成しライフプラン表とともに提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
必要な場合は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
配点は、グループワーク・ミニレポート６０％、最終課題４０％とします。
＊グループワーク・ミニレポートは受講生の習得状況により適宜実施します。
＊最終課題は次の２点を第１４回にあわせて提出することです。
①ライフプラン表『自身のライフプラン』（第１３回で作成）
②レポート『自身の将来設計と目標、行動計画』（第１４回で作成）
＊従って、第１３回で作成するライフプラン表『自身のライフプラン』を必ず第１４回に持参してください。詳細は授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークでは、「自分の考え方とは違う考え方を聞くことで視野が広まった」「最初は不安だったが自分の意見を言うことができた」などの感想が寄せられた。引き続きグループワークや意見発表の場を設け、受講生の積極性・気づき・潜在能力の顕在化を促したいと考えています。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline and objectives】
In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture will focus on the significance and importance of life design in this era, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. We discuss issues of corporate activities, job selection, teamwork, and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

CAR100MA
キャリアモデル・ケーススタディ　基幹科目

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な人のキャリア形成過程の実例を元に、各個人のキャリア形成について考える機会を提供する。また複数のキャリアモデルを知ることを通じて、キャリア形成とは何かという問題についても学ぶ。本講義では特に、いわゆるビジネス「以外」の職業人を重点的にケーススタディを行う予定である。

【到達目標】
多様な社会人のキャリアに関するケースを聞く事を通じて、キャリア形成の過程について学ぶことを目標とする。合わせて単に話を聞くだけでは無く、その話にいかに解釈すべきか、予備情報としてどのような情報を予め入手しておくべきかなどを解説する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まずインタビュー法などのケーススタディの聞き方についての講義を行う。その後でゲストによるキャリアモデルの話を聞いた上で、その振り返りを通じてキャリア形成のに関する理解を深める。なお、ゲストの講演の回も含め、各回に内容に関する小レポートを課す予定なので、その覚悟を持って受講すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	ケーススタディとは	研究法の 1 つとしてのケーススタディとは何か、その特徴と意義について解説する。
第 3 回	下調べの方法	インタビューを実施する前に必要な調査について解説する。
第 4 回	インタビュー術	インタビューとは何か、どのようなスキルが必要かについて解説する。
第 5 回	ゲスト講師①	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 8 回	ゲスト講師③	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでの講演内容をケーススタディとして活用する方法について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。またゲスト講師を相手にインタビュー役を基本的に全員にやって貰う予定なので、その覚悟を持つ者のみ受講するように。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメを配布する。

【参考書】
特になし。必要な場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】
各回の小レポート (70%) と最終講義日に提出するレポート (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中のリアクションペーパーを通じて学生の要望を反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
Students will learn various careers and how to conduct interview. "Especially, it is focused on the methods of case study and practice of interview.

CAR100MA
キャリアモデル・ケーススタディ　基幹科目

梅崎　修

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々を教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】
ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＜コロナ後、最新情報＞
緊急）4 月 23 日開始の予定です（オリエンテーション）。授業支援システムに資料をアップする予定ですが、現在支援システムが混雑してアクセスできないよう状況です (現在 (4 月 20 日現在)。配布資料方式ですので、焦らずに。大丈夫です。
現時点の状況を考えますと、この授業は、当座は、基本的に「配布資料」になります。ゲスト講師をお呼びする予定は 5 月以降になっておりますが、現在だいたい方法を検討中です。ゲストの回は、人物紹介や人物紹介映像によって代替する可能性があります。
＜旧原稿＞
最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第 3 回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第 4 回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第 5 回	ゲスト講師①	NPO 分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第 8 回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメを配布する。

【参考書】
永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）
阿川佐和子『聞く力　心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）
マルコ社『プロカウンセラーの聞く技術・話す技術』（サンクチュアリ出版）

【成績評価の方法と基準】
(旧）授業への参加度（50 %）と最終講義日に提出するレポート（50 %）で評価する。
(新）＜コロナ後、最新情報＞
一番大事なのは、レポート提出（全 1 回）です。他、数回、出席に代わりに「ワーク提出（数回)」をしてもらいます。
ただし、5 月以降、ゲスト講師参加も可能かもしれません。
どちらにしても、「レポート提出」+「出席 or ワーク作業」で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。PC の持ち込みは可能

【その他の重要事項】
担当教員は民間企業に勤務しており、人事歴 10 年に加え、広報・ブランディング 7 年、現在も同企業で教育機関や企業への研修や組織コンサルタントに従事している。これに関連して、学生に様々なキャリアの可能性を示唆する授業を行う。

【Outline and objectives】
To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.
Making an image of your career is an effective way to career design.
In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).
From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

廣川　進

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】
授業の進め方と方法 / Method(s)】
※　この授業の授業開始日は，4 月 27 日（月）3 限です。ZOOM を活用したオンライン授業を行います。詳しくは，学習支援システムの本授業ページをご覧ください。「お知らせ」および「授業内掲示板」の「授業用のお知らせ」トピックを見てください。（4.20 追記）
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班)。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班)。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部 1 年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
※　この授業の授業開始日は，4 月 22 日（水）2 限です。ZOOM を活用したオンライン授業を行います。詳しくは，学習支援システムの本授業ページをご覧ください。「お知らせ」および「授業内掲示板」の「授業用のお知らせ」トピックを見てください。（4.13 追記）
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部 1 年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となります。それに伴う各回の授業計画の変更などについては、その都度「学習支援システム」に提示します。本授業の開始日は４月２１日（火）３限です。Zoom 会議の形式で行う予定ですので、「学習支援システム」の「教材」に載せたパワーポイントに提示した URL から参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部１年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、授業評価の方法や基準も変更されます。具体的な方法や基準については、授業開始日に「学習支援システム」で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導　展開科目

渡邊　有紀子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。
・他者のキャリア形成支援に必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。
・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】
・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
※　この授業の授業開始日は，4 月 22 日（水）2 限です。ZOOM を活用したオンライン授業を行います。詳しくは，学習支援システムの本授業ページをご覧ください。初回の授業日までに、当日、接続してほしい URL をお知らせします。「お知らせ」および「授業内掲示板」の「授業用のお知らせ」トピックを見てください。（4.13 追記）
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション（1）	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション（2）	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション（3）	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル（1）	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル（2）	ＫＪ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル（3）	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成（1）	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成（2）	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成（3）	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部１年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルついて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】
授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
・実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
・高校には様々な文化があり、様々な考え方をする高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2つ目の校外実習
13	実習報告	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

渡邊　有紀子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・2　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
・実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
・高校には様々な文化があり、様々な考え方をする高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2つ目の校外実習
13	実習報告	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

荒川　裕子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
・実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
・高校には様々な文化があり、様々な考え方をする高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2つ目の校外実習
13	実習報告	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリアサポート実習　展開科目

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】
・実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
・高校には様々な文化があり、様々な考え方をする高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 つ目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 つ目の校外実習
5	実習報告	1 つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2つ目の校外実習
13	実習報告	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】
実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Acquire the communication skills necessary for career support,
· Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・B コース）　展開科目

中野　貴之

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、キャリア体験（インターンシップ）に先立って、働くことに対する意識と理解を高めることを目的とします。グループワークを重ねることにより、自己理解、他者理解、社会経済事象に対する分析力や表現力を養い、社会人基礎力を身につけていきます。

【到達目標】
次の項目を達成することが目標です。
＜実習準備期間＞
(1) 他者との協働により成果を獲得するチームプレーの経験を積むとともに、他者の前で自分の考えを、口頭、文章により適切に表現できる能力を身に着ける。
(2) 実習先の概要を理解し、働く場に対して自分なりの考えをもつ。
(3) 学部の授業で得た理論・知見と、働くという実践とをつないで考える習慣を身に着ける。
＜実習中＞
(1) 自分の関心の強い業界・仕事に対する理解を深める。
(2) 実習先（企業、NPO、および、公共機関等）に対する理解を深める。
(3) 自分の適性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) です。三次募集の応募者は 4 月 25 日 (土) までに、担当教員にメールを送ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス: 授業の概要、評価方法等について説明
第 2 回	グループワークⅠ（ディスカッション）	「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマに討議
第 3 回	グループワークⅠ（プレゼンテーション）	①「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマについて発表する。 ②希望先聴取と実習先調整
第 4 回	グループワークⅡ（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマに討議
第 5 回	グループワークⅡ（プレゼンテーション）	①「あなたは何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 6 回	企業研究・業界研究の進め方	①業界、企業の見方をレクチャー ②基礎的な知識 ③企業業績、業界の特徴
第 7 回	グループワークⅢ（ディスカッション）	「5 年後、10 年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」についてディスカッション
第 8 回	グループワークⅢ（プレゼンテーション）	「5 年後、10 年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」について発表
第 9 回	ゲスト講師との対話①	ゲスト講師との対話①
第 10 回	ゲスト講師との対話②	ゲスト講師との対話②
第 11 回	グループワークⅣ（ディスカッション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてディスカッション
第 12 回	グループワークⅣ（プレゼンテーション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてプレゼンテーション
第 13 回	インターンシップに向けたグループワーク①前半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆
第 14 回	インターンシップに向けたグループワーク②後半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自、実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをとる。
・プレゼンテーションの準備には、授業外の時間を割く必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『キャリア体験学習の手引き』

【参考書】
授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
熱心に取り組むことができたとの意見が多かったので、本年度も同様のスタンスで進める。

【その他の重要事項】
・積極的、主体的に取り組むことが要求される。

【キャリアデザイン学部より】
ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要がある。掲示で詳細を確認すること。

【Outline and objectives】
This lecture aims to increase the motivation for working. You will develop some analytical skills and expressive power, understand social and economic phenomena, and acquire core skills for business persons.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・B コース） 展開科目

酒井　理

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア体験事前指導は、キャリア体験（インターンシップ）の学習効果を高めるために行います。授業は、働くことに対する意識や考え方を深めることを目的としています。
具体的には、他の学生の考え方を知る、自分を知ることを狙いにディスカッション、グループワークをおこないます。また、職業、働くことを深く考えることにより、働くことに対する意識を高めます。また、普段あまり考えたことがない「働く」ということについて、様々な意見のなかで、今の自分の考えをまとめます。
さらに、就業体験に臨み、必要となる基礎知識や考え方を提供します。

【到達目標】
（実習準備期間）以下３つの項目を目標とします。
1. キャリアをデザインするという意味を学習しキャリア体験学習の意義を自覚すること。
2. 実習先の概要を理解し、働く場である組織について自分なりの考え方を持つこと。
3. 学生モードから社会人モードへの切り替えを図ること。
（実習中）以下３つのことを目標とします。
1. 自ら動くことの重要性を実感し実践すること。
2. 実習先の人たちとの人間関係を構築すること。
3. 新しい事象に対する感性を磨き、現場の状況の把握力を高め、同時に現場での問題発見能力とそれを解決する能力の重要性を実感すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
(授業の形態)
1. この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習（A・B コース）」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了とします。
2.A、B コースの二種類があります。このうち、A コースは大学が実習先を準備するものです。一方、B コースは教員の指導のもと期間内に実習先を自分で開拓します。
3. 希望者の数が多い場合には選抜します。A コースに関しては、実習先が面接試験を必須としているところも多いので、希望が必ずしも叶うわけではありません。
4. 実習先は多様です。実習期間についても開始・終了時期が異なります。通常 6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行いますが、例外も多々ありますのであらかじめ了解しておいてください。
5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談でおこないます。
※　2020 年度に関しては、現場での A/B ともにインターンの実施が困難であることが予想されますので、それに変わる代替措置を準備しています。詳細については、学習支援システムにおいて説明する予定です。
※ 初回は連休明けの 5 月 6 日水曜から始めます。
(授業の進め方)
グループディスカッションを繰り返し行います。テーマはシラバスで示した通りです。5-6 名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返しおこなっていきます。グループは頻繁に組み替えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、実習先の概要	目的、キャリアデザインと体験学習、受講の心構え、社会人モード、実習先の概要、評価の仕方などの説明
第 2 回	グループワークⅠ（ディスカッション）	「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマにグループ討議
第 3 回	グループワークⅠ（プレゼンテーション）	①「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマに発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 4 回	グループワークⅡ（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマにディスカッション
第 5 回	グループワークⅡ（プレゼンテーション）	①「何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整

第 6 回	グループワークⅢ（ディスカッション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？ 」についてグループワーク
第 7 回	グループワークⅢ（プレゼンテーション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？ 」についてグループワーク
第 8 回	グループワークⅣ（ディスカッション）	「あなたが生きる 10 年後の社会がどのようになっているのか？ どのようなキャリアデザインをしようとするのか？」をテーマにディスカッション
第 9 回	グループワークⅣ（プレゼンテーション）	「あなたが生きる 10 年後の社会がどのようになっているのか？ どのようなキャリアデザインをしようとするのか？」をテーマに発表
第 10 回	社会人からみたキャリアデザイン	社会人ゲストを招いて、キャリアデザイン、就職活動など幅広く話をお聞きします（リクルートキャリア）
第 11 回	業界研究ワーク 1	関心のある業界を定めて情報を集めます
第 12 回	業界研究ワーク 2	特定の業界について分析を深めます
第 13 回	企業研究ワーク 1	関心のある企業を定めて情報を集めます
第 14 回	企業研究ワーク 2	特定の企業について分析を深めます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをおこなってもらいます。先方に出向いて面接を受ける場合もあります。「組織とは何か」あるいは「実習先の業界」について調査研究を行ってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大学で用意している『キャリア体験学習の手引き』を配ります (PDF 形式)。

【参考書】
『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業課題 60%、業界・研究課題 40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、体験、後期の授業の一貫性を持たせる流れを意識して授業を構成しています。
一人ひとりの顔が見える対応ができるように、１クラスを１名の教員が担当するようにしました。年間を通して丁寧に学生をケアしていくことに重点をおいています。

【その他の重要事項】
初回は連休明けの 5 月 6 日水曜から始めます。
初回はオリエンテーションですので、その説明となる授業資料を事前（連休中に）アップします。
5 月 6 日にサイトにアクセスして確認してください。
この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜で履修を許可される必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This is a lecture to enhance the learning effect of employment experience. The purpose is to deepen your awareness and thinking about work by discussing with others.Group work is done with the aim of knowing the way of thinking and values of others and getting used to collaborative work.

Through this lesson, you will increase your awareness of working by deeply thinking about your occupation and working. By knowing various opinions, you will be able to put together your ideas.

BSP200MA
キャリア体験事前指導（A・B コース）
展開科目

田中　研之輔

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【重要】コロナ対応で ZOOM で実施します。
次回は、5/7（木）15:00、下記の URL から入室してください
Zoom ミーティングに参加する
https://us02web.zoom.us/j/81235854986
ミーティング ID: 812 3585 4986
本講義では、働き方をインタラクティブなグループワークと、学外でのインターンシップ経験（短期、中期、長期）を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。就職活動の内定を狙いとしたものではなく、卒業後社会人として生きていく為の基礎力を身につけていきます。

【到達目標】
① 毎回のグループワークとプレゼンテーションにより、考える力、伝える力、まとめる力を養います。
② 企業分析、市場分析、自己分析、などの多角的な分析手法をみにつけ、社会洞察力と適応力を磨いていきます。
③ インターンシップを通じて、働き方の基礎を学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義はインターン実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了する。
○ A、B コースの二種類がある。A コースは大学が実習先を準備するもの、B コースは教員の指導のもと自ら期間内に希望する実習先を開拓するものである。A コースは、希望者の数が多い場合には選抜する。実習先が面接試験を必須としているところも多い。従って希望が必ずしも叶うわけではない。体験することに価値がある。
○実習先は多様である。実習期間も、開始・終了時期も異なる。通常 6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行う。
授業の密度を高め効率化を図り授業成果を高めるために共同授業の形式も多用する。クラス分けは実習先により決定する。実習先の決定及び実習後の報告は個別に時間をとり面談を実施する。
(授業の概要)
○実習先は教員との面談により決定するが、実習先へのコンタクトや事務手続きは学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。
○実習先を事前に調べ社会人マナーについても基礎的な知識を身につける。
○体験学習を履修した先輩からの話を聞く機会を設ける。
○また君たちが働くことになる日本社会について考える場も提供したいと考えている。
(手続き)
○ 2020 年度在学生向け履修ガイダンス後速やかに事前申込書・志望理由書・自己 PR など（予定）の書類の提出が必要である。煩瑣となるが、就活の予行だと考えてほしい。
○なお、キャリア体験学習（C コース）及びキャリア体験学習（国際）との並行履修はできない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学から社会への移行の基礎理解	大学から社会への移行の基礎理解を深める
2	自己分析とインターンシップ先選定	自己理解ワークを実施するとともに、インターンシップ先を選定する。
3	前半メンバーの面談と実習先の仮決定、インターンシップ先と関連業界の調査、グルーワーク	①前半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
4	後半メンバーの面談と実習先の仮決定、実習先と関連業界の調査、グルーワーク	①後半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
5	グループワーク発表会①	自己理解での気づきを発表し、議論する。
6	グループワーク発表会②	業界研究での気づきを発表し、議論する。
7	異業種の業界分析①	異業種の業界研究を行う。
8	インターンシップ先外部講師招聘	体験学習を履修した先輩からの話を聞いて質疑応答

9	事前調査のグループ内発表・教員との前半メンバーの個別打合わせ　Ⅰ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との前半メンバーの打合せ
10	事前調査のグループ内発表・教員との後半メンバーの個別打合わせ　Ⅱ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との後半メンバーの打合せ
11	社会人基礎力を培う①	「社会で働くということ」（外部講師の予定）
12	社会人基礎力を培う②	心構え、マナー、電話のかけ方など
13	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワーク	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワークを行う
14	IT・通信関連の業界分析のグループワーク	IT・通信関連の業界分析のグループワークを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の情報収集や実習先へのコンタクト。実習先に関連して民間企業、NPO、公共団体などについて情報の収集と整理。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　『先生は教えてくれない就活のトリセツ』（2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】
必要資料は適宜、講義内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、報告書（講義内発表）20 %、実習に係わる書類作成能力 10 % などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は働き方に特化したきわめて実践的な学びの場です。インターンに採用されない経験、インターン先での失敗、上手く行かずに悩む学生もいます。失敗は成長のエンジンです。他の受講者と失敗経験も共有しながら、そこでの打開策も練り上げていきますので、働き方を学びたい学生はぜひ、受講してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・Bコース）　展開科目

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験（インターンシップ）に向けた皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

【到達目標】
（インターンシップ準備期間）
①インターンシップの意義や目的の理解
②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
③インターンシップのための事前準備
（インターンシップ中）
①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること（働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等）
③経験を振り返り、教訓にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【修正版】この状況下、授業においても、感染リスクの回避を第一優先とさせていただきます。このため、授業はオンライン（現時点では Zoom や Line を想定）及び学習支援システムによって実施する見通しです。インターンシップもオンラインで可能なものを推奨せざるを得ません。上記のようなインターンシップ需要の見通しが立たないため、状況を見ながらにはなりますが、インターンシップ以外の選択肢も検討する可能性が高いです。
初回授業は4月２３日（木）１３時～、オンライン（Zoom）で行います。Zoom へのご参加方法を学習支援システムに掲示しますので、学習支援システムへのご登録をお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と概要、インターンシップとは
第 2 回	インターンシップ先の開拓・選定に向けて	①インターンシップ先の開拓に向けて必要な情報の共有 ②インターンシップサイトに関する情報交換
第 3 回	企業や仕事に関する基礎知識～企業・業界・ビジネスと仕事	①企業の成り立ち、業界の概要、ビジネスと仕事に関する解説 ②グループワークの目的の共有、グループ分け
第 4 回	先輩の事例紹介	インターンシップを開拓・経験した先輩の事例紹介と意見交換
第 5 回	グループワーク～作業	インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換、自身の方針の決定、プレゼン資料作成
第 6 回	グループワーク～発表	①グループワークでの気付きや考察についての発表と意見交換 ②進捗管理に関する説明
第 7 回	キャリア創りはもう始まっている（仮題）	ゲストスピーカー（社会人）の講話と意見交換
第 8 回	企業や仕事に関する基礎知識～能力開発や労働条件	企業における能力開発機会や賃金・労働時間等の労働条件に関する解説
第 9 回	インターンシップサイトの紹介	①インターンシップサイトの紹介と質疑 ②進捗管理表の提出と進捗確認
第 10 回	模擬面接・グループディスカッション	インターンシップ先開拓に向けた模擬面接・模擬グループディスカッション
第 11 回	模擬面接・グループディスカッションの振り返りと開拓の進捗報告／前半	前半グループ、個別に報告
第 12 回	模擬面接・グループディスカッションの振り返りと開拓の進捗報告／後半	後半グループ、個別に報告
第 13 回	エッセイ執筆	①エッセイ執筆要領の説明、執筆 ②個別相談

第 14 回	インターンシップに向けて	①社会人としての礼儀作法、電話の掛け方・とり方等のビジネスマナー ②インターンシップに向けた留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターンシップの候補となる企業・団体等の情報収集や、企業・団体等へのコンタクト・やりとりが必要になります。
インターンシップは申込みだけではなく、選考を伴うケースが多いことから、その場合は企業・団体等に出向いて面接等を受けることになります。
加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。提出物が多いですが、必要な準備期間は十分設けますので、〆切厳守でご提出いただきますようよろしくお願いします。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は授業支援システムにアップします。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワークやディスカッション・発表、提出物の提出等を含む）（70 %）、エッセイの執筆内容（20 %）、インターンシップ先の企業・団体（候補を含む）の開拓の進め方（10 %）などにより評価します。
発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。
欠席は理由にかかわらず２回まで（３回以上の欠席は自動的にＤ評価となります）。

【学生の意見等からの気づき】
参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン・パソコン等の情報機器。
資料は授業支援システムにアップします。また、発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】
この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験を要件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したこととなります。
この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓するＢコース（国内）の指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初のコンタクトからインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただきます。
相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにいかないケースもあり得ますので、予めご了承ください。
企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。
なお、本授業のインターンシップ先の開拓は就職活動そのものとは趣旨が異なりますので、授業と就職活動との区分が可能な２・３年生が受講対象となります。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、定員を超える場合は選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This course will support student's active preparation for career experience (internship); by doing so, students will obtain high learning effects of internship. In this course, students will learn significance or purposes of internships, share information to look for or choose companies accept your internship and preparations for internship.

BSP200MA
キャリア体験事前指導（C コース）
展開科目

山岡　義卓

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、本科目および秋学期に開講される「キャリア体験学習（C コース）」の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

【到達目標】
本授業の目標は次のとおり。
①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
②グループワークの進め方を身につける。
③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。
なお、「キャリア体験学習（C コース）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
本科目および「キャリア体験学習（C コース）」を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点本科目を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第 2 回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法等を説明する。
第 3 回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第 4 回	演習①（課題抽出、整理）	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第 5 回	演習②（課題解決提案、発表）	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第 6 回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第 7 回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第 8 回	協力企業および業界に関する事前調査	担当企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。
第 9 回	実施計画の作成	企業担当者と情報交換のうえ実施テーマに合わせて実施計画を作成する。
第 10 回	テーマに関する調査	テーマに関して、担当企業における現状（商品ラインナップや技術、販路等）、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。さらに調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第 11 回	中間発表準備	春学期の活動内容を振り返り中間発表の準備を行う。
第 12 回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。
第 13 回	（第 12 回に統合）	（第 12 回に統合）
第 14 回	（第 12 回に統合）	（第 12 回に統合）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
14 回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、中間発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められるということに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。

【その他の重要事項】
「キャリア体験学習（Cコース）」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

BSP200MA

キャリア体験学習（A･Bコース） 展開科目

中野　貴之

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、インターンの経験を振り返り、共有するとともに、さらに働くことに対する意識や理解を深めていくことも目的とします。また、広くキャリアをデザインする力を養います。

【到達目標】
「理論と経験」といわれるように、大学の授業で学んだことは実際の経験を積むことにより一層深まっていきます。実際に働いて得た経験値を軸に、働く場、さらには広く社会に対する理解を深め、人間形成の基礎を築くことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①グループで実践経験を振り返る。
②職場体験を振り返り、新たな実践課題に取り組む。
③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り ②秋学期授業の進め方の説明
第 2 回	グループワークⅠ（インターンシップ振り返り）	①グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート） ② (10 分間面談) 教員に実習先での経験を整理して話す
第 3 回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第 4 回	社会人との対話①	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論①
第 5 回	社会人との対話②	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論②
第 6 回	業界、企業分析の基礎	業界、企業分析について春学期よりも詳しく説明
第 7 回	グループワークⅡ①	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション①
第 8 回	グループワークⅡ②	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション②
第 9 回	グループワークⅡ③	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション③
第 10 回	グループワークⅡ④	発表資料の作成、最終調整
第 11 回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム１、２）
第 12 回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム３、４）
第 13 回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム５、６）
第 14 回	１年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備のため授業時間外に時間をとられることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70%）、エッセイ（25%）および実習に係わる書類作成能力（5%）等により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
熱心に取り組んだとの意見が多かったので、本年度も同様のスタンスで進める。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S〜C-) した場合のみ履修可能

【Outline and objectives】
This lecture also aims to reflect on the experience of the intern, to share it, and to deepen the awareness and understanding about further work. You will develop the ability to design careers.

BSP200MA

キャリア体験学習（A・Bコース） 展開科目

酒井　理

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、「学び」と「働く場での実践」を PDCA のサイクルを実践することで、自分だけの学びの方法の構築、自分だけの学びの体系を獲得することを目的とします。
授業の中では、就業体験を振り返ることで、自分自身を深く分析し、自らの仕事に対する考え方を身につけます。未来志向の考えを学び、キャリアをデザインする力を身につけます。

【到達目標】
インターン経験 Do を振り返り、その経験を整理しながら改めて、Check:仕事とは何なのか、働くとはどういうことかについて、自分なりに整理することを目的にして、授業を進めます。Check および Act を一通り経験することで、実践を通した学びの方法をラフではありますが獲得してもらいたいと思います。また PDCA サイクルのうちに「学び」を取り入れていくことも重要です。経験を軸にした「学び」を行っていくことで、自分という人間を豊かにしていく方法論を身につけていくことが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①グループで実践経験の振り返りを行います（エッセイを書くための準備を行います）
②職場体験の振り返りを生かして、新たな実践課題に取り組みます
③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り（ショートスピーチ） ②秋学期授業の進め方の説明
第 2 回	グループワークⅠ（インターンシップ振り返り）	グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート）
第 3 回	グループワークⅠ（インターンシップ振り返り）	グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート）
第 4 回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第 5 回	社会人とのトーク①	10 年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト①（20 代の社会人）
第 6 回	社会人とのトーク②	10 年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト②（30 代の社会人）
第 7 回	グループワークⅡ①	10 年後の自分達が関わる社会における働き方、生き方を自分たちの考えで描き、そこで自分たちはどう働き、どう生きていくのか、どのように生きていくのかを考える。 あるいは、特定の業界にフォーカスして、その業界が 10 年後どのようになっていくかを考えて、そこでの働き方がどのようになるのかを考える、というテーマでディスカッション
第 8 回	グループワークⅡ②	資料収集、調査を実施してテーマ研究を進める。
第 9 回	グループワークⅡ③	文献データ、調査データを分析してテーマ研究を進める。
第 10 回	グループワークⅡ④	発表資料の作成、最終調整を行う。
第 11 回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム１、２）
第 12 回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム３、４）
第 13 回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム５、６）
第 14 回	１年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューや作品制作に時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房

【成績評価の方法と基準】
実習実績、実習関連書類の整備、平常点、報告書（エッセイ《予定》）により評価します。
実習実績（インターンの経験）は成績評価の前提条件です。実習関連書類の提出をもって実習をおこなったものと認めます。
そのうえで平常点、毎回の授業課題、報告書により評価します。
平常点 60%、授業の課題 30%、報告書（エッセイ）10%です。
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップ経験をしっかりと振り返ることのできる授業構成にしました。

【その他の重要事項】
この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This lesson is aimed at building your own way of learning and acquiring your own learning system by practicing the PDCA cycle by "learning" and "practicing in the workplace".
In class, by reviewing the employment experience, you deeply analyze yourselves and learn how to think about your future work.
And you will learn the future-oriented ideas and acquire the ability to design careers.

BSP200MA

キャリア体験学習（A･B コース） 展開科目

田中　研之輔

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では働き方を実践的に学びながら、そこでの失敗経験を共有し、打開策を見つけ出していきます。本講義は大学内/外の相互補完的な学びに特徴があり、卒業後の生き方をデザインしていく力と方向性を学んでいきます。

【到達目標】
①働く場・働き方・働く人の多様性を認識する。
②実習を言語化する。
③働くとは何かを改めて考え、キャリアデザインする意識を明確化する。
④伝えるためのインタビューの仕方を学ぶ。
⑤キャリアデザインのドライバー（駆動力）を探索する。
⑥インターンシップの総括を行い、社会人としての基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
① 実習体験をグループワークにより共有し働く現場の多様性を認識し②体験を教員に対する報告（面接形式）・グループワークでの発言・スピーチ（個人発表）・エッセイ執筆（編集により文集の作成）により言語化し③働くことを講義やグループワークで改めて考察する。グループワークのテーマとしては「エッセイで何を伝えたいか」、「キャリアドライバーを探す」などを予定。④インタビューの仕方をプロから学んだ上で⑤実際にインタビューを行いチームで映像作品などを制作し⑥発表する。
グループワークが中心のプログラムである。外部講師の講義も予定するが、あくまでも君たちでつくりあげる授業にしたい。リーダーシップやフォロワーシップを学び、また聴き方、アサーションやファシリテーションなどのスキルを試す良い機会を提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実習の進捗と振り返り	秋学期授業概要の説明と実習の振り返り。実習日誌などの書類作成・提出、グループワークの準備
2	○教員との個別面談（面接形式）Ⅰ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅰ	○３分間スピーチ（教員に実習先の話をまとめる） ○グループワーク「エッセイで何を伝えたいか」を予定
3	○教員との個別面談（面接形式）Ⅱ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅱ	同上 但し、エッセイのテーマを決める。
4	○教員との個別面談　Ⅲ ○グループ作品制作に向けて　Ⅰ	同上 ○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
5	実習発表会	エッセイを踏まえて実習報告（スピーチ）を行う。
6	グループ作品制作に向けて　Ⅱ	○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
7	講義「働くとは？」	現場で指導されている外部講師ををお迎えする（予定）
8	キャリアモデルに学ぶ	現場でインタビューを行い映像を制作されているプロをお迎えする（予定）。
9	新規事業の体験①	新規事業の開発手順・注意点を学ぶ。
10	新規事業開発の体験②	新規事業開発のモデルをつくる
11	新規事業開発の体験③	新規事業開発案を相互に検討し、練り上げる
12	新規事業発表会①	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施する
13	新規事業発表会②	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施し、フィードバックから再検討していく
14	インターンシップ報告会	インターンシップでの学びを報告し、総括していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューやインターンシップに時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中研之輔　「先生は教えてくれない就活のトリセツ』（ちくまプリマー新書）

【参考書】
授業内で適宜、伝える

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、報告書（講義内発表）20 %、実習に係わる書類作成能力 10 % などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前期での実践的な学び、夏期休業期間中のインターンシップ経験を通じて、毎年、後期の本講座では飛躍的な成長をみせてくれます。少人数でインタラクティブに学べることの強みを最大限にいかしていきましょう。

【その他の重要事項】
○大変な時代になっている。まずは自分のことを考える。それから他人のことを考えよ。自分のことは自分で決める。生きる覚悟と社会で役に立つという高い志を持たないといけない。
○先が見えにくい時代だといわれている。
経済のグローバル化に加え、格差の拡大、地球環境の悪化など問題は数多い。
けれど、いつの時代も変わらないことがある。
それは、社会は人で成り立っているという事実だ。
キャリアデザイン学部では、人のエクスパートを育てている。
自分自身を磨き、人の活かし方を学び、人とともにある未来を考える。
人の専門家の視点から、さまざまなフィールドを見渡している。
ダイヤはダイヤでしか磨けないように、人は人でしか磨けない。
だから授業は座学にとどまらない。
フィールドワークや体験学習、インターンシップなど、学ぶ分野も幅広い。
物事を多角的に観る眼を鍛えるためだ。
人について深く学ぶことで、自分自身を客観視する力を身につける。
自分と向き合いながら「やれること」と「やれないこと」を見極める。
キャリアデザイン学部での学びは、生涯学習の第一歩であり、その積み重ねが、社会で通用する力となる（キャリアデザイン学部のパンフレットを引用）。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

BSP200MA

キャリア体験学習（A･Bコース）　展開科目

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・3**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）をさまざまな視点から振り返り、分析結果を教訓として整理し、これからのキャリアにつなげることです。キャリア体験について複数のテーマ（どのような開拓・選定が満足度の高いインターンシップにつながるか、キャリア体験の失敗から何を学ぶか、キャリア体験での気付きからこれからのキャリアについて考える等）を設定し、それぞれのテーマをグループで分担して分析を行い、クラス全体で共有します。また、業界研究を通じて業界に関する理解を深め、これからのキャリアを考える上での参考とします。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①キャリア体験を通じた気付きの分析
②キャリア体験から得られた教訓の整理
③キャリア体験を踏まえてこれからのキャリアについて考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は、春学期の「キャリア体験事前指導」の修得と所定のインターンシップ体験が受講の前提条件となります。
前半はキャリア体験に関する複数のテーマを設定し、グループワークを通じてコンテンツを作成し、発表して頂きます。キャリア体験の内容は、クラス全体で共有し、分析結果や得られた示唆は今後本授業を受講する後輩等にも公開します。他のグループが追加的なインタビューやアンケート調査を実施する場合に協力してください。
後半には、業界研究の一環として、ゲストの招聘（業界は仮のものです）を予定しています。ゲストのスケジュールや受講の状況に応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明（キャリア体験のコンテンツについてのディスカッション、グループの担当テーマと役割分担の決定） ②インターンシップについて特段の報告事項（トラブル、気になる点等）がある場合の個別面談
第 2 回	グループワーク～フレームワークの決定と協力依頼	①コンテンツのフレームワークの決定と進め方や他グループへの協力依頼事項の整理 ②フレームワークの発表と他グループへの協力依頼
第 3 回	キャリア体験の報告（事務職等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～事務職を中心に
第 4 回	キャリア体験の報告（営業職等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～営業職を中心に
第 5 回	キャリア体験の報告（その他職種）とグループワーク～調査の設計・実施等	①クラス全体に対する個人の報告と質疑～その他職種を中心に ②グループワークの続き
第 6 回	グループワーク～コンテンツの検討・作成	調査結果の分析とコンテンツの作成
第 7 回	グループワーク～発表	各グループのコンテンツ発表と意見交換
第 8 回	業界研究～製造業	企業の実務家の講話と質疑～製造業の現状と、自分自身のキャリア
第 9 回	業界研究のイントロダクション	①業界研究の目的、方法、スケジュール等に関する解説 ②エッセイ執筆要領の提示
第 10 回	業界研究～情報サービス業	企業の実務家の講話と質疑～情報サービス業の現状と、自分自身のキャリア
第 11 回	業界研究～卸売・小売業	企業の実務家の講話と質疑～卸売・小売業の現状と、自分自身のキャリア
第 12 回	業界研究の総括と、マッチングの現状と課題	①業界研究の振り返りと、仕事と人材のマッチングの現状と課題、ミスマッチの要因についての解説 ②エッセイ第一稿提出 ③業界研究トライアルの課題提示

第 13 回	課題発表～広告・マスコミ・情報サービス業等	①業界研究トライアルの発表～広告・マスコミ・情報サービス業等 ②エッセイ第一稿に対するフィードバック
第 14 回	課題発表～その他業界	①業界研究トライアルの発表～その他業界 ②エッセイ最終稿の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワーク（キャリア体験の振り返り、分析や教訓の整理）や業界研究トライアル等の発表準備、エッセイ執筆が必要になります。
インターンシップ終了後も、インターンシップ先とのやりとりが継続する場合もあります。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は授業支援システムにアップします。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク、ディスカッション、発表、提出物の提出状況等を含む）70 %、エッセイ 20 %、キャリア体験の実績（体験の内容、提出書類の整備・提出状況を含む）10 %の配分で評価します。
発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。

【学生の意見等からの気づき】
キャリア体験の振り返りが好評でしたので、今年度も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器。
資料は授業支援システムにアップします。また、発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】
春学期のキャリア体験事前指導を修得し、所定のインターンシップを完了したことが本授業の受講条件となります（やむを得ない事情により完了の時期が若干ずれ込む場合は個別にご相談ください）。
授業におけるグループワークや発表には、主体的、積極的に参加してください。
キャリア体験中にトラブルや先方への迷惑行為等があった場合は、極力早く個別に報告してください。相談のうえ、必要な対応を行って頂きます。
インターンシップ関連の書類一式（先方の確認印が必要なものを含む）の提出をもってインターンシップの実施を確認しますので、必ず提出してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を修得 (S～C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students to develop career. Students will review their career experience (internship) they went to during summer vacation, organize results of analysis, and learn from them. First, students will make a theme: how you should look for or choose companies accept your internship, what you learned from your failure at the internship, or thinking your future career by reviewing what you realize at the internship etc. After making a theme, students will analyze each theme at each group and share the analysis. In addition, students will study industry and business; by doing so, you can think your future career more deeply.

BSP200MA

キャリア体験学習（C コース） 展開科目

山岡　義卓

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・4** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、春学期開講の「キャリア体験事前指導（C コース）」と本科目の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

【到達目標】
本科目の目標は次のとおり。
①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
③これまでの活動を取りまとめ発表する。
④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。
なお、「キャリア体験事前指導（C コース）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。
①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「キャリア体験事前指導（C コース）」および本科目を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。
本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第 2 回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第 3 回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第 4 回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第 5 回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第 6 回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第 7 回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。
第 8 回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第 9 回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションのつくり方について説明する。
第 10 回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第 11 回	成果報告会予行演習	成果報告会に向けて予行演習を行う。
第 12 回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第 13 回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第 14 回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、成果報告書および成果発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められるということに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】
課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。

【その他の重要事項】
この科目を履修するには、「キャリア体験事前指導（Cコース）」を履修していることが条件になります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を修得 (S～C-) した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
In this course, we will conduct the project and present the results.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（国際） 展開科目

御園生　純

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア体験事前指導（国際）は、キャリア体験事前指導科目の 1 授業であり、海外で日本人を含む各国の人々のキャリアデザインを学び、その現場を実体験することによって、キャリアデザインの国際性・国際化を理解することを授業の主眼とする。
ベトナム・ホーチミン市の提携先大学（ホーチミンテクノロジー大学）の学生との「異文化相互理解」を主たるテーマとし、現地研修を行う上で必要な知識、言葉等について学び、プログラム参加の動機や希望を交流し、その意欲を高め、有意義で安全な研修の準備を行う。
異文化理解を深めるためベトナムにおける各種の事案につき共同調査研究を行い、発表する。(研究論文及びプレゼンテーション)
現地研修の具体的なテーマ：
1．ベトナムにおける学生の就活事情及び日系企業等の対応 (同一性と異質性を中心に)
2．ベトナムにおける学校外教育の現状と課題（ブローバル社会との関連において）
3．日本文化から見たベトナム文化の同一性と異質性
4．ベトナムおよび日本の教育事情の現状と課題 (同一性と異質性を中心に)
5．ベトナムおよび日本の結婚及び育児の現状と課題 (同一性と異質性を中心に)

【到達目標】
・現地での生活を通じて異文化理解・国際理解とは何か、について、自分なりの回答を見つけること。
・自分と異なるものを理解することについて文化・文化を中核に考察体験する。
・ベトナムの歴史的・国際関係や政治社会的状況の理解と基礎的ベトナム語の学習
・日本ベトナム両国の間の様々な問題や市民レベルのので交流のあり方について理解を深める。
・IT 機器の取り扱いやモバイルコンピューティングを駆使した海外での研究活動を体験する。
・本研修ではベトナム・ホーチミン市の「ホーチミンテクノロジー大学」（Ho Chi Minh City University of Technology）の日本語学科の学生と異文化理解にかかわる共同テーマを設定し、双方で意識調査・聞き取り調査などを行うことで、これからの両国の市民レベルでの国際交流のあり方を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①ベトナムと日本を取り巻く国際環境や国際交流の「光と影」に焦点を当て、それらを両国双方からの視点で分析するため、ベトナムの学生との合同調査を研修の主眼とする。
②応募書類の選考と面接により選抜を行う。
③プログラム経費、往復旅費、滞在費の約半額は、学部が補助する。
④大学が規定する海外渡航保険に入ることを義務とし、大学が規定する自己責任を明記した書類を署名・捺印したうえ提出する。
⑤学部による補助金の給付は、在籍中 1 回限りとする。
受講対象者について
① 2 年、3 年、4 年生を対象とする。
②指定された体験学習期間フルに参加でき、異文化へ理解への積極性を持った学生であり、相応の社会性があることが前提となる。とりわけフィールドワークなどでは個人的な活動となるため、集団行動よりも個人での活動が主となることを前提に自律的な資質が求められる。
③ IT 機器の活用やコミュニケーションスキルの向上に対して積極的な意思のある学生であること

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	各自自己紹介と本授業履修の動機について履修者同士のディスカッション
2	授業の説明	研修の狙いと目的について ①エクスポージャー理論を踏まえたフィールドワーク ②現地でのヒアリング
3	ベトナムの概要	ベトナムという国のイメージ・・・メディアをつうじて
4	ベトナム理解 (1)	①ベトナムの歴史とベトナム戦争 ②ベトナムと日本の関係
5	ベトナム理解 (2)～ことばと文化・ベトナム語を知る、理解する。	①ベトナムの固有文化 ②ベトナム語の特徴について

6	ベトナム理解 (3)～現代ベトナムを形作る歴史的経緯と社会・経済体制	メディアに描かれるベトナム～ベトナム戦争/ベトナムの食
7	現地協力校とのディスカッション	共同研究を行う現地の学生との顔合わせと討議
8	ベトナム語会話	現地での生活に必要なベトナム語とは
9	共同研究テーマ設定（1）	研究テーマについての決定と現地での訪問/ヒアリング先の選定
10	共同研究テーマ設定（2）	研究テーマについての決定と現地での訪問/ヒアリング先の選定
11	ベトナム戦争理解	ベトナム戦争とは？ 映像資料を通じての理解
12	日越双方での意識調査の実施（1）	意識調査の設問の作成と実施
13	日越双方での意識調査の実施（2）	意識調査の集計
14	春学期授業総括	意識調査の調査フィールドワークテーマの最終確認/ヒアリング対象の確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示した個人毎の調査や情報収集については必ず授業前におえること。ベトナム語学習については毎回の授業で実施した内容を次回までに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
自主性と主体性を重視します。

【その他の重要事項】
【重要】履修にあたっての留意事項
・団体行動ではなく、個人を主体とした研修活動に耐えうること。
・最終目的は現地での研修後秋学期に着手する報告書の策定にある。
・IT 機器・モバイルコンピューティング・ネットワーク技術に対する習得意欲があること
・最新のプレゼンテーション技術の習得に対する意欲のがあること。
・欠席しないこと
・この研修はベトナムの学生グループとの共同研究活動に主眼が置かれるため、ベトナム滞在中に自律的で主体的な行動と生活を営むことができること

【Outline and objectives】
The aims of this lecture is understand the history and current situation of career design and Intercultural understanding in Vietnam,(with students of Hochiminh Technology University),internationalization / internationalization of career design.

BSP200MA

キャリア体験学習（国際）　展開科目

御園生　純

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①現地研修で学んだことを各個人が整理しまとめ、発表する。
② 12 月に予定されている学内発表会に向けての準備
③研修報告書の作成

【到達目標】
・前期～現地での調査活動を踏まえ、現地での交流対象校であるホーチミンテクノロジー大学（HUTECH) の学生との共同研究テーマについての報告書を作成する。
・異文化理解について、ベトナムでの体験を踏まえた総括。
・異文化理解教育についての先例と理論的土壌についての学習。
・年度末の報告会に向けての準備。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期での学びと現地での体験を振り返り、その成果について各自が発表する。報告書と学内報告会にむけて、自らの体験を言語化する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	後期授業の概要と各自の作業分担について
2	ベトナム現地研修の総括（1）	現地で収集した情報の整理と分類について
3	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（1）	日本とベトナムの間における様々な社会問題の整理
4	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（2）	各グループが現地での調査やヒアリングを通じて収集した情報を整理する。
5	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（3）	ベトナムで体験した異文化体験についての整理と日越双方での比較検証を行う①
6	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（4）	ベトナムで体験した異文化体験についての整理と日越双方での比較検証を行う②
7	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（5）	報告書の章立てと全体構成の骨子を検討する
8	レポート作成（1）	各ワークグループ毎に考えた全体構成案について発表～意見交換をする
9	レポート作成（2）	各グループ毎のレポート概要のプレゼンテーション
10	レポート作成（3）	各グループの執筆原稿をまとめ、最終報告書を完成させる
11	学内発表の準備（1）	発表の骨子と構成の検討
12	学内発表の準備（2）	期末の最終発表会で利用するポスターセッション用の掲示物の内容について検討～決定する
13	学内発表の準備（3）	発表の練習とポスターセッションに向けての準備
14	学内発表の準備（4）	聴衆に何を訴えるのか、またベトナムと日本・両国の交流の「光と影」についてのように紹介するのか、の検討と精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特にありません。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の自主性を求める

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC　プレゼンテーションソフト、デジタルカメラ、情報端末

【その他の重要事項】
この科目は外国でキャリア体験学習を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【履修条件】
本科目は「キャリア体験事前指導（国際）」を習得（S+～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
① Each individual organizes, summarizes, and presents what learned in Vietnam.
② Preparation for the on-campus poster session.
③ Preparation of training report

BSP200MA

キャリア体験事前指導（国際） 展開科目

松尾　知明、郭　艶娜、笹川　孝一

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・2** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野に立ったキャリアデザインについて検討することを目的としている。本年度については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③多文化社会で生きることについて考える、④台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤状況がゆるすようになれば、日本国内の台湾関係の施設や機関、企業での学習活動などを計画する。

【到達目標】
①台湾の歴史や社会、人々についての基本的な知識をもつことができる。②交流で必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④台湾を事例に、国際的なキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①対面の授業が実施できるようになるまでは、学習支援システムや Zoom などを使って進める。②教科書や調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤状況がゆるすようになれば日本国内の台湾関係の施設や機関、企業での学習活動など行う。⑥春学期と秋学期で学習した成果物をもとに報告書づくりを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介 概要説明
第 2 回	台湾事情①台湾を知ろう 現地で必要な中国語学習①	台湾といえば 中国語を学ぶ
第 3 回	台湾事情②台湾の地理 現地で必要な中国語学習②	台湾を旅行するとしたら 中国語を学ぶ
第 4 回	台湾事情③台湾の歴史 現地で必要な中国語学習③	台湾史の概要とは 中国語を学ぶ
第 5 回	台湾事情④台湾の文化 現地で必要な中国語学習④	台湾の映画をみてみよう 中国語を学ぶ
第 6 回	台湾事情⑤ 台湾の社会 現地で必要な中国語学習⑤	台湾に留学するとしたら 中国語を学ぶ
第 7 回	台湾事情⑥ 対外関係 現地で必要な中国語学習⑥	台湾とは 中国語を学ぶ
第 8 回	台湾事情⑦ 台湾人のアイデンティティ 現地で必要な中国語学習⑦	台湾人とは 中国語を学ぶ
第 9 回	台湾事情⑧ 台湾の政治・経済 現地で必要な中国語学習⑧	台湾にワーキングホリデーで行くとしたら 中国語を学ぶ
第 10 回	台湾事情⑨ 日本と台湾 現地で必要な中国語学習⑨	台湾で働くとしたら 中国語を学ぶ
第 11 回	台湾事情⑩ 台湾移住・生活 現地で必要な中国語学習⑩	台湾に移住するとしたら 中国語を学ぶ
第 12 回	まとめ 現地で必要な中国語学習⑪	前期のまとめを行う 中国語を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストの精読　・必要な資料収集　・本授業の準備学習　・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子、若松 大祐『台湾を知るための 60 章』明石書店

【参考書】
野島　剛　『台湾とは何か』 (ちくま新書)

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30 %）、課題の遂行（70 %）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
話し合いの仕方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、Office

【その他の重要事項】
・対象者は、2〜4 年生。
・この授業の受講希望者は、3 月末のガイダンスに参加し、学部窓口に参加希望を申請するものとする。
・参加者は、面接を経て決める。
・授業は、松尾知明、笹川孝一、郭艶娜の 3 名が等分して行う。
・授業に際しては、夏の研修に参加するという前提で、研修に関する自分自身とチームの課題にしっかり取り組むようにする。

【Outline and objectives】
This class aims to prepare for a Taiwan experience study by exploring its history and culture, learning Chinese language and planning a Taiwan visit during a summer session. The major themes of the Taiwan study are getting to know Taiwan, experiencing internships at Taiwan companies, and meeting and interacting with Taiwanese Hosei graduates and Taiwanese college students.

BSP200MA

キャリア体験学習（国際）　展開科目

松尾　知明、郭　艶娜、笹川　孝一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①現地研修を踏まえて、一人一人が、個人として、またチームとして、台湾で学んだことを整理する。
②台湾の学生との協力の可能性を検討する。
③「キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムについての、学生自身による評価を行い、翌年のプログラムへの改善案を提案する。
④以上をまとめたポスターと報告書を作成する。
⑤そして、年度末の学内発表を準備する。

【到達目標】
①事前指導と現地研修を踏まえて、一人一人が体験を整理する。
②参加者全体として学んだことを整理する。
③台湾の学生との協力の可能性について、可能性を整理する。
④「キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムについての、学生自身による評価を行い、翌年のプログラムへの改善案を提案する。
⑤以上を内容とする、ポスターと報告書を作成する。
⑥年度末の報告会に向けての準備を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現地研修を踏まえて、学生の体験を生かした振り返りを行い、ポスターと報告書作りに向かって、学生と協議しながら勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現地研修の振り返りと授業の進め方	台湾研修を振り返るとともに、後期の授業の見通しをもつ
第 2 回	現地研修の振り返りとポスター・報告書づくりの計画①	台湾体験を振り返るとともに、ポスター・報告書制作の計画を立てる
第 3 回	現地研修の振り返りとポスター・報告書づくりの計画②	台湾体験を振り返るとともに、ポスター・報告書制作の工程表を作成する
第 4 回	現地研修の振り返り	昨年度の台湾研修者に台湾での体験を報告する。
第 5 回	ポスター・報告書づくり①	ポスター・報告書のイメージ、構成、レイアウト等を作る。
第 6 回	ポスター・報告書づくり②	ポスター・報告書の骨格を決定する。
第 7 回	ポスター・報告書づくり③	ポスター・報告書の原稿を執筆する。
第 8 回	ポスター・報告書づくり④	ポスター・報告書の原稿を執筆する（続き）
第 9 回	ポスター・報告書づくり⑤	報告書の編集作業を行う。
第 10 回	ポスター・報告書づくり⑥	印刷して校正をする。
第 11 回	ポスター・報告書づくり⑦	ポスター・報告書を印刷して完成させる。
第 12 回	ポスター・報告書の合評会①	完成したポスター・報告書を味わい、研修を振り返る。
第 13 回	ポスター・報告書の合評会②	昨年度の台湾研修者に報告する。
第 14 回	プログラム全体の振り返りを行う	春学期、夏季研修、秋学期の全体を通してのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・現地で入手した資料の整理と読み込み。　・必要な参考文献の読み込み。　・現地へのお礼の手紙を書く。　・ポスター・報告書の原稿執筆、編集作業。　・ポスター発表会への参加。　・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
赤松 美和子, 若松 大祐『台湾を知るための 60 章』明石書店

【参考書】
野嶋　剛『台湾とは何か』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30 %）、台湾研修のレポートと発表（40 %）、ポスター・報告書づくり（30 %）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生がこのプログラムの成果をまとめて報告書を作成しているので、報告書に記載された学生からの声を取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、office

【その他の重要事項】
・春学期に引き続き、授業は、松尾知明、笹川孝一、郭艶娜の 3 名が等分に担当する。
・夏の研修体験を振り返って、新しい発見、喜び、楽しさ、驚き、困難などを、一人一人の中で、またチームとして整理してください。
・体験学習で得られた知識や技、知恵を自分自身の中に、法政大学キャリアデザイン学部の学生チームとして定着、蓄積させるとともに、他の人たちにも伝えていくこと。

【Outline and objectives】
This class aims to reflect a Taiwan experience study which has explored its history and culture, experienced internships at Taiwan companies, and met and interacted with Taiwanese Hosei graduates and Taiwanese college students. By designing a poster and writing a report as a team, the Taiwan visit during the summer session is examined, recorded and presented.

BSP200MA

メディアリテラシー実習 I　　展開科目

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★新型コロナ対応のため、授業の詳細は授業の中で伝えます。
メディア・リテラシーのコア・コンセプトと映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディア・リテラシーの基本原理を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディア・リテラシーの基礎を実践的に身につける。

【到達目標】
・受講生はメディア・リテラシーの概念を理解し、メディア・リテラシーの概念を説明できる。
・メディア・リテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
・基本的な映像制作能力を身につけ、メディア・リテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
メディア・リテラシーの基礎概念（コア・コンセプト）を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディア・リテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および HOPS の使い方
2	メディア・リテラシーの基本	メディア・リテラシーの基礎概念を学ぶ
3	写真を考える	プロのカメラマンの撮影した写真を用いて、写真の技法を学ぶ
4	課題①発表会〜自己紹介を兼ねて	課題の発表と写真を用いた自己紹介を行う
5	映像のジャンル〜映像分析の方法	映像のジャンルと分析の方法を学ぶ
6	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
7	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ
8	課題②デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
9	現代社会の映像	広告や PV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ
10	広告映像とメディア・メッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
11	広告映像と表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
12	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
13	公共広告の政策	コンピュータを用いて公共広告を制作する
14	課題③公共広告発表会	課題の公共広告の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作と HOPS および OATube による情報共有を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業で用意する資料を教科書として用いる。

【参考書】
『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014 年

【成績評価の方法と基準】
★新型コロナ対応のため、評価方法の詳細は授業の中で伝えます。
小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディア・リテラシーの 5 つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる

映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
映像制作における著作権の重要性をしっかり教える

【学生が準備すべき機器他】
CALS（キャリア・アクティブ・ラーニングスタジオ）と備え付けのパソコンを使用する。また、映像制作実習用にスマートフォンとスマートフォン用のマイクを使用する。必要に応じて教材作成スタジオ（富士見坂校舎）も使用する。また、授業では、情報共有や課題提出のために、HOPS および OATube を使用する。

【その他の重要事項】
本授業は本学情報メディア教育研究センターの支援を受けて、HOPS と OATube を使用し、学習歴及び作成した作品を掲載する。

【他の授業との関連】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、「坂本ゼミ（演習）」履修希望者は本授業を 2・3 年次に履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
To study the core concepts of media literacy
To explore how the media construct their messages
To learn how to make a Public Service Announcement

BSP200MA

メディアリテラシー実習Ⅱ　展開科目

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、メディア・リテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、キャリアヒストリーをテーマにしたショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】
・メディア・リテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
・メディア・リテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像製作を行い、基本的な映像製作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディア・リテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。また、授業時間以外での学習活動も多いので、その点も理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の学び方や施設、スケジュールの解説。
2	ドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
3	ドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
4	テーマの設定と企画、絵コンテ	受講生ひとりずつがテーマについて考え、企画書の作成や絵コンテの描き方を学ぶ。
5	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
6	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
7	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
8	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
9	編集の仕方 (1) キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
10	編集の仕方 (2) 編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
11	編集の仕方 (3) 音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
12	編集の仕方 (4) 仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
13	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
14	発表会	制作映像の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014 年

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %
授業評価基準（ルーブリック）
・基本
積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する
・発展
メディア・リテラシーの 5 つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人でできる
他者に適切なアドバイスや支援ができる

授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】
映像編集の方法をより実践的に教えたい。

【学生が準備すべき機器他】
CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）備え付けのパソコンおよび情報ルームのビデオカメラ、スマートフォンを使用する。スマートフォンを使う場合は必ずスマートフォン用の外付けのマイクを自分で用意しておくこと。映像編集ソフトは iMovie または Final Cut Pro を標準とする。また、必要に応じて、インタビュー収録用に教材作成スタジオ（富士見坂校舎）を使用する。

【その他の重要事項】
「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】
本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary
To study how to make and evaluate the documentary

BSP200MA

地域学習支援Ⅰ

展開科目

寺崎　里水

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は体験型選択必修科目として「地域学習支援Ⅱ（生涯学習コーディネーター論）」とあわせて履修する。「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」ではグローバル化、少子・高齢社会化のもとで、住民が自主的な問題解決能力を高め、地域づくりに参加するうえで求められる学習支援のあり方、コーデイネーターの役割、ネットワークの形成について学び、実習の準備をおこなうことをねらいとする。

【到達目標】
地域において学習支援が求められる事情、具体的な支援の方法、支援者に求められる専門性について理解する。また、実習にむけて実習先の現状、活動内容など具体的な事情を理解し、個々人の課題意識を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
地域社会において学習支援の専門性が求められる活動分野は、コミュニティビジネス、NPO・ボランティア団体の発展とともに広がりをみせている。地域課題の解決にむけた地域づくり学習、若者自立支援、外国人との多文化共生教育、文化施設が核となったまちづくり、コミュニティ・メデイアの活用などについて学び、コーデイネーターの役割や専門性について認識を深める。具体的には、学習支援システムを用いて、オンデマンド型の授業を進めます。前半は、各自で文献の講読を中心に、地域社会の現状について理解を深め、後半は、授業内掲示板などを活用し、グループディスカッションを取り入れながら、地域学習支援Ⅱに向けて学習課題を明確にします。
初回授業は４月２２日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体験型選択必修科目としての「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」の内容と履修方法、評価についての説明
2	地域学習支援が求められる背景①コミュニティと学習	公共機関、NPO など加え、地場産業、国際機関などにおいてもコミュニティづくりと学習の必要性が高まっていることを理解する。
3	地域学習支援が求められる背景②支援	日本の政策などを踏まえながら、地域における学習を支援するニーズが高まっていることを理解する。
4	地域学習支援とはどのような仕事か	地域学習を支援するコーディネーターの役割、専門性について理解する。
5	実習指導教員との懇談	実習先の選定・プログラムについて実習指導教員と面談し、実習課題を導出する。
6	生涯学習コーディネーターの役割・地域文化の振興と文化施設	コミュニティの活性化にむけたネットワークづくりとコーデイネーターの役割、地域の振興における文化施設の役割について考える。
7	共生のまちづくりと多文化教育、若者の自立支援、コミュニティ・メデイアの活用	多文化理解、多文化教育の実態と課題を考える。また、学校から仕事への移行の支援や自立支援の活動の実態と課題を考える。さらに、自治体や自治会の広報、コミュニティメディアの多彩な方法と活用について考える。
8	グループの形成と課題の設定	学習してきたことについてレポートを提出し、自らの問題意識を深める。
9	質問する・観察する・記録する・まとめる技術	大学での学びと体験とを結びつける方法について学ぶ。質問したり観察したりしたことを利用可能な資源・データとして記録し、まとめる技術を学ぶ。
10	グループ別事例研究①	実習先に関連する社会的背景、政策、組織の概要など、基礎的な知識について調べる。
11	グループ別事例研究②	実習先に関連する基礎的な知識をもとに、自分たちの実習課題を明確にする。
12	グループ発表①	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（地域おこし、コミュニティメディア）

13	グループ発表②	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（若者自立支援、異文化交流、地域文化）
14	まとめと振り返り	全体の振り返りとまとめを行い、地域学習支援Ⅱへの意識を高める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域生涯学習支援のテーマに基づいてデータを収集し、グループでの発表準備をおこなう。分野を選択し、文献やデータを収集し、レポートにまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない

【参考書】
佐藤一子、2015、「序章　地域学習の思想と方法」佐藤一子編『地域学習の創造』東京大学出版会、pp.1-23
増田寛也・人口減少問題研究会、2013、「2040 年、地方消滅。「極点社会」が到来する」中央公論、2013 年 12 月号、pp.18-31
山浦晴男、2015、「第一章　分析」『地域再生入門』ちくま新書、pp.13-44
清水睦美、2006、「ニューカマーの子どもの青年期」『教育學研究』 73(4)、pp.457-269
坂本旬、2009、「メディア・リテラシー教育とドキュメンタリー制作」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』6、pp.121-138
樋田有一郎・寺崎里水、2018、「第 13 章　地域と学校の連携」植上一希・寺崎里水編『わかる・役立つ教育学入門』大月書店、pp.147-158

【成績評価の方法と基準】
個人レポート 50 %、授業内掲示板の内容 30 %、最終グループレポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】
学生はコミュニティとの接点をもつことが少ないので、ボランティア活動の体験や出身地・母校での子どもたちの支援など、意識的に関わることが必要である。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットが利用できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいため、推奨しません）。

【その他の重要事項】
学部認定資格「地域学習支援士」の必修科目に位置付けられています。
今年は社会状況に鑑み、予定した実習とは異なる形になる可能性があります。

【Outline and objectives】
In this class, students learn how to support learning-groups, the way of networking, and the role of coordinator.

BSP200MA

地域学習支援Ⅱ

展開科目

寺崎　里水、田澤　実、金山　喜昭、児美川　孝一郎、坂本　旬、笹川　孝一、熊谷　智博、荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」で学んだことを土台としつつ、分野の選択に応じて地域づくり、多文化教育、若者自立支援、地域文化振興、コミュニティとメディアに関する実践的展開の場で実習をおこない、地域学習支援の意義・方法、コーディネーターに求められる能力、専門性について実践的に学ぶ。

【到達目標】
計画した実習プログラムに沿って実習をおこない、現場における学習支援の体験を通じて求められる専門性、プログラム作成やコーデイネート能力について習熟する。また実習の終了後、実践を振り返り、自分の役割やコミュニケーション能力の適切性、足りない点などを確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実習は地域の文化施設や学習組織、ＮＰＯなどへの訪問、行事・イベント等のサポート、遠隔地における滞在型実習、個々の学習者の支援、フィールド調査など、実習指導教員と現場職員・スタッフの協力によってプログラム作成がなされる。実習参加を通じて地域学習の現場で求められる支援のあり方を体験し、振り返りを通じて専門性について考察をおこなう。担当教員全員が等分に分担して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実習オリエンテーション	実習先や実習期間、実習の目的等について理解・確認する。（寺崎・金山）
2	実習先に関する事前学習①計画をたてる	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。（笹川・児美川）
3	実習先に関する事前学習②実習課題を明確にする	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。（田澤・熊谷）
4	実習先に関する事前学習③情報収集を行う	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。（坂本・荒川）
5	実習：地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。（笹川・寺崎）
6	実習：青年自立支援	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。（児美川・田澤）
7	実習：多文化理解、コミュニティ・メディア	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する（熊谷、坂本）。
8	実習：地域文化	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する（荒川・金山）。
9	実習のまとめと報告①地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。（寺崎、笹川）
10	実習のまとめと報告②青年自立支援	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。（児美川、田澤）
11	実習のまとめと報告③地域文化	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。（荒川、金山）
12	実習のまとめと報告④多文化理解、コミュニティ・メディア	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。（熊谷、坂本）
13	成果報告レポートの執筆	実習の成果について各自で課題を決定し、レポートを作成する。（寺崎、笹川、児美川、田澤）
14	全体の振り返り	地域学習支援の意義や課題、今後の学習課題などについてディスカッションを行う。（荒川、金山、熊谷、坂本）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習プログラムの作成、実習期間中の体験記録の作成、実習後の報告書作成など、授業時間外に多くの作業を行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
実習先の領域に即して適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習中の体験記録作成　50 %
実習後の報告作成　50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや授業のレポート内容などの情報を総合的に集約し、担当教員間で進行などを話し合う予定である。

【その他の重要事項】
本科目は「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」の単位を習得した場合のみ履修可能です。
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
Students go to practical training based on the studies in the spring semester. In the class, students are going to review their practical trainings and to prepare for the reports of the achievement.

BSP200MA

多文化教育Ⅰ

展開科目

村田　晶子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では在留外国人の多様性、そして彼らを取り巻く様々な課題を理解し、自分たちに何ができるのかを考えます。そして秋学期（多文化教育 II）の実習に向けて多様な文化的な背景を持つ者同士が学び合い、協働するための姿勢を養います。多文化教育Ⅰと II を受講することで、学生は国際交流の楽しさを知り、また、多様な人々と学びあうことで自分も成長することを実感できるでしょう。
本科目は講義、クラスディスカッション、グループでの事例発表から構成されます。

【到達目標】
本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。
・グローバル化が進む社会における国際交流、多文化共生の現状、課題を理解する。
・国際交流、支援活動の意義を理解し、自分たちも実践することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・本授業は 5 月 7 日（木）に開始します。Hoppi に仮登録をしたら、そこに記載されている Google Classroom の情報を見て、Google Classroom に登録をしてください。本授業の連絡、課題の提出はすべて Google Classroom を使いますので、必ず登録してください（履修の必須条件）。
・授業では ZOOM で指示を出して、ディスカッションを行います（ZOOM の情報は Google Classroom の中に記載されていますので、授業の５分前までに ZOOM にアクセスしてください）。
・授業では履修学生をグループに分け、課題を提示し、グループ内でディスカッションを行います。
・毎回、授業時間に課題が出ますので、それを制限時間内に行い、提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 (5/7)	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第 2 回 (5/14)	概説１	あなたは、いわゆる「グローバル人材」か？
第 3 回 (5/21)	概説２	外国人労働者とは誰を指すのか
第 4 回 (5/28)	概説３	「やさしい日本語」は必要か
第 5 回 (6/4)	概説４	多言語表示・言語景観を考える
第 6 回 (6/11)	概説５	ステレオタイプについて考える
第 7 回 (6/18)	概説６	ヘイトスピーチについて考える
第 8 回 (6/25)	概説７	多文化調査：ミニプロジェクトのトピックを選ぶ
第 9 回 (6/2)	グループでのプロジェクト (1)	グループに分かれてディスカッション、発表をする。
第 10 回 (6/9)	グループでのプロジェクト (2)	グループに分かれてディスカッション、発表をする。
第 11 回 (6/16)	グループでのプロジェクト (3)	グループに分かれてディスカッション、発表をする。
第 12 回 (6/16)	レポート提出	1 学期間の学習成果を振り返ってレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミニプロジェクトのテーマがなかなか決まらない学生がいたので、次回はテーマ選びにもう少し時間をかけたい。

【テキスト（教科書）】
村田晶子（編著）(2018)『大学における多文化体験学習・多文化共修への挑戦』ナカニシヤ出版

【参考書】
村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）(2019)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度

・課題
・小テスト
・最終発表
・最終レポート

【学生の意見等からの気づき】
課題は Google Classroom から提出するように指示しているが、最初は慣れないためとまどう学生がいた。次回は使い方が分からない学生がいないかどうか、１，２週目に確認したい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業は ZOOM と Google Classroom を使います。
・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。
① https://classroom.google.com を開く
②法政大学のメールアドレスを入れる
③このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する
（授業コードは Hoppi にも書いてあります）

【その他の重要事項】
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。１回目、2 回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育Ⅱ」をペアで履修することが単位取得の条件となります。
・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】
毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには体験型選択必修科目の選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】
This course discusses topics regarding multicultural education in Japan to facilitate students' understanding of the significance of cultural diversity, mutual understanding, and initiatives to facilitate cultural-exchange activities.

BSP200MA

多文化教育Ⅱ

展開科目

村田　晶子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は春学期に学んだことを踏まえて、学内や学外の国際交流や支援活動にボランティアとして参加し、その実践を振り返ります。そして文化の多様性を社会の豊かさにつなげる「多文化共生」の在り方を考えます。

【到達目標】
本科目を通じて学生は多文化共生社会に貢献するために何が必要なのか考えを深め、今後の生活、勉学、将来に向けて、自分のボランティア経験をどのように生かすことができるのか、体験的な学びを言語化し、発信、共有することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では履修学生が中心の参加体験型の学習形態を取ります。授業は以下の流れで進めます。
1. 春学期の復習と補足
2. 国際交流や外国人支援のボランティア活動を行い、その体験を振り返る。
3. 体験学習を通じた学びをクラスで共有し、今後の目標設定をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第 2 回	概説	国際交流ボランティアとサービスラーニングの意義
第 3 回	交流活動計画	国際交流ボランティアの活動計画の作成
第 4 回	チュートリアル１	小グループに分かれてボランティア活動の振り返りと目標設定を行う（フォーカス：日本語ボランティア）
第 5 回	チュートリアル２	小グループに分かれてボランティア活動の振り返りと目標設定を行う（フォーカス：交流ラウンジ）
第 6 回	チュートリアル３	小グループに分かれてボランティア活動の振り返りと目標設定を行う（フォーカス： COIL）
第 7 回	チュートリアル４	小グループに分かれてボランティア活動の中間振り返りを行う（フォーカス：日本語ボランティア）
第 8 回	チュートリアル５	小グループに分かれてボランティア活動の中間振り返りを行う（フォーカス：交流ラウンジ）
第 9 回	チュートリアル６	小グループに分かれてボランティア活動の中間振り返りを行う（フォーカス： COIL）
第 10 回	チュートリアル７	小グループに分かれてボランティア活動の振り返りを行い、成果をまとめる
第 11 回	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて成果発表会の準備を行う
第 12 回	成果発表１	グループの活動報告
第 13 回	成果発表２	グループの活動報告
第 14 回	課外活動報告	各自が課外活動報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）(2019)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版
大学生協の教科書サイト： https://kyoukasho.univ.coop/321301/html/

【参考書】
村田晶子（編著）(2018)『大学における多文化体験学習・多文化共修への挑戦』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
・積極的な授業の参加度 25%
・課題　25%
・最終発表　25%
・最終レポート 25%

【学生の意見等からの気づき】
課題は Google Classroom から提出するように指示しているが、使い方に慣れるまで少し時間がかかる学生が若干名いた。次回は使い方が分からない学生がいたら、最初のうちにもう少しケアしたい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の連絡、宿題の提出は法政大学用の Google Classroom を用いるため、履修者は必ず Google Classroom に第２週目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。
・授業の出席のチェックや課題提出に Google Classroom を用いるため、授業には毎回携帯端末か PC を持参すること。

【その他の重要事項】
・第１回のオリエンテーション、第２回のグループ分けに必ず参加すること。１回目、2 回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。
・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、春学期「多文化教育Ⅰ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。選択必修科目として履修する者を優先し、人数が多い場合は履修理由希望書によって選抜します。

【その他】
毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「多文化教育Ⅰ」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】
This course aims to discuss the importance of multicultural learning through participants' projects chosen from the topics covered in the spring semester.

EDU200MA
【2014 年度以降入学者用】教育マネジメントⅠ 展開科目
EDU200MA
【2013 年度以前入学者用】教育マネジメントⅠ 展開科目

梅澤　希恵

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・2** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の大きな目的は、母校を素材にテーマ研究をすることです。そのために，自らの学びの履歴（キャリア）をふり返り，受講者同士で学びのキャリアを交流します。この活動を通し，これまでの人生で大きな比重を占める、学びのキャリア形成を見つめ直す機会としてください。また，授業の中では，講義形式などの形で教育に関する知識や情報を提供します。ただ知識や情報を受け取るだけでなく，自らの体験と組み合わせることが求められます。

【到達目標】
この授業では、将来の社会人・職業人に必要な” 情報編集力” の育成をめざします。情報編集力とは、自らが収集し体験したりするなかで得た情報を組み合わせ、意味づけしながら作品化（文章化）し、他者に向けて発信する能力です。
初中等学校で実践されているプロジェクト学習などで培う力ですが、大学生にとっても「社会人基礎力」などといわれて重要になってきています。なお、講義形式などの形で提供される知識や情報を理解する情報処理力は、情報編集力の土台となるものであり、これを重視するのは言うまでもありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、「母校研究」の助走・途中経過・まとめを節目に設定しながら、講義による知識や情報の提供を行ないます。個人の研究やスキル獲得は、グループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する予定です。本授業の開始日は４月２８日（火）とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスを受ける	授業の進め方、情報の処理力と編集力
第 2 回	「母校研究」の助走をする：テーマを立ててみる①	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 3 回	「母校研究」の助走をする：テーマを立ててみる②	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 4 回	「母校研究」の助走をする：テーマを立ててみる③	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 5 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る：講義 1	PISA 調査の結果からデータの読み取り
第 6 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る：講義 2	TALIS 調査の結果からデータの読み取り

第 7 回	「母校研究」の経過を発表する	各自のテーマをプレゼンテーション
第 8 回	学級運営から先生のリアルを知る：講義３	生徒との信頼関係づくり、授業を成立させる取組み
第 9 回	学校・学級規模を考える：講義４	学校と学級の規模、配置とデザイン
第 10 回	特別なニーズ教育を知る：講義５	特別支援学級，通級指導教室，合理的配慮
第 11 回	いじめ問題を考える：講義６	いじめ防止対策推進法，いじめの認知件数
第 12 回	子どもの貧困を考える：講義７	就学支援，教育費
第 13 回	「母校研究」の報告会①	プレゼンテーションと全体振り返り
第 14 回	「母校研究」の報告会②	プレゼンテーションと全体振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「母校研究（調べ学習）」の準備と実施が求められます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントや資料を，適宜配布します。

【参考書】
川喜田二郎『発想法』中公新書
福澤一吉『議論のレッスン』生活人新書（NHK 出版）
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
各授業におけるリアクション・ペーパー（10 %），「母校研究」の企画書とプレゼンテーション（40 %），「母校研究」レポート提出（50 %）
※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、上記の成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
母校研究発表の際の資料は，紙で配付するのではなく，PDF にしたものを授業支援システムへアップすることにします。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
2017 年度以前の入学者は教職課程の教職専門科目に充当できます（「教育の制度・経営」「教育マネジメントⅠ」「教育マネジメントⅡ」から 2 単位以上の選択必修）。詳細は教職課程履修要綱で確認のこと。

【Outline and objectives】
The main objective of this course is to study alma maters of students and render them decide the theme related. Students look back their learning career and share it with other students. This course also provide students with knowledge of Japanese education.

EDU200MA
【2013 年度以前入学者用】教育マネジメントⅠ 展開科目

EDU200MA
【2014 年度以降入学者用】教育マネジメントⅠ 展開科目

梅澤　希恵

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・2** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の大きな目的は、母校を素材にテーマ研究をすることです。そのために，自らの学びの履歴（キャリア）をふり返り，受講者同士で学びのキャリアを交流します。この活動を通し，これまでの人生で大きな比重を占める、学びのキャリア形成を見つめ直す機会としてください。また，授業の中では，講義形式などの形で教育に関する知識や情報を提供します。ただ知識や情報を受け取るだけでなく，自らの体験と組み合わせることが求められます。

【到達目標】
この授業では、将来の社会人・職業人に必要な” 情報編集力” の育成をめざします。情報編集力とは、自らが収集し体験したりするなかで得た情報を組み合わせ、意味づけしながら作品化（文章化）し、他者に向けて発信する能力です。
初中等学校で実践されているプロジェクト学習などで培う力ですが、大学生にとっても「社会人基礎力」などといわれて重要になってきています。なお、講義形式などの形で提供される知識や情報を理解する情報処理力は、情報編集力の土台となるものであり、これを重視するのは言うまでもありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、「母校研究」の助走・途中経過・まとめを節目に設定しながら、講義による知識や情報の提供を行ないます。個人の研究やスキル獲得は、グループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。
※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する予定です。本授業の開始日は４月２８日（火）とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスを受ける	授業の進め方、情報の処理力と編集力
第 2 回	「母校研究」の助走をする：テーマを立ててみる①	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 3 回	「母校研究」の助走をする：テーマを立ててみる②	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 4 回	「母校研究」の助走をする：テーマを立ててみる③	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 5 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る：講義１	PISA 調査の結果からデータの読み取り
第 6 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る：講義２	TALIS 調査の結果からデータの読み取り

第 7 回	「母校研究」の経過を発表する	各自のテーマをプレゼンテーション
第 8 回	学級運営から先生のリアルを知る：講義３	生徒との信頼関係づくり、授業を成立させる取組み
第 9 回	学校・学級規模を考える：講義４	学校と学級の規模、配置とデザイン
第 10 回	特別なニーズ教育を知る：講義５	特別支援学級，通級指導教室，合理的配慮
第 11 回	いじめ問題を考える：講義６	いじめ防止対策推進法，いじめの認知件数
第 12 回	子どもの貧困を考える：講義７	就学支援，教育費
第 13 回	「母校研究」の報告会①	プレゼンテーションと全体振り返り
第 14 回	「母校研究」の報告会②	プレゼンテーションと全体振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「母校研究（調べ学習）」の準備と実施が求められます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントや資料を，適宜配布します。

【参考書】
川喜田二郎『発想法』中公新書
福澤一吉『議論のレッスン』生活人新書（NHK 出版）
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
各授業におけるリアクション・ペーパー（10 %），「母校研究」の企画書とプレゼンテーション（40 %），「母校研究」レポート提出（50 %）
※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、上記の成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
母校研究発表の際の資料は，紙で配付するのではなく，PDF にしたものを授業支援システムへアップすることにします。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
2017 年度以前の入学者は教職課程の教職専門科目に充当できます（「教育の制度・経営」「教育マネジメントⅠ」「教育マネジメントⅡ」から 2 単位以上の選択必修）。詳細は教職課程履修要綱で確認のこと。

【Outline and objectives】
The main objective of this course is to study alma maters of students and render them decide the theme related. Students look back their learning career and share it with other students. This course also provide students with knowledge of Japanese education.

MAN200MA
【2014 年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ　展開科目

MAN200MA
【2013 年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ　展開科目

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。
大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】
①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。
ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ１
第 4 回	ワークショップ１− １	グループでのディスカッションで個人のアイディアを共有する
第 5 回	ワークショップ１− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ２
第 8 回	ワークショップ２− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ２− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ３
第 12 回	ワークショップ３− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ３− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】
グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.
For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA
【2013 年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論 I　展開科目
MAN200MA
【2014 年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論 I　展開科目

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。
大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】
①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。
ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1－ 1	グループでのディスカッションで個人のアイディアを共有する
第 5 回	ワークショップ 1－ 2	グループでのディスカッションで個人のアイディアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2－ 1	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ 2－ 2	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3－ 1	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ 3－ 2	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】
グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.
For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA
【2014 年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ　展開科目

MAN200MA
【2013 年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ　展開科目

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。
　具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】
①新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
②事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
③自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業をした社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイディア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ１
第 4 回	ワークショップ１− １	グループでのディスカッションで個人のアイディアを共有する
第 5 回	ワークショップ１− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ２
第 8 回	ワークショップ２− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ２− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ３
第 12 回	ワークショップ３− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ３− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】
グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
In this class, practical classes will be conducted with the aim of training entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurs who are responsible for launching new businesses in large companies). This class will help students acquire the skills required as an entrepreneur and enhance the behavioral and cognitive skills necessary for new business creation and venture management through practical group work.
Students acquire the skills necessary by understanding the framework for creating new businesses, formulating business models, creating business plans, and making presentations as a group.

MAN200MA
【2013 年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ　展開科目

MAN200MA
【2014 年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ　展開科目

松本　真尚、田口　香織、市川　大樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナー (大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者) の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。
　具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】
①新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
②事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
③自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業をした社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイディア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ１
第 4 回	ワークショップ１− １	グループでのディスカッションで個人のアイディアを共有する
第 5 回	ワークショップ１− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ２
第 8 回	ワークショップ２− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ２− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ３
第 12 回	ワークショップ３− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ３− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイディア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】
グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。
起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】
In this class, practical classes will be conducted with the aim of training entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurs who are responsible for launching new businesses in large companies). This class will help students acquire the skills required as an entrepreneur and enhance the behavioral and cognitive skills necessary for new business creation and venture management through practical group work.
Students acquire the skills necessary by understanding the framework for creating new businesses, formulating business models, creating business plans, and making presentations as a group.

EDU200MA

キャリア研究調査実習 A（子ども・家庭生活研究）

展開科目

岩﨑　香織

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・2** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、「子ども」や「家庭生活」をテーマとした社会調査（量的調査）を実施する具体的な方法を学ぶことにある。子どもの発達段階や家庭生活という私的領域について調査する難しさを理解し、先行研究をふまえた研究計画を立て、各自の調査テーマ・仮説に応じた質問紙や調査依頼状の作成を行う。

【到達目標】
子どもの発達段階や多様な家庭生活の状況に配慮した社会調査（量的調査）の方法や一連のプロセスについて学び、自ら調査を計画・実施できる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義形式で進める。テキストは特に使用しない。また、本科目の研究関心である子どもの発達や家庭生活の現状を理解するため、部分的に映像学習を取り入れ、ディスカッション等を行う。本授業では、履修者個々の研究関心に基づき、質問紙調査票を作成することを課題とし、作成過程において、各自の進行状況・成果を発表する機会を設ける。履修者の研究関心が類似する場合には、小グループでの活動を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画について説明し、社会調査法の種類や研究テーマの設定方法、調査を進める上で重要となる研究倫理について確認する。
第 2 回	子どもの発達段階と調査方法	子どもの発達段階別に実施可能な調査方法が異なることを理解し、調査を進める上で配慮すべき事項について具体的に考える。
第 3 回	家庭生活・家族を調査する方法	多様な家族形態が存在する現在、「家族」を調査することは困難であり、調査者の価値観が、調査結果を左右することもある。家族社会学を基礎とした家族をとらえる視点や基礎概念、理論、研究上の留意点等について学ぶ。
第 4 回	育てられる者から育てる者へ	先行研究の学習①として、日本の結婚・出産の現状について、国内の主要な統計調査を基に理解する。
第 5 回	乳幼児と家庭生活	先行研究の学習②として、乳幼児期の子どもの発達に与える家庭生活の影響について、国内外の研究動向を知る。
第 6 回	学齢期の子どもと家庭生活	先行研究の学習③として、学齢期（小・中・高等学校）の子どもの家庭生活の現状を知る。
第 7 回	調査テーマと調査対象の決定	各自の研究関心に基づき、調査テーマと調査対象を決定し、発表すると共に今後の研究計画について具体的に考える。
第 8 回	先行研究と関連する制度の学習	各自の研究テーマに関連のある先行研究や既存の社会調査データを収集し、社会制度について調べ、調査仮説の構築や質問紙作成の準備を進める。
第 9 回	仮説の構築	先行研究に基づいた調査仮説を決定し、研究の意義について考えをまとめ、発表すると共に具体的な調査内容について考える。
第 10 回	質問紙の作成	質問紙作成の基礎を確認し、先行研究と比較可能な調査項目を中心に各自の研究関心に基づく質問紙調査票を作成する。
第 11 回	調査依頼状の作成	子どもを対象とした調査では、子ども本人と共に保護者や所属する園・学校関係者への調査依頼・説明が必要となる。基本的な調査依頼状の書き方を学ぶ。

第 12 回	プレ調査の実施	授業内で互いの質問紙に記入し、回答しやすさ等を確認する。記入された質問紙の分析方法を考えながら、質問内容の修正を行う。
第 13 回	質問紙の修正	小グループ内で再度プレ調査を行い、調査仮説と照らし合わせた質問内容の妥当性について最終検討を行い、調査票を確定する。
第 14 回	成果報告会	各自の調査テーマと対象者、調査仮説、作成した質問紙、調査依頼状等について成果報告会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者各自の研究関心に基づき、先行研究の動向や関連する制度について調べ、研究計画（調査テーマ、調査対象、仮説の構築）や調査依頼状、質問紙調査票を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
林雄亮・石田賢示 2017『基礎から学ぶ社会調査と計量分析』北樹出版
神林博史・三輪哲 2011『社会調査のための統計学 このとおりやればすぐできる』技術評論社
大谷信介・他 2013『新・社会調査へのアプローチ―理論と方法』ミネルヴァ書房
西内啓 2013『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
平常点（ディスカッションへの参加、コメントの提出等）（30 %）　質問紙作成と発表（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度から開講された新規科目であり、授業アンケートはまだ実施しておりません。受講した学生からは、保育について学ぶ経験がなかったので、勉強になった。思ったよりもキャリアデザインらしい内容だった等の感想がありました。少人数授業ですので、履修者の興味関心に応じて個別対応もしております。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（調査票の作成、先行研究のまとめ等に使用）

【キャリアデザイン学部より】
この授業は，受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合，抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】
A major objective of the class is to examine methodologies used in family and child life research to explore how different kinds of studies can be combined to yield a deeper and more accurate picture of family structures, processes, and relationships. Participants prepare a proposal for a survey (social research that uses questionnaires) that they would like to conduct.

EDU200MA
キャリア研究調査実習 B（恋愛の質的研究）　展開科目

大森　美佐

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、「恋愛」についての各文献の講読を通じて、問いと調査方法（アプローチ）の関係や先行研究の用い方、調査をする上での倫理的配慮など、社会調査に必要な知識やマナーを学ぶこと目的とする。

【到達目標】
・研究テーマと調査方法（アプローチ）の関係を理解する。
・調査にあたっての配慮事項を知る。
・メディアを対象にした調査をデザインし、運用してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義と演習形式で進めていく。テキストは特に使用しない。第 4 回目からは、先行研究の講読を行う。方法については授業内で説明する。なお、毎回、授業の最後に意見や感想を書いて提出してもらい、終盤にはグループ・ワーク、グループ・プレゼンテーションを行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テーマとしての恋愛：授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	質的研究のフレームワーク	なぜ、いかに行うか。質的研究の意義、質的研究と量的研究の違い、質的研究の倫理と手続きなど
第 3 回	研究の視座と分析視覚	質的研究における文献の利用、理論的立場など
第 4 回	歴史から現在を考える①	『婦人公論』などの雑誌の言説分析
第 5 回	歴史から現在を考える②	民族史：当時のインタビュー（口頭データ）を読む
第 6 回	現代の恋愛を捉える①	漫画・雑誌分析
第 7 回	現代の恋愛を捉える②	ビジュアルデータ分析：写真、映画、ビデオ、ドラマなどの分析
第 8 回	現代の恋愛を捉える③	口頭データ分析 半構造化インタビュー、グループディスカッション、縦断調査など
第 9 回	現代の恋愛を捉える③ 恋愛・結婚の国際比較	社会・文化的差異の視点を用いた研究
第 10 回	研究デザイン①	グループワーク：先行研究を踏まえて研究計画を立てる
第 11 回	研究デザイン②	グループワーク： メディア分析の実践
第 12 回	研究デザイン③	グループワーク：プレゼンテーション資料の作成
第 13 回	学生グループプレゼンテーション①	グループワークの結果報告
第 14 回	学生グループプレゼンテーション②	グループワークの結果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した文献資料は事前に読んで講義に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
Uwe Flick, 2005, Qualitative Sozialforschung, Rowohlt Taschenbuch Verla（= 2011, 小田博志ほか訳 『質的研究入門− 人間の科学のための方法論　新版』春秋社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告・授業への感想文）（50 %）、グループ・プレゼンテーション（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【キャリアデザイン学部より】
この授業は，受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合，抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】
This course provides an introductory overview of qualitative methods with reading previous studies on “romantic love”(=ren-ai) . Through this course, students will be expected to learn methodological skills necessary to conduct their sociological research such as a relation of a question and method (approach), usage of the previous research, and ethical considerations.

EDU200MA

外書講読Ａ（発達・教育）　展開科目

福田　紀子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人権に基づいた社会のより良い変化 (開発) に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／ Sphere Standards)、SDGs のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した “価値観＝大切にしているもの” に近づきたいと思います。

特に世界で脅威となった「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」に私たち自身の生活が大きく影響される今、関連する「人道支援の国際基準　スフィア基準（Sphere Standards）を学ぶことから始めたいと思います。その後の経緯を見ながらテキストを進行していきます。
参加型学習／ワークショップの実践を目的とした『Citizen’s Education for Good Governance』のテキストについては、授業実施の状況を見ながらその活用の仕方を考えていきたいと思います。

【到達目標】
１）国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワーメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
２）人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法（Governace と Accountability) に必要な思考と行動のスキルを 自分の生き方くらし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
３）参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。
授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。
その中でのディスカッション、フィードバックは日本語で行います。
動画での説明も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation self-introduction Humanitarian-Standards-and-Coronavirus-2020-ONEPAGER	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。自己紹介。人道支援の国際基準スフィア基準の事務局からの COVID-19 の対応に関する要請文を読みます。
2	Disaster & Humanitarian Response Basic Concept and Background	災害とは何か 人道支援とは何か 人道支援の背景
3	Sphere Standard 1 Sphere’s structure 4 Principles	
4	Citizen’s Education for Good Governance ~ Outline of the Concept Preparation for Facilitating as the team	Citizen’s Education for Good Governance の Citizen’s Education for Good Governance の基本概念を概観します. グループ毎に担当アクティビティのファシリテーション準備を行います
5	Citizen’s Education for Good Governance ① What dose CIvil Society Mean?	市民社会とはどのような状態なのか、公正な社会を作るために必要な配慮は何かを考えます。
6	Citizen’s Education for Good Governance ② Learning about Democracy	民主主義とはどのような要素があるのか考えます
7	Citizen’s Education for Good Governance ③ Citizen’s Organizing for Governance	市民がつながる、協力的に活動することについて考えます

8	Citizen's Education for Good Governance ④ Analyzing & Understanding People' Reality	現実のしごとや暮らしの中の問題や変化について考えます
9	Citizen's Education for Good Governance ⑤ A Rights-Based Approach to Citizenship Capacities	人権の視点を基本にした市民社会のありかたについて考えます
10	Citizen's Education for Good Governance ⑥ Roles of Government, Private Secter, Civil Society	市民社会の構成セクターの特徴を捉え、この３０年間の変化について考えます。
11	Citizen's Education for Good Governance ⑦ Planing for Effective Partnership	市民社会の３セクターがそれぞれの役割を果たすとはどのようなことでしょうか？ 基本となる必要なことがあるのかについて考えます。
12	Citizen's Education for Good Governance ⑧ Capacity Building for Partnership	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢について考えます。
13	Governace & Accountability~Sphere Handbook' quality & Accountability ①	人道支援団体の国際基準が示すサービスの質と“アカウンタビリティ”を学び、ガバナンスを考えた意味を再考します
14	Governace & Accountability~Sphere Handbook' quality & Accountability ②	演習をしながら、“アカウンタビリティ”の内容を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳• 整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。
国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】
The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
（参考）Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズー教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える１２のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート• チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、各回授業のふりかえりシート４０％
個人／グループでの翻訳・発表とふりかえり、成果物（模造紙作業等）３０％、レポート３０％

【学生の意見等からの気づき】
参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行• 手法• 思考の枠組• 問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。
ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】
国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準をはじめ、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。ガバナンス、市民社会等、慣れないコンセプトかもしれませんが、国際的な合意の文脈を理解する為の一つのステップとして学んでいきましょう。
また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。分担したアクティビティのファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【Outline and objectives】
The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citisen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.
Students are expected to
read the materials/assignments to translate/summary/analize/apply into your own situation.
Main text would be the Sphere Standards-Humanitarian Chater and Minimum Standards of Humanitarian Response.

EDU200MA

外書講読Ｂ（発達・教育）　展開科目

長岡　智寿子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、今日における国際教育開発の現状と課題について、社会学的な視点から、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを目指す。具体的には、本講義の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】
本講義では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象にした多様な生涯学習の活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人間の一生の中で、学習活動は決して学校教育に限定されるものではありえない。教育という営みは、私たち人間の社会が築いてきた価値観や慣習等の社会、文化的要因を背景に育まれていくことを、具体的事例を踏まえ社会学的視点からも検討していく。英文資料等、学習教材は、授業支援システムにより提示していきます。
なお、初回授業は 2020 年 4 月 27 日（月）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義全体の概要説明
第 2 回	Background ： data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第 3 回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第 4 回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会学的視点から理解
第 5 回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第 6 回	Stories of imagination（2） Life skill	Literacy and Life ｓ kills
第 7 回	Stories of imagination（3） human rights	About employment rights with literacy for poor women
第 8 回	Stories of imagination（4） Minority	Women and Literacy in post-conflict
第 9 回	Stories of imagination（5） Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning
第 10 回	Stories of imagination（6） Learning for life	Literacy and learning for young women
第 11 回	Stories of imagination（7） Learning for health	Learning reading, writing and health
第 12 回	Stories of imagination（8） Social empowerment	Community Empowerment
第 13 回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第 14 回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、授業の際に説明する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』,
UNESCO Institute for Lifelong Learning,2013
・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』,
Commonwealth of Learning, 2012
上記の英文資料は、適宜、授業支援システムにて提示する。

【参考書】
・『生涯学習のグローバルな展開：ユネスコ国際成人教育会議がつなぐ SDG４の達　成』、東洋館出版社、長岡智寿子、近藤牧子編、2020 年

【成績評価の方法と基準】
授業支援システムを介して、課題を提示します。
履修者による課題提出とその内容により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を
整えていく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業支援システムを介し、意見交換を行う。積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline and objectives】
In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture.

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅰ　　展開科目

松浦　千春

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、人は生まれてから死ぬまで生涯発達していく、ということを踏まえながら、乳児期、幼児期、児童期、思春期、それぞれの時期の発達特性について学ぶ。また、これまでの知見を、子育てや教育を含めた生活の中で、どのように活用していくことができるのか、事例を通して考える。

【到達目標】
（1）乳児期から思春期までの発達特性について、心理学的な視点から述べることができる。
（2）乳児期から思春期までの発達特性をもとに、子育てや教育上の事例への対応を考えることができる。
（3）自己理解、他者理解を含め、日常生活にどのように活用することができるかを意識しながら学び続ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業開始日（資料や動画などの配付開始日）は 4 月 27 日（月）とします。
学習支援システムを活用し、1 回の授業あたり、①授業用動画視聴（3 分以内のものを 1〜5 つ）②資料閲覧（1〜3 つ）③課題提出（1 つ）④日時を決めた質疑応答やディスカッション（学習支援システム内の機能を使用）の予定です。動画の視聴や資料の閲覧は最終授業日前日までとし、課題提出にはそれぞれに期限を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発達とは	心理学よりみた人間の発達を概観する
第 2 回	新生児期・乳児期の発達①概要	新生児期・乳児期の発達特性について学ぶ。
第 3 回	新生児期・乳児期の発達②事例	新生児期・乳児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 4 回	幼児期の発達①概要	幼児期の発達特性について学ぶ。
第 5 回	幼児期の発達②事例	幼児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 6 回	児童期の発達①概要	児童期の発達特性について学ぶ。
第 7 回	児童期の発達②事例	児童期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 8 回	思春期の発達①概要	思春期の発達特性について学ぶ。
第 9 回	思春期の発達②事例	思春期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 10 回	発達障害①概要	発達障害の概念について学ぶ。
第 11 回	発達障害②事例	発達障害の事例に触れる。
第 12 回	幼児期・児童期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、幼児期・児童期の事例について、背景や対応を考える。
第 13 回	思春期・青年期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、思春期・青年期の事例について、背景や対応を考える。
第 14 回	まとめ・試験	授業内試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容、配付された資料、紹介された資料と、自分自身の興味関心とを繋げながら、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】
指定のテキスト（教科書）はありません。

【参考書】
必要な資料、参考になる資料などは、授業の中で配布したり、紹介したりします。可能な限り学習支援システムを通して配付可能なもの、ウェブ上で閲覧可能なものを選択します。

【成績評価の方法と基準】
授業ごとの課題提出（11 回・55 %）・試験あるいはレポート（1 回・45 %）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度同様、動画、音声などの視聴覚教材を用います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料の配布、課題の提出には、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
授業を受けるにあたり、情報保障をはじめ、何らかの支援が必要な場合には、適宜申し出てください。動画には字幕あるいは書き起こしを添える予定です。

授業がどのような形態で実施されても、この授業の到達目標に変更はありません。理解を深め、知識の活用の幅を拡げてください。

【Outline and objectives】
In this class,you will learn about the developmental characteristics of infancy,childhood,adolescence,based on the fact that human develop throughout from birth to death. In addition,we will consider examples how we can utilize our knowledge in our daily lives including child care and education.

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川　進

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するのか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。
秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。

【到達目標】
青年期から死にいたるまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解するために、主に講義形式で進めます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理学より見た人間の発達とは何か	人間の生から死に至る長期の発達とその過程について考える
第 2 回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について学ぶ
第 3 回	人間の発達特性－生物学的、社会環境的な変化と発達	発達に影響を与える遺伝的な要因と環境要因について学ぶ
第 4 回	成人期の発達とその発達特性 成人期前期	成人期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 5 回	成人期の発達とその発達特性　成人期後期	成人期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 6 回	中年期の発達とその発達特性 中年期の危機	中年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 7 回	中年期の発達とその発達特性 発達課題	中年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 8 回	老年期の発達とその発達特性 老年期の特性	老年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 9 回	老年期の発達とその発達特性　老年期の発達課題	老年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 10 回	人間の死とその心理学的特性 死とは何か	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 11 回	人間の死とその心理学的特性　死の意味	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 12 回	成人期の発達とキャリア発達 初期〜中期キャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第 13 回	中年、老年期の発達とキャリア発達 生涯キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、定年と生涯キャリアにつて考える
第 14 回	生と死の心理学 生きることの意味	生から死にいたる人間の発達を総合的にまとめる、生きがいとは何か、幸福とは何か、について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連図書の予習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度授業の中で配布したり、参考文献を紹介します。

【参考書】
発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編　東京大学出版会
発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編　東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100 %）で評価します

【学生の意見等からの気づき】
臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
青年期から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今日まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive,social and emotional aspects of growth .
We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), lateadulthood(65-) in the fall semester.
We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved.

PSY200MA

臨床教育相談論 I

展開科目

飯野　雄大

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・2** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもたちへ教育相談を行っていく上での必要な知識の習得と子どもと関わる現代的な問題の理解をテーマとする。主に乳幼児期から青年期までの発達を理解し，幅広い意味での教育現場で起こる問題を読み解くための考え方を学ぶ。

【到達目標】
（1）教育相談を行っていく上で必要な心理学的知識を習得する。
（2）現場で起こっている諸問題を理解する。
（3）心理学の知識や見方を用いて教育現場の問題を自分なりに考えることができるようになることの 3 点を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1．人の発達と教育相談（第 2 回から第 7 回）。
2．乳幼児期の諸問題と教育相談（第 8 回から第 11 回）
3．児童期から青年期の諸問題と教育相談（第 12 回から第 14 回）
講義と実習を織り交ぜながら授業を行うようにする。講義を主とするが、適宜、演習的内容、グループワークやロールプレイなどの実習を行う。毎回リアクションペーパーを提出をする。
4 月 19 日更新
4 月 24 日（金）に学習支援システムに初回授業資料（PPT）と課題（学習支援システム内）を提示する。授業資料を読み受講について決定すること。課題に関しては 1 週間後（5 月 1 日）を提出期限とする。毎回の課題の提出及び最終レポートを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要, 到達目標, 講義形式, 講義の進め方, 導入にあたって必要な事項を解説する。
2	教育相談の現場と対象	教育相談はどのような場で, どのような人を対象として行われているのだろうか, 教育相談の現場を概観する。
3	人の発達と特徴を知る①：認知発達	人はどのように世界を認識しているのか, 視覚的な認知の発達と特徴を学ぶ。
4	人の発達と特徴を知る②：アタッチメントと対人関係の発達	人と人が関係を作るとはどういうことなのか, 愛着などの関係性の発達と特徴について学ぶ。
5	人の発達と特徴を知る③：社会性の発達	「空気が読める」「相手の立場を理解する」とはどういうことか, メタ認知や社会性の発達について学ぶ。
6	人の発達と特徴を知る④：自己の発達	「自分はいつも失敗ばかり」「自分はいつも損な役回りで」といった現実を偏って捉えてしまう認識の特徴を学ぶ。
7	人の発達と特徴を知る⑤：知能の発達	知能（IQ）とはどのようなものか, 教育現場でどのように用いられているのかを学ぶ。
8	発達の障害と教育相談	発達障害をはじめとした様々な障害の特徴について学ぶ。
9	乳幼児期の教育相談①：虐待の理解と対応	虐待の実態と特徴について学ぶ。
10	乳幼児期の教育相談②：育児相談・発達相談・園内及び就学の相談と支援	子どもの育児や発達についての保護者の相談の実際を学ぶ。また、保育園・幼稚園での支援と学校への入学にかかわる相談について学ぶ。
11	児童期から青年期の諸問題と教育相談①：いじめの理解と対応	学校現場でのいじめについて、その実態と背景について考える。
12	児童期から青年期の諸問題と教育相談②：不登校の理解と対応	学校現場での不登校の問題について、その実態と背景について考える。
13	児童期から青年期の諸問題と教育相談③：反社会的行動の理解と対応及び思春期の進路相談	学校での問題行動とその背景について考える。また青年期における進路相談に関してもふれる。
14	まとめ・振り返り	これまでの講義内容をまとめ, 学校で起こる諸問題の基本的な内容と教育相談の機能について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自分自身の小学校や中学校、高等学校などの学校経験から，印象に残っているエピソードを思い出しておく。
・子どもに関するニュースに注目し，目を通しておく。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。
テキストは指定しない。

【参考書】
古屋喜美代・関口昌秀・萩野佳代子（編）　2013　児童生徒理解のための教育心理学　ナカニシヤ出版
本郷一夫・金谷京子（編）　2011　臨床発達心理学の基礎　ミネルヴァ書房
浜谷直人・三山岳（編）　2016　子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる　ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
授業への出席を含むリアクションペーパーによる参加度（4 割）とレポート（6 割）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な例や実体験を通して相談活動の基礎を学べるようにする。

【授業中に求められる学習活動について】
C,D,E

【Outline and objectives】
This course deals with the child development and educational problem. The aim of this course is help students acquire an understanding of the fundamental principles of educational counseling.

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

飯野　雄大

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床教育相談論Ⅰを土台にしながら，どのようなアプローチを使いながら相談を進めていけばよいのかを実践的に学ぶ。特に、子どもの問題を捉えるアセスメントの視点と子どもの問題に多角的にアプローチできる視点を学ぶ。

【到達目標】
理論を踏まえながら，教育相談の実際を理解する。教育相談の流れを，イメージできるようにする。子どもの問題状況を理解し、その状況に合わせて相談の目標を意識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1．教育相談に関する基本的な技法の理解（第 2 回から第 5 回）。
2．教育相談でのアセスメントと対処（第 6 回から第 11 回）
3．ケーススタディを通した教育相談の理解（第 12 回から第 14 回）
　講義と実習を織り交ぜながら授業を行うようにする。実習では，2 〜 5 人程度のグループになり，グループワーク、討論やケーススタディなどの実習を行う。他者と共同で行う活動が多くなるため積極的に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要, 到達目標, 講義の形式, 講義の進め方, 導入にあたって必要な事項を解説する。
2	コミュニケーションの基本	相談を行う上で基本的なコミュニケーションの技法について概観する。
3	関係性による相談の変化と相談活動における倫理	誰かに相談するということは，どういうものか体験を通して学ぶ。また、相談を行っていくうえでのプライバシーの保護, 守秘義務といった倫理について学ぶ。
4	他者の話を聴く	他者の気持ちを意識しながら，傾聴するとどのようなものかを実習を通して学ぶ。
5	問題が起きている状況を理解する	問題状況を理解するためにどのような情報を収集し，どのように理解すればよいのかを学ぶ。
6	児童・生徒を理解する	児童・生徒を理解するとはどういうことか, 基本的な技法について学ぶ。
7	アセスメントの技法① 知能検査	人を理解する技法のひとつである発達・知能検査について学ぶ。IQ を理解する。
8	アセスメントの技法② 性格検査	人を理解する技法のひとつである性格検査について学ぶ。類型論、特性論について知る。
9	障害への支援	特別支援教育など学校で障害児を支援する方法を理解する。
10	関係機関との連携及びケーススタディの方法	教育現場と関係する病院や児童相談所といった機関とどのように連携していけばよいかを, 各機関の特徴とともに学ぶ。また次回以降のケーススタディの方法を学ぶ。
11	ケーススタディ①	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に幼児期の問題について取り扱う。
12	ケーススタディ②	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に学校現場での問題について取り扱う。
13	ケーススタディ③	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に障害にかかわる問題について取り扱う。
14	まとめ・試験	事例のまとめを行うとともに最終試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で学んだ内容を復習した上で，次の授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。テキストは指定しない。

【参考書】
鈴木・大橋・能智（編）　2015　ディスコースの心理学　ミネルヴァ書房

浜谷直人（編）　2009　発達障害児・気になる子の巡回相談―すべての子どもが「参加」する保育へ　ミネルヴァ書房
浜谷直人（編）　2013　仲間とともに自己肯定感が育つ保育―安心のなかで挑戦する子どもたち
浜谷直人・三山岳（編）　2016　子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる　ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
グループワークへの参加とリアクションペーパーによる参加度（5 割）と最終試験（5 割）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
継続して具体的な事例を紹介しながら学べるようにしていきたい。分かりやすく、質問しやすい環境を工夫していく。

【授業中に求められる学習活動について】
C,D,E,F,G

【Outline and objectives】
This course deals with the counseling method and case study.It also enhances the development of students' skill in　case discussion and problem solves.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅠ　展開科目

廣川　進

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられいます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、まず、キャリアカウンセリングとは何かを正しく理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、アセスメントの方法、傾聴技法などについて理解し、実際に身につけることを授業の到達目標とします。

【到達目標】
キャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、理論的背景、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件、キャリアカウンセリングへのニーズとその活用などに対する深い理解を達成目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを適正に理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、真摯に傾聴しながら、相談者をありのまま理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、また、どのようなアセスメントを行なうことが必要かなどについても学び、キャリアカウンセリングについて理論だけではなくその技法も身につけることを行います。また、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を修得します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とキャリア開発、キャリア形成	キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第 2 回	生涯発達とキャリア発達、キャリア形成ー子どもから大人へ	人間の生から死に至る生涯発達を展望したキャリア発達とキャリア形成について考える
第 3 回	生涯発達とキャリア発達、キャリア形成ー成人から老年期へ	人間の生から死に至る生涯発達を展望したキャリア発達とキャリア形成について考える
第 4 回	人材育成とキャリア開発支援	社会経済の変化、労働環境の変化に伴って、そのようなキャリア開発支援が求められているかについて考える
第 5	キャリアカウンセリングとは何か	キャリア開発、キャリア形成を支援するキャリアカウンセリングとは何か、その意義について考える
第 6 回	キャリアカウンセリングの歴史と発達	キャリアカウンセリングはいかに誕生したのか、歴史と発達について考える
第 7 回	キャリアカウンセリングの活用とその機能	キャリアカウンセリングはどのように活用されているのか、その分野、キャリアカウンセラーの活躍の領域について考える
第 8 回	キャリア教育とキャリアカウンセリング	キャリア教育の中で果たすキャリアカウンセリングの役割とその意味について考える
第 9 回	キャリアカウンセリングの理論 初期理論	キャリアカウンセリングの理論について学ぶ
第 10 回	キャリアカウンセリングの理論 スーパーの理論の変化	キャリアカウンセリングの理論について学ぶ （スーパー）
第 11 回	キャリアカウンセリングの理論 ホランド、シャイン他の理論	キャリアカウンセリングの理論について学ぶ （ホランド、シャイン他）
第 12 回	キャリアカウンセリングのアセスメント	キャリアカウンセリングのアセスメントとその多様なツールについて学ぶ

第 13 回	キャリアカウンセリングの事例ー 1（学生）	キャリアカウンセリングのケーススタディ（学生）を行い、カウンセリングの方法を検討する
第 14 回	キャリアカウンセリングの事例ー 2（成人）	キャリアカウンセリングのケーススタディ（成人）を行い、カウンセリングの方法を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宮城まり子著「キャリアカウンセリング」2002、駿河台出版社

【参考書】
宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書
木村周著「キャリアカウンセリング」　1997、雇用問題研究会
平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
After taking this course,　you will be able to understand career counseling and development theories,including the following:
·interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
· career counseling processes, techniques, and resources

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅡ　展開科目

高橋　浩

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングⅠでは主にキャリア理論、キャリアカウンセリング理論を学び、それを踏まえてキャリアカウンセリングⅡではキャリアカウンセリングの現場での事例紹介、事例検討などの活動を組合せて理解を進める。

【到達目標】
·キャリアカウンセリングの実際の展開について理解する
·カウンセリングの基本の理論について理解する
·キャリアカウンセリングが活用されている領域、分野での具体的な事例を知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業開始は 9 月 21 日です（記入 4 月 21 日）。キャリアカウンセリングⅠで学んだキャリア理論を踏まえて、キャリアカウンセリングの実際の展開、アプローチの方法について学ぶ。各分野での事例検討、学習を通して深い理解を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較から考える
第 2 回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリングを進める 6 つのステップについて学ぶ
第 3 回	カウンセリングの実際 傾聴 来談者中心療法	キャリアカウンセリングで使える代表的な理論について学ぶ（〜第 10 回） 傾聴、受容、共感を学ぶ
第 4 回	認知行動療法	認知行動療法について学ぶ
第 5 回	精神分析	精神分析について学ぶ
第 6 回	アドラー心理学	承認欲求にとらわれすぎない生き方働き方を学ぶ
第 7 回	ブリーフセラピー	問題志向／解決志向カウンセリングを学ぶ
第 8 回	マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括折衷的カウンセリングについて学ぶ
第 9 回	グループ・アプローチ	グループワークの効果を体験する
第 10 回	ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチについて実習を交えて学ぶ
第 11 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー学校	キャリアカウンセリングの活用分野について学ぶ（〜第 14 回）学校での事例検討
第 12 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー企業	企業内での事例検討
第 13 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー就労支援	就労支援機関での事例検討
第 14 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー多様性（ダイバーシティ）	女性、障害者などのキャリア開発の支援の事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味をもったトピックについては授業で紹介する参考書などを積極的に参照する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
·「キャリアカウンセリング」宮城まり子　駿河台出版社
·「キャリア・コンサルティング　理論と実際　　カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周　社団法人　雇用問題研究会
·「新時代のキャリアコンサルティング　キャリア理論・カウンセリングリ理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人　労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】
授業中のミニレポート 20 %　期末レポート 80 %

【学生の意見等からの気づき】
前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、双方向型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:
·interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
· career counseling processes, techniques, and resources
In the fall semester, we will study case studies of employment support, and workplace support.

PSY200MA
キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）
展開科目

宮脇　優子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を研究（学習）することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、現代社会においてキャリアカウンセリングが求められている背景・ニーズを学ぶ。
次に、キャリアカウンセラーに求められる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。その上で、様々なケース研究に取り組み、実践への知見を深めることとする。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの基礎的事項について理解できる
・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
①現代社会の様相、特に働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへの社会的ニーズを理解できる
②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とグループワークを主体とした授業形式をとる。
ケーススタディ（事例検討）は、グループでの意見交換や討議及び発表が中心となる。
授業終了後にコメントシートの提出を求め、次週の授業において感想・質問について応じるといった2 WAY コミュニケーションをはかりながら進める。
なお、心理アセスメントの活用の講では、実際にアセスメントツール（キャリア・インサイト）の体験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	起源から見るキャリアカウンセリングの特質	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特質を理解する。
第 3 回	社会経済・雇用環境の変化、社会のニーズとキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化にともない、なぜキャリア支援が必要とされているのか。支援者であるキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）への期待、果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的展開／ケーススタディ①	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な展開方法について学ぶ。そのことをふまえてケースを読んでみる。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ②	「キャリア支援のニーズが高いケース」〜キャリア支援ニーズの高いケースの援助を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ③	「キャリアチェンジを伴う転職がしたい」〜「キャリアチェンジ」について考える。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ④	「職場の人間関係に悩むケース」〜職場の人間関係問題へのアプローチ、心理学理論を応用した援助を学ぶ。
第 9 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑤	「子育てしながら再び働きたい」〜子育てしながら働く女性への援助を考える。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの活用	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの効果的な活用方法を学ぶ。（キャリア・インサイトの実施）
第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑥	「メンタルヘルス不調からの脱出」〜心理アセスメントを活用した援助の実際、ストレス理論に基づいた見立て方について学ぶ。

第 12 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑦	「組織の問題に悩む管理職」 ～個と組織を活かすキャリアカウンセリングを考える。
第 13 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑧	「過重労働から職場不適応に陥ったケース」 ～「職場不適応」とは何か、その援助方法について学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に設定された課題について小レポートを作成し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「働く人へのキャリア支援～働く人の悩みに応える２７のヒント」
宮脇優子編著　金剛出版

【参考書】
「キャリアカウンセリング入門　人と仕事の橋渡し」
　渡辺三枝子＋ E.L. ハー著　ナカニシヤ出版
「キャリアカウンセリング」宮城まり子著　駿河台出版社
「キャリア・コンサルティング　理論と実際（三訂版）」木村周著　一般社団法人「雇用問題研究会」

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み姿勢、グループワーク・発表への参加度）　４０％
小レポート課題　１０％
期末試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動を開始し、現在に至っている。キャリアカウンセラーとしての１７年の経験で支援してきた人は 4,000 人を超える。
これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実際について、授業の中で紹介しながら進めていきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to understand the importance and methods of career counseling.
The first phase is to understand the basics of career counseling, i.e. its history and the reason why career counseling is required in today's society.
The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field.
Lastly, we will examine its practical usage by looking into various cases.

PSY200MA

教育相談

展開科目

児玉　茉奈美

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・1　｜　配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には，子どもの理解とかかわりの基本的な視点，子どもが現実にかかえる不適応の問題，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを目指す。

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め，そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法などを，学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し，学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で，子どもの対人関係の発達について説明する。
第 3 回	不適応の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適応とつまずきを理解し，子どもとのかかわりを考える。
第 4 回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー（対処方略）について説明する。
第 5 回	精神障害	不安障害やうつ病，統合失調症，摂食障害について説明する。
第 6 回	発達障がい	自閉症スペクトラムや ADHD，LD について説明する。
第 7 回	不登校	不登校の子どもを理解するため，その背景や支援について説明する。
第 8 回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため，その背景や支援について説明する。
第 9 回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため，その背景や支援について説明する。
第 10 回	子ども虐待	子ども虐待を受ける子どもやしてしまう親を理解するため，その背景や支援について説明する。
第 11 回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという３つのアセスメント方法について説明する。
第 12 回	カウンセリングの理論	精神分析療法や行動療法，クライエント中心療法といった，カウンセリングの基本的な理論について説明する。
第 13 回	カウンセリングの実践	教育機関におけるカウンセリングの方法について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	教員同士だけではなく，保護者や関係機関との連携の重要性とその方法について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，テキスト該当箇所を一読する。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
黒田祐二　（2018）　実践につながる教育相談　北樹出版　（2100 円）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い，成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋　弥生

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は基本的にパワーポイントを用いた講義形式で進める。テーマによって適宜事例研究、グループディスカッションなどを取り入れる。リアクションペーパー、レポートの提出を求める場合があり、提出回の次の授業の冒頭で求められる観点や重要な点について解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。

第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談 試験	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。 第 1 回から第 12 回までの授業内容を範囲として試験を実施する。
第 14 回	外部機関との連携 試験の振り返り	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。 前回実施した試験内容の振り返りをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 1 回「ガイダンス」
事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第 2 回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 3 回「青年期の発達」
事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 4 回「成人期の発達」
事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 5 回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第 6 回「カウンセリングの技法」
事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第 7 回「教育相談の進め方」
事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第 8 回「不登校に関する相談」
事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 9 回「いじめに関する相談」
事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 10 回「非行に関する相談」
事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」
事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談、試験」
事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。試験内容を振り返り、不十分であったところを復習しておく。
・第 14 回「外部機関との連携、試験の振り返り」
事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
試験（50 %）、積極的参加：リアクションペーパー、ディスカッション等（50 %）にて評価

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

山上　真貴子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行う。また、適宜視聴覚教材を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 3 回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 4 回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？―困りごとはいきなり消えてはくれない。
第 5 回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第 6 回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第 7 回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第 8 回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第 9 回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第 10 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第 11 回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をする人？
第 12 回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。
第 13 回	外部機関との連携	どんな機関と、どう連携すれば良いか、事例を用いて考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
試験（40 %）、レポート（30 %）、積極的参加（30 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や間相当を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業中にフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップしますので、必ず事前に印刷してきて下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

遠藤　裕子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎時間、ワークシートを配布します。ワークシートは授業内に完成して提出します。講義の他、文献講読、ペアワーク、グループワーク、授業内での発表など、さまざまな授業形態を用いて主体的に学べるようにします。
1.【教育相談の意義及び理論】(第 1 回〜第 4 回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第 5 回〜第 6 回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第 7 回〜第 14 回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
会沢信彦・安齊順子編著 2017 【改訂版】教師のたまごのための教育相談 北樹出版
1900 円＋税

【参考書】
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
試験（40 %）、積極的参加（60 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新開設のため、授業改善アンケートの結果はありません。担当している他の科目において、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、本授業でも取り入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で高校の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋　弥生

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 1 回「ガイダンス」
事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第 2 回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 3 回「青年期の発達」
事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 4 回「成人期の発達」
事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 5 回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第 6 回「カウンセリングの技法」
事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第 7 回「教育相談の進め方」
事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第 8 回「不登校に関する相談」
事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 9 回「いじめに関する相談」
事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 10 回「非行に関する相談」
事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」
事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談」
事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 14 回「外部機関との連携」
事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。小テスト（30 %）、課題およびレポート（70 %）とする。小テスト、課題、レポートはオンラインでの開講期間においては「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

杉本　英晴

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間はどのように発達し、どのように学ぶのか、教えかたについてはどのように考えればよいのか、といった学校での教育や学習において生じる問題について、教育心理学の知見をもとに考えていく。具体的には、人間が発達していくプロセスや、学習についての心理学的な知見はもちろん、教育に対する様々な考えかた、障害のある生徒への配慮や学校不適応の問題などについて、具体的なトピックや事例を多く紹介しながら概説する。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。また、授業では毎回課す小レポートに対するフィードバックを行い、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育における子どもの発達理解の意義を検討する。
第 3 回	認知の発達	認知の発達について、ピアジェの理論をもとに説明する。
第 4 回	対人関係の発達	対人関係・社会性の発達について説明する。
第 5 回	学習の理論	学習理論について概説する。
第 6 回	記憶	記憶のメカニズムについて説明し、学習における記憶を促す指導方法について検討する。
第 7 回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、動機づけを高める指導方法について検討する。
第 8 回	学習の指導	学習者へのさまざまな指導方法について説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じた学習評価について説明する。
第 10 回	学級集団	学級における教師と子どもや子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第 11 回	個人差の理解	知能やパーソナリティについて説明する。
第 12 回	発達障害の理解と支援	発達障害の特徴や支援について説明する
第 13 回	学校不適応行動の理解と支援	不登校やいじめなどの学校不適応行動を取り上げ、そのメカニズムや介入について説明する。
第 14 回	試験・まとめと解説	本授業の総まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＜準備学習＞
web にあげた授業資料に目を通し，授業内容を確認する（1 時間）。
＜復習＞
授業内容を復習し（1 時間），その理解をもとに自分が教師になったときにその授業内容をいかに活かすことができるか検討する（1 時間）。小レポート課題に回答する形で、これらの課題を整理する（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）2018『実践につながる教育心理学』　北樹出版
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版)

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

児玉　茉奈美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし，この日までに具体的なオンライン授業の方法などを，学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介する
第 2 回	発達理論	ピアジェやフロイト，エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第 3 回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第 4 回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する。
第 5 回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第 6 回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第 7 回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第 8 回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて，どのように学習評価の観点や時期，評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	学級集団	教師と子どもや，子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第 11 回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第 12 回	発達障がいの理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第 13 回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第 14 回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校や LGBTQ の特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，参考書該当箇所を一読する。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第 5 版〕　有斐閣（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018) 実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）
児玉佳一（編）（2020）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学　学文社（2300 円）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い，成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーにおける質問にはすべて回答してほしいとの要望があったことに加え，実際に回答をすることによってより深い議論や学生の理解の深化が可能となると考えるため，すべての質問に授業の冒頭での口頭返答または直接リアクションペーパーへのコメント記入で回答する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学　　展開科目

山上　真貴子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
初回授業日：４月２９日（水）
この授業の進め方と方法については、現在検討中です。初回授業日に学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第 2 回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第 3 回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第 4 回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第 5 回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第 6 回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第 7 回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第 8 回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第 9 回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第 10 回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第 11 回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第 12 回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第 13 回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに出題されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鎌原雅彦ら 2019『やさしい教育心理学 第 5 版』有斐閣アルマ

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
レポート（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価
☆評価方法の変更がありました！ ご注意ください。
　変更前：定期試験（70 %）　→　変更後：レポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業資料をアップします。各自、事前に忘れず印刷して持参してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

遠藤　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**土・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 25 日（土）8 時 50 分から
すでに、Hoppii に「教材」を 3 点入れてあります。その中に「講義通信 No.1」がありますので、よく読んで、「どの授業形態で参加するか」回答を指定されたメアドに送ってください。「課題」も 1 点入れてあります。
（対面の授業の場合）※オンライン授業の場合でも準じてできる範囲で行います。
毎時間、ワークシートを配布します。ワークシートは授業内に完成して提出します。講義の他、文献講読、ペアワーク、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学べるようにします。
授業回数が 12 回になったため、11 回と 12 回、13 回と 14 回は、それぞれ 1 回分の授業の中で取り扱うことします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第 9 回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第 10 回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第 11 回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第 12 回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。

第 13 回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題などは授業内で完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣 2100 円＋税

【参考書】
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（30 %）、毎時間配布するワークシート提出・授業への積極的参加（70 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で高校の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

児玉　茉奈美

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・1** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では教育心理学を学ぶことで，人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に，その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。
・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎
・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】
・乳幼児や児童，および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・乳幼児や児童，および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け，発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・現代社会で生じる問題について理解を深め，自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式ですすめる。その上で，グループワークやリアクションペーパーを通して自分の考えを深め，伝えあう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容，到達目標，授業形式などを紹介する
第 2 回	発達理論	ピアジェやフロイト，エリクソンの古典的発達理論について説明する。
第 3 回	認知能力の発達	言語発達をはじめとした認知能力の発達について説明する。
第 4 回	社会情緒的能力の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達ついて説明する。
第 5 回	学習理論	学習のメカニズムについて説明する。
第 6 回	記憶	学習にとって重要な記憶のメカニズムについて説明する。
第 7 回	動機づけ	動機づけ理論について説明し，意欲を高めるにはどうすれば良いか考える。
第 8 回	学習の指導・介入	学習者への指導や介入の方法について説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて，どのように学習評価の観点や時期，評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	学級集団	教師と子どもや，子ども同士の関係が子どもに与える影響について説明する。
第 11 回	個人差の理解（知能／パーソナリティ）	知能やパーソナリティについて説明する。
第 12 回	発達障がいの理解と支援	発達障がいの特徴や支援について説明する。
第 13 回	現代的課題（いじめ／虐待）	いじめや虐待のメカニズムや介入について説明する。
第 14 回	現代的課題（不登校／LGBTQ）	不登校や LGBTQ の特徴や介入について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［準備学習］次回の授業内容について，参考書該当箇所を一読する。
［復習］レジュメを参照しながら，学んだ概念，それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。
本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第 5 版〕　有斐閣（2090 円）
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）(2018) 実践につながる教育心理学　北樹出版　（2200 円）

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (40 %)，授業への積極的参加 (30 %)，リアクションペーパー (30 %) で評価

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーにおける質問にはすべて回答してほしいとの要望があったことに加え，実際に回答をすることによってより深い議論や学生の理解の深化が可能となると考えるため，すべての質問に授業の冒頭での口頭返答または直接リアクションペーパーへのコメント記入で回答する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

EDU200MA

学校論Ⅰ（キャリア形成）　展開科目

松尾　知明

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の場としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

【到達目標】
キャリアを形成する場、仕事の場としての学校についての基礎的な知識を得るとともに、選択したテーマをグループで協力して調べ、理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は 22 日（水曜）から開始する。対面での授業ができるようになるまでは、授業支援システムを活用し、授業日に教材や課題を提示する。教科書や教材を読んだり動画をみたりして課題に答え、日曜日の 12 ： 00（昼）の締切までに学習支援システムに提出する。課題の提出をもってその週の授業への出席（参加）とする。学校というものをキャリア形成の場及び仕事の場という 2 つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や動画などをもとに、テーマの内容について授業を進める。また、毎回の課題とともに、学校と私についてのレポート、理想の学校についての企画書を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	ライフコースと学校⑴就学前	就学前の学校・施設での学びとは
3	ライフコースと学校⑵小学校	小学校での学びとは
4	ライフコースと学校⑶中学校	中学校での学びとは
5	ライフコースと学校⑷高等学校	高等学校での学びとは
6	学校と私	学びの履歴
7	理想の学校を構想する	学びとは何か
8	特別なニーズと学校⑴多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
9	特別なニーズと学校⑵グローバル化	グローバル化と学校
10	特別なニーズと学校⑶不登校	不登校とフリースクール
11	特別なニーズと学校⑷問題行動	問題行動と学校
12	授業のまとめ	授業の振り返りと理想の学校の構想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、担当のテーマについて調べ、課題に答えたり、レポートを執筆したりする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】
文部科学省「学習指導要領」。
苅谷恒彦『学校って何だろう－教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加の姿勢（30 %）、課題（70 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の構成や進め方について工夫する。

【Outline and objectives】
What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

EDU200MA

学校論Ⅱ（キャリア形成）　展開科目

遠藤　野ゆり

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】
学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。
実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式の授業の回と、グループでの事例検討の回とに分かれる。論理的な知識の習得をしたうえで、具体的な分析をおこない、学術的な知見が、現実の具体的な学校現場を理解するうえでどのように有用なのかを理解する。授業では、海外と日本の教育事情の比較や、日本の学校における学力の位置づけ、ヒドゥンカリキュラム、進路多様校の実態、不登校経験者のキャリア形成、家庭教育と学校教育の関係などを学ぶ。
授業後には毎回、リアクションペーパーを書き、その時間ごとに何を理解したのかを表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション〜オランダの子どもは幸福？	授業の概要と進め方についての説明 子どもの幸福度が世界１の国はオランダという調査結果があります。この事例をとおして、外国との比較から日本の教育を考える力を身につけ、と同時に、学校を社会の中に位置づけて考える必要性を考えます。
2	学力とは何か	学力は容易に「高い」「低い」と言われますが、果たしてどのような力を「学力」と呼ぶのでしょうか。学校教育において学力はどのような機能をもっているのかを考えます。
3	優等生の生きづらさ	現在の学力論に即せば学力が高いことは「良いこと」とみなされがちです。しかし本当にそうでしょうか。優等生であることがキャリア形成にどのような影響を与えるのか事例を読み解きます。
4	学校文化	学校には社会とは異なる独特の「文化」があり、この文化がヒドゥン・カリキュラムとして人の考え方に大きな影響を与えています。「当たり前」「正しい」と思い込んでいる学校文化を検証します。
5	鼻くその味 オレばっか悪もの	鼻くそを食べる子どもはいじめられても当然か？　という疑問をもとに鼻くそを食べてしまう子どもの成長を事例で読み解きます。 教育の二極化が指摘されるなか、学校の二極化もまた指摘されます。学校の荒れはどのようなメカニズムによって生じるのかを、子どもの視点から考えます。
6	多様な学校	学校には様々な種類があり、それぞれの特質に即した生徒が進学してきます。「普通科」以外の学校について学びます。
7	商業高校の生きづらさ	商業高校に通うことは就職への近道であると同時に、人間関係に独特の息苦しさをもたらすことがあります。事例から、商業高校で学ぶことにはどのような息苦しさがあるのかを考えます。
8	発達障害当事者の生きづらさ	発達障害があるということが学校生活にどのような影響を与えるのかを考えます。
9	学校に行けない①不登校	不登校はどのような理論で「語られて」きたのでしょうか。不登校をめぐる言説を学びます。
10	学校に行けない②心の壁	学校に行けない子どもの「心理」はどのようなものでしょうか。保健室登校という境界の事例から、学校に行くことの障壁について考えます。
11	学校に行けない③家庭資源の貧困	虐待や貧困などによって「学校に行きたくとも行けない」問題が起きています。学校に行くのが困難になる社会的背景を学びます。
12	学校に行けない④児童養護施設の子どもたちにとっての「学校」	虐待や貧困などにより家庭で暮らせない子どもたちは経済的な問題以外にも学校に通い難い要因を抱えています。児童養護施設で暮らす少女たちの事例から、学校生活を困難にする「他者の目」について考えます。
13	家庭と学校教育	学校教育に様々な影響を及ぼすのが教育資本など家庭教育の状況です。切っても切り離せない学校教育と家庭教育の状況を捉えます。
14	過保護な家庭で育つことのつらさ	過保護な家庭で育つことがキャリア形成にもたらす負の実態を事例をもとに読み解きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
大塚類・遠藤野ゆり共編著（2014）『エピソード教育臨床　生きづらさを描く』創元社
その他は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの予習状況に個人差があり作業がしづらいという指摘があったため、予習を必須課題とします。

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて授業の内容等は若干の調整をおこないます。

【Outline and objectives】
As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

EDU200MA

学校論Ⅲ（キャリア教育）　展開科目

児美川　孝一郎

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】
① キャリア教育とはなにか，その教育方法はいかにあるべきか，なぜキャリア教育が必要なのか等について，基本的な概念や考え方を理解する。
② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について，基本的な事実，データ，社会的背景等を知るとともに，現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
※ この授業の授業開始日は，4 月 21 日（火）3 限です。学習支援システムを活用したオンライン授業を行います。詳しくは，学習支援システムの本授業のページをご覧ください。（4.13 追記）
基本的には講義形式の授業としてすすめていくが，可能な範囲で，受講者からの質疑や意見を求めたり，コメントカードの記入を求めたりする。
諸外国におけるキャリア教育の展開について，比較研究的な視点を持つことは重要であるが，本授業の対象は，主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については，日本との対比において参考になる点を示唆するにとどめる。
本授業の守備範囲は，日本におけるキャリア教育の歴史，理論，政策，学校レベルにおける施策である。さらに実践的に，学校現場におけるキャリア教育をどうすすめていくかといったテーマに関しては，「学校論Ⅳ（キャリア教育）＜キャリア教育論Ⅱ＞」の受講を薦めたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに，基本概念である「キャリア教育」について，本講義における共通理解の前提を確かめる。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し，職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま，なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって，権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し，それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして，1990 年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして，政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し，その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて，現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について，現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について，現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて，学校の事例等も示しつつ，考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について，現状と課題を考察する。
13	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について，いくつかの事例を踏まえて，考察する。
14	これからのキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ，日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し，今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業内容については，前回授業時に予告されるので，自分なりの問題関心を深め，事前に資料・データ等を調べたうえで，授業にのぞむこと。
それぞれの授業時に紹介される参考文献については，自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
授業時にも，随時，紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
平常点（10 %）
ミニレポート，コメントカード等（30 %）
学期末試験またはレポート提出（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者に対するフィードバックを大切して授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用して授業を行う。ファイルは，授業支援システムを通じて配布する。

【その他の重要事項】
この授業は，情報の読解・分析力，課題発見・解決力の養成につながる諸課題を，授業運営の中に組み込んでおり，広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline and objectives】
This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

EDU200MA

学校論Ⅳ（キャリア教育）　展開科目

寺崎　里水

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校と社会の関係について教育社会学的な観点から学び、キャリアの多様性と今日的課題について考える。

【到達目標】
学校に主眼を置きながら、社会的な条件によってキャリア形成やキャリア教育の課題が多様であることを理解する。よかれと思ってしていることが、意図せざる結果をうむ可能性があることを理解する。官公庁統計を読むことができる。他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とグループワークを用いる。グループワークへの参加は単位取得のための必須条件とする。そのうえでグループごとにレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第 2 回	社会構造と私たち	「自分の考え」が社会や大人の受け売りになっている可能性に気づき、自分が当たり前だと思っていることを問い直すきっかけをつかもう。
第 3 回	教育と労働力	「規律正しい、訓練された、質のよい労働者」を育てるための学校教育、という目で学校を見てみよう。
第 4 回	グループワーク： 100 人の中卒者	官公庁統計データを使って自分自身のキャリアを振り返るグループワーク。
第 5 回	教育格差	地位達成ゲームの今日的状況を読み解こう。
第 6 回	都会と地方	地方にとどまる若者たちをきっかけに、トラッキングについて考える。
第 7 回	グループワーク：教育機会の格差とキャリア形成	官公庁統計をもとに教育機会やキャリア形成の格差について考えるグループワーク。
第 8 回	キャリアイメージの男女差	「男らしい」子育てと女性のフルタイム就労との関係を見てみよう。
第 9 回	学校内部メカニズム	学校のなかの隠れたカリキュラムと進路分化について考える。
第 10 回	グループワーク：男の子の国と女の子の国	子供の頃から見てきた「成功の物語」と現実のギャップを鋭くえぐろう。
第 11 回	小括	グループワークで出てきた論点を整理し、期末レポート執筆課題をみつける。
第 12 回	グループワーク①今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える。	グループごとの作業
第 13 回	グループワーク②今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える（続）	グループごとの作業の途中経過発表
第 14 回	発表とまとめ	グループワークの成果についてグループごとにレポートをまとめ、提出する。全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワーク課題に取り組むためには、一定の授業時間外の予習が必要である。事前に指定された準備をしてこないとグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
グループワーク 3 回 60 %、最終グループレポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
自分のすぐ隣にいるかもしれない「普通」の人が抱えているキャリア形成上の大きな問題について理解してください。

【Outline and objectives】
In this class we are going to learn about the relationship between school and society from the viewpoint of educational sociology and to consider the diversity of today's issues and careers.

EDU200MA

生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）

展開科目

笹川　孝一

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における「エゴイズム」と表現・自己表現
～自己肯定感を育む生涯学習社会を考える～
ego とはラテン語で「私」という意味で、「エゴイズム」とは私を軸にして他の人々との関係を作ること、自分だけでなく、全ての人の「私」を認めながら、「私たち」「社会」を作り出していくことである。
この「エゴイズム」の実現のためには、自己対話と他の人々との意思疎通のために、様々な自己表現を行い、他の人々と具体的な相互理解と協力を行うこと、そして、そのための技を磨くことが大切である。
現代人には「私を軸に社会を捉えること」と「社会を軸に私を捉えること」との両方が必要だが、「エゴイズム」を肯定できない雰囲気が日本や東アジア社会にあるために、自己肯定ができず、自分を社会的に展開することが苦手な人が多い。
この授業では、「エゴイズム」についての自分たちのイメージの共有を出発点としながら、歴史的・地理的なことがら、現代社会のさまざまなできごとについての理解を深めつつ、私を肯定して社会的に展開するための人々の歩みと、そのための自己表現のスキル、生涯学習社会の在り方について学ぶ。
これらを通して、他者と共に生きる主体としての豊かな自己形成を図る。

【到達目標】
現代社会の諸課題（倫理，社会，文化，政策など）を取り上げて，現代社会における、人間としての在り方生き方について学ぶ。
1) 私たちの表現活動の基礎に、私＝ ego・私たちの生活上の欲望、欲求、要求などの「自己主張」があることを学ぶ。
2)「エゴイズムは悪いこと」として自己主張が抑圧されがちであることと、それを変える努力について、日本や東アジアの実際に即して、歴史的背景と現状を学ぶ。
3) エゴイズムを基礎としながら私・私たちを社会的に展開するための「表現」と「学力」について、自分自身に即しながら考える。また、西欧や日本の先人から、倫理的な諸価値や音楽、絵画、小説、舞踊などのアートの変革について学ぶ。、
4) 以上を踏まえて、リテラシーの世界の広がりとその技法について、学校改革をふくめた生涯学習社会について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
必要な事項を教員が講義し、学生が討論し発表し、教員と意見交換する方法で授業を進める。
必要に応じて、小レポートを書く。
受講生が多い場合には、講義形式になることがある。
それについては、受講生と相談して決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要、進め方、ルール等について説明し、合意形成を図る。
2	講義①「エゴイズム」は悪か?	「私」を意味するラテン語である「エゴ」を踏まえたエゴイズムは、「自分の体をくぐらせて物事を認識する」上での基本であるが、日本や「東洋」ではそれが「悪いこと」「自分勝手」として抑圧されてきた。そのことによる、自己肯定感の弱さ、について検討する。
3	グループワークと発表討論①	一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
4	グループワークと発表討論②	グループの発表を行い、一人一人の感想をまとめる。
5	講義②エゴイズムを確立するための人々の努力	近代ヨーロッパや日本で、エゴイズムを確立するために努力したデカルト、福澤諭吉、夏目漱石、ピカソなどの人々から学ぶ。
6	グループワークと発表討論③	講義②を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
7	グループワークと発表討論④	グループごとに発表し、意見交換する。
8	講義③エゴイズムを抑圧してきた「分を守る」社会の伝統	江戸時代における「分を守る」社会政策、教育政策について、『ヨーロッパ文化と日本文化』『女大学』などに即して解説をする。
9	グループワークと発表討論⑤	講義③を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
10	グループワークと発表討論⑥	グループごとに発表し、意見交換する。
11	講義④私と人々、社会をつなぐ表現様式と、現代の学力、生涯学習社会。	ニューミュージック、J-Pop や自分史学習などに即して、自分と人々、社会をつなぐ表現方法や学力、リテラシー、コンピテンシーについて考える。
12	グループワークと発表討論⑦	講義に基づくグループワークを行う。一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
13	グループワークと発表討論⑧	グループ発表と一人一人の感想のまとめ
14	振り返りとまとめ	テストと成績評価について説明するとともに、授業の振り返りと、一人一人の認識変化について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自分自身の日常生活に即して、身体、言語、アート、モノづくりなど多様な表現方法について振り返りの習慣を身に着けるよう、心がけること。
・授業内容を把握するために、テキストや授業中に配布される資料を読み込むこと。
・受講生が多い場合には、講義形式にならざるを得ないので、その場合には、グループワークに替えて、小レポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
とくに、第Ⅱ部「リテラシー、コンピテンシー、生涯学習」

【参考書】
授業中に適宜紹介する。また、必要な資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（主体的な参加の姿勢など）20 %
・随時出されるレポートの提出とその内容　20 %
・定期試験の結果　60 %
とする。

【学生の意見等からの気づき】
市場経済社会に生きる人はすべて、「私」を意識し「エゴイズム」を基盤に置きながら生きている。それにもかかわらず、日本や「東洋」の歴史の特質によって、「エゴイズム」=悪、と思い込まされている傾向が強くある。その結果、自分の個人的な表現の世界と、普遍性の世界が分裂して、自己肯定感が弱くなっている傾向がある。このことを基礎にして、現代社会における、生涯学習、キャリアデザイン、社会的教育を再構築し、その中で、表現と学問運用能力としての「学力」についてとらえ直すよう、内容を精査した。
2016 年度の授業は、「常識」を覆す内容が多く「目から鱗」だったと、評価が高かった。今年度も、緊張感のある、知的刺激の多い授業を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフト・オフィス

【その他の重要事項】
この授業は、笹川が担当する「発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）」における該当部分の中級編なので、発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）を受講してあることが望ましい。
また、関連授業として「社会教育演習」（火曜 4 限）が設定してある。

【Outline and objectives】
Meaning of "ego-ism" and self-expression in the contemporary society

EDU200MA

生涯学習論Ⅰ（生涯学習支援論Ⅰ）

展開科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・生涯学習における学習支援は、公的社会教育に代表される専門職資格制度と社会教育施設の枠組みに依拠するとともに、社会に広く存在する学習機会においても重要な役割を果たしている。この授業では、社会教育関連法等に規定された代表的な社会教育専門職制度と社会教育施設の役割を学ぶとともに、地域づくりや社会問題解決の枠組みの中で実践されている学習支援のあり方について検討する。
主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】
社会教育・生涯学習における学習支援の本質と意義を理解し、社会教育・生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。
＊今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学習支援とは何か	社会教育・生涯学習における学習支援は、学校等の定型教育とどのような違いがあるのかについて考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令における学習支援の仕組み	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令における専門職制度や社会教育施設の役割について理解する。
第 3 回	社会教育主事制度	社会教育法に規定された社会教育主事資格について学ぶ。
第 4 回	公民館と公民館主事	公民館の特徴と公民館主事等の専門職の役割について学ぶ。
第 5 回	図書館と司書	図書館の特徴と専門職としての司書の役割について学ぶ。
第 6 回	博物館と学芸員	博物館の特徴と専門職としての学芸員の役割について学ぶ。
第 7 回	社会教育施設関連ボランティア	社会教育施設等におけるボランティアの現状とあり方について学ぶ。
第 8 回	社会教育施設における指定管理者制度	指定管理者制度のもとでの社会教育施設の現状と課題について学ぶ。
第 9 回	コミュニティセンター	生涯学習センターや生涯学習・コミュニティ施設のネットワーク化の現状を理解するとともに、施設の運営や職員をめぐる状況について学ぶ。
第 10 回	スポーツ・文化施設	スポーツ施設に関わる法と政策を踏まえてスポーツ施設の現状と多様化について理解するとともに、文化施設の現状と課題を指定管理者制度との関連を中心に学ぶ。
第 11 回	職業能力開発・職業訓練	職業能力開発・職業訓練関連の国際規定及び法令について理解するとともに、その現状と課題を規制緩和政策との関連で考える。
第 12 回	施設の管理運営と住民参加	社会教育・生涯学習施設の管理運営と住民参加の可能性について、指定管理者制度、自治体における施設再編、事業評価などの視点から考える。
第 13 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応
第 14 回	COVID-19 対応	COVID-19 対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社　2018 年

【参考書】
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所　2017 年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（ワークシートを含む）100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】
＊今年度は COVID-19 対応により 4/27 から online を使用して開講する。基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】
社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】
授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】
Learning support in social education/lifelong education plays significant role in the context of providing various learning opportunities. It relies on the system of professional qualification ran by the public social education and relies on the framework of social education institution. In this class, participants will learn the representative system of professional qualification prescribed to social education-related laws and will learn the role of social education institution. Participants will also discuss the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

EDU200MA

生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）

展開科目

笹川　孝一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習社会とグローバリゼーション
～アジア・太平洋学習権共同体を考える～
グローバリゼーションの中で生きる私たちは、一人ひとりの私＝ ego であるが、私は人々とのつながり、社会の中で展開して、初めてリアルな私になることができる。
「21 世紀はアジア・太平洋の時代」と言われているが、この地域では、生活文化の広い交流基盤と近隣諸国間での摩擦の歴史があり、プラスを生かしマイナスをプラスにしていくためには、人と人が触れ合う交流・理解・協力とそのための生涯学習の役割が大きい。
この授業では、世界や日本の歴史的・地理的なことがら、現代社会の諸事象について扱う。ユネスコが提唱する「学習権」を軸として、①それぞれの国の内部、②いわゆる先進国と発展途上国、③先進国同士、発展途上国同士、④ユネスコなどの国際機関の 4 分野における、交流と協力の現状と今後について学ぶ。
そして、社会的なことがらについて、自分の生活体験を踏まえながら、客観的で公正な見方や考え方と人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める。
以上をふまえて、東アジア・太平洋人として生きていく人々に必要な教養と、それを育む生涯学習社会について考える。

【到達目標】
日本やアジア、世界の形成について、歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。
1）グローバリゼーションの中でのアジア・太平洋の時代について学ぶ。
2) 生涯学習社会の生活基盤である、アジア・太平洋地域における生活文化の相互交流についての視野を養う。
3）この地域における摩擦と和解の歴史を知る。
4)「学習権」についての理解を深め、この地域での生涯学習とその交流の現状と課題を知る。
5)「アジア・太平洋人」として生きていく意欲と誇り、能力について理解し、「東アジア＝太平洋学習権共同体」を展望する。
6) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1） 教員が必要な講義を行う。
2）その際、必要な文献を配布するとともに、映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
3) グループワークを可能な限り取り入れるが、受講生の人数が多い場合には、講義が中心になることもある。
4) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する
2	講義①グローバリゼーションと「アジア・太平洋の時代」と生涯学習社会	現在進行中の「グローバリゼーション」について、北米、西欧、アジアを視野に入れながら解説する。そして、アジアが進んでいた農業革命の時代から、アジアがヨーロッパに従属した工業革命の時代を経て登場した「アジア・太平洋の時代」とそこにおける生涯学習の現状について、GNP、QOL、GNH を視野に入れて理解する。
3	グループワーク①	一人ひとりの経験を踏まえて、「グローバリゼーション」「国際化」「アジア・太平洋地域」認識を出し合い、整理する。
4	グループワークの発表①	全体で発表し、討議し、「アジア人として生きる誇り」の基礎を作る。
5	講義②東アジアにおける生活文化交流と摩擦の歴を考える。	水とリテラシーを軸とした東アジア地域の生活文化交流と「中華帝国」「アメリカ帝国」等による摩擦の歴史と現状を考える。
6	グループワーク②	文化交流と摩擦について、衣食住、音楽・絵画、言葉や文字、植民地統治の功罪などを視野に入れながら一人一人の経験や認識を出し合う。
7	グループワークの発表②	全体発表と討議によって、「東アジア・太平洋人」の誇りについて、認識を深める。
8	講義③ユネスコが提唱する学習権とそれを軸とした交流・協力活動を考える。	ユネスコの「学習権宣言」を学ぶとともに、実際の交流活動、協力活動を知る。
9	グループワーク③	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
10	グループワークの発表と討議③	全体発表と討議によって、アジア・太平洋学習権共同体をイメージする。
11	講義④アジア・太平洋人に求められる教養と学校を含む生涯学習社会。	オープンマインド、好奇心、知る努力、企画・実行力、言語能力などについて考える。
12	グループワーク④	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
13	発表と討議④	全体発表と討議によって、「私にできるアジア人の生き方と生涯学習社会」を考える。
14	振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、テストの内容と形式の説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活の中で、「グローバリゼーション」「国際化」「EU」「アメリカの変化」「アジア」「太平洋」関係のニュースや記事に注目する。
可能であれば、「アジア」「太平洋」地域の国へ行って、生活様式や言葉、音楽などの違いや共通点を感じ取る。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局　2014 年　第Ⅲ部第 3 章

【参考書】
山住正己編『教育と文化をつなぐ』国土社　2001 年
月刊社会教育編集部編『日本で暮らす外国人の学習権』国土社　1993 年
小林文人・伊藤長和・黄宗建編『韓国の生涯学習・社会教育』エイデル研究所　2004 年
日本社会教育学会編『国際識字の十年と日本の識字問題』　東洋館出版社　1991 年
同編『民族共生・多文化社会と生涯学習』　東洋館出版社　1995 年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（主体的な参加の姿勢など）20 %
・随時出されるレポートの提出とその内容　20 %
・定期試験の結果　60 %
とする。

【学生の意見等からの気づき】
・内容をできるだけわかりやすく講義する
・グループワークの活用
・映像や新聞記事の活用
・私語への厳しい対応
以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
マイクロソフト　オフィス

【その他の重要事項】
・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
・これを具体化するために、次のことを心がけてほしい。
a. いま世界で何が起きているかという想像力を働かせること。
b. 解らないことがあれば、その場で質問すること。
c. グループワークで、自分の疑問、アイディア、意見を出しながらながら、他の人の疑問、アイディア、意見にも耳を傾け、少数意見を排除せずに、全体をまとめるよう、心がけること。
d. 必要なことを調べ、よく準備してプレゼンテーションを行うこと。

【Outline and objectives】
Lifelong Learning and Globalization

EDU200MA

生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ）

展開科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に理解するために、「湿地」というフィールドを設定し、そこにおける湿地教育のあり方から学習支援の方法や課題を学ぶ。学習支援が持つ広がりと専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】
社会教育・生涯学習における学習支援の具体像を、フィールドの特性や地域・市民との関わりの中で理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に考えるために、それぞれの課題に即して調査し、実際の学習支援のあり方について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「社会に埋め込まれた学習」と社会教育・生涯学習	社会教育・生涯学習における「学習」の特質を考える。
2	SDGs と「湿地」というフィールドの意味	「湿地」というフィールドが SDGs においてどのような意味をもつのかを考える。
3	「湿地教育」という概念について	「湿地教育」という概念について、教育学的な意味を考える。
4	水のつながりに生きる学び	「水」をとおしてどのような学びが成立し、そこにどのような「つながり」が生まれるのかを考える。
5	CEPA における体験学習の役割	湿地の保全・活用における CEPA の意義を検討することを通して、体験学習の意味と支援について考える。
6	学校教育における海洋教育の展開	学校における海洋教育の実践を通して、学校教育における学習支援の方法について考える。
7	「海洋教育」という物語	気仙沼市を事例に、「海と生きる」ことの意味を問う学びについて考える。
8	タンチョウ保護と共生のための湿地教育	釧路湿原におけるタンチョウの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
9	ツルに関わる環境教育・活動の意義	出水市におけるナベヅル、マナヅルの保護活動を通して、湿地教育と学習支援について考える。
10	地域づくりと「湿地の文化」教育	「湿地の文化」という視点から地域づくり学習と学習支援のあり方について考える。
11	エコロジストが考える地域の人づくり	エコロジーと地域づくりという視点から、人材養成のあり方を考える。
12	「湿地」をめぐる多様な学習と学習支援	「湿地」というフィールドに存在する多様な学習のあり方を通して、その学習支援の意味について考える。
13	学習支援の「現場」について	社会教育・生涯学習において学習を支援する仕事において、「現場」（フィールド）がもつ意味について考える。
14	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
朝岡幸彦・笹川孝一・日置光久編著『湿地教育・海洋教育』筑波書房　2019 年

【参考書】
随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
テキスト等からの課題レポート（ワークシート）　80 %
平常点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
初年度授業のため、学生が提出する課題をもとに随時改善する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はない。

【その他】
授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline and objectives】
To make concrete and profound understanding of learning support, we will place “wetland” as a field to learn the method and problems of learning support. The course’s aim is to understand the expertness and extension of learning support.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅰ　　展開科目

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】
図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。
市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。
授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム（HULiC）を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループデスカッションなども取り入れる。
毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズやメディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。
(オンラインオンデマンド方式)
この授業は 4 月 28 日 1 限の時間帯 (8 ： 50) を初回開始とします。毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	課題　小レポート	最寄りの公共図書館と市ヶ谷図書館との比較
8	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	図書館の歴史 (日本)	近代図書館の制度化、日本の公立図書館 100 年
11	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
12	図書館の類縁機関・関係団体	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等
	図書館の課題と展望	図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポートに統合	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
塩見昇　編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】
高山正也、岸田和明　編集、『図書館概論』樹村房、最新版 (現代図書館情報学シリーズ)

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認アンケートクイズ（30 %）、課題レポート（20 %）、学期末レポート（50 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、しゃべる内容を精査したい。

【その他の重要事項】
本授業では、50 人収容の情報実習室で行われる。50 人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2 回目以降の受講は認めない。
最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline and objectives】
As the introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

FRI200MA

図書館情報学概論 I

展開科目

原田　隆史

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用，およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】
1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して，基本的な考え方・知識・技法，社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が，図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか，その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館・情報学とは何かについて，さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず，情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し，続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は，単に図書を集め，保存し，提供するという役割だけではなく，様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また，ネットワーク時代の図書館サービスも含め，実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディア	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史，図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
3	図書館の諸機能 (1)	間接サービス，テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
4	図書館の諸機能 (2)	直接サービス，レファレンスサービスについて説明していきます
5	図書館行政・図書館政策・図書館の管理と経営	図書館行政や図書館政策などについて説明します。 また図書館経営について考えるとともに，図書館業務の評価についても述べます
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規 (図書館法，著作権法など) について簡単に解説します
7	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに，図書館と出版流通の関係についても解説します
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します。
9	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに，図書館での資料の保存についても解説します
10	情報検索	情報検索の基本的な考え方について説明するとともに，それを実現する情報検索システムについても述べます
11	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス，ヤングアダルトサービスについて解説します
12	図書館の将来展望と課題	図書館の将来展望と課題
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を実際に使用したり，情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
逸村裕 (ほか) 編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

【参考書】
日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第 3 版 (丸善) など (必須ではありませんが，専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法については，後日，皆さんの履修状況を見てから決定いたします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業は 4/27 に zoom で行います。
zoom へのアクセス方法は，「学習支援システム」に掲示していますので見てください。

【Outline and objectives】
Basic knowledge on library and information science

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹　一信

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。
コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】
図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
コンピューター、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータと IT 機器の基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 コンピュータの歴史や種類などについて学びます
2	コンピュータの構成	・ハードウェアの構成、周辺機器の基礎について、実際に触れながら学びます。
3	ネットワークの基礎	・図書館に関わるコンピュータネットワーク ・LAN,WAN,WI-FI について
4	インターネットの基礎	・インターネットの歴史や技術 ・サーチエンジン ・Web、SEO、CSS について学びます。
5	データベース	データベースの概要と RDBMS について
6	図書館システム	現代の図書館業務を支える図書館システムについて、演習しながら学習します。
7	図書館業務と関連する各種の機器類	入退館システム、自動貸出機、バーコード、RFID などの関連する機器類について
8	各種メディアの特徴と保存	図書館で扱う旧来からのアナログメディア、現在のデジタルメディアについて実物を交えながら学習します。
9	デジタルアーカイブの構築と電子資料	・デジタルアーカイブの概要 ・デジタルアーカイブの作成技法 ・電子書籍などを学習します。
10	図書館の広報活動と情報発信の基礎	・図書館のウェブサイト構築の事情 ・ウェブと SNS などによる広報 ・ユニバーサルデザインについて
11	情報技術と利用者サービス	デジタルレファレンスサービス、SDI サービス、E-ラーニングなどの ICT を活用した利用者サービスについて学びます。
12	情報セキュリティとシステムの保守	・情報セキュリティの基礎 ・図書館における情報セキュリティ対策 ・組織及び職員の情報セキュリティ ・サーバ管理と保守
13	学校図書館の現状	学校図書館における ICT 活用の現状について
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1. 田中 均.　図書館情報技術論. 青弓社,　2019, 177pp.
ISBN 9784787200709

【参考書】
参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %　レポート課題 20%　期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
実際の機器類に触れる時間を増やし、理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。
情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。

授業は出席するだけではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】
In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.
In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

FRI200MA

図書館情報学概論 II

展開科目

原田　隆史

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・2　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術 (図書館システム，Web ページを用いた情報発信など)
3. データの管理を中心とした技術 (データベース管理システム，デジタルアーカイブなど)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し，取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に，どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館をとりまく多様な情報環境，各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず，コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後，図書館システムやデータベース管理システム，WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML，CSS, XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバリーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版，電子書籍	電子書籍について学ぶとともに，さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに，セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
杉本重雄編著. 図書館情報技術論 (現代図書館情報学シリーズ 3). 2014, 224p. ISBN: 978-4883672035

【参考書】
特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点　　0〜10%
　授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが，授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。
レポート　40%
　レポートを課す予定ですが，レポートを行わない可能性もあります。その場合には期末試験 100% とします。
期末試験　50〜60%

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【その他の重要事項】
寝ている場合や，授業に関係すること以外のことをするなどをしていることがわかった場合は，退室を求めることがあります。

【Outline and objectives】
1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

菅原　真悟

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。
1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】
図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの歴史。
第 4 回	ウェブ OPAC	ウェブ OPAC を用いた演習。
第 5 回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第 6 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 7 回	AI 時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第 8 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第 9 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 10 回	電子図書館 (2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第 11 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 12 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 13 回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第 14 回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。
http://lc.i.hosei.ac.jp/
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】
講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む）　30%
課題（授業中に課題を数回出す予定）　40%
期末レポート　30%
課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】
演習時間を増やしたいと考えています。また、授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
1. Computer and network
2. Technology related to libraries
3. Database
4. Network security
5. Information Technology and Society

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹　一信

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。
コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】
図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
コンピューター、インターネットを使用しながら講義と自宅での演習で進めます。
初回授業はガイダンスを中心に、4 月 25 日配信予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。
2	コンピュータと IT 機器の基礎 コンピュータの構成	・コンピュータの歴史や種類などについて学びます ・ハードウェアの構成、周辺機器の基礎について、実際に触れながら学びます。
3	ネットワークの基礎	・図書館に関わるコンピュータネットワーク ・LAN,WAN,WI-FI について
4	インターネットの基礎	・インターネットの歴史や技術 ・サーチエンジン ・Web、SEO、CSS について学びます。
5	データベース	データベースの概要と RDBMS について
6	図書館システム	現代の図書館業務を支える図書館システムについて、演習しながら学習します。
7	図書館業務と関連する各種の機器類	入退館システム、自動貸出機、バーコード、RFID などの関連する機器類について
8	各種メディアの特徴と保存	図書館で扱う旧来からのアナログメディア、現在のデジタルメディアについて実物を交えながら学習します。
9	デジタルアーカイブの構築と電子資料	・デジタルアーカイブの概要 ・デジタルアーカイブの作成技法 ・電子書籍などを学習します。
10	図書館の広報活動と情報発信の基礎	・図書館のウェブサイト構築の事情 ・ウェブと SNS などによる広報 ・ユニバーサルデザインについて
11	情報技術と利用者サービス	デジタルレファレンスサービス、SDI サービス、E-ラーニングなどの ICT を活用した利用者サービスについて学びます。
12	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。
13	。	。
14	。	。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1. 田中 均.　図書館情報技術論. 青弓社,　2019, 177pp.
ISBN 9784787200709

【参考書】
参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】
Web 小テスト 30%　期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
実際の機器類の動画を見る時間を増やし、理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。
抽選は行わない予定です。
学生の情報環境が整ってから、双方向の授業を目指します。

【Outline and objectives】
In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.
In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

EDU200MA

メディア教育論Ⅰ

展開科目

村上　郷子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】
多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における 4 つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。
グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
シチズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。
(可能であれば Zoom を使ったオンライン＋オンデマンド方式)
この授業は 5 月 7 日 4 限の時間帯 (15 ： 00) を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、 私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILE とシチズンシップ①	メディアの機能と多様性 (メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他)
4	MILE とシチズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会 (言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制)
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値 (なにがニュースになるのか)
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力 (ビジュアルの力)
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	課題	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	研究発表①　多様性	多様性に関するテーマのメディア分析 グループ発表 (1)、全体討論
11	研究発表②　若者とシチズンシップ	若者とシチズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (2)、全体討論
12	研究発表③　プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (3)、全体討論
13	課題に統合	課題に統合
14	課題に統合	課題に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人の課題（分析）提出物（30 %）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（20 %）、個人レポート（50 %）によって総合的に評価する。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。具体的な方法と基準は、授業開始日後のメディア環境によって変更もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】
グループ学習でのコミュニケーションツールとして、CQ コモンズのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINE の活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ (メディアと教育Ⅱ)」をセットで履修することが望ましい。
本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。
最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。
最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。
状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】
Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that is based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debates in a group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.

EDU200MA

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】
デジタルストーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における４つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際を学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3 回目の授業でアンケート調査を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス 、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情報的テクストのなかのコードときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告② グループ分けを決める	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA) とはなにか (分析と企画)
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動 (絵コンテ、ストーリー展開)
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）
11	課題発表①	課題のグループ発表 (1)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）
12	課題発表②	課題のグループ発表 (2)、全体討論
13	課題発表③	課題のグループ発表 (3)、全体討論
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。
　パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】
必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）(30 %)、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業への参加・出席（30 %)、個人レポート（40 %）によって総合的に評価する。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで５回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として０とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
　全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (CQ Commons) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、０になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】
基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】
・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。
　本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。
　最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。
　最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。
　状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】
Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.　Producing DST videos through group activities, students acquire the frame of “5Cs” in media and information literacy such as critical thinking, creation, communication, collaboration and global citizenship.

EDU200MA
【2013 年度以前入学者用】教育マネジメントⅡ 展開科目

EDU200MA
【2014 年度以降入学者用】教育マネジメントⅡ 展開科目

福畠　真治

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとでの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 3 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック
第 4 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シューレ
第 5 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 6 回	発表の準備	発表項目の説明、調査対象の選定・発表までの行程表作成
第 7 回	チーム発表(1)	教育産業
第 8 回	チーム発表(2)	教育 NPO、法政大学
第 9 回	企画書・現地調査の方法	企画書の書き方・質問項目の検討
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	個人研究の報告会(1)	教育産業
第 13 回	個人研究の報告会(2)	教育 NPO、法政大学
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表 (40 %)、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・配布した資料を基に、口頭でその説明を行っていく形式が多かったが、より理解しやすくなるよう、スライドや映像資料を積極的に用いながら授業展開していくことを心掛ける。
・どの回においても、適度にグループワークを挟みながら進めており、学生からもおおむね好評であったため、ワークの内容を細かく変えながら、今後も続けていく。

【Outline and objectives】
You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character ?”.

EDU200MA
【2014 年度以降入学者用】教育マネジメントⅡ 展開科目

EDU200MA
【2013 年度以前入学者用】教育マネジメントⅡ 展開科目

福畠　真治

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとでの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】
教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 3 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック
第 4 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シューレ
第 5 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 6 回	発表の準備	発表項目の説明、調査対象の選定・発表までの行程表作成
第 7 回	チーム発表(1)	教育産業
第 8 回	チーム発表(2)	教育 NPO、法政大学
第 9 回	企画書・現地調査の方法	企画書の書き方・質問項目の検討
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	個人研究の報告会(1)	教育産業
第 13 回	個人研究の報告会(2)	教育 NPO、法政大学
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表 (40 %)、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・配布した資料を基に、口頭でその説明を行っていく形式が多かったが、より理解しやすくなるよう、スライドや映像資料を積極的に用いながら授業展開していくことを心掛ける。
・どの回においても、適度にグループワークを挟みながら進めており、学生からもおおむね好評であったため、ワークの内容を細かく変えながら、今後も続けていく。

【Outline and objectives】
You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character ?”.

EDU200MA

教育政策

展開科目

村上　純一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察し、理解を深めていきます。

【到達目標】
以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。
1）今日の教育政策における課題・問題点
2）公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
3）個々人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式中心で進めますが、質疑の時間やリアクションペーパーなどを活用し、受講生同士でのディスカッションの時間を設けるなど、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も活用し、視聴覚教材を通した理解の深化も図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第 2 回	キャリア教育政策概観	現代日本におけるキャリア教育政策の展開を、その時々の課題と合わせて考察する。
第 3 回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第 4 回	教育課程政策	戦後日本の学習指導要領の変遷や小中／中高一貫教育、教育特区などを考える。
第 5 回	学校と社会との連携・協働	地域住民の学校参画をめぐる政策動向を理解する。
第 6 回	教員の人事・養成政策	教員の養成・研修に関わる制度や教員免許更新制などについて考える。
第 7 回	教育財政	義務教育費国庫負担など、教育をめぐる財政的諸問題を考える。
第 8 回	学校統廃合政策	学校統廃合を素材に、少子化時代の学校教育のあり方を考える。
第 9 回	高校多様化政策	SSH や SGH など、高等学校を舞台とした昨今の政策動向を理解する。
第 10 回	学力テスト政策	全国学力テストや国際学力調査を踏まえ、今日求められている「学力」の在り方を考える。
第 11 回	大学改革・高等教育政策	大学入試改革や大学でのキャリア教育などを素材に、今日のあるべき高等教育像を考える。
第 12 回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第 13 回	安全教育・防災教育	教育現場の「安心・安全」を保つための政策上の工夫や課題を考える。
第 14 回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1 冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。各回、プリント資料を配布します。

【参考書】
配布資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】
毎回、授業の最後にはリアクションペーパーの記入を求めます。成績評価はリアクションペーパー 40 %、期末課題 60 %で行います。期末課題は期末試験の実施を予定していますが、受講者数によっては期末レポートに代える場合もあります。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーでいただいたご意見は翌週の授業でご紹介し、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。前年度の授業アンケートでは、「配布資料の分量が多いときにどこを参照しているのか分からなくなってしまうときがある」、「板書する事項を増やして、今どの部分が説明されているのか分かりやすくしてほしい」といったご意見を主に頂戴しました。板書の工夫も含め、受講生にとって理解しやすいスピード・ボリュームでの授業を心掛けていきたいと思います。

【Outline and objectives】
It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education.
Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

EDU200MA

現代教育思想

展開科目

岩本　俊一

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】
一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに　－本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	序論 －教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第 3 回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第 4 回	現代社会における教育の諸問題 (1) －「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第 5 回	現代社会における教育の諸問題 (2) －公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第 6 回	現代社会における教育の諸問題 (3) －「特別の教科　道徳」の問題	上記５を踏まえ、「特別の教科　道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第 7 回	現代社会における教育の諸問題 (4) －教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題－日本における教員養成政策の変質について論じる。
第 8 回	教育におけるヒューマニズムの探究 (1) －近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第 9 回	教育におけるヒューマニズムの探究 (2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第 10 回	教育におけるヒューマニズムの探究 (3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第 11 回	教育における体罰の問題 (1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論―体罰は教育的情熱の発露である―の本質的問題点について論じる。
第 12 回	教育における体罰の問題 (2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第 13 回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第 14 回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しない。

【参考書】
参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験 100 %で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】
In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.
The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

EDU200MA

生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ） 展開科目

森本　扶

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代において、人々の学びの場や機会は大きく広がっている。学校教育がとらえる学習概念を超えて、生涯を通じた大人による学びの場づくりが、現代的課題（市民参画、識字、多文化共生、環境問題など）に対応するために不可欠となっている。授業では、現代的課題に対応する大人の学びの場づくりの諸相について理解し、その問題解決に向けて、社会教育・生涯学習がもつ可能性について考察していくことを目的とする。

【到達目標】
社会教育・生涯学習にまつわる現代的問題群を把握し、社会教育・生涯学習行政・制度がそうした問題にどのように対応してきた（している）のかを理解し、さまざまな社会教育・生涯学習実践がもつ意義や課題について解釈できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は「5 月 7 日（木）」とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。ただしその方法は、授業を進める中で必要に応じて変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	大人の生活とボランティアによる学習	物質的豊かさから精神的豊かさへ、学習・文化活動の広がり、ボランティア活動への関心の広がりとボランティア学習など
第 3 回	市民参画型社会とボランティア・NPO・NGO	市民セクターへの注目と NPO の登場・その実態と課題、グローバル化社会における NGO の役割など
第 4 回	企業内教育やリカレント教育による人材開発と生涯学習	OJT・Off-JT・自己啓発、学び直しとリカレント教育の現代的意義など
第 5 回	社会貢献活動を通した生涯学習	企業労働とは異なる体験を求める会社員たちの姿
第 6 回	教育の「保障」・「補償」としての識字教育	国際的な識字問題の背景と現在、（自主）夜間中学という場の意味など
第 7 回	多文化共生・地域国際交流が切り拓く未来	在留外国人の増加と多国籍化、グローバル化社会と地域国際交流という課題、多文化共生教育の取り組みなど
第 8 回	識字教育や多文化共生・地域国際交流の取り組み	（自主）夜間中学の実際の取り組み、地域国際交流の実際の取り組み
第 9 回	環境問題と持続可能な社会づくりのための生涯学習	発端としての自然保護教育、公害問題学習と環境教育、環境教育思想の国際的展開、今日的環境教育の展開など
第 10 回	大人の学びと開かれた大学	University extension の歴史的伝統、生涯学習社会における高等教育機関の役割、開かれた大学と地域づくりの可能性など
第 11 回	地域における社会教育施設の役割	多様化する学習施設の現状 公民館・図書館・博物館の歴史・役割
第 12 回	学芸員による学びのプロデュース	資料収集、研究、展示のプロとしての学芸員の姿、文化の発信から交流の拠点としての博物館の模索
第 13 回	ワークショップ：意見表明スケール	対話型授業：これまでの授業内容をふまえて論点を抽出し、より深く議論する
第 14 回	授業内テストと全体のまとめ	授業内テストの実施後、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関わって自らの意見を明確にしておき、最終的にワークショップ・期末テストに反映させる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会
川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木眞理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育 1 〜 7』学文社
佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木眞理・梨本雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典 （2017）『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業を進めていく中で、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【Outline and objectives】
In the present age, people learning places and opportunities are spreading widely. Beyond the learning concepts that school education catches, the creation of a place for learning by adults throughout their lives is essential to respond to contemporary issues. In the class, we aim to understand the various aspects of adult learning places to respond to contemporary issues, and to consider the possibility of social education and lifelong learning towards solving the problem.

EDU200MA

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ） 展開科目

朝岡　幸彦

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システム的理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】
成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・生涯学習の講座	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
3	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
4	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習①	S. ビンカーらの思想を手がかりに、現代社会の課題と「進歩」について考える。
5	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習②	SDGs とその背景を学ぶことで、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
6	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習③	SDGs ゴール１「貧困をなくそう」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
7	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習④	SDGs ゴール２「飢餓をゼロに」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
8	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑤	SDGs ゴール３「すべての人に健康と福祉を」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
9	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑥	SDGs ゴール５「ジェンダー平等を実現しよう」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
10	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑦	SDGs ゴール６「安全な水とトイレを世界中に」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
11	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑧	SDGs ゴール４「質の高い教育をみんなに」の視点から、これまでのレポートクリニックを行う。
12	講座のつくりかた③	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
13	講座のつくりかた④	幅広く伝える広報・宣伝の方法について考える。
14	教室内期末レポート作成	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。
授業後半に地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
阿部治・野田恵編著『SDGs の教育Ⅰ　貧困・食料・健康と福祉・ジェンダー・安全な水』学文社　2019 年

【参考書】
朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社　2013 年
社会教育推進全国協議会『社会教育の “しごと”』　2005 年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社　2009 年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社　2006 年

【成績評価の方法と基準】
テキストから課題レポート（ワークシート）　40 %
学習プログラム作成　40 %
学習プログラムのポスター作成　10 %
期末レポート　10 %

【学生の意見等からの気づき】
実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はない。

【その他の重要事項】
学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】
授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline and objectives】
Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.

HIS200MA

学習の社会史Ａ

展開科目

山口　真里

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・2** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもはいつの時代も存在するが、子どもへのまなざしや把握の仕方は、時代や社会により異なる。同じように、子どもにどのような学びが促され、それをどこでどう行うかも多様であり、例えば、西洋や日本において学校がその中心を担うようになるのは、近代になってからのことである。
この授業では、西洋教育史をベースに、どのようなまなざしが子どもに向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し、発展してきたかを検討する。そして、それらの歴史と私たちの社会で常態化している子ども観や教育、及び、それらが抱える問題との関わりへ考察をすすめ、各自がその意味を相対化し、未来を構想する視点を得ることを目指す。

【到達目標】
西洋における子ども観や学びのありかたの変化を、その背景にある歴史事象と共に説明できる。
授業で学んだことと関連付けて、現在の教育問題を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・指定教科書は使わないが、適宜提示する関連文献と配布資料をもとに講義する。
・必要に応じてグループディスカッション等も行う。
・テーマの終わりにはワークシートで知識の定着をはかる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけ 女子の教育
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校の抱える諸問題 子どもをとりまく諸問題と子ども観の変容
第 14 回	振り返りとまとめ、試験	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の中で紹介する参考文献や配布プリントを読み、理解を深める。
必要に応じて、ワークシートを宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、適宜提示する。

【参考書】
特に指定しないが、適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献・平常点 20 %、ワークシート 20 %、筆記試験６ 0 %を基準に、総合的に評価する。なお、総授業回数の２／３以上の出席を単位取得の要件とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートから、受講生からのフィードバックを重視した授業運営を引き続き工夫していきます。

【Outline and objectives】
Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role.
In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.
Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.
And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

HIS200MA

学習の社会史Ｂ

展開科目

寺崎　里水、金山　喜昭

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学校教育と社会教育に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。
日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
あらかじめ指定した文献や資料をもとに、学習支援システムを活用したオンデマンド型の講義を行います。
日本史、日本教育史の基礎的な知識の確認および講義内容の復習を兼ねて、あらかじめ予告した回の授業内で、学習支援システムのテスト機能を用いた小テストを行います。初回授業は４月２２日です。
学校教育を中心とした事象については寺崎が、社会教育を中心とした事象については金山が担当します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのか考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	大衆と教育①	学習する集団の誕生について、博物館を事例に思想や制度の誕生について学ぶ。
第 11 回	大衆と教育②	学習する集団の誕生について、日本の博物館史を学ぶ。
第 12 回	大衆と教育③	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 13 回	大衆と教育④	日本の博物館の制度と発展について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システム上に PDF でアップされた指定文献の精読が必須です。
また、日本史の基礎的な知識が必要なので、各自で高校までの内容を復習しておいてください。
この科目は、新しい概念やものの考え方、背景となる歴史的な事象に関する知識の修得を目的としているため、講義内容に関する復習が欠かせません。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の振り返り小テスト、課題等 60 %、試験もしくは最終レポート 40 %（試験を予定していますが、社会状況により、レポート提出に変更されることがあります。その場合は授業内でアナウンスします。）

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline and objectives】
This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, community and family.

EDU200MA

教育社会学 I

展開科目

筒井　美紀

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このクラスでは、「教育を教育のなかだけで考えない」発想力と、それを支える知識・理解力をパワーアップし、自他のキャリアデザインについて自信をつけます。しかるべき知識と理解力を地道に身につけないと視野が広まらず、どこか自分に自信がないまま。これは多かれ少なかれ、多くの人に当てはまる。そんな自分の殻を突き破ろう。

【到達目標】
・「教育のべき論」に飛びつかない――社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
・「社会」のパーツを掘り下げる――「社会」とは天下国家とは限らない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI 化・・・大事な知識と理解を身の回りのことから徐々に広げ、教育と結びつけて考える力を養います。
・どんな社会で生きてゆきたいか――自分なりのビジョンを創り上げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【以下、コロナ対応・改訂済み】
私の授業は、オンライン形式になっても反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメの Question を毎回こなして「授業を受ける」こと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではありません。それを発展させ深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第 2 回	中学校長「二人以上産む最も大切」–どう思う？	社会科学の表現作法を理解する
第 3 回	ダメダメ ES に「ツッコミ」を入れる（第 2 章）	ディテールに普遍性が宿ることを理解する
第 4 回	わが子を未熟にする大人（第 3 章）	「親を突き放す優しさ」について考える
第 5 回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	教育・躾と内的規準の関係を考察する
第 6 回	「キャリア教育」とどう付き合うか？（第 1 章）	キャリア教育の社会的背景を理解する
第 7 回	学部と職業は関係あるの？（第 4 章）	労働と生活の基礎用語を知る
第 8 回	給料 2 割減、週 20 時間労働を選ぶ？（第 4 章）	ワーク・ライフ・バランスを実存から考える
第 9 回	どうしても働かなきゃダメ？（第 5 章）	「労働の道徳化」について理解する
第 10 回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？（第 6 章）	AI の社会的インパクトを考察する
第 11 回	社会には扶けてくれる他者がいる（第 7 章）	支援機関の知識を得て、背負える分だけ背負えばよいことを理解する
第 12 回	期末レポートに向けて	データの調べ方を中心に学ぶ
第 13 回	＊＊＊	＊＊＊
第 14 回	＊＊＊	＊＊＊

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。予習レジュメの Question ををこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン――就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】
筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】
中間レポートその 1 が 20 %、中間レポートその 2 が 20%、期末レポートが 80 %

【学生の意見等からの気づき】
緊急事態により授業形態が大きく変わりますが、みなさん、一緒に楽しみましょう。

【Outline and objectives】
In this class the students are to learn "not to think about education only within education" and to master basic understandings of relevant knowledge and concepts, in order to be condident of career design. Let's get breakthrough.

EDU200MA

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井　美紀

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
周知のとおり日本社会では、教育・福祉・労働・生活をはじめとしたさまざまな領域で、歪み・軋みが生じています。では一体、どのように再創造していけばよいのでしょうか。現在、自治体と地域が、就労困難者に対してどのような支援や教育訓練を展開しているのかを具体的に学ぶなかで、それをデザインしてゆきます。

【到達目標】
就労困難者への支援や教育訓練というと、「どんなふうに接したら／教えたらよいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に知恵を絞らなくてはならないのは、人・モノ・かね・情報といった諸資源をどのようにネットワーク化すればよいか、です。このクラスでは、ミクロな次元から、ビジネスや NPO や地域社会、組織や制度へと視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、最初の 1/5 が前回リアペへの回答・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 がミニ発表と筒井の発展的解説、というスタイルです。毎回、ざっくりとした予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	森全体を見渡す日
2	自治体による就労支援とは何か	筒井・櫻井・本田編著（2014）の序章を読み、左記を理解する
3	国の福祉政策・労働政策はどう変わってきたか	筒井・櫻井・本田編著（2014）の第２章を読み、左記を理解する
4	シングルマザーを支援する飲食店	前掲書の第９章を読み、福祉と経営を「両立」させることについて議論する
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第３章第３節を読み、生活保護受給者への就労支援について議論する
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるかを理解する
7	就労支援の民間委託	前掲書の第４章を読み、就労支援の民間委託について議論する
8	豊中市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第８章を読み、自治体の福祉部門と労政部門の連携の難しさについて議論する
9	就労支援者の次世代育成	筒井（2015）のクリティカル・レビューを書き、左記について議論する
10	就労支援の「出口」をどう創るか	前掲書の第７章を読み、中小企業支援について理解する
11	高齢者と生きづらい若者とをつなぐ	前掲書の第５章を読み、協同労働について議論する
12	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	前掲書の序章を読み、左記について考察を深める
13	誰もが働き、生きていける社会とは	前掲書の終章を読み、左記について議論する
14	試験の傾向と対策	データ読解に基づく考察展開の書き方を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回１章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す――自治体と地域の取り組み――』勁草書房。
筒井美紀（2017）「就労支援の「出口」開拓に資する地域資源の組織化――西岡正次氏（元・豊中市労働担当理事）のオーラル・ヒストリーに基づく考察―」『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.14 No.2, pp.3-18.

【参考書】
授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】
筒井（2015）のクリティカル・レビュー 20 %（添削して全員返却）、期末論述試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】
毎年この授業の履修者は、将来、教育や支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人――などが多いです。

【Outline and objectives】
The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life. Then, how should recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for support of the people with difficulties in work.

EDU200MA

教育経済学

展開科目

荒木　宏子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とする。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？ なぜ政府は税金を用いて学校を運営するのでしょうか？ 大学の学費を無償化すると何がおこるのでしょうか？ 皆さん自身や、さらに次の世代の学び方に係るこれらの問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

【到達目標】
本講義の主な到達目標は２つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方、分析の仕方を身につけ、教育のみでなく広く社会問題を論理的に考察する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
座学（インプット）に限らず、皆さんからのコメント発表、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを、受講人数に応じて取り入れることを検討しています。座学形式の講義の回も、基本的には演習問題やリアクションペーパーの提出を求めます。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を決断して頂きたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	教育を経済学で考える。受講希望理由書の提出。
第 2 回	教育の経済学のはじまり	経済発展と人的資本理論。
第 3 回	教育・学歴の経済学的効果（1）	なぜ大学へ行くのか？「消費」と「投資」。
第 4 回	教育・学歴の経済学的効果（2）	あなたの大学進学が、「あなた」や「社会」にもたらす経済学的メリット。
第 5 回	教育・学歴の経済学的効果（3）	なぜ大卒者の所得は中高卒者より高いのか？ 経済学的概念からその理由を考える。
第 6 回	大学教育と仕事の経済分析（1）	大学教育、職場や社会での学びが仕事や働き方に与える影響。
第 7 回	大学教育と仕事の経済分析（2）	日本、世界における実証研究の紹介。
第 8 回	コメント発表、討論	講義前半の論点、トピックに係るコメント発表や討論など。
第 9 回	教育政策の経済学的評価（1）	二つの評価基準：効率性と公平性。
第 10 回	教育政策の経済学的評価（2）	教育の効果とは何か？ 学力の伸びとは何か？
第 11 回	教育政策の経済学的評価（3）	日本、世界における実証分析の紹介① カリキュラム効果、少人数学級。
第 12 回	教育政策の経済学的評価（4）	日本、世界における実証分析の紹介② 学費無償化、教育バウチャー。
第 13 回	教育は何をもたらすのか？	教育への公費支出の意義、教育費支出の国際比較、教育が社会の効率・公平にもたらす影響。
第 14 回	期末試験　まとめ	期末試験　まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定であるが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。
・講義で取り上げた内容に関わる論文、新聞や学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・グループ討論を開催する場合は、授業時間外にその準備を行うことを前提とします。具体的には、討論の論拠として必要となる資料、自身の主張をまとめたメモ、想定問答の作成などの作業を含みます。他の受講者と協力して課題に取り組む姿勢が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに用いない。

【参考書】
授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 45 %程度（コメント・発表・討論への積極的な参加、講義内での演習問題やリアクションペーパーへの回答）
期末試験： 55 %程度

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。よって、履修希望者は、第 1 回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（当日配布）を提出してください。第 1 回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメールにて連絡をください。hiroco.araki@keio.ac.jp

【Outline and objectives】
In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of schools with taxes? What would happen if education became free for everyone? Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

MAN200MA
キャリア研究調査実習 C(データで語るキャリア)
展開科目

久保田　貴文

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業を通じて，就業を中心とする働くことに関する調査の実施方法について理解すると同時に，自分自身で調査を計画実施する際に必要なスキルを修得する。この授業では，既存の調査票を参照しながら，調査票の設計方法，対象者の選定や回答依頼方法，分析方法，考察，まとめまでの一連の作業についてレクチャーし，その一部を体験することを通じて，量的調査のノウハウを身につける事を目標とする。

【到達目標】
（1）先行研究の調べ方，仮説・リサーチクエッションの立案ができるようになる
（2）調査票を作成できるようになる
（3）簡単なデータ分析ができるようになる
（4）得られた結果を報告出来るようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進めるパートと，個人またはグループでの実習形式で進めるパートで構成される。講義では調査を実際に行う際に必要となるスキルをレクチャーし，その一部について実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方ならびに調査の概要を紹介する。
第 2 回	調査の課題設定	問いを設定し、答えを見つけるためのリサーチの計画を概観する。
第 3 回	ソースの活用	3 種類のソースとその利用、インターネットの利活用について学修するとともに、データを入手する際の倫理観などについても習得する。
第 4 回	就労に関する二次データの分析（1）単純集計	集計によって集団の特色や傾向を把握し、質的データの単純集計を行う。
第 5 回	就労に関する二次データの分析（2）単純集計の視覚化	度数分布表により単純集計の分布を把握し、段階評価データの集団の傾向についても視覚化する。
第 6 回	就労に関する二次データの分析（3）クロス集計と視覚化	クロス集計によって２つの質問項目の関係を把握し、グラフにより視覚化を行う。
第 7 回	就労に関する二次データの分析（4）レポート1	質的データの分析について、特に２つの関係についてレポートを課す。
第 8 回	議論と主張の信頼性	分析結果等から議論するための、主張を組み立てる方法について学修する。
第 9 回	理由・エビデンス・論拠	議論を主張するための、論拠をしめす方法について学修する。
第 10 回	調査計画の立案（1）	グループごとにもしくは個人にて、リサーチクエッションから仮説の構築を行い、調査票の作成について導入する。
第 11 回	調査票の立案（2）	調査票を作成し、サンプリングを含めた調査計画全般の立案を行う。
第 12 回	就労に関する二次データの分析（5）代表値・ちらばり	量的データの単純集計により、平均・中央値・最頻値等の代表値で理解し、分散・標準偏差によりばらつき具合を把握する。
第 13 回	就労に関する二次データの分析（6）相関分析、回帰分析、レポート2	質的データと量的データの連関について調べ、２つの量的データの相関について、さらには関係式によって２つの項目間の関係について把握する。
第 14 回	プレゼンテーション	分析結果についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 4 回から第 7 回までおよび第 11 回、第 12 回は情報機器を使った実習を行うため，授業後に実施内容について復習等が必要である（約 4 時間）。また，毎回の授業において次回の実施内容を説明するので，必要に応じて準備学習を実施すること（約 2 時間）。

【テキスト（教科書）】
指定しない。必要に応じて授業内で指示する。

【参考書】
・リサーチの技法 / ブース, ウェイン・C.、コロンブ, グレゴリー・G.、ウィリアムズ, ジョセフ・M.、ビズアップ, ジョセフ、フィッツジェラルド, ウィリアム・T.
・実例でよくわかるアンケート調査と統計解析 / 菅民郎

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 50%
レポートや課題の提出： 50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を利用した授業であるが、持参の必要性については初回の授業にて指示する。

【その他の重要事項】
初回の授業に必ず出席のこと。

【Outline and objectives】
Through lecture, learn how to conduct surveys related to carrier mainly in employment, and at the same time, acquire the skills necessary to plan and conduct research yourself. In this class, lectures will be given on a series of tasks from the design of the questionnaire, the method of selecting subjects and requesting answers, analysis methods, consideration, and summarization, while referring to the existing questionnaire, and experiencing some of them. Through this, the goal is to acquire the know-how of quantitative research.

MAN200MA

キャリア研究調査実習Ｄ（仕事とビジネスの質的研究）

展開科目

山口　塁

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査をもとに研究を行う際は、事前の十分な準備と適切な手法・調査対象の選択、そして調査結果の丁寧な解読が必須です。本授業では企業インタビューを実際に行いながら質的調査の一連のプロセスのすすめ方を習得し、産業・労働分野での質的調査の活かし方を学びます。

【到達目標】
①企業インタビューを実際に行いながら、質的調査の一連のプロセスのすすめ方を習得する。
②産業・労働研究での質的調査の活かし方を学ぶ。
③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための、より実践的な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
実習を中心に、講義を交えながら授業を進めます。講義では、質的調査の基本を理解し、産業・労働分野での優れた研究から質的調査の活かし方を学びます。実習では、調査に向けた準備を行い、実際にインタビュー調査をしたうえでその結果をまとめ、はじめに設定した調査テーマや明らかにしたいことと照合しておおまかな結論を導くまでの、一連の質的調査のプロセスを積み重ねます。実習では「日本企業における外国人労働者の活用」を調査テーマにして、企業や自治体等の関連機関にインタビューを行う予定です（※受講者の問題関心に応じて調査テーマを変更することもあります）。インタビューは担当教員を含めたグループ単位で、対象企業等を訪問して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標等の説明、調査テーマの確定とスケジュールの確認
第 2 回	質的調査の概説	社会調査と質的調査、質的調査の概説（講義）
第 3 回	質的調査の準備（1）	関連する先行研究の紹介と検討（講義）
第 4 回	質的調査の準備（2）	関連する制度の確認、既存の統計資料の整理（実習）
第 5 回	質的調査の準備（3）	調査対象の選定、調査趣旨書と質問票の作成（実習）
第 6 回	質的調査の活かし方（1）	産業・労働分野での、質的調査を用いた古典的な研究事例の紹介（講義）
第 7 回	質的調査の活かし方（2）	産業・労働分野での、質的調査を用いた現在的な研究事例の紹介（講義）
第 8 回	質的調査の実践（1）	質的調査の実施：対象地域の実状を把握するためのインタビュー調査（実習）
第 9 回	質的調査の実践（2）	質的調査の実施：対象産業の実状を把握するためのインタビュー調査（実習）
第 10 回	質的調査の実践（3）	質的調査の実施：企業へのインタビュー調査（実習）
第 11 回	質的調査の記録（1）	調査から得た情報をもとに、記録文書を作成（講義＋実習）
第 12 回	質的調査の記録（2）	作成した記録文書を報告し、共有（実習）
第 13 回	質的調査のまとめ（1）	調査テーマや準備段階で得た情報と記録文書の照合（実習）
第 14 回	質的調査のまとめ（2）	調査のプロセス全体から得た知見のまとめ（実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査の準備（対象地域や企業に関する下調べ）と調査の記録文書の作成、調査のとりまとめを行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（「授業時間外の学習」の成果）50 %、平常点（とくにインタビューの場での適切な態度）50 %。

【学生の意見等からの気づき】
参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
この授業は，受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合，抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】
In this class, we learn to make processes of the qualitative surveys through experiencing interviews with employers. Additionally, we receive lectures about how to reflect the results of the qualitative surveys in studies among labor-management relations. In interviewing, we plan to clarify the employment and utilization of foreign workers in Japanese firms. Finally, we will be able to acquire more practical ability for quantitative surveys: prepare carefully, choose ways properly and analyze the results of the surveys in a polite way.

MAN200MA

外書講読Ａ（ビジネス）　展開科目

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、一人で英語文献を読むのに必要な力を養うことを目的とします。

【到達目標】
英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ビジネスキャリアに関する文献を読んでいきます。経済の基礎概念、および、日本の戦後経済史に関する平易な文献を読みます。さらに、多角化経営関連する米国の実証研究の文献を読んでいきます。実証の研究論文は、通常、①イントロダクション、②先行研究、仮説、③データの説明、④検証デザインと結果、⑤結論で構成されますが、これらのうちの前半部（いわゆる Front-ends）に限定して読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。また、受講者の英語能力を評価します。
2	Supply and Demand (The World of Economics)	"Supply and Demand"に関する文献を読みます。
3	Japanese Economy(1)	pp. 5-8 を読みます。
4	Japanese Economy(2)	pp. 8-14 を読みます。
5	Japanese Economy(3)	pp. 19-23 を読みます。
6	Japanese Economy(4)	pp. 23-32 を読みます。
7	Japanese Economy(5)	pp. 37-43 を読みます。
8	Japanese Economy(6)	pp. 49-56 を読みます。
9	Japanese Economy(7)	pp. 56-67 を読みます。
10	Berger and Ofek(1995)(1)	多角化の理論を勉強した上で、最初の 1 頁を読みます。
11	Berger and Ofek(1995)(2)	次の 1 頁を読みます。
12	Berger and Ofek(1995)(3)	最後の 2 頁を読みます。
13	Berger and Ofek(1999)(1)	最初の 2 頁を読みます。
14	Berger and Ofek(1999)(2)	後半の 2 頁を読みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業における発表、提出物等）と定期試験によって総合的に判断します。ただし平常点に比重を置き、最終授業における試験の比重は低いです。

【学生の意見等からの気づき】
文献を和訳するだけでなく、英会話に関する話題（日本人として使いやすい表現など）も積極的に取り上げ、英語に親しむ機会を提供したいと思います。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】
・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。
・受講希望者が多い場合には、抽選等により受講者を制限します。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline and objectives】
If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, we aim to cultivate the power needed to read the economic literature written in English alone.

MAN200MA

外書講読Ｂ（ビジネス）　展開科目

杉原　弘恭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Steve Jobs が「アップルは Technology と Liberal Arts の交差点にいようとする」と述べたとき，どれだけの人が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました．また英文契約書が似た意味の動詞を並べて使う意味は？ 原文で理解する意味がそこにあります．また，アメリカでは民間企業でありながら，環境保全・社会奉仕など公的な役割を果たす Benefit Corporation という新しい会社制度が成立しています．この制度による会社では，そのような対外的な役割を社員の内発的動機づけ Drive や Caring 概念と同期させようとしている傾向が見受けられます．企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく，原典を参照しながら進めて行きます．

【到達目標】
キャリアデザインの基本に位置するモチベーション 3.0 などの考え方を，行動変容理論などとともに理解することを目標とします．これらが capable communication, ひいてはいのちの経営の参考になれば幸いです．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・講義開始日： 4 月 28 日火曜日
・最終回 7/14 に Test
・この授業は学習支援システムの「教材」に毎回講義録を掲示し，
それに対するミニッツ・ペーパ（チェック・シート）を毎回提出していただくことで進めていきます．
様々なことを扱いますので講義録を読んで理解し，それに対して考察してください．
1)Minute Paper で「今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？（箇条書き）」を記載．
2) 学んだことに対しては「考察・感想・質問・要望」で記述してください．
・ミニッツ・ペーパは毎回「課題」に掲示します．提出期限を守ってください．
第 1 回目の締め切りは，履修登録の関係がありますので，5/15(金) とします．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	Orientation とは？ Communication の構造と講義の狙うところ． English ランキング (EFEPI)53 位の日本をどう解釈するか？
第 2 回	国際 Communication に必要な概念	Liberal Arts と Servile Arts とは何かなどを学ぶ． Common Law と大陸法．
第 3 回	Career development に必要な概念	Management, Governance などを学ぶ． PDCA サイクルの誤解．
第 4 回	就職状況の背後を探る	企業のポジション変化と雇用の変化，経済学について学ぶ． 米国リベラルアーツカレッジでは経済学と数学と．
第 5 回	日本の特異性	17 か国比較や雇用に関する OECD の日本への勧告などを学ぶ．
第 6 回	未来の職業について学ぶ．	各種研究による未来予想図．
第 7 回	AI について学ぶ	AI，WWW の誤解．オブジェクト指向，ブロックチェーン技術とは．
第 8 回	知っておくべき国際フォーラム	戦前，戦後，近年の SDG s など企業を取り巻く国際的な動向を学ぶ．
第 9 回	語られない国際情勢背後のエネルギー状況	報道されていないエネルギーの視点を学ぶ．
第 10 回	新しい企業制度を知る	現在の会社法と先駆的なアメリカの Benefit Corporation 制度などを学ぶ．
第 11 回	近年重視される Management の基礎	環境・経済・社会の Management，財務諸表と PDCA サイクル，現在価値の割引等を学ぶ 内発的発展論，Flow,Brain science 等を学ぶ．
第 12 回	試験・まとめ	全体を総括する．
第 13 回	なし	なし
第 14 回	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語では専門用語らしい翻訳語が，原語では日常用語であったりすることがままあります．日頃から他に意味はないのか？ Why? What if?（もし〜としたらどうなるだろか）などと考えるクセをつけるようにしてください．本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回支援システムの「教材」で講義録を配布します．

【参考書】
適宜紹介します．関連の国家試験「IT パスポート」には，（本講義を含めて）辞書代わりにも使える『よくわかるマスター　IT パスポート試験対策テキスト』（FOM 出版）がお奨めです．

【成績評価の方法と基準】
・成績評価の方法と基準（比率変更）：毎回の講義の Minute Paper の提出 80%，最終回の Test 20%を予定．
（注）1)Minute Paper で「今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？（箇条書き）」の記載がないもの，白紙提出は未提出とみなします．
2) 学んだことに対しては「考察・感想・質問・要望」で記述してください．
・講義としては，10 回に凝集しますので，Minute Paper の提出は 8 点/回を基本とします．明らかに目を通していないと考えられる場合は 5 点，優れた考察には 9 点とすることを考えています．

【学生の意見等からの気づき】
資料配布と板書のバランスに留意します．

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
関連資格： IT パスポート（一番取得しやすい国家試験で，毎月 PC 受験可能）
IT 化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを，国が認定するもので，エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています．本授業で得た知識が生かせます！

【Outline and objectives】
What is the meaning of liberal arts as Steve Jobs said, "Apple always try to be at the intersection of technology and liberal arts"? Why does a English contract agreement employ overlapping verbs? What is a benefit corporation in the United States? We will explore their roots and senses of meaning for the sake of capable communication.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西　充子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しあっています。
働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】
雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。
男女の働き方の現状と課題を理解する。
＜まともな働き方＞を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
秋学期の授業では現在の若年労働市場や働かせ方の現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。
定期試験では持ち込み不可の論述試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介、春学期の論点の整理
2	若年労働市場の現状	学歴別・男女別に見た若年者の就業状況
3	正規雇用と非正規雇用（1）	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
4	正規雇用と非正規雇用（2）	多様な働き方の現状と課題／雇用ポートフォリオ／有期雇用から無期雇用への転換の動き
5	派遣労働の特徴と問題点	間接雇用である派遣労働の特徴と問題点
6	派遣労働の歴史と現在	派遣労働の歴史的経緯／紹介予定派遣
7	長時間労働の現状と背景	長時間労働の現状と背景／労働時間規制の法制度
8	長時間労働の改善に向けた動き	事例から見る長時間労働と考えられる対策
9	長時間労働と組合の役割	法制度と労働組合の役割の関係
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）：夫婦の生活時間と仕事時間	女性の就業継続をめぐる意識と現状、夫婦の生活時間と仕事時間
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）：法制度と現状	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
12	男女の働き方とワークライフバランス（3）：企業の実情	コース別雇用管理、企業の就業継続支援策、就業継続をめぐる課題
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。
授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。
期末試験に向けて、授業内容を復習し、論述の準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】
さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書
・川人博（2014）『過労自殺　第二版』岩波新書
・久原穏（2018）『「働き方改革」の嘘』集英社新書
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】
授業内外で 6 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と定期試験（配点 60 点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が 0 〜 2 回の学生や、ミニ・レポートの代筆が判明した学生、定期試験で不正行為が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
身近な内容でありながらアカデミックな講義で充実した内容だったとのコメントをいただきました。
働き方をめぐる現在の変化は、皆さんの働き方にも直結してきます。
その関係をより理解できるように、努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】
初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、定期試験について等の説明を行いますので、必ず出席してください。
「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれます。

【Outline and objectives】
This course has been designed to provide a basic understanding of the changing labor market and work styles. Main topics are diversification of employment types, long hours of work, work-life-balance, and gender equality.

MAN200MA

人材育成論Ⅰ

展開科目

佐藤　厚

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材育成論Ⅰでは、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】
この授業の学習目標は以下のようです。
(1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
(2) 日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
(3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人材育成論Ⅰの概要と方法は、人材育成＝①＜狭義；職業能力の訓練＝ OJT ＋ OFF-JT ＋自己啓発＞ ＋②＜広義；組織内でヒトが育つ環境＝人的資源管理＋組織＞ ＋③＜最広義；ヒトが育つ社会環境；家庭＋学校＋地域全体社会＋労働市場＞という枠組みの中で、①と②を中心にその基礎を学びつつ、③への視野の拡大をはかってもらうことにあります。
なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示します。初回授業実施日は、4 月 22 日（水曜）3 時限としますが、時間非限定形式の開催とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第 2 回	日本の人材育成システムの特徴――国際比較の視点から	1　日本の人材育成システムの特徴：職業教育訓練）への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与高い 2　学校教育システムの特徴：入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3　教育システムと雇用システムの補完性
第 3 回	能力開発とキャリア――これからのキャリア形成	1　これまでの雇用慣行と能力開発の基本パタン：新卒採用、異動・昇進というキャリア形成： 2　能力開発の方法：ＯＪＴ、Ｏｆｆ－ＪＴ、自己啓発 3　企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第 4 回	技術革新と技能の変化	1　学説：高度化説と単純化説；技術決定論と社会決定論 2　戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化：オートメション化、ME 化段階、IT 化段階、AI 段階 3　情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4　情報技術の進展と新しい働き方――テレワーク
第 5 回	女性の職域とキャリア形成	1　性別職域分離とその理論：統計的差別理論 2　国際比較でみた性別分離：水平分離と垂直分離 3　職域統合へ向けて： M 字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジィティブアクション
第 6 回	失業・転職とキャリア形成	1　失業について：失業者の定義 2　失業とセーフティネットのしくみ：失業のダメージ緩和のための雇用保険 3　転職について：入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要さ
第 7 回	若者のキャリア形成――学校から職場へ	1　「就社」社会とその得失 2　初期キャリア問題の諸レベル：早期離職問題；正社員への移行困難問題；就業形態間の賃金格差問題；学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3　若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第 8 回	非典型労働者のキャリア形成	1　非典型雇用の様々な働き方 2　企業の視点からみた非典型雇用：賃金節約；仕事の繁閑への対応 3　働く側からみた非典型雇用：家計の補助；都合のよい時間に働ける 4　問題への対応の方向性：非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第 9 回	高齢化とキャリア形成	1　高齢化と仕事からの引退過程：日本の特徴 2　定年制とライフスタイルの変化；就労・非就労の規定要因 3　安定した高齢期生活を支える政策課題：高年齢者雇用安定法の改正
第 10 回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1「ホワイトカラー」とは：職業大分類の４つの職種の総称 2　企業内キャリアをみる視点：キャリアのタテ（昇進）とヨコ（異動） 3　国際比較からみた日本の特質：「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4　人材育成からみたポイントと課題
第 11 回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1　専門的・技術的職業従事者の増加 2　技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3　研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較：日本の特徴 4　日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第 12 回	中小企業労働者のキャリア形成	1　中小企業の労働市場の特徴 2　中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3　中小企業従業員の就業意識：組織との関係認識、職場の雰囲気 4　事業主からみた望ましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第 13 回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1　いまなぜワーク・ライフ・バランス（WLB）か 2　仕事と生活が両立しにくい現実 3　 WLB を支える制度及び現状と目標 4　 WLB 施策実現にむけての課題――仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第 14 回	講義のまとめと試験について	1　講義全体の振り返りとまとめを行う 2　定期試験の傾向と対策 3　受講生との質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　講義内容のかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣 (2014 年）に準拠しているので、受講と合わせて読むことが望ましい。

【参考書】
佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 (2011 年)、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016 年）を購入し併読することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
・春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。
毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
人材育成論Ⅰと人材育成論Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】
In this class,students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society　in modern society, human resource development may be indispansable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that empoly them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop thier skill.

MAN200MA

人材育成論Ⅱ

展開科目

池田　心豪

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰと同様、ヒトが企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。

【到達目標】
人材育成論Ⅰでの基本理解を踏まえて、性別等労働者の属性別、また業種別、職種別、雇用形態別といったさまざまな切り口から人材育成の実態と課題を認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰで学んだ枠組みをベースにした多様性やバリエーションを書く論的切り口から学びます。雇用形態（正社員とパート、契約、派遣などの非正規）、ホワイトカラー（事務系と技術系）とブルーカラー、大企業と中小企業、男性と女性 若年、中高年者などは各論的切り口の例です。
また人材育成論Ⅰでは主に企業組織の側からみた能力開発や人材育成をみてきました。これに対して、人材育成論Ⅱでは主に働く側からみた「育成」（＝長期の育成としてのキャリア形成）の視点を重視します。同時に人材育成の環境変化をできるだけリアルに把握するために、各種の統計データや調査結果を読み取ることも重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：人材育成論Ⅰの復習と人材育成論Ⅱのねらい	前期の授業内容について受講内容を振り返りながら、後期の問題意識を育てる。
第 2 回	企業の人事管理と人材育成	採用・配置・異動・昇進を通じた人材育成について概要を学ぶ
第 3 回	組織の論理と個人のキャリア	個人のやりたい仕事と会社がやらせたい仕事の関係について学ぶ
第 4 回	日本企業の人材育成の特徴	海外の企業との比較を通じて日本企業の特徴を理解する。
第 5 回	転職型キャリアと能力開発	転職者の能力開発機会について企業内・企業外双方の視点から学ぶ
第 6 回	多様な人材の育成	パート・アルバイト等の非正規社員を含めた人材育成のあり方について学ぶ。
第 7 回	中小企業の人材育成	大企業との対比を通じて中小企業の人材育成の特徴を理解する。
第 8 回	タレントマネジメント	「タレントマネジメント」概念の概要とその背景を学ぶ
第 9 回	若年層の定着と育成	若年層の初期キャリアについて人材育成の観点から学ぶ。
第 10 回	リーダーを育てる	企業経営を牽引する人材の育成について学ぶ。
第 11 回	ライフイベントと人材育成	育児や介護等で働き方に制約のある人材の育成について学ぶ。
第 12 回	プロフェッショナル人材の育成	専門・技術職の人材育成について学ぶ。
第 13 回	学校教育と人材育成	学校教育が企業の人材育成とどのようなかかわりを持っているかを学ぶ。
第 14 回	人材育成論Ⅱの総括	後期の授業の要点をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書・参考文献等を通じて、各回のテーマについて予備的な学習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤厚『組織のなかで人を育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣 2016 年

【参考書】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史著『新しい人事労務管理第 5 版』有斐閣 2015 年、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004 年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011 年

【成績評価の方法と基準】
期末に定期試験を実施します。また学期中にグループ（もしくは個人による）研究発表の時間を設けます。授業で取り上げた内容の理解を深めるのがねらいです。平常点を成績に反映することはしません。

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ毎回の授業でグループディスカッションをしますので、遅刻は厳禁とします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the significance, method, problems on human resource development in companies.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅰ　展開科目

坂爪　洋美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】
本授業の到達目的は以下の２点です。
（1）産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
（2）産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
（3）産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月 23 日とし、4 月 23 日の授業開始時刻までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第 2 回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第 3 回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第 4 回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第 5 回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的な関係性の重視
第 6 回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第 7 回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第 8 回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第 9 回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第 10 回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第 11 回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第 12 回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第 13 回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第 14 回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
山口裕幸・金井篤子編
『よくわかる産業・組織心理学』 2007 年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
各回授業の途中に課題を出してディスカッションを行う。教員と学生とのやり取りを中心としつつも、学生同士でのやりとりをさらに充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】
授業計画は予定となります。1-2 回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline and objectives】
This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs..
The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ　展開科目

坂爪　洋美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の３点です。
（1）産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
（2）組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
（3）自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は原則として講義形式で進めます。講義は大きく３つのパートで構成されます。
（1）キャリアを理解する：キャリアとは何か、組織はキャリア形成にどのように影響を与えるのかといった点について紹介します。
（2）能力を高める：キャリア形成において重要となる能力・スキルはどのように獲得されるのか、紹介します。
（3）健康に働く：働くことがもたらしうる心身への悪影響、それを予防する取組みについて紹介します。
産業・組織心理学Ⅰ同様、各回、授業を大きくトピックに関するミニクエスチョンを提示し、教員と学生とのやり取りを通じて、概念に関する理解ならびに、働く場への概念の応用に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第 2 回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第 3 回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第 4 回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第 5 回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第 6 回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第 7 回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第 8 回	能力を高める②	仕事がもたらす一皮むけた経験
第 9 回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第 10 回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第 11 回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第 12 回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取組み
第 13 回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第 14 回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
金井壽宏　働くひとのためのキャリア・デザイン　2002 年 PHP 新書
守島基博　人材マネジメント入門　2004 年　日経文庫

【成績評価の方法と基準】
期末試験　９０％
各回の最後に提出するコメントペーパー　１０％

【学生の意見等からの気づき】
前年度同様、各回授業の途中に課題を出してディスカッションを行う。教員と学生とのやり取りを中心としつつも、学生同士でのやりとりを導入する。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】
以下の点を守れることを確認した上で、受講してください。なお、授業担当者が授業運営上不適切と判断した場合には、退出を求めることがあります。
・授業中の私語や授業と関係ない作業（携帯等を触るなど）を行わないこと
・必要以上に教室を出入りしないこと
・レポート等は期日までに提出すること
授業計画は予定です。1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline and objectives】
This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.
The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

キャリア開発論　　展開科目

武石　恵美子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の実施については、4/23 に学習支援システムで配信するオンライン授業で説明します。基本的に、一定期間内に学習支援システムで提供する資料等を用いて授業を受け、課題やレポートのを提出することで進めます。
本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。つまり、個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえます。そのために、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】
授業を通じて、ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識を習得すること、キャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつこと、ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解すること、を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う授業計画の変更は、適時、学習支援システム及び授業内で提示していくことになります。本授業の開始は 4 月 23 日とし、その日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習業支援システムを通じて説明するので、受講を考えている学生は、必ず確認をお願いします。
授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。
毎回の授業で課題を提示し、その提出によって出席を確認します。
この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア自律	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	ダイバーシティ経営	キャリア開発の新しい動向であるダイバーシティ・マネジメント
6	正社員の多元化とキャリア	正社員の働き方の現状、多元化の動向
7	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方をめぐる問題
8	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
9	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
10	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い
11	非正規雇用とキャリア開発、ブラック企業問題	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題、ブラック企業問題
12	総括	講義の総括、まとめ
13	なし	なし
14	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使う資料は学習支援システムを通じて事前に提供します。それをプリントアウトして授業に臨むと円滑に進めます。

【テキスト（教科書）】
テキストは、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う』（2016 年、中央経済社）です。
テキストがあることを前提にして授業を進めるので、必ず購入等をお願いします。

【参考書】
それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、テキストに参考文献が掲載してあります。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。また、授業に関連する内容で文献を知りたいという希望があればいつでも質問をしてください。

【成績評価の方法と基準】
当初定期試験を予定していましたが、試験は実施しません。
評価は、出席（提出された内容も含む）6 割、レポート 4 割で評価します。出席は、毎回授業の終わりに課題や簡単なテストをしてもらい、それで確認します。内容についても評価の対象です。提出期限は土曜日まで、となります。レポートは 2 回提示する予定です。レポートにおいて剽窃が判明した時点で「D評価」とします。どれだけ出席をしていてもD評価になるので、気を付けてください。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からの質問には丁寧に対応しますので、質問があれば積極的にお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
授業はパワーポイントと音声で実施するので、それを受信できるようにしてください。

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

MAN200MA

リーダーシップ論　　展開科目

佐野　達

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・1** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャングル とよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。
本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

【到達目標】
・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・講義形式で行う。
・一部グループディスカッションやグループ・ワークも行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
・受講者数等によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第 2 回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？リーダーシップの定義を紹介する
第 3 回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第 4 回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第 5 回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第 6 回	新たなリーダーシップ研究④	交流的アプローチによる研究を紹介する
第 7 回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 8 回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 9 回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバーント・リーダーシップ研究を紹介する
第 10 回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する
第 11 回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について
第 12 回	演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 13 回	演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】
【新版】グロービス MBA リーダーシップ, グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社 ;2014)

【参考書】
最強のリーダーシップ理論集中講義, 小野善生, (日本実業出版社)
リーダーシップ入門, 金井壽宏, (日本経済新聞社)
M.M. チェマーズ, リーダーシップの統合理論　（北大路書房）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験（80 %）
・授業内課題ワークシート・レポート等（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。
・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

【Outline and objectives】
Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal. This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also groupdynamics.

In this class students will be awear of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

MAN200MA

経営統計論 A（心理データ）　展開科目

北村　康宏

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
注意：コロナによる変更　実習室での授業が困難であるため、受講生自身がもつ PC で資料を読み、課題に取り組んでもらいます。
この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。このようなスキルは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握で活用されます。実施の際には、調査対象者の行動データや質問紙への回答データを集約し、得られたデータを集計・統計処理を通じて、仮設の検証や傾向を把握するという方法が採られます。この一連のプロセスや、得られた結果の解釈方法を、講義や実習（excel 等のソフトを使用する）を通じて習得します。

【到達目標】
統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。
質問紙の作成・データ収集・統計処理など、調査に必要な手続きができるようになる。
代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。
目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようになる。
分析結果を正確に解釈（記述）できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
注意：コロナによる変更　本授業は 5 月 8 日から開始いたします。
この授業では、質問紙調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、質問紙調査の一連のプロセスを統計処理のスキルを含めて獲得していきます。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学びます。次に、得られたデータの整理方法（例：サンプル数、平均値、標準偏差）のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈を学習します。その後、目的に応じたデータ分析を紹介します。質問紙調査においてよく用いられる分析手法として、質問項目を集約するための因子分析、回答者を分類するためのクラスタ分析、集団間の比較のための分散分析、変数間の因果関係を把握するための回帰分析が用いられており、これらを学んでいきます。また得られた分析結果の解釈スキルの獲得を通じて、信頼性と妥当性の考え方について学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目的、授業の進め方等についての説明
第 2 回	質問紙調査	質問紙調査の目的や方法・プロセス・データ整理について、事例を用いた説明
第 3 回	因子分析（1）	心理テストなどで用いられる因子分析についての解説
第 4 回	因子分析（2）	データを用いた因子分析の具体的な手続きについての実習
第 5 回	因子分析（3）	分析のコツや信頼性・妥当性の検証方法について解説
第 6 回	クラスタ分析	回答者の分類方法であるクラスタ分析の解説と実習
第 7 回	平均の比較（1）	回答者集団の差を見出す分散分析を実習
第 8 回	平均の比較（2）	複数の集団間の差を見出す多重比較の方法を実習
第 9 回	回帰分析	データの関連性をモデル化する回帰分析を学習
第 10 回	重回帰分析	複数変数を用いた重回帰分析についての実習
第 11 回	データの解釈	得られたデータの解釈に関する解説
第 12 回	まとめと今後の展望	本授業で学習した内容の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
注意：コロナによる変更
課題は PC 上で実施し、期日までに提出する。
実習が時間内に終了しなかった場合、次回の授業までに取り組んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析［第 2 版］」

田尾雅夫・若林直樹「組織調査ガイドブック」
斎藤美穂「事例による認知科学の研究入門：Rコマンダーの活用法と論文の書き方」

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに理解度確認のためのミニテストを課します。ます。また、学期末にレポート課題を課します。以上の合計によって 100 点満点にて評価を行い

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】
クラス（教室）の収容人数を超える履修希望が見込まれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
Through this course, students will learn introductory statistics (basic statics, correlations, anova, linear regression analysis, factor analysis and hypothesis testing(t-test)) in business fields, especially on the perspective of safety psychology. Furthermore,
Students will learn basic concepts of using statistical models to draw conclusions from survey data.

MAN200MA

企業会計論

展開科目

松本　徹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「黒字決算」、「売上」、「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】
この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最新の事例を盛り込みながら、主に講義形式で行っていきます。会計の知識は、就職の際にも威力を発揮しますので、現実的な役立ちを意識して演習も行います。
＜ 2020.4.17 追加＞春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 5 月 11 日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法など学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	会計の守備範囲	企業会計の対象について学びます。
3	損益計算書 (1)	損益計算書の表示方法について学びます。
4	損益計算書 (2)	収益、費用の測定方法について学びます。
5	貸借対照表 (1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
6	貸借対照表 (2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
7	会計を取り巻くルール (1)	金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
8	会計を取り巻くルール (2)	会計基準について学びます。
9	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
10	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。
11	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
12	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
13	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
14	本講義のまとめ	本講義の学習内容について要約・整理します。なお、講義の進行状況・受講人数等を勘案し、定期試験をこの回に授業内試験として実施することがあります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木一道『会計学はじめの一歩』第 2 版　中央経済社　その他、必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
定期試験 70 %と平常点 30 %（授業内レポート等）により評価します。
＜ 2020.4.17 追加＞春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も（上記記載より）変更します。具体的な方法と基準は、講義開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
さまざなな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline and objectives】
Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting.
It'll be also useful in case of job hunting.

MAN200MA

経営統計論 B（企業データ）　展開科目

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excel の基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立つちます。

【到達目標】
統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを経験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、エクセルの基本操作について学びます。
3	記述統計 (1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計 (2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
5	記述統計 (3)	標準化（Z 値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計 (4)	2 変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析 (1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析 (2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変量により理解できるようになります。
9	回帰分析 (3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
10	回帰分析 (4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析 (5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定 (1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定 (2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるどうかについて理解できるようになります。
14	各種検定 (3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業における発言、提出物等）を中心に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】
・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。
・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn how to analyze corporate data using a computer. Start with the basic operation of MS - Excel, and finally learn the basic test method and regression analysis in statistics. The data used is mainly economic and corporate data such as profit and sales.

MAN200MA

経営組織論 I

展開科目

梅木　眞

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】
組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
一般的な講義形式で進めていく。ただし、当面の間は授業支援システムを通じた資料の配布、課題の提示によって進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。
皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スティーブン P. ロビンス（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
本年度は covid-19 の影響により、定期試験は行わない。オンライン上で課題を複数回課し、評価の対象とするので、指示に従ってください。なお、課題評価の際にはテキストや講義内容がきちんと反映されていなければ評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生によってスピードが速すぎる/遅すぎるという指摘がありました。授業の際には確認を取りながら進行していきますが、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【その他の重要事項】
本年度は緊急事態宣言にともない、講義開始日を４月２７日とします。また、オンラインでの受講期間の長期化が見込まれるため、指示などは授業支援システムを通じて行いますので、必ず確認してください。

【Outline and objectives】
Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In Spring term, we focuses on individuals within the organization.

MAN200MA

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木　眞

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】
組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
一般的な講義形式で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スティーブン P. ロビンス（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験によって評価する。講義中に行う課題で若干の加点を行う。

【学生の意見等からの気づき】
適切なスピードでの講義を心がけていきますので、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
参考資料を授業支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline and objectives】
In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

MAN200MA

戦略経営論Ⅰ

展開科目

木村　琢磨

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※授業の進め方を一部変更しました。詳細は学習支援システムをご覧ください。変更内容のシラバスへの反映は随時行っていきますので、当面は学習支援システムの連絡事項を読んでください。
本講義では、経営学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの場となる企業の戦略形成や戦略の内容を分析・理解するためのフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、企業の経営戦略がどのようなプロセスで決定され、実行されるのか、そのプロセスでどのような課題が生じうるか、を分析・理解するためのフレームワークと分析方法を学ぶ。

【到達目標】
以下の能力を習得することにより、戦略経営に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。
・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
・戦略立案のためのデータ分析の主要な方法に関して理論的な説明ができる。
・データ分析に用いる基本的な統計用語を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を中心とする。講義資料と予習用教材は授業支援システム上で事前配布し、予習したうえで参加することを前提とする。講義中に短答式または記述式の小問を課し、各回の講義内容について教員・学生の双方が理解度を確認しつつ進める。履修人数によってはグループワークも実施する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について。
第 2 回	価格戦略	利益と費用、最適価格の考え方、価格と価値の関係。
第 3 回	競争戦略	事業戦略の理論（差別化戦略、コスト・リーダーシップ戦略、集中戦略）および事例。
第 4 回	資源ベース視点	資源ベース視点による戦略の考え方、事例。
第 5 回	企業戦略	成長戦略としての多角化戦略の理論。
第 6 回	SWOT 分析	ＳＷＯＴ分析の方法。例題による実践。
第 7 回	ビジネス・アナリティクス	企業経営におけるビッグデータの活用。アナリティクスとは何か。
第 8 回	Ａ／Ｂ分析	カイ自乗検定による施策効果の比較に関する理論と実践例。
第 9 回	記述的分析（１）	非階層クラスター分析（ｋ平均法）による顧客のセグメンテーション（理論と実践例）。
第 10 回	記述的分析（２）	階層クラスター分析による購買行動のクラスリング。
第 11 回	予測的分析（１）	重回帰分析による適正価格の予測（理論と実践例）。
第 12 回	予測的分析（２）	ロジスティクス回帰分析による購買契約解除者の予測（理論と実践例）。
第 13 回	国際戦略	企業の国際展開・国際戦略の理論。
第 14 回	ステークホルダー・マネジメント	ステークホルダー・マネジメントの理論と背景。株主重視経営との違い。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習用教材と講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。
・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。
・本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義スライド、予習用教材（授業支援システム上にて配付）

【参考書】
授業支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（配点 20 %）
学期末試験（配点 80 %）
実施形式：記述・論述式。参照不可
評価基準：
・経営戦略の立案に関する主なフレームワークを論理的に説明できること。
・学術的定義に基づいて経営戦略の基本概念を説明できること。
・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できること。
・ビジネス・アナリティクスの主要な方法に関して理論に説明できること。
・データ分析に用いる基本的な統計用語を説明できること。

【学生の意見等からの気づき】
・昨年度は基礎的内容のみであったが、今年度は授業外での事前学習を前提とし。より発展的な内容を追加した。そのため全体としてインプットすべき量が昨年度に比べて増えている。
・調査法（特に量的調査法）の知識がビジネスにどのように応用されるかを理解できるよう、分析の実践例を講義内容に含めた。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡や参考資料の配付は授業支援システムにより行う。

【その他の重要事項】
・秋学期の戦略経営論Ⅱの履修を予定している者には本科目の履修を推奨する。
・授業内課題の提出は授業支援システムを使用して行うため、スマートフォンまたはＰＣの持参を推奨。希望者には紙媒体で行うので申し出ること。
・私語や教室の出入り等による授業の妨害をしないこと。授業内課題における不正行為（代理回答、提出直前の入室・提出後の退出などの出席に関する不正など）をした者は定期試験の採点の対象外とする。

【Outline and objectives】
This course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic analytical methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

戦略経営論Ⅱ

展開科目

小山　浩一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経営学と心理学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの場となる企業が、戦略の形成と実行のために人的資源（人材）を活用していく際のフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、株式会社の仕組みの理解に基づき、グローバル経済下において企業の経営戦略の実行に際して取り組むべき諸課題を分析・理解するためのフレームワークを、理論的研究・実証的研究を素材として学ぶ。

【到達目標】
経営戦略と連動し、戦略の形成と実行において生じる課題を、主要な理論および実証研究での発見により理解する。それによって、経営戦略を推進するための組織の管理のために必要となる、様々な情報・データの収集力と分析力、および、生じうる課題を考えるうえでの仮説構築力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を中心とする。講義中にリアクション・ペーパーを配付・回収し、理解度の確認や受講者の見解に対するコメントをしつつ進める。教室の環境と受講人数によっては座席指定にてグループワークを実施する回を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について
第 2 回	消費者行動① 我々はみんな消費者だ！	個人としての消費者理解に関する基礎的用語・概念 「購買意思決定プロセス」
第 3 回	消費者行動② 「消費者」といってもいろいろだ！	マーケティングの基礎的用語・概念 「セグメンテーション（デモグラフィクスとサイコグラフィクス）・コミュニケーション（高関与・低関与）
第 4 回	消費者を企業側からみると	STP の概念 マーケットセグメンテーション　分化型マーケティング　集中型マーケティング
第 5 回	競争分析と競争戦略	市場集中度の概念 競争の枠組み 競争戦略の概要
第 6 回	事業（競争）戦略事例	差別化戦略 集中戦略 商品やサービス事例で考えてみよう。
第 7 回	イノベーションと組織 企業で人はどのように働いているだろう。	イノベーションと組織　「マトリクス型組織」「プロジェクト組織」と背景としての「企業内情報システム」
第 8 回	企業と組織	企業の倫理　個人の倫理 企業不祥事と組織風土
第 9 回	機能別戦略事例	機能別戦略としてのマーケティング戦略・人事戦略・財務戦略等
第 10 回	財務諸表の基礎	家計を貸借対照表で考えてみる　企業の貸借対照表　損益計算書　キャッシュフロー計算書
第 11 回	企業の経営目的と企業統治	企業の経営目的と経営理念・経営目標 コーポレートガバナンスコード
第 12 回	多様な価値観 Hofstede 指数	Hofstede 指数 日本人は集団主義って本当？
第 13 回	全体戦略－事業戦略－機能別戦略	企業における戦略的整合性 リスクマネジメントの視点を理解しよう
第 14 回	多様性と企業・消費者	本講義のまとめ 多様性は我々に何をもたらすだろうか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を理解しているものとして進めていく）。
・新聞やニュース（テレビ、ウェブサイト）などで企業経営に関するニュースに日ごろから目を通しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
授業支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（配点 100 %）

【学生の意見等からの気づき】
講義資料が多く、授業中では間に合わない → 事前に授業支援システムに搭載し、読むことができるように対応する。
説明スピードが早い → ゆっくりしたスピードで説明することを励行する

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡や参考資料の配付は授業支援システムにより行う。

【その他の重要事項】
・戦略経営論Ⅰを履修済であることが望ましい。
・授業において企業経営者あるいは該当範囲に職務上関わる企業の部課長クラスに参
　加していただき、当該企業の戦略や実態について報告してもらうことがある。
・講義において取り上げた諸概念について相互関係を理解することを励行する（例： 5 フォース分析概念と損益計算書との関係など）。
・オフィスアワー： 火曜３限（教授室）。
・講義中に使用する投影スライドは全量を配付しないことがある。必要に応じて各自
　ノートをとること（許可したものを除きスライドの撮影は禁止）。
・リアクション・ペーパーへの回答 (毎回の出欠確認用紙を兼ねる)、口頭での発言
　を求められた場合は回答すること。
・私語や教室の出入り等による授業の妨害をしないこと。リアクション・ペーパーへ
　の回答における不正行為（代理回答、提出直前の入室・提出後の退出などの出席に
　関する不正など）をした者は定期試験の採点の対象外とする。
・出席要件あり（過少出席のものは採点対象外）。

【Outline and objectives】
This course aims to build deeper understanding of strategic management based on the knowledge provided in the previous course (Strategic Management I). This course deals with fundamental theories and practical cases of strategic management, especially in the fields of marketing and project management.　It aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and state-of-the-art pragmatic approaches in strategy formulation and implementation.

MAN200MA

経営分析論Ⅰ

展開科目

中野　貴之

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業は、貸借対照表および損益計算書等を公表しています。企業を理解するには、これらの会計報告書を読めることは必須です。この授業では、貸借対照表・損益計算書がどのように作られているのか、その基礎を学びます。

【到達目標】
貸借対照表、損益計算書はなぜ公表されているのか、またどのように作られているのか、さらにそれらの分析方法の基礎を習得することを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 5 月 11 日 (月) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。授業はテキストに沿って行われるので、生協の通販等を通じて購入しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	なぜ会計を学習するのか？	会計の社会的な意義などについて学びます。
3	会計の基本原理	会計の構成概念、認識・測定等について学びます。
4	貸借対照表（資産）(1)	資産の区分、種類について学びます。
5	貸借対照表（資産）(2)	有価証券、商製品の評価について学びます。
6	貸借対照表（資産）(3)	固定資産について学びます。
7	貸借対照表（負債と純資産）(1)	負債の構成要素について学びます。
8	貸借対照表（負債と純資産）(2)	資本の構成要素について学びます。
9	損益計算書 (1)	損益計算書の様式について学びます。
10	損益計算書 (2)	損益計算書の区分について学びます。
11	財務諸表を活用する (1)	財務諸表の入手方法、分析方法の総論について学びます。
12	財務諸表を活用する (2)	効率性、安全性、成長性分析について学びます。
13	連結財務諸表	連結財務諸表の考え方と作成方法について学びます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。

【その他の重要事項】
・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。
・本講義は、経営分析 II の基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

【Outline and objectives】
Listed Companies publish financial statements. It is essential to be able to read these financial statements in order to understand companies. In this lesson, you will learn the basics of how the balance sheet and the imcome statement are made.

MAN200MA

経営分析論Ⅱ

展開科目

中野　貴之

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、「経営分析論Ⅰ」の続きです。具体的な企業分析の手法の習得、また、現実的な場面への適用が主な内容です。

【到達目標】
経営分析論Ⅰの続きですが、本講義は経営分析を独力で行うことができるようになることが目標です。それには練習が必要です。したがって、経営分析論Ⅰに比べ作業量が多く、大変ですが、よりやりがいもあります。経営分析は、ビジネスパーソンにとって必須ですので、この授業にまじめに取り組めば大学卒業後もずっと使うことができる有用な知識を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、実際の財務諸表の分析を行いながら、具体的な分析手法を身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	収益性の分析 (1)	収益性の概念を習得します。
3	収益性の分析 (2)	総合的収益性の分析について学びます。
4	収益性の分析 (3)	投下資本別分析、セグメント分析について学びます。
5	収益性の分析 (4)	効率性の分析について学びます。
6	生産性の分析 (1)	付加価値の概念について学びます。
7	生産性の分析 (2)	労働生産性の分析、付加価値の分配について学びます。
8	安全性の分析 (1)	リスクの概念、貸借対照表に基づく古典的指標について学びます。
9	安全性の分析 (2)	フロー数値に基づく指標、キャッシュ・フロー計算書の分析について学びます。
10	不確実性によるリスクの分析 (1)	損益分岐点分析について学びます。
11	不確実性によるリスクの分析 (2)	費用収益の構造式の導出について学びます。
12	不確実性によるリスクの分析 (3)	財務レバレッジに起因するリスクについて学びます。
13	経営分析の演習	授業で習得した手法を用いて、特定の業種の企業の分析を行います。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業外で経営分析を行うことが習得の早道です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示します。

【参考書】
開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70%）と平常点（30%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習に積極的に取り組むように、レポートのフィードバックを積極的に行うようにします。

【その他の重要事項】
・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。同科目を履修済でない場合には、同時履修することを勧めます。
・経営分析の方法は、米国を中心に体系的に発展してきているため、専門性が高く、難しいと感じるかもしれません。その理解には、積み重ねが重要ですので、遅刻・欠席をしないように心掛けてください。私語を慎むべきことは、言うまでもありません。

【Outline and objectives】
This lecture aims at mastering method of business analysis.

MAN200MA

職業キャリア論

展開科目

松浦　民恵

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【修正版】
学習支援システムで、以下のとおりご案内しております。学習支援システムでタイムリーにご連絡していく必要がありますので、学習支援システムへのご登録をお願いいたします。
①全 12 回、直接対面しないオンラインによる授業を予定しています。
②具体的には毎回、学習支援システムにレジュメ（PDF ファイル）、音声データ（説明の録音）を、授業の週の月曜日までにアップします。レジュメの最後に、授業の当日中にご提出いただく課題がありますので、あわせてご確認ください。
③レジュメをご覧いただきながら音声データを聞く形で授業を受講してください（授業時間中に限らず、ご都合の良い時に受講頂いて結構です）。ただし、課題は授業日の水曜日中に、学習支援システムに提出してください（課題の遂行・提出も含めての授業です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第 2 回	社会環境変化と職業	①社会環境変化が職業キャリアに与える影響 ②社会環境変化と職業キャリアについて考える
第 3 回	デジタル革新と職業	①デジタル革新の動向 ②デジタル革新が職業に与える影響について考える
第 4 回	職業と人材のマッチング	①職業と人材のミスマッチの現状 ②職業と人材のマッチングのための仕組み
第 5 回	職業資格と職業能力評価	①多様な職業資格 ②職業能力評価の現状と課題
第 6 回	日本的雇用システムと新卒採用	①日本的雇用システムの現状と課題 ②これからの新卒採用について考える
第 7 回	職業と組織	①多様な組織形態と採用 ②組織の中で働くということについて考える
第 8 回	職業人の講話	ゲストスピーカー（職業人）の講話と意見交換
第 9 回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える
第 10 回	職業観と職業倫理	①職業に関する考え方や理論 ②職業倫理について考える
第 11 回	販売や営業の仕事	①販売と営業 ②営業職の仕事とキャリア
第 12 回	人事の仕事	①人事の職業観 ②人事の仕事とキャリア
第 13 回	公共的な仕事〜公務員を事例として	①公務員の職業観 ②公務員の仕事とキャリア
第 14 回	授業の振り返り	これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容から期末試験の問題が出されますので、授業内容の復習をしてください。また、授業中に紹介した参考文献等で、興味がある文献を是非読んでみてください。
本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば 4 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は授業支援システムに事前にアップしますので、必ず当日お持ちください。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】
阿部正浩・菅万理・勇上和史『職業の経済学』（中央経済社、2017 年）。
阿部正浩・前川孝雄『5 人のプロに聞いた! 一生モノの 学ぶ技術・働く技術』（有斐閣、2017 年）。
上記以外については、授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【修正版】
期末試験を、定期試験の期間中に実施します。 期末試験の結果で成績評価を行います。教室での定期試験の実施が難しい場合は、学習支援システム上で試験を実施する予定です。この場合には、持ち込みが前提となりますので、記述式問題が中心となります。
当初のシラバスでは、定期テストのみで評価としていましたが、なるべく毎回課題を出していただけるよう、課題の提出１回について、標準２点を加算する形に変更します（内容が特に良い場合は３点、内容が良くない場合は１点、内容があまりにもひどい場合は０点となります）。

【学生の意見等からの気づき】
職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。
授業支援システムに事前に資料をアップしますので、授業当日に必ずお持ちください。

【その他の重要事項】
私語、食べ物の持ち込みは厳禁。途中で退出しなければならない場合は必ず許可を得てください。
ルールを守らない場合はもちろんのこと、授業の進行の妨げになると判断した場合には、退席してもらいます（必要に応じて名前を確認します）。
レポートなどで代筆が判明した場合には、代筆をしてもらった学生、代筆をした学生、ともにD評価とします。

【Outline and objectives】
This course has purposes: students obtain the fundamental knowledge about job, understand the relationship between job and society, labor markets, companies and individual persons, and then think about future career experience through gathering information about each job or sharing opinions.

ECN200MA

労働経済学

展開科目

梅崎　修

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・2 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関する標準的なテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や扱い方についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】
ビジネスキャリアを関連する経済理論や経済統計を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な理論を理解し、合理的（特に限定合理的）な人間がどのようなキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＜コロナ以降の対応＞
緊急）4 月 22 日開始の予定です（オリエンテーション）。授業支援システムに資料をアップする予定ですが、現在支援システムが混雑してアクセスできないよう状況です (現在 (4 月 20 日現在)。配布資料方式ですので、焦らずに。大丈夫です。
教科書の変更はありません。Amazon や大学生協から送ってもらえます。
法政大学生協では、ウェブからの通信販売が可能です。https://www.univcoop.jp/hosei/index.html
とはいえ、12 回の授業になります。また、配布資料だけでは苦痛です。以下のような予定です。ただし、今後、教室授業が再開される可能性もあります。
初回　オリエンテーション
全 7 回の教科書（7 章分の講義）
全 3 回の映像講義（schoo を採用）
検討中、1 回程度の zoom 講義（可能ならば、質疑応答の時間としたい）
＜旧原稿＞
授業は、テキストを使用し、一つのトピックスに関する理論とデータを紹介します。経済学理論とデータ分析の理解をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学を学ぶ意味について説明。
第 2 回	働き方の変化	複雑化する労働の世界を説明。
第 3 回	求職と求人	「就活」と「採用」を解説。
第 4 回	就職活動と大学教育	大学教育の経済効果を解説。
第 5 回	賃金格差	賃金格差の現状をデータで確認し、それを生み出す要因を検討。
第 6 回	昇進と昇格	昇進と昇格のメカニズムを解説。
第 7 回	労働時間と休暇	労働時間と休暇の決定メカニズムを解説。
第 8 回	福利厚生	賃金以外の福利厚生を解説。
第 9 回	ダイバーシティ	多様な人材のマネジメントを解説。
第 10 回	離職と転職	離職や転職の実態を解説。
第 11 回	解雇と失業	解雇や失業の実態を解説。
第 12 回	定年退職	定年退職の実態を解説。
第 13 回	企業統治と従業員	コーポレートガバナンスの実態を解説。
第 14 回	様々なキャリア	会社以外で働く人々の実態を解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2〜3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松繁寿和/阿部正浩編『キャリアのみかた:図でみる 110 のポイント (改訂版)』有斐閣,2014,2090 円 ※改訂版です。注意してください。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
(旧)
授業内作業 (20%) と学期末のテスト (80%) で評価します。テキスト内から問題が出題されますので、復習をしてください。
(新)
現在、学内で試験ができるかどうかも未定です。
→　映像を見て、レポート作成などを考えています。
他、数回、出席に代わりに「ワーク提出（数回）」をしてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等で授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
キャリア形成の問題を扱うには、幅広い知識にプラスして理論体系と統計資料の扱い方を身につける必要があります。この講義では、労働経済学の入門テキストを基本にしながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。理論と統計手法に関しては積み上げ式の訓練が求められるので、毎回出席し、ひとつの手法を身につけて下さい。

【Outline and objectives】
It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using standard text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
●授業概要
IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバリゼーションやスーパー資本主義をますます加速し、GAFA などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。
●目的
シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学び、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】
・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
・地域や社会における課題の発見方法を身につける
・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・新型コロナウイルスの影響で、講義・討論中心の授業から学習支援システムによる授業に切り替えます。（授業回数も 14 回から 12 回に変更）
・授業日程は変更後の日程通り（第 1 回 4/22、第 2 回 5/6、第 3 回 5/13、第 4 回 5/20、第 5 回 5/27、第 6 回 6/3、第 7 回 6/10、第 8 回 6/17、第 9 回 6/24、第 10 回 7/1、第 11 回 7/8、第 12 回 7/15）で、授業日にその日の講義資料を学習支援システムにアップロードします。
・授業は、学習支援システムを通じて講義用資料と解説資料を配布し、それを学習して課題レポートを提出してもらうことで進行していきます。そのほか、学習支援システムを通じた双方向の議論など、適宜試行していきます。初めての試みですので試行錯誤になりますが、よろしくお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバリゼーション、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き： RESAS、シビックテック、スマートシティなど	地域・社会の課題を発見するツールの登場、技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割
第 13 回	第 12 回に統合	第 12 回に統合
第 14 回	第 12 回に統合	第 12 回に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 3 回から第 6 回は講義用資料のほか、『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキスト（教科書）を事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】
・『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者： D. ヘントン, K. ウォレシュ, J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規　2005 年 1 月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規　2014 年 8 月

【参考書】
・『サステイナブル・コミュニティ―持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版　1995 年
・『エンジェル・ネットワーク―ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社　1996 年
・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口 典夫、ダイヤモンド社　2007 年
・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社　2006 年
・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社　2002 年
・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS ブリタニカ 1986 年
そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。
※平常点（授業での学習状況）は、講義ごとに毎回提出してもらう簡単な課題レポートの提出状況で評価します。また、最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは第 12 回（最後の講義）で指示しますが、これを提出しないと合格にはなりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当につきアンケートを実施していません。ただし、他校での学生からのフィードバック経験から、学生の関心に沿った授業の進め方をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題レポートの提出等で PC が使用可能であること（Word、電子メールなど）。新型コロナウイルスの影響により対面授業ができないため、学習支援システムを使用して授業を進行していきます。

【その他の重要事項】
シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容となるはずです。

【Outline and objectives】
In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.
The objectives are the followings.
· Understand the citizenship
· Learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
· Be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

MAN200MA

生産システム論

展開科目

小林　哲也

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済において大きな影響力を持っている製造業は、かつて圧倒的な国際競争優位を確保していました。しかし、現在では、その競争優位を失いつつある分野も存在します。そこで、本講では、製造業とは何かを理解し、日本産業における競争優位がいかに成立してきたのかを紹介することで、日本において製造業がなぜ重要であるのかを理解することを目的とします。さらに競争優位の源泉の 1 つでもある生産システムに焦点を当てて、その内容を紹介することで、なぜ、日本の製造業がグローバル競争優位を確保できたのかを理解することを目的とします。

【到達目標】
製造業の基本的な概念を理解し、生産システム全体を見ることで、製造業が置かれているポジションを理解します。その結果としてなぜ製造業が日本において重要な産業であるのかを理解します。一方で、日本の製造業が直面している問題を具体的に解説し、グローバル経済の拡大や、少子高齢化の問題など製造業が直面する課題を例示しながら、どのような対応が必要なのかを理解することを目的とします。これらのことを理解することで、日本における製造業のポジショニングとその役割を理解し、日本経済の置かれている現状を理解し、さらに製造業が日本経済に与える影響と重要度を理解することが目標です。これによって、日本経済に与える産業の役割を理解することで、自らのキャリアを自ら考えることができるようにすることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義によって進めます。具体的な内容としては、いくつかの製造業を取り上げ、どのような状況にあるのか、その際の課題も紹介します。また、日本経済やグローバル経済における日本製造業が置かれている状況を解説します。さらに、製造業の競争力の源泉でもある生産システムとは何かを歴史的な視点も含めて解説します。以上の講義を通じて製造業の概要を理解してもらいます。なお、リアクションペーパーを皆さんの授業への参加の状況を図る物差しとして利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、製造業が置かれている状況を簡単に解説し、現在の産業の状況を理解できるようにします。
第 2 回	日本産業の変遷	日本の産業構造の歴史的変化を振り返り、その中で製造業の役割がどのように変化してきたのかを理解でいるようにします。
第 3 回	鉄鋼業	素材型産業の代表例でもあり、他の産業の基盤の 1 つでもある鉄鋼業とは何かを理解できるようにします。
第 4 回	金型産業	素材型産業の代表例でもあり、加工組み立て産業において欠かせない産業の 1 つである金型産業とは何かを理解できるようにします。
第 5 回	自動車産業	日本産業のリーディング・インダストリーでもある自動車産業の状況と競争優位の背景を理解できるようにします。
第 6 回	分業と大量生産	生産システムを理解する上で、基本的な概念となる分業とそれを基にした大量生産の基本的な概念を理解できるようにします。
第 7 回	フォード生産方式	生産システムの基本的考えであり、現在の生産システムの基にもなっているフォード生産システムを理解できるようにします。
第 8 回	大量生産方式の発展	フォード生産システムが競争優位を喪失した背景を、GM の経営手法を例に理解できるようにします。
第 9 回	日本的なシステム	日本自動車産業を例に、「日本的な経営・生産システム」とは何かを理解できるようにします。
第 10 回	製造業のグローバル展開と生産システムの移管	日本製造業のグローバル展開に伴う、日本的な生産システムの海外移転の状況やその際の課題を考えられるようにします。
第 11 回	グローバル競争環境の変化	グローバル経済の拡大によって変化した競争環境が、日本の製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 12 回	情報通信産業が製造業に与えた影響	IT 革命以降、急速に進展してた情報通信産業の発展が、製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 13 回	製造業の労働・人材育成の現状と課題	バブル経済の崩壊以降、長期化する経済の低迷によって深刻化する労働問題と少子高齢化の進展によって課題となる人材育成の問題を生産という観点から理解できるようにします。
第 14 回	競争環境の変化が日本製造業に与えた課題とその対応	競争環境の変化によって、日本製造業の競争優位の源泉に影響を与えたといわれている背景とその課題を理解できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習としては、シラバスに即して各回の授業について、新聞や雑誌、インターネットなど通じて、各種情報を仕入れておいてください。また、参考文献に目を通しておいてください。配布資料を事前に授業支援システムを通じて配布しますので、必ず読んでおいてください。
事後学習としては、授業を振り返り、疑問点を抽出しておいてください。疑問点は必ず時間の授業を通じて講師に確認してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
必要に応じて授業時に具体的に指示しますが、さしあたり、
三菱総合研究所『日本産業読本』東洋経済新報社
経済産業省『製造基盤白書（ものづくり白書）』
経済産業省『通商白書』
大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社
ヘンリー・フォード『藁のハンドル』中公文庫
アルフレッド・スローン『GM とともに』ダイヤモンド社
フレデリック・F・テイラー『科学的管理法』ダイヤモンド社
安保哲夫他『アメリカに生きる日本的生産システム』東洋経済新報社
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社
など

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー等による授業への参加状況 (30%)、期末レポート (70%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「産業」という経済に関係する授業ですが、経済学の基本的な枠組みを学んでいない学生の皆さんも理解できるように、経済学の基本的な考え方を具体的に授業内でも説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業支援システムを使って資料を配布しますので、授業開始前までに利用方法を確認しておいてください。

【Outline and objectives】
Manufacturing, which has a significant impact on the Japanese economy, once secured an overwhelming international competitive advantage. However, there are areas where the competitive advantage is losing now. The purpose of this course is to understand why manufacturing is important in Japan by understanding what manufacturing is and how competitive advantage in Japanese industry has been established. In addition, by focusing on the production system, which is one of the sources of competitive advantage, and introducing its contents, we aim to understand why Japanese manufacturing was able to secure a global competitive advantage.

MAN200MA

国際経営論

展開科目

森　直子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ダイナミックにグローバル展開されるビジネスとその背景とはどのようなものかの基礎知識を学びます。また、個々の経営手法を覚えることに終始せず、国際的な企業経営の理解を出発点として現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】
企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ることで、国際人としての視野・視点を獲得してもらうことをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
第１回授業は、４月２１日とします。午後６時を目途に学習支援システムでレジュメを配布します。授業の進め方の詳細が書いてあるので、必ず第１回のレジュメを読んでください。全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。基本的に、毎回の授業を「受講すること」を重視します。また、月に１～２回、短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。なお、当初、第１２回と第１３回に予定していた授業の内容については、教材レジュメを読んで短いレポートを提出することで代替します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論を学ぶということ―グローバル社会に生きるために	授業の概要説明
第 2 回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第 3 回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT 化社会以降のグローバルな企業活動
第 4 回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第 5 回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第 6 回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第 7 回	国際M＆A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第 8 回	研究開発と国際経営	R&D と立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第 9 回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第 10 回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第 11 回	国際協力と国際ビジネス	ＯＤＡ事業と国際ビジネスの関係、ＢＯＰビジネス、ソーシャルビジネス
第 12 回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント
第 13 回	。	。
第 14 回	。	。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献について図書館等を活用して読む。新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通し、企業活動のグローバル化に関する知識を高める。可能であれば、関連の学術論文にも目を通す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にもちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】
大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学 2、ミネルバ書房
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣
江夏健一・桑名義晴編著、IBI 国際ビジネス研究センター著（2012）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス　3 訂版』同文舘出版

【成績評価の方法と基準】
（１）授業への積極的な貢献　60 %
（２）学期末レポート　40 %

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the background of global business unfolding all over the world. In the rapidly and dynamically transforming world business environment, companies constantly keep selecting optimal solutions for their management methods. To understand such trends and situations, students need to acquire abilities to grasp the current state of the market and society. Therefore, instead of memorizing individual business management methods for global business, students are expected to reinforce their ability to perceive the contemporary business world from a broad perspective with the understanding of international corporate management as a starting point. Students are also expected to obtain important viewpoint as the internationally-minded person with learning basic history and present conditions of the globalization and complicated factors forming an international business.

ECN200MA

日本経済論

展開科目

長谷部　弘道

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの国の経済についてその全容を把握することは、意外とむずかしい。それは、私たちの国の経済に関わるさまざまな制度や活動が、国内外の様々な要因と複雑に絡み合いながら形作られ、また変容し、今日に至っているからである。実際、ほんの 200 年ちょっと前の日本社会、つまり江戸時代においては、経済活動の主体のほとんどは農業従事者であった。そんな日本がいかに近代化し、先進国に比肩する今日の経済社会へとその姿を変えるに至ったのか。また、そうした経路を通じて発展してきたこの国が、現在いかなる課題を抱えているのか。本講義では、こうした大きな時代の変化の文脈を理解することで、地に足をつけて今日の日本経済を観察しつづけることができるようになることを目指す。

【到達目標】
・私たちが生きる日本社会における経済のありようを、歴史的な文脈の延長上に位置付けて理解することができるようになる。
・日本経済の時代ごとの特徴を明確に説明できるようになる。
・現代日本経済をめぐる様々な論評や通説に対して、自分なりの考えを論理的にまとめることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業前半 60 分を教員による講義とし、後半 40 分は教員・学生間でのディスカッションに充てる。１週間前を目処に、翌週の講義スライド、およびディスカッションの題目を、所定の Dropbox フォルダにアップしておくので、受講者は指定された教科書の該当箇所とあわせて、授業準備に活用してほしい。ディスカッションはチームごとに行い、その内容を毎回報告書として提出してもらう。講義についての質疑応答は、Google form および Google document を用いて収集・共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなう。
第 2 回	近世における日本経済	近世（江戸時代）における日本経済とは、一体どんな世界における、どんな経済活動によって成り立っていたのか。その特徴と明治時代への繋がりを中心に解説する。
第 3 回	近世から近代への移行	日本が明治期を通じて近代国家へと移行していくプロセスを解説する。
第 4 回	日本における産業革命	日本の経済発展が、過去からの連続性によって発展してきたのか、それともラディカルな変革を足がかりに発展したのか。様々な歴史研究の成果を概観しながら検討する。
第 5 回	戦間期の日本経済	国際関係や経済政策、産業構造の変化、労働市場・教育制度の発展、金融構造、地理的な前提の変化といった側面から、第二次大戦前夜に至るまでの日本経済の動向を把握する。
第 6 回	戦前・戦後の連続と断絶	戦時期の統制経済のあり方の特徴と、そこから市場経済への復帰に至るまでのプロセスを概観し、戦間期から戦後直後期までの日本経済の連続と断絶について解説する。
第 7 回	振り返りと中間テスト	第６回までの講義内容を振り返り、中間テストを行う。
第 8 回	高度経済成長期（１）	高度経済成長を可能とした国際的条件、経済政策、財政・金融システムのあり方について解説する。
第 9 回	高度経済成長期（２）	高度経済成長期における産業発展と技術革新、中小企業の発展、農村と都市の関係、および社会問題について解説する。
第 10 回	石油危機と円高不況	石油危機が日本経済にもたらした構造的影響、円高不況とそれに伴う海外直接投資の増加、および日米経済摩擦等について解説する。
第 11 回	バブル期と長期不況	1980 年代末から 1990 年代初頭のバブル経済の要因とその崩壊以降の長期不況、およびそれらに対する官民の対応について解説する。
第 12 回	リーマンショックと 10 年代	リーマンショックという世界的な経済危機への対応に加えて、東日本大震災と原発事故という災禍に見舞われた日本経済の実情について検討する。
第 13 回	総括	2 回の本講義内容を振り返る講義を行い、それらから得られる示唆についてグループディスカッションを行い、それらを踏まえたプレゼンテーションを準備する。
第 14 回	プレゼンテーション	第 13 回で準備したプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、事前にテキストを読んできていることを前提に進める。毎回の講義内容で質問や追加の議論を必要とする場合は、教員指定の Google form を介して質問をおこなうこと。毎回の授業後には、授業後半で行ったグループディスカッションの報告書をグループごとに提出することを必須とする。

【テキスト（教科書）】
沢井実・谷本雅之『日本経済史　近世から現代まで』（有斐閣、2016 年、3,700 円+税）

【参考書】
宮本又郎・阿部武司・宇多川勝・沢井実・橘川武郎著『日本経営史　江戸時代から 21 世紀へ』（有斐閣、2007 年）
武田晴人『異端の試み　日本経済史研究を読み解く』（日本経済評論社、2017 年）
石井寛治『日本経済史 [第２版]』（東京大学出版会、2019 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験：日本経済の歴史的な成立経緯について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかを筆記試験を通じて評価する（50 %）。
中間試験：講義内容前半の理解度をチェックする。（20 %）
平常点：授業における発言、後半のディスカッションとプレゼンテーションにおける貢献を評価する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
各自、Google アカウントを取得しておくこと。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
It is not easy to obtain an overall picture of our society's economy. This is because the various systems and activities related to the economy are complicatedly intertwined and numerous factors are involved. The economy itself has also been undergoing transformation according to the global economic dynamism.
During the Edo period of Japanese society, as recent as 200 years ago, most of the economic activity was performed by farmers. How could Japan be modernized and transformed into today's economic society, which is that of a developed country? What are the current challenges and issues facing this country?
This course is aimed to obtain an insight into Japanese economy and its structure from a historical perspective, especially focusing on the processes of building the modern Japanese economy through transformation.
With this course, we also aim to learn about the context of the changes in such an important era and the subsequent transformation, so that we can continue to observe the present Japanese economy. This lecture is conducted in an active learning format. Participants have to work on and prepare for the class theme in advance.

ECN200MA

産業論

展開科目

青木　成樹

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・2　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。
　本授業では、皆さんの労働が新たな価値を生む出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】
本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。
①我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる
②我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる
③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる
④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる
⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 2 回（第 1 回〜第 2 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 3 回（第 3 回〜第 5 回）では、パソコンを利用し、世界的な分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 6 回（第 6 回〜第 11 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 2 回（第 12 回〜第 13 回）は、イノベーションについて学び、最後（第 14 回）に全体のまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観し、同時に最近の変化や国の Society5.0 について学ぶ。
2	少子高齢化とグローバル化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、少子高齢化、グローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
3	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables) について学ぶ。
4	産業連関表から見た我が国及び地域の産業構造	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」を用いて、我が国及び地域経済の産業構造の特徴を定量的に学ぶ。
5	経済波及効果分析	経済波及効果の意味を把握し、産業連関表を用いて、観光客の誘致、イベントの開催、工場等の誘致が地域経済に与える経済波及効果について具体的に学ぶ。
6	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
7	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
8	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
9	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向（情報関連産業）	我が国の 20 世紀から 21 世紀にかけての成長産業である情報関連（IT) 産業の動向、とりわけ、成長産業として発展した要因について学ぶ。
11	主要産業の動向 (健康関連産業）	今後期待される成長産業として健康関連産業の動向について学ぶ。健康関連産業は、医薬品、介護、医療サービス等多様であるが、今年度は医療機器産業を中心に学ぶ。
12	イノベーション	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型、具体的な事例について学ぶ。
13	中小企業、ベンチャー企業	イノベーションの推進の主体として、大手企業に加え特徴ある中小企業群やベンチャー企業について具体的事例について学ぶ。
14	まとめ	我が国の産業の特徴について、マクロとミクロの観点から振り返り、重要なポイントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を効果的に学ぶためには、以下の 2 つについて、事前に学んでいることが望まれる。
①経済学の基礎（ミクロ経済学とマクロ経済学の概要）
② Excel の基本操作（第 3 回〜第 5 回で学ぶ産業連関分析を理解するため）
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメ（PPT) を配布致します。

【参考書】
以下、順不同 (五十音順）
①伊神満『「イノベータのジレンマ」の経済学的解明』日経 BP 社（2016 年）
②入山章栄『世界標準の経営理論』　ダイヤモンド社（2019 年）
③岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
④価値総合研究所『地域経済循環分析の手法と実践』　ダイヤモンド社（2019 年）
⑤木村公一朗（編）『東アジアのイノベーション』　作品社（2019 年）
⑥楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社（2010 年）
⑦経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
⑧経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
⑨小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社 (2010 年）
⑩小室直樹『危機の構造』ダイヤモンド社 (1976 年)、中公文庫から 1991 年に再刊
⑪清水洋『野生化するイノベーション』新潮選書（2019 年）
⑫ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
⑬冨山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書（2014 年）
⑭中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016 年）
⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017 年）
⑯日立東大ラボ『Society5.0』日本経済新聞社（2018 年）
⑰丸幸弘、尾原和啓『ディープテック』日経 BP 社（2019 年）
⑱宮川努『生産性とは何か―日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018 年）
⑲三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012 年）
⑳吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点　30 %
期末テスト　40 %
期末レポート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
今年で本講義は 8 年目である。最も受講者が多かった 2014 年度の授業改善アンケート調査をみると、「知識が身についた」（86.2 %)、「新しい発見があった」（41.4 %)、「進路選択に役立った」（10.3 %）の回答は全学部平均（各々 72.9 %、26.6 %、4.2 %）を上回った。一方、「授業難度が適切であった」「学生間の交流があった」については全学部平均を下回っている。このことから、本年度については上記『到達目標』に掲げた 5 つの目標を意識しながら、より明確な説明を心がけ、また毎回授業の終わり 10 分程度を質疑応答の時間に充て、意見交換の場を設けたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
私は 1985 年に長銀経営研究所に入社して以降、現在の日本政策投資銀行グループの価値総合研究所に至るまで民間のシンクタンクで約 35 年に渡り国や地方行政の産業政策の調査に係ってきた。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。
①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えている。
②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。

④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline and objectives】
I think that graduating from university and working has two main purposes. One is to supply labor and obtain wages and salaries in return for use as a means of living. The other is that your workforce creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful for individuals, for companies, and for society.
In this class, you will learn about the Japanese industry, where your labor creates new value, from a variety of perspectives, such as 1) the overall picture and change of the industrial structure, 2) the characteristics and changes of major industries, and 3) the characteristics of major companies. Learn.

MAN200MA

マーケティング論　　展開科目

酒井　理

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新たな商品の開発、顧客満足の向上といった企業活動においてなくてはならないマーケティングの理論を学び、実際の企業の活動を理解します。

【到達目標】
授業は、①マーケティングに関する基本的な用語を説明できる②マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する③社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する、の 3 つを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、マーケティングに関する基礎的な知識を修得することを目的とします。社会では様々な企業や事業体が活動をしています。企業や事業体は、社会に価値あるものを提供して、その対価として利益を得て継続的に存続していきます。社会に対して新しい価値を創意工夫して提供していくという活動をマーケティングというフレームワークを使って理解していきます。マーケティングの基本的な考え方やフレームワークを 1 つずつ取り上げていきます。実社会と密接に結びついた現場の学問ですので事例を出しながら説明していきます。マーケティング論の入門として、幅広く知識を修得するように身近な話題を入れながら、わかりやすく説明したいと思います。
可能な限りゲストを迎えて話を聞く機会を設けたいと考えていますが (web 上でのミーティングになります)、シラバスに書いてあるゲスト招聘が不可能になる可能性があります。状況が流動的ですので、もし可能な状況になればゲストの授業を web 上で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解します。
2	マーケティングの基本ＳＴＰ（セグメンテーションとターゲティング）	セグメンテーション（市場細分化）とターゲティングの重要性について考えます。
3	マーケティングの基本ＳＴＰ（ポジショニング）	競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスを説明します。
4	マーケティング・マネジメント（４Ｐ）	マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていく考え方について説明します。
5	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて考えます。またアイディア発想のワークを行います。
6	デザインシンキング	デザインシンキングによるプロダクト、ビジネスの構築について考えます。
7	マーケティング・コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーションについて説明します。
8	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを紹介していきます。 価格決めのグループワークでプライシングのポイントを理解します。
9	チャネル（プレイス）	どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいのか、どのようなチャネルが有効なのかを考えます。
10	マーケティングリサーチの実際	ゲストスピーカーからマーケティングの実際について話を伺います。（予定：マクロミル）
11	顧客とのリレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを説明します。
12	ブランドマネジメント	ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを説明します。
13	ブランドマネジメントの実際	ゲストスピーカーからブランドマネジメントの実際の話を伺います（予定：ソニークリエイティブプロダクツ）
14	試験・まとめと解説	web でテストを実施します。 ここまでの話を総括して、これから未来のマーケティングを展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。多くの事は話で説明しますので、ノートは単に板書やスライドを写すだけではなく、自分で工夫して作成するようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指示しませんが、参考書に沿った授業内容となります。

【参考書】
和田充夫他『マーケティング戦略 第４版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①マーケティングに関する一般的知識を習得したか②マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか③社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか、の 3 点を試験によって評価する方法で行います。
成績評価は、web での試験 60%、授業毎の小テスト 40%の割合です。
成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
講義で使用するプレゼン資料については学習支援システムに事前にアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムを使用します。
クリッカー、web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
初回授業は 5 月 7 日木曜日です。
初回はガイダンスです。資料を事前に学習支援システムにアップしますので確認してください。

【Outline and objectives】
Learn the essential marketing theory in corporate activities such as developing new products and improving customer satisfaction.

MAN200MA

流通・マーケティング戦略論　展開科目

首藤　禎史

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネス市場戦略行動においてその最前線で消費者と直接対峙・接触する流通業（とくに、小売業）の競争およびマーケティング戦略に関係する諸問題を理論と実務の両面から検討・理解していくようにします。

【到達目標】
① 流通構造と小売業の社会・経済における役割と機能を理解する。
② 小売業者の市場のおける行動をその事業形態と小売競争枠組みを検討することを通じて理解する。
③ 小売競争理論と小売マーケティング ミックスを理解することにより、小売市場におけるビジネス競争・戦略活動をマネジメントできる基礎を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、上記のように、「社会において流通とはどのような機能・システムを構成しているか」ということから、「小売業の意義と役割」そして小売市場における競争行動やその理論を学ぶことによって、小売業のマーケティング戦略の立案と実行、あるいは小売業のマネジメントに関係する基礎的な知識を身に着けるようにすることを目的としています。
　授業は講義形式で進められますが、学生諸君の積極的な参加や意見を歓迎します。私たちの生活に最も密着したビジネスである小売業の現状を実体験や観察を通じて得た知識をもって、理論との融合（理論のどこが使えて、どこが実社会に適合できないのかなど）を検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マーケティング・流通における小売業の概念と役割Ⅰ	マーケティングにおける小売業の位置づけと機能
第 2 回	マーケティング・流通における小売業の概念と役割Ⅱ	小売サービスの概念と小売サービスの種類
第 3 回	マーケティング・流通における小売業の概念と役割Ⅲ	小売業者の社会・経済的役割
第 4 回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅰ	業種・業態分類と小売フォーマット
第 5 回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅱ	小売フォーマットによる小売業分類と小売事業形態
第 6 回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅲ	所有・経営形態による分類（垂直的マーケティング・システム）
第 7 回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅳ	商業集積の諸形態と成り立ち
第 8 回	小売競争モデルと理論仮説の理解と検討Ⅰ	水平的競争
第 9 回	小売競争モデルと理論仮説の理解と検討Ⅱ	垂直的競争（システム間競争）
第 10 回	小売競争モデルと理論仮説の理解と検討Ⅲ	代表的な理論仮説の検討
第 11 回	小売マーケティング戦略の構築Ⅰ	小売ミックスの概念と枠組み
第 12 回	小売マーケティング戦略の構築Ⅱ	小売ミックスの諸要素の理解
第 13 回	小売マーケティング戦略の構築Ⅲ	小売ミックスの具体的な組み合わせと小売ビジネス競争
第 14 回	事例研究	Sears, Wal-mart, Whole Foods Market, Trader Joe's

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経営・経済に関する基本的知識、および当該科目に関する予習・復習はもとより、大学生として授業に臨む心構えを期待します。また、日ごろの買い物などにおいて敏感に疑問を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストについてはとくに指定しません。プリントを配布するか、Power Point を用いて授業をします。

【参考書】
『アメリカの流通業の歴史に学ぶ』徳永豊著, 中央経済社.
Retailing Management 5th-ed, M. Levy, B. A. Weitz, McGraw Hill- Irwin

【成績評価の方法と基準】
定期試験 100 %, 授業中小テストとを実施した場合は、+ α として採点します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート集計中のため未記入。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
In this lecture, we study and discuss the retail management and marketing strategy in terms of both the theories and practices.

MAN200MA

流通・サービスビジネス論　展開科目

酒井　理

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
流通ビジネスとサービスビジネスを理解するための知識と理論を修得することを目的とします。流通ビジネス、サービスビジネスのしくみや特徴を学問的な枠組みのなかから理解していきます。サービス経済化が進んでいく、これからの日本を含めたグローバル社会を見据えて、私たちが働くことになるビジネス環境の理解を深めます。将来を見据えて、自らのキャリアを考えていくうえで必要となるビジネス環境、ビジネス・システムを深く理解することを目指します。

【到達目標】
受講者が①流通・サービスビジネスに関する基本的な用語を説明できること②流通・サービスビジネスに関する一般的な知識を習得し、その経営のしくみを理解し説明できること③流通・サービスビジネスに関する実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
身近なところの具体的事例から流通・サービスビジネスを理解できるよう授業を構成しますので、流通ビジネス・サービスビジネスについては特段深い知識はなく、初めて触れる学生を前提としておこないます。ただし、ビジネスキャリア領域の入門科目、マーケティング論などのビジネス系の基礎的な授業は最低限履修していることを推奨します。
要所でゲストを招いてビジネスの実際を理解する機会を設けます。それにより理論と実際がどのようにつながるのかを理解していきます。
また、Web の株式売買システムを利用して上場している流通・サービス関連の企業分析を行うワークを組み込みます。特別な知識を必要とはしませんが、課題をこなすためには自宅ないし学校でインターネットにアクセスできる環境があることが前提です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	流通ビジネス全体解説（流通の役割・小売業態）	流通が社会において、なぜ必要であるのかを考えます。 小売業態とは何かを解説します。代表的な業態である百貨店（デパート）を取り上げそのビジネスの特徴について解説します。
2	流通・サービス企業研究の進め方（導入編）	株式取引システムを使った企業研究について解説します。
3	チェーンシステム	総合スーパー・コンビニエンスストアを題材にチェーンシステムを理解します。
4	SPA とサプライチェーンマネジメント	SPA のビジネスを支えるサプライチェーンのしくみとともにユニクロ、H&M のビジネスを解説します。
5	EC ビジネス	インターネットを使った流通ビジネスについて解説します。
6	流通・サービス企業研究の進め方（展開編）	株式取引システムを使った企業研究で分析を発展させるための視点を提供します。
7	サービス・ビジネス全体解説（サービスの特性とビジネス課題）	モノとの対比によって形のないサービスという概念を理解します。
8	多様なサービスビジネス（人的サービス、物的サービス）	人的サービスの特徴と課題について説明します。身近なヘアサロン、飲食サービスなどを題材に解説します。 物的サービスの特徴と課題について説明します。物的サービスの特徴と課題について説明します。ブライダルサービス、ホテルなどを取り上げます。
9	多様なサービスビジネス（コンテンツサービス、金融サービス）	映画、音楽などのコンテンツを提供するサービスの特徴を解説します。 金融サービスの特徴を解説します。
10	シェアリングエコノミー・AI とこれからのビジネス	近年、成長著しいシェアリングビジネスの特徴をシェアリングエコノミーの考え方とともに解説します。
11	株取引システムを使った企業研究成果（流通分野）の講評とプレゼン 1	流通分野の企業研究の成果を全体で共有し、講評します。

12	株取引システムを使った企業研究成果（サービス分野）の講評とプレゼン２	サービス分野の企業研究の成果を全体で共有します。
13	株取引システムを使った企業研究成果（先端分野）の講評とプレゼン３	先端分野の企業研究の成果を全体で共有します。
14	試験・まとめと解説	web 上でテストを実施して、授業全体のまとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。さらに流通・サービスビジネスの多くは身近に利用するものばかりです。このビジネスはどのように成り立っているのか、自分はなぜこのお店で買い物をするかを深く考えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。

【参考書】
特に指示はしません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか、②流通・サービスビジネスのしくみを十分理解し説明することができるか、③社会における流通・サービスビジネスの役割を理解し、現実の商業の諸問題を流通理論に関連付けて説明することができるかを試験によって評価する方法で行います。
期末の web テスト 40%、授業ごとの小テスト 20%、企業研究レポート 40%の割合で評価します。
成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
講義用スライドの学習支援システムにアップロードをします。
学習支援システムやメールで質問に答えます。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。
クリッカー、web でのテストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
初回授業は 5 月 7 日木曜日です。
初回はガイダンスです。資料を事前に学習支援システムにアップしますので確認してください。
****
＜実務経験のある教員による授業＞
スモールビジネスのコンサルティング経験から得られた知見に基づいて、実際のビジネスにどのように理論的枠組みが応用できるかを解説します。

【Outline and objectives】
This course aims to acquire knowledge and theory to understand the distribution business and the service business.
Understand the structure and features of the distribution business and service business from an academic framework.
Focusing on the future, we aim to deeply understand the business environment and business systems necessary for thinking about your career.

MAN200MA

就業機会発見実務　　展開科目

田辺　康広

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作る人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会とする。

【到達目標】
労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイヤビリティを高める機会とする。また、キャリアデザイン学部出身者として強みとなる「人のエキスパート」（という実務家）とは何か、について思索する時間も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
エンプロイアビリティやアントレプレナウアーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解する②キャリア理論で学んだ自己理解手法を演習を通じて確認し、自らのキャリア形成に資する体験とする③模擬採用面接等の体験を通じて自己理解を深める④エンプロイヤビリティや職場・チーム運営を高めるための各種スキルトレーニングをアクションラーニングメソッドを用いて行う。グループ演習が多いので出席することが必須。試験は実施（オープンブック方式：電子機器を除いて持ちこみ可）。試験問題のテーマはオリエンテーションの回で案内予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	自己理解１（自分点検の方法）	社会的成熟を果たしていくためには常に自分を点検する姿勢が必要であるという点、と点検ポイントについて理解する。
第 3 回	自己理解２（特性因子理論より）	RIASEC の理論（ホランド）をアクションラーニング演習を通じて体感し、自己理解への啓発的体験とする。
第 4 回	自己理解３（発達理論より）	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが必要か、ビジネス「ライフライン」（スーパー）ワークシート記入を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験とする。
第 5 回	自己理解４（トランジションの対応として）	4S 理論（シュロスバーグ）を背景に、具体的事例（ケース）を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解への啓発的体験とする。
第 6 回	職業理解１（採用）（職務）	採用に際して重要視しているものを日米で比較し、理解する。また、創業を志す人の特性についても思索する。 ジョブ（職務）の概念を理解し、ジョブ（職務）を中心として人事制度ができあがっていることを理解する。
第 7 回	職業理解２（職場コミュニケーション）	職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解する。
第 8 回	一歩先行く就活１（応募書式）	応募書式記入のポイントを記入演習を通じて理解する。
第 9 回	一歩先行く就活２（説明会、グループ討議）	説明会での姿勢や態度、行動と「グループ討議」のポイントを理解する。
第 10 回	一歩先行く就活３（グループ面接）	「グループ面接」のポイントを理解する。
第 11 回	一歩先行く就活４（個人面談）	自己を語るうえで気をつける点を理解する。
第 12 回	振り返り	１１回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティは高まったか、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簡単な宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は計 1 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験、宿題、出席時の授業コメント提出による。
期末試験はオープンブック方式（電子機器以外は持ちこみ可）で、論文 2 問です。テーマは第 1 回目の授業でお知らせします。
配点は設問 1 (満点 60 点)、設問 2 (満点 40 点) とし、計 100 点満点として採点します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度はオンライン授業を基本とします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
キャリアデザイン学部は、一人ひとりが自分の持つ価値観を探索したり、自分の強い部分や弱い部分を素直に見つめたりすることを通して、強い自分を発見する、強い自分を作ることを目的にしています。そのために重要なことは自分を理解することです。加えて、未来へのイマジネーションを働かせることです。今、未来が見えていなくても大丈夫です。学生時代にもがき、悩み、思索する体験こそ、意義や意味があるのです。キャリアデザイン学部は「社会における自分の役割は何か」「そのために何をすべきか」を考える機会を提供します。そのような機会や環境を活かして、時代認識を持ち、強くてしなやかな自分をプロデュースしてください。専門性はあとから自ずとついてきます。そしてこのような人材こそ、激動の時代に立ち向かう現在の企業や教育機関が渇望している人材なのです。信頼できる自分に出会い、時代が求めているキャリアデザイン学部の卒業生としての誇りを持って社会に巣立っていっていただきたい、と考えています。

【Outline and objectives】
Discussion and Role-play are used in the classes, so students are required to be participative attitude. The discussion theme is "how to enhance my employability"or entrepreneurship.

SOC200MA
キャリア研究調査実習 E（幸福論）
展開科目

小塩　靖崇

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア調査実習の中で、幸福（ウェルビーイング）を題材として量的調査を学びます。
キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域ですが、いずれの分野でも、幸福（ウェルビーイング）をどのように捉えるかは、中心概念として共通しています。本講義を通して、キャリアデザイン研究において、量的調査を具体的に実践するためのスキルを磨いてください。

【到達目標】
(1) 先行研究の調べ方、仮説・リサーチクエスチョンの立案に関するスキルを獲得する
(2) 質問紙を作成し、簡単なデータ収集と分析のスキルを獲得する
(3) 得られた結果の解釈に関するスキルを獲得する
(4) 上記 (1)-(3) を実践的に学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。 本授業の開始日は 4 月 28 日とする。
学習支援システムに資料を提示するので、自己学習し、学習内容（感想を含む）をレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	幸福（ウェルビーイング）の定義 なぜ研究方法を学ぶのか
第 2 回	研究の構造と機能	研究プロトコールのアウトライン 研究デザインの例
第 3 回	研究例（1）尺度研究	幸福（ウェルビーイング）を評価尺度研究の例
第 4 回	研究例（2）メカニズム研究	幸福（ウェルビーイング）のメカニズムを考える研究の例
第 5 回	研究例（3）介入研究	幸福（ウェルビーイング）を促す介入研究の例
第 6 回	研究テーマを考える	研究テーマと研究計画の検討方法
第 7 回	コホート研究とは？	前向きコホート研究 後ろ向きコホート研究
第 8 回	横断研究とケースコントロール研究とは？	横断研究 ケースコントロール研究
第 9 回	観察研究における因果推論	交絡への対処方法
第 10 回	介入研究とは（1）	よく用いられる介入研究デザイン
第 11 回	介入研究とは（2）	ランダム化比較試験と非ランダム化比較試験
第 12 回	質問紙をデザインする	質問紙の作り方
第 13 回	研究をデザインする（1）	上記の知識を復習し、研究計画を作成する
第 14 回	研究をデザインする（2）	上記の知識を復習し、研究計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
下記ウェブサイトを参照する
https://sanita-mentale.jp/material/

【テキスト（教科書）】
木原雅子／木原正著　『医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ　第3版』　2011 年　メディカル・サイエンス・インターナショナル
下記ウェブサイトを参照する
https://sanita-mentale.jp/material/

【参考書】
下記ウェブサイトを参照する
https://sanita-mentale.jp/material/

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も
変更する。

具体的な方法と基準は、「レポートや課題の提出」： 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to understand quantitative research methods. The educational material will cover topics about well-being and mental health. Well-being is a common and important concept in various research/practice fields.

SOC200MA
キャリア研究調査実習Ｆ（まちづくり論）
展開科目

大西　未希

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・4** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、地域社会においてさまざまな課題を解決する「まちづくり」の在り方が注目されている。地域に根ざした課題を発見するためには、まずはつぶさな視点で街を調査すること、そのデータ検討し、課題を浮かび上がらせることが重要である。そこで本授業では「まちづくり」をテーマとした社会調査（質的調査）のプロセスを学び、実践的な能力を身につけることを目指す。
【2020.4.14 追加】
家の中や周囲を対象に質的調査の演習を行います。

【到達目標】
(1) 質的調査の調査デザイン、調査手続きに関するスキルを獲得する。
(2) 考現学、参与観察、インタビューの手法について説明でき、実践するスキルを獲得する。
(3) 対象地域において適切な調査デザインを採用し、調査を進めることができる。
(4) 対象地域への調査結果からまちづくりの提案を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【2020.4.23 修正版】
授業開始は学事日程どおり 4/23（木）としますが、オンタイムで受講の必要はありません。
初回はオリエンテーションです。講義の内容や方法を資料で提示し、本講義の詳細を示すとともに、履修希望者に向けたアンケート（履修希望理由の他ウェブ環境の確認等の内容。回答期限 4/30）を公開します。
アンケート結果をふまえ講義方法を調整しながら、5/7（木）より講義開始の予定です。
履修希望者多数のため選抜となります。仮登録の上、履修希望書とアンケートを提出してください。
授業情報も情勢により調整をしていく可能性があります。学習支援システムとウェブシラバスを定期的に見ておいていただきたいです。
ーーー
・講義（ライブ配信）： Zoom 等のビデオチャットを利用し週 30 分程度を予定。時間割通り木曜 15:00-とする。授業時間いっぱいは行わないので、出来る限り遅刻欠席しないこと。チャット、グループディスカッションなどで参加を促す。チャット等の参画度も授業評価対象。
・演習（オフライン）：提示された演習課題（主に観察調査）を期限までに行い、学習支援システムやメールなどの方法で提出。提出された課題は講義内で扱ったり、講師からフィードバックする。
・フィードバック（オンデマンド）：メールや学習支援システムの掲示板、LINE などを利用して講師からのお知らせ、補足資料提示などを行う。それを元に予習・復習をする。
【旧】
講義と、個人またはグループでの実習を取り合わせて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	【2020.4.23 修正版】 授業の到達目標、テーマ、概要、方法 ※資料提示、アンケート実施
第 2 回	質的調査の概要と方法（1）	配信のチュートリアル 質的調査と量的調査の調査法の違い、質的調査を元にした研究、情報機器を用いたデータのとり方
第 3 回	質的調査の方法（2）フィールドワーク①	課題講評、情報機器を用いたデータのとり方の振り返り
第 4 回	質的調査の方法（2）フィールドワーク②	考現学の手法、路上観察におけるスケッチ、メモの手法
第 5 回	質的調査の方法（3）フィールドワーク①	課題講評、考現学的アプローチの調査の振り返り、定点観測の調査設計とデータのとりかた
第 6 回	質的調査の方法（3）フィールドワーク②	写真、動画などの定点観測データをもとにしたデータセッションの方法、データの読み取り方
第 7 回	質的調査の実践①	フィールドワークのまちづくりへの活かし方、質的調査デザイン
第 8 回	質的調査の実践②	個人またはグループで特定の地域を対象に質的調査（フィールドワーク）を行う

第 9 回	調査結果のデータセッション	さまざまなデータをもとにしたデータセッションの方法、データの読み取り方
第 10 回	調査結果の整理と表現	まちづくりの提案につなげる地域の資産を考える、発表の準備を行う
第 11 回	調査結果の発表①	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」をテーマにした構想を発表する（1 回目）
第 12 回	調査結果の発表②	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」をテーマにした構想を発表する（2 回目）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で実習課題が課されることがある。
授業外に調査実習を行うことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし。講義内で資料を配布します。

【参考書】
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク– 書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社
前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編（2016）『最強の社会調査入門――これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
【2020.4 現在　講義全てがオンラインになった場合を考慮しての成績評価方法です】
授業への積極的な貢献度： 20% 授業内課題： 30% 最終課題： 50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
【2020.4.10 修正版】
- パソコン
- スマートフォン
- マイク付きイヤホンまたはヘッドセット

【その他の重要事項】
【2020.4.13 修正版】
当初リリースしていたシラバスで書いていた、まちでの物理的なフィールドワーク、まちあるきを行うことは困難です。この事態をふまえ、質的調査の基本的な技能を鍛えるための資料の読み込みやレポート提出、また家の中や家の周辺のみを立ち歩いての観察調査を中心に演習していきます。３密を避けた散歩は今のところ制限されたものではないので、できればこの方法でいきたいです。もちろん、ご自身の体調や事情によるものでもありますので、この辺りはゆるやかな設定です。
制限された中で暮らす私たちの生活は、地続きに「まち」とつながっています。例えば、どんな張り紙があるでしょうか。屋外には何が置いてあるでしょうか。ゴミ捨てのルールをどんな方法でアナウンスしあっているでしょうか。これはほんの一例ですが、落ち着いて家の周りを見るだけでも、フィールドワークはできます。直接人と向き合えない中で、人々の共同生活がどのように人々によって動かされているか。それはまちづくりを考える上で非常に興味深いテーマとなります。
演習の内容は、この講義の受講生のみでシェアします。人びとの個別具体的な暮らし、営みを丁寧に観察しましょう。そこから、人びとの暮らしと「まち」との関係にもフォーカスし、まちと人びとのどのような関係性があり得るのか、考える時間にしたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
この授業は，受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合，抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】
Qualitative research involves the collection and rigorous analysisof observations,interviews, and other records ofhuman activity so thatwe can cometo aricher
understanding of structures, processes, and perspectives that drive or shapehuman behavior. We will also practice some of the activities associated withexecuting a qualitativeresearchstudy relevant to community development.

SOC200MA

外書講読 A（ライフ）　展開科目

門脇　仁

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の情報をいかに読み解き、研究やビジネスに活用するか。それにはまず、外国語の資料を正確かつ効率的に読みこなすスキルが必要となる。この講義では、海外ニュース、インターネットサイト、報告書、ルポルタージュなどの英文を毎回１本ずつ取り上げ、その訳読を通して、外国語による情報分析や調査の基礎的ノウハウを習得する。また、音声教材の使用によってリスニング能力も高め、耳から得られる海外情報の活用にも慣れる。

【到達目標】
外国語のパッセージを理解し、地球規模の情報を手際よく収集できる能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、パワーポイント資料によるレジュメを使って授業を行う。オンライン授業の期間は、レジュメの各ページ下のノート欄に、通常の授業で話すことを要約して記載しておく。それをよく読み、各頁の要点や図表も理解しながら読み進め、練習問題も解いてみること。また、A 4 版１枚程度の平易な英文資料を次回授業までの課題文とする。翌週の授業でその資料の訳読を示し、英語による情報の収集と理解についての解説も加える。以上２種類の教材は、学習支援ツールの「教材」のボックスに毎回アップしておく。また、情報を耳から吸収することにも重点を置き、インターネットで入手できる音声テキストも随時紹介する。さらに外国語学習法も併せて指導するので、文法や語彙の復習・再強化を目的とする学生も受講可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
2	インタビューの英語	国際舞台で活躍する人々の英語インタビューをテキストに、聴き取りと読み解きの重点を学ぶ。
3	海外の情報ソース	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計に基づく一次情報のソースを知り、活用する方法を身につける。
4	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチについて考察した文章を読み解く。
5	ルポルタージュの英語	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
6	字幕の英語	映画やニュースの字幕を活用し、音声と文字を同時に活用しながら情報収集をするコツをつかむ。
7	ラジオの英語	VOA Special English や CNN Student News をテキストに、音声情報の活用方法を身につける。

8	語彙・読解力・リスニング力の相乗効果	音声の導入で語彙を増やし、同時に速読力も高めるためのトレーニング方法を解説。
9	ネイチャーライティングの英語	自然描写の中に思索と想像力の根源を探究するネイチャーライティングの鑑賞方法。Annie Dillard の Teaching a Stone to Talk を使用。
10	広告媒体の英語	商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
11	TOEFL の活用法	ETS（Educational Testing Service）が行なう英語試験 TOEFL iBT を参考に、英語による考察・立論・意見発表などの基本を学ぶ。
12	海外に紹介された日本	日本の伝統文化が英語でどのように紹介されているかを見ることにより、海外における異文化理解の現状と課題を展望する。
13	個人発表①	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
14	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。授業支援システムに課題文を掲載することもあるが、毎回ではないので、授業には必ず出席すること。

【テキスト（教科書）】
各回の授業で資料を配布。

【参考書】
『エコカルチャーから見た世界ーー思考・伝統・アートで読み解く』（門脇仁著、ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験 60%、平常点 40%。特にリアクションペーパーの内容を重視。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの方法についての分析的な解説が参考になるという学生が多いので、今年度も取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
PC（教室への持参は不要）

【その他の重要事項】
背景知識や参考事例をなるべく多く用いて、分かりやすい説明に努めるので、受講者も積極的に授業に参加すること。

【Outline and objectives】
How can we understand information around the world and make use of it for our study or business? The most important process for that is to acquire ability to read foreign documents correctly and efficiently. In this lecture, we will pick up an English passage to read each week, and learn how to research or analyze information in foreign language. In addition, we will introduce audio materials in order to improve our listening skill and be used to thinking, understanding or learning through spoken English.

SOC200MA

外書講読Ｂ（ライフ）

展開科目

門脇　仁

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・1** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】
英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEIC スコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回Ａ４版１～２枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
第 2 回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第 3 回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第 4 回	インタビューを読む	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第 5 回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第 6 回	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第 7 回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 8 回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第 9 回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第 10 回	プレゼンテーションの聴き方	TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、よく用いられる表現などを知る。
第 11 回	TOEIC の活用法	TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第 12 回	メッセージを読み解く	昨年ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーチストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達のメカニズムを探る。

第 13 回　広告の英語	海外の商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第 14 回　個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で配布するレジュメと課題文がテキストとなる。

【参考書】
グローバルな問題や情報へのアプローチについては、下記の書物をサブテキストとし、授業で指定のあった回に持参すること。
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【成績評価の方法と基準】
筆記試験 (60 %)、平常点（40 %）
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるので、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
教室設置の PC、プロジェクター、DVD プレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】
全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】
課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline and objectives】
How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ　展開科目

佐藤　恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
2020 年 4 月 20 日追記
春学期はオンラインでの開講となります。
学習支援システムに資料を掲示し、資料の理解度や自習の成果を小レポート等の課題で確認するといった方法で、オンライン授業を実施します。
初回授業日は５月４日（月）です。
成績評価方法は、期末レポート（７０%）、小レポート（３０%）に変更します。

講義形式の授業です。
１つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。
正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史的変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第 3 回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する

第 11 回	歴史と社会を見る目（1）	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第 12 回	歴史と社会を見る目（2）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第 13 回	歴史と社会を見る目（3）	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第 14 回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（７０％）、平常点（３０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】
Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤　恵

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業です。
１つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。
正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは○○が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点（1）	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点（2）	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆的生活の様相について理解する
第 12 回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

第 13 回　歴史と社会の再生産	第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第 14 回　まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（７０％）、平常点（３０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】
How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

SOC200MA

家族論

展開科目

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】
本講義の目標は、２つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は 4 月 22 日を初回授業開始日とする。学習支援システムに教材・資料を掲示し、課題を課す等の方法で、オンラインで実施する。学習支援システムの該当ページを毎回必ず参照すること（2020 年 4 月 15 日追記）。
本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・ＤＶＤ・ビデオ教材などを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生” から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生” から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『親になれない親たち』（斎藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】
・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009 年、ミネルヴァ書房）
・『論点ハンドブック　家族社会学』（野々山久也編、2009 年、世界思想社）
・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度 (40%)・小レポート (10%)・期末試験 (50%) と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】
受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

【Outline and objectives】
This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society.

SOC200MA

若者文化論

展開科目

山崎　鎮親

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者文化についての概説を受講し、若者文化に関する研究理論や研究方法について学んでいきます。主に日本の若者と若者文化を取り上げ、暴走族、モッズやパンク、ギャル、ヤンキー、オタ、ゴスロリ、趣味縁、地元文化などの若者文化、若者のつくる関係性、アイデンティティ、若者文化と情報化・消費文化化との関係、キャリア形成との関係などのトピックを扱いながら、若者文化についての一定の理解の構築をめざします。

【到達目標】
若者文化を研究する、あるいは若者文化について専門的に論じ分析するために必要な基本的な理論や基礎的な概念について学び、社会学、心理学、記号論、社会批評・文化批評など若者文化研究に有効な理論を理解し概念や知識を習得する。そうした若者文化研究の学習を通じて、若者文化の性質や特徴に関する専門的な理解を自分なりに構築できるようになる。そして、若者文化についての一定の知見を構築するようになる。さらに発展としては、若者文化について学問的で専門的な理論や知識に裏打ちされた分析や研究ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
大人数の受講が予想されます。そのため、講義形式が中心になってしまいます。若者文化の具体例を毎回の授業で取り上げて説明と分析の例示を中心に進めていきます。毎回レジュメと資料を配付します。必要に応じて視聴覚資料も用います。ワークや授業内課題（小レポートなど）を数回実施します。なお、授業内課題は成績評価と連動します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「若者文化論」の導入：若者文化研究の具体例	授業の進め方や内容紹介などを説明。若者文化を学問的に扱うことの例を提示する。
2	若者文化とは：若者と若者文化	若者文化､若者について分析する際の視角や見取り図の提示する。
3	若者文化の探究枠組み (1)：若者文化のスタイル分析	モッズやパンクなどトライブのスタイルの文化記号分析を行い、若者文化と社会構造との関係を扱う。
4	若者文化の探究枠組み (2)：スタイルとアイデンティティ	ストリートファッションなどの文化記号分析、スタイルの記号分析を通してアイデンティティの表象を扱う。
5	若者文化の探究枠組み (3)：若者文化の「界」分析	ブルデュー流の「界」「文化資本」「ハビトゥス」概念を用いて、ゴスロリ文化を例に若者文化の内部分析を行う。
6	若者文化の探究枠組み (4)：複数の「界」の関係分析	「界」の理論を用いて、若者のトライブや種族間の象徴闘争や「島宇宙化」について扱う。
7	日本の若者文化の展開 (1)：族の若者文化	若者文化の形態分析として、凝集性の強い文化集団、「族」の若者文化を暴走族文化など絵を例に扱う。
8	日本の若者文化の展開 (2)：系の若者文化	若者文化の形態分析として、個人主義的で消費文化の性格の強い、「系」の若者文化を扱う。
9	日本の若者文化の展開 (3)：消費文化と同調の文化	リースマンの他人指向型を用いて、「系」の若者文化にみられる同調の特徴、消費文化的性質を扱う。
10	日本の若者文化の展開 (4)：情報社会化と人間関係	オンライン、オフラインの若者の人間関係、友人関係、コミュニケーションの様態を社会心理学の知見を用いて扱う。
11	日本の若者文化の展開 (5)：社会関係資本と若者文化	社会関係資本の理論を用いて、若者文化の集団や趣味縁の特徴を扱う。強い紐帯と弱い紐帯との対比も行う。
12	若者のキャリアと若者文化 (1)：地元つながり文化の社会的機能	地元つながり文化という若者文化の持つ、キャリア形成との関係について社会関係資本の視点から扱う。
13	若者のキャリアと若者文化 (2)：地元つながり文化の二面性	地元つながり文化について機能分析を行うことで、地元に根ざす若者文化のつながりの二面性を扱う。
14	若者文化論のまとめ	これまでの講義内容を振り返る。若者文化研究の課題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
若者や若者文化に対して柔軟な姿勢で受講し、難解な理論について頭をフル回転させて整理しながら理解を目指す。そのため、授業後は講義内容に関する復習と整理とを行う。授業以外の時間では、若者文化や若者の動向についての情報や知識に常にアンテナを張る。授業で紹介された参考文献をできるだけ読み、授業で取り上げた若者文化の実例について自分なりに解釈を行い、関連文献や資料にも目を通す。また、質問カードを活用し、不明な点、理解の不十分な点を補うような質問を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。授業用のオリジナル・プリントや資料を配布します。必要に応じて映像資料を中心に視聴覚資料を用います。

【参考書】
講義において、若者文化の学習に有効な書籍等をその都度授業内容に対応させて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（内容の理解の質を問います。自分なりに筋道を立てて理解することが重要になります）の出来（70 %程度を予定）、3 回行う予定の授業内課題（全体の 30 %程度を予定）の出来から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
興味を持って受講されている方がたいへん多いのですが、内容の中に理論的なことがら、抽象的な概念が多く含まれているため、理解がむずかしいという方が少なからずいらっしゃいます。そこで、できるだけ具体性を持たせると同時に、理論の有効性、分析のおもしろさをじ取れるように教材を準備し、毎回の授業を構築していく所存です。教材の提示の仕方についても、どうすれば見やすいかを工夫しながら進めていきます。

【Outline and objectives】
I will learn an overview of youth cultures.On youth and youth cultures I will learn about research theory and research methods.I mainly study Japanese youth and youth cultures.Youth subcultures, youth tribes, mods and punk,geek, gothic lolita, hobbyist, local youth culture etc. I will also learn about youtuh relationships and identities, relations between informationization / consumption culturalization and youth culture, and relationships with career formation.I will build a certain understanding about youth culture.

SOC200MA

世代間交流論

展開科目

北村　美穂

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の心理学的・身体的発達を背景として世代間交流がいかになされるか、その仕組みと社会的課題について、理論的背景の理解と実証的課題への取り組みの学習を通して考察する。

【到達目標】
①世代ごとの心理学的発達について理解する
②対人コミュニケーションと世代間交流の仕組みを理解する
③地域や社会の世代間交流の取り組みの理解を通して、社会的な課題と意義を考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある人の発達段階を学び、それらと連動した世代間交流がどのようになされているかの基本的な仕組みを学ぶ。また実際の事例を通して、最近の世代間交流の取り組みと問題点から、その効果と課題の解決方法を探り、新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について考察する。（演習としてグループワークを行いますので、積極的なコミュニケーションが必要となります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など
第 2 回	人間の発達 1-1	幼児期から青年期までの感覚・知覚の発達を学ぶ
第 3 回	人間の発達 1-2	幼児期から青年期までの認知・感情の発達を学ぶ
第 4 回	人間の発達 2-1	高齢者の感覚知覚を学ぶ
第 5 回	人間の発達 2-2	高齢者の認知と感情を学ぶ
第 6 回	対人コミュニケーションの基礎	対人コミュニケーションの技法を学ぶ
第 7 回	世代間交流の基礎	世代間交流の一般的なあり方と問題点を学ぶ
第 8 回	世代間交流の実例 1（事例：駄菓子屋）	ソーシャルキャピタルの視点から考察する
第 9 回	世代間交流の実例 2（事例：巨大シェアハウス）	多様な交流のあり方とアイデンティティから考察する
第 10 回	世代間交流の実例 3（事例：老人ホーム）	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から考察する
第 11 回	グループワーク 1	新たな世代間交流の活動の提案 1 (問題の設定と活動の提案)
第 12 回	グループワーク 2	新たな世代間交流の活動の提案 2（発表資料作成・発表練習）
第 13 回	グループワーク 3	発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配布資料等を使用する。

【参考書】
その都合指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極性、小レポート、グループワークへの参加度）(50 %), グループワークの最終発表（５０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline and objectives】
This class focuses attention on understanding intergenerational issues in our communities based on the perspective of psychological and physiological developments.

SOC200MA

身体表現論

展開科目

楠原　竜也

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：**サマーセッション/Summer Session**
曜日・時限：　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演劇的手法によるエクササイズを通して、「自己表現」について今一度考え直してみる。

【到達目標】
自己表現力・自己発見・他者理解・創造力・コミュニケーション力等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
自分を見つめなおす機会を持ち（自己発見）、他者との違いに気づき、多様な価値観を認め合う空気を感じる（他者理解）。さらに、多様な他者と相互に支えながら共同作業していくことを、試行錯誤しながら主体的に体験し、頭だけではなく身体感覚でもそれらを実感する（共感と共鳴）。多様な価値観をもつ人々と共生する社会を生きていくために必要な『生きる力』を養う（調和と創造）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明
2	コンディションづくり	こころと身体の解放
3	集中・感覚・身体１	立つ
4	集中・感覚・身体２	歩く
5	集中・感覚・身体３	聴く
6	集中・感覚・身体４	視る
7	集中・感覚・身体５	触る・嗅ぐ・味わう
8	感情１	伝達１
9	感情２	伝達２
10	言葉・想像１	色・形１
11	言葉・想像２	色・形２
12	インプロヴィゼーション１	基礎
13	インプロヴィゼーション２	発展
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだことを普段の生活で活かせるように、身体感覚を意識して生活することを心がけること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を適宜配布。

【参考書】
特に使用しない。必要に応じて資料を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
実技中心の授業のため、原則として 1 ／ 5 以上欠席すると単位取得は不可とする。
出席と授業への参加姿勢 70 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業では、学生のみなさんに授業を通して沢山の発見をしてもらうことができたので、今年度もより良い授業を提供できるよう努めていきたいと思います。
今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みて、フィールドワークは行ないません。その代わりに集中講義として開講することに変更しました。

【学生が準備すべき機器他】
サマーセッションでの集中講義を対面授業で行なう予定ですが、今後の情勢でオンライン（同時双方向型）授業で行なう可能性も大いに考えられます。その場合、ZOOM を利用して行ないます。
そのため、履修にあたっては、以下の条件を整えることが前提となります。
① PC を使用すること（スマホや ipad は不可）
②本人しかいない静かな環境で接続すること（カフェなどは不可）
③安定した wifi 環境を行なうこと（テザリングは不可）

【その他の重要事項】
身体を使った実践を伴う授業のため、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みて、授業期間をサマーセッションでの集中講義に変更しました（2020 年 7 月 29 日（水）1 〜 5 限／ 30 日（木）1 〜 5 限／ 31 日（金）1 〜 4 限）。実技を伴う授業、ならびに、集中講義のため、全出席を前提とします。

2020 年 4 月 20 日現在、対面授業で行なう予定ですが、今後の情勢でオンライン（同時双方向型）授業で行なう可能性も大いに考えられます。
その場合、ZOOM を利用して行ないますので、【学生が準備すべき機器他】の内容を確認しておいてください。
教室のサイズ、また、オンライン授業も想定されることにより、受講者数を制限（選抜）させてもらいます。
履修希望者は、履修動機を記載の上、　4 月 23 日 17:00 までに必ず履修希望書を提出してください（800 字以上）。昨年度に選抜から漏れてしまった学生はひと言記載してください。
履修許可者は、4 月 27 日 10:00 頃から学修支援システムにて発表します。
履修にあたって、以前に授業を受講したことある学生に、授業の詳細を聞いておくことをおすすめします。
動きやすい服装で参加のこと（体操着・レオタード等の着用の必要はない）。
頭で考える前にまず動いてみましょう。そして、個人個人の持つ表現能力をあらゆる手段で発見しましょう。

【Outline and objectives】
We will explore our self expression through Drama/Theatre education.

SOC200MA

地域文化論

展開科目

緑川　岳志

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会がこれから課題となってくることは何かについて、様々なデータや研究を通じて、一緒に探っていきます。特に歴史、経済、社会、法律の各視点から、生活者の変化、文化の変容を見つめます。授業に参加される方には、それぞれ自分の住んでいる市区町村の「地域政策課長」になって、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち 3 回となります。対象は、日本国内になります。

【到達目標】
自分の住んでいる街の地域政策をマクロ、ミクロ視点で理解することで、これから必要になる地域文化施策はなにかを提言することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生は、自分の住んでいる市区町村の地域政策課長になっていただき、授業に参加いただきます。すべての分析や検討について、地域政策課の課長としての意見が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＜講義形式＞本講義は地域文化施策をする当事者になって参加をすることが前提であることを中心にガイダンスを行います。
第 2 回	地域文化の歴史と現在	＜講義形式＞地域文化はだれのためのものかを歴史を振り返りながら確認していきます。
第 3 回	地域文化を残す、地域文化を創る	＜講義形式＞地域文化の創成がどのように生まれて、どのように継承されてきたかを確認します。
第 4 回	地域コミュニケーションの成り立ち方	＜講義形式＞地域文化施策に必要な広報活動および生活者同士のコミュニケーションの活性化施策を歴史背景も踏まえて確認します。
第 5 回	地域の課題：高齢者福祉、医療から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、福祉や医療の問題点と歴史的視点も入れてその施策について話し合います。
第 6 回	地域の課題：教育、スポーツから文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、教育やスポーツ振興の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 7 回	地域の課題：防犯、防災から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域の安心安全にまつわる問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 8 回	地域の課題：外国人、異文化住民から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域に生活する外国人との異文化交流の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 9 回	地域の課題：財源の確保	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策を行う際の重要な財源を確保していくアイデアを考えます。
第 10 回	地域の課題：地域文化の広報施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策の広報活動について歴史的視点も入れて話し合います。
第 11 回	SECI モデル（暗黙知と共有知）の活用について	＜講義形式＞地域文化施策に必要な知の共有化について、SECI モデルについて習得します。
第 12 回	地域文化ランキングの指標づくり（グループワーク）	＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りをしていただきます。
第 13 回	地域文化ランキングワークショップ（グループワーク）	＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りの発表資料を作成いただきます。

第 14 回　期末・まとめ　＜最終レポートの提出＞担当した地域の課題と解決策について提言を行います。（レポート型）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が住んでいる市区町村の施策やデータを事前に調べて参加します。
そのため、セッションおよびグループワークの回は、毎回宿題が課されます。
宿題のプレゼンテーションがあり、10 月、11 月のタイミングは特に分量が増えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】
「実践ソーシャルイノベーション - 知を価値に変えたコミュニティ・企業・NPO」
著：野中 郁次郎 出版社: 千倉書房

【成績評価の方法と基準】
講義への参加および期末試験とワークショップの内容で評価します。
・平常点： 35 %
・セッション＆ワークショップ： 55 %
・期末試験： 10 %（期末試験はなく、レポート提出となります）

【学生の意見等からの気づき】
講師は、リクルートや毎日新聞社で地域活性化事業を行ってきた実業家です。論文やネット情報ではなく、泥臭いリアリティのある現場の話を交えながら講義やワークショップを進めます。
なお、本講座は、土曜日開講で宿題も多いため受講者数は多くありません。参加者数が少ない場合は後半のセッションの「グループワーク」を個人ワークに変更します。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（パソコン）およびパワーポイントや Keynote といったプレゼンテーションソフトが必須となります。

【その他の重要事項】
リアルの会議を想定したワーキングを行い、考える力を養いますので、毎度の宿題と講義への出席が必須となります。

【Outline and objectives】
We will explore what the community is going to be in the future through various data and your research.
In particular, from the viewpoints of history, economy, society, and law, we look at changes in people, changes in culture.
In this lesson, we will become the "Regional Policy Division Manager" of the municipalities where you live and speak and group work.

SOC200MA

アイデンティティ論　展開科目

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的です。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指します。また毎年、第 13 回目の講義を最先端の研究成果のレビューに当てる事によって、学生には最新の知識を提供します。

【到達目標】
受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２８日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法を学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明します。
第 2 回	アイデンティティ研究の諸相	アイデンティティに関するこれまでの主な議論を紹介します。
第 3 回	アイデンティティの形成・発達	発達心理学の観点からアイデンティティ及びモラトリアムについて解説します。
第 4 回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューします。
第 5 回	社会的アイデンティティ（グループダイナミックス）	集団の一員となることで生じるアイデンティティの変化が、社会的促進・抑制や集団思考に与える影響を解説します。
第 6 回	社会的アイデンティティ（協力・援助）	援助行動における自己像と社会的アイデンティティによる促進効果について、これまでの研究成果を解説します。
第 7 回	社会的アイデンティティ（集団間関係）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程及びその解決に関する研究成果を解説します。
第 8 回	政治とアイデンティティ	投票行動や政治的態度、社会的信念などに対するアイデンティティの影響について解説します。
第 9 回	文化とアイデンティティ	相互協調的自己と相互依存的的自己など、自己とアイデンティティに関する文化差と、それによって生じる人間関係への影響について解説します。
第 10 回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢（例えば世代論）等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説します。
第 11 回	過激化とアイデンティティ（1）	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説します。
第 12 回	過激化とアイデンティティ（2）	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説します。
.	.	.
.	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業用資料を学習支援システムにアップロードします。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】
基本的に非対面型で授業を実施するので、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行います。具体的には課題＋質問で 50 %、学期末のレポート課題で 50 %の配分とします。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載します。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させます。

【学生が準備すべき機器他】
一部課題は windows ＰＣで行う予定です。

【Outline and objectives】
Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

SOC200MA

余暇集団論

展開科目

丁野　朗

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光による地域活性化は、地域の多様な産業に大きな経済波及効果があります。従って、地域の観光政策には、各種産業分野を横串する総合的な編集視点が求められます。同時に自然や景観、歴史遺産などの資源の保全・活用や、人の移動を支える地域交通の整備、地域食材などのブランド化など、多面的な事業とその組み合わせが重要となります。
本講座では、こうした地域活性化の多面性や構造を理解し、新たな地域ブランディングや地域ビジネスの創出とその手法について考え、各地域の事例ともに実践的に考えることのできる手法・能力を習得を目指します。

【到達目標】
●２０１９年のわが国への訪日外国人客は約３，３００万人をと予想されており、
　２０２０年政府目標である４，０００万人も視野に入ってきました。既にわが国の　インバウンド需要は４．８兆円に達していますが、これは電子部品や自動車部品の　輸出額を上回る規模となってきました。日本政府としても観光戦略は、国としての
　重点施策の柱となっています。
●この中で、政府は新たな観光ビジョンを策定し、その目標達成のために、国立公園　の活用や「日本遺産」など地域文化資源を活用した地域活性化事業に取り組んでい　ます。
●しかしながら、今回の新型コロナウィルスなよる世界的パンデミックは、わが国も　含め世界の観光産業に甚大な影響を及ぼしています。観光はこうした感染症や戦
　争・テロ・災害などに弱く、平時からの備えが重要です。
●また、近年では観光に伴う社会的負の影響（オーバーツーリズム等）を制御する、　観光地域マネージメントの考え方・手法が重視されるようになっています。
●「観光」とは読んで字のごとく、地域の「光」を「観る」ことです。しかし、その　「光」は地域や時代によって大きく変化します。本講座では、各地域にある固有の　歴史的・文化的資源のポテンシャル・資源性について考え、これらを観光など地域　活性化のための資源として活用するための最新の編集視点や事業化手法などを学び　ます。授業では国内外の数多くの地域をケーススタディーします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は毎回パワーポイント資料を基本に、関係資料を用いて実施します。当面、対面授業が難しい場合は、授業支援システムに、毎回、パワーポイント資料をアップし、「課題」を示しながら講義を進めます。
＊講義資料は学習支援システム（Hoppi）を利用して逐次アップします。各自、資料を確認して講義に備えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義全体の内容、到達目標などのガイダンス
第 2 回	Ⅰ．地域資源論 ①「観光資源論」	地域活性化のための資源の捉え方や編集の視点と手法
第 3 回	Ⅰ．地域資源論 ②観光資源としての「時間（休暇）」	観光・サービスは「時間消費（経験消費）」である。その時間環境あり方が観光政策にも大きな影響を及ぼす。その歴史と現状などについて学ぶ
第 4 回	Ⅰ．地域資源論 ③観光サービス業と「時間マーケティング」	マーケティングの基礎概念の一つである「時間消費」の事例と手法について学ぶ
第 5 回	Ⅱ．資源編集論 ①観光インバウンド政策と地域の課題	観光インバウンド政策と地域活性化の手法について学ぶ
第 6 回	Ⅱ．資源編集論 ②観光とモビリティー（地域二次交通）	地域活性化や生活利便にとって不可欠の地域二次交通（地域鉄道・バス等）のあり方を学ぶ
第 7 回	Ⅱ．資源編集論 ③地域ストーリーとブランディング	観光地域づくりにおれる物語（ストーリー）化の考え方と手法について学ぶ
第 8 回	Ⅱ．資源編集論 ④地域ストーリー手法と日本遺産事例	２０１５年に創設された文化庁「日本遺産」の手法・事例に即して地域ストーリーの事例と手法を学ぶ

第 9 回	Ⅲ．ツーリズム・ニュー手法論 ①地域資源の活用手法（ニューツーリズム）	地域資源を多様な編集視点と手法で活用する「ニューツーリズム」について学ぶ
第 10 回	Ⅲ．ツーリズム・ニュー手法論 ①産業資源を活用した観光（産業観光）の視点と事例	これまであまり活用されていなかった産業遺産や工場・工房等の産業資源を活用した「産業観光」の手法と事例を学ぶ
第 11 回	Ⅳ．ケーススタディー①② 今期は、１２回短縮事業のため。４回を予定していたケーススタディーを２回に短縮	①鉱山資源または②地域エネルギー拠点の資源とその活用手法について学ぶ
第 12 回	Ⅳ．ケーススタディー③④	③港湾地域または④田園地域の資源とその活用手法について学ぶ
第 13 回	【中止】Ⅳ．ケーススタディー ＜１１回講義参照＞	第 11 回講義に統合
第 14 回	【中止】Ⅳ．ケーススタディー＜１２回講義参照＞	第 12 回講義に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各地域の事例に即して実践的な講義を行います。当該地域や関連地域についての予備知識が必要となりますので、各自、事前に予習して授業に参加してください。また、皆さんのゆかりの地域（出身地・居住地・かかわりのある地域など）では、当該地域の固有資源を編集し、どのような手法で地域活性化が可能なのか。期末レポートの課題としますので、毎回、そのことを意識しながら授業に参加して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
固定の教科書は使用しません（毎回パワーポイント資料を学習支援システムにアップします）。

【参考書】
①『産業観光の手法』（学芸出版社）
②『地域からの未来創生』（学文社：共著）
③『レジャー白書』（(財）社会経済生産性本部刊）
④『産業観光への取り組み』（(財）日本交通公社／丁野朗監修）
⑤『日本遺産の可能性と期待』文化遺産の世界Ｖｏｌ．２６などを参照

【成績評価の方法と基準】
●期末にレポート試験を行います
●成績評価はレポート試験の成績を基本としますが、講義への貢献（授業への意見・
　感想コメントなど）も一部評価する予定です。
●レポートは授業に対する理解度はもとよりですが、皆さん自身の考えや手法等が明
　確に表現されていることを重視します。
●レポート試験課題は６月頃示しますが、提出締切は最終講義（７月１４日予定）までとします。レポートの提出方法等については、状況変化を見ながら指示します

【学生の意見等からの気づき】
●今期は対面授業が可能かどうか不明ですが、例年、講義中の私語が目立つという指摘があります。私語をする学生は教室から退去して頂きます（真面目に学ぼうとしている学生を基準に対処します）。

【学生が準備すべき機器他】
●講義資料は、毎回「学習支援システム」にアップします。
講義資料は、必ず当該講義の前に提供しますので、毎回、しっかりと確認してください。

【その他の重要事項】
●今期講義は、新型コロナウィルス感染拡大のため、当面、学習支援システムを通じた講義となりますが、シラバス記載の講義内容については、皆さんからの質問・要望などを取り込み、これらに沿って、適宜、発展させていきたいと思います。
その意味でも、積極的に講義に参加して下さい。

【その他】
本講義は、活きた地域の実践例を基本としますので、当該地域について、事前によく学習して授業に参加してください。

【Outline and objectives】
Tourism brings great economic effect to various industries in the region. Therefore, it is important to preserve and utilize local nature, landscapes, historic
heritage, improve local transportation, branding of foods and so on.
In this lesson, we will learn techniques for such community development and
examples of various places

SOC200MA

ＮＰＯ論

展開科目

山口　佳子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＮＰＯは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて 大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのＮＰＯが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに問題を抱えています。
本講義では具体的な事例を通して、ＮＰＯ活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】
ＮＰＯ／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、ＮＰＯの事業を考え、事業計画書の作成またはプレゼンテーションを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。また、フィールドワークについては、該当講義時間内で行うことが難しいため、講義外の日程で 2 回分をまとめて行うことになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ＮＰＯの基礎知識	ＮＰＯの意味や意義、ＮＰＯとＮＧＯの違い、非営利の意味などについて理解する。
第 3 回	ＮＰＯの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるＮＰＯの社会的役割について理解する。
第 4 回	ＮＰＯの具体的事例①	ＮＰＯの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第 5 回	ＮＰＯの具体的事例②	実際にＮＰＯで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、ＮＰＯの社会的役割を考える。
第 6 回	ＮＰＯの組織と運営について	ＮＰＯの組織運営について学び、その課題について理解する。
第 7 回	ＮＰＯと行政との協働	ＮＰＯと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 8 回	市民活動やＮＰＯの現在	市民活動やＮＰＯ、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第 9 回	フィールドワーク①	劇場や美術館などのアートＮＰＯと行政との協働の現場に実際に足を運び、イベント等を体験する。
第 10 回	フィールドワーク②	劇場や美術館などのアートＮＰＯと行政との協働の現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第 11 回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第 12 回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第 13 回	まとめ・振り返り	これまでの講義内容をふりかえる。
第 14 回	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。授業支援システムを用いて随時資料を配布する。

【参考書】
講義において、必要に応じていろいろと紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（５０％）と授業内などの小レポートや課題レポート（２５％）、平常点（２５％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はフィールドワークの実施が出来なかったので、今年度は行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【その他の重要事項】
アートＮＰＯの立ち上げから１０年間代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのＮＰＯの在り方について考えていきたいと思います。

【Outline and objectives】
NPO creates service in response to the needs of the community, solution and the organization of the social problem raised. NPO is expected to play a key role in solving the social problems and for the realization of the mission organized by them.However, many NPOs have problems with managing(human resources, funds, business, information, etc.) as a present situation.We are facing many objectives to be solved in the future as our challenge.In this course, we will examine the way and problem about improving management to develop NPO activities thorough concrete example.

SOC200MA

公共サービス論　　展開科目

前浦　穂高

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共サービスとは何か？ と問いかけられたら、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様であり、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、私たちは公共サービスについて知らないことが多いのではないだろうか。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】
公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。授業では、各テーマに沿うデータや事例を取り上げることで、実態に即した形で公共サービスに対する理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明 公共サービスの定義
第 2 回	公共サービスの提供と評価（1）	公共サービスと公共政策の手段 公共サービスを提供する仕組み
第 3 回	公共サービスの提供と評価（2）	公共サービスを評価する仕組み
第 4 回	政府と市場の役割分担（1）	民間委託の歴史・現状・課題
第 5 回	政府と市場の役割分担（2）	市場化テスト 公共サービス改革法のインパクト
第 6 回	政府と市場の役割分担（3）	指定管理者制度の背景・現状・課題
第 7 回	政府と市場の役割分担（4）	民営化の歴史と現状 （3 公社の民営化、郵民営化）
第 8 回	働く環境の変化と人事行政（1）	地方公務員を取り囲む環境の変化 人事管理制度とその実態
第 9 回	働く環境の変化と人事行政（2）	給与構造改革 能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第 10 回	働く環境の変化と人事行政（3）	非常勤職員の活用と課題 正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第 11 回	公共サービスの現状（1）	サービス行政
第 12 回	公共サービスの現状（2）	資金交付行政
第 13 回	公共サービスの現状（3）	子育て行政
第 14 回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておくと良い。また授業を受講するために、前の講義内容を復習しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本授業ではテキストを指定しない。

【参考書】
・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2017）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣ブックス.
・井上雅雄＋立教大学キャリアセンター編（2008）『講義 仕事と人生』新曜社.
・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版.
・礒崎初仁・金井利之・伊藤正次（2014）『ホーンブック　地方自治［第 3 版］』北樹出版.
・岩崎馨・田口和雄編著（2012）『賃金・人事制度改革の軌跡―再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房.
・大谷基道・河合晃一編著（2019）『現代日本の公務員人事――政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規.

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末試験 80 %、平常点 20 %で決定する。期末試験は、公共サービスに関する知識を問うものではなく、受講者の理解度を問うものとする。平常点は、主に不定期に実施する小テストの結果で決定する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に受講者に問いかける等して、受講者とコミュニケーションを取る機会を確保したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
Through this class, students learn about public service.
The public service is indispensable to our everyday life.
Therefore I want to think about future public service with students.

SOC200MA

アート・マネジメント論　　展開科目

山口　佳子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアート的な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】
わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンライン授業での開講に伴い、動画＋パワーポイント＋小テスト **or** 小レポートの形式で行うことを予定しています。人数の多いクラスですので、zoom などのリアルタイムでの参加形式の講義は今のところ予定していません。質問等は個別に随時受付ています。**4/27** に初回ガイダンスとアンケートを行いますので、当日 **15** 時以降にクラスにアクセスして、指示に従ってください。講義は、毎回テーマを決めて実施する予定です。なお、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、ヴァーチャルでのフィールドワークやゲスト講師などとのオンライン講義の動画配信を検討しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第 2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第 2 回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第 3 回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第 4 回	フィールドワーク	オンラインにより、劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第 5 回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 6 回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	アートと企業	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 8 回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第 9 回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第 10 回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこでの課題や問題点を学ぶ。
第 11 回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第 12 回	授業内試験	試験・まとめと解説
.	.	.
.	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールドワークはすべてオンラインになります）。本授業の準備学習・復習時間は各 **2** 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】
『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）
『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
オンラインでの講義のスタートとなったため、成績評価の方法と基準の変更が生じます。最終試験（４０％）と授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（６０％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分確保するよう心がけたいと思いますが、オンライン授業への変更により、web 掲示板等を用いてディスカッションなどを行うことを検討しています。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline and objectives】
Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

SOC200MA

文化経営論

展開科目

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
21 世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常の生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】
文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメントする」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のＮＰＯなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのありようを分析してプレゼンテーションをしたり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までの文化政策の歩みをたどる。
第 3 回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第 4 回	日本の文化政策③	高度経済成長期の文化政策の特徴を探る。
第 5 回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第 6 回	文化と法	「文化芸術基本法」をはじめ、文化の振興を支える法的基盤について学ぶ。
第 7 回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第 8 回	文化と経済②	文化産業／創造産業について事例をもとに考察する。
第 9 回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第 10 回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりを考える。
第 11 回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。
第 12 回	文化のマネジメント①	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第 13 回	文化のマネジメント②	学生によるプレゼンテーションとディスカッション
第 14 回	まとめと振り返り	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】
授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など）： 50 %

期末試験（論述式）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
知的発見が非常に多い授業との評価をいただいていますが、ともすれば受け身の講義になってしまうため、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を確実に設けていきたいと思います。

【その他の重要事項】
春学期開講の「アート・マネジメント論（社会とアートⅠ）」も併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
"Culture" is an important factor in the mature society of the 21st century. Culture here includes not only art such as fine arts, music and theater but also youth culture and popular culture such as movies, animation, fashion, and even cityscapes and landscapes. We consider them as “cultural resources" and try to make use of them for business development, such as town planning, human resource development and cultural industry.

SOC200MA

メディア文化論

展開科目

堤　信子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・2** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】
各種メデイアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。
また、発表などのプレゼンを通して、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義の中に、授業内での学生による発表、表現力を磨くための演習を織り交ぜながら進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。
第 2 回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第 3 回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、その歴史的経緯を分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第 4 回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析していくことで、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第 5 回	テレビメディアの文化論①	テレビ番組何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く①。
第 6 回	テレビメディアの文化論②	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組みを学ぶことを通し、メディアにおけるテレビの立場を紐解く②。
第 7 回	メディアを作る：ビジネス本の事例	『ありがとう上手の習慣』の制作秘話を交え、アナウンサーとしてのコミュニケーション術を書籍で伝えるという書籍メディアを理解する。
第 8 回	メディアを作る：旅エッセイ本の事例	『旅鞄いっぱいのパリ・ミラノ』『旅鞄いっぱいのパリふたたび』の制作秘話、取材法などを交え、メディア文化を作ることを理解する。
第 9 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 1	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 10 回	ソーシャルメディアの利用法	facebook や twitter 等のソーシャルメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。専門家をゲストに迎えることも。
第 11 回	ラジオ番組の収録体験	ラジオのパーソナリティーをゲストに迎え、ラジオ番組の制作についての話を聞くとともに、受講生へのインタビューを収録する経験を通して、言葉で表現することの大切さを学ぶ。
第 12 回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、自主メディアの発表に備える。

第 13 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談２	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 14 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談３	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時々、リポート提出もあり得る。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は、使用しない予定です。
配布資料中心です。

【参考書】
堤信子著「１００人中９９人に好かれるありがとう上手の習慣」ディスカヴァー２１
堤信子著「旅鞄いっぱいのパリ・ミラノ」本の泉社
「旅鞄いっぱいの京都・奈良」エイ出版社
「旅鞄いっぱいのパリふたたび」実業之日本社
「旅鞄いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内発表や出席）４０％と　課題レポート６０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の発表など実践を今後とも積極的に取り入れて行きたいと思っています。テレビやラジオなどの番組に使用されている台本や原稿などにも実際に触れる機会を引き続き作っていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントや DVD 映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

SOC200MA

文化マーケティング論

展開科目

横石　崇

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。
文化化する産業と、産業化する文化。社会の変化にともない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。

今後さらに複雑化するマーケティング領域においては、事業性検討、戦略策定や製品開発などの具体的アプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが世の中に必要とされるのかを考える力と実行できる力が身につく授業としたい。

【到達目標】
キャリアデザイン、コミュニケーションデザインの視点から文化マーケティングについて考察し、近い将来にこの分野で生き、働く上で有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義およびディスカッションを行なう。授業ごとに授業内レポートの提出を指示する。
（4 月 13 日追加更新）　春学期の少なくとも前半（５月末）はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 1 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の説明
第 2 回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第 3 回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第 4 回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第 5 回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第 6 回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
※第 6 回に統合	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
※第 6 回に統合	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテイメント領域）

第 7 回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第 8 回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第 9 回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテイメント領域）
第 10 回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第 11 回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第 12 回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、授業内レポートの実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加 70%、授業内レポートの提出 30%）（4 月 13 日追加更新）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
パソコンやタブレット

【Outline and objectives】
Learn about culture-oriented marketing thinking and methods.Industry to culture and culture to industrialize.
In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted.In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.
In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

SOC200MA

ブランド創造論

展開科目

首藤　禎史

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マーケティング戦略において重要な役割を担っている “ブランド” およびブランド戦略に関して、その起源や役割から、「ブランドとは何か」「それはどうマネジメントされるべきか」さらには「現代ブランド戦略の趨勢と問題点」などといったテーマに沿って検討・解説していきます。

【到達目標】
① ブランドの概念と捉え方を正しく理解する。
② 現代企業の主要なブランド戦略を理解・説明できる。
③ 現代のブランドおよびブランド戦略に関係する問題点や捉え方を識別する。
④ 現代企業におけるマーケティング戦略に基づくブランド・マネジメントの構築と実行の方法を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は、本年度は新型コロナ virus の感染拡大を受け、学習支援システムに教材・資料を提示し、課題を課すなどの方法で、遠隔または通信教育形式で実施します。以下の点に留意して、授業に参加するようにしてください。
1. 授業ごとに Power point のスライドなど資料を提示するので、その資料に関して (の指示に従って)、さまざまな文献や事例を調べ、ノートを個々に作成する。なお、文献はインターネットだけによるのではなく、書籍を中心にさまざまな文献や事例を探索し、複数研究者および事業者の見解を比較し、自身で妥当と思われる解釈を導き出し、纏め上げるという作業を怠ってはいけない。
2. 授業は、大学の指示により春学期は全 12 回とする予定であるので、数回 (3 − 4 回) に 1 度、ノートのまとめと解答すべき小問を課す。この「まとめ」とこの小問に答えたものを学生が期日までに提出し、それを評価することで学期末の成績を判定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容と授業の進め方の説明―授業概要	どのような形式で授業を行うのかといったことについての説明他
第 2 回	ブランドの概念とその捉え方	ブランドとは何か、ブランドの起源やその捉え方
第 3 回	ブランドの種類とブランド設定の意義	ブランドの種類とその役割及び機能
第 4 回	現代企業のブランド政策Ⅰ	現代ブランド政策（ブランド・ネーム政策）
第 5 回	現代企業のブランド政策Ⅱ	ブランドの階層性と製品ライン拡張（ビジネスの多角化）
第 6 回	現代企業のブランド政策Ⅲ	ブランド・フランチャイズとブランド拡張戦略
第 7 回	ブランド・エクイティ	ブランド・エクイティとは何か―その始まりと目的・問題点
第 8 回	わが国の商標制度とブランド・マネジメント	わが国の商標商標登録に関する制度と現状
第 9 回	製品ブランド開発とブランド・マネジメントⅠ	製品開発におけるアイデア創出の方法とマネジメント
第 10 回	製品ブランド開発とブランド・マネジメントⅡ	製品ブランド開発の方法と手順
第 11 回	現代企業のマーケティング戦略とブランド・マネジメントⅠ	現代企業のマーケティング戦略の方法とブランド・マネジメントの関係
第 12 回	現代市場と現代ブランド戦略のまとめ	現代市場において成功するブランド戦略とは何かについての議論と検討
第 13 回	なし	なし
第 14 回	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経営・経済に関する基本的知識、および当該科目に関する予習・復習はもとより、大学生として授業に臨む心構えを期待します。また、日ごろの買い物などにおいて敏感に疑問を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストについてはとくに指定しません。Power Point のスライドまたはその他の資料、もしくは参考文献を学習支援システム上に示して授業を進めるようにします。

【参考書】
D. A. アーカー著『ブランド優位の戦略―顧客を創造する BI の開発と実践』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
「授業の進め方」に示したように、数回 (3 － 4 回) に 1 度、「まとめ」と解答すべき小問を課すようにします。これに答えたものを、その都度学生が期限までに提出し、それを評価することを重ね、学期末に総合的に成績判定をします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
In this lecture, we study and discuss the brand management and strategy through considering what is brand, and/or what is the problem in the contemporary brand management.

SOC200MA

産業文化論

展開科目

上原　義子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・3 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関りから生まれてきた叡知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。
そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思えてしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見ていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義を興味関心のきっかけとして、 ヨリ発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】
１、文化を通して産業を考える
２、産業を通して文化を考える
３、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式を基本とする。ただし、ミニッツペーパーや資料の検索と整理などの能動的な方法を採用する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第 2 回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第 3 回	日本の産業文化（1）	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第 4 回	日本の産業文化（2）	雇用者と従業員を取り巻く組織文化ーサービス・マーケティングの視点から
第 5 回	日本の産業文化（3）	日本のモノ作り文化と産業
第 6 回	日本の産業文化（4）	日本の伝統産業の成り立ちと現在ー藩の殖産から産業集積へ
第 7 回	日本の産業文化（5）	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本的経営
第 8 回	日本の産業文化（6）	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第 9 回	日本の近代産業（1）	日本の経済成長を支えた風土　－流通チャネルの視点から
第 10 回	日本の近代産業（2）	環境問題と文化、産業
第 11 回	日本の近代産業（3）	観光産業と文化
第 12 回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化　－観光立国としての日本を事例に
第 13 回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学　流通チャネル構造と機会主義　　ネットワーク
第 14 回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜紹介する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、中間試験 25 %、レポート課題 25 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.
Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term 'multi-culture', the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.

CUM200MA

ミュージアム概論

展開科目

金山　喜昭

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**土・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】
博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。
なお、授業の開始は 5 月 9 日にする。以後、7 月 11 日までの毎週土曜日の授業時間内（5 時限）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに出す。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 18 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてる。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の歴史を概観する
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	地域博物館論	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 11 回	博物館と地域コミュニティ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 12 回	博物館と現代社会	現代社会の諸課題に取り組む博物館の姿を紹介する。
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	これまでの授業内容を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】
金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）
金山 喜昭『公立博物館をＮＰＯに任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）
金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題提出）（40 %）
課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】
This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

杉長　敬治

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】
日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い, 博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館経営に関する基本事項について講義します。博物館の業種特性、博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）の現状と課題について理解を深め、博物館経営の望ましい在り方を考察していきます。①博物館制度論の観点からの考察、②博物館統計によるマクロな視点からの考察、③事例研究によるミクロな視点からの考察を行います。受講生には、博物館のフィールドワーク（講義外の時間を活用して博物館現場のリサーチを行う）と経営分析の状況をレポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の使命がどのように設定されているかについて学習する。また、使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の広報活動－現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
7	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティア）について学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
8	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
9	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
10	公立博物館の経営－現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度、国の公立博物館に関する政策について学習する。

11	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、時間をつくって博物館を見学し、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。博物館を調査し、経営分析を行ってもらい、成果をレポートにまとめてもらいますので、講義外の時間に博物館現場に出向くことが必須になります。また、教科書と参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいますので、積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭篇、同成社、2020 年度（４月）刊行予定、2,700 円）を使用します。また、教科書で言及していない内容は、資料を授業支援システムに掲載します。

【参考書】
①公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、②博物館と地方再生：市民・自治体・企業・地域との連携、金山喜昭著、同成社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④「日本の博物館総合調査研究」報告書・基本データ集、http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/mirror_museum-census_jp/ に収録、⑤ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、⑥マネジメメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社、⑦思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑧その他－授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題にどのように取り組んでいるかを判定するため、①期末レポート（50%）、②各回の講義内容に添った課題レポート（40%）、③平常点 [授業への参加度]（10%）により評価します。①の期末レポートのテーマは、博物館の経営分析に関するものです。調査 (現地調査を含む。) と分析の成果をレポートにまとめてもらいます。②の課題レポートは、授業時に課題として出すものの中から選択してもらい、指定する時期までに提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境（照明・温度）に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムにより教材の配付や諸連絡を行います。各回の授業の前後に必ず支援システムにアクセスをしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目の一つです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見があれば、出席表のコメント欄に書いてください。皆さんのコメントは、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く” そして “考える” がセットになった行動が必要不可欠です。経営分析のレポート作成を通して、皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思います。

【Outline and objectives】
Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

金山　喜昭

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**土・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の経営の現状とその課題や改善に学ぶ。

【到達目標】
博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。
なお、授業の開始は 5 月 9 日にする。以後、7 月 11 日までの毎週土曜日の授業時間内（3 時限）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。それ以降の課題の提出は認められない。宿題は、毎回の授業時に出す。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 18 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてる。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の使命と評価	博物館の社会的使命、社会的役割や評価の考え方や手法などについて解説する。
第 3 回	博物館経営の現状と課題	公立博物館の経営状態（直営館）について解説する。
第 4 回	指定管理者制度と博物館経営	公立博物館（指定管理館）経営上の特質について解説する。
第 5 回	NPO 指定管理館の経営	NPO 指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 6 回	企業指定管理館の経営	企業指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 7 回	財団法人指定管理館の経営	財団法人指定管理館の経営的な特性を解説する。
第 8 回	国立博物館の経営	東京国立博物館・国立科学博物館の経営状態を解説する。
第 9 回	地方独立行政法人の経営	大阪市による新しい博物館経営を解説する。
第 10 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 11 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 12 回	市民参加と博物館経営	市民参加による博物館経営を解説する。
第 13 回	博物館の外部資金の獲得	博物館による外部資金の獲得について解説する。
第 14 回	博物館経営の展望	本授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】
金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】
This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

SOC200MA

多文化社会論Ⅰ

展開科目

小田　昌教

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010 年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【追加①】(2020 年 4 月 14 日更新)
①自宅のネット環境の都合（①ネット回線がない② WEB カメラがない ③ヘッドセットマイクがない）で、いまのところ「授業の開始」は５月８日 (金) を予定しています。
②「授業の進め方」もまだ確定していませんが、現時点では、法政大学の「授業支援システム」でＰＤＦ教材と動画教材を配布し、オンラインの質疑応答サービス「sli.do」を使った「文字ベース」での「双方向型オンライン授業」を予定しています。今後、ネット環境が整って、多数の受講者のオンライン参加が可能と判断できれば、オンライン・ミーティング・サービス「Zoom」もしくは「Webex」を使った「双方向のリアルタイム・オンライン授業」も検討しています。
③シラバスにある「授業の内容」と「スケジュール」は、COVID-19 のパンデミックに対応して大幅に変更します。具体的には、COVID-19 と国内外のの「レイシズム（人種差別と偏見）」や「ゼノフォビア（外国人嫌悪）」の話題を中心に、COVID-19 のパンデミックを通して見えてきた同時代世界の、国や地域ごとに異なる人びとの対応のちがいなどから、「文化の多様性」について、みなさんといっしょに考えてゆきたいと思っています。
【追加②】 (2020 年 4 月 15 日更新)
先におしらせした教材ＰＤＦと動画の配布は、５月１日（金）以降を目途に、随時、はじめてゆく予定です。

この授業は４つのパートに分かれています。
【A：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇】
最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。
【B：さまざまな視点からみた日本の文化】
このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。
【C：レイシズムの過去と現在】
異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。
【D：「文化相対主義」と「多文化共生」〜多文化社会のいまと未来】
多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています (第一学習社「高等学校 倫理」)。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb 事件 (2017 年) ・全日空「羽田国際線大増便ＣＭ」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・ユナイテッド航空事件 (2017 年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017 年」
2	Ａ－１：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇１　映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「００７は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年)
3	Ａ－２：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇２	海外のＴＶＣＭやＭＶに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ
4	Ａ－３：異文化誤解のメディア史〜ニッポン篇３	プロパガンダアニメとＳＦ映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ポパイ〜ばかなジャップ」(1942 年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ〜トキオ、ジョキオ」(1943 年) ・ＮＨＫ「憎しみはこうして激化した〜戦争とプロパガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート３」(2008 年) ・ジェームズ・マンゴールド「ウルヴァリン ＳＡＭＵＲＡＩ」(2013 年)

5	Ｂ－１：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・マシオカ「ＨＥＲＯＥＳ」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン　ストレンジな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニャ文学賞受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「ＧＡＭＡＮ」(2011 年)
6	Ｂ－２：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」	・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003 年) ・日本オリンピック委員会「ＩＯＣ総会プレゼンテーション」(2013 年) ・きゃりーぱみゅぱみゅ「にんじゃりばんばん」(2013 年) ・日清食品「ＳＡＭＵＲＡＩ」(2014 年) ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017 年)
7	Ｂ－３：インバウンドの視点から見た日本の文化	・地味「外国人が日本に来て撮ったwktk 動画集」(2008 年) ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012 年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014 年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013 年)
8	Ｂ－４：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化	・ペトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010 年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015 年)
9	Ｃ－１：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム	・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007 年) ・マイケル・ブラウン射殺事件(2014 年) ・フレディ・グレイ死亡事件(2015 年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件 (2015 年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言 (2015 年)
10	Ｃ－２：人種差別の起源とその歴史	・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951 年) ・山口敏「『人種』は虚構か」 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013 年) ・世界人権宣言ポルトガル事務局「世界人権宣言 50 周年記念ＣＭ」 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008 年) ・映画「アミスタッド」(1997 年) ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004 年) ・映画「リンカーン」(2012 年) ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012 年) ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013 年) ・映画「グローリー　明日への行進」(2014 年)
11	Ｃ－３：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう	・日本テレビ「21 世紀への伝言　キング牧師」(2000 年) ・ＰＢＳ制作「分断されたクラス」(1985 年) ・ＡＢＣ制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003 年-) ・ＮＹタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年)
12	Ｄ－１：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況	・映画「スワロウテイル」(1996 年) ・映画「サウダーヂ」(2011 年) ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーフじゃないんだ」(2012 年) ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013 年) ・リンダⅢ世「愛犬アンソニー」(2013 年) ・ポンジュノ「シェイキング東京」(2008 年)
13	Ｄ－２：「ＨＡＦＵ」の視点から見た日本の多文化状況とその未来	・映画「ＨＡＦＵ」(2013 年) ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」
14	Ｄ－３：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神	・ヒリス＆ブル研究所「生命の樹」(2005 年) ・NY タイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年) モ・モンド社「The DNA Journey」(2016 年) ・アシュラ・Ｋ・ルグイン「ゲド戦記を観て」 ・マックルモア＆ライアン・ルイス「セイムラヴ」(2013 年) アド・カウンシル「Love Has No Labels」(2015 年-2017 年) アップル社「プライド」(2014 年) ・ハイネケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017 年)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本では「スーパープレゼンテーション」(NHK 教育テレビ) という番組名で放映されている「ＴＥＤトーク」は、みんなでシェアする価値のあるアイデアを世界にひろめ、それを学ぶことのできる動画学習サイトです。すでに 2000 を超えるコンテンツがあり、さまざまなジャンルの専門家たちの興味深い話を無料で視聴することができます。日本語版サイト (http://www.ted.com/talks?language=ja) もあり、そこには多文化社会に関するコンテンツもありますので、リストアップしました。授業時間外の準備学習・復習ならびにアクティヴ・ラーニングのための教材として積極的に視聴してください。（※ Google で 下記のタイトルを検索すれば簡単に見つかります）

・デヴィッド・ウィリアムス
「人種差別はなぜ黒人の健康を阻害するのか？」
・ヤズミン・アブデルマジッド
「最初の認識をスルーすること、それはまちがっているから」
・チママンダ・アディーチェ
「シングルストーリーの危険性」
・バサーム・タリク
「多様で美しい、ムスリムとしての生き方」
・アナンド・ギリダラダス
「２つのアメリカの物語と、衝突の現場になったコンビニ」
・デーヴ・トロイ
「人種はなにも決定しない、ソーシャルマップが街に住む人々の往来と、さらに分離を描き出す」
・リッチ・ベンジャミン
「アメリカで最も白人主義的な町々に突入」

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業ごとに、プリントを配布します。

【参考書】

参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテストで評価します (100 %)。テストの方法については最初の授業で説明します。評価の基準は①クリティカル・シンキング度②クロス・カリキュラム度③メディア・リテラシー度④アンチ・バイアス度などです。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、携帯電話、プリント用クリアファイル

【その他の重要事項】
この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見ることがあまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館やレンタルショップ、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。また授業で映像を見ているときは、映画館と同じく、まわりの人たちの学習のさまたげにならないよう、私語や携帯電話、スマートフォンなどの使用はひかえてください。ただし、授業中に今すぐネットで検索したいことや、メモしておきたいことがあるときだけは、使用してもかまいません。

【授業中に求められる学習活動について】
A、C、D、E、F

【Outline and objectives】
This course focus on various issues of multicultural society. (e.g.racism,orientalism,discrimination,stereotype,hate speech,cultural diversity, social inclusion) In this class will carry out next three learning methods,(1)anti-bias learning (2)authentic learning (3)cross curriculum learning.The main purpose of this class is an acquisition of the following global skills (1)multicultural literacy (2)critical thinking (3)complex problem solving.

SOC200MA

多文化社会論Ⅱ

展開科目

金　泰植

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の日本社会は新たな労働力としての外国籍住人の増加により、多文化社会としての側面をより一層強めている。しかし日本の多文化状況がどのように作られたかに対する省察は少なく、多文化社会に対する排外主義的な動きも起きている。本講義は、戦後日本の最大の「外国人」集団であった在日コリアンを中心としながらもその他のルーツを持つ人たちも射程としながら、日本の多文化社会がどのように作られ、どのような課題を抱えているかについて考える。

【到達目標】
日本の多文化状況がどのように作られたかについて日本と東アジアの近現代史の中で捉え、日本社会の中にいる多様なルーツを持つマイノリティたちが直面している問題を知り、日本社会の問題として考え、受講生が全ての人が尊重される社会の形成のためのアイディアを持つようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
※初回授業日は 5 月 11 日とする。
パワーポイントを使いながら講義を行い、このほか必要な資料を配布する。受講者は毎回リアクションペーパーにに必ず質問、意見、感想などを記入し、重要な意見、質問には翌週の授業に補足説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンスおよび「帝国の拡張と多文化状況の出現」について
第 2 回	日本の朝鮮植民地統治と在日コリアンの誕生	日本の植民地支配をめぐる「収奪論」と「近代化論」の問題点。そして在日コリアンの日本への渡航の変遷について
第 3 回	戦後日本の外国人政策について	サンフランシスコ講和条約。包摂と追放の対象としての外国人
第 4 回	「密航」と大村収容所	戦後も続いた朝鮮半島からの密航と日本の入国管理体制について
第 5 回	在日コリアンの教育	民族学校の誕生と学校閉鎖令、民族学級と朝鮮学校、韓国学校への整備
第 6 回	日韓条約	在日コリアンの法的地位問題を中心に
第 7 回	日本の難民条約加入と権利獲得運動	外国人たちによる権利獲得運動について
第 8 回	多文化共生と市民社会	川崎を中心とした市民社会における多文化共生のための取り組み
第 9 回	日系ブラジル人	渡航、日本での生活、教育について
第 10 回	韓国における多文化主義	日本との共通点と違いについて
第 11 回	韓流と嫌韓流の狭間で	韓国ブームと排外主義が在日コリアンに与えている影響について
第 12 回	ヘイト・スピーチを考える	外国人に対するヘイト・スピーチと、これを規制するための運動と条例について

第 13 回	多国籍化する日本の労働市場	外国人を新たな労働力として受け入れようとする動きとその問題点
第 14 回	国際機関がみた日本	国連人権委員会などの勧告からみた日本の多文化状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業時に次の授業の内容について告知するので、事前にそのトピックについて調べて、授業後にリアクションペーパーに授業での気づきや持つに至った質問などを書けるように準備すること。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定のテキストはない。毎回資料を配布する。

【参考書】
田中宏『在日外国人第三版』（岩波新書）、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』、月刊『イオ』編集部『日本の中の外国人学校』

【成績評価の方法と基準】
期末試験はレポートの作成とし７０％、授業のリアクションペーパー（メールなどで提出）を特に重視した平常点３０％の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
初回の授業時にアンケートを行い、その結果を元に講義の計画の一部を柔軟に変更することがある。

【Outline and objectives】
In today's Japanese society, the aspect of a multicultural society has been further strengthened by the increase in foreign residents as a new workforce. On the other hand, there are also extrinsic movements against foreigners.This lecture will examine how Japanese multicultural situations were created, focusing on Korean residents in Japan.The purpose of this lecture is to consider the issues facing Japanese society.

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

加藤　丈太郎

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設計画、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。

日本における在留外国人数は過去最高を更新し続けている。2019年4月から日本政府は「特定技能」人材の受け入れを開始した。5年間で34.5万人から受け入れるという。しかし、彼・彼女らが家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。

コロナウィルスの影響を受け、一時的に在留外国人数は減少するかもしれない。しかし、中長期で少子高齢化を捉えるならば、外国人（移民）を受ける議論は避けては通れない。また、課題解決の方策が必要とされる。

本授業では、日本における移民・難民の受け入れの状況を踏まえ、多文化社会のあり方を考える。

【到達目標】
・日本の移民・難民の受け入れ状況を理解する。
・多文化社会をめぐる基本的な概念を国際社会学に基づき理解し、日本社会の状況に照らして考えられるようになる。
・将来、企業、NGO/NPO、国際機関等で働く際に必要となるクリティカルシンキング・想像力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義とワークショップから構成される。
コロナウィルスの影響が長引く場合、授業の一部はオンライン（ライブ授業を予定）で実施する。
ワークショップでは一部、授業外で準備をしてもらうことが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（講義内容・評価基準等の説明）Zoom の練習を兼ねたアイスブレイク・受講者自己紹介	講義内容、評価方法を説明する。
第 2 回	入国管理とは何か：日本の政策展開と 2018 年入管法改正（講義）【テキスト 1 章】	日本の出入国在留管理政策の何が改正され、今後どのような課題が想定されるのかを理解する。
第 3 回	国際社会学から多文化社会にアプローチする（講義）【配布プリント】	グローバリゼーション、多文化主義など、多文化社会を理解するための用語を国際社会学の視点から理解する。
第 4 回	在日コリアン：差別との闘いと高齢化（講義）【テキスト 7 章】	在日コリアンがいかに差別と闘ってきたのかを知る。また在日外国人の高齢化に伴う課題を把握する。

第 5 回	日系人と日本社会：歴史・世代・ルーツをめぐって（講義）【テキスト 4 章】	1990 年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。
第 6 回	日本の生産を支える外国人材：技能実習制度と特定技能制度（講義）【テキスト 5 章】	技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。特定技能制度の現状も分析する。
第 7 回	高度人材獲得政策と留学生、日本語教育の課題（講義）【テキスト 3 章・8 章】	多くの留学生が日本での就職を希望している。一方、日本語教育には課題が現存する。現行の制度で留学生のキャリアの構築は可能かを考える。
第 8 回	Let me talk!：私の「多文化」体験（ワークショップ）	数名の学生に多文化体験をプレゼンテーションしてもらう （残りの学生はレポートを提出する）
第 9 回	難民の社会参加と多文化社会（講義）【配布プリント・テキスト 12 章】	日本にどのような難民が存在するかを知る。また、難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。
第 10 回	「不法」を生きる非正規移民（講義）【テキスト 15 章】	もし、あなたに在留資格がなかったらどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。
第 11 回	外国人労働者受け入れにおける課題ー地方の現場から（ゲストによる講演）	山梨県から外国人の人材派遣会社の社長をゲストに招く（オンラインに変更の可能性あり）。お話から「地方」における課題を知る。受講者は感想文を次週に提出する。
第 12 回	日本に暮らす移民・難民の気持ちを想像する「ドラマ」づくり（最終ワークショップ）	グループごとに移民・難民に関するドラマを作り、発表する。（教室活動が【可能】な場合） 個人で移民・難民に起こりうるシナリオを作り、提出する。（教室活動が【不可能】な場合）
***	第 12 回が最終回となります	***
***	第 12 回が最終回となります	***

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト・プリントの指定箇所を事前に読んで来る。（コロナウィルスの影響が長引き、テキストが入手困難な場合は教員がテキストの要点を解説します。）
・「日本における私の多文化体験」というタイトルで、プレゼンテーション（30 分程度）or レポート（2,000 字程度）に取り組んでいただく。【第 8 回】
・ゲストスピーカーの話を聞いての感想文を提出する。【第 11 回】
・移民・難民をめぐるニュースに注目をすること（新聞を読むこと）。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

万城目正雄・川村千鶴子編著（2020）『インタラクティブゼミナール　新しい多文化社会論―共に拓く共創・協働の時代』東海大学出版会、2,750 円（税込）

【参考書】

※読みやすいものを挙げている。興味があるものはぜひ手に取って読んでみて欲しい。
塩原良和（2013）『共に生きる―多民族・多文化社会における対話』弘文堂、978-4335501241
芹澤健介（2018）『コンビニ外国人』新潮社、978-4106107672
西日本新聞社（2017）『新移民時代– 外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750345864
松尾慎編著（2018）『多文化共生　人が変わる、社会を変える』にほんごの凡人社、978-4893589521
安田菜津紀（2019）『故郷の味は海をこえて』ポプラ社、978-4591164204
山村淳平（2020）『外国人収容所の闇―クルドの人々は今』（DVD）アジア太平洋資料センター（PARC）

【成績評価の方法と基準】

Let me talk! or レポートの内容（40 %）、ゲストによる講演の感想文（10 %）、最終ワークショップ（50 %）で評価する。
なお、最終ワークショップは、教室活動が【可能】な場合はグループワーク、教室活動が【不可能】の場合は個人でのワークシートの記入を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

・昨年度の受講者は初めて出会う他学部、他学年の受講者とのワークショップを楽しんでいることが分かった。今年度においても、教室活動が可能となった場合は、新たな出会いを楽しんで欲しい。
・ゲストスピーカーの講演がとても好評であった。現場の声を聞いていただく機会として今年も設置する。（コロナウィルスの影響が長引いた場合、オンラインで実施することがあり得る。）

【学生が準備すべき機器他】

・パソコン（マイク・カメラ付のもの）
　ノート PC の場合マイク・カメラとも内蔵されている場合が多いです。
・インターネット接続が可能な環境（4/20 時点では zoom の使用を想定しています）
・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォン（zoom のアプリをインストールしておくこと）
＊準備に当たり、何かお困りの点があれば、相談してください（加藤メールアドレス　jotaro33@gmail.com）

【その他の重要事項】

【重要】（4/20（月）更新）
・本講義は【4 月 22 日（水）16:50 ～ 18:30】が初回になります。
・4/20 日（月）午前に、オンライン授業へのアクセス方法について「授業支援システム」を通じてご連絡しましたのでご確認ください。（確認できない場合は、メールでお問い合わせください。）
・本授業は Zoom を用いて「ライブ授業」で行います。
・オンライン授業にアクセス出来なかった方には、メールをいただければ授業後、個別にフォローアップをします。アクセス出来なかった旨をお知らせください。
担当教員メールアドレス　加藤　jotaro33@gmail.com
・講義時は、分からない点、より深めたい点を講師に質問すること。
・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。私も受講者と共に学ぶことを楽しみにしている。
・授業時間外の学習を多く求める科目である。決して「楽勝科目」ではない。履修登録をする際にはこの点に十分留意されたい。
・コロナウィルスにより教室活動が出来なくなるなど、本授業も影響を受けることが想定される。しかし、可能な限り方法を探り、皆さんと共に学びを続けたいと願っている。一緒に頑張りましょう。
「実務経験のある教員による授業」該当
日本の外国人支援 NGO/NPO で外国人相談に当たってきた。受講者には移民・難民について字面だけではなく、リアリティを持って考えてもらうことを目指す。

【Outline and objectives】

This subject considers "Multi Cultural Society" through life of migrants and refugees in Japan. The lecturer intends to educate students to mediate and coordinate conflicts regarding migrants and refugees. Students develop their critical thinking and imagination to others by various activities such as presentation and workshop (making "drama").

ARSx200MA

アジア社会論Ⅰ

展開科目

趙　宏偉

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コロナ流行に対応するために、授業回数は 12 回に減りましたが、本授業の本体部分は元々第 2 回目から第 13 回目までの 12 回に設定されているために、授業内容面へのマイナス影響はほぼありません。
アジアの国々、人々の生き方を知るには、彼らの地理と歴史の空間と時間の中での営みを知ることが重要である。発展のプロセスは、各地域社会の人びとの生活、宗教、意識を基盤として繰り広げるものである。この講義はアジアの国々について、地政学の観点を取り入れながら、その国の発展を中心に、政治、社会、文化も語る。受講者は国際知識を増やし、とりわけ日本が立地するアジアに対する知識と意識を養う。

【到達目標】
東南アジア諸国を中心に、その政治と経済、社会と文化の基礎的な知識を得、地図、年表、文献、文化遺産、地球儀などを活用して地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジアの国々の政治と経済、社会と文化について地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本と東南アジア	日本と東南アジアの関係、その歴史と現在
第 2 回	台湾　主体的発展とその対外関係	台湾は大陸を経済発展の舞台としながら、国際社会とは表関係と裏関係のギャップが大きい。
第 3 回	香港、自由度世界一の国際都市	自由度世界一の香港と共産党統治の中国大陸との複雑な関係。
第 4 回	アセアンとアジア、世界	アセアンとは何か。アセアン+３+６、東アジア首脳会議、RCEP とは何か。
第 5 回	ベトナム、社会主義と開放経済	統一戦争、軍事拡張、社会主義の低開発から高度成長期へ移行。
第 6 回	シンガポール、儒教治国	儒教政治・文化と経済発展。
第 7 回	マレーシア、多民族、多宗教の共存	マレーシア、多民族、多宗教でありながらの政治安定と共存経済
第 8 回	インドネシア、2 億人の政治発展と経済開発	発展における軍政と民主主義
第 9 回	タイ、微笑みの国	微笑みの対外関係、王政の下での軍政と民政の頻繁な交代
第 10 回	フィリピン、戦わない国	スペイン、米国、日本、独立、カトリック、独裁と民主主義、紆余曲折の中でののんびりとした発展。
第 11 回	カンボジア　強権の国家と温厚な国民	仏日米中ベトナム等諸外国に強いられた苦難を耐え抜いて、自主と発展を歩む。
第 12 回	ミャンマー　発展に目覚めた後発国	植民地、仏教、多民族、社会主義、軍政から発展を目指す普通の国に。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書　池上彰『東南アジア　ASEAN の国々』小学館、2019 年。1400 円。

【参考書】
エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』TBS ブリタニカ、1979 年。
エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン―それからどうなった』たちばな出版、2000 年。
岩崎育夫『入門東南アジア近現代史』講談社現代新書、2017 年。
趙宏偉他『中国外交の世界戦略』明石書店、2011 年。
同上『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
私語の厳禁、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目はアジアの知識を習得することにより、情報収集力・分析力、情報判断・行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【参考】
コロナ対応のために削除されたシラバスの内容をご参考：
①教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、去る一週間の国際時事問題を 15 分ほどの時間を利用して解析する。
②第 1 回、オリエンテーション地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する。
③第 14 回、インド、超大国になれるかカースト社会、サービス業中心の経済からの発展の道。
④ 1, 授業態度、授業への積極的な参加と貢献 (40 点)、2, 学期末に筆記試験（60 点）により総合的に評価します。

【Outline and objectives】
Asian Society Ⅰ
The lecture talks about the politics, economics, society and culture of each country, taking into consideration the geography of Asia, the space and time of history, and the geopolitical perspective. Participants will increase international knowledge and, in particular, develop knowledge and awareness of Asia where Japan is located.

ARSx200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

趙　宏偉

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア社会論Ⅰで学修したアジアの国々についての知識を踏まえて、アジア社会論Ⅱでは諸国間の国際関係について教授する。アジア太平洋地域の国際システム及び各国間の外交は、中国と諸外国との関係を手がかりに、その基礎知識を総合的に講義する。受講者はアジア太平洋の国際問題について知識を増やし、自らの問題関心と理解を深める。
教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。

【到達目標】
アジア太平洋地域という地理の空間と歴史の時間における国際関係を 1990 年代以来のプロセスを中心に把握することは、授業の到達する目標である。地図、年表、統計資料、文化遺産、地球儀などを活用し、そして日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジア太平洋という国際社会の面々を地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、授業開始からの 15 分ほどを使ってその週の国際時事を解説し、それから、教科書を使って講義を中心とする授業を行うが、質疑応答とディスカッションの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する
2	国際関係学におけるアジア	国際関係のなかでアジアをどう捉えるか
3	朝鮮戦争	朝鮮戦争における朝鮮半島と米中ソ
4	東南アジア諸国の独立とアジア太平洋の国際関係	1950 年代の東南アジアと国際社会
5	ベトナム戦争と東アジア	インドシナ問題と米ソ中
6	中ソ関係	中ソ、同盟から敵対へ
7	米中関係	敵対から和解へ
8	日中関係 1	1972 年の国交正常化までの歴史
9	日中関係 2	国交正常化後の日中友好の時代、1990 年代まで
10	日中関係 3	日中対立の時代、2000 年から
11	中国外交と上海協力機構	中国・ロシア・中央アジア・西アジア協力体制
12	アセアンとアセアン共同体の成立	アセアンと日中韓米との関係
13	東北アジアの国際関係	北朝鮮核問題を巡っての関係国の国際関係
14	日中露関係の歴史と現在	日中露間の合従連衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
趙宏偉　他著『中国外交の世界戦略―日米アジア攻防の 30 年』明石書店、2011 年。
進藤榮一『東アジア共同体をどう作るか』筑摩新書、2007 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会 2017 年。毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。

【成績評価の方法と基準】
授業態度、授業への貢献度（40 点）を求め、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】
私語の禁止、携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
Asian Society Ⅱ
The lecture will teach comprehensively the basic knowledge of international relations in the Asia-Pacific region and diplomacy of each country based on the Chinese diplomacy. Students will increase their knowledge of international issues in Asia Pacific and deepen their own interests and understanding.

ARSx200MA

国際関係論 I

展開科目

趙　宏偉

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コロナ流行に対応するために、授業回数は 12 回に減りましたが、本授業の本体部分は元々第 2 回目から第 13 回目までの 12 回に設定されているために、授業内容面へのマイナス影響はほぼありません。
この授業は現代の国際関係、その理論、地理、歴史、時事を踏まえて講義する。中国と各国との国際関係を手がかりに文明論からリアリズムまで様々な視点から国際社会における国家間、パーソン間のドラマを観察する。受講者は国際社会についての見方、国際問題の解け方、国際社会における人間の生き方を学ぶ。人びとはその生活、宗教、意識を基盤として地理と歴史の中で政治、経済、文化さまざまなしくみを形成し、人間は具体的な国のみならず、国際社会のしくみの中でさまざまな生き方を営んできた。人間が作り、かつ暮らしている国際社会のしくみを知り、そしてそんな国際社会を生きる人間の営みを考察する。そのことは一国にとどまらないキャリアデザインを考える人に限らず、国際化している現代社会を生きる我々一人ひとりのキャリアデザインにとって重要である。

【到達目標】
国際関係学の諸理論を知り、その基本を習得することはまずの目標である。そのうえ、地理の空間と歴史の時間に繰り広げられている国際関係の局面局面を地図、年表、文献資料、文化遺産、地球儀などを活用してその地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、国際社会における政治と経済、社会と文化について学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係学の視点（1）	国際関係学の理論
第 2 回	国際関係学の視点（2）	国際関係学の方法論
第 3 回	国際関係学の視点（3）	国際関係学の学説
第 4 回	国際関係学の視点（4）	質疑応答を中心とした基礎概念の復習
第 5 回	ユーラシアの国際関係	対立から協調へ、北方の国際協調体制
第 6 回	アジア共同体と日米	政治・経済・文化の観点から現状を分析する
第 7 回	東北アジアの国際関係	朝鮮核問題を中心とする地域の国際関係
第 8 回	日本、ソ連・ロシア、中国のトライアングル関係	戦後史を踏まえた現状の理解
第 9 回	日中関係と日中韓トライアングル	国内政治と国際政治の連関の理解
第 10 回	日中関係と日米中のトライアングル	グローバル・リーダーシップの競争
第 11 回	習近平の世界戦略	国際社会における中国の論理と行動
第 12 回	米中露トライアングル関係と日本	国際関係秩序と国際法の視点からの考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。2800 円

【参考書】
入江　昭『グローバル・コミュニティ』早稲田大学出版部、2005 年。
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT 出版、1997 年。
ジェラード・デランティ『コミュニティ　グローバル化と社会理論の変容』NTT 出版、2006 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【参考】
コロナ対応でシラバスから削除した内容をご参考に：
①授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。教員による講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。
②第 1 回授業の説明：授業の進め方や課題を含めて説明する
③総括と思考：日中関係を国民意識、国家意識から考える。
④授業態度、授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【Outline and objectives】
International relations theory Ⅰ
This class gives lectures on contemporary international relations, based on its theory, geography, history and current events. Observe the drama between nations and people in international society from various viewpoints from civilization theory to realism with clues on international relations between China and each country. The students learn how to look at the international community, how to solve international problems, and how people live in the international community.

ARSx200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

趙　宏偉

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
講義は永遠な隣人である東アジアと現代中国をその地理と歴史を踏まえて語る。受講者は共生してきた日本と隣国、そして共生していかなければならない日本人と隣人たちの多様な生き方、とりわけ近現代中国について思考し思考力を高める。

【到達目標】
中国という事実を知り、自分なりの見方を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業はアジアという地理空間と歴史時間における中国の近現代史を講義する。また、日々に発生する時事問題を事例に取り上げて講義し、国際社会、東アジア、現代中国を見る目を鍛えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	教科書、進め方等を説明
2	現代中国の成立	1949 年前後
3	朝鮮戦争と台湾問題	東アジア冷戦
4	「大躍進」前後	中国経済の失敗
5	中ソ論争と核武装	中国・ソ連関係
6	文化大革命	中国の内乱
7	ニクソン訪中と日中国交	米中関係の変化
8	毛沢東時代の終焉	混乱中国の閉幕
9	改革開放と鄧小平	経済発展の時代
10	教科書問題と靖国問題	日中関係の問題
11	天安門事件と天皇訪中	中国の独裁政治
12	香港返還と台湾問題	中国の統一問題
13	世界大国への飛躍	超大国への驀進
14	中国の民族問題	民族紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日『日本経済新聞』の中国関係ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
並木頼壽、杉山文彦編（趙宏偉執筆）『中国の歴史を知るための 60 章』明石書店、2011 年。2000 円。

【参考書】
朝日新聞社取材班『歴史は生きている　東アジアの近現代がわかる 10 のテーマ』朝日新聞出版、2008 年。
岡崎雄児『最新中国を知るキーワード 99』同学社、2008 年
堀敏一『東アジア世界の歴史』講談社、2008 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。
中国研究所（一般社団法人）編『中国年鑑』各年号、明石書店。

【成績評価の方法と基準】
出席と授業態度、授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】
私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
この科目は近現代中国の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
International relations theory Ⅱ
The lecture talks about eternal neighbors East Asia and modern China based on its geography and history. The students think and think about the various ways of living of Japan and neighboring countries that have coexisted, the Japanese and the neighbors who have to coexist, in particular the modern China, in particular

ARSx200MA

国際地域研究Ⅰ

展開科目

福井　令恵

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・1 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちとつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】
授業を通じて「地域」・「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえつつ理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。
本授業の開始日は５月７日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法および初回課題について、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第 2 回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第 3 回	アイルランドとイギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにアイルランド、イギリスの諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第 4 回	イギリスを構成する諸地域 イングランドを中心に	イギリス（UK）内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第 5 回	イングランド社会・文化	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド社会を考える。

第 6 回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景に言及しつつ考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。
第 7 回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。その際、文化や歴史をイギリスおよびアイルランドの関係性からも検討する。
第 8 回	スコットランド社会・文化②	ヨーロッパとの関係から、スコットランド社会の現在を考える。
第 9 回	イギリスのなかの４つの地域	関連する映画を鑑賞し、イギリス社会について考える。
第 10 回	アイルランド社会・文化①	EU とアイルランドの関係が、どのようにアイルランド社会に影響を与えているのか考える。近年の動きについても解説する。
第 11 回	アイルランド社会・文化②	アメリカとアイルランドの歴史的なつながりを知り、両者の現在の関係について理解する。
第 12 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料、関連文献を読む。
毎時間、何らかの課題（ミニレポートや基礎知識の習得率を図る小テスト）を出す予定です。
課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業時に学習支援システムの「教材」欄に資料等を掲示します。

【参考書】
長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017 年　岩波新書.
井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010 年、昭和堂.
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】
＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず確認すること。

【Outline and objectives】
In this course, we reconsider the concepts of “region” (or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. We will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). Through examining these societies, we aim to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

ARSx200MA

国際地域研究Ⅱ

展開科目

福井　令恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげつつ、＜異＞文化と＜異なる＞国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する（北アイルランドの事例以外の地域の例も必要に応じて言及する予定である）。北アイルランドの住民の歴史的・文化的な共属意識は、しばしば国境を超える点にも注目する。

【到達目標】
現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則的に講義形式で授業を進める。パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。授業では、単に座って聞くだけのものではなく、討議や発表を目的として授業内でグループワークをする可能性がある。また、リアクションペーパーの提出をしてもらう予定である。
なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	紛争の歴史と＜異なる＞住民集団間関係	北アイルランドを具体例として、異なるナショナル・アイデンティティをもつ二つの住民集団の関係性と「多文化社会」について考える。対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第 3 回	国家の境界とその間	「国家」と帰属意識の関係について、歴史背景を学び、理解する。
第 4 回	国家の境界とその間：アイデンティティと帰属	「北アイルランド人」というアイデンティティの意味について、北アイルランド社会の変化との関連からその意味を検討する。
第 5 回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係について、事例をもとに考える。
第 6 回	国籍と現代社会	国家と国籍の関係について複数の視点から検討する（グループワークを行う場合がある）。
第 7 回	北アイルランドの紛争と二つの住民集団	関連する映画を鑑賞し、歴史・社会構造について学ぶ。
第 8 回	階級・文化・紛争経験の関係	社会構造と紛争経験の関係に注目して住民集団間の対立についてさらに理解を深め、今後の課題について考える。
第 9 回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	紛争の激しい地域の住民の手によって描かれる＜壁画＞をめぐる活動と表象から、紛争経験と歴史認識について検討する。
第 10 回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第 11 回	学校教育と＜歴史＞	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題について学ぶ。

第 12 回	観光と紛争後社会	和平合意後に急速に進んだ観光から、観光地のイメージの形成を、北アイルランドの歴史的・社会的背景と関係づけて考える。また、紛争の痕跡を「見学する」という観光客の行為の意味についても検討する。
第 13 回	北アイルランドと EU、英国、アイルランド	イギリスの EU 離脱において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料、関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】
・尹 慧瑛 『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』 2007 年 法政大学出版局.
・福井令恵、『紛争の記憶と生きる: 北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015 年、青弓社.
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加）および授業での課題等 30%
期末試験 70 %
＊欠席時間が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】
＊受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。
＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず出席すること。
＊本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、授業の中で春学期の授業を前提とする場合もあるため、国際地域研究 I を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】
In this course, we consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years the conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), a peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. We will use the lessons learned from their efforts and see if and how they are important for our society.

CAR200MA

就業機会とキャリア

展開科目

酒井 理

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・2** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな仕事について考えるとともに、現代社会における産業や企業のあり方について学びます。
企業に求められる人材、組織で働くこと、社会人として何が期待されているのかについてゲストスピーカーのお話から考えます。日々変化する企業の最新情報にふれることで、自らのキャリアをデザインする力を身につけるとともに、就業機会におけるキャリア選択を考えるキッカケを提供します。

【到達目標】
①様々な働き方、仕事に興味をもつこと、②いろいろな企業やそこでの働き方を理解すること、③自らのキャリア形成に前向きに取り組む姿勢を身につけること、を到達目標に授業を実施します。
様々な業界や企業、キャリアに対する偏見や先入観をなくして、しっかりと自分自身の力で業界や企業を分析し理解できる力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回、多様な企業からさまざまな職種、役職の方をお招きして、その業界の最新動向について語っていただくとともに、仕事の内容、キャリアパスの実際、組織での働き方などについてお話をうかがいます。各回の授業は講義 80 分、質疑応答 10 分、レポート作成が 10 分の時間配分で実施します。毎回の講義時間配分が変更になることがあります。また、講師の方の都合により業種などが変更になることもあります。講義日が祝日にあたった場合には、ゲストを呼ぶことは困難ですので、中間レポートの作成にあてることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、受講の心構え、授業形式、成績評価の方法などの説明を行います。
2	人材派遣業界	人材業界の仕事を学びます。企業の採用活動、学生の就職活動についても情報を提供していただきます。
3	流通産業	我々にとって大変身近な業界である流通産業における働き方を学びます
4	IT 産業	社会基盤を担う IT 産業での働き方や生き方を学びます。
5	ソフトウェア産業	ソフトウェア業界とそこでの働き方を学びます。
6	政府系企業	国と密接に関係しつつも公務員でもない機関について、その仕事を紹介いただきます。
7	エンターテイメント産業	サービス経済化がすすむ我が国において成長が期待できるエンターテイメント産業での働き方を学びます。
8	教育産業	これからの成長が期待できる分野である教育産業を取り上げて、そこでの働き方を学びます。
9	医薬品産業	高齢化社会を見据えて重要な産業である医薬品業界での働き方について学びます。
10	広告産業	テレビだけではなくインターネットへの接触が増加して、産業が変容しつつある広告産業での働き方を学びます。
11	ベンチャー	組織で働く、雇用者として働く以外の選択肢である起業について、ベンチャー起業の経営者の実体験を語っていただきます。
12	生き方、働き方①	グローバル化がすすむなかで、どのような働き方が求められているのか、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
13	生き方、働き方②	働くとはどういう事か、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
14	まとめ	ゲストの話を総括して、これからのキャリアについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特段の準備を求めることはしませんが、事前にインターネットや新聞などで情報をとって一つ、二つ質問できる程度の用意はしてください。人との出会いは一期一会です。二度とチャンスは巡ってはきませんので、せっかくの機会を無駄にしないようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
全体を通じてのテキストはありません。
資料、レジュメ等は必要であれば各回に配布します。どのような企業の方をお呼びするかは最初の授業でお知らせします。

【参考書】
とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】
各回の授業内で提出する小レポートの評価 60 %，まとめ、中間のレポート 40 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
1. レポートを書く時間を確保します。
2. 幅広い業界からゲストを招聘し、授業をアレンジします。

【その他の重要事項】
学生の皆さんには知られていない業種も含めて、幅広い企業の方から直接話をうかがう貴重な機会です。幅広く関心を持って講義に臨んでください。また、遅刻、途中退出、私語を慎んで礼節をもって授業を受けてください。
昨年度は、博報堂、ソニーミュージックエンターテイメント、リクルートキャリア、公文教育研究会、マツモトキヨシホールディングス、、ＤＨＬサプライチェーン、オービックビジネスコンサルタント、キョーリン製薬ホールディングス、日本政策金融公庫、富士通、マクアケ（サイバーエージェント）、東京証券取引所の企業の方々にご協力いただきました。継続してお願いしている企業様もありますが、入れ替わりもあります。
また、お話いただく企業の方のご都合もありますので、シラバスに示した順番は変わります。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will consider various tasks and learn about industries and companies in modern society.
From the lecture of the guest speaker, we think about what kind of persons are required in society, working on organization.
By acquiring up-to-date information on companies and societies that change everyday, we will acquire the ability to design our own careers. Also, through this lesson, you will have the opportunity to think career selection.

CAR200MA
【2013 年度以前入学者用】職業能力ベーシックスキルⅠ　展開科目
CAR200MA
【2014 年度以降入学者用】職業能力ベーシックスキルⅠ　展開科目

島村　泰子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくとよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝えるなど）、②ビジネスマナー、③人間関係の築き方、④プレゼンテーション等をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】
本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得する。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、授業中の座席を固定します。
○初回受講開始日は、4 月 27 日です。
○第 8 回、9 回は統合します。第 10 回の内容は、第２回～第４回に配分します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機を確認とグループ分けをしますので、希望者は必ず出席してください。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	３つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とＴＰＯに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー 注）第８回に統合します	就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー 注）第２回～第４回に配分します	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。

第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席調査票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・発表内容等）40 %、最終回に実施する理解度テスト 40 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅰ
The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.
Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA
【2014 年度以降入学者用】職業能力ベーシックスキルⅠ　展開科目
CAR200MA
【2013 年度以前入学者用】職業能力ベーシックスキルⅠ　展開科目

島村　泰子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくとよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝えるなど）、②ビジネスマナー、③人間関係の築き方、④プレゼンテーション等をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】
本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得する。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、授業中の座席を固定します。
○初回受講開始日は、4 月 27 日です。
○第 8 回、9 回は統合します。第 10 回の内容は、第２回～第４回に配分します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機を確認とグループ分けをしますので、希望者は必ず出席してください。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とＴＰＯに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー 注）第８回に統合します	就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー 注）第２回～第４回に配分します	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。

第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席調査票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・発表内容等）40 %、最終回に実施する理解度テスト 40 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅰ
The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.
Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA
【2013 年度以前入学者用】職業能力ベーシックスキルⅡ
展開科目

CAR200MA
【2014 年度以降入学者用】職業能力ベーシックスキルⅡ
展開科目

島村　泰子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
3 年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】
本授業の目標です。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期〜大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。
学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、学歴構成や雇用区分について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う

第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業にこにおけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第 11 回	【自己理解】キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面談の準備を行う。「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第 14 回	試験・まとめと解説	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 20 %、「業界・職種・企業」研究の発表 40 %、模擬面接及び資料内容 40%を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用してください。

【その他の重要事項】
「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらう授業です。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅱ
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

CAR200MA
【2014 年度以降入学者用】職業能力ベーシックスキルⅡ 展開科目

CAR200MA
【2013 年度以前入学者用】職業能力ベーシックスキルⅡ 展開科目

島村　泰子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
3年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】
本授業の目標です。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期〜大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。
学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。就職活動までのキャリア・デサインの流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第 3 回	【仕事理解】希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、学歴構成や雇用区分について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】第 3 回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第 6 回	【仕事理解】発表準備	【グループワーク】「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う

第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業にこにおけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第 14 回	試験・まとめと解説	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 20 %、「業界・職種・企業」研究の発表 40 %、模擬面接及び資料内容 40%を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用してください。

【その他の重要事項】
「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらう授業です。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅱ
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

EDU200MA

演習（発達・教育）2 年生

遠藤　野ゆり

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマについてデータや先行研究を調べる力を身につけます。
レジュメの切り方、プレゼンの仕方を身につけます。
ディスカッションの基本、司会進行の仕方を身につけます。
自分の身近な出来事やその分析を文章で表現する力を身につけます。

【到達目標】
興味関心のあるテーマについて自分なりに調べることができる。
調べたことについて適切なレジュメの作成、プレゼンができる。
授業内で質の高いディスカッションができる。
自分の身近な出来事を文章で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ディスカッション形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミとは何か 本ゼミの進め方 担当者決め。
2	ゼミにおけるレジュメ作成の力	レジュメを作成するとはどういうことかを考えます。
3	レジュメの作成（実践編）	課題図書について自分なりのレジュメを作成します。それについての講評を行い、よりよいレジュメ作りの方法を学びます。
4	プレゼンの仕方	プレゼンの大事なポイント、問題提起で欠かせないポイントを考えます。
5	発表①	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
6	発表②	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
7	発表③	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
8	発表④	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
9	発表⑤	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
10	事例の記述	事例を記述するとはどういうことかを学びます。
11	事例の記述（実践）①	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
12	事例の修正	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
13	事例の記述（実践）③	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。最終的な事例を書きあげます。
14	ゼミの総括・先輩の卒業論文講読	自分たちの発表や事例の書き方を確認し、先輩の書いた卒業論文を講読し最終的な目標を見定めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの講読、事例の記述、プレゼンの準備など本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業でのプレゼンテーション 30 点 ディスカッション 30 点　その他授業活動への貢献 40 点

【学生の意見等からの気づき】
特に指摘はありませんでした。受講生が主体的に参加できる演習を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
発表に際して投影機器を使う場合には事前に準備しておくこと。

パソコンを用意してください。

【Outline and objectives】
This class aims to acquire the ability to examine data and previous researches about issue of interest.
To learn how to make resume and how to present it.
To learn how to do "discussion" and "moderator work.
To acquire the ability to express your familiar events and its analysis with writing.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

遠藤　野ゆり

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術図書の講読をとおして教育問題への学術的なアプローチに触れます。
質的研究の方法について学び、教育現場についての記述ができるように目指します。
エピソードを事例として書き起こすトレーニングをします。

【到達目標】
学術的な教育研究を理解できる。
記述力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
小グループでのディスカッションの実施の後全体での議論をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの予定、方針を決めます。
2	読書報告	春休みに各自がした読書についての報告をしてもらいます。
3	文献講読① 1 冊目第 1 章	共通の文献の 1 冊目第 1 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
4	文献講読② 1 冊目第 2 章	共通の文献の 1 冊目第 2 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
5	文献講読③ 1 冊目第 3 章	共通の文献の 1 冊目第 3 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
6	文献講読④ 1 冊目第 4 章	共通の文献 1 冊目第 4 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
7	文献講読⑤	共通の文献の 1 冊目第 5 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
8	論文執筆の方法	質的研究の方法を学びます。
9	事例研究①事例の書き方	事例の書き方を学びます。
10	事例研究②論文の書き方	事例に基づく論文を執筆します。
11	文献講読⑥ 2 冊目第 1 章	共通の文献の 2 冊目第一章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
12	文献講読⑦ 2 冊目第 3 章	共通の文献 2 冊目第二章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
13	文献講読⑧ 2 冊目第 4 章	共通の文献 2 冊目第三章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
14	文献講読⑨ 2 冊目第 5 章	共通の文献 2 冊目第四章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の講読　レジュメの作成　論文執筆等をおこないます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（毎回のレポート、授業での貢献度）

【学生の意見等からの気づき】
引き続き同じ形式を踏襲しますが状況を見て適宜判断します。

【Outline and objectives】
This class aims to know the academic approach way to educational problems through reading academic books.
To learn about qualitative research methods and to describe the educational site.
To train to write an episode as a case.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

遠藤　野ゆり

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたて、調査を進めます。

【到達目標】
ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたてます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ディスカッション形式で行います。
先行研究と学術論文の講読は輪番制です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の計画をたてます。
2	調査結果の分析	調査で得られたデータをデータ化する作業、すなわち事例を記述する力を身につけます。
3	結果の報告	事例について記述の仕方、考察等を検討します。
4	事例と考察の修正	検討内容に基づいて事例や考察を修正します。報告集を作ります。
5	図書館の使い方（確認）	図書館の利用について指導を受けます。
6	学術論文の講読①	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
7	学術論文の講読②	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
8	学術論文の講読③	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
9	学術論文の講読④	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
10	学術論文の講読⑤	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
11	卒業論文執筆に向けて① テーマの設定	卒業論文の執筆に向けてテーマを絞ります。
12	卒業論文執筆に向けて② 事例の確認	卒業論文の執筆に向けて事例を読み合い確認します。
13	卒業論文執筆に向けて③ 章の組み方	論文の基本構成を学びます。
14	懸賞論文構想発表	来年度の懸賞論文の構想を発表し検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事例の記述や論文講読、レジュメ作成などをおこないます。
講読論文の読解など本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (毎回のレポート、授業への貢献度）100 %

【学生の意見等からの気づき】
特に改善点は指摘されていません。計画を引き継ぎますが受講生の要望を取り入れて臨機応変に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを用意してください。

【Outline and objectives】
This class aims to gain the ability to describe, analyze and discuss the results of the survey at the seminar.
To identify the prior research on the subjects of interest.
To acquire the ability to read academic papers.
To make the plan of the graduation thesis and proceed with the investigation.

EDU200MA

演習（発達・教育）2 年生

松尾　知明

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関わる基本的な概念や事象を検討することを通して、多文化共生のあり方を追究したい。

【到達目標】
・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などの基本的な知識を得ることができる。
・担当する課題や興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的な発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、自己紹介
2	多文化マップ⑴調査	散策とマップ作成
3	多文化マップ⑵作成	マップ作成と発表
4	ヒューマンライブラリー	グループワーク
5	差異性と同一性	発表と討論
6	他者理解と自己理解	発表と討論
7	偏見と差別	発表と討論
8	移民時代の到来	発表と討論
9	研究レポートに向けた中間報告	発表と討論
10	在日外国人	発表と討論
11	イスラムを知ろう	発表と討論
12	移民時代に求められる想像・創造力	発表と討論
13	研究レポートの発表⑴多文化	プレゼンと質疑
14	研究レポートの発表⑵共生	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書や関連文献などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』明石書店、2020 年。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30%）、レジュメと発表（30 %）、研究レポートとプレゼン（40 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
話し合いを工夫して、多文化のテーマについての理解を深めさせる。

【Outline and objectives】
Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on various issues related to a multicultural society, basic concepts and phenomena related to multicultural education are examined to explore ways of multicultural symbiosis.

EDU200MA
演習（発達・教育）3・4 年生（春）

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、日本における外国人児童生徒教育に焦点をあて、多文化共生と教育に関する動向や課題について検討する。

【到達目標】
・外国人児童生徒教育の動向や課題などの基本的な知識を得ることができる。
・外国人児童生徒教育について調査研究を進め、効果的にレポート作成や発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は 23 日から開始する。対面での授業ができるようになるまでは、Zoom や授業支援システムを活用して授業を進める。授業日（木曜）に教材や課題を学習支援システムに提示する。教科書や教材を読んだり動画をみたりして課題に答え、月曜日の 17 ： 00（昼）の締切までに学習支援システムに提出する。課題を中心に話し合い、外国人児童生徒教育について理解を深める。また、論文作成の手順を学ぶとともに、テーマを設定し問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	外国人児童生徒の現状と課題	発表と討論
3	バイリンガリズム研究から	発表と討論
4	多様な子どもと生徒理解	発表と討論
5	外国人児童生徒の受け入れと教育	発表と討論
6	外国人児童生徒教育と教師	発表と討論
7	中間発表	進捗状況の報告と質疑
8	横浜市の取り組み	発表と討論
9	飯田北いちょう小学校の取り組み	発表と討論
10	横浜吉田中学校の取り組み	発表と討論
11	学校と地域との連携	発表と討論
12	授業のまとめ	研究レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書や教材を読んだり動画をみたりして課題に答える。設定したテーマについての文献研究を進め、研究レポートを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』明石書店、2020 年。山脇啓造、服部信雄『新多文化共生の学校づくり－横浜市の挑戦』明石書店、2019 年。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30%）、課題（40 %）、研究レポート（30 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進め方についての指導に留意する。

【Outline and objectives】
Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on education for Japanese language learner in Japan, trends and issues related to multicultural symbiosis and
education are explored.

EDU200MA
演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに事例研究を遂行することを通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追究して、研究レポートにまとめる。

【到達目標】
・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
調査研究の進め方や研究レポートの書き方について、具体的な事例を検討しながら学ぶ。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	テーマの設定	調査研究の構想
3	先行研究の検討	発表と質疑
4	先行研究の検討	発表と質疑
5	リサーチクエッチョンと研究計画	研究の計画
6	テーマ設定の理由	先行研究への位置づけ
7	調査研究のデザイン	発表と質疑
8	中間発表	進捗状況の報告と質疑
9	調査研究の実施(1)	進捗状況の報告と質疑
10	調査研究の実施(2)	進捗状況の報告と質疑
11	調査研究の実施(3)	進捗状況の報告と質疑
12	研究レポートの執筆要領	執筆上の留意事項
13	研究レポートの発表(1)	プレゼンと質疑
14	研究レポートの発表(2)	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献などを読み、課題をやってくる。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（40%）、研究レポートとプレゼン（60 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
進捗状況を把握し、計画的に進める。

【Outline and objectives】
In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural symbiosis are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
①　今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
②　参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
　想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②個人またはグループによる研究発表と討論，等である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し，各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	ゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し，共有化をはかる。ゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
14	まとめ	学習全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
　個人研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特に定めない。

【参考書】
　児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
　児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
　児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
　児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
　児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
　その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
　出席を含む平常点（20 %）
　討論を含む授業への積極的参加（30 %）
　個人またはグループ発表（20 %）
　学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
　少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

児美川　孝一郎

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
①　今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
②　参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②ワークショップ形式等でのテーマ討論，③個人またはグループによる研究発表と討論，④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施，等である。
授業時以外での課外活動として，夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究集会等への参加，若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。
秋学期授業と併せて履修することを原則とする。年度末には，「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し，各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	春学期のゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し，共有化をはかる。春学期のゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告者からの発表を受けて，全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
14	春学期のまとめ	春学期の学習全体について振り返りを行い，ディスカッションを通じて，夏合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
個人研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
出席を含む平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

児美川　孝一郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】
①　今日の若者のキャリア形成上の諸問題，および対応するキャリア支援の諸課題について，主として教育場面を探求の対象としつつ，その実践的および専門的理解を深める。
②　参加者各自が設定した小テーマについて，それを探求・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに，研究発表を通じて，プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　演習の具体的な運営方法については，参加者と相談しながら，随時決めていく。
　想定される学習活動は，①共通文献の輪読と検討，②ワークショップ形式等でのテーマ討論，③個人またはグループによる研究発表と討論，④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施，等である。
　授業時以外での課外活動として，夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究集会等への参加，若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。
　春学期授業から引き続き履修することを原則とする。年度末には，「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	共同研究のテーマ設定	春学期における個人研究発表の内容も踏まえ，秋学期の共同研究のテーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	秋学期のゼミ運営計画の策定	共同研究を進めるためのグループ分けを行い，秋学期のゼミの運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について，報告グループからの発表を受けて，全体でディスカッションする。
6	グループ研究発表①	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
7	グループ研究発表②	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
8	グループ研究発表③	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
9	グループ研究発表④	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
10	グループ研究発表⑤	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
11	グループ研究発表⑥	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
12	グループ研究発表⑦	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
13	グループ研究発表⑧	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い，全体でディスカッションする。
14	秋学期のまとめ	秋学期の学習全体について振り返りを行い，ディスカッションを通じて，冬合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　共通文献の検討の際には，事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当グループは，入念な準備と発表用レジュメを作成する。
　グループ研究発表に際しては，先行研究の収集・読解，仮説的な理論フレームの考案など，ふだんから準備を重ねておく。自分の属するグループ以外のグループ発表に際しても，テーマは前週に周知されるので，関連情報を調べたり，提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特に定めない。

【参考書】
　児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
　児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
　児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
　児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
　児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
　その他，授業時に，随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
　出席を含む平常点（20 %）
　討論を含む授業への積極的参加（30 %）
　個人またはグループ発表（20 %）
　学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】
　少人数形式の演習授業であり，学生参加型の主体的学習を重視している。かつ，受講生には，調査，研究，レジュメ作成，プレゼンテーション，論文執筆のサイクルを経験してもらうため，本授業は，結果として，学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

坂本　旬

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市民メディアと異文化探究学習の基礎理解
受講生はメディア・リテラシーおよび異文化理解、SDGs などゼミ活動に不可欠な基礎知識・技能を習得する。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
・デジタル・ストーリーテリングなどのメディア制作の基礎を実践的に理解する
・異文化理解や基礎教育に関する知識を得る
・SDGs の基礎を実践的に理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①メディア・リテラシーの基礎学習
②小中学高校等で実施する文化探究・異文化交流学習の支援
③小学校や夜間中学校への取材と映像制作
必要に応じて、ゲスト講師による特別授業を行う予定。
また、授業は原則として５限・6 限を通して実施するため、両時限に他の授業を履修しないこと。（原則として６限がメインとなる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習 1（基礎理論）	「体験の言語化・記憶の映像化」の基礎
3	基礎学習 2（事例分析）	「体験の言語化・記憶の映像化」の事例分析
4	実践学習 1（学習環境）	「体験の言語化・記憶の映像化」に必要な学習環境と機材
5	実践学習 2（制作方法）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（基礎）
6	実践学習 3（カメラワーク）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（カメラワーク）
7	実践学習 4（インタビュー）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（インタビュー）
8	実践学習 5（編集）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（編集）
9	授業支援方法 1（学習支援の方法）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の方法
10	授業支援方法 2（学習支援計画）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の計画
11	授業支援方法 3（学習支援の実際）	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の実際
12	制作実習 1（企画）	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（企画）
13	制作実習 2（撮影）	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（撮影）
14	制作実習 3（編集）	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（編集）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外小中高校等での授業支援、映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。海外研修活動も正規の授業ではなく、課外活動の一環として行う。（海外研修については、２年生は希望者のみ）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %
３・４年用「授業評価基準（ルーブリック）」を流用する。２年ゼミでは４段階のうち２段階を目標とする。
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的 (グローバル) な異文化対話の発に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4 段階）
1 ８割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4 段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4 段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて５分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4 段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4 段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働 (コラボレーション) を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
自ら学習到達度を確認し、学習課題の自己理解を深めるために、HOPS(e ポートフォリオ) を積極的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】
①演習参加にあたって、２〜４年のうちに次の授業を必ず履修すること
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」
②次の授業は履修を推奨
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】
To study and explore the basics of citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

坂本　旬

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★新型コロナ対応のため、授業の詳細は授業の中で伝えます。
市民メディアと異文化探究学習の実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、実践的な異文化交流・協働の基礎を身につける。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
・メディア・リテラシーを用いた探究学習を行う。
・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①映像制作スキルを身につける。
②小中高校で実施する文化探究・異文化交流学習の支援を行う。
③学校現場を取材し、映像作品を作る。
④授業は5限と6限を連続して行うことを原則とするため、他の授業をいれないこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	国連映像コンクールの解説	国連映像コンクールについての解説
4	国連映像コンクール作品の閲覧	国連映像コンクール入賞作品の閲覧と評価
5	国連映像作品のテーマ	国連映像コンクール応募作品のテーマの検討
6	映像制作スキルの概要	国連の映像コンクール応募のための映像制作スキルの概要
7	映像制作スキルの基本	国連の映像コンクール応募のための映像制作スキルの基本
8	映像制作スキルの習得	国連の映像コンクール応募をめざした映像制作スキルの習得
9	映像制作支援活動の概要	小中高校等の授業支援と映像制作の実践学習の概要
10	映像制作支援活動の実際	小中高校等の授業支援と映像制作の実践の実際
11	映像制作支援活動の展開	小中高校等の授業支援と映像制作の実践の展開
12	被災地取材の概要	被災地取材に関する基礎知識の解説
13	被災地取材の計画	被災地取材の計画立案
14	被災地取材の準備	被災地の取材の準備と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。夏合宿は福島で取材活動を行う。なお、秋学期（演習）に予定されている海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014 年

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
★新型コロナ対応のため、評価方法の詳細は授業の中で伝えます。
平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %
授業評価基準（ルーブリック）
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的 (グローバル) な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4 段階）
1 8割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4 段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4 段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4 段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4 段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働 (コラボレーション) を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
自ら学習到達度を確認し、学習課題の自己理解を深めるために、HOPS(e ポートフォリオ) を積極的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】
①演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期）、「卒業論文」（4 年）
②次の授業の履修を推奨する。
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】
To learn the basics of citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

坂本　旬

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市民メディアと異文化探究学習の実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを用い、実践的な異文化交流・協働を実施する。

【到達目標】
・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
・メディア・リテラシーを用いた探究学習を行う。
・メディア・リテラシーを用いて異文化交流・協働を実行する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①小中高校で実施する文化探究・異文化交流学習の支援
②カンボジア・メコン大学の大学生との映像の協働制作（課外活動）
③カンボジアの小学校での異文化交流学習支援（課外活動）
④被災地等への取材と映像制作
⑤授業は5限と6限を連続して行うことを原則とするため、他の授業をいれないこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	取材活動と映像制作の計画	被災地の取材映像の編集計画
3	取材活動と映像制作の実際	被災地の取材映像編集の実際
4	取材活動と映像制作の発展	被災地の取材映像編集の発展
5	取材活動と映像の発信	被災地の取材映像の完成と発信
6	発展途上国研修のための基礎学習 1	カンボジアの地理と歴史
7	発展途上国研修のための基礎学習 2	カンボジアの生活と教育環境
8	発展途上国研修のための基礎学習 3	カンボジアの文化と言語
9	発展途上国研修のための発展学習 1	カンボジアでの映像制作の概要
10	発展途上国研修のための発展学習 2	カンボジアでの映像制作の計画
11	発展途上国研修のための発展学習 3	カンボジアでの映像制作の実際
12	発展途上国研修のための発展学習 4	カンボジアの学生との交流の方法と実際
13	発展途上国研修の準備	カンボジアでの研修の準備と確認
14	発展途上国研修の振り返りとまとめ	学生研究発表会に向けた映像制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学外小中高校での授業支援、映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。なお、海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局 (2014 年)

【参考書】
特に定めない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %
授業評価基準（ルーブリック）
●コンピテンシー
多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的 (グローバル) な異文化対話の発に対して、自覚的に寄与することができる。
●受講態度（4 段階）
1 8割以上ゼミに出席している。
2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
●映像制作態度（4 段階）
1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。
●映像制作技術（4 段階）
1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
2 ビデオカメラを使って、カメラワー クを意識した撮影ができる。
3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。
4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。
●ファシリテーション（4 段階）
1 小中高校の授業支援に参加する。
2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。
●異文化対話（4 段階）
1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
4 異文化を越えた協働 (コラボレーション) を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】
自ら学習到達度を確認し、学習課題の自己理解を深めるために、HOPS(e ポートフォリオ) を積極的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】
①演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン総合演習」
「キャリアデザイン学演習」(4 年生)
②また、次の授業の履修を推奨する。
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」(坂本担当)、「地域学習支援Ⅱ」(コミュニティ・メディア)

【Outline and objectives】
To explore citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

笹川　孝一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人物研究を通してキャリアデザインと生涯学習の有効性を考える②
～エゴイズムと自己表現②
キャリアデザインの過程では、チャレンジ、環境変化、突発的できごとなどによる「挫折」とそこからの立ち直りが必ず付いて回る。
そこで、この授業では、具体的な人物に即して、とくに、「挫折 → 立ち直り」「自己表現の変化」過程に焦点をあてて研究する。
それを通して、キャリアデザインと生涯学習の有効性について考える。
また、その結果として、自分自身のキャリアデザインと生涯学習能力を高めることができる。

【到達目標】
到達目標：
1)　福沢諭吉に即して、キャリアデザイン学における人物研究の方法を学ぶ。
2)　3 年生は、各人が推薦する自伝や伝記を素材にして、人物研究の方法を深める。
3)　4 年生は、卒業論文の作成を軌道に乗せる。
4)　中間まとめ合宿を経て、レポート集の企画、編集、印刷、製本、合評を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1)　授業の進め方と研究方法について、教員が講義し、全体で協議、確認する。
2)　福沢諭吉とフランクリンにそくして、研究方法を深める。
3)　「福沢諭吉　大分ツアー（フィールドワーク）」などを実施する。
4)　夏休み合宿（２泊３日）を実施する。
5)　学生によるグループワークと教員による個人面談を必要に応じて実施する。
6)　研究対象を選び、自分のテーマ設定、調査研究を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のテーマと進め方の説明	授業内容と進め方、ゼミの係り分担、スケジュール等を協議確認する。
2	福沢諭吉地方ツアーと卒業論文の準備確認	前年度から準備してきた地方ツアーの準備状況の確認と、『福翁自伝』『学問のすすめ』『蘭学事始』など必要な文献の理解を行う。 4 年生は、卒業論文の執筆計画に着手する。
3	地方ツアーの準備と卒業論文構想の発表①	地方ツアーの準備を行う。 卒業論文構想の発表を行う。
4	地方ツアーの準備と卒業論文構想の発表②	地方ツアーの準備を行う。 卒業論文構想の発表を行う。 （続き）
5	地方ツアーの準備と卒業論文構想の発表③	グループワークとディスカッション
6	地方ツアー準備の点検①	予算決定、チーム編成と確認、訪問先との連絡調整、移動手段と宿泊先の確保、タイムテーブル、役割分担決定、工程表と栞の作成等を行う。
7	地方ツアー準備の点検②	前回の続き 栞の完成 直前打ち合わせ
8	地方ツアーの振り返り①	実施した地方ツアーの振り返りと発表を行う。
9	地方ツアーの振り返り②	前回の続き
10	卒論進捗状況の発表①	卒論の進捗状況を発表する グループワークを行う
11	卒論進捗状況の発表②	前回に続き
12	まとめの会と夏の課題を検討する①	まとめの会と夏合宿の準備を行う
13	まとめの会と夏の課題を検討する②	前回の続き
14	春学期の振り返りとまとめの会	春学期のまとめの会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考文献を読んでおくこと
レポート集の作成
フィールドワークの準備にかんする分担と協力
学生研究発表会の準備
新３年セミナーの実施
卒業生との交流
パーティー実習の企画と実施本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一監訳『現代語対訳「学問のすすめ」』泉文堂
笹川「キャリアデザイン学における人物研究の意義と方法について～福沢諭吉にそくして～」

【参考書】
福沢諭吉『福翁自伝』岩波文庫
笹川孝一「福沢諭吉の著作における『学問のすすめ』の位置について」
笹川『学問のすすめに』成立における中津時代の意義について」小泉信三『福沢諭吉』岩波新書
杉田玄白『蘭学事始』岩波文庫
平川祐弘『進歩がまだ希望であった頃～フランクリンと福沢諭吉～』講談社学術文庫他

【成績評価の方法と基準】
ゼミにおける積極的参加（40 %）
ゼミ報告の十分な準備（10 %）
フィールドワーク、合宿、レポート集作成、学生研究発表会、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）
レポートの内容と形式（30 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・人物選定にあたっての十分な面談
・調査研究能力向上
・とくに学術文献検索の方法
・レポート添削
以上の指導を向上させたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ワード、パワーポイント、エクセル、プロジェクター操作、ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】
・学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。
・学生側のいっそうの努力を呼びかけたい。

【その他】
時代や地域についての想像力をもって、授業に参加してほしい。

【Outline and objectives】
On Career Design by Biography Studies ②

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

笹川　孝一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人物研究を通してキャリアデザインと生涯学習の有効性を考える③
～自己表現とエゴイズム③
キャリアデザインの過程では、チャレンジ、環境変化、突発的できごとなどによる「挫折」とそこからの立ち直りが必ず付いて回る。
そこで、この授業では、具体的な人物に即して、とくに、「挫折 → 立ち直り」「自己表現の変化」過程に焦点をあてて研究する。
それを通して、キャリアデザインと生涯学習の有効性について考える。
また、その結果として、自分自身のキャリアデザインと生涯学習能力を高めることができる。

【到達目標】
1)　福沢諭吉に即して、文献とフィールドワークの両面から、人物のキャリア研究の方法を学ぶ。
2)　具体的な人物に即して、研究を深める。
3)　2 年生とともに、人物研究の方法について、基礎的な事柄を確認する。
4)　年度のまとめのレポート集（電子版）を、各学年ごとに作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1)　ゼミ選択決定後、3・4 年生による「2 年生セミナー」を実施し、ゼミのコンセプト、内容・方法、係り分担、年間スケジュール等に関する、ガイダンスを行う。
2)　具体的な授業の進め方と研究方法については、教員が提案し、全体で協議、確認する。
3)　授業は 2〜4 年生合同で行うことを基本とし、経験の継承＝ゼミ内のピアサポートを大切にする。必要に応じて、2 年、3 年、4 年のそれぞれに応じた内容に即して行う。
4)　福沢諭吉にそくして、研究方法を習得する。具体的には、
①関連する基本文献を読み、小レポートとパワーポイントによる発表と意見交換を行い、文献の調査・読み方、プレゼンテーション方法、意見交換の方法を習得する。
②「福沢諭吉　都内ツアーⅠ」（2・3 年生）を行い、現地調査の手法を習得する。
5)　各自が推薦する自伝・伝記を紹介し合い、分析方法や分析結果について、意見交換する。
6)　1 月に卒業論文発表会を開く。
7)　3 年生、4 年生は学生研究発表会で発表する。
8)　年度末に、レポート集（電子版）を作成する。
9)　教員による個人面談を各学期ごとに、また必要に応じて行う。
10)　日常的なゼミへの卒業生の参加、および卒業生組織である「笹川ゼミ同窓会」の研究会等への現役ゼミ生の参加により、キャリアデザインの実際について、広く学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業の内容と進め方の検討	授業内容と進め方、ゼミの係り分担、スケジュール等を協議確認する。大分ツアーと卒論合宿準備等は、これ以後随時取り上げる。
2	夏の課題検討①（人物研究と自分研究）その１	夏の課題のうち、『福翁自伝』について、分担発表し、検討する。
3	夏の課題検討②（人物研究と自分研究）その２	上記の課題を継続する。
4	夏の課題検討③（人物研究と自分研究）その３	一人ひとりの発表を踏まえて、グループワークと発表を行い、自分研究と人物研究との関係について、全体討議を行う。
5	卒論中間発表①	４年生の卒論中間発表を一人ずつ行い、2-3 年生は卒業論文のイメージを作る。
6	卒論中間発表②	上記の作業を継続する。
7	夏の課題検討④（人物研究と自分研究）その４	夏の課題である『蘭学事始』と『学問のすすめ』初編、２編「端書」について、一人ひとりのレポートに即して検討する。
8	夏の課題検討⑤（人物研究と自分研究）その５	上記の課題を継続する。
9	フィールドワークと文献調査の結び付け方の検討	前年度の実施経験を踏まえながら、「福沢　都内ツアー」2・3 年）の計画を検討する。
10	「都内」「横浜」「卒論」等の振り返り。その１	都内ツアー、横浜ツアーをふりかえり、卒論進捗状況を共有して、レポート集の内容を決定し、作成、パーティー実習準備に取り掛かる。
11	「都内」「卒論」等の振り返り。その２	卒論完成までの課題を確認する。
12	私の推薦する自伝・伝記	２・３年生が、それぞれ、推薦する自伝・伝記を紹介し、意見交換する。
13	パーティー実習	中間まとめレポートと卒論を踏まえ、それを報告するパーティー実習を開き、ゼミの先輩たちからコメントをもらう。
14	学生研究会準備	①卒論発表会と学生研究発表会の準備を開始し、②レポート集（電子版）作成、③４年生修了式、④新３年生セミナー、⑤３年生の地方（大分、長崎、大阪など）福沢ツアー等の計画を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考文献を読んでおくこと
レポート集の作成
フィールドワークの準備にかんする分担と協力
学生研究発表会の準備
２年セミナーの実施
卒業生との交流
パーティー実習の企画と実施本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川孝一監訳『現代語対訳　「学問のすすめ」』泉文堂
笹川「キャリアデザイン学における人物研究の意義と方法について～福沢諭吉にそくして～」

【参考書】
福沢諭吉『福翁自伝岩』岩波文庫
笹川孝一「福沢諭吉の著作における『学問のすすめ』の位置について」
笹川『学問のすすめに』成立における中津時代の意義について」小泉信三『福沢諭吉』岩波新書
杉田玄白『蘭学事始』岩波文庫
平川祐弘『進歩がフランクリンまだ希望であった頃～フランクリンと福沢諭吉～』講談社学術文庫
ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】
ゼミにおける積極的参加（40 %）
ゼミ報告の十分な準備（10 %）
フィールドワーク、合宿、レポート集作成、学生研究発表会、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）
レポートの内容と形式（30 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・人物選定にあたっての十分な面談
・調査研究能力向上
・とくに学術文献検索の方法
・レポート添削
以上の指導を向上させたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ワード、パワーポイント、エクセル
・プロジェクター操作
・ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】
・学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。
・学生側のいっそうの努力を呼びかけたい。

【Outline and objectives】
On Career Design by Biography Studies ③

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

高野　良一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「対話を重視し、社会的及びアカデミックなスキルを形成しながら、教育文化施設の現場やプロフェッショナルから学ぶ」が、テーマです。春学期は、いくつかの現場やプロフェッショナルを訪ねる機会も作りますが、基本的な文献や資料を読み、受講生相互の知識の共有と対話力の形成を重視します。

【到達目標】
社会的な能力及びスキルを自ら省察する力を養うとともに、アカデミック・スキルの形成を図ります。アカデミック・スキルとは、「読む、調べる、聞く、話し合う、書く」という技能です。これらのスキルは、間近に控えた就活や将来の職業生活の土台となるものです。特に、高野ゼミでは、現場に出かけて調べる、事前事後に話し合い、書くことを重視しています。言い換えれば、ひとりひとりが、そしてゼミとして協同で、プロジェクトを企画し実施する能力を形成することがテーマとなります。「プロジェクト企画・実施力」こそ、将来の職業生活のために必要な力と考えるからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、文献を手がかりにして、まず、ゼミの場づくりとも関わる社会的能力とそのスキルについて学び、次に PBL の基本を確認し、そして、学習環境デザインの基本を学びます。また、個人のプロジェクトを発表し、その相互批評もおこないます。さらに、秋学期に向けた協働プロジェクトの企画立案も話し合います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの趣旨説明や進め方の議論
2	プロジェクト学習成果発表会	3,4 年生の継続テーマの報告と相互交流
3	プロジェクトの基本設計ブレーンストーミング	夏休み、秋学期の協働プロジェクトを視野に入れた計画づくり
4	自らの社会的能力と認知を省察する（1）	『直感と論理をつなぐ思考法』の協働の講読と省察
5	自らの社会的能力と認知を省察する（2）	『直感と論理をつなぐ思考法』の協働の講読と省察（続）
6	春学期プロジェクトの実施設計	現地研究の候補地の絞り込み
7	PBL の技法を磨く（1）	『プロジェクト学習の基本と手法』を再読（2，3 章）
8	PBL の技法を磨く（2）	『プロジェクト学習の基本と手法』（4 章）を再読し、個人 PBL を見直す
9	PBL の技法を磨く（3）	『プロジェクト学習の基本と手法』を再読（6 章）し、個人 PBL を書き直す
10	協働プロジェクト実施：春学期の現地研究	教育文化施設か特色ある学校を訪問
11	学習環境デザインを知る（1）	『対話をデザインする』の協働講読
12	学習環境デザインを知る（2）	『対話をデザインする』の協働講読（続）
13	４年生の個人プロジェクト発表	卒論企画書の発表と討論
14	３年生の個人プロジェクト発表	学習企画書の発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミは正規外の時間にも自主ゼミとしておこなわれます。学外にも一緒に出かけて、多様な文化的な営みに参加することと、個人発表のための準備を重視します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐宗邦威『直感と論理をつなぐ思考法』ダイヤモンド社
鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
細川英雄『対話をデザインする』ちくま新書

【参考書】
授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
個人及び共同の文献発表とグループワークが 30 %、協働プロジェクト（PBL）への参加と貢献が 30 %、個人 PBL プロジェクトの中間報告書とその発表が 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
今年も、知的興味・意欲への刺激、スキル形成、思考力と判断力の育成に努めたゼミをみんなで創りたい。

【Outline and objectives】
The obective of this seminar is for students to build the framework of knowledges and to train intellectual skills through the practices and dialogues among them. For achieving it they must plan,do and relfect on-site researches and hearings to the professionals with elder students of the seminar

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

高野　良一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「対話を重視し、社会的及びアカデミックなスキルを形成しながら、教育文化施設の現場とプロフェッショナルから学ぶ」が、テーマです。秋学期は、例年どおり、現地調査研究と教育関係プロフェッショナルの聞き取り調査が主になります。

【到達目標】
社会的な能力及びスキルを自ら省察する力を養うとともに、アカデミック・スキルの形成を図ります。アカデミック・スキルとは、「読む、調べる、聞く、話し合う、書く」という技能です。これらのスキルは、間近に控えた就活や将来の職業生活の土台となるものです。特に、高野ゼミでは、現場に出かけて調べる、事前事後に話し合う、書くことを重視しています。言い換えれば、ひとりひとりが、そしてゼミとして集団で、2種のプロジェクトを企画し実施する能力を形成することが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
夏合宿を踏まえて、「現地研究」と「プロフェッショナル論」(通称、プロ論）の企画案の策定、そのための資料や文献の学習、企画の実施と反省を、いわばPDCA サイクルとして進めます。こうした協働（共同）プロジェクトと並行して、卒論も含む個人のプロジェクトもチェックポイントを設定して進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期ゼミの進め方	協働プロジェクトの企画を中心としたスケジューリング
2	個人プロジェクトの中間発表	夏休みのプロジェクト学習の相互交流
3	社会的及び認知的能力を考える（1）	今年度の文献は合議して決定
4	社会的及び認知的能力を考える（2）	合議して決定し文献講読の２回目
5	協働プロジェクトAの企画・準備（1）	「プロ論」企画の打ち合わせ
6	協働プロジェクトAの実施	「プロ論」企画の実施とふり返り
7	協働プロジェクト B の企画・準備（1）	「現地研究」プロジェクト１の打ち合わせ
8	協働プロジェクト B の企画・準備（2）	「現地研究」プロジェクト１の打ち合わせ
9	協働プロジェクト B の実施	「現地研究」プロジェクト１の実施とふり返り
10	4 年生卒論最終経過報告会	個人報告と質疑
11	4 年生卒論最終経過報告会 (続)	個人報告と質疑
12	3 年生 PBL 経過報告会	個人報告と質疑
13	PBL 技法を再確認する	鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』第 3,4 章を中心に
14	協働プロジェクト C の準備	秋学期修了後の実施プロジェクト C の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミは正規外の時間にも自主ゼミとしておこなわれます。これらへの参加と、個人と協働のプロジェクトのための準備を重視します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
秋学期のはじめに、合議を経て決定します。

【参考書】
鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
ティム・ブラウン『デザイン思考が世界を変える』早川書房
そのほか適宜、必要に応じて示します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の個人及び共同の文献・資料発表が 20 %、「現地研究」等の協働プロジェクトへの貢献が 30 %、個人 PBL レポート作成及びその発表が 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
今年も、知的興味・意欲への刺激、スキル形成、思考力と判断力の育成に努めたゼミをみんなで創りたい。

【Outline and objectives】
The obective of this seminar is for students to build the framework of knowledges and to train intellectual skills through the practices and dialogues among them. For achieving it they must plan,do and relfect on-site researches and hearings to the professionals with elder students of the seminar.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

田澤　実

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインに関連した先行研究の基本的な原理を学ぶ。また、口頭発表および自己調整的な学習習慣のスキルの獲得も目指す。

【到達目標】
・自ら研究を深めたいと思うようなテーマを探るために、関心事に関連した社会現象や政策・施策等について基本的な知識を得るための方法を知っている。
・上記で得た知識を総合的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【集団で話し合うためのスキル】
・実演を通してワークショップの進め方を理解する。
【自らの研究テーマ】
自分が関心のある新聞記事を発表する。図書館の端末やスマートフォンを活用しながら「いかにして関心のあるテーマの最新ニュースを集めるのか」という方法についても学ぶ。この発表を参考にしながら、教員がそのゼミ生の関心事についての発表資料を決める。ゼミ生はそれぞれ自分の関心事に近いテーマの資料で発表し、それについてゼミ生間でディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業の流れを説明する。
第 2 回	集団で話し合うためのスキル（1）	ワークショップの進め方について理解する。
第 3 回	集団で話し合うためのスキル（2）	ワークショップを実演する。
第 4 回	写真を用いた自己紹介（1）	自分らしいと思われる過去・現在・未来の写真を撮影して、まとめる。
第 5 回	写真を用いた自己紹介（2）	上記を基にしてプレゼンテーションをする。
第 6 回	情報収集のスキル（1）	新聞記事の情報の集め方を身につける。
第 7 回	情報収集のスキル（2）	集めた新聞記事を発表する。自らの関心事を探る。
第 8 回	文献購読（1）	自らの関心事にあわせて担当文献を決める。
第 9 回	文献購読（2）	文献の内容を発表する。
第 10 回	文献購読（3）	内容に基づいた疑問や論点を整理する。
第 11 回	文献購読（4）	論点を基にしてディスカッションする。
第 12 回	文献購読（5）	今までに発表した文献と文献のつながりについて考察する。
第 13 回	文献購読（6）	上記の論点を整理し、ディスカッションする。
第 14 回	まとめ	演習での学びを振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメによる報告を求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】
レポート（5 割）、積極的参加（5 割）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
集団で話し合うためのスキルを学んだあとに、自らの研究テーマを探る流れは好評であった。今年度も継続することにする。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で授業を行う回がある。

【その他】
ホームページの参考のこと
【田澤実研究室】
http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/lab/

【履修推奨科目（３年秋学期までに履修すべき科目）】
教育心理学

【履修推奨科目（授業に関連する可能性が高い科目）】
生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ、教育相談、職業選択論Ⅰ・Ⅱ、キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ・Ⅲ（ケーススタディ）、学校論Ⅲ（キャリア教育論Ⅰ）、キャリア研究調査法（量的調査）

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts of career studies. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and self-regulated learning.

EDU200MA
演習（発達・教育）3・4 年生（春）

田澤　実

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯発達心理学や教育心理学の観点から「問い」を探求する。アカデミックライティング，心理学に基づいた引用表記および研究方法の基礎について学ぶ。

【到達目標】
・キーワード検索を用いて、先行研究を探すことができる。
・Excel を使って数値データから視覚的に理解しやすい図表を作成できる。
・それらの図表から読み取れることを解釈し、他者に説明できる。
・問題と目的、方法、結果、考察という一連の論文の書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習および授業内での発表。
■3 年次
・数グループに分かれて、調査を行う対象者を決定。
・その対象者には現在、どのような問題が起こっているのか先行研究を探す。
・グループごとに、その対象者にアンケートやインタビューを行い、分析。
・グループごとに最終レポートを作成。
■4 年次
・各自テーマを深めて卒論に取り組む。
・自分でデータを収集することが必須である。必要に応じて統計分析の仕方も教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キックオフミーティング	到達目標を共有する。
第 2 回	卒論関心発表（1）	卒論の関心に関連するキーワードを探る。
第 3 回	卒論関心発表（2）	キーワード検索を用いて、先行研究を探した結果を報告する。
第 4 回	共同調査（1）	共同研究で扱うテーマについて議論する。
第 5 回	共同調査（2）	共同研究のテーマのキーワードを探る。
第 6 回	共同調査（3）	キーワード検索を用いて、先行研究を探して、まとめる。
第 7 回	共同調査（4）	共同研究で扱うデータを収集する。
第 8 回	共同調査（5）	収集したデータを分析する。
第 9 回	共同調査（6）	データを解釈して、どのような図表にまとめて表現するか考える。
第 10 回	共同調査（7）	グループ内で結果の解釈について議論する。
第 11 回	共同調査（8）	結果について本文で記述する。
第 12 回	共同調査（9）	得られた結果と先行研究の対比をする。考察を深める。
第 13 回	共同調査（10）	問題と目的、方法、結果、考察という一連の流れで書く。
第 14 回	卒論中間発表	予備調査の計画を含めて卒論の中間発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
年に数度の課題がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
文献の探し方@法政大学
http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/ref/

【成績評価の方法と基準】
課題（6 割）、積極的参加（4 割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のアンケート結果はおおむね好評であった。4 月の最初の授業で改めて意見を聞く。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を利用する回がある。

【Outline and objectives】
This course introduces academic writing, APA citation style and the fundamentals of academic research to students taking this course.

EDU200MA
演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

田澤　実

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ論および卒業論文を完成させる。

【到達目標】
授業終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とする。
・重要な理論と方法論を説明できる
・重要な研究成果について，その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習および授業内での発表。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール、課題、発表順などを確認する。
第 2 回	3年生関心発表（1）	個人の関心事を発表する。
第 3 回	3年生関心発表（2）	先行研究を探すためのキーワードを探る。
第 4 回	文献の探し方	キーワードから先行研究を探す技法を紹介する。
第 5 回	4年生中間発表（1）	卒業論文の中間発表を行う。
第 6 回	4年生中間発表（2）	予備調査の結果について考察を加える。
第 7 回	4年生中間発表（3）	本調査を視野に入れて全体の構成を検討する。
第 8 回	3年生中間発表（1）	なぜそのテーマを扱う意義があるのか。イントロダクションに該当する文言を考える。
第 9 回	3年生中間発表（2）	そのテーマはどこまでのことが明らかになっているのか概観する。
第 10 回	3年生中間発表（3）	先行研究の問題点およびまだ明らかになっていない点を探る。
第 11 回	3年生中間発表（4）	上記の問題点に対して代案を示す。文献レビューのオリジナリティーを探る。
第 12 回	3年生中間発表（5）	上記までの流れを精緻化する。およその章立てを確定する。
第 13 回	図表のまとめ方	視覚的に理解しやすい図表の作成方法を紹介する。
第 14 回	4年生卒論発表	卒論の要旨を報告する。質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読み込む作業や調査の実施。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】
課題（6 割）、積極的参加（4 割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
計画上は現状維持とした。ゼミの進行については必要に応じて話し合いの時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を利用する回がある。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
・Describe and explain major methods and theories,
・Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

筒井　美紀

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文完成をゴールに、＜学術論文７つの構成要素＞という基本中の基本である作法をマスターしたうえで、現時点での卒論構想（プロポーザル）を書いてみる。

【到達目標】
世の中にはさまざまなタイプ・レベルの論文がある。その良しあしを見抜く眼力を磨くこと。論文の名に値する論文には、この７つが入っている――それが＜学術論文７つの構成要素＞だ。そのうえで、自分でも卒論構想を書いてみて、自分は何にパッションがあるのか、本当に研究したいことは何か、これからどんな本を読み、何を対象にしたらよいのか――などなど悩みぬくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミ生の問題関心（入ゼミ時の志望理由書に書かれたこと）に基づき、筒井が論文をピックアップし、毎回みんなで検討する。報告者は毎回２名だが、全員が要約とコメントを書いてくること。議論はゼミ生に「お任せ」、筒井は最後に２０分程度解説するのみ。授業終了時に、全員に添削済みを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方、ミニ・レクチャー＜学術論文７つの構成要素＞
2	聴き取り・観察調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
3	聴き取り・観察調査の論文を検討する②	議論を中心とする
4	量的調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
5	量的調査の論文を検討する②	議論を中心とする
6	歴史的調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
7	歴史的調査の論文を検討する②	議論を中心とする
8	黒川（2018）その①	周辺リサーチによって対象を特定する
9	黒川（2018）その②	記述から「出来事・行為年表」を再構成する
10	黒川（2018）その③	出来事・行為を社会的文脈化する
11	黒川（2018）その④	学術論文たるには何が足りないか
12	卒論構想発表①	３人報告（３班に分かれて）
13	卒論構想発表②	３人報告（３班に分かれて）
14	春休みの文献研究計画の発表	読み込む予定の先行研究について報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回議論する文献について、要約とコメントを書いてくること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
入ゼミ生の関心に合わせて選択します。

【参考書】
適時指示。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出の要約・コメント：４０％　ゼミでの議論：４０％　卒論構想発表＆春休みの研究計画：２０％

【学生の意見等からの気づき】
５限と６限の間の「ライトミールの買い出し」好評につき継続します。

【その他の重要事項】
５・６限全体が「筒井ゼミ」なので、２年生は両方出席のこと

【Outline and objectives】
In order to write a sociological graduation thesis, the students are master the < the seven components of academic paper > , the basic skill, and theh to wtite a provisional proposal for it.

EDU200MA

演習（発達・教育）３・４ 年生（春）

筒井　美紀

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？ 「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ ――などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒ 大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記５領域の少なくともいずれか 1 つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】
筒井ゼミでは２年間かけて卒業論文を完成してゆく。３年生春学期では、その土台部分を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
２年生秋学期・春休みの進捗を踏まえて卒論テーマを決め、卒論構想発表をする。そのうえで、具体的に研究を進め、先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春休みの進捗報告①	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
2	春休みの進捗報告②	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
3	春休みの進捗報告③	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
4	春休みの進捗報告④	２人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
5	卒論構想発表①	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
6	卒論構想発表②	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
7	卒論構想発表③	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
8	卒論構想発表④	＜学術論文７つの構成要素＞の（１）〜（５）に沿って書いてくる
9	卒論進捗報告①	２人ずつ報告
10	卒論進捗報告②	２人ずつ報告
11	卒論進捗報告③	２人ずつ報告
12	卒論進捗報告④	２人ずつ報告
13	卒論進捗報告⑤	２人ずつ報告
14	卒論進捗報告⑥	２人ずつ報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論研究に必要なすべてのことを行なう本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼” を養う！）。もちろん、助言はする。

【参考書】
適宜助言

【成績評価の方法と基準】
発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献）50 %

【学生の意見等からの気づき】
５・６限の間の「ライトミールの買い出し」好評につき続けます。

【Outline and objectives】
Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy

Why are people likely to expect edcation to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person dwvelop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distantce to the residents is shorter." Is it true? —- In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analize data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

筒井　美紀

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？ 「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ ——などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記５領域の少なくともいずれか１つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】
筒井ゼミでは２年間かけて卒業論文を完成してゆく。３年生秋学期では、各自具体的に研究を進めてゆく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
夏休みの進捗を踏まえて、引き続きどんどん進める。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休みの進捗報告①	２人ずつ、行なった作業について報告
2	夏休みの進捗報告②	２人ずつ、行なった作業について報告
3	夏休みの進捗報告③	２人ずつ、行なった作業について報告
4	夏休みの進捗報告④	２人ずつ、行なった作業について報告
5	卒論進捗報告①	２人ずつ報告
6	卒論進捗報告②	２人ずつ報告
7	卒論進捗報告③	２人ずつ報告
8	卒論進捗報告④	２人ずつ報告
9	卒論進捗報告⑤	２人ずつ報告
10	卒論進捗報告⑥	２人ずつ報告
11	卒論進捗報告⑦	２人ずつ報告
12	卒論進捗報告⑧	２人ずつ報告
13	卒論進捗報告⑨	２人ずつ報告
14	卒論進捗報告⑩	２人ずつ報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論研究に必要なすべてのことを行なう本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼” を養う！）。もちろん、助言はする。

【参考書】
適宜助言

【成績評価の方法と基準】
発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献）50 %

【学生の意見等からの気づき】
５・６限の間の「軽い夕飯の買い出し」好評につき続けます。

【Outline and objectives】
Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy
Why are people likely to expect edcation to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person dwvelop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distantce to the residents is shorter." Is it true? —- In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analize data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

寺崎　里水

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマを見つけるために、社会認識をつくるための力を身につけます。スキルとしては、文献の探し方、データの読み方、情報のまとめ方、プレゼンの仕方といったことを身につけます。
勉強ができる、成績が良い、頭がいい、いい人、地頭がよい、先生からの評価が高いなど、学校や社会でよいパフォーマンスを示す人を指すことばはたくさんあります。自分はいったいどういうふうになりたいのか、興味関心のあるテーマを探しながら、かつアカデミック・スキルを身につけながら、自分自身の社会への位置づき方を考えていきましょう。

【到達目標】
世の中の出来事が自分とどのようにつながっているのかが実感できるようになること、自分の身の回りの出来事を、ある学説や理論に則って、専門用語を使いながら説明しようと試みるようになることを目標とします。
人に説得的に自分の意見を説明できる、人の発表に対して建設的な意見を言える、質の良いディスカッションができるようにファシリテイトするといった技術についても学びます。人の能力の発揮の仕方にはいろいろなタイプがありますので、いろいろな活動を経験して、自分がどんなことが得意なのか、自分のつよみを理解してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
論文講読、ワークショップをもとに、ディスカッション形式で行います。
あらかじめ与えられたテーマや課題について取り組む力よりも、自分自身でテーマを設定し、課題を発見して取り組む力を重視します。そのためのサポートをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アイスブレーキング。 ゼミの進め方。 ゼミでのルールの確認。
第 2 回	プレゼンテーションの種類と方法	レジュメをつくる、パワポをつくる、ポスターをつくる、論文を書くといった方法について、それぞれの特性と作法を学ぶ。
第 3 回	文献を読む-学力論①	学歴をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 4 回	文献を読む-学力論②	学力や階層格差をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 5 回	ディスカッション	学力論の２本の論文を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 6 回	文献を読む-ジェンダー①	ジェンダーとはなにかについて、最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 7 回	文献を読む-ジェンダー②	差別とジェンダーについて扱った文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 8 回	ディスカッション	ジェンダーに関する２つの文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 9 回	文献を読む-家族①	家族と子供の教育をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 10 回	文献を読む-家族②	近代家族をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 11 回	ディスカッション	文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 12 回	自らの問題関心を明確にする	これから考えたいことを人に説明する。
第 13 回	文献リストをつくる	情報を収集して、自らのテーマに基づく文献リストをつくる。その方法を学ぶ。
第 14 回	まとめ	情報を収集し、知識や語彙を増やしていく方法について、具体的に学ぶ。 課題レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献の講読、プレゼンの準備を必ず行うこと。自らのテーマについて考えるためにも、ニュースを見る、映画を見る、本や漫画を読む、旅行に行く、コンサートに行く、筋トレするなど、積極的な活動を行って、経験の幅をひろげること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの出来 30 %、提出物 30 %、授業への貢献 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムをチェックできる機器を自分で用意すること。

【その他の重要事項】
とくになし

【Outline and objectives】
It is a small seminar that learns about education, social strata, and gender issues.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

寺崎　里水

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマに基づき、質的、量的いずれかの調査を実施し、関連文献を講読し、卒業論文執筆を進めます。

【到達目標】
自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。
その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果を学習支援システムの課題提出機能を用いて提出します。
また、授業内掲示板を用いて議論を深めます。
初回授業は４月２２日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 ２月、３月中の課題の回収、講評。
第 2 回	方法論を学ぶ①	問いをたてるということについて学ぶ。
第 3 回	方法論を学ぶ②	仮説をたて、調査計画を練る方法について学ぶ。
第 4 回	方法論を学ぶ③	フィールドワークについて学ぶ。
第 5 回	テーマの検討①	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 6 回	文献を読む①	学校観察をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 7 回	文献を読む②	インタビューをもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 8 回	文献を読む③	雑誌分析をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 9 回	テーマの検討②	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 12 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 13 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第 14 回	まとめ	ディスカッションを行い、最終レポート執筆作業をすすめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
大谷信介ほか 2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
石川淳志ほか 1998『見えないものを見る力』八千代出版
佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社

【成績評価の方法と基準】
授業内掲示板での発言 30 %、読書ノート 10 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【Outline and objectives】
It is a small seminar dealing with issues of education, social class, gender. We may conduct qualitative surveys or quantitative surveys.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

寺崎　里水

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味関心のあるテーマに基づき、文献講読および卒業論文執筆を進めます。
また、それとは別に、社会の出来事と大学の学びとを結びつける活動として、合宿や学外のセミナー、シンポジウムなどの機会を積極的に利用します。

【到達目標】
自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。
その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 夏休み中の課題の回収、講評。合宿の振り返り。
第 2 回	合宿報告	合宿の活動成果について報告し、レポートの執筆分担などを決める。
第 3 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 4 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 5 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 6 回	文献を読む①教育領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 7 回	文献を読む②心理領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 8 回	文献を読む③その他の領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 9 回	個人研究発表④	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表⑤	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表⑥	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 12 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第 13 回	レポート執筆準備	最終レポート提出にむけ、ディスカッションを行い、執筆作業をすすめる。
第 14 回	まとめ	卒論構想発表に向けて、プレゼンの練習をする。 最終レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
授業中の発言、発表、レジュメの出来 30 %、読書ノート 10 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【Outline and objectives】
It is a seminar that discusses social issues such as education, social stratum, gender, etc.

EDU200MA

演習（発達・教育）２年生

廣川　進

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私の専門分野の臨床心理学とキャリアカウンセリングのみならず、幅広い視点から興味関心あるテーマを調べ、レポートを書き、発表し、討議する力を身につけます。これまでに取り上げたテーマの例は家族、愛着障害、承認欲求、自己肯定感、モチベーションなどです。

【到達目標】
・興味関心のあるテーマについて自分なりに調べる方法を身につける。
・調べたことのレジュメ、レポート、プレゼンができる。
・授業で聞く、話す、話し合う力がつく。
・インタビュー調査の実施・考察・文章化の一連の過程を体験し質的方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本は演習形式で学生が調べてきたことを発表し、討議します。
身近な人へのインタビュー、逐語録作成、質的分析までを体験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方 担当者決め
2	インタビューの方法	インタビュー調査のための講義
3	課題図書のレポートと討議１	担当者のレジュメをもとにしたグループ討議
4	課題図書のレポートと討議２	担当者のレジュメをもとにしたグループ討議
5	課題図書のレポートと討議３	担当者のレジュメをもとにしたグループ討議
6	インタビュー調査１	ゼミの学生同士でインタビューを取り合う
7	インタビュー調査２	逐語録をもとに分析する
8	インタビュー調査３	逐語録をもとに分析する
9	インタビュー調査の発表１	インタビュー調査の結果考察を発表する
10	インタビュー調査の発表２	インタビュー調査の結果考察を発表する
11	インタビュー調査の発表３	インタビュー調査の結果考察を発表する
12	卒論テーマにむけての発表１	現在、興味関心あるテーマから卒論テーマにつなぐプレゼン
13	卒論テーマにむけての発表２	現在、興味関心あるテーマから卒論テーマにつなぐプレゼン
14	卒論テーマにむけての発表３	現在、興味関心あるテーマから卒論テーマにつなぐプレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書については、レジュメ担当者はもとより全員が事前に読んで授業に望むこと。
宿題としては身近な人へのインタビュー調査（１時間程度）を各自が授業時間以外に行なう。その録音データをもとに逐語録を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜、指示します

【参考書】
生きる意味　上田紀行　岩波新書
認められたいの正体　山竹伸二　講談社現代新書
愛着障害　子ども時代を引きずる人びと　岡田尊司　光文社新書
母という病　岡田尊司　ポプラ新書
発想法　川喜田二郎　中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点　授業中の積極的参加　50 %
発表　20 %
期末レポート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【Outline and objectives】
Examples of themes we've covered so far are family, attachment disorders, self-esteem needs, and motivation.

We　will study not only clinical psychology and career counseling in my special field but also wide field.
This gives you the ability to write, present and discuss.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（春）

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテ―ションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員から高い評価を受け、研究過程とその発表結果より、研究に対する興味関心を強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることが、最終的到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表１	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表２	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表１	個人研究発表を行い討論を行う
第 6 回	個人研究発表２	個人研究発表を行い討論を行う
第 7 回	個人研究発表３	個人研究発表を行い討論を行う
第 8 回	個人研究発表４	個人研究発表を行い討論を行う
第 9 回	個人研究発表５	個人研究発表を行い討論を行う
第 10 回	個人研究発表６	個人研究発表を行い討論を行う
第 11 回	個人研究発表７	個人研究発表を行い討論を行う
第 12 回	個人研究発表８	個人研究発表を行い討論を行う
第 13 回	個人研究発表９	個人研究発表を行い討論を行う
第 14 回	個人研究発表１０	個人研究発表を行い討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度　50 %）
発表　20 %
期末レポート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スクリーンなど情報機器

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline and objectives】
You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.
In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

廣川　進

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテ―ションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員から高い評価を受け、研究過程とその発表結果より、研究に対する興味関心を強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることが、最終的到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表１	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表２	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表１	個人研究発表を行い討論を行う
第 6 回	個人研究発表２	個人研究発表を行い討論を行う
第 7 回	個人研究発表３	個人研究発表を行い討論を行う
第 8 回	個人研究発表４	個人研究発表を行い討論を行う
第 9 回	個人研究発表５	個人研究発表を行い討論を行う
第 10 回	個人研究発表６	個人研究発表を行い討論を行う
第 11 回	個人研究発表７	個人研究発表を行い討論を行う
第 12 回	個人研究発表８	個人研究発表を行い討論を行う
第 13 回	個人研究発表９	個人研究発表を行い討論を行う
第 14 回	個人研究発表１０	個人研究発表を行い討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度　50 %）
発表　20 %
期末レポート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スクリーンなど情報機器

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline and objectives】
You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.
In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞に関わる諸問題を演習のテーマとします。
共通の文献を読み、ディスカッションすることを通して、自らのキャリアの中での大きな節目となる学校から職業への移行過程を、一歩引いた俯瞰的な視点でとらえることを目指します。

【到達目標】
文献を読み、情報収集を行う中で、論点を把握することができる。
その論点をめぐって考察を深め、その結果を適切に発表・論述できる。
共通の論点をめぐって受講生同士で考察を深め合うことができる。
みずからが探求したい「問い」を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
４年次における卒論の執筆に向けた段階的な指導を行います。２年次秋学期は、文献を読み込み、論点を明らかにしていくこと、その論点についてディスカッションを行う中でみずからの「問い」を形成していくこと、書式に従った論文を書くこと、データや文献を収集することなど、「基礎ゼミ」で学んだ内容をもう一度自分たちで辿って、ゼミ論を書けるようになる準備をする期間と位置付けます。同時に、３年次のゼミ論につながる「問い」を絞り込んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミのテーマと進め方、自己紹介と問題意識の共有、文献紹介
2	身近な話題をめぐるディスカッション	１つの論点をめぐるディスカッションに慣れる
3	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (1)	共通文献A（前半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
4	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (2)	共通文献A（前半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
5	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (3)	共通文献A（後半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
6	就職活動をめぐる共通文献 A の検討 (4)	共通文献A（後半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
7	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (1)	共通文献 B（前半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
8	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (2)	共通文献 B（前半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
9	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (3)	共通文献 B（後半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるディスカッション
10	企業の労務管理をめぐる共通文献 B の検討 (4)	共通文献 B（後半部分）の論点をめぐる論述とディスカッション
11	データの読解	データの比較とディスカッション
12	関連文献・データの収集 (1)	文献・データの所在と収集方法
13	関連文献・データの収集 (2)	文献・データの収集と発表
14	「問い」の明確化	各自の「問い」の発表と明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通文献の読解、レジュメ作成、論点提示を行う。
プレゼンの準備、レポートの執筆を行う。
関連する文献やデータを収集する。
関連するニュースや論考を追う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第２版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
共通文献については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加： 30 %
レジュメの作成と論点提示： 30 %
レポート： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
一人一人の力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.
In this seminar, participants will develop better understanding of changing labor market and work styles, and develop perspectives of their career by reading, discussion, and critical writing.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

上西　充子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞に関わる諸問題を演習のテーマとします。
ゼミ論の執筆に向けて、文献の読み込みと調査によって「問い」を深めます。

【到達目標】
春学期は関連文献を読み込むこと、みずからの「問い」を深めること、独自調査の計画を立てて実行することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は4月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
卒論の執筆に向け、3年次にはゼミ論の完成を目指します。春学期は、各自が設定したゼミ論の「問い」に関連した文献・データを適切に収集して検討した上で、「問い」を改めて文章化し、その「問い」を深めるための独自調査の計画を立てて発表し、実行していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の「問い」の発表と検討 (1)	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
2	ゼミ論の「問い」の発表と検討 (2)	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
3	論文の構成の理解	論文の基本的な構成を理解する
4	先行研究の収集と検討 (1)	文献収集状況の発表
5	先行研究の収集と検討 (2)	収集した文献の重要度の検討
6	先行研究の収集と検討 (3)	収集した文献の論点整理
7	独自調査の計画の策定	先行研究を踏まえた独自調査の必要性を検討する
8	独自調査の計画の発表 (1)	各自が独自調査の計画を発表し、相互に検討する
9	独自調査の計画の発表 (2)	各自が独自調査の計画を発表し、相互に検討する
10	独自調査の実施の中間報告 (1)	各自が独自調査を実施し、その結果を中間報告する
11	独自調査の実施の中間報告 (2)	各自が独自調査を実施し、その結果を中間報告する
12	研究計画の再検討 (1)	独自調査結果を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
13	研究計画の再検討 (2)	独自調査結果を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
14	振り返りとまとめ	各自の進捗状況を振り返り、中間発表に向けた各自の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献・データを収集し、論点を整理し、発表の準備を行う。
独自調査を企画し、実施し、その結果を整理する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第2版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加： 30 %
先行研究の整理： 30 %
独自調査の企画と実施： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
2年次の演習からの継続受講を原則とします。
4年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【Outline and objectives】
The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.
In this seminar, participants will clarify their own theme by reading and research.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

上西　充子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞にかかわる諸問題を演習のテーマとします。
秋学期はゼミ論の完成に向けて論文執筆に取り組みます。

【到達目標】
適切な論文構成により、ゼミ論を完成させることができる。
ゼミ論執筆のプロセスを通じて、みずからの卒論の研究課題と研究方法を固めていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
秋学期はゼミ論の執筆に取り組みます。論文の構成の方法、先行研究への適切な言及方法、研究結果の整理の方法などを実践的に学びながら、ゼミ論を完成させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究課題の文章化	研究課題を文章化し、検討する
2	ゼミ論中間発表 (1)	各自のゼミ論の構想を中間発表し、相互に検討する
3	ゼミ論中間発表 (2)	各自のゼミ論の構想を中間発表し、相互に検討する
4	既存の文献から学ぶ (1)	すぐれた論文の構成を検討する
5	既存の文献から学ぶ (2)	すぐれた論文の構成を検討する
6	論文構成の再検討	論文構成を再検討する
7	ゼミ論の執筆と指導 (1)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
8	ゼミ論の執筆と指導 (2)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
9	ゼミ論の執筆と指導 (3)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
10	ゼミ論の発表とコメント (1)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
11	ゼミ論の発表とコメント (2)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
12	ゼミ論の発表とコメント (3)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
13	振り返りと課題設定 (1)	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う
14	振り返りと課題設定 (2)	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
独自調査結果を整理し、発表の準備を行う。
ゼミ論の執筆を進める。
中間発表、ゼミ論発表に向けた準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第２版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの主体的な参加： 30 %
発表： 20 %
ゼミ論： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.
In this seminar, participants will write research reports of their own theme.

MAN200MA

演習（ビジネス）2 年生

梅崎　修

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を対象として、社会調査の実践的な学習を進めていきます。まず、地域データ分析やインタビューの理論や方法を学びます。その後、実際に地域調査を実施する中で、調査のスキルを身に付けることを目指します。また、同時に地域経済や地域活性化政策について文献を読みながら議論をし、現代における地域経済について学びます。

【到達目標】
2 年生秋学期の授業なので、3 年次以降の演習に繋がるように調査スキルの学習を第一に考えます。一人で地域経済の官庁統計を理解し、分析できること。さらに、人物にアポイントメントをとり、インタビュー調査を実施できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方－地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）や岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊－市民のための地域調査入門」（自治体研究社）の数章を基礎に調査法を学び、実際に地域調査を行います。調査対象地域に関しては、学生と一緒に相談しながら決めたいと思いますが、繰り返し調査地域を訪れるので、大学から近い地域になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの運営方針の説明。班分けなど。	ゼミの運営方針を説明し、お互いの自己紹介を行います。
第 2 回	地域の官庁統計の説明。	地域統計を解説。
第 3 回	統計情報の分析（1）	実際の官庁統計を分析してみる。
第 4 回	統計情報の分析（2）	前回講義に引き続き、官庁統計を分析してみる。
第 5 回	統計分析の実習	ある地域を決めて、統計分析を実際に行う。
第 6 回	報告会	統計分析のレポート報告会
第 7 回	地域資料の利用方法（地図、行政資料、歴史資料）	地域の文献資料の探し方を解説。
第 8 回	地域図書館・資料館の訪問。	実際に地域の図書館・資料館を訪問する。
第 9 回	インタビュー調査方法の説明	インタビュー調査方法について、解説。
第 10 回	インタビュー調査の企画会議	インタビュー調査の計画を練る。
第 11 回	地域まちあるき	外に出て、調査対象を探す。
第 12 回	インタビュー調査実習①	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 13 回	インタビュー調査実習②	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 14 回	報告会	インタビュー調査のレポート報告会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域調査を軸とした演習運営なので、授業時間外に調査の時間を確保してもらいます。実際は、班分けをして調査を行いますので、学生の自主性が重んじられます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方－地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）

【参考書】
岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊－市民のための地域調査入門」（自治体研究社）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度 (50%) ＋報告内容（50%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により前年にアンケートを実施していません。授業の中で皆さんの意見を取り入れてより良いものにしていければと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンや ic レコーダーを使用します。

【Outline and objectives】
The main objects of this course are to get method of social research and conduct research about local economy or community by yourself. To achieve this goal, this course is to study how to use official statistics, conduct literature searching, interview somebody and carry out an observation.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

梅崎　修

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】
身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生はプロジェクトの完成と卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方を話し合う。班分けなどを決める。
2	調査法解説	これまでの調査経験を振り返り、新たに身に付けるべき調査法について検討。
3	論文・レポートの書き方	論文・レポートの書き方を解説。
4	論文・レポートの発表の仕方	論文・レポートの発表の仕方を解説。
5	地域経済学（文献）を読む。	地域経済学に関する文献を読み、議論する。
6	オーラルヒストリー（文献）を読む	オーラルヒストリーに関する文献を読み、議論する。
7	まちづくり（文献）を読む。	まちづくりに関する文献を読み、議論する。
8	調査企画報告①	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
9	調査企画報告②	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
10	調査企画報告③	約５名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
11	調査経過報告①	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
12	調査経過報告②	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
13	調査経過報告③	約５名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
14	夏休み合宿準備	合宿先での調査を全員で議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文に関しては、長文を書くのに苦労をするので、春学期の段階から論文の書き方を講義していく。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

梅崎　修

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】
春学期に引き続き、身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。秋学期は、レポートや論文の完成を目指す。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生は卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休み合宿の振り返り	夏休み合宿の振り返り、議論をする。
2	文章力向上のための講義	長文を論理的に書くためのノウハウを講義する。
3	プレゼンテーション向上のための講義	プレゼンテーションを時間内にわかりやすく行うためのノウハウを講義する。
4	文献購読（アクションリサーチ）	地域連携プロジェクトを最終的な課題提案につなげるために、アクションリサーチの文献を読む。
5	文献購読（地域政策）	地域政策の論文を輪読し、議論する。
6	レポート・論文の中間報告①	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
7	レポート・論文の中間報告②	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
8	レポート・論文の中間報告③	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
9	レポート・論文の中間報告④	約５名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
10	ゲスト講師の講義	地域活性化に携わるゲスト講師の講義
11	地域連携プロジェクトのワークショップ①	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
12	地域連携プロジェクトのワークショップ②	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
13	レポート・論文の最終報告①	10 名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間も使う。
14	レポート・論文の最終報告②	10 名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間を使う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】
河野哲也「レポート・論文の書き方入門　第 3 版」慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】
レポート・卒業論文作成は、長文を書くことに苦労するので、細かいチェックポイントを設けて指導していく。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

木村　琢磨

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※授業の進め方を一部変更しました。詳細は学習支援システムをご覧ください。変更内容のシラバスへの反映は随時行っていきますので、当面は学習支援システムの連絡事項を読んでください。
３年次・４年次の演習に向けて、組織行動論の基本を学習し、企業を組織マネジメントの視点から理解できるようになることを目指す。授業内で行うプレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、組織のマネジメントに関する分析的視点を養う。

【到達目標】
１．知識、理解
組織行動論の主なテーマ（モチベーション、リーダーシップなど）の理論・先行研究に関して大学の教科書レベルの知識を身につける。
２．体系化、表現、説明
上記の理論・先行研究を体系的に整理をし、他の人に論理的な説明と事例を交えて教えることができる。
３．論理的思考、哲学的思考、批判的思考
概念の定義に関する厳密な思考（哲学的思考）、理論の論理的・実証的考察（論理的思考）に基づいて既存の理論や実証研究を批判的に考察（批判的思考）し、新たな研究課題を発見することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
課題文献に基づく、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心として進める。プレゼンテーションは、内容の要約的説明と分析、論点提示を中心とする。プレゼンテーションに基づいて学生同士で質疑、ディスカッションを行う。取り扱うテーマの内容は履修者の関心に応じて変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と学習方法・成績評価方法について
第 2 回	知覚と個人差	人間の知覚のメカニズムと個々人の違い
第 3 回	個人の態度と行動	組織コミットメント、態度と行動の関係
第 4 回	モチベーション理論	モチベーションの内容論と過程論
第 5 回	職場におけるモチベーション施策	モチベーションの維持・向上のための施策とその設計方法
第 6 回	ストレスと感情	ストレスの規定要因、予防・対処策、感情のマネジメント
第 7 回	コミュニケーション	コミュニケーションの機能、機能、諸問題
第 8 回	チームとグループのマネジメント	チームのタイプ、集団形成の効果、集団に固有の力学
第 9 回	コンフリクトと交渉	組織における集団間・個人間の対立と交渉
第 10 回	意思決定	意思決定のプロセス、意思決定におけるバイアス
第 11 回	リーダーシップ	リーダーシップの類型、リーダーシップ開発
第 12 回	権力と政治	組織における個人・集団の権力と組織内政治
第 13 回	組織構造と組織変革 組織文化	組織変革の推進方法、変革への抵抗の発生要因、組織文化の機能
第 14 回	総括	前回までの内容の総括。理解度確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回のレポートの準備（予習）、復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Robbins, S. P., & Judge, T. A. (2013). Organizational Behavior 15th Edition (England).

【参考書】
Robbins, S. P. 著, 高木晴夫訳 (2006). 組織行動のマネジメント 入門から実践へ. ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
平常点　４０％：

評価基準：テキストの内容を正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。毎回のレポートによる評価
期末試験　６０％
評価基準：テキストで学習した理論・学説を正しく理解し、その問題点や主な実証結果を理解していること。参照不可。

【学生の意見等からの気づき】
使用テキストの難易度を昨年度より上げ、グローバルスタンダードとなっている組織行動論のテキストを主教材として用いることにした。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配付は授業支援システム上で行う。

【その他の重要事項】
オフィスアワー： 火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
This course focuses on some of the essential topics in organizational behavior. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic approaches that can work as guides to implement human resource management.

MAN200MA

演習（ビジネス）３・４年生（春）

木村　琢磨

単位数：**２単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・５**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※授業の進め方を一部変更しました。詳細は学習支援システムをご覧ください。変更内容のシラバスへの反映は随時行っていきますので、当面は学習支援システムの連絡事項を読んでください。
①３年次前半：２年次の学習内容を発展させ、選択したテーマに基づいて文献研究を行う。さらに、秋学期に向けてグループワークの研究テーマの設定も行う。
②３年次後半：ゼミ生自身でテーマを決め、グループ研究に取り組む。研究方法は、データ分析、インタビュー調査、参与観察など、研究テーマに合わせて決定する。
③４年次：２年、３年次に学習した内容を下に研究を行う。

【到達目標】
３年次は、２年次の学習を発展させ、企業の組織マネジメントを多角的な視点から理解・分析できるようになることを目指す。
４年次は、３年次に修得したことをもとに、各自でテーマ（企業経営と人材のマネジメントに関するもの）を設定して研究を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生によるプレゼンテーションと、それに対する他の学生から質問・意見を出し、学生同士でディスカッションをする、という進め方を基本とする。学生が自身の調査に基づいて自ら発信する形をとり、教員はファシリテーションとコメントに徹する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方・学習方法の説明、ゼミ生の役割分担の決定を行う。
第 2 回	４年生研究計画発表	４年生の研究計画（卒業論文を含む）に関するプレゼンテーションを行う。
第 3 回	３年生グループ研究テーマ検討	３年生のグループワークのテーマに関する検討。４年生との討議
第 4 回	３年生グループ研究テーマ発表	３年生のグループワークのテーマ発表。４年生との討議
第 5 回	３年生グループ研究中間発表	３年生のグループワークの中間発表。４年生との討議
第 6 回	３年生グループ研究第１回発表	３年生のグループワークの発表。４年生との討議
第 7 回	３年生グループ研究第２回発表	３年生のグループワークの発表。ゲストとの討議
第 8 回	４年生研究中間報告（１）	４年生の研究の中間発表。３年生との討議
第 9 回	４年生研究中間報告（２）	４年生の研究の中間発表。３年生との討議
第 10 回	テーマ研究フィードバック	前週までのプレゼンテーションに対するフィードバック
第 11 回	グループ研究テーマ検討	３年生のグループ研究のテーマを検討する。
第 12 回	４年生研究中間報告（１）	４年生第１グループの卒業論文の中間報告会を行う。
第 13 回	４年生 研究中間報告（２）	４年生第２グループの中間報告会を行う。
第 14 回	４年生 研究中間報告（３）	４年生第３グループの中間報告会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・プレゼンテーションの準備、論点の準備、各種課題の準備本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション　５０％
・評価基準①：選択したテーマに関して、基礎的な概念・理論の理解に基づき、データや先行研究を参照して概括的な説明ができること。

・評価基準②：自ら設定した研究テーマに関し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を設定し、その意義を説明できること。および、それらを検証のための研究計画が立てられること。
平常点（発言・議論）５０％
・評価基準：他の人が行ったプレゼンテーションの内容を、求められる専門知識・フレームワークを元に正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。

【学生の意見等からの気づき】
３年次にグループ研究のみならず個人研究も導入した。

【その他の重要事項】
オフィスアワー： 火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
This course is designed to complete capstone projects that provide the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student or group is working on their projects.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

木村　琢磨

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※授業の進め方を一部変更しました。詳細は学習支援システムをご覧ください。変更内容のシラバスへの反映は随時行っていきますので、当面は学習支援システムの連絡事項を読んでください。
３年次後半：ゼミ生自身でテーマを決め、グループ研究に取り組む。研究方法は、データ分析、インタビュー調査、参与観察など、研究テーマに合わせて決定する。
４年次：３年次に取り上げたテーマをベースにして研究を行う。

【到達目標】
３年次には、グループとして自ら設定したテーマに基づいて研究を進め、企業の組織マネジメントを経営の視点から分析する能力を身につける。
４年次には、３年次に修得したことをもとに、各自でテーマ（企業経営と人材のマネジメントに関するもの）を設定し、卒業論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・学生による授業（プレゼンテーション）と、それに対する他の学生から質問・意見を出し、学生同士でディスカッションをする、という進め方を基本とする。学生が自身の調査に基づいて自ら発信する形をとり、教員はファシリテーションとコメントに徹する。
・期末に、研究成果として論文（３年生はグループ研究論文、４年生はグループ研究または卒業論文）を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方・計画の説明。研究の基本的な進め方についての確認
第 2 回	研究論文輪読	卒業論文・グループ研究の参考とすべき論文（質的分析）の輪読
第 3 回	研究論文輪読	卒業論文・グループ研究の参考とすべき論文（量的分析）の輪読
第 4 回	３年生 グループ研究中間報告	３年生によるグループ研究の中間報告
第 5 回	４年生 中間報告（１）	４年生第１グループ。卒業論文の中間報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第 6 回	４年生 中間報告（２）	４年生第２グループ。卒業論文の中間報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第 7 回	４年生 中間報告（３）	４年生第３グループ。卒業論文の中間報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第 8 回	キャリアデザイン特別講演	外部講師を招聘し、企業におけるキャリアデザインに関する講演を聞き、討論する
第 9 回	キャリアデザイン特別講演	外部講師を招聘し、企業におけるキャリアデザインに関する講演を聞き、討論する
第 10 回	４年生 最終報告（１）	４年生第１グループ。卒業論文の提出前最終報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第 11 回	４年生 最終報告（２）	４年生第２グループ。卒業論文の提出前最終報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第 12 回	４年生 最終報告（３）	４年生第３グループ。卒業論文の提出前最終報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第 13 回	３年生 グループ研究最終報告	グループ研究の仕上げのための完成前の最終報告を行う
第 14 回	３年生および４年生 研究成果発表	卒業論文、グループ研究の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・ビジネスキャリア入門Ｄ、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、人材育成論Ⅰ・Ⅱ、経営分析論Ⅰ・Ⅱ、戦略経営論Ⅰ・Ⅱを併せて履修することを推奨する。
・プレゼンテーションの準備、論点の準備、各種課題の準備
・実態調査
・論文執筆本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
渡辺知明（2015）『文章添削の教科書』芸術新聞社
井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成法 (第 2 版)』慶應義塾大学出版会
そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション　３０％
・評価基準：自身の研究について、研究の意義・先行研究・方法・調査結果・結論を明確にまとめ、他者が理解しやすい形でプレゼンテーションをし、質疑への応対が的確にできること。
平常点（発言・議論）３０％
・評価基準：他の人が行ったプレゼンテーションの内容を、求められる専門知識・フレームワークを元に正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。
期末課題（研究プロジェクト）　４０％
・評価基準：自ら設定した研究テーマにつき、先行研究に基づいて意義あるリサーチ・クエスチョンまたは仮説を設定し、それを検証するための適切かつ十分な調査を行って結論を導き出せること。

【学生の意見等からの気づき】
前年度と同様の形式で進める。

【その他の重要事項】
オフィスアワー： 火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
This course is designed to complete capstone projects that provide the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student or group is working on their projects.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

酒井　理

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。
プロジェクトベーストラーニングを通して、企画力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。プロジェクトを実施します。また 3 年と合同でビジネスプランコンテストに参加します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	ゼミ計画とチームビルディング	秋学期の２年生プロジェクトの計画を立てるとともに，チームを形成してプロジェクトに臨む準備をします
3	マーケティングコンテストプラン作成 1	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
4	マーケティングコンテストプラン作成 2	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
5	マーケティングコンテストプラン中間発表	コンテストに提出するプランの途中経過を発表します.
6	マーケティングコンテストプラン作成 3	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
7	マーケティングコンテスト提出プランの発表	ブラッシュアップした最終提案を発表します
8	マーケティングコンテストの振り返り	PDCA のチェックを行います．実践をゼミ全体で振り返ります.
9	プロジェクトの準備	プロジェクトのテーマを決定して，計画を立てます
10	プロジェクトパートナーとの打合せ	ともにプロジェクトを進める外部機関との調整を行います
11	プロジェクトの実施 1	提案に基づいて実践を行います。
12	プロジェクトの実施 2	実践しながら計画や運用を修正して実践内容を改善します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクト実施までのプロセスを振り返ります。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度４０％，プロジェクトへの取り組み姿勢４０％，プロジェクトの成果２０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure building ability and execution skill.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

酒井　理

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。
プロジェクトベーストラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。また起こして協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。特段、春学期では文献資料を集める経験を経ることで情報収集スキルをを獲得することをもう一つの目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミは PBL（プロジェクトベーストラーニング）によって進めます。ある課題に対してそれを解決するためのプロセスを通してさまざまなことを学んでいこうとする方法です。実際の行動をともないますので、「協調性」「責任感」「リーダーシップ」「実行力」がすべてのゼミ生に求められます。
ゼミの取り組みは大きく 2 つあります。①プロジェクトの企画と運営、②新たなビジネスプランの考案です。プロジェクトは現実に何かを動かす経験をすることになります。ビジネスプランの考案は、ビジネスプランコンテストに参加して外部の評価を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について意見を交換します。学生主体で運営していけるような形を話合いで決めていきます。
2	プロジェクトビルディング (コンセプトの構築)	プロジェクトを作り上げるためにアイディア発想、プロジェクトコンセプトの構築をグループワークをしながら進めます。
3	プロジェクトビルディング（計画策定）	プロジェクト実践を想定した計画を策定するためのグループワークをおこないます。
4	ビジネスプラン（アイディア発想ワーク）	ビジネスプランコンテストに向けてアイディア出しを行います。グループワークでアイディアを洗練させます。
5	ビジネスプラン（プランの作成）	ビジネスプランコンテストのテーマに合わせた内容をかためます。
6	ビジネスプラン（プレゼンテーション）	ゼミ内でプレゼンテーションを行ってプランのブラッシュアップを行います。
7	プロジェクト実施に向けたリサーチ準備	プロジェクトを実際にローンチする前に、事前のマーケティングリサーチを計画します。
8	リサーチの実行	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを実施します。
9	リサーチデータの収集と分析	マーケティングリサーチを行って集めたデータを分析します。
10	プロジェクトビルディング（実装準備）	プロジェクトを実際にローンチするための最終的な調整を行います。
11	プロジェクトのローンチ	プロジェクト実際に立ち上げて実行していきます。
12	プロジェクトのモニタリング	プロジェクトのを実行し、その経過をモニタリングして、分析します。
13	プロジェクトの修正	プロジェクトの問題点を抽出して分析します。
14	春学期まとめ	夏期休暇中のゼミの活動計画と秋学期の準備をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。とにかく何ごとも実践です。現場で体験する、実際にアクションを起こして経験していくことが大事です。机に向かって勉強するよりは、外に出かけてさまざまな事象に向き合うようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０％，プロジェクトへの取り組み姿勢５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションを活発にする工夫をしていきます。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure building ability and execution skill.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

酒井　理

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは『マーケティング実践』です。世の中に役立つ、人々にとって価値のあるものを創造して相手に提供していくことがマーケティングの役割ですから、それに関することであればよしとして、研究課題は幅広く受け入れたいと思います。

【到達目標】
春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。秋学期は、春学期と同様にプロジェクトを実施します。また、半期に１度のビジネスプランコンテストに参加します。3 年生は卒業論文のベースとなるようにプロジェクトの内容を深く掘り下げてまとめる作業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	マーケティング研究論文のレビュー１（サービスマーケティング）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービス・マーケティング。
3	マーケティング研究論文のレビュー２（サービタイゼーション）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービタイゼーション。
4	マーケティング研究論文のレビュー３（AI と IoT）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマは AI と IoT。
5	ゲスト講師とのディスカッション（マーケティング）	マーケターをゲストに、実際に行われているマーケティングを題材にディスカッションを行います。
6	ゲスト講師とのディスカッション（スタートアップ）	起業のノウハウ、マインドセットなどをテーマにディスカッションを行います。
7	バーチャルビジネスゲームの実施	インターネット広告企業の人事部を招いてビジネスゲームを行います。ビジネスセンス修得のヒントを得ます。
8	プロジェクトのロジック構築	研究的視点からプロジェクトのロジックを組み立てます。
9	プロジェクトのコンセプト再考	研究の視点からプロジェクトを捉え直してコンセプトを再考する作業を行います。
10	プロジェクト計画のリファイン	プロジェクトを走らせながら新たなロジックとコンセプトで計画をリファインします。
11	プロジェクトの実施	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
12	検証データの収集と分析	プロジェクトを通して、仮説の検証を行います。得られたデータを分析して結論を導き出します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクトをクロージングして、ここまでのプロセスの振り返りを行います。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０％，取り組み姿勢５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミで配布する資料はすべてデジタルドキュメントです。PC、タブレット、スマートフォンなどコミュニケーションサービスの"Slack"にアクセスできる環境が必要です。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
The theme of the class is practical marketing. The role of marketing is to create something that is useful to the world and valuable to people and provide it to others. The seminar accepts a wide range of research projects.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

坂爪　洋美

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて考えていきます。具体的には個人の well-being を追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。
2 年次には、心理学の基礎概念に関する理解を深めつつ、身近なテーマを産業・組織心理学の視点から理解すること、自分自身のキャリアを含めた将来についての疑問や不安を調査という方法で（部分的にでも）解消できるようになることを中核的な目標とします。

【到達目標】
到達目標は大きく分けて２つある。
（1）産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
（2）3 年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の前半の時期は、基礎文献の購読とそれに関連するワークを実施します。文献の購読については、レジュメの担当を割り振ります。後半の時期はアンケート調査もしくはビジネスコンテストへの応募案の検討を実施します（変更の可能性あり）。活動はグループ単位で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	14 回を通じたゼミの進め方と自己紹介
第 2 回	ディベート（1）	ディベートの基本的な実施方法を学び、グループごとに指定されたテーマでの準備をする
第 3 回	ディベート（2）	指定されたテーマでのディベートを行う
第 4 回	ディベート（3）	グループごとに指定されたテーマでの準備をする
第 5 回	ディベート（4）	グループごとに指定されたテーマでの準備をする
第 6 回	ディベート（5）	指定されたテーマでのディベートを行う
第 7 回	グループ課題（1）	グループごとにテーマに基づいてディスカッションを行う
第 8 回	グループ課題（2）	ディスカッションに基づいて発表内容を作成する
第 9 回	グループ課題（3）	中間発表
第 10 回	グループ課題（4）	中間発表でのコメントを含めた修正
第 11 回	グループ課題（5）	最終プレゼン資料の作成と練習
第 12 回	グループ課題（6）	最終プレゼン
第 13 回	卒論発表（1）	4 年生の卒論発表を聞いて質疑応答をする
第 14 回	グループ研究	次年度のグループ研究の準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
□ディベートならびにグループ課題について
　指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理はゼミ前に各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6 割
調査報告（報告書とプレゼンテーション）：4 割

【学生の意見等からの気づき】
グループ発表に向けての準備に用いる回数を増やした。

【Outline and objectives】
The main aim of the seminar is to discuss the important topics in career development considering the changes over the recent years of company, from the perspective of industrial/organizational psychology and Human Resource Management. For better understanding, students are expected to participate actively in group discussion.
At the end of the seminar, students are expected to explain the essential concepts of industrial/organizational psychology, explain workplace problems from the point of view of industrial/organizational psychology , and propose a solution to the problem about career development.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

坂爪　洋美

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「多様な人材が活躍できる場」の実現に向けて、産業・組織心理学の専門知識を修得し、企業での実際について学ぶ。それらを通じて、組織レベル・職場レベル・個人レベルでの取組みを検討できるようになる。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下２点である。
（1）産業・組織心理学の主要な概念についての理解を得る。
（2）調査計画を立案し、調査を実施し、結果をレポートとしてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
初回のゼミは 4 月 27 日に行う。ただし初回の授業に先立ち、オンラインでのゼミ運営に伴うプレテストを行うので、参加すること。プレテストの方法は別途指示する（4 月 20 日連絡済み）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期のゼミの進め方について検討の上、決定する。
第 2 回	グループ研究のテーマ決め	２－３のグループで行う調査のテーマを決める。
第 3 回	テーマに関する基礎文献の購読（1）	各グループで調査するテーマに関する文献を読む。
第 4 回	テーマに関する基礎文献の購読（2）	各グループで調査するテーマに関する文献を読む。
第 5 回	調査計画の立案（1）	グループごとに興味のあるテーマを調査計画として企画する。
第 6 回	調査計画の立案（2）	調査計画に基づき、調査の実行プランを検討・確定する。
第 7 回	調査の実施（1）	調査実施の準備を行う。
第 8 回	調査の実施（2）	調査の途中経過を報告する。
第 9 回	調査の実施とまとめ（1）	調査データを分析し、結果をえる。
第 10 回	調査の実施とまとめ（2）	結果に基づく考察を行う。
第 11 回	レポートの作成（1）	レポート作成の方法について学ぶ。
第 12 回	レポートの作成（2）	レポートならびに発表資料を作成する。
第 13 回	発表会	調査結果を報告する。
第 14 回	報告書作成	調査報告書にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に毎週課題が出る。事前準備をしてきたものを、ゼミでブラッシュアップするという形になる。また、グループでの作業が中心になるので、ゼミ以外の時間で集まって作業をすることも多い。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ内での発表等授業に対する貢献　60 %
レポート等の提出物　40%

【学生の意見等からの気づき】
ゼミでのディスカッションがさらに充実するように働きかけると同時に、基礎知識の習得に必要な時間を確保する。

【Outline and objectives】
The main aim of the seminar is to develop skills needed to carry out the research about organizational behavior and to write a report. All activities are carried out in groups Therefore, students are need communication skills to collaborate with others
As a result of taking this course, students are expected to pose a research question, express a theoretical foundation upon which their research will build, draft a purpose statement, gather primary and secondary data, estimate basic descriptive statistics, create data visuals, analyze data and logical thinking which will be tested at inter-seminar workshops and external presentations.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

坂爪　洋美

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「多様な人材が活躍できる場」の実現に向けて、産業・組織心理学の専門知識を修得し、企業での実際について学ぶ。それらを通じて、組織レベル・職場レベル・個人レベルでの取組みを検討できるようになる。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下 3 点である。
（1）産業・組織心理学の主要な概念についての理解を得る。
（2）調査計画を立案し、調査を実施し、結果をレポートとしてまとめる。調査については、前期を踏まえさらに具体的なテーマ・卒業論文につながるテーマを設定した上で、調査方法をさらに体得すること、レポートとしてまとまることを目的とする。
（3）企業での様々な取組みについて整理した上で理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は基本的にグループでの活動を中心とする。文献購読に際しては、分担された文献のレジュメを作成し、ディスカッションのファシリテーションを行う。また各テーマに基づいたワークを実施することがある。調査については、調査計画の立案からレポートの作成までを担当する。後期では、他大学の合同ゼミやビジネスプランコンテストの実施も検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期のゼミの進め方について検討する。	半期の活動計画を立てる。
第 2 回	ディベート（1）	その時点でのホットなトピックに関してディベート形式で討論する。
第 3 回	ディベート（2）	その時点でのホットなトピックに関してディベート形式で討論する。
第 4 回	グループでの調査研究テーマの策定	前期のグループ研究成果をふまえ、改めてグループで調査を実施する。そのテーマを決める。
第 5 回	調査計画の立案（1）	グループごとに興味のあるテーマを調査計画として企画する。
第 6 回	調査計画の立案（2）	調査計画に基づき、調査の実行プランを検討・確定。
第 7 回	関連文献の購読（1）	グループごとに調査計画に関連する文献を探し出し、報告する。
第 8 回	関連文献の購読（2）	グループごとに調査計画に関連する文献を探し出し、報告する
第 9 回	調査の実施とまとめ（1）	調査データを分析し、結果をえる。
第 10 回	調査の実施とまとめ（2）	結果に基づく考察を行う。
第 11 回	レポートの作成（1）	レポート作成の方法について学ぶ。
第 12 回	レポートの作成（2）	レポートならびに発表資料を作成する。
第 13 回	発表会	調査結果を報告する。
第 14 回	発表会を踏まえての修正	発表会でもらったコメントを踏まえての修正。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に毎週課題が出る。事前準備をしてきたものを、ゼミでブラッシュアップするという形になる。また、グループでの作業が中心になるので、ゼミ以外の時間で集まって作業をすることも多い。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ内での発表等授業に対する貢献　60 %
レポート等の提出物　40%

【学生の意見等からの気づき】
グループでのディスカッションがさらに円滑になるように働きかける。

【Outline and objectives】
The main aim of the seminar is to discuss the important topics in career development considering the changes over the recent years of company, from the perspective of industrial/organizational psychology and Human Resource Management. For better understanding, students are expected to participate actively in group discussion.

At the end of the seminar, students are expected to explain the essential concepts of industrial/organizational psychology, explain workplace problems from the point of view of industrial/organizational psychology , and propose a solution to the problem about career development.

MAN200MA

演習（ビジネス）2 年生

武石　恵美子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」をテーマに授業を進める。
働く人の多様化（ダイバーシティ）、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、問題意識の明確化など、研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成をとらえる問題意識をもち、その解明のために研究を進めることができる基礎力を身に付けることを目標とする。具体的には、文献サーベイ、データの収集・分析、レポート・論文の書き方など、研究を進める上での基礎を身に付けることに加え、世の中で起きている事象について問題意識をもち、その課題を掘り下げるという課題設定・課題解決能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習は、少人数で、特定のテーマを集中的に議論、研究する場であると考えてほしい。
大学での学びは、自分が知りたいことを主体的に追求すること、が基本なので、与えられたものではなく、自分で探究心をもって学習することが重要である。ゼミはそのための貴重な機会であり、ゼミでは積極的に発言し、他の人の考えにも耳を傾けることに努めること。
特に、キャリアデザインに関して正解はないことが多いので、他者の意見をききながら自分の意見をまとめて発言する、ということが重要である。本を読むときも「自分の意見との違い、批判」を忘れないこと。
授業は、講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。3 年次以降の演習を視野に入れた授業展開を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	レジュメの作り方、文献の読み方	ゼミを進める上での基本的なスキルとしてのレジュメ作成、文献講読の基礎を習得する。
3	共通文献（1 章）の講読	共通文献の 1 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
4	共通文献（2 章）の講読	共通文献の 2 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
5	共通文献（3 章）の講読	共通文献の 3 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議をする。
7	共通文献（4 章）の講読	共通文献の 4 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
8	共通文献（5 章）の講読	共通文献の 5 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
9	文献の集め方、論文の読み方	文献サーベイのための、文献の集め方、論文の読み方について理解する。
10	レポートの書き方	課題で提出したレポートをフィードバックしながら、レポートの書き方について習得する。
11	論文の書き方	学術論文を読んで論文の基礎、書き方を習得する。
12	次年度のグループ研究のテーマ設定	次年度実施するグループ研究のテーマ、メンバーを決定する。
13	まとめ	授業の振り返り、総括を行う。
14	卒業論文発表会	4 年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要である。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講読テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究課題への取組姿勢、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。
レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【その他の重要事項】
2 年次までに、「ライフコース論」「ビジネスキャリア入門」「キャリア開発論」「職業選択論Ⅰ・Ⅱ」「人材育成論Ⅰ・Ⅱ」など、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】
In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the diversification of the working person, the current situation and the agenda of the work-style. Students will learn the basics of study through a discussion, documents reading.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

武石　恵美子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進める。
働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにする。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆する。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	研究テーマの設定	研究テーマの設定、その内容の具体化を行う
3	研究テーマの深め方	研究テーマについてテーマの絞り込みや深化を行う
4	文献収集の方法、文献の読み方	文献収集の方法、その読み方について
5	研究の企画	研究の企画を行う
6	研究方法の検討	研究の方法を検討する
7	調査内容の検討	調査対象や内容の検討を行う
8	中間報告	研究の中間報告を行う
9	調査の実施	フィールド調査を実施する
10	調査の実施の継続	フィールド調査を継続する
11	調査の実施とデータの集約	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を行う
12	調査の実施とデータの集約の継続	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を継続する
13	データの収集、分析方法	データの整理方法についての講義
14	総括	半期の進捗の振り返り、まとめ、夏休みの課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究のための文献サーベイや調査の実施等本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。
レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【その他の重要事項】
2 年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】
In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

武石　恵美子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進める。
働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】
現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにする。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆する。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業のオリエンテーション	秋学期の授業計画についてのオリエンテーション
2	とりまとめ方向の報告	今後のとりまとめの方向についての報告を行う
3	調査の実施	フィールド調査を実施
4	データの収集	データを収集し、その取りまとめを行う
5	データの分析	収集したデータの分析・整理の仕方についての講義
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議する
7	結果のまとめ	調査結果をまとめる
8	結果の分析	結果を分析する
9	論文の書き方	実際の論文を読んで講評し、論文の書き方を習得
10	研究論文のアウトライン	研究論文のアウトラインを決める
11	研究論文の執筆	研究論文を執筆する
12	報告準備、研究論文の集約	報告資料の作成、報告の準備、各自研究論文集約
13	研究報告会と講評	研究の報告会、研究報告の講評
14	卒業論文発表会	4 年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究のための文献サーベイや調査の実施等本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】
授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【Outline and objectives】
In this seminar, the theme of the course is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

MAN200MA

演習（ビジネス）2 年生

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、計量分析の基礎を演習を行いながら学んでいく。

【到達目標】
各種計量分析が一通りできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習双方を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	パソコン操作の基本	パソコン操作の基本を学ぶ。
3	データ処理の基礎	データ処理の基礎について学ぶ。
4	データの種類	研究で用いるデータの種類について学ぶ。
5	データセットの構築 (1)	統計パッケージにおいて、データセットを構築する方法を概説する。
6	データセットの構築 (2)	グループワークを通じて、データセットの構築をより深く学ぶ。
7	データセットの構築 (3)	データセットの構築を効率的に行えるように、簡単なプログラミングを学ぶ。
8	変数の相関 (1)	変数の相関の基本を学ぶ。
9	変数の相関 (2)	変数の相関の解釈方法やより高度な相関係数について学ぶ。
10	単変量分析	単変量分析の方法を学ぶ。
11	多変量分析	多変量分析の方法を学ぶ
12	計量分析の演習 (1)	財務データを用いた演習を行う。
13	計量分析の演習 (2)	アンケート・データを用いた演習を行う。
14	計量分析の演習 (3)	作表について演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業における発言・取り組み（90%）、提出物（10%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】
In this seminar, you learn about quantitative analysis.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

中野　貴之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、企業行動等について、計量的な分析を実施できる能力を身につけることを目的とする。そのために、基本的な統計手法について学ぶとともに、実証的な研究論文の読み方を学んでいく。

【到達目標】
計量的な分析を実施できる能力と、実証的な研究論文の読み方を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 5 月 11 日 (月) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	統計分析の基礎 (1)	データセットの構築を行う。
3	統計分析の基礎 (2)	アンケートデータの分析方法について学ぶ。
4	統計分析の基礎 (3)	前回に続いて、アンケートデータの分析方法について学ぶ。
5	統計分析の基礎 (4)	会計のアーカイバルデータの分析方法について学ぶ。
6	統計分析の基礎 (5)	会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
7	統計分析の基礎 (6)	前回に続いて、会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
8	研究論文のサーベイ (1)	生活経済に関する論文を輪読する。
9	研究論文のサーベイ (2)	前回に続いて、生活経済に関する論文を輪読する。
10	研究論文のサーベイ (3)	労働経済に関する論文を輪読する。
11	研究論文のサーベイ (4)	前回に続いて、労働経済に関する論文を輪読する。
12	研究論文のサーベイ (5)	会計学に関する論文を輪読する。
13	研究論文のサーベイ (6)	前回に続いて、会計学に関する論文を輪読する。
14	研究論文のサーベイ (7)	ファイナンスに関する論文を輪読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】
In this seminar, we aim to acquire the ability to carry out quantitative analysis on corporate behaviors. For that purpose, we will learn basic statistical methods and learn how to read empirical research papers.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

中野　貴之

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・6 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、春学期に学習した知識を踏まえて、実際に研究主題を選択し、実証的な研究を実施し、一定の研究成果を残すことを目的とする。各自、具体的な研究テーマを設定し、研究発表に向けた作業を行っていく。

【到達目標】
各自研究を実施し、論文等の形態で研究成果を残すことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
主に実証的な作業を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	研究テーマの設定 (1)	研究テーマについて、グループで検討する。
3	研究テーマの設定 (2)	研究テーマを、各グループで具体的に絞り込む。
4	先行研究の検討	先行研究の検討を各グループで行う。
5	仮説の構築 (1)	検証仮説について検討する。
6	仮説の構築 (2)	候補となる検証仮説を具体的に特定する。
7	データ分析 (1)	データの分析を開始する。
8	データ分析 (2)	データの分析をグループワークにより進める。
9	データ分析 (3)	前回に続いて、データの分析をグループワークにより進める。
10	検証結果の考察	検証結果について、グループにおいて議論する。
11	検証結果の再検討	各グループにおいて再検証を行う。
12	発表資料の作成 (1)	発表資料の作成を行う。
13	発表資料の作成 (2)	前回に続いて、発表資料の作成を行う。
14	発表	各グループの発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業における発言・取り組み（90%）、提出物（10%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】
In this seminar, we aim to select research topics, conduct empirical research and present research results. You have to set up a specific research theme and present your research results.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

佐藤　厚

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水・5 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、人材育成というキーワードをベースにしながら、a）人事管理の側での働かせ方と、b）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】
人材育成とキャリア形成に関する基本的な文献を読み込み、以下の獲得を到達目標とします。
①テーマに関わる基礎知識を習得する。
②文献の批判的読解力を獲得する。
③①と②を通じて、課題設定 → 情報収集 → 情報分析＋まとめ、といった3〜4年演習での学習に必要な基礎的能力の形成をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この演習では、グループを編成し、文献についてグループごとに主担当者を決めて、①上記テーマに関わる文献のレビュー、②読解 → レジメ作成 → 報告+討論、③まとめ（自分なりの要約とコメント）の作成と発表という形で展開されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方について
2	テーマに関する文献の収集と読み込み（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
3	テーマに関する文献の収集と読み込み（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
4	テーマに関する文献の収集と読み込み（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
5	テーマに関する文献の収集と読み込み（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
6	テーマに関する文献の収集と読み込み（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
7	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
8	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
9	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
10	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
11	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
12	クリティカル・リーディング・レポートの報告に向けた論点整理	これまでのテーマにそった主要論点を整理しプレゼンの準備を行う
13	クリティカル・リーディング・レポートの報告（1）	報告に基づくプレゼンと討論（1）
14	クリティカル・リーディング・レポートの報告（2）	報告に基づくプレゼンと討論（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集、報告準備、クリティカル・リーディング・レポートの作成などは授業外で積極的に行うようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤　厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構
『日本労働研究雑誌』のバックナンバー
『労政時報』などの実務雑誌のバックナンバー

【成績評価の方法と基準】
　演習への参加と報告、およびクリティカル・リーディング・レポートの作成を評価します。
出席点 40 点　レポート 60 点とします。

【学生の意見等からの気づき】
先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
毎回担当者は担当箇所につきレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get kowledge and skill about these theme through this class.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

佐藤　厚

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、ａ）人事管理の側での働かせ方と、ｂ）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。
このテーマはさらに若年の採用と定着、仕事と生活の両立、高齢者の継続雇用、グローバル人事、非典型雇用、ホワイトカラーの成果・キャリア管理・労働時間管理、中小企業の人材育成といったサブテーマ（これらはあくまで例示です）に分割可能です。上記ａ）とｂ）をベースに受講者の関心と摺り合わせつつ柔軟なサブテーマの設定とグループ編成を考えております。
　なお、春学期では、サブテーマごとのグループ編成を行い、秋学期で予定している資料収集・ヒアリングのための基礎固めを行います。

【到達目標】
①基本的な共通テキストを読んで、演習のテーマに必要な基礎的な概念や知識の習得をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　演習のテーマはさらに若年の採用と定着、仕事と生活の両立、高齢者の継続雇用、グローバル人事、非典型雇用、ホワイトカラーの成果・キャリア管理・労働時間管理、中小企業の人材育成といったサブテーマ（これらはあくまで例示です）に分割可能です。上記ａ）とｂ）をベースに受講者の関心と摺り合わせつつ柔軟なサブテーマの設定とグループ編成を考えております。
　春学期では、サブテーマごとのグループ編成を行い、秋学期で予定している資料収集・ヒアリングのための基礎固めを行います。
　なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示します。初回授業実施日は、4 月 22 日（水曜）5 時限、6 時限とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミテーマの趣旨説明と進め方、グループ編成、テキストの指示など
2	共通基礎文献の読み込み（1）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（1）
3	共通基礎文献の読み込み（2）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（2）
4	共通基礎文献の読み込み（3）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（3）
5	共通基礎文献の読み込み（4）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（4）
6	共通基礎文献の読み込み（5）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（5）
7	共通基礎文献の読み込み（6）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（6）
8	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（1）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（1）
9	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（2）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（2）
10	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（3）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（3）
11	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（4）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（4）
12	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（5）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（5）
13	基礎文献および論点全体の振り返り	ゼミ全体を振り返りまとめを行いつつ、課題を整理する
14	課題レポートの発表と討論	基礎文献および論点を踏まえた課題レポートの発表と討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本ゼミに先だって、レジメ作成のためのサブゼミを班ごとに設定し、読み込みと論点整理、および課題の整理等を行っておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】
佐藤博樹・佐藤　厚編著『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤　厚『組織のなかでひとを育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【参考書】
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル　人事労務管理』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
演習への出席と取り組み姿勢５０％。演習の課題レポート５０％。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も
変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
　共通テキストの基本理解を深めるための討論を重視する。

【学生が準備すべき機器他】
担当者はレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get kowledge and skill about these theme through this class.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

佐藤　厚

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、ａ）人事管理の側での働かせ方と、ｂ）働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】
春学期をベースにグループテーマを設定し、仮説 → 調査 → 検証の PDCA サイクルを主体的に回す力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
秋学期では、春学期で編成したグループをベースに、サブテーマを設定し、論点の整理、資料の収集及びフィールドワークを行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各班ごとに合宿までの総括と秋学期の進め方の確認を行う
2	文献研究（１）	グループ研究 (各班)：文献レビューと問題意識の整理
3	文献研究（２）	グループ研究 (各班)：文献レビューと問題意識の整理
4	ゲストスピーカーヒアリング（１）	問題意識について聞く・聞いてもらう
5	ヒアリング調査の企画（１）	グループ研究 (各班)：訪問ヒアリングの質問紙の検討
6	ヒアリング調査の企画（２）	グループ研究 (各班)：訪問ヒアリングの質問紙の検討
7	ゲストスピーカーヒアリング（２）	問題意識について聞く・聞いてもらう
8	グループ研究のまとめ（１）	グループ研究 (各班) グループ研究のまとめとレポートの作成
9	グループ研究のまとめ（２）	グループ研究 (各班) グループ研究のまとめとレポートの作成
10	ゲストスピーカーヒアリング（３）	問題意識について聞く・聞いてもらう
11	グループ研究まとめの報告（１）	グループ研究：レポートのまとめの報告（１）
12	グループ研究まとめの報告（２）	グループ研究：レポートのまとめの報告（２）
13	ゲストスピーカーヒアリング（４）	問題意識について聞く・聞いてもらう
14	グループ研究まとめの報告（３）	グループ研究：レポートのまとめの報告（３）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　通常の演習とは別にサブゼミを班ごとに行い、文献レビューやヒアリング調査の準備をする必要があります。
　また企業への訪問とヒアリングの実施も通常の演習とは別に行う必要があります。

【テキスト（教科書）】
　とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】
佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣
佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
佐藤　厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構
佐藤　厚『組織のなかで人を育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
　演習への出席及び取り組み姿勢５０％。演習の課題レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
担当者はレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get kowledge and skill about these theme through this class.

MAN200MA

演習（ビジネス）２年生

松浦　民恵

単位数：**２単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・５**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３・４年次の演習に向けて、２年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①働き方に関する基礎的な知識を身につける
②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席、個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。
まずは基礎知識をつけることも目的として、課題図書に関するレジュメを作成頂き、授業当日に配布・説明頂きます。
共同研究の実施に向けて、先行研究サーベイや問いの設定を行います。
なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ＜３・４年生と合同＞	自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換
第 2 回	アクティブブックダイアログの解説と準備	①文献の選定 ②アクティブブックダイアログの解説 ③発表会ロジ打ち合わせ
第 3 回	課題図書に関する発表と質疑（１）	課題図書①に関する発表と質疑
第 4 回	課題図書に関する発表と質疑（２）	課題図書②に関する発表と質疑
第 5 回	３年生共同研究の論文発表 ＜３・４年生と合同＞	①３年生共同研究の論文の発表 ②ゼミ生同士と外部の社会人との意見貢献
第 6 回	共同研究の説明	①共同研究の進め方に関する説明 ②問いの立て方、調査方法に関する解説
第 7 回	共同研究の問いの設定	問いの案の発表と討議
第 8 回	図書館ガイダンス（アドバンス編）	文献サーベイのための手法の解説
第 9 回	先行研究サーベイの発表と問いの再設定	①先行研究サーベイの発表 ②問いの改訂案の発表とそれに関する討議
第 10 回	共同研究の研究計画	共同研究の研究計画の発表とそれに関する討議
第 11 回	意見交換会や発表準備	①発表資料の作成 ②ロジ打ち合わせ
第 12 回	２年生共同研究と３年生卒業論文の研究計画案に関するビジネスパーソンとの意見交換 ＜３年生と合同＞	研究計画案に関するゼミ生同士とビジネスパーソンとの意見交換
第 13 回	４年生　卒論発表（１） ＜３・４年生と合同＞	卒論の発表（前半）と質疑（社会人も含む）
第 14 回	４年生　卒論発表（２） ＜３・４年生と合同＞	卒論の発表（後半）と質疑（社会人も含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書の購読、レジュメの作成、共同研究のための発表資料の準備等が必要になります。
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
課題図書については２回目の授業で候補を提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブブックダイアログは好評につき継続します。
共同研究を前倒しでスタートします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】
基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。
2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイディアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
５・６時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。
思いを実現できる実務家を社会に送り出したいと思っております。

【Outline and objectives】
This course is designed students will obtain the knowledge of work styles in society, the fundamental skill of collecting information, explaining and discussion.
Course Objectives
① Obtain the basic knowledge of work styles
② Collect broad information and delivering it clearly about one topic
③ Consider from a variety of perspectives without believing accepted opinions

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の執筆に向けて、論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を自ら持てるように、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実践を通じて、調査の進め方についての理解を深めます。

【到達目標】
①働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
②働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、十分な理解のもとで他者に論点を提示できるようになること
③調査を企画・実践することを通じて、調査の進め方の基礎を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。 ３年生は共同研究のテーマを設定し、調査の企画・実践を行います。さらに、卒論のフレームワークづくりにもとりかかります。
なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
第 2 回	共同研究（1）問いの設定	先行研究を踏まえた共同研究の問いの設定
第 3 回	共同研究（2）調査計画	調査計画の策定とそれに関する討議
第 4 回	テーマに関するオープンディスカッション（1）	テーマ（キャッシュレス時代の若者の消費行動（仮））に関するオープンディスカッション
第 5 回	テーマに関するオープンディスカッション（2）	テーマ（組織の雰囲気の研究（仮））に関するオープンディスカッション
第 6 回	テーマに関するオープンディスカッション（3）	テーマ（生産性を向上させるオフィス環境（仮））に関するオープンディスカッション
第 7 回	共同研究（3）練り直し	問いと研究計画案の練り直し
第 8 回	共同研究（4）調査設計	共同研究の調査設計案の策定
第 9 回	共同研究（5）研究計画案の作成	①共同研究の調査設計案に関する討議 ②研究計画案のポスター作成
第 10 回	研究の進捗共有とビジネスパーソンとの対話	①研究の進捗状況の共有 ②ゼミ生同士及び外部のビジネスパーソンとの意見交換
第 11 回	共同研究（6）調査票作成	①共同研究の研究計画案の練り直し ②依頼状や調査票の案の作成
第 12 回	共同研究（7）調査実施	①依頼状や調査票の確定 ②調査の実施
第 13 回	分析、執筆に関する解説	①分析方法に関する解説 ②論文執筆に関する留意点の説明
第 14 回	共同研究（8）執筆計画	①調査結果の中間報告 ②論文構成の発表とそれに関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究のための文献サーベイや調査の実施・結果のとりまとめ等。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度よりも前倒しのスケジュールで進めたいと思います。
思いを実現できる実務家の育成に向けて、さまざまな仕掛けをしていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】
基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。
2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイディアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
５・６時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。
思いを実現できる実務家を、社会に送り出したいと思っております。

【Outline and objectives】
Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.
< Course Objectives >
1.Research academic literature related to the theme/issue related to work styles covered in the thesis
2.Explain the issue of the thesis with good understanding
3.Understand the technicalities of research through planning and practice

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（秋）

松浦　民恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
共同研究のなかで、調査結果の分析・解釈の訓練を行い、結論や示唆について考察を深めます。３年生は卒業論文の執筆に向けた具体的な準備に入ります。４年生は卒業論文を完成させます。

【到達目標】
①論文の問いの設定ができるようになること
②調査結果の分析・解釈ができるようになること
③論文を執筆する上での論理展開力を醸成すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。共同研究の分析や発表を行います。
なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休み合宿の振り返りと今後の進め方についての意見交換 ＜２年生との合同＞	①夏休み合宿の振り返り ②オリエンテーション ③論文進捗報告
2	共同研究（１）論文の完成	共同研究の論文の仕上げ作業
3	共同研究（２）振り返り	論文の振り返りとコメント
4	共同研究（３）発表資料の作成	共同研究の論文の発表資料の作成
5	共同研究（４）論文発表 ＜２年生と合同＞	①共同研究の論文の発表 ②ゼミ生同士と外部の社会人との意見交換
6	卒業論文の関する説明	①発表の振り返り ②卒業論文に関する説明
7	卒業論文の問いの設定	卒業論文の問いの案の発表とそれに関する討議
8	先行研究サーベイ	仮の問いに関する先行研究サーベイの発表
9	卒業論文の問いの練り直し	卒業論文の問いの改定案の発表とそれに関する討議
10	卒業論文の研究計画案	卒業論文の研究計画案の発表とそれに関する討議
11	卒業論文の研究計画案の練り直し	卒業論文の研究計画の改定案の発表とそれに関する討議
12	２年生共同研究と３年生卒業論文の研究計画案に関するビジネスパーソンとの意見交換 ＜２年生との合同＞	研究計画案に関するゼミ生同士とビジネスパーソンとの意見交換
13	４年生　卒論発表（１） ＜２年生との合同＞	卒論の発表（前半）と質疑（社会人も含む）
14	４年生　卒論発表（２） ＜２年生との合同＞	卒論の発表（後半）と質疑（社会人も含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究のための文献サーベイや調査の実施、発表資料の作成等。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究を昨年度より前倒しで進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】
各自が必要なアイディアをどんどん出して、主体的に改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
５・６時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。
思いを実現できる実務家を、社会に送り出したいと思っております。

【Outline and objectives】
Through this course, students will start preparing for their senior thesis.
< Course Objectives >
1.Choose an issue for the thesis
2.Analyze and interpret the survey result
3.Obtain the necessary skills for logical structuring of the thesis

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

荒川　裕子

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アート・マネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同でアート・プロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなアート・プロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
期末レポート：50 %

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】
Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アート・マネジメント、文化政策、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となります。それに伴う各回の授業計画の変更などについては、その都度「学習支援システム」に提示します。本授業の開始日は４月２３日（木）５限です。Zoom 会議の形式で行う予定ですので、「学習支援システム」の「教材」に載せたパワーポイントに提示した URL から参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じて調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてアート・プロジェクトを実施するため、企画立案から現場での遂行までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、授業評価の方法や基準も変更されます。具体的な方法や基準については、授業開始日に「学習支援システム」で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】
Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アート・マネジメント、文化政策、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】
文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同でアート・プロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。
そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などの講習会も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論／卒論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じて調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてアート・プロジェクトを実施するため、企画立案から現場での遂行までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）： 50 %
期末レポート： 50 %

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】
サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】
ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。
ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】
Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）2 年生

福井　令恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。今後の日本社会、また国際社会において、私たちは、ますます異なる社会・文化的背景をもつ人々とともに生きる必要にせまられます。その際、困難が伴う場合もあるでしょう。アイルランドやイギリスの経験は、その際の参考になると考えられます。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。
スキルとしては、文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、情報のまとめ方といったことを身につけます。

【到達目標】
以下の 4 点を到達目標とする。
1．テーマに関する基本的な知識の習得。
2．文献を読むスキルの向上（それぞれの文献の論点・エッセンスをきちんとつかむこと）。
3．必要文献の探し方の習得。
4．問題関心を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
文献講読をもとに、ディスカッション形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの進め方、ゼミでのルールを確認する。
第 2 回	レジュメのつくり方、文献の読み方	ゼミにおいて必要な、基本的なスキル——読書ノートのつくり方、報告の仕方、文献講読の基礎——を習得する。
第 3 回	基本文献講読①	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。
第 4 回	基本文献講読②	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。
第 5 回	基本文献講読③	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。
第 6 回	基本文献講読④	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。
第 7 回	基本文献講読⑤	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。
第 8 回	基本文献購読⑥	文献を読み、内容の理解を深めたうえでディスカッションをする。
第 9 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①	文献サーベイのための、文献の集め方について理解する。
第 10 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方②	論文の読み方について理解する。
第 11 回	レポートの書き方	レポートの書き方を習得する。
第 12 回	レポート準備	各自テーマを自分なりにまとめるために準備を進める。
第 13 回	発表	発表と討議をする。
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読に当たっては、毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってノートを作成した上で討論に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢　50 %
レポート等課題対応　50 %

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックを重視しつつ授業運営をすすめます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.
This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

福井　令恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】
自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかかわりの中で考えることができるようにします。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は、4 月 27 日です。
共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 春休みの進捗発表	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	イギリス・アイルランド社会の現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定をする。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行い、議論を組み立ててみる。
5	調査について学ぶ	資料に示された研究テーマからインタビューについて考える。
6	調査について考える	インタビュー内容について考える。
7	調査について学ぶ	資料に示された研究テーマから表象について考える。
8	調査について考える	図像やイメージの分析について考える。
9	研究発表①	研究構想の発表と議論
10	研究発表②	研究構想の発表と議論
11	研究テーマの進め方について計画を立てる	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する。
12	総括	まとめ、夏の課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果の発表に向けて、授業外の時間に関連文献の検索、読み込みを行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜紹介する。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示・助言します。

【成績評価の方法と基準】
出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。
レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。
＊ 3 年次の終わりにはゼミ論、また 4 年次には原則として大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆する。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.
This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

福井　令恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】
自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかかわりの中で考えることができるようにします。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 夏休みの進捗発表	演習の目的と進め方について説明する。
2	テーマの設定	調査研究の構想。
3	先行研究の検討①	発表と討議を行う（1）。
4	先行研究の検討②	発表と討論を行う（2）。
5	研究計画	研究計画を練る。
6	調査研究のデザイン	発表と討論を行う。
7	これまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
8	研究の実践①	進捗状況の報告と質疑（1）。
9	研究の実践②	進捗状況の報告と質疑（2）。
10	研究の実践③	進捗状況の報告と質疑（3）。
11	研究の実践④	テーマに関連した資料やデータを収集し、議論を組み立てる。
12	研究発表①	研究発表とディスカッション（1）。
13	研究発表②	研究発表とディスカッション（2）。
14	まとめ・総括	ゼミ全体のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜紹介する。

【参考書】
ゼミにおいて適宜提示・助言します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢　50 %
レポート等課題対応　50 %
＊ 3 年次の終わりにはゼミ論、また 4 年次には原則として大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆する。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期の段階から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】
The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspective of culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.

The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.
This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

金山　喜昭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
①「地域コミュニティ」に関する考え方を理解する。
②各地の事例をみる。
③参加者のそれぞれのテーマを実現することができるスキルや方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の進め方については、参加者と相談したうえで行う。基本的な授業の流れは、①共通するテーマに関する文献の購読、②現地見学、③プレゼンテーションと討論、④レポート作成

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の作成	具体的にゼミの進行計画を作成する
3	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
4	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
5	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
6	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
7	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
8	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
9	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
10	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。（参考図書：河野著）を元にする
11	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
12	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
13	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
14	現地見学会	授業のテーマに合わせて現地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①基本文献は事前に知らせる。発表に先立ち、（参考文献：河野、P14-29 ）の形式に則して、発表用のレジュメを用意する。
②日頃から、地域に関する関心のあるテーマについて情報収集する（新聞、文献、雑誌など）。
③見学会は日帰りとし、行先は参加者と検討する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】
金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたら―市民・地域・自治体の連携―』同成社

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【学生が準備すべき機器他】
随時使用。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

金山　喜昭

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
● 3 年生
①地域コミュニティに関する共同調査によりフィールドワークの技法を学び、コミュニケーション能力をつける。
②「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。
③参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じで自己形成をはかる。
● 4 年生
卒業論文の準備と中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、文献購読など。共同調査（夏休みの陸前高田市）の準備作業。
4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。
なお、授業の開始は 5 月 7 日にする。以後、7 月 9 日までの毎週木曜日の授業時間に実施する。当面の間、3 年生と 4 年生を分けて行います。3 年生は 13 時 30 分〜15 時。4 年生は 15 時 30 分〜17 時。授業形態は、学習支援システムを使い、発表資料などのやり取りをするとともに、ZOOM を使うことを予定しています。ZOOM を使える環境が整えば、授業は先の曜日時間帯に実施します。
資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに出す。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 18 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてる。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の計画づくり	ゼミの計画書を作成する
3	文献の購読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
4	文献の購読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
5	文献の購読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
6	現地調査の打ち合わせ準備	現地調査の調査項目と論点を確認する
7	現地調査の打ち合わせ準備	現地調査の調査項目と論点を確認する
8	現地調査	現地調査
9	現地調査	現地調査
10	現地調査	現地調査
11	現地調査	現地調査
12	現地調査の検討	調査後の成果や反省点を確認する
13	報告書作成（1）〜（2）	作成・編集作業
14	報告書作成（1）〜（2）	作成・編集作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実際にグループで調査するので授業時間だけでは足りません。曜日を決めて集まるなど、手間を惜しまずに進歩させることが肝心です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』
ゼミ調査の内容に合わせて、文献をしている。
随時コピーなどを配布する。

【参考書】
金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・自治体・地域の連携ー』。
随時コピーなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）

個人またはグループ発表（20 %）
レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【その他の重要事項】
受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。
3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。
春季は現地調査を行う。（宿泊の場合あり）
夏季休暇には合宿を行う（2 泊 3 日程度）
全員、卒業論文を提出する。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

金山　喜昭

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
● 3 年生
①「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。
②参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じで自己形成をはかる。
● 4 年生
卒業論文の準備と中間報告・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
3 年生は、説明、実地見学、文献購読など。共同調査と報告書の作成。
4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。
3 年生は、千葉県野田市の博物館運営にスタッフとして参加し、市民との協働をはかる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの設定	各自が研究テーマを検討する。
2	研究テーマの妥当性を再検討する	各自が研究テーマを再検討する。
3	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。3 回以降、順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
4	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
5	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
6	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
7	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
8	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
9	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
10	テーマに関する調査・発表・討議	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
11	小論文作成のガイダンス	これまでの作業を踏まえて、小論文作成の準備をする。
12	学生研究発表会に向けた準備	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。
13	学生研究発表会に向けた準備	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。
14	学生研究発表会に向けた準備	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
3 年生は卒業論文を踏まえて小論文の作成（学年末）。
4 年生は卒業論文の提出。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、随時指定する。

【参考書】
随時指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【その他の重要事項】
受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。
3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。
全員、卒業論文を提出する。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは “でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることのない人たちと接することを勧めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己理解・他者理解にむけたワーク１	自己や他者を理解するため、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を始める。
2	自己理解・他者理解にむけたワーク２	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を進める。
3	自己理解・他者理解にむけたワーク３	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を深める。
4	自己理解・他者理解にむけたワーク４	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解だけでなく、他者理解も行う。
5	自己理解・他者理解にむけたワーク５	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を進める。
6	自己理解・他者理解にむけたワーク６	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を深める。
7	自己理解・他者理解にむけたワーク７	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を洗練させ、整理する。
8	文献購読１	家族に関する文献を読み始め、ディスカッションを行う。
9	文献購読２	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。
10	文献購読３	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
11	文献購読４	家族に関する文献を読み、ディスカッションをさらに洗練させる。
12	文献購読５	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、さらに理解を深める。
13	総合的整理１	既読の文献を整理し、各自で見解をまとめる。
14	総合的整理２	既読の文献をまとめ、その総括的な議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways
(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることのない人たちと接することを勧めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文献購読ガイダンス	家族に関する文献を検索し、ディスカッションを行う。
2	文献購読１	家族に関する文献を実際に読み、ディスカッションを行う。
3	文献購読２	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
4	文献購読３	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、各自スピーチをする。
5	文献購読４	家族に関する文献を読み、ディスカッションしてきたことを整理する。
6	社会調査１	ゼミ生共同で１つの調査（アンケート）を行うための調査デザインを始める。
7	社会調査２	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（仮説作成）。
8	社会調査３	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（標本設定）。
9	社会調査４	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙作成）。
10	社会調査５	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙洗練）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
11	社会調査６	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
12	社会調査７	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査結果の解釈）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
13	社会調査８	ゼミ生共同で１つの調査を行うための調査デザインを進める。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
14	総合的整理	調査デザインの進展や不備を振り返り、さらに洗練させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways
(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

齋藤　嘉孝

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本では、虐待・ＤＶ、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】
次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通した将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることのない人たちと接することを勧めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査１	ゼミ生共同で１つの調査（アンケート）を行うための調査を進める。本調査に向けた手続きをする。
2	社会調査２	質問紙の整理をする。標本デザインを洗練させる。
3	社会調査３	質問紙を配布（回収）するとともに、整理・管理の仕方を学ぶ。
4	社会調査４	質問士紙の回収を終え、有効票・無効票などのチェックを行う。
5	社会調査５	データ入力の仕方を学ぶ。欠損値等の扱いについて学ぶ。
6	社会調査６	データ入力を完了させる。
7	社会調査７	データクリーニングを行う。
8	統計的分析１	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。記述統計を学ぶ。
9	統計的分析２	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を学ぶ。
10	統計的分析３	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を深める。
11	統計的分析４	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を学ぶ。
12	統計的分析５	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を深める。
13	各自報告	各自で進めた統計分析の結果を報告する。
14	総合的整理	調査結果や分析結果を整理し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways
(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

佐藤　恵

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習テーマは「自分で考える力を身につけよう！」です。
ニュース記事等をもとにしたディスカッションを通して、ゼミ生仲間の多様な意見に触れ、ものの見方の幅を広げつつ、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。
さらに、年度末の学生研究発表会に向けたグループワークにおいて、関心のある社会的・文化的テーマを選択し、データ・資料を収集しながら、中間報告・ディスカッションを行い、自分たちの考えをまとめあげていきます。

【到達目標】
ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッションを通して、自分で考え説明できる力を身につけるのとともに、グループワークにおいて自分たちでテーマを選択し、データ・資料を収集しながら、学生研究発表会に向けて考えをまとめあげることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッション、②学生研究発表会に向けたグループワーク（中間報告・ディスカッション）です。
進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきます。
現代社会についてのクールな問題意識と熱い心意気を持っている、やる気のある諸君の参加を歓迎します。
なお、演習という性格上、登録だけして出席しない「幽霊くん」も困りますが、出席だけして発言しない「お地蔵さん」も困ります。報告・ディスカッションに主体的に取り組み、お互いの意見をめぐって議論し合うことが大切です。
きちんと出席し積極的に発言しながら報告・ディスカッションに取り組む意欲、ゼミ生仲間と協調しつつ自分たちでゼミをつくっていくという自発性を期待します。
その上でわたしは、ゼミが、「勉強」の場であるのと同時に、大学における居心地のいい「居場所」でもあってほしいと願っています。いっしょに「まじめ and 楽しい」ゼミをつくっていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／テキスト購読（1）	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／テキスト購読・ディスカッション
2	テキスト購読（2）	テキスト購読・ディスカッション
3	テキスト購読（3）	テキスト購読・ディスカッション
4	レポート中間報告Ⅰ（1）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
5	レポート中間報告Ⅰ（2）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
6	レポート中間報告Ⅰ（3）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
7	ニュース記事ディスカッション（1）	ニュース記事に基づくディスカッション
8	ニュース記事ディスカッション（2）	ニュース記事に基づくディスカッション
9	ニュース記事ディスカッション（3）	ニュース記事に基づくディスカッション
10	ニュース記事ディスカッション（4）	ニュース記事に基づくディスカッション
11	レポート中間報告Ⅱ（1）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
12	レポート中間報告Ⅱ（2）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
13	レポート中間報告Ⅱ（3）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
14	まとめ・総括	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のレポート執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講後にお伝えします。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（７０％）、平常点（３０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度同様、具体的事例を通して理論をできる限り分かりやすく説明していきたいと思います。

【Outline and objectives】
The practice theme is “Develop Your Thinking Skill!”
Through discussions based on news articles, etc., students mutually share diverse opinions with other classmates, widen their scopes, and cultivate skills to form their own opinions and explain them.
Furthermore, in the groupwork for the year-end presentation, students select social and cultural themes they are interested in, collect data and materials, and form their collective opinions through interim reports and discussions.

SOC200MA

演習（ライフ）３・４年生（春）

佐藤　恵

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。
社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、ゼミ論（３年次）、卒論（４年次）を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】
（１）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（２）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（３）ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
2020 年 4 月 20 日追記
春学期はオンラインでの開講となります。
学習支援システムに資料を掲示し、資料の理解度や自習の成果を小レポート等の課題で確認するといった方法で、オンライン授業を実施します。ゼミという授業の特性に応じて、Zoom 等を用いたリアルタイム配信型授業も取り入れていきます。
初回授業日は５月４日（月）です。
成績評価方法は変更ありませんが、「平常点」は小レポート等とします。

演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表・全体ディスカッション、②テキスト購読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。
進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、休日出校（２日程度［土休日］）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション：春学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト購読（１）	社会の中の人間、集団と個人
3	テキスト購読（２）	文化と価値
4	テキスト購読（３）	システムと生活世界
5	テキスト購読（４）	場面と対面
6	テキスト購読（５）	変容する家族
7	テキスト購読（６）	都市の人間関係
8	テキスト購読（７）	階層移動と学歴
9	テキスト購読（８）	逸脱と社会変動
10	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（１）	研究における問いという観点から
11	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（２）	仮説構成という観点から
12	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（３）	調査の方法という観点から
13	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（４）	データの整理・分析という観点から
14	春学期総括	春学期ゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、構想発表に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講後にお伝えします。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ論・卒論の達成度（５０％）、ゼミ活動への参加、平常点（５０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度までと同様に、具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきたいと思います。

【Outline and objectives】
The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”
Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.
As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

SOC200MA

演習（ライフ）３・４年生（秋）

佐藤　恵

単位数：**２単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・６**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。
社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、ゼミ論（３年次）、卒論（４年次）を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】
（１）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（２）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（３）ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表・全体ディスカッション、②テキスト購読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。
進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、休日出校（２日程度［土休日］）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論完成に向けたオリエンテーション：秋学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト購読（１）	意味と相互主観性
3	テキスト購読（２）	社会的アイデンティティ
4	テキスト購読（３）	ラベリング・スティグマ、正常／異常
5	テキスト購読（４）	社会構築主義
6	テキスト購読（５）	ジェンダー
7	テキスト購読（６）	社会の中の権力
8	テキスト購読（７）	共同体、国家、市民社会
9	テキスト購読（８）	移民、国民国家、グローバル化
10	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（１）	問題意識の明確化を中心に
11	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（２）	論理整合性・ストーリーラインを中心に
12	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（３）	学術的意義・独自性を中心に
13	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（４）	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に
14	年間総括	１年間のゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講後にお伝えします。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ論・卒論の達成度（５０％）、ゼミ活動への参加、平常点（５０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度までと同様に、具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきたいと思います。

【Outline and objectives】
The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”
Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.
As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

田中　研之輔

単位数：**２単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・５**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland’s theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all? An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、期末レポートや講義内課題（30 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

田中　研之輔

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all? An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、期末レポートや講義内課題（30 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

田中　研之輔

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】
①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べることができるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。
尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（70 %）、期末レポートや講義内課題（30 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】
＊ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

趙　宏偉

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミの名は「現代中国と東アジア研究会」です。ゼミは国際政治経済学と国際文明学の視点から、広く中国論、アジア論、日本と中国並びに日本人と中国人とアジアに生きる人々が絡み合いながら歩んできた道と歩んでゆく道の政治・経済・文明・国際キャリアデザインを演習の研究課題とします。受講生はアジアという広い分野の中でそれぞれ関心を持つ具体的な課題を見付けて研究し、趙宏偉は皆さんをサポートします。合宿は 7 月に 2 泊 3 日、2 月に 1 泊 2 日 2 回行います。

【到達目標】
各自は自分が決めた研究テーマの研究を完成し、卒業時に研究成果を卒業論文に仕上げて提出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
趙宏偉は中国人で、留学生として来日し、東京大学大学院で博士号を取得してから、大学教員になり今日に至ります。専攻は政治学、国際関係学で、主に国際政治経済学と国際文明学の視点から中国、日本を含むアジアを研究しています。
私達は国際化している社会、言い換えれば国際社会の中で生きています。国際社会の中での人間の生き方、そして人間の集まりである国の生き方、さらに人間味のある国際社会の仕組みのあり方、言い換えれば国際社会とキャリアデザインは、このゼミの研究意識です。
2 年生（秋学期から）、3 年生、4 年生は同じ時間に同じ教室で一緒に受講し、ゼミ活動を行います。2 年生と 3 年生は学術文献の学習、3 年生は年次研究レポートの取り組み、4 年生は卒論の研究と作成をそれぞれ主な演習課題とします。3 学年の学生は学びあい、助けあい、ゼミを作っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	課題や進め方等
2	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
3	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
4	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
5	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
6	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
7	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
8	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
9	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
10	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

11	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
12	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
13	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
14	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
開講時に指示、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
開講時に指示

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加に 20 点、授業への貢献度を求め 30 点、年度レポートまたは卒論に 50 点、合計 100 点で、総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
日本の時事、国際時事への理解を高めること。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
履修の条件、学生への要望など
① 2 年次（秋学期）と 3 年次と 4 年次で続けて履修することを条件とします。
② 月曜日と木曜日に開講される趙宏偉の講義「国際関係論Ⅰ・Ⅱ（国際社会のしくみと人間Ａ・Ｂ）」と「アジア社会論Ⅰ・Ⅱ（アジアのコミュニティと文化Ⅰ・Ⅱ）」を、通年で履修することを推奨します。
③ ゼミの授業と合宿を遅刻、欠席してはいけません。
④ ゼミの授業時間は木曜日 5 限（16 時 50 分～）と 6 限です。さまざまなゼミ活動も基本的に木曜日の夕方に行われますので、この時間帯に他授業やバイトや用事などを入れずに時間を空けておくことを要求します。
⑤ 毎年 10 月に、恒例のゼミ OBOG も参加する BBQ 大会があり、現役ゼミ生は全員参加します。

【就業力効果】
この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
In the seminar, a research topic of various phenomena such as politics, economics, society, culture, international career design, etc. in the way that Japan, China, Asian countries, Japanese, Chinese and Asian people have entered while intertwining. Each student finds and studies specific subjects that are interested, and strives to improve thinking ability and acquire problem solving methods.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

趙　宏偉

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミの名は「現代中国と東アジア研究会」です。ゼミは国際政治経済学と国際文明学の視点から、広く中国論、アジア論、日本と中国並びに日本人と中国人とアジアに生きる人々が絡み合いながら歩んできた道と歩んでゆく道の政治・経済・文明・国際キャリアデザインを演習の研究課題とします。受講生はアジアという広い分野の中でそれぞれ関心を持つ具体的な課題を見付けて研究し、趙宏偉は皆さんをサポートします。ゼミ合宿は 7 月に 2 泊 3 日、2 月に 1 泊 2 日行います。

【到達目標】
各自は自分が決めた研究テーマの研究を完成し、卒業時に研究成果を卒論に仕上げて提出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
趙宏偉は中国人で、留学生として来日し、東京大学大学院で博士号を取得してから、大学教員になり今日に至ります。専攻は政治学、国際関係学で、主に国際政治経済学と国際文明学の視点から中国、日本を含むアジアを研究しています。
私達は国際化している社会、言い換えれば国際社会の中で生きています。国際社会の中での人間の生き方、そして人間の集まりである国の生き方、さらに人間味のある国際社会の仕組みのあり方、言い換えれば国際社会とキャリアデザインは、このゼミの研究意識です。
2 年生（秋学期から）、3 年生、4 年生は同じ時間に同じ教室で一緒に受講し、ゼミ活動を行います。2 年生と 3 年生は学術文献の学習、3 年生は年次研究レポートの取り組み、4 年生は卒論の研究と作成をそれぞれ主な演習課題とします。3 学年の学生は学びあい、助けあい、ゼミを作っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	進め方や課題など
2	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
3	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
4	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
5	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
6	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
7	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
8	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
9	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
10	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

11	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
12	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
13	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
14	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート＆卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
開講時に指示、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示

【参考書】
開講時に指示

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加に 20 点、授業への貢献度を求め 30 点、年度レポートまたは卒論に 50 点、合計 100 点で、総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
日本の時事、国際時事への理解を高めること。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
履修の条件、学生への要望など
① 2 年次（秋学期）と 3 年次と 4 年次で続けて履修することを条件とします。
② 月曜日と木曜日に開講される趙宏偉の講義「国際関係論Ⅰ・Ⅱ（国際社会のしくみと人間Ａ・Ｂ）」と「アジア社会論（アジアのコミュニティと文化Ⅰ・Ⅱ）」を、通年で履修しなければなりません。
③ ゼミの授業と合宿を遅刻、欠席してはいけません。
④ ゼミの授業時間は木曜日 5 限（16 時 50 分～）と 6 限です。さまざまなゼミ活動も基本的に木曜日の夕方に行われますので、この時間帯に他授業やバイトや用事などを入れずに時間を空けておくことを要求します。
⑤ 毎年 10 月に、恒例のゼミ OBOG も参加する BBQ 大会があり、現役ゼミ生は全員参加します。

【就業力効果】
この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
In the seminar, a research topic of various phenomena such as politics, economics, society, culture, international career design, etc. in the way that Japan, China, Asian countries, Japanese, Chinese and Asian people have entered while intertwining. Each student finds and studies specific subjects that are interested, and strives to improve thinking ability and acquire problem solving methods.

SOC200MA

演習（ライフ）2 年生

安田　節之

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5** ｜ 配当年次：**2～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習（ゼミ）の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この 2 つの柱をもとに，どのような人間の行動や心理が「社会のなかでより良く生きる（live a good life），よい人生を送る」ことと関連するのか，つまり「ライフキャリアの質」を高めることにつながるのかについて検討します。そして，どのような取り組み（プログラム）がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。

【到達目標】
① 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
② 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因 (問題) の分析が行えるようになる。
③ 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び，研究していく形で全く問題ありません。ただ，そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく，より広く社会の関心事（例：社会課題）であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように，つまり “そんなことが分かってどうするのか（so what?）” あるいは “そんなことを研究して何になるのか（for what?）” とならないように，できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み，個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また 3 年生と共同で調査データの収集・分析を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	ライフキャリア支援とは①	ライフキャリア支援の考え方について学ぶ。
第 3 回	ライフキャリア支援とは②	コミュニティ心理学の視点からライフキャリア支援について学ぶ。
第 4 回	ライフキャリア支援とは③	ライフキャリア支援のプログラム評価について学ぶ。
第 5 回	個人研究テーマの検討と共有①	現段階で関心のある個人研究テーマについて発表する。
第 6 回	個人研究テーマの検討と共有②	対象となる社会課題の現状を知る。
第 7 回	個人研究テーマの検討と共有③	課題解決のために実施されているプログラムの概要を学ぶ。
第 8 回	調査研究の理解①	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ（課題設定）。
第 9 回	調査研究の理解②	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ（方法論検討）。
第 10 回	調査研究の理解③	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ（データ収集準備）。
第 11 回	調査研究の理解④	3 年生と合同で調査データ（質的・量的）を収集し，調査研究の方法を実践的に学ぶ（まとめ）。
第 12 回	個人研究テーマの検討と共有④	3 年次の春学期からの個人研究テーマの集中的な検討に向けて，2 年次での自身の研究関心を再確認する（発表①）。
第 13 回	個人研究テーマの検討と共有⑤	3 年次の春学期からの個人研究テーマの集中的な検討に向けて，2 年次での自身の研究関心を再確認する（発表②）。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を活用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。また課題図書 (テキスト) は授業時に検討・決定する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために (ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（60 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

【Outline and objectives】
The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good live in the future.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

安田　節之

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの分析を行う。またキャリアデザインに関する量的調査研究の計画・実施・分析方法を学ぶ。

【到達目標】
① 各自が関心をもつプログラムの分析・評価スキルを習得する。
② 量的調査研究の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　この授業 (演習) では、各自の研究テーマに沿ったプログラムの分析を行う。２年次に行った社会課題の分析を通して、課題解決に向けたプログラムのゴールの明確化を行う。そして、各自のプログラムのロジックモデルを完成させる。
　またキャリアデザインの調査研究の演習として、グループで量的調査を計画・実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	個人研究テーマの検討と共有①	２年次に検討した社会課題の分析結果をもとに、プログラムのゴールの明確化とロジックモデルの作成を行い、ゼミで共有する。
第 3 回	個人研究テーマの検討と共有②	２年次に検討した社会課題の分析結果をもとに、プログラムのゴールの明確化とロジックモデルの作成を行い、ゼミで共有する。
第 4 回	個人研究テーマの検討と共有③	２年次に検討した社会課題の分析結果をもとに、プログラムのゴールの明確化とロジックモデルの作成を行い、ゼミで共有する。
第 5 回	ライフキャリア調査研究の検討①	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 6 回	ライフキャリア調査研究の検討②	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 7 回	ライフキャリア調査研究の検討③	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 8 回	ライフキャリア調査研究の実施①	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 9 回	ライフキャリア調査研究の実施②	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 10 回	ライフキャリア調査研究の実施③	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 11 回	ゼミ報告①	調査実施およびデータ分析の結果を報告する。
第 12 回	ゼミ報告②	調査実施およびデータ分析の結果を報告する。
第 13 回	ゼミ報告③	調査実施およびデータ分析の結果を報告する。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人の研究テーマ (プログラム評価の準備) に関しては、ゼミ以外の時間 (個人学習やサブゼミ活用) で継続的に進め、「個人研究テーマの検討と共有④ (第 11 回〜第 13 回)」においてしっかりとプレゼンテーションできるようにしてください。また 4 年生は、秋学期での卒業論文完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために (ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（60 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
Students will acquire knowledge and skills to develop and evaluation life-designing programs in this seminar. Particular attention will be placed on helping students to develop quantitative-analytic techniques to conduct related research studies.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（秋）

安田　節之

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの評価を実施し、卒業論文の執筆準備 (3 年生) および執筆 (4 年生) を行う。

【到達目標】
① 継続的に分析を行ってきたライフキャリア支援のプログラムの評価の計画・実施スキルを習得する。
② 評価データの収集と結果の分析・考察方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各自が関心をもつ社会課題とその解決を目的として実施されるプログラムの評価研究を行う。そのために、評価実施のスケジュールを作成し、ゼミでのディスカッションを通して評価内容や評価方法を検討する。評価のスケジュールに沿って質的・量的データを収集し、分析を行う。そして卒業論文の執筆の準備を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	個人研究テーマの検討と共有①	各自の調査実施のスケジュールを検討し、ゼミで共有する（個人発表①）。
第 3 回	個人研究テーマの検討と共有②	各自の調査実施のスケジュールを検討し、ゼミで共有する（個人発表②）。
第 4 回	個人研究テーマの検討と共有③	各自の調査実施のスケジュールを検討し、ゼミで共有する（個人発表③）。
第 5 回	個人研究テーマの検討と共有④	調査実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う (個人発表④)。
第 6 回	個人研究テーマの検討と共有⑤	調査の実施スケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う (個人発表⑤)。
第 7 回	調査・プログラム評価の実施①	調査の実施スケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況について報告する（①）。
第 8 回	調査・プログラム評価の実施②	調査の実施スケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況について報告する（②）。
第 9 回	調査・プログラム評価の実施③	評価の実施スケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況について報告する（③）。
第 10 回	調査結果の分析と考察の執筆①	各自で収集した評価データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う（①）
第 11 回	評価結果の分析と考察の執筆②	各自で収集した評価データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う（②）
第 12 回	評価結果の分析と考察の執筆③	各自で収集した評価データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う（③）
第 13 回	評価結果の分析と考察の執筆④	各自で収集した評価データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う（④）。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマをゼミの時間以外でも継続的に進めてください。また 4 年生は卒業論文の完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために (ワードマップ)」(安田節之，2011，新曜社)

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表（60%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミでのグループ作業と個人の研究指導とのバランスをとる。

【Outline and objectives】
Students are to prepare individual research studies (junior) and complete their thesis (senior) throughout this seminar.

SOC200MA

演習（ライフ）２年生

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について理解し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
2 年生のゼミでは、3 年生以降に各自で研究を行うのに必要となる基礎的的知識を身につけるため、社会心理学の文献・論文を読み、ディスカッションを通じて知識とスキルの共有を図ります。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学の基礎知識①	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 3 回	社会心理学の基礎知識②	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 4 回	社会心理学の基礎知識③	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 5 回	研究論文の読み方①	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 6 回	研究論文の読み方②	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 7 回	研究論文の読み方③	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 8 回	研究論文の読み方④	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 9 回	研究論文の読み方⑤	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学的研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文化の仕方についての知識を獲得します。
第 10 回	研究の再現①	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 11 回	研究の再現②	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 12 回	研究の再現③	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 13 回	研究の再現④	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第 14 回	まとめ	これまでの成果を振り返り、３年次以降の研究の進め方について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will learn introduction of social psychology, how to read journals and to design studies.

SOC200MA

演習（ライフ）3 年生（春）

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本年度は 5 月 6 日より授業を開始します。実施方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、随時確認して下さい。
3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 3 回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表①	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表②	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表③	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表④	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表⑤	専研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表⑥	専研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表⑨	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表⑪	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】
In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

SOC200MA

演習（ライフ）3 年生（秋）

熊谷　智博

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・6**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】
ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本年度は 5 月 6 日より授業を開始します。実施方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、随時確認して下さい。
3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の実施・発表①	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 3 回	社会心理学研究の実施・発表②	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表③	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表④	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表⑤	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表⑨	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表⑪	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表⑫	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表⑬	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】
授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】
In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

遠藤　野ゆり

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他** ｜ 配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質の高い卒業論文を書きます。
データを収集する方法、根拠を示しながら論理的に読者を説得する力を習得します。考えを文章でまとめ、わかりやすく表現する能力を習得します。

【到達目標】
明確な問いを立ててそれに対する適切なデータ・資料を収集し価値ある考察をする。それを文章で適切に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
報告とディスカッションの繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒業論文構想発表会Ⅰ	卒業論文の構想を発表します。
2-3	データ収集	各自でデータ収集
4-7	成果発表	懸賞論文と卒業論文の進捗状況を報告し合い今後の進め方等についてディスカッションします。
8	卒論構想発表会Ⅱ	卒業論文の構想を発表します。
9-13	成果発表	懸賞論文と卒業論文の進捗状況を報告し合い今後の進め方等についてディスカッションします。
14	総括	総括と懸賞論文の仕上げをします。
15	懸賞論文の評価	懸賞論文の総括をし今後の論文構想を最終確認します。
16-27	成果発表	卒業論文の進捗状況を報告し合い今後の進め方等についてディスカッションします。
28	提出	提出物を完成させ確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データを取り卒業論文を執筆する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文

【学生の意見等からの気づき】
アンケートからは特に要望はありませんが、受講生の要望を応じて柔軟に対応します。

【Outline and objectives】
This class aims to write a high quality thesis.
The aims are to learn how to collect data, to gain the ability to persuade the reader logically with evidences. We will compile sentences with ideas and master the ability to express them clearly.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

児美川　孝一郎

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に沿って，各ステップごとに指導していく。先行研究の調査，データ分析方法，およびインプリケーションの捉え方等，具体的に指導していく。

【到達目標】
卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「授業のテーマ」「授業の到達目標」を参照

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
3	研究方法の概説②	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
4	研究方法の概説③	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
6	テーマの設定②	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
9	先行研究の調査②	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
10	先行研究の調査③	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	先行研究の調査④	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
12	先行研究の調査⑤	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
14	研究計画の確定②	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
15	調査データの整備①	調査データの収集，データベース化を行う。
16	調査データの整備②	調査データの収集，データベース化を行う。
17	調査データの整備③	調査データの収集，データベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	検証仮説等について再検討を行う。
19	検証仮説の検討②	検証仮説等について再検討を行う。
20	検証仮説の検討③	検証仮説等について再検討を行う。
21	分析の実施①	仮説およびデータを用いて分析を行う。
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。
23	論文執筆①	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	ゼミにおいて論文を発表し，寄せられた意見を踏まえて，論文をリファインする。
27	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し，寄せられた意見を踏まえて，論文をリファインする。
28	リファインの作業③	ゼミにおいて論文を発表し，寄せられた意見を踏まえて，論文をリファインする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に，3 年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み，および論文の内容を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを生かして，卒業論文指導を行う。

【Outline and objectives】
This course gives guidance for writing graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

坂本　旬

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★新型コロナ対応のため、授業の詳細は授業の中で伝えます。
３年間の学習成果を論文執筆または映像作品の制作
受講生は卒業論文の執筆または卒業制作として映像作品を制作する。

【到達目標】
３年間の学習成果をふまえ、自己の問題意識をよりいっそう高めて、学問的社会的に価値のある論文の執筆または映像作品を制作すること。（要件等については「履修の手引き」参照。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒論指導は原則として月曜５限または６限目を中心に行う。（３年ゼミに重ならないように調整）。卒論は論文またはドキュメンタリー映像作品 (ドキュメンタリードラマも含む) のいずれかとする。どちらを選ぶか、あらかじめ選択しておくこと。
「演習（発達・教育）」および「キャリア総合演習」を履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学習方法を解説する
2	卒論の書き方・作品の作り方 (1)	メディアを活用した基本的な論文の書き方と映像作品の作り方
3	卒論の書き方・作品の作り方 (2)	テーマの決め方と論文・映像の構成
4	卒論の書き方・作品の作り方 (3)	仮のテーマを決める
5	卒論の書き方・作品の作り方 (4)	さまざまな情報収集の方法（Evernote の活用法）
6	卒論の書き方・作品の作り方 (5)	OPAC による書誌情報の収集の仕方
7	卒論の書き方・作品の作り方 (6)	各種のオンラインデータベースの使い方
8	卒論の書き方・作品の作り方 (7)	RefWorks 等を活用した情報を管理方法
9	卒論の書き方・作品の作り方 (8)	アウトラインプロセッサーを活用した論文や作品の構成の作り方
10	卒論の書き方・作品の作り方 (9)	情報共有のための GoogleDocs の使い方
11	テーマの設定と構成 (1)	論文や作品のテーマの設定
12	テーマの設定と構成 (2)	テーマに関する事前情報の収集と構成
13	テーマの設定と構成 (3)	問題意識を整理して文章にまとめる
14	テーマの設定と構成 (4)	論文に必要な情報のリストをまとめる
15	テーマの発表	テーマを発表し、いろいろな人の意見を聞く（夏合宿）
16	情報の収集と構成 (1)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
17	情報の収集と構成 (2)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
18	情報の収集と構成 (3)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
19	情報の整理と執筆・撮影の準備	収集した情報をパソコンに取り込んで整理し、執筆や撮影に備える
20-28	執筆（撮影・編集）～完成	完成に向けた論文の執筆（映像の場合は撮影・編集）と個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論・卒業作品は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
構成、引用・参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
論文・卒業作品のテーマはできるだけ早めに決めること。

【学生が準備すべき機器他】
論文作成にはパソコンを用いる。ドキュメンタリー作品の制作については、DV カメラとパソコンを用いる。

【その他の重要事項】
ドキュメンタリービデオを卒論として選択する場合、ビデオ制作は一人一作品とするが、制作過程にゼミ生同士が協力し合うことは可とする。一作品の長さは一人で制作する場合 15～20 分程度。複数人で制作する場合はこの数字に人数をかけたものとなる。
また、ビデオ作品は、映像制作の意図を含む企画書、シナリオ（絵コンテ）、ナレーション原稿、参考文献一覧表、制作記録、等を含め、1 万 2000 字以上の文字原稿を付けて一つの作品とみなす。ビデオだけでは作品と見なさないので、注意すること。
その他の詳細については、卒論指導時に紹介する。

【Outline and objectives】
To write graduation thesis or produce graduation video appropriately

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

笹川　孝一

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文作成を行うとともに、それを通して調査研究、論文作成、発表、意見交換のスキルを向上させ、実社会での仕事に備える。

【到達目標】
1）3 年生から継続して研究している人物のキャリアについて、さらに研究を深め、卒業論文を作成する。
2）調査研究、論文作成、発表、意見交換のスキルを向上させ、実社会での仕事に備える。
3）以上によって、法政大学キャリアデザイン学部で学んだ自分の人生について、誇りを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1） 卒業論文の書き方について、教員が講義をする。
2） 卒業論文作成の計画を作る。
3） 研究作業を進める。
4） 中間発表会を行う。
5） 中間検討合宿を実施する。
6） 卒業論文を完成させ、提出する。
7） キャリアデザイン学部学生研究発表会で成果を発表し、レポート集を作る。
8） 学生によるグループワークと教員による個人面談を必要に応じて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文の位置づけと方法	大学教育における卒業論文の位置と具体的方法について説明する。
第 2 回	１２００字レポートの検討①	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。①
第 3 回	１２００字レポートの検討②	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。②
第 4 回	１２００字レポートの検討③	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。③
第 5 回	１２００字レポートの検討④	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。④
第 6 回	１２００字レポートの検討⑤	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。⑤
第 7 回	１２００字レポートの検討⑥	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。⑥
第 8 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック①	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。①
第 9 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック②	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。②
第 10 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック③	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。③
第 11 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック④	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。④
第 12 回	執筆状況のチェック①	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。⑤
第 13 回	執筆状況のチェック②	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。⑥
第 14 回	夏の課題検討①	一人ひとりが夏の課題とスケジュールを明確にする。①
第 15 回	夏の課題の振り返り	一人ひとりの夏の課題の成果を振り返り、討論する
第 16 回	執筆から提出までの道のりについて講義する。	提出に至るまでの具体的作業とスケジュールについて説明する。
第 17 回	執筆状況のチェック１－①	一人ひとりに即して発表し、検討する。①
第 18 回	執筆状況のチェック１－②	一人ひとりに即して発表し、検討する。②
第 19 回	執筆状況のチェック１－③	一人ひとりに即して発表し、検討する。③
第 20 回	卒論合宿の準備	卒論中間発表合宿の準備を行う。
第 21 回	卒論合宿の振り返りと今後の課題	実施した合宿についてふりかえる。
第 22 回	執筆状況のチェックⅡ－①	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。①
第 23 回	執筆状況のチェックⅡ－②	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。②
第 24 回	執筆状況のチェックⅡ－③	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。③
第 25 回	執筆状況のチェックⅡ－④	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。④
第 26 回	執筆状況のチェックⅡ－⑤	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。⑤
第 27 回	執筆状況のチェックⅡ－⑥	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。⑥
第 28 回	執筆状況のチェックⅡ－⑦	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。⑦

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の研究対象に即して資料収集、分析、年表作成、章節建て、執筆、書き直し作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川「キャリアデザイン研究における人物研究の位置と方法について」

【参考書】
本多勝一『日本語作文の技術』朝日文庫

【成績評価の方法と基準】
・卒論計画作成
・計画に基づく調査研究、執筆の実施
・中間報告会等への参加
・卒業論文の内容と形式をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・卒論の書き方についての講義
・調査研究能力向上
・とくに学術文献検索の方法
・添削
以上の指導を向上させたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ワード、パワーポイント、エクセル
・プロジェクター操作
・ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】
・キャリアデザイン学部での勉学の集大成に相応しい、質量の卒論作成を “学問共同体” として進めたい。
・卒業論文や進路選択の点で、先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。

【Outline and objectives】
In this course,students write a thesis about career studies.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

高野　良一

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次に、個人のプロジェクト学習 (Project Based Learning,PBL) のまとめとして小論文を作成しました。これを発展的に継承し、4 年次の PBL を進めて、卒業論文の完成をめざします。

【到達目標】
プロジェクト学習のスキルに習熟しながら、「学校から社会・職業へ」の最終盤の 1 年間を通じて、実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的スキル（KJ 法、トゥールミン・モデル等）の形成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
個人のプロジェクト学習ですが、節目（チェックポイント）ごとに受講生全員での相互検討会を開催します。教員による指導は、適宜、集団的および個別的に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論ガイダンス	卒論を書く意義やプロセス、様式などの解説
2	3 年次プロジェクト・レポートの発表	各個人のプロジェクト・レポートの発表と相互討論
3	3 年次プロジェクト・レポートの発表（続）と講評	各個人のプロジェクト・レポートの発表と相互討論、全体講評
4	PBL を再学習する（1）	鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』の抜粋講読
5	PBL を再学習する（2）	鈴木敏恵著の抜粋講読
6	トゥールミン・モデルを学ぶ（1）	佐宗邦威『直感を論理につなぐ思考法』の抜粋講読（入門編、初級編）
7	トゥールミン・モデルを学ぶ（2）	佐宗邦威著の抜粋講読（中級編、実践編）
8	テーマ及び趣旨の個人発表	卒論執筆の最初の PBL シート（v.1）に基づく発表会
9	テーマ及び趣旨の個人発表（続）と講評	PBL シート（v.1）の発表会、全体講評、今後の進め方
10	先行研究やデータの収集を学ぶ：インターネット検索	PBL シート（v.1）を充実させる資料検索と訪問・調査先のリストアップ
11	先行研究やデータの収集を学ぶ：図書館利用案内	図書資料の検索
12	論文作成計画の立案	PBL シート V.2 の作成
13	論文作成計画の指導	PBL シート V.2 の個別（あるいはグループ）指導
14	論文作成計画の相互交流	各自の論文作成計画からの学び合い
15	夏休みの論文作成作業の確認	夏のゼミ合宿での発表に向けた卒論作成作業の発表
16	卒論の中間報告会	秋学期の冒頭のゼミ合宿での個人発表と相互交流
17	卒論の中間報告会（続）と講評	個人発表、相互交流および全体講評
18	途中経過に対するグループ指導	類似したテーマや領域別のグループ指導
19	途中経過に対するグループ及び個人指導	類似したテーマや領域別のグループ指導、必要に応じた個人指導も含む
20	論文執筆スキルを学ぶ（1）	戸田山和久『新版　論文の教室』１，２章
21	論文執筆スキルを学ぶ（2）	戸田山和久著（3章）
22	ゼミ OB/OG の卒論に学ぶ	2 つほど卒論を取り上げてテーマ設定と構成を学ぶ
23	ゼミ OB/OG の卒論に学ぶ（続）	図表や引用などの仕方を学ぶ
24	最終段階の個別指導（1）	テーマと構成を主として指導
25	卒論の最終報告会	類似したテーマや領域ごとの個人報告会（2，3，4年全体）
26	卒論の最終報告会（続）	類似したテーマや領域ごとの個人報告会（2，3，4年全体）
27	最終段階の個別指導（2）	文書表現や引用などを中心とした指導
28	論文提出に向けた個別指導	必要とする個人への指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文に結実する個人のプロジェクト学習は、ゼミ時間内での発表や協働学習、教員の集団および個別指導と並行しながら、授業外でのデータ収集や論文の読み込みなどの学習活動が大きな比重を占めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜、紹介します。

【参考書】
鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
佐宗邦威『直感と論理をつなぐ思考法』ダイヤモンド社
戸田山和久『新版　論文の教室』NHK 出版

【成績評価の方法と基準】
プロジェクト学習が進行する過程でのチェックポイントでの実績と、完成した論文の内容を総合的に勘案して評価します。チェックポイントとは、春学期のテーマ及び趣旨の発表、夏休み合宿での中間報告、秋学期の途中及び最終経過報告です。

【学生の意見等からの気づき】
自らの問題意識を「見える化」・客観化するアカデミック・スキルの形成に努めたい。

【Outline and objectives】
The objectice of this class is to write up a graduation thesis through an individual project- based learning(PBL) which is based on the third year's PBL.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

田澤　実

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に沿って，それぞれの段階に応じて指導していく。先行研究の調査，データ分析方法，およびインプリケーションの捉え方等，具体的に指導していく。

【到達目標】
卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「授業の到達目標及びテーマ」を参照

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒論執筆が大学における学びについてどのように位置づくのか説明する。
第 2 回	テーマ特定	卒論で扱うテーマについてキーワードを探す。
第 3 回	先行研究のレビュー（1）	キーワードが確定したら、そのキーワードで先行研究を探し、まとめる。まずは新聞等の記事の探し方を扱う。
第 4 回	先行研究のレビュー（2）	キーワードで先行研究を探し、まとめる。該当する書籍や論文等の探し方を扱う。
第 5 回	計画発表（1）	卒論を執筆するうえで、研究枠組みと今後の研究計画を発表する。
第 6 回	計画発表（2）	実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
第 7 回	計画発表（3）	発表を通じて、さらに調べるべきキーワードの有無を確認する。
第 8 回	文献レビュー（1）	そのテーマを扱う意義についてイントロダクションを考える。
第 9 回	文献レビュー（2）	そのテーマの先行研究で明らかになっている範囲をまとめる。
第 10 回	文献レビュー（3）	先行研究で明らかになっていないことや、問題点を探る。
第 11 回	文献レビュー（4）	問題点をクリアするためには、どのような研究アプローチが必要かを考える。
第 12 回	文献レビュー（5）	卒論の目的の詳細を詰める。
第 13 回	予備調査の計画	データ収集に向けて、具体的な方法を検討する。
第 14 回	中間レポート発表	予備調査の実施計画を含めて発表する。
第 15 回	予備調査の実施	予備調査を実施することにより本調査の見通しを立てる。
第 16 回	中間発表（1）	予備調査の結果を踏まえて発表する。質疑応答を行う。
第 17 回	中間発表（2）	他者の発表も聞くことにより自らの研究の位置づけを相対化する。
第 18 回	中間まとめ	自らの発表や他者の発表を聞き、卒論の構成の修正を検討する。
第 19 回	分析の実施（1）	データ入力の方法について扱う
第 20 回	分析の実施（2）	分析のために形式を参考にする論文や書籍を探す
第 21 回	分析の実施（3）	具体的な分析の仕方について扱う
第 22 回	分析の実施（4）	結果について見通しを立てる
第 23 回	論文執筆（1）	問題と目的を中心に扱う
第 24 回	論文執筆（2）	方法を中心に扱う
第 25 回	論文執筆（3）	結果と考察を中心に扱う
第 26 回	卒論経過発表（1）	ゼミ内で発表、質疑応答を行う。最終仕上げの前に位置づけを明らかにしていく。
第 27 回	卒論経過発表（2）	ゼミ内で発表、質疑応答を行う。他者の発表も聞くことにより自らの研究の位置づけを相対化する。
第 28 回	卒論口頭発表	完成した卒論について発表し合う。質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 年秋学期に執筆するゼミ論が卒論の一部になることがある。
ゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。
卒論のテーマによっては上記のスケジュールが変更になることがある（データの性質上、入手可能な時期が限定される場合など）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
積極的参加 3 割、成果物 7 割にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて随時話し合いをしてきた。今年度もそれを継続する。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be
able to do the following:
· Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,
· Apply theories or findings to real world situations.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

筒井　美紀

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育・生活・文化・労働・政策の、少なくともいずれか１つをテーマとして、社会学の卒業論文を完成させる。

【到達目標】
「嗚呼、その答えが知りたい！」と読者に思わせ、社会的意義のある、かつ、学術論文の型・作法をマスターした「美しい」、内容の濃い、社会学の卒業論文を書き上げること、それがこの演習のゴールである。そのプロセスであなたは、より高次の精神性をもって生きてゆくことの意味を実感するだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　学術論文を書き上げるには、実にたくさんの作業をこなし、そのなかで習熟していくことが不可欠である。それゆえ筒井ゼミでは、「仕上がった学術論文・本ってのはこういうものなのだな」という、「美しい完成品」の「審美眼（どうやって組み立てられ、何が部材として使われているから素晴らしいのかの理解）」を養う。卒論執筆は、「じゃあ自分も一丁やってみるか」とそれを実践に移すものだ。怒涛のような作業のなかで、自分の初発の問題関心とセンスを信じて失わずに続けられるか。我流では難しい。だから適宜アドバイスする。その大前提は自力でどんどん進めることだ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究計画の発表①	「学術論文 7 つの構成要素」の①～⑤を盛り込んで書き、それを発表する。
2	研究計画の発表②	前回続き。リファインする。ゴーサインが出次第、実査に入る。
3	研究計画の発表③	前回続き。リファインする。
4	研究計画の発表④	前回続き。リファインする。
5	分析結果の発表と検討①	データ分析・知見・考察の検討。
6	分析結果の発表と検討②	データ分析・知見・考察の検討。
7	分析結果の発表と検討③	データ分析・知見・考察の検討。
8	分析結果の発表と検討④	データ分析・知見・考察の検討。
9	分析結果の発表と検討⑤	データ分析・知見・考察の検討。
10	分析結果の発表と検討⑥	データ分析・知見・考察の検討。
11	分析結果の発表と検討⑦	データ分析・知見・考察の検討。
12	分析結果の発表と検討⑧	データ分析・知見・考察の検討。
13	章立ての検討①	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
14	章立ての検討②	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
15	章立ての検討③	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
16	章立ての検討④	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
17	草稿の一部をもとにアドバイス①	1 章分を目安に指導する。
18	草稿の一部をもとにアドバイス②	1 章分を目安に指導する。
19	草稿の一部をもとにアドバイス③	1 章分を目安に指導する。
20	草稿の一部をもとにアドバイス④	1 章分を目安に指導する。
21	草稿の一部をもとにアドバイス⑤	1 章分を目安に指導する。
22	草稿の一部をもとにアドバイス⑥	1 章分を目安に指導する。
23	草稿の一部をもとにアドバイス⑦	1 章分を目安に指導する。
24	草稿の一部をもとにアドバイス⑧	1 章分を目安に指導する。
25	第一稿の朱入れ①	リライトのポイントを助言。
26	第一稿の朱入れ②	リライトのポイントを助言。
27	第一稿の朱入れ③	リライトのポイントを助言。
28	第一稿の朱入れ④	リライトのポイントを助言。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論執筆に必要なこと全てを行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指示。

【参考書】
適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の出来具合１００％。

【学生の意見等からの気づき】
全学懸賞論文というゴール設定は大変良い励みになるので、今年度も目指します。

【Outline and objectives】
The students are to write a socioligical graduation thesis, choosing the theme from education, life, culture, labour, and/or policy.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

寺崎　里水

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学における学修の集大成として卒業論文に取り組みます。卒業論文としてふさわしい課題設定、論文構成、議論、考察を行います。

【到達目標】
論文としてふさわしい形にすること、他者に自分の考察を伝えられることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
個人の作業と全体での検討を並行して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文の位置づけ、意義について説明します。卒業論文に取り組むという意識を高めます。
2	テーマの設定（1）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
3	テーマの設定（2）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
4	テーマの設定（3）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
5	調査方法の設定（1）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
6	調査方法の設定（2）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
7	調査方法の設定（3）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
8	先行研究の調査（1）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
9	先行研究の調査（2）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
10	先行研究の調査（3）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
11	先行研究の調査（4）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
12	先行研究の調査（5）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
13	中間報告（1）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
14	中間報告（2）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
15	中間報告（3）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
16	分析の実施と経過発表（1）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
17	分析の実施と経過発表（2）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
18	分析の実施と経過発表（3）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
19	分析の実施と経過発表（4）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
20	分析の実施と経過発表（5）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
21	分析の実施と経過発表（6）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
22	論文完成にむけた個別指導（1）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
23	論文完成にむけた個別指導（2）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
24	論文完成にむけた個別指導（3）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
25	論文完成にむけた個別指導（4）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
26	論文完成にむけた個別指導（5）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
27	論文完成にむけた個別指導（6）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
28	最終仕上げ	論文としてふさわしい構成になっているかどうかを確認しながら、最終的な仕上げを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマに関する文献を空き時間に探し、計画的に読んでいくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない

【参考書】
特に定めない

【成績評価の方法と基準】
論文の内容 100%

【学生の意見等からの気づき】
互いの学修を助けあうような雰囲気を醸成していきたい。

【Outline and objectives】
In this class, the students are going to write on graduation thesis as a compilation of their studies at the university.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

廣川　進

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成の方法と手順を理解し、獲得し、実際に論文を完成させる。

【到達目標】
各自が卒業論文として研究するテーマを選び、そのテーマについて調査、文献調査、文章の推敲、討論、等々をとおして、自らの主張としての論文を完成させ、大学卒業にふさわしい知的探求者へと成長することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　卒業論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、スキルを蓄積していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文作成に取り組む意義と準備すべき点について説明する。
2	研究方法の概説① 理論と実証の研究手法の違い	理論研究、実証研究という二つの研究手法の特徴と性格について概説する。
3	研究方法の概説② 研究方法の手順	理論研究、実証研究それぞれの手順の概要を説明する。
4	研究方法の概説③ 文献の探し方	前回の続きに加えて文献の探し方を紹介する。
5	テーマの設定① 問題意識	執筆者の問題意識を整理する。
6	テーマの設定② テーマの洗い出し	問題意識から、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③ 発表	テーマを報告し、他者の批判に応え説明する。
8	先行研究の調査	洗い出したテーマに関する先行研究を広く調査し、そこに示されている知見と残された課題を識別する。その上で、先行研究に何が足りないか、いかなる課題や問題が残されているかを把握する。
9	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、先行研究のレビューと批判、検証仮説の作成、データ収集方法および分析方法など、計画する。
10	小論文の執筆	課題、論点など明確にし、いくつかの点について、実際に論文を書き、書くことの意味を実感する。
11	レポートの発表①	小論文、レポートをもとにプレゼンの練習を一人ずつ行う
12	レポートの発表②	小論文、レポートをもとにプレゼンの練習を一人ずつ行う
13	レポートの発表③	小論文、レポートをもとにプレゼンの練習を一人ずつ行う
14	まとめ	前期の振り返り
15	後期のガイダンス	後期のゼミの進め方のガイダンス
16	研究計画の再検討	研究テーマ・課題、検証すべき仮説、用いる研究手法を再検討し、研究計画を再検討する。
17	調査データの収集と整理① データベース化	それぞれの研究計画に従いつつ、量的データ、質的データを収集し、データベース化を行う。
18	調査データの収集と整理② 調査の読み込み	調査を一定読み込み、自分の研究テーマに照らしてその意味を検討する。
19	調査データによる検証仮説の検討① 収集したデータと仮説作成	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。
20	調査データによる検証仮説の検討② 収集したデータと仮説作成	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。
21	分析の実施①	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。
23	論文執筆	実際の論文執筆体制に入る。
24	論文のリファイン	ゼミで論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
25	論文の完成① 通読して齟齬がないかのチェック	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
26	論文の完成② 互いに読み合わせして文章校正する	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
27	論文のブラッシュアップ	おたがいの論文へのコメント交換
28	後期のまとめ	後期の振り返りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３年生からのゼミ活動に熱心に取り組み、卒業論文作成のイメージと課題意識を培っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
論文完成に至るまでの研究への取り組み（20 %）、および論文の内容（80 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の探究したいテーマを重視して､研究計画を作っていく指導を行う。

【Outline and objectives】
This course will help you to write your graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

松尾　知明

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独自のテーマを追究して、多文化共生と教育に関する卒業論文を完成させる。多文化社会と教育に関連する調査研究を進めることを通して、多文化共生の実現に向けた方策やあり方の一端を検討して、そのための示唆を得る。

【到達目標】
・自分の興味・関心に基づき、多文化共生と教育に関するテーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。
・調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、演習内で指導を行う。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の考え方・進め方について
2	テーマの設定①	調査研究の構想
3	テーマの設定②	テーマと調査研究の立案
4	先行研究の検討①	先行研究の進め方
5	先行研究の検討②	文献リストの発表と質疑
6	先行研究の検討③	文献リストの発表と質疑
7	リサーチクエッチョンと研究計画①	リサーチクエッチョンの設定
8	リサーチクエッチョンと研究計画②	リサーチクエッチョンに応える研究計画の構想
9	データの収集と整理①	データの収集と整理の考え方・進め方
10	データの収集と整理②	進捗状況の報告と質疑
11	データの収集と整理③	進捗状況の報告と質疑
12	データの収集と整理④	進捗状況の報告と質疑
13	中間発表①	発表と質疑
14	中間発表②	発表と質疑
15	進捗状況の報告と計画の見直し	研究活動の振り返り
16	データの収集・整理・分析①	データの収集・整理・分析の考え方・進め方
17	データの収集・整理・分析②	進捗状況の報告と質疑
18	データの収集・整理・分析③	進捗状況の報告と質疑
19	データの収集・整理・分析④	進捗状況の報告と質疑
20	データの収集・整理・分析⑤	進捗状況の報告と質疑
21	卒業論文の執筆①	卒業論文の執筆の考え方・進め方
22	卒業論文の執筆②	進捗状況の報告と質疑
23	卒業論文の執筆③	進捗状況の報告と質疑
24	卒業論文の執筆④	進捗状況の報告と質疑
25	卒業論文の執筆⑤	卒業論文の推敲の考え方・進め方
26	卒業論文の執筆⑥	進捗状況の報告と質疑
27	卒論発表①	プレゼンと質疑
28	卒論発表②	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
主体的な参加の姿勢（30 %）、論文の形式（30 %）や内容（40 %）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進められるように留意する。

【Outline and objectives】
Graduate theses on multicultural symbiosis and education are completed by setting up and exploring individually selected themes. Through conducting research projects related to multicultural society and education, how to actualize multicultural coexistence is discussed and implicated.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

上西　充子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の完成に向けて、自らの問題意識に即した研究課題の設定、論文の構成、先行研究の調査、データの収集と分析、インプリケーションの捉え方等、段階的に指導を行います。卒業論文で自らの問いを納得のいく形で追及できるようにすることが目的です。

【到達目標】
自らが明らかにすべき問いを立てることができる。
研究課題を絞り込み、先行研究への適切な言及と適切な研究方法によって、その研究課題を明らかにすることができる。
読み手に説得的な論述を行った卒論を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記の授業計画に従って、演習内で指導を行います。秋学期には適宜個別指導を並行して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（1）	卒論の意義について説明する
2	ガイダンス（2）	卒論執筆スケジュールと心構えについて説明する
3	卒論構想の発表（1）	各自の問題意識を発表し、議論する
4	卒論構想の発表（2）	各自の問題意識を深める
5	研究方法の概説（1）	研究方法について説明する
6	研究方法の概説（2）	量的調査法に基づく文献を検討する
7	研究方法の概説（3）	質的調査法に基づく文献を検討する
8	研究課題の設定（1）	各自の問題意識を深め研究課題を絞り込む
9	研究課題の設定（2）	研究課題を文章化する
10	先行研究の調査（1）	先行研究の探し方を学ぶ
11	先行研究の調査（2）	収集した先行研究を検討する
12	先行研究の調査（3）	先行研究から得られる知見を理解し、分析の視点から学ぶとともに、残された課題を認識する
13	研究計画の策定（1）	研究課題に即した研究計画を策定する
14	研究計画の策定（2）	調査方法を具体的に検討し、調査・執筆スケジュールを検討する
15	調査・分析結果の発表（1）	調査結果を整理して発表する
16	調査・分析結果の発表（2）	調査結果の分析方法を改めて検討する
17	調査・分析結果の発表（3）	調査結果の分析を発表する
18	調査・分析結果の発表（4）	調査結果から得られた知見を検討する
19	調査・分析結果の発表（5）	調査結果から得られた知見を文章化する
20	章立ての検討	論文全体の構成案を検討する
21	執筆内容の検討（1）	課題設定の執筆内容を検討する
22	執筆内容の検討（2）	先行研究の検討の執筆内容を検討する
23	執筆内容の検討（3）	調査結果の執筆内容を検討する
24	執筆内容の検討（4）	まとめの執筆内容を検討する
25	執筆内容の検討（5）	文献リストの執筆内容を検討する
26	論文の発表とリファイン（1）	論文を発表し、寄せられたコメントを検討する
27	論文の発表とリファイン（2）	コメントを踏まえて論文を修正する
28	卒論発表	提出した卒論の要旨を発表し、その内容と意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献を読み込む。
データの収集と分析を行なう。
卒論の完成に向けて、執筆を進める。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術　第２版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】
授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
先行研究の論旨の的確な把握、引用や記述のルールの順守、分析方法の的確さ（40 %）、文章の明確さ、論理構成の的確さ（40 %）、課題設定の独創性、知見の独創性（20 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題の絞り込みが難しいと感じる学生が多いように見受けられます。先行研究の収集・分析と並行しての研究課題の絞り込みを早期からサポートしていきます。

【Outline and objectives】
To the participants, step-by-step instruction will be provided to write their senior theses.
The objective of this course is to acquire skills to investigate their own theme.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

梅崎　修

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生を対象に、キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
学術論文のための論文作成方法を学ぶ。具体的には、調査から意味解釈や因果関係の推測、さらには検証ができる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は論文の書き方を指導し、秋学期は論文に具体的コメントを行う。個別指導が中心であるが、春学期に 1 回、秋学期 1 回、発表会を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のスケジュール確認	卒論執筆の年間スケジュールを確認する。
2	卒論テーマ報告（1）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
3	卒論テーマ報告（2）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
4	卒論テーマ報告（3）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
5	卒論テーマ報告（4）	1 人 30 分 ×2 名で卒論テーマを発表し、議論する。
6	調査方法講義（ヒアリング調査）	卒業論文で使える方法論について講義する。
7	調査方法講義（観察法）	卒業論文で使える方法論について講義する。
8	調査計画発表（5）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
9	調査計画発表（6）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
10	調査計画発表（7）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
11	調査計画発表（8）	1 人 30 分 ×2 名で調査計画を発表し、議論する。
12	論文構成	論文構成の書き方を講義。
13	図書館と情報検索のやり方	情報検索の方法を講義。
14	先行研究のまとめ方	先行研究を整理する方法を講義。
15	相談	調査計画の個別相談を受ける。
16	調査結果の報告（9）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
17	調査結果の報告（10）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
18	調査結果の報告（11）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
19	調査結果の報告（12）	1 人 30 分 ×2 名で調査結果を発表し、議論する。
20	調査結果の分析・解釈（1）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
21	調査結果の分析・解釈（2）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
22	調査結果の分析・解釈（3）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
23	調査結果の分析・解釈（4）	1 人 30 分 ×2 名で分析・解釈を発表し、議論する。
24	発表方法	プレゼンテーションの方法を講義する。
25	議論の方法	質問、批判の方法を学ぶ。
26	卒論発表会（1）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。
27	卒論発表会（2）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。
28	卒論発表会（3）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に調査、執筆を行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
作品の完成度を 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成だけでなく、論文の発表方法も教授し、簡潔でわかりやすい発表ができるようにする。

【Outline and objectives】
I will provide support to fourth graders for writing their graduation thesis and producing academically valuable papers.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

木村　琢磨

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「企業経営と人材活用」に関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。
　自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得することを目指す。

【到達目標】
卒業論文の完成を到達目標とし、リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講者各自が１本の論文を完成させるため、各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告のスケジューリングは、受講生を複数のグループに分けて設定し、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、論文作成はスケジュール通りに進むものではないので、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	参考論文の輪読 (1)	仮説検証型の論文を読み、仮説検証型研究の方法を理解する
第 2 回	参考論文の輪読 (2)	仮説探索型の論文を読み、仮説探索型研究の方法を理解する
第 3 回	研究計画の作成方法	研究を計画的に進めるための計画の立て方を理解する
第 4 回	リサーチ・クエスチョンの設定方法	論文のテーマ設定、テーマの改訂を行うための考え方を理解する
第 5 回	先行研究の調査方法	先行研究となる論文・調査の参照の方法、まとめ方・分析方法について理解する
第 6 回	仮説設定の方法	仮説検証型研究における仮説の設定方法を理解する
第 7 回	質的調査法 (1)	インタビュー調査の実施方法の説明
第 8 回	質的調査法 (2)	参与観察・観察調査の実施方法の説明
第 9 回	量的調査法 (1)	アンケート調査の実施方法の説明
第 10 回	量的調査法 (2)	公開データの分析方法の説明
第 11 回	先行研究の調査結果発表 (1)	第１グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 12 回	先行研究の調査結果発表 (2)	第２グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 13 回	先行研究の調査結果発表 (3)	第３グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 14 回	調査計画の決定 (1)	第１グループ、第２グループ。９月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第 15 回	調査計画の決定 (2)	第２グループ、第３グループ。９月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第 16 回	第１次調査結果の発表 (1)	第１グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 17 回	第１次調査結果の発表 (2)	第２グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 18 回	第１次調査結果の発表 (3)	第３グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 19 回	論文の全体構成の検討 (1)	第１グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第 20 回	論文の全体構成の検討 (2)	第２グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第 21 回	論文の全体構成の検討 (3)	第３グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第 22 回	第２次調査結果報告 (1)	第１グループ、第２グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第 23 回	第２次調査結果報告 (2)	第２グループ、第３グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第 24 回	論文の草稿作成 (1)	第１グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 25 回	論文の草稿作成 (2)	第２グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 26 回	論文の草稿作成 (3)	第３グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 27 回	最終プレゼンテーション (1)	第１グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる
第 28 回	最終プレゼンテーション (2)	第２グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間が使えるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【参考書】
渡辺知明（2015）『文章添削の教科書』芸術新聞社
井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成法 (第 2 版)』慶應義塾大学出版会
そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
・卒業論文の水準（70%）、口述試験（30 %）
・卒業論文の評価基準：
テーマの重要性（20 点）、論理性（20 点）、調査方法・分析の妥当性（20 点）、独創性（10 点）の４要素の合計点で評価する。
・口述試験の評価基準
論文の正確かつ明瞭な説明（10 点）、的確な質疑応答（20 点）
※卒業論文の評価要素４つのうち独創性以外の３要素すべてにおいて 10 点以上であること、および口述試験が 15 点以上であることを単位認定の最低要件とする。

【学生の意見等からの気づき】
文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない（参考図書を読んで各自行うこと）。論文指導は研究内容に関することに集中して行う。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：火曜３限（研究室）

【Outline and objectives】
This course is designed to complete the undergraduate thesis project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

酒井　理

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、自分たちが手がけたマーケティングに関わるプロジェクトを論文にします。
現状を把握するための分析、実際の問題を解決するための実践のプロセスを通して、仮説設定と検証実験による学術的なアプローチを学びます。

【到達目標】
卒業論文の完成が最終目標です。アンケート調査、インタビュー調査などで集めたデータを使用した実証的な研究方法によって論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
必ず実証データを使用して研究を進めてもらいます。アンケートでデータを集めても結構ですし、消費者へのインタビューや街頭観察でデータを収集することでも結構です。さらに企業訪問してインタビューを行うのも推奨します。とにかく、実際に現場に出向いて自分でデータを集めて現象について考察することを求めます。自分の足で現場に出向いてデータを直接集めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
2	テーマ・仮説の設定 1	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
3	テーマ・仮説の設定 2	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
4	テーマ・仮説の設定 3	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
5	文献サーベイ 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
6	文献サーベイ 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
7	文献サーベイ 3	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
8	リサーチデザイン 1	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
9	リサーチデザイン 2	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
10	リサーチデザイン 3	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
11	リサーチ結果報告 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
12	リサーチ結果報告 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
13	リサーチ方法の改善 1	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
14	リサーチ方法の改善 2	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
15	オリエンテーション	秋学期の進め方について意見交換を行います。
16	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
17	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
18	個別指導１	各自執筆と個別指導を行います。
19	個別指導２	論文執筆の途中経過の報告を行います。
20	個別指導３	各自執筆と個別指導を行います。
21	中間発表１	論文執筆の途中経過の報告を行います。
22	中間発表２	論文執筆の途中経過の報告を行います。
23	個別指導１	論文執筆の途中経過の報告を行います。
24	個別指導２	論文執筆の途中経過の報告を行います。
25	個別指導３	論文執筆の途中経過の報告を行います。
26	研究成果の発表１	最終的に完成した論文の内容を発表します。
27	研究成果の発表２	最終的に完成した論文の内容を発表します。
28	研究成果の発表３	最終的に完成した論文の内容を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。フィールド（現場）に出向いて研究を進めることを強く推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
各自の研究成果である卒業論文の評価が１００％です。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【その他の重要事項】
学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will make a paper of marketing projects which we have conducted.
We will learn academic approaches based on hypothesis setting and verification experiments through analysis to understand the current situation and practice process to solve problems in a "real" world.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

坂爪　洋美

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の学習の集大成として、自らの興味関心に基づき研究テーマを設定し、テーマに基づく調査の実施、調査結果の検討を通じて、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
卒業論文作成上の到達目標は以下の通りである
（1）興味関心を研究テーマとして構築できるようになる
（2）研究テーマに関連する先行研究をレビューしまとめられるようになる
（3）調査を設計し実施できるようになる
（4）調査結果の分析ができるようになる
（5）分析結果をふまえ論文を執筆できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期については論文執筆に進め方ならびに調査の実施に関するレクチャーが中心になる。後期は調査実施状況に応じた個別指導が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマについての検討（1）	各自の興味に基づき研究テーマを抽出する
第 2 回	研究テーマについての検討（2）	各自の興味に基づき研究テーマを精査する
第 3 回	論文の書き方について理解する（1）	卒業論文の構成と書き方について講義と実習を行う
第 4 回	論文の書き方について理解する（2）	論文を読みつつ、論文の基本的な書き方について学習する
第 5 回	先行研究のレビューを理解する（1）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第 6 回	先行研究のレビューを理解する（2）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第 7 回	先行研究のレビューを理解する（3）	先行研究のまとめ方をレクチャーし、集めた資料をまとめる
第 8 回	調査計画を立案する（1）	研究テーマを仮説として構築する
第 9 回	調査計画を立案する（2）	研究テーマを仮説として構築する
第 10 回	調査計画を立案する（3）	仮説のブラッシュアップを図る
第 11 回	調査票の作成（1）	仮説検証に必要な調査票を作成する（1）
第 12 回	調査票の作成（2）	仮説検証に必要な調査票を作成する（2）
第 13 回	中間報告（1）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 14 回	中間報告（2）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 15 回	中間報告（3）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 16 回	夏休みの報告	夏休み中の進捗について報告する
第 17 回	分析方法を学ぶ（1）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 18 回	分析方法を学ぶ（2）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 19 回	分析方法を学ぶ（3）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 20 回	結果をまとめる（1）	分析結果を論文としてまとめる方法について講義を行った上で、各自結果をまとめる
第 21 回	結果をまとめる（2）	結果を論文としてまとめる
第 22 回	考察の進め方を学ぶ（1）	考察の進め方をレクチャーした上で、各自考察の進め方を検討する
第 23 回	考察の進め方を学ぶ（2）	各自考察をまとめる
第 24 回	論文の書き方（1）	論文の書き方についてのレクチャーを行い、各自これまでの成果を論文としてまとめる
第 25 回	論文の書き方（2）	論文として書き上げたものについて検討する
第 26 回	論文の書き方（3）	論文として書き上げたものについて検討する
第 27 回	論文発表（1）	論文を発表しコメントをもらう
第 28 回	論文発表（2）	論文を発表しコメントをもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成は各自が主体的に行うものである。授業は進捗の確認と進捗のサポートが中心であることから、何よりも主体的・積極的な準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
各自のテーマに合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の完成度に基づいて評価する。
具体的には、①問題設定の明確さ 20%、②先行研究の充実度 20%、③調査結果の適切な分析 20%、④仮説に基づいた考察 20%、⑤文章の明確さ 20%、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
調査の実施時期を前倒しにし、余裕を持ったスケジュールとする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.
This course provide the student with knowledge of how to seek facts and how to plan, carry out and present work as well as theoretical and practical specialization within a industrial/organizational psychological subject area.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

佐藤　厚

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒論作成を演習及び学部での学びの総決算として位置づけて指導します。参加者各自の研究テーマを設定し、関連文献の収集とレビュー、実証的データの収集と分析に基づき、論理一貫性のある論旨を展開しながら、説得力ある結論を導く文章の作成および作成能力の獲得を目標とします。

【到達目標】
各自の卒論テーマに関連した文献レビューを幅広く行い、内容を理解してもらう。
また先行研究の知見と自分の考えを区別して論述する力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。
春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。
合宿をはさんで、秋学期は、文章全体の章別構成の明確化と説得力ある文章の作成、および論文の完成を目標とします。
なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画については、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒論執筆の意義、執筆のプロセスなど
2	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（1）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
3	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（2）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
4	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（3）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
5	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（3）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
6	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（4）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
7	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（5）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
8	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（6）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
9	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（7）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
10	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（8）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
11	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（9）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
12	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（１０）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
13	卒論骨子の発表とコメント（1）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
14	卒論骨子の発表とコメント（2）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
15	テーマ設定、章別構成、構造化された文章の書き方について	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる際の留意事項を理解させる
16	論旨、章別構成の明確化と執筆（1）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
17	論旨、章別構成の明確化と執筆（2）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
18	論旨、章別構成の明確化と執筆（3）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
19	論旨、章別構成の明確化と執筆（4）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
20	論旨、章別構成の明確化と執筆（5）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
21	論旨、章別構成の明確化と執筆（6）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
22	論旨、章別構成の明確化と執筆（7）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
23	論旨、章別構成の明確化と執筆（8）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
24	論旨、章別構成の明確化と執筆（9）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
25	論旨、章別構成の明確化と執筆（１０）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
26	論旨、章別構成の明確化と執筆（１１）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
27	執筆と推敲（1）	文章化し可能な限りの推敲を促す（1）
28	執筆と推敲（2）	文章化し可能な限りの推敲を促す（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
系統的な文献の収集と読み込みが必要です。
執筆にむけた一定の執筆時間の確保が必要です。

【テキスト（教科書）】
適宜、授業時に指示します。

【参考書】
各自の関心に応じて適宜、文献を指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のゼミでの報告への取り組みと論文の到達水準、完成度で評価します。
報告を含む出席点 40 点
卒業論文 60 点とします。

【学生の意見等からの気づき】
中間段階での到達点を明確化し、課題を意識してもらう。

【Outline and objectives】
The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".
You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.
This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.
You can get deep kowledge and sharpen skill about these theme through setting theme,collecting information about theme, and writing logical academic sentences.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

武石　恵美子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。キャリアデザイン学の視点から自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の学びの集大成とする。

【到達目標】
卒業論文執筆により、自らの問題意識をもとに課題を設定し、その課題解決のために実証的な方法によって論証を行い、課題に対する結論を導く能力の開発を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は、春学期は論文の書き方等の指導を講義形式で行い、秋学期は個別指導を中心に進め論文の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	論文テーマの発表	論文の構想、テーマを報告し、研究にあたっての問題意識を明確にする。
2	論文の書き方の基礎	卒業研究とは、論文の書き方の基礎。
3	論文の書き方の事例	具体的な論文を読みながらポイントを解説する。
4	研究方法の解説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。
5	研究の背景の明確化	各自の研究テーマに関する現状や課題等の背景を明確にする。
6	研究の意義の明確化	各自の研究テーマについて、背景を踏まえた研究の意義を明確にする。
7	研究計画の策定	研究計画について説明する。
8	研究内容の決定	研究計画を策定して、具体的な内容を詰める。
9	先行研究のサーベイ	テーマに関連する先行研究を広く調査する方法を解説する。
10	先行研究の検討	先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	実証のやり方	実証のための方法について解説する。
12	実証方法の検討、具体化	実証のための方法を検討し、実証のための方法をより具体的に決定する（調査対象、内容等の決定）。
13	データ等の収集	データを収集する。
14	春学期のまとめと総括	各自の論文の経過報告を行い、総括する。
15	中間報告会	中間報告を行う。
16	中間報告会の講評	中間報告の講評を行う。
17	現状把握のデータ整理	現状についてのデータ収集とその整理を行う。
18	現状分析	現状についてのデータ収集とその分析を行う。
19	データの解釈	データの解釈を行う。
20	仮説の検証、論証	現状分析を踏まえた仮説検証の方法を知る。 自分の研究に照らして仮説の検証、論証を行う。
21	論文執筆	論文の目的，先行研究，仮説，研究デザイン，検証結果，発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
22	論文執筆とフィードバック	執筆部分についてのフィードバック行う。
23	論文の修正	執筆部分についてのフィードバックを踏まえた修正を行う。
24	論文発表	論文を発表して意見を聴く
25	論文発表からの検討	発表に対する意見を踏まえて内容を検討する。
26	論文の修正	論文の修正を行う。
27	論文完成	論文提出に向け、論文を完成させる。
28	卒業論文発表会	2,3,4 年生合同ゼミにおいて、卒業論文の発表および質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆のための文献研究や調査等を行う。卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが何より重要であり、当然であるが、授業に出席するだけでは論文は執筆できない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個人のテーマに応じて適宜指定する。

【参考書】
個人のテーマに応じて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
論文の内容を総合的に評価する。
卒業論文については、問題意識の設定、先行研究サーベイの的確さ、現状分析を踏まえた結論と考察が論理的に導かれていることを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
進行に関して互いの報告会を行い、情報を共有しつつ、互いの問題意識から触発を受けるようにする。

【Outline and objectives】
In this seminar, students will write the graduation thesis about carrier design studies. They will examine own article theme and complete learning of 4 years.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

中野　貴之

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】
　一定水準以上の論文として、卒業論文を仕上げることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 5 月 11 日 (月) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第 2 回	研究方法の概説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等，研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
第 3 回	テーマの設定	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
第 4 回	先行研究の調査 (1)	先行研究の検索を試み、文献リストを作成する。
第 5 回	先行研究の調査 (2)	重要な先行研究を選定し、検討する。
第 6 回	先行研究の調査 (3)	先行研究のレビューを簡単に執筆する。
第 7 回	中間発表 (1)	ここまでの進捗状況について発表する。
第 8 回	中間発表 (2)	発表者同士で論文の主題等について議論する。
第 9 回	テーマの確定	研究テーマを確定し、必要な作業を洗い出す。
第 10 回	研究計画の策定 (1)	論文執筆終了までのステップを計画する。
第 11 回	研究計画の策定 (2)	指導教員と研究計画案について議論し、計画の精度を高める。
第 12 回	研究手法の獲得 (1)	研究に必要な手法について学ぶ。
第 13 回	研究手法の獲得 (2)	研究に必要な手法についてさらに学ぶ。
第 14 回	中間レビュー	中間レビューを行う。
第 15 回	調査データの整備 (1)	調査データの収集、データベース化を行う。
第 16 回	調査データの整備 (2)	調査データの収集、データベース化を行う。
第 17 回	検証仮説の検討 (1)	検証仮説等について再検討を行う。
第 18 回	検証仮説の検討 (2)	検証仮説等について再検討を行う。
第 19 回	分析の実施 (1)	仮説およびデータを用いて分析を行う。
第 20 回	分析の実施 (2)	仮説およびデータを用いて分析を行う。
第 21 回	論文執筆 (1)	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第 22 回	論文執筆 (2)	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第 23 回	リファインの作業 (1)	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
第 24 回	リファインの作業 (2)	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
第 25 回	論文完成 (1)	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第 26 回	論文完成 (2)	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第 27 回	発表	論文の発表を行う。
第 28 回	レビュー	本授業のレビューを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文以前に、3 年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する

【参考書】
開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み（10%）、および、論文の水準（90%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていきます。

【Outline and objectives】
In this lesson, I will tell you how to make a academic paper. Specifically, you will learn about the planning and writing of the paper.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

松浦　民恵

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

【到達目標】
①論文の問いが設定できるようになること
②調査を企画・設計し、実施できるようになること
③調査結果の分析・解釈ができるようになること
③分析結果を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は研究計画書に関する相談、秋学期は調査や執筆に関する相談を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文についてのオリエンテーション
第 2 回	論文執筆に向けた解説	卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第 3 回	問いの検討（1）	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討 （第1グループ）
第 4 回	問いの検討（2）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 （第2グループ）
第 5 回	問いの検討（3）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 （第3グループ）
第 6 回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第 7 回	研究計画（1）	研究計画の提示と検討 （第1グループ）
第 8 回	研究計画（2）	研究計画の提示と検討 （第2グループ）
第 9 回	研究計画（3）	研究計画の提示と検討 （第3グループ）
第 10 回	3年生共同研究・4年生卒論研究計画の共有	研究の進捗状況の共有
第 11 回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第 12 回	調査票の作成（1）	問いに答えられる、仮説を検証できる調査票の作成
第 13 回	調査票の作成（2）	調査票の作成の続き
第 14 回	調査の実施	調査をスタートする
第 15 回	オリエンテーション	①夏休み合宿の振り返り ②今後の進め方についての意見交換 ③オリエンテーション
第 16 回	調査の進捗報告	調査の進捗報告（全員）
第 17 回	分析の相談（1）	調査の分析方法に関する相談（第1グループ）
第 18 回	分析の相談（2）	調査の分析方法に関する相談（第2グループ）
第 19 回	分析の相談（3）	調査の分析方法に関する相談（第3グループ）
第 20 回	分析	各自分析を進める
第 21 回	論文骨子作成（1）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第1グループ）
第 22 回	論文骨子作成（2）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第2グループ）
第 23 回	論文骨子作成（3）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第3グループ）
第 24 回	論文の推敲（1）	論文をお互いに推敲する
第 25 回	論文の推敲（2）	論文をお互いに推敲する（続き）
第 26 回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第 27 回	論文発表（1） ＜2・3年生との合同＞	論文の発表と質疑（第1グループ）
第 28 回	論文発表（2） ＜2・3年生との合同＞	論文の発表と質疑（第2グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくことになります（授業は進捗確認と必要に応じたアドバイス中心）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容を、以下の観点から評価します。
①問いの立て方（自己の関心が絞られているか、独創性があるか等）
②先行研究レビュー（十分にサーベイがなされているか等）
③調査の企画・設計・実施・分析（適切な手順、方法か等）
④文章の展開（論理的な説得力があるか等）

【学生の意見等からの気づき】
スケジュールをできるだけ前倒しにしていきたいと考えております。また、完成してからでなく、研究フレームワークがある程度見えてきた段階で、ビジネスパーソン等との対話の機会を設けることを検討します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】
演習（ビジネス）3・4年生（春5限・秋6限）とは別に卒論指導を行います。
演習（ビジネス）3・4年生（春・秋）にも出席してください。秋学期の2年生との合同ゼミは5限スタートになります。
演習の時限が内容によって変則的になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】
Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

荒川　裕子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化やアート、地域コミュニティといった観点からキャリアデザインにアプローチし、論文を作成します。問題提起（研究テーマの設定）、先行研究のサーベイ、論文の構成（章立て）、ヒアリングやアンケート、文献などによる調査の実施、論文の執筆方法など、研究に必要な一連のプロセスを段階的に学んでいきます。また、適宜、教室において論文作成の経過報告を発表し、ディスカッションを通じて考察を深めていきます。必要に応じて、個別指導も複数回実施します。

【到達目標】
大学における四年間の学びの集大成として、アカデミックな形式にのっとった論文を執筆します。自分自身の関心領域や問題意識を明確にし、仮説を組み立て、それを論証していくために必要な資料やデータを収集し、説得力のある文章にまとめていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となります。それに伴う各回の授業計画の変更などについては、その都度「学習支援システム」に提示します。本授業の開始日は４月２３日（木）５限、演習（ゼミ）と同じです。Zoom 会議の形式で行う予定ですので、「学習支援システム」の「演習（春）」の「教材」に載せたパワーポイントに提示した URL から参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文とは何か、について説明する。
第 2 回	研究方法の概要①	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する。
第 3 回	研究方法の概要②	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する。
第 4 回	研究テーマの設定①	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく。
第 5 回	研究テーマの設定②	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく。
第 6 回	研究テーマの設定③	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく。
第 7 回	先行研究の調査①	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく。
第 8 回	先行研究の調査②	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく。
第 9 回	研究計画の策定①	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる。
第 10 回	研究計画の策定②	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる。
第 11 回	研究計画の策定③	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる。
第 12 回	中間報告①	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する。
第 13 回	中間報告②	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する。
第 14 回	中間報告③	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する。
第 15 回	調査の実施とデータの集積①	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく。
第 16 回	調査の実施とデータの集積②	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく。
第 17 回	仮説の検討①	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる。
第 18 回	仮説の検討②	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる。
第 19 回	仮説の検討③	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる。
第 20 回	論文の組み立て①	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う。
第 21 回	論文の組み立て②	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う。
第 22 回	論文の組み立て③	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う。
第 23 回	論文の執筆①	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う。
第 24 回	論文の執筆②	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う。
第 25 回	論文の執筆③	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う。
第 26 回	リファインの作業①	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う。
第 27 回	リファインの作業②	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う。
第 28 回	論文の完成	論文の提出に向けて書式等を整え、最終的な仕上げを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。また、ときどきの発表に向けて、スライドやレジュメの作成等の準備作業を行うことも求められます。こうした準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリント資料を配布します。
また、一年次に履修した基礎ゼミのテキストやノートを適宜活用するのが望ましいです。

【参考書】
授業中に適宜提示します。各自のテーマにそった文献の紹介も適宜行います。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢： 50 %
論文の完成度： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】
Students write a paper on the theme concerning culture, art, local community and so on. They learn the whole process necessary for the research for a paper, such as setting a theme, surveying previous researches, performing hearing and questionnaire investigations, etc. Also, they have to report the progress of their research in the classroom and discuss with other students. Individual guidance will be carried out several times as necessary.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

金山　喜昭

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：集・他　｜　配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】
卒業論文の作成を目標とする。4 年間の学業の集大成として位置づけ、卒業後のキャリア形成にとってのコア形成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒業論文の準備と中間報告・論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前年研究成果発表	小論文を発表する。
2	前年研究成果発表	小論文を発表する。
3	前年研究成果発表	小論文を発表する。
4	テーマの設定	小論文のテーマを検討する。発表。
5	テーマの設定	小論文のテーマを検討する。発表。
6	テーマの再検討	発表を基にして再度テーマの妥当性について再検討して発表する。
7	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
8	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
9	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
10	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
11	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
12	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
13	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
14	夏休みの課題を確認する	卒論作成に必要な夏休みの作業を確認する。
15	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
16	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
17	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
18	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
19	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
20	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
21	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
22	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
23	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
24	卒論作成のための準備作業	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
25	卒論提出	卒論提出前の最終確認。
26	卒論面接	卒論に対する質問やコメントをする。
27	卒論発表	ゼミ生（3 年生を含む）に卒論を発表する。
28	卒論発表	ゼミ生（3 年生を含む）に卒論を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、卒論に必要とされる調査をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】
随時、資料などを配布する。
個別に指導する中で、参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（10 %）
討論を含む授業への積極的参加（20 %）
卒業論文（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【Outline and objectives】
The theme of this course is “exploring a local community”.
Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

齋藤　嘉孝

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の完成を最終目標とする。そのために必要な学問的知識や技術、視点などを学ぶ。各自がそれぞれのテーマで取り組むことになるが、共通するテーマとして「家族」に関するものを選ぶこととする。

【到達目標】
卒業論文の執筆を目標とする。論文を書き上げるのであって、レポートやエッセイではないことに注意したい。学術的な論理やエビデンス、文章法などが必要となるが、それらの習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
卒業論文を作成するため、各段階ごとに指導する。先行研究の読み込み方や引用のしかた、データの収集や分析方法、および社会や政策への提言の書き方等について、具体的に取りあげる。履修者は各自で学習していき、その進展に応じて指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の概要や意義等について
2	研究方法１	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法について学ぶ
3	研究方法２	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についてより深く学ぶ
4	研究方法３	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についての学びを洗練させる
5	テーマ設定１	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考え始める
6	テーマ設定２	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考える
7	テーマ設定３	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかをより深く吟味する
8	先行研究の探索１	テーマに関連する先行研究を調査し始め、それらの知見と残された課題を識別する
9	先行研究の探索２	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する
10	先行研究の探索３	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題の識別を深める
11	先行研究の探索４	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題を整理する
12	先行研究の探索５	テーマに関連する先行研究をさらにより広く調査し、それらの知見と残された課題の整理を洗練させる
13	研究・調査計画の策定１	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等を計画する
14	研究・調査計画の策定２	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等の計画を洗練させる
15	データ収集１	調査データの収集・入力・整理等の準備をおこなう
16	データ収集２	調査データの収集・入力・整理等を始める
17	データ収集３	調査データの収集・入力・整理等を実際におこなう
18	データ収集４	調査データの収集・入力・整理等の作業をまとめる
19	データ分析１	検証仮説を再検討し、データを分析し始める
20	データ分析２	検証仮説を再検討し、データを分析する
21	データ分析３	検証仮説を再検討し、データ分析を深める
22	データ分析４	検証仮説を再検討し、データを分析結果を解釈する
23	論文執筆１	論文における形式・書式・文章作成等を学び、実際に執筆する
24	論文執筆２	論文における形式・書式・文章作成等を学び、執筆内容を深める
25	報告およびディスカッション１	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を作成する
26	報告およびディスカッション２	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を洗練させる
27	論文完成１	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等をおこなう
28	論文完成２	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等を洗練させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
２年次からのゼミ活動やこれまでの各授業等において、熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】
The aim of this course is to complete an academic paper. Learn necessary academic knowledge, skills and perspectives along with each student's theme. The individual theme must be chosen among the topics concerning families.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

佐藤　恵

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。
この授業では、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、卒業論文を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自の論文のテーマは自由です。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
（3）卒業論文を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
2020 年 4 月 20 日追記
春学期はオンラインでの開講となります。
学習支援システムに資料を掲示し、資料の理解度や自習の成果を小レポート等の課題で確認するといった方法で、オンライン授業を実施します。ゼミという授業の特性に応じて、Zoom 等を用いたリアルタイム配信型授業も取り入れていきます。
初回授業日は５月４日（月）です。
成績評価方法は変更ありませんが、「平常点」は小レポート等とします。

演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ゼミ論（卒論のベース）における発見のシェア、②卒業論文作成に向けた中間発表・全体ディスカッション、③卒業論文執筆です。
進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週の卒論ゼミの時間以外に、休日出校（休日出校は春学期・秋学期とも各２日程度［土休日］）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション
2	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定
3	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討
4	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の検討結果を発表
5	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討:質的調査（インタビュー法、観察法、ライフストーリー法）や文献研究
6	研究方法の決定、調査内容等の検討	調査対象、調査時期、調査内容について発表と指導
7	研究の中間とりまとめ(1)	中間発表に向けた準備：研究における問いという観点から
8	研究の中間とりまとめ（2）	中間発表に向けた準備：仮説構成という観点から
9	研究の中間のとりまとめ（3）	中間発表に向けた準備：調査の方法という観点から
10	調査研究データの分析（1）	収集したデータの整理
11	調査研究データの分析（2）	収集したデータの分析
12	論文の構成・考察に関する検討	論理整合性、独自性の検討
13	論文の結論に関する検討	問いに対応したかたちでの結論の提示
14	春学期総括	春学期授業内容を総合的にまとめ、振り返る
15	秋学期オリエンテーション	論文執筆・完成に向けたオリエンテーション
16	中間発表会（1）	問題意識の明確化を中心に
17	中間発表会（2）	データの読解を中心に
18	中間発表会（3）	論文のストーリーラインを中心に
19	中間発表会（4）	結論を中心に
20	調査の実施状況の確認（1）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ収集の側面）
21	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ分析の側面）
22	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（1）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討
23	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（2）	研究方法・研究テーマに即した分析と解釈になっているか検討
24	論文のブラッシュアップ（1）	論文の構成に留意して
25	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意して
26	論文のブラッシュアップ（3）	データ読解の掘り下げ方に留意して
27	論文の最終チェック	論文の構成の確認：各章のつながり、ストーリーラインの観点から
28	年間総括	1 年間の授業内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究を進める上で必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表および論文執筆に備えてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の達成度（７０％）、平常点（３０％）。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】
Based on their respective seminar essays, the participants of the graduation thesis seminar sociologically analyze their own choice of themes and prepare graduation theses through several interim reports and discussions taking place during the course.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

田中　研之輔

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座は、①ライフキャリアに関する理論整理、②方法論の選定と検討、③質的調査の実施と分析、④執筆を通じて、個人研究論文を仕上げていくことを目的としています。

【到達目標】
①ライフキャリアに関する理論レビューができるようになります。
②質的調査に基づいたアカデミックライティングの基礎がみにつきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本ゼミの主要テーマは、「人生 100 年時代のライフキャリアを理論的、経験的に分析する」です。現代都市東京は、疑いもなく、文化・経済・政治の集積都市として世界的に注目されています。しかし、東京に身を置くわれわれですら、東京の全貌を捉えることは難しいことです。また逆に、東京で生活しているからこそ、東京がみえにくいのだともいえるかもしれません。本ゼミでは、ライフキャリア論の理論的視座、フィールドワークの認識論、インタビュー方法論を学びながら、それぞれの身体資本を最大限に活かしうる「現場」で参与観察（可能ならば、観察的参与）を実施していくための実践的サポートをしていきます。 一筋縄ではいかない「現場」の選択、コミットメント、のプロセスそのものをゼミの中で議論し共有していきましょう。その意味で、本ゼミは、ゼミ生の個人プロジェクトではなく、ゼミ生の集合的な協働プロジェクトとしてフィールドワークを位置づけています。また、大学から社会への移行とその後のライフキャリア戦略を実践的に学ぶ機会でもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマ設定「ライフキャリア、労働・情報・現代社会論・都市社会論」から個人テーマを選定、検討	個人研究論文の関心テーマの絞り込みを行う
2	卒論テーマの候補選択	個人研究テーマの候補を３つに絞る
3	卒論テーマの選定	３つの候補から一つに絞る
4	卒論テーマに関する関連文献の検討	主要先行研究の検討を行う
5	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築①	卒論テーマに関する理論的視座を構築する
6	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築②	卒論テーマに関する理論的視座を構築し、精査する
7	先行研究に関する検討会①	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い検討する
8	先行研究に関する検討会②	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い、精査する
9	研究対象の選定	研究対象を具体的に選定する
10	研究方法の整理	研究方法を整理する
11	インタビュー法の検討	インタビュー法の検討を行う
12	プレインタビューの実施	模擬インタビューを実施する
13	フィールドワーク法の検討	フィールドワーク法の検討を行う
14	フィールドワーク法のプレワーク	フィールドワーク法を模擬的に実施する
15	調査の設計	調査スケジュールを具体的に検討する
16	調査の開始	研究対象への調査を行う
17	調査の中間報告	調査状況の報告と確認を行う
18	理論整理・方法論の記述	理論整理と方法論に関する記述を行う
19	理論・方法論の記述内容の検討	理論・方法論の記述内容の検討を行う
20	調査データの収集と分析	調査データを収集し、分析する
21	調査データの体系化と考察	調査データの体系化を行い、考察を加える
22	調査データの分析と記述	調査データの分析と記述をするめる
23	調査データの考察と結論	調査データの考察と結論を導き出す
24	調査データの考察と結論の記述	調査データの考察と結論を記述する
25	卒論全体の記述を検討する	卒論全体の記述の精度を高める
26	卒論研究発表会①	研究報告 15 分　質疑応答 15 分の研究発表会を実施する （前半組）
27	卒論研究発表会②	研究報告 15 分　質疑応答 15 分の研究発表会を実施する（後半組）
28	卒業論文集の制作	完成させた卒業論文集をまとめ、デジタル論集を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英文課題&理論整理論文を毎週、読み続け、議論にそなえる。
計画的に質的調査を実施し、論文を執筆していきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎週、電子版英文資料を共有サイトにアップします。

【参考書】
必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25 %）、各段階での課題（25 %）、卒業論文（50 %）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
補足論文の検討と個人研究報告会をさらに充実化させる。

【Outline and objectives】
This course introduces research methods and academic writing as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

趙　宏偉

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の課題研究、教員による指示・指導

【到達目標】
字数 2 万字以上、合格の卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業中の指導、授業外の個別指導、メール等を通しての指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明	質疑応答
第 2 回	卒業論文の課題発見	指導
第 3 回	卒業論文の課題発見	指導
第 4 回	卒業論文の課題発見	指導
第 5 回	卒業論文テーマの確定	指導
第 6 回	卒業論文テーマの確定	指導
第 7 回	卒業論文テーマの確定	指導
第 8 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 9 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 10 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 11 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 12 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 13 回	卒業論文テーマの課題研究の成果発表	指導
第 14 回	卒業論文テーマの課題研究の成果発表	指導
第 15 回	総括	講評
第 16 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 17 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 18 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 19 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 20 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 21 回	卒業論文の原稿の中間発表	講評
第 22 回	卒業論文の原稿の中間発表	講評
第 23 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 24 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 25 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 26 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 27 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 28 回	卒業論文の提出	指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時指導、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指導

【参考書】
随時指導

【成績評価の方法と基準】
課題発見力に 20 点、思考と研究力に 30 点、卒業論文の内容の創造性に 40 点、文筆力に 10 点、合計 100 点満点で総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一人で悩まずに、常に教員と議論しましょう。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【就業力効果】
この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】
Teach research on issues of graduation thesis.　Presentation by students and discussion.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

安田　節之

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**集・他**　｜　配当年次：**4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年次に執筆・提出したライフキャリア研究またはプログラム評価研究に関するゼミ論をもとに卒業論文を完成させることを目的とする。

【到達目標】
・ライフキャリアまたはプログラム評価に関する卒業研究を論文としてまとめあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゼミ論執筆の段階では，先行研究のレビューやデータ収集・分析などに個人差があると予想されるため，ゼミ全体での報告（中間発表）やディスカッションでの学びを各自の卒論にする。またゼミおよびサブゼミでの個人の卒論指導を通して，研究報告としての論文の質を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	卒業研究および卒業論文の意義や卒論執筆・提出の流れについて確認する。
第 2 回	問題と目的および先行研究の確認①	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。先行研究に関しては，適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する①。
第 3 回	問題と目的および先行研究の確認②	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。先行研究に関しては，適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する②。
第 4 回	問題と目的および先行研究の確認③	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。先行研究に関しては，適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する③。
第 5 回	研究方法①	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う①。
第 6 回	研究方法②	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う②。
第 7 回	研究方法③	量的調査については，質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については，データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う④。
第 8 回	研究結果①	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う①。
第 9 回	研究結果②	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う②。
第 10 回	研究結果③	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う③。
第 11 回	研究結果④	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
第 12 回	研究結果	集中的なデータ分析を行い，結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う④。
第 13 回	追加データ収集の検討①	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば，追加データの収集計画を立てる①。
第 14 回	追加データ収集の検討②	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば，追加データの収集計画を立てる②。
第 15 回	追加データ収集の検討③	前段階の研究結果の状況を踏まえ，各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば，追加データの収集計画を立てる③。
第 16 回	中間報告①	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う①。
第 17 回	中間報告②	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う②。
第 18 回	中間報告③	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う③。
第 19 回	中間報告④	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う④。
第 20 回	考察（ディスカッション）①	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う①。
第 21 回	考察（ディスカッション）②	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う①。
第 22 回	考察（ディスカッション）③	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う③。
第 23 回	考察（ディスカッション）④	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う④。
第 24 回	論文完成①	問題・目的，先行研究レビュー，研究方法と結果の分析，考察の全体を確認し，卒論完成・提出にむけた作業を行う①。
第 25 回	論文完成②	問題・目的，先行研究レビュー，研究方法と結果の分析，考察の全体を確認し，卒論完成・提出にむけた作業を行う②。
第 26 回	論文完成③	問題・目的，先行研究レビュー，研究方法と結果の分析，考察の全体を確認し，卒論完成・提出にむけた作業を行う③。
第 27 回	成果報告①	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う①。
第 28 回	成果報告	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆については各自のペースで進めてもらう形で結構ですが，個人の卒論指導やゼミ内でのディスカッション（中間報告）を通しての学びやアドバイスを十分に反映させた卒論にしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の完成度（60%），卒業研究への取り組み（20%），授業への積極的な貢献度（20%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループでのディスカッションの時間と個人の卒業論文の指導のバランスをとる。

【Outline and objectives】
This seminar focuses attention on completing an individual thesis that is based on issues related to life-designing problems and/or program evaluation.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

福井　令恵

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：集・他　｜　配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考え、独自のテーマを追究して、卒業論文を完成させる。自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の集大成とする。

【到達目標】
自分の興味・関心に基づき、テーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。また、調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、演習時に指導を行う予定である。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに各自が研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方について、説明する。
2	テーマの設定（1）	調査研究の構想（1）。
3	テーマの設定（2）	調査研究の構想（2）。
4	先行研究の検討（1）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（1）。
5	先行研究の検討（2）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（2）。
6	リサーチクエスチョンと研究計画（1）	リサーチクエスチョンと研究計画の策定（1）。
7	リサーチクエスチョンと研究計画（2）	リサーチクエスチョンと研究計画の策定（2）。
8	リサーチクエスチョンと研究計画（3）	研究テーマ、リサーチクエスチョンの発表をし、今後の計画を提出する。
9	データの収集と整理（1）	データの収集（1）。
10	データの収集と整理（2）	データの収集（2）。
11	データの収集と整理（3）	これまでに得られたデータの整理をする。
12	仮説の検討	データのもとに、仮設の検討を試みる。
13	中間発表（1）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（1）。
14	中間発表（2）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（2）。
15	進捗状況の報告と見直し	研究活動の報告。
16	データの蓄積・整理・分析（1）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（1）。
17	データの蓄積・整理・分析（2）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（2）。
18	論文の組み立て	明確な章立ての確認。
19	卒業論文の執筆（1）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（1）。
20	卒業論文の執筆（2）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（2）。
21	卒業論文の執筆（3）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（3）。
22	卒業論文の執筆（4）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（4）。
23	卒業論文の執筆（5）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（5）。
24	卒業論文の執筆（6）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（6）。
25	卒業論文の見直し（1）	論文全体を書きあげ、見直しをする（1）。
26	卒業論文の見直し（2）	論文全体を書きあげ、見直しをする（2）。
27	卒業論文の完成	卒業論文の完成。
28	卒論発表	ゼミ生（3 年生）への卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業において適宜紹介する。

【参考書】
授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み姿勢： 50 %
論文の形式・内容： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参すること。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to write a high-quality thesis. Students learn the necessary process to complete their research paper such as how to collect data and gain the ability to persuade the reader logically with evidence and thought. In this course, students will report on the progress of their research and discuss with other students. Individual guidance will be carried out several times as necessary.

OTR400MA

キャリアデザイン学総合演習

坂本　旬

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・3　｜　配当年次：3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学の学習成果の振り返りと公開
①経営者、弁護士や会計士などの士業、医者、政治家を含む社会人を前に自己の学びをテーマとした上映やプレゼンテーションを行う。
②上記の目標を達成するために、キャリアデザイン学部での学びをプレゼンテーション用のスライドやショートムービーにまとめる。

【到達目標】
①キャリアデザイン学部での多様な学びを振り、スライドやショートムービーにまとめる力を身につける。
②実社会で通用するプレゼンテーション力を身につける。
③学習に PDCA（Plan ＝計画、Do ＝実行、Check ＝評価、Act ＝改善）を用い、PDCA を活用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は次の方法で進める。
①ディスカッションを中心としたグループ学習
②ゲストを招いた講義
③ショートムービー制作またはプレゼン資料制作
④課外活動として、士業コミュニティである「A コモンズ・ミーティング」に参加し、プレゼンテーションを行う。
⑤必要に応じて、社会人としての基本的なマナー講座を実施する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 1	授業の内容と方法の紹介
第 2 回	課外活動の解説	「A コモンズ・ミーティング」の紹介（外部講師）
第 3 回	グループワーク 1	プレゼンテーションの方向性の検討
第 4 回	グループワーク 2	プレゼンテーション内容の検討 (1)
第 5 回	グループワーク 3	プレゼンテーション内容の検討 (2)
第 6 回	発表準備 1	外部講師による講評およびアドバイス
第 7 回	発表準備 2	プレゼンテーション内容の修正
第 8 回	発表準備 3	プレゼンテーションの予行演習
第 9 回	プレゼンテーション（課外学習）	A コモンズ・ミーティングでのプレゼンテーション
第 10 回	プレゼンテーション振り返り	プレゼンテーションを振り返る
第 11 回	社会人特別授業 (1)	特別講師による社会人講座
第 12 回	社会人特別授業 (2)	特別講師による社会人講座
第 13 回	パーティ実習準備	社会人を招いたパーティの計画
第 14 回	授業のまとめとパーティ実習	これまでの授業を振り返り、成果をゲストに報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
士業コモンズ・A ミーティングについては以下の Web サイトを参考にすること。https://www.a-commons.com/
経営者や士業従事者などとの会合に参加するため、スーツなどの服装の用意、名刺の制作、社会人としての基本的なマナーの習得が必要である。なお、課外学習の日程は授業内で決める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありません。必要に応じて、議論に必要な資料を配布します。

【参考書】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
小門裕幸『アントレプレナーシップとシティズンシップ』法政大学出版局
山田泉『多文化教育Ⅰ』法政大学出版局
坂本旬『メディア情報教育学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
授業および課外活動への参加、プレゼンテーションの内容、振り返りレポートを元に評価を行う。授業及び課外活動への参加は 30%、プレゼンテーションの内容 40%、振り返りレポート 30%の配分となる。

【学生の意見等からの気づき】
実社会で活躍する人々の集まる会合への参加は学生にとっては大きな挑戦であり、確実に力がつくだろう。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、iPhone 等、映像を制作するための機器

【その他の重要事項】
ディスカッションやワークショップへの継続して参加すること。

【Outline and objectives】
To review your learning at collage and make a presentation material or movie
To participate a outside meeting and make a presentation about your career and learning

LANe100MA

国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）

Robert　Durham

単位数：**1 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

【到達目標】
The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
NEW INFORMATION: BECAUSE OF THE COVID-19 STATE OF EMERGENCY, OUR CLASSES WILL BEGIN (ONLINE) FROM APRIL 24, 2020

———————

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.] Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 2 回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 3 回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第 4 回	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.
第 5 回	"How are you?"/ "How are you doing?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第 6 回	Further practice, re: "How goes it?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第 8 回	"How often do you _____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第 9 回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 10 回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 11 回	Video/ News activity, with questions about that video clip. "What are your hobbies?"	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. / Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第 12 回	Exam, re: all topics studied and practiced during the semester.	Speaking exams: students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Spring semester.
第 13 回	.	.
第 14 回	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】
–

【成績評価の方法と基準】
Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams & spoken replies (approximately 25%); attentiveness in class & on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

【学生の意見等からの気づき】
–

【学生が準備すべき機器他】
Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; and Englihs-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】
NEW INFORMATION; Because of the Covid-19 'State of Emergency', classes will start ONLINE, April 24th, via HOPPII. Please contact me via Hoppii, and/or via e-mail (import4u@gmail.com). We are all novices at 'Online Learning', so we will all probably make some 'mis-steps'. Please PERSEVERE...and keep in touch.
We MIGHT try to arrange some Online video classes/chats...after resolving technical issues.　Please make sure that you have an Internet-enabled PC. Also, maybe Docomo, Au, & Sofbank will permit you to have an extra 50GB of access, free. (Please check.)

———————

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
This course will assist students to more speedily & smoothly communicate is English that will be useful in their futures...and in their careers.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）

Robert　Durham

単位数：**1 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

【到達目標】
The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
第 2 回	Pricing items in English; & answering questions about prices in English.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第 3 回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第 4 回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en traditions?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.
第 5 回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
第 6 回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/ Which...?/ How...?)	Students will learn how to verbally ask/reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第 7 回	"What would you do, if _____ ?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第 8 回	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; about telling time(s).
第 9 回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第 10 回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第 11 回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第 12 回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verablly (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
第 13 回	Exam, re: all topics that students learned and practiced during the Fall 2018 semester.	Speaking exam: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in the Fall 2018 semester.
第 14 回	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	Students will be asked to write down adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】
–

【成績評価の方法と基準】
Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams & spoken replies (approximately 25%); attentiveness in class & on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework(15%).

【学生の意見等からの気づき】
–

【学生が準備すべき機器他】
Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; and English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】
Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".
* IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度〜2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
This course will assist students to more speedily & smoothly communicate is English that will be useful in their futures...and in their careers.

LANe100MA
国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）/Foreign Language Exercise （English Ⅲ）
※ GO 科目

クレッグ ジョンストン

単位数：1 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・3 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法をを基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】
This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
The first day of class will be held on April 24, 2020 via Zoom at the normal class time: 1:00 pm. Please refer to the announcement on Hoppii for the URL and login details.
The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	pp.9-17 DVD Episode 1 Prepare info. speech quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	pp18-27 DVD Episode 2 Prepare layout speech grid
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	pp28-38 DVD Episode 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	pp.40-50 DVD Episode 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	pp.51-56 DVD Episode 5 Prepare explanations for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5
Week 8	The Story Message Organization of a speech	pp57-61
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	pp62-68 DVD Episode 6 Prepare storyboard for product speech
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	pp.69-86 DVD Episode 7 Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	pp.87-95, DVD Episode 8 Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review material in book, Prepare for end of section quizzes , Prepare information and visuals to make speeches in class 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】
Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】
Quizes-30%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 35%
*An 80% attendance rate is required to pass the course. Students missing more than 3 classes will be given a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
More work on making better eye contact and more effective use of visual aids.

【学生が準備すべき機器他】
OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA
国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）/Foreign Language Exercise （English Ⅳ）
※ GO 科目

クレッグ　ジョンストン

単位数：**1 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**金・3** ｜ 配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・スキル（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方など）を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】
In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered , develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Unit 2a Culture shock	Ice Breakers Introduce topic Preview vocabulary Lecture topic and organization Listen to lecture and outline main points
Week 2	Unit 2a culture shock	Finish lecture & outline Practice summarizing from outline Discuss lecture topic Review for Quiz
Week 3	Quiz and review Unit 2a	Unit 2a quiz Begin Unit 2b
Week 4	Unit 2b Third-Culture Kids	Preview vocabulary Defining key terms Listen to lecture and outline main points
Week 5	Unit 2b Third-Culture Kids	Finish lecture & outline practice summarizing from outline Discuss lecture topic Get research assignment for presentation on culture shock/differences
Week 6	Quiz and review Unit 2b	Unit 2b quiz Speeches on Culture shock/differences Begin Unit 3a
Week 7	Unit 3a New diets	Preview vocabulary Signal Phrases Listen to lecture and outline main points
Week 8	Unit 3a New diets	Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Discuss lecture topic Review for 3a quiz
Week 9	Quiz and review Unit 3a	Unit 3a quiz Begin 3b Food Addictions Preview vocabulary
Week 10	Unit 3b Food Addictions	Expressing opinions Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Get research assignment for presentation on diet 6 health
Week 11	Quiz and review Unit 3b Presentations Introduce Unit 4a	Unit 3b quiz Presentations on health and diet Begin 4a High/Low Context communication Preview vocabulary
Week 12	Unit 4a High/Low Context communication	Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Discuss lecture Review for 4a quiz
Week 13	Quiz and Review Unit 4a Introduce Unit 4b Managing International meetings	Quiz Unit 4a Preview vocabulary Summarizing discussions Listen to lecture and outline main points
Week 14	Quiz and Review Unit 4b Discussion on communication	Quiz Unit 4b Discussion on communication styles

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【参考書】
Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【成績評価の方法と基準】
Quizes-55%
Homework-15%,
Participation 10%
Presentations 20%

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on expressing opinions and responding

【学生が準備すべき機器他】
OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度～2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA
国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）/Foreign Language Exercise (English Ⅴ)
※ GO 科目

クレッグ　ジョンストン

単位数：1 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・3 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。
The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop the ability to express oneself more freely in writing

【到達目標】
After taking this course, the students should have learned the following:
1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences , and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
The first day of class will be held on April 23, 2020 via Zoom at the normal class time: 1:00 pm. Please refer to the announcement on Hoppii for the URL and login details.
Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.
Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.
Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer reivew
第 5 回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第 7 回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第 8 回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第 10 回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第 11 回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第 12 回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework exercises contained in the course handouts
Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Handouts and reading material will be provided by the lecturer

【参考書】
http://my.vocabularysize.com/
http://quizlet.com
www.englishgrammar.org

【成績評価の方法と基準】
Participation in class: 10%
Two in-class quizzes on the homework: 20%
Three submitted writing assignments: 50%
Final in-class writing test: 20%

【学生の意見等からの気づき】
More work on pre-writing activities and linking related sentences within paragraphs

【学生が準備すべき機器他】
Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】
Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】
2014 年度〜2016 年度入学者のみ，市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】
Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

梅崎　修、武石　恵美子

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・4 ｜ 配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。
学生の間に、働く現場の最新情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】
働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師と調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、初回授業で予定を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から「労働組合とは何か」を説明します。
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと	「働くということ」の意義と労働組合がめざす社会像を説明してもらう。
3	【課題提起】 いま働く現場で何が起きているのか 〜労働相談からみた若者雇用の現状〜	連合に寄せられる労働相談事例をもとに、若者が抱える悩みとそれらへの対応を説明してもらう。
4	【ケーススタディ①】 ワークルール確立に向けた取り組み	長時間労働の是正、労働時間短縮に向けた取り組みを説明してもらう。
5	【ケーススタディ②】 労働条件の維持・向上に向けた取り組み	賃金をはじめとする労働諸条件の改善に向けた取り組みを説明してもらう。
6	【ケーススタディ③】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取組み	ワーク・ライフ・バランス、両立支援、男女平等参画などの取り組みを説明してもらう。
7	【ケーススタディ④】 公正・公平な処遇とキャリア形成に向けた取り組み	賃金制度、昇進昇格など、人事処遇制度をめぐる課題や取り組みを説明してもらう。
8	【ケーススタディ⑤】 雇用と生活を守る取り組み	産業空洞化への対応を中心に、雇用と生活を守る取り組みを説明してもらう。
9	【ケーススタディ⑥】 非正規社員の組合加入と処遇改善に向けた取り組み	正社員と非正社員間の処遇格差是正に向けた取り組みを説明してもらう。
10	【ケーススタディ⑦】 公務労働の現状と公共サービスの役割	公務員の仕事内容と労働組合活動の特徴を説明してもらう。
11	【課題への対応①】 ワークライフバランスの実現に向けて	いまなぜ、働き方の変革が求められているのかを説明してもらう。
12	【課題への対応②】 グローバリゼーションにどう対応するか	進行するグローバリゼーションに労働組合がどのように対応しているかを説明してもらう。
13	ゲスト講義の振り返り	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。
14	「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて	連合がめざす社会像を説明してもらうとともに、担当教員によるまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内記入のコメントシート（30 点）＋レポート（70 点）

【学生の意見等からの気づき】
労働用語を随時説明していきます。

【Outline and objectives】
This course is provided by RENGO, the Japanese Trade Union Confederation.
Every time, the guest lecturer who is active in a labor union will lecture on labor circumstances and the industry trend. This class will be the very valuable opportunity when students can understand the latest information about the work place.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅰ

鈴木　美伸

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・1　｜　配当年次：3〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。
この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。
企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部 (発揮）ともいえます。

【到達目標】
修得すべき７つのチカラ
１．社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
　⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
　⇒ 社会規範となる倫理観
２．他者を説得できるロジカルシンキング
　⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
　⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
　⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
３．他者を動かすコミュニケーション力
　⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
　⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
４．組織を動かすコミュニケーション力
　⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
　⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
５．組織を活性化するリーダーシップ
　⇒ モチベーション・マネジメント
　⇒ ４つの状況対応型リーダーシップ
６．社会で未知の道を拓くチカラ
　⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
　⇒ 自分自身の２０代のキャリアプランの作成
７．社会を生き抜くための実践知
　⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
　⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
＊当授業は、４月２２日（水）１限を開講日とします。今学期の特殊事情を鑑み、初回は多くの大学のオンライン授業に採用されている「Zoom」というグループディスカッション用のツールを使い、ガイダンスの講義と受講者の皆さんのネットワークの接続状況を確認します。受講希望者は、以下の要領で私までメールにてご連絡下さい。授業の開催通知（参加用のＩＤとパスワード）を送付します。
・メールタイトル：「就業応用力養成１」受講希望
・本文に、学生番号、学部名、氏名、を記載
　例： 08L0452 法学部　鈴木美伸
・送信先メールアドレス： yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp
＊ Zoom は初心者でも使いやすいですが、授業時間に自分のＰＣから接続して下さい。初回に参加できない方は、事情を書いて上記メールアドレスまで送信して下さい。初回授業後に進め方を検討致します。
最後に、今学期は授業内容を開講後に相当見直す予定ですので、ご理解下さい。
この授業は、企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とはメタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレーンストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	商社事例研究－１ 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	商社事例研究－２ 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディ－１ 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディ－２ 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒ ３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ ３０点
・グループワークでの貢献度　⇒ ３０点
・期末テスト　⇒ １０点
上記配点は原則として加点方式で行います。
授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000 字程度のレポートを課しますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
就職活動での欠席は認めませんが、代替手段（補講等）は用意します。
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
ＰＣは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】
法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】
The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木　美伸

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・1**　｜　配当年次：**3～4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。
未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。
同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。
アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】
どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の８つの力を修得します。
１．事実をベースに語る提言力　（事実と意見を峻別する）
２．３つの分析手法力　（時間・空間・実験分析）
３．知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
４．問題解決の視点力　（What? Why? How?）
５．構造分析の要素考察力
６．マクロとミクロの視点を統合力　（定量と定性調査力）
７．一次情報に触れる取材力　（但、百聞一見を盲信しない）
８．上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	８つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには （ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－１ 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ ２１世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20 代、30 代、40 代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究－２ パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート＆プレゼンテーション－１ 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法

8	ライフスタイル研究－３ 社会課題解決のキャリア モデル 夢を形にして社会課題に 取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルに よる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 （ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラー ニング（ＰＢＬ）－１ 広告代理店の事例 大学をプロデュースする には	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラー ニング（ＰＢＬ）－２ 学生目線が採用担当者を 変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワーク ショップ （一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート＆プレゼン テーション－２ 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会学的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラー ニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ｉ」の履修が望ましいですが、
　事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
　但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒ ３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ ３０点
・グループワークでの貢献度　⇒ ３０点
・期末テスト　⇒ １０点
上記配点は原則として加点方式で行います。
授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。
この他に、1000～2000 字程度のレポートを課しますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
就職活動での欠席は認めませんが、代替手段（補講等）は用意します。
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。
大学用意のＰＣを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】
法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

EDU100MA

教職入門

児玉　洋介

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・3　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
今日の学校教育の抱える様々な課題、教師に対する様々な期待などを視野に入れながら、中等教育（中学高校）に焦点を当てて、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務」を主たる要素に授業を構成する。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流を大切に授業をすすめたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	本講座の授業計画の概要、進め方。教員養成制度のしくみと、教師になるために学ぶべき内容の概略。
第 2 回	教師という職業の特徴	「教師像」と、教師に寄せられる期待を小説等を題材に考えながら、教師という職業世界に接近する。
第 3 回	教職の歴史	近代学校制度と教職観の変遷をたどりながら、今日の教員に求められる期待と役割を考える。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教職の専門性の捉え方、専門性を獲得していく手立て、そのための教員の育成と現職研修のしくみ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	今日の学校現場での教師の実生活と、ライフステージ。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教員の「勤務の特殊性」とは何か。教員の働き方をめぐる困難な課題とその改善に向けたとりくみ。
第 7 回	職務の全体像	専門職として「教育をつかさどる」仕事と、学校という組織を集団的に運営する校務の分掌。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業をつくる。授業から学ぶ。カリキュラムをデザインする。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	いじめ、非行、不登校など、生徒の発する困難な諸課題ともかかわりながら、生徒を育み、生徒と生きる教師。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	「学ぶ」こと、「働く」ことの意味を問いながら、生徒自身の内に進路を拓く力を育む。
第 11 回	職務内容④：学級経営	一年間の学級のあゆみを通して、生活や行事のなかでの学級の変化や成長を見る。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校の教育力、学校が創り出す文化の源となる教職員の共同。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	子どもの貧困、学力格差、不登校、非行など、広がる子どもの課題に対応するための連携・共同。
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	人権教育、インクルーシブ教育、主権者教育など、広がる教育課題と、転換期の学校にあって、学び続ける教師。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、授業の中で教員が適宜、参考文献等を指示する。

【参考書】
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示　文部科学省）
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（リアクションペーパー等を活用）４０％、及び授業テーマに関連した課題レポート（3 回）６０％などから、基本的な知識や考え方、教職課程の学びへの取り組みの意思等を見て、総合的に評価する。定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の人数が多いので講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】
講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

天野　一哉

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・5 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【新型コロナウィルス対策にともなう追加】
春学期の少なくとも前半はオンライン（ZOOM）での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火曜日) し、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
開始日に 4 月 28 日 (火曜日) までに無料 ZOOM ソフト（アプリ）をダウンロードし接続確認を実施しておくこと。
次期学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	４年間の学びをイメージする
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第 4 回	職業としての教師としての成長	研修・免許更新、服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第 11 回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第 12 回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第 13 回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第 14 回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的 専門書 (教育史を含む) の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】
天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）、高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月）、
生徒指導提要（平成 22 年 3 月）　※いずれも PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
【新型コロナウィルス対策にともなう追加】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も 変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題： 40 %、定期試験： 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】
春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

高野　良一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・4　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：免許・養成・採用の制と 4 年間の学び	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第 2 回	教職の捉え方（特徴）	受講生の教職像、教職アイデンティティ、教職の３要素
第 3 回	教職の歴史	戦前の教師、戦後①「二十四の瞳」、戦後②学園ドラマの中の教師
第 4 回	教師の成長と学び	「学び続ける教師」、「反省的実践家」、教師養成「改革」
第 5 回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第 6 回	教育指導の全体像	教育指導の 4 分野、教師の指導文化、教員評価
第 7 回	特別活動と部活の指導：職務内容①	「教育課程」としての特別活動、課題活動の部活、指導とハラスメント
第 8 回	職務内容②：教科指導（道徳を含む）	学習指導要領改訂、教科の変更点、「特別の教科」の道徳
第 9 回	職務内容③：生徒・生活指導	生徒指導の日本的特質、校則指導、いじめ指導
第 10 回	職務内容④：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業指導から進路指導へ、キャリア教育
第 11 回	職務内容⑤：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第 12 回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第 13 回	多様な関係者との連携	「チーム学校」、コミュニティ・スクール、親・住民の学校参加
第 14 回	まとめ：「学び続ける教師」	「学び続ける教師」、教職履修の計画化、修了試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
藤本典裕『新版（改訂二版）教職入門：教師への道』図書文化社
学習指導要領、生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）
※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題： 30 %程度、修了試験： 70 %程度を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内発言やコメントペーパーなどを通じて、学生の意見などを授業に反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

寺崎　里水

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・2 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。
①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解すること。
②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかが理解できること。
③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として学習支援システムを利用したオンラインのオンデマンド形式で行います。
教職課程の入門科目として位置付けられており、指定された教科書をもとに個々人で作業をしたり、課題レポートを提出したりしてもらいます。
授業の内容について、学習支援システムの「授業内掲示板」を用いて互いに議論をする場面があります。
学習内容に関して生じた質問は、自分で一定程度調べたあと、「授業内掲示板」を用いて、互いに解決を図ったり、教員に尋ねたりしてください。
初回授業日は４月２７日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：4 年間の学びのイメージ	職業を選択するということ、教職を選択するということ
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第 11 回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第 12 回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第 13 回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第 14 回	教職の方向性	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された課題をすることが予習になるように講義内容を考えています。必ず課題を終わらせ、提出したのちに、授業に参加してください。
教科書の内容すべてを授業内で扱えるわけではないので、授業で触れた章はもちろん、関連文献・資料として紹介されたものを各自で読んだり調べたりしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　※ PDF でダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。
具体的には、提出課題の内容： 50 %、授業内掲示板への参加： 10 %、最終レポートの内容： 40 %で評価を行います。定期試験は課しません。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続し、必要な資料をダウンロードしてプリントアウトしたり、重要だと感じた内容を自身でノートにまとめることが必要です。
ネットに接続できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいので推奨しません）が必要です。

【その他の重要事項】
教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline and objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.
We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教育原理

筒井　美紀

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**火・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、「予習のための Questions」に対する自分の解・考察をノートに書いたうえで授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキスト序章を下敷きとする
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（プラトン『国家論』とジョン・デューイ『哲学の改造』を下敷きに。テキスト第 1 章第 1・2 節、第 4 章第 1 節）
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（エミール・デュルケイム『フランス教育思想史』を下敷きに。テキスト第 1 章第 3 節）
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？（フィリップ・アリエス『子供の誕生』を下敷きに。テキスト第 4 章第 1 節）
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？（ルソーとコメニウスを取り上げる。テキスト第 2 章第 1〜3 節）
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？（助教法・ベル＝ランカスターシステムを取り上げる。テキスト第 3 章第 1〜3 節）
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第 3 章第 4 節）
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？（エレン・ケイ『児童の世紀』とジョン・デューイ『子どもとカリキュラム』を下敷きに。テキスト第 3 章第 4 節）
第 9 回	発達と学習	「こども」から「おとな」へと人はどのように発達してゆくのか？（エリック・エリクソン『ライフサイクル、その終焉』を下敷きに。テキスト第 4 章第 2〜3 節）
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校給食か手作り弁当か？ ――公教育と家庭・養育の関係性とその歴史的変遷
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	知識伝達型授業か知識活用型授業か？ ――児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	集団教育か個別教育か？ ――「その子の個性・能力」を見極め育てることの困難
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	AI ロボットに教わるか生身の先生に教わるか？ ――高度知識社会における人間性の発達
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	教育の基礎的諸概念を中心に総まとめ。筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する－－自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】
・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出のリアクションペーパー 28%（2×14 回）, 期末論述試験 72%

【学生の意見等からの気づき】
前方で上映するパワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion on the current educational issues

EDU100MA

教育原理

天野　一哉

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・5　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
　教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】
　教育の基本的諸概念、教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の “教育原理” を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning) の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。
　次期学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテー ションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション
第 2 回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 3 回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 4 回	「教員」「学校」とは何か	教育制度の成立 解説とグループ・ディスカッション
第 5 回	教育史①	世界の教育史の概観
第 6 回	教育史②	日本の教育史の概観
第 7 回	教育思想①	世界の思想の概観
第 8 回	教育思想②	日本の思想の概観 家庭/家族
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	ゲスト①	現役教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第 11 回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価
第 12 回	プレゼンテーション①	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 13 回	プレゼンテーション②	第１１回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 14 回	総まとめ	全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する』法政大学出版局

【参考書】
天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、
※いずれも文部科学省 HP より最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】
　教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100 字以上省察」： 40 %、レポート（またはプレゼンテーション）： 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
　可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】
　春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修を推奨する。

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today’s educational issues

EDU100MA

教育原理

飯窪　真也

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・2 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第 9 回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
授業への参加姿勢 30%，リアクションペーパー 30%, 授業内論述試験 40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育原理

澤里　翼

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火・3**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】
教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉――「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など――が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。
また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリットデメリットについて考えます
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校を「監獄」とする見方について考えます
第 9 回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察します
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	教育内容を決めるべき主体がだれなのかについて考えます
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低 1 回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません

【参考書】
・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する――自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（各回提出してもらうリアクションペーパー）10 %
小テスト　10 %
授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション）　40 %
期末レポート　40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
・新型コロナウィルス流行のため対面による授業の開始ができない状況です。
・本講座では 4 月 21 日から週に 1 回程度のペースで授業支援システムを通じて資料や課題を提示していく予定ですので、確認をお願いします。
・まずはご自身と周りの方の健康を第一に！

【Outline and objectives】
The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹　丘

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・1　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
小川正人・勝野正章（2016）『改訂版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会.
小川正人・岩永雅也（2015）『日本の教育改革』放送大学教育振興会.
藤田祐介編著（2015）『学校の制度を学ぶ』文化書房博文社.
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房.
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会.
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター.
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店.
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版.
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき，一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる．

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹　丘

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・1　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として担当者による講義を行う．各回分の内容について疑問点を提出してもらい，発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては，続回でリアクションを行う．
【初回授業日： 4 月 24 日】
オンラインで行うが，情勢によっては教室授業の可能性もある．オンライン授業の場合は，毎回の資料をアップロードする．第 2 回以降は，web 上で入手可能な論文等での学習を踏まえ，内容についての疑問点を提出する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容，進め方，評価方法，社会科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割，教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について，義務教育費国庫負担金制度，教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性及び「チームとしての学校」	教職の専門職性とライフコース，並びに学校が教員だけで構成されるのではなく，専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策及び地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について 学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること．本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
勝野正章・村上祐介（2020）『新訂　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会.
小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社.
青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会.
小川正人・岩永雅也（2015）『日本の教育改革』放送大学教育振興会.
藤田祐介編著（2015）『学校の制度を学ぶ』文化書房博文社.
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房.
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター.
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店.
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版.
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントシートとして疑問点を提出させ，続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である．

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき，一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる．

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

仲田　康一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・5　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育のの法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を原則とする。リアクションペーパーを各回配り、フィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第 2 回	世界の教育改革	新自由主義・新保守主義の改革
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後の憲法・教育基本法体制と学校教育体系とその変質
第 4 回	教育行政のしくみ	教育行政の構造と原則・計画行政の功罪
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程法制、教育課程の編成と実施、教科書と補助教材、教科書検定について
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育を受ける権利の保障をめぐる論点の確認〜特に貧困・格差等
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校制度・運営・教職員配置・組織構造
第 8 回	学級経営	日本の学級制度の意義や特殊性をめぐって
第 9 回	学校と教員の評価	standardization と accountability による教育改革
第 10 回	教員の成長と同僚性	教師の働く場としての学校・教師の権利と地位・同僚性のあり方
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、学校の助成/統制の問題など
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校安全法制
第 13 回	「チームとしての学校」	学校における多/他職種の連携について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校支援ボランティア・学校協議会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料の再読、意見の言語化。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず、授業時に参考となるものを適宜示す。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学 (改訂新版)』学文社
小川正人・勝野正章『改定版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（４０％程度）、定期試験 (６０％程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの記入を求めたがが、それを読む限り時事に触れるトピックは関心が高く、メディアで語られていることを場合によっては相対化することが学生の関心を呼んでいたため、今年度もそうした問題を敏感に取り入れるよう心がける。

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

高野　良一

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・5 ｜ 配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の１～３条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教行法と学校
第 5 回	教育内容行政	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政と無償制	無償制、国庫負担金・補助金、「受益者負担」、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	教師・学校の危機管理・安全対策	危機管理・安全対策「元年」、学校保健安全法、３・１１の教訓
第 13 回	「チームとしての学校」	「チーム学校」政策、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、「働き方改革」
第 14 回	学校と地域の連携	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員が必要に応じて指定する。

【参考書】
本図愛実・末冨芳編著『新・教育の制度と経営 [新訂版]』学事出版
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（30 %程度）、定期試験 (70 %程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに不慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながら、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community, It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU200MA

教育課程論

松尾　知明

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりにカリキュラムのデザイン力とマネジメント力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解することを目的としている。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は 27 日から開始する。対面での授業ができるようになるまでは、学習支援システムを活用し、授業日（月曜）に教材や課題を提示する。教科書や教材を読んで課題に答え、金曜日の 12 ： 00（昼）の締切までに学習支援システムに提出する。課題の提出をもってその週の授業への出席（参加）とする。カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、教育課程を不断に改善するカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
2	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
3	教育内容の選択	教育の目的、教育課程編成の基本原理
4	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
5	学習指導要領とは	性格及び位置付け、社会的役割や機能
6	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
7	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び枠組み
8	社会に開かれた教育課程	社会とのつながり
9	学力論の系譜	教育課程と学力
10	カリキュラム・マネジメント	学習活動と条件整備活動の連関
11	カリキュラム評価	PDCA サイクルとカリキュラム評価
12	まとめ	授業の振り返り、教育課程の編成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読み、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（70 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
カリキュラムのデザインとマネジメントについて課題を工夫する。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

黄　郁倫

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・4　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史的変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という 3 つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方について理解する。

【到達目標】
21 世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂なのポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第 9 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 10 回	教育課程と指導計画 (1)	指導計画のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画 (2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 12 回	教育課程と指導計画 (3)	教科・領域の横断
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめ	日本のおける特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.

EDU200MA

教育課程論

飯窪　真也

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
初回の授業日は 4 月 30 日（木）とし、以降原則毎週木曜日に授業（課題提示）を行います。各回の授業内容は、学習支援システムを通じて指示します。授業形式は原則として、YouTube での短い講義動画（10 分 1,2 本程度）の視聴と文献購読（システム上で配布するもの）を基に、A4 用紙 1,2 枚程度の課題レポート（word ファイル）を作成、期日（原則授業日から 4 日以内）までに学習支援システムから提出するものとします。提出されたレポートについては、次回の授業時にフィードバックを行います。対面での授業が可能になるなど状況に変化があれば、追って対応を学習支援システムを通じて指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます (第 4 回とあわせて実施します)
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます （第 6 回とあわせて実施します）
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（70 %）、最終レポート（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに接続できるパソコン

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

飯窪　真也

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

川津　貴司

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：金・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は４月２４日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 10 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 13 回	カリキュラム評価	ＰＤＣＡサイクルとカリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生のニーズを考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育方法論

岩本　俊一

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらにまた教育法方論の基本的な問題である生活指導と学習指導の関係について、我が国のカリキュラム体系と関連づけて考察する。
上記講義内容に関する理解を助けるため、我が国の学校における教育課程の概要及び具体的な実践例等、諸資料を適宜配布する。そのさい、情報機器、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。
授業方法は、学習支援システムを使用し、教材、資料等の情報を掲示し、課題を課す等の方法で、オンラインで実施する。
初回授業は　5 月 11 日（月）とする。
　＊本講義は火曜開講授業であるが、便宜上、初回は 5 月 11 日（月）とし、２回目以降は 5 月 19（火）、5 月 26（火）と火曜開講とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	1．イントロダクション　教育の論理で考えるということ － COVID-19 感染抑制対策としての「休校要請」を手掛かりに－ COVID-19 の感染防止（抑制）対策として総理大臣が３月に要請した休校要請について「教育の論理から」考察し、理解することは、本講義が取り扱う内容と密接に関連する。そこでまず、本講義受講者にはまず、講義開始前に「休校要請」の問題を「教育の」観点から考えていただき、2000 字程度のレポートを作成してもらいたい。その上で、本件について関連する重要な問題について提示し、関連する参考文献を提示する。参考文献を読んだ後に課題を課す予定である。
第 2 回	教育方法と教師の専門性	・教師の専門性について考える
第 3 回	教育方法の基礎的理論	・児童生徒の学びと学習理論について考える。
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	・新学習指導要領と資質・能力の育成について論じる
第 5 回	教育の内容と学習活動	・単元の学習活動の構想 ・教育の内容と学習活動
第 6 回	学習活動と学習環境	・学習活動と学習環境について論じる ・学習環境としての学校について考える。
第 7 回	教育目標の明確化	単元学習活動における目標及び設定について論じる
第 8 回	学力と評価の観点	・評価の考え方・進め方について論じる
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	・主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第 10 回	個に応じた指導の工夫	・個に応じた指導について考える
第 11 回	情報機器及び教材の活用	・情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第 12 回	発問や板書などの指導技術	発問や番所などの指導の基本的技術について論じる
第 13 回	教育評価	・評価の考え方・進め方について論じる
第 14 回	授業のまとめ、テスト	・ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に内容をまとめる等、復習を通じて理解を深めるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、参考文献などは適宜授業内において指示する予定である。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
このままオンラインのみで講義が行われる場合にはそれぞれに課した課題が単位修得のための評価の対象となる。成績評価の対象者は課されたレポートを全て提出した者に限られる。
対面授業が再開された場合には、講義の進め方や成績評価方法については改めて公表する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

松尾　知明

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力を育てる授業デザインや教育方法について検討するとともに、その知見をもとに単元指導計画を効果的にデザインすることについて考察する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は 27 日から開始する。対面での授業ができるようになるまでは、学習支援システムを活用し、授業日（月曜）に教材や課題を提示する。教科書や教材を読んで課題に答え、金曜日の 12 ： 00（昼）の締切までに学習支援システムに提出する。課題の提出をもってその週の授業への出席（参加）とする。
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
2	教育方法と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法の基礎的理論	学びと学習理論
4	主体的・対話的で深い学び	思考力を育む
5	個に応じた指導の工夫	一斉指導から個に応じた指導へ
6	新学習指導要領と教育方法	資質・能力の育成に向けて
7	教育の内容と学習活動	単元と指導計画、学習活動の構想
8	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
9	学力と評価の観点	評価規準の設定
10	情報機器及び教材の活用	学びのツール
11	教育評価	評価の考え方・進め方
12	まとめ	授業の振り返り、単元指導計画の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（70 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の組み立て方を工夫をする。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

黄　郁倫

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims at cultivating students‘ theoretical knowledge necessary for engaging in the practice of education through introducing the method of education from three viewpoints: "learning", "teacher", and "class." It is hoped that through this class students will learn basic concepts, ways of thinking, as well as methods and techniques to design a class.

EDU200MA

教育方法論

黄　郁倫

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR なども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】
This class aims at cultivating students‘ theoretical knowledge necessary for engaging in the practice of education through introducing the method of education from three viewpoints: "learning", "teacher", and "class." It is hoped that through this class students will learn basic concepts, ways of thinking, as well as methods and techniques to design a class.

EDU200MA

教育方法論

川津　貴司

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金・6　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作っての「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	教育方法と教師の専門性	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びと学習理論
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	教育の内容と学習活動	活動的な学びの組織化
第 6 回	学習活動と学習環境	環境づくりの視点
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	学力と評価の観点	評価規準の設定
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	対話の重要性
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個性を生かす方法
第 11 回	情報機器及び教材の活用	情報機器の効果的な使用法
第 12 回	発問や板書などの指導技術	授業事例から学ぶ
第 13 回	教育評価	評価の際の留意点
第 14 回	授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生のニーズも考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】
This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

FRI200MA

図書館演習

有吉　末充

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：水・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】
(1) メディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
(2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
(3) メディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ユネスコのカリキュラム（日本語版、英語版）をテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける
授業の予定は Hoppii の「お知らせ」と資格課程学習支援システム HULiC で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
第 2 回	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方
第 3 回	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
第 4 回	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
第 5 回	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
第 6 回	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
第 7 回	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
第 8 回	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
第 9 回	司書・教師の能力実	践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
第 10 回	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
第 11 回	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
第 12 回	メディア情報リテラシーと学校図書館	メディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
第 13 回	メディア情報リテラシーと公共図書館	メディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
第 14 回	メディア情報リテラシーと社会	メディア情報リテラシーと現代社会の関わり、前期まとめ
第 15 回	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス

第 16 回	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
第 17 回	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
第 18 回	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
第 19 回	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
第 20 回	情報メディアと広告	広告について学ぶ
第 21 回	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
第 22 回	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
第 23 回	コア・モジュール 7　情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
第 24 回	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
第 25 回	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
第 26 回	デジタルメディア教育の方法	デジタルなメディア教育の方法を学び、プランを作る
第 27 回	デジタルメディア教育の実践	デジタルメディア教育を制作体験する
第 28 回	デジタルメディア教育実践の発表	デジタルメディア教育実践の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程専用授業支援システム (HULiC) を用いた事前学習および宿題などの準備・復習をする。準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』(日本語版・英語版)
右のサイトからダウンロードできる。http://amilec.org/

【参考書】
坂本旬『メディア情報教育学』法政大出版局

【成績評価の方法と基準】
レポート 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションの仕方や自発的な発表の仕方をしっかりと教えたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業用コンピュータを使用する。

【その他の重要事項】
少人数制演習のため、受講希望者数が多い場合は抽選を行うことがある。

【Outline and objectives】
To study theory of the media and Information literacy of UNESCO.
To explore the situation of "fake news" and hate speech on social media in the world.
To investigate fact check the news as reference or school librarians.

FRI200MA

図書館演習

村上　郷子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**土・1**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行うことによる、と公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】
春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京 23 区中央立図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。人数によっては、海外文献の紹介・読解も行う。
秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。
春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。
(可能であれば Zoom によるオンライン＋オンデマンド方式)
春学期のこの授業は 5 月 2 日 1 限の時間帯 (8 ： 50) を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	図書館政策の動向	指定管理者制度､司書の問題、知的自由、市民との協働について概観する
3	図書館サービスの策定と課題	図書館サービス、マネジメント、公共図書館の課題について
4	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態
7	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲
8	課題　小レポート	指定管理者制度､司書の問題、知的自由、市民との協働の何れかについての小レポート
9	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
10	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
11	学生による研究発表①	2 つのテーマについて、発表する。
12	学生による研究発表②	2 つのテーマについて、発表する。
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポート統合	まとめ
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意

22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。
秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。
授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HuliC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE も積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期のみ　個人・グループのプレゼン 20 %、個人の課題レポート 30 %、学期末レポート 50 %
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。具体的な方法と基準は、授業開始日以降のメディア環境によって変更もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline and objectives】
In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

FRI200MA

図書館演習【通年】

丹　一信

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**火・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新型コロナウイルスの影響により、シラバスを 4 月 19 日付で大幅に修正しています。本シラバスの内容を十二分に理解してください。
当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては,【その他の重要事項】を確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。
1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。
なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回のガイダンス（学習支援システム参照）は必須です。

【到達目標】
春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定３級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。
秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することです。
さらに社会情勢が許せば、専門図書館を対象として図書館サービスの調査に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。
秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。
また社会情勢によりますが、実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深めます。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。
なお初回授業日は 4 月 23 日です。ただし初回授業は、ガイダンス資料の配布（動画も含む）が主です。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。
また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報；一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 5 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 10 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題；ネットワーク社会の法制度
第 11 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題；ネットワーク社会の法制度
第 12 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ デジタルアーキビスト などの情報専門職について学びます。
第 13 回	休講	休講
第 14 回	休講	休講

第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	パスファインダーの製作	図書館サービスとしてのパスファインダーの作成に取り組みます。
第 17 回	パスファインダーの製作	パスファインダーの概要について
第 18 回	パスファインダーの製作	テーマを検討する
第 19 回	パスファインダーの製作	テーマを決定し、資料収集を行う。
第 20 回	パスファインダーの製作	図書、雑誌の選定
第 21 回	パスファインダーの製作	論文、記事の選定
第 22 回	パスファインダーの製作	Web 上の情報源など
第 23 回	パスファインダーの製作	AV 資料などについて
第 24 回	事例研究	新型コロナウイルスは、図書館にどのような影響を与えたか。
第 25 回	事例研究	企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。
第 26 回	専門図書館について１	専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します
第 27 回	専門図書館について２	調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成
第 28 回	専門図書館について３	図書館調査の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。
また**第 22 回図書館総合展、2020 年 11 月 4 日（水）、5日（木）、6 日（金）の３日間 開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。**
（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化により中止もあります）
また検索技術者検定 3 級受験を強く推奨します。< = こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト. , 樹村房, 2018, ix, 144pp.
今春、改訂版が刊行予定です。担当教員の指示を必ず確認の上、購入してください。

【参考書】
(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑. , 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
提出物（６０％）および平常点（４０％）　演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】
少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
PC
Hulic
https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】
「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。
本科目は履修者許可者の抽選、選抜を行います。学習支援システムに仮登録した学生の中から、再度、履修の意思確認を行い、抽選の上、履修許可者を確定します。仮登録しなかった場合、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】
The outline of the lesson is as follows.
1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

FRI200MA

図書館演習

丹　一信

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新型コロナウイルスの影響により、シラバスを 4 月 19 日付で大幅に修正しています。本シラバスの内容を十二分に理解してください。
当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては,【その他の重要事項】を確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。
1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。
なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回のガイダンス（学習支援システム参照）は必須です。

【到達目標】
春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定３級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。
秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することです。
さらに社会情勢が許せば、専門図書館を対象として図書館サービスの調査に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。
秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。
また社会情勢によりますが、実地見学を行うことにより、図書館の実際についての理解を深めます。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。
なお初回授業日は 4 月 23 日です。ただし初回授業は、ガイダンス資料の配布（動画も含む）が主です。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。
また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報；一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 5 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 10 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題；ネットワーク社会の法制度
第 11 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題；ネットワーク社会の法制度
第 12 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ デジタルアーキビスト などの情報専門職について学びます。
第 13 回	休講	休講
第 14 回	休講	休講

第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	パスファインダーの製作	図書館サービスとしてのパスファインダーの作成に取り組みます。
第 17 回	パスファインダーの製作	パスファインダーの概要について
第 18 回	パスファインダーの製作	テーマを検討する
第 19 回	パスファインダーの製作	テーマを決定し、資料収集を行う。
第 20 回	パスファインダーの製作	図書、雑誌の選定
第 21 回	パスファインダーの製作	論文、記事の選定
第 22 回	パスファインダーの製作	Web 上の情報源など
第 23 回	パスファインダーの製作	AV 資料などについて
第 24 回	事例研究	新型コロナウイルスは、図書館にどのような影響を与えたか。
第 25 回	事例研究	企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。
第 26 回	専門図書館について１	専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します
第 27 回	専門図書館について２	調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成
第 28 回	専門図書館について３	図書館調査の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。
また**第 22 回図書館総合展、2020 年 11 月 4 日（水）、5日（木）、6 日（金）の３日間 開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。**
（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化により中止もあります）
また検索技術者検定 3 級受験を強く推奨します。< = こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト. , 樹村房, 2018, ix, 144pp.
今春、改訂版が刊行予定です。担当教員の指示を必ず確認の上、購入してください。

【参考書】
(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑. , 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
提出物（６０％）および平常点（４０％）　演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】
少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
PC
Hulic
https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】
「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。
本科目は履修者許可者の抽選、選抜を行います。学習支援システムに仮登録した学生の中から、再度、履修の意思確認を行い、抽選の上、履修許可者を確定します。仮登録しなかった場合、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】
The outline of the lesson is as follows.
1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

FRI200MA

図書館サービス概論

丹　一信

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**月・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
図書館サービスの意義や理念を理解し、図書館における実践事例などについて基本的な知識を習得します。図書館サービスは公共図書館だけのものではなく、全ての館種においてなされるものです。現在の図書館サービスの抱える課題について理解し、グループディスカッションを通じて、問題解決への方策を検討します。

【到達目標】
図書館サービスの種類や内容などについて、理解を深めます。
単に講義だけではなく、図書館サービスおける先駆的な事例をもとに、「自分が担当であったならば、どうする？」というディスカッションを通じて、深い理解への到達を目指します。
将来、図書館のサービス担当者となった時に、司書として主体的な判断ができることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義にはテキストを使用します。
教科書を単元ごとに読み、教員との質疑応答などを重ねていきます。
双方向授業も導入予定ですが、環境整備後になります。
なお初回授業は 25 日配信予定です。履修登録に際してのガイダンスが中心です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 図書館サービスとは	ガイダンス（授業の概要、進め方） 図書館サービスの概要や位置づけ、理念について学びます。
第 2 回	図書館サービスの種類	「司書および司書補の職務内容」にみる図書館サービス、図書館サービスの時代による変遷などを学びます。
第 3 回	図書館サービスとネットワーク	・図書館システム ・全域サービスと図書館システム ・図書館間相互賃借と図書館ネットワーク ・広域利用制度 について学びます。
第 4 回	閲覧サービス	・閲覧とはなにか ・ 閲覧の利用形態とスペース活用 ・閲覧におけるさまざまな問題 を考えます。
第 5 回	資料提供に関するサービス	資料提供サービスの概要と種類、貸出サービス（利用者登録、貸出、返却、督促、予約、リクエストなど）
第 6 回	貸出しサービス	貸出サービスの概要と種類、現状と課題について
第 7 回	情報提供サービス	レファレンスサービスや読書相談サービスとカレントアウェアネスサービスなどについて、事例研究を交えながら学びます。またアウトリーチサービスについても学びます。
第 8 回	地域支援サービス	地域支援サービスの概要、歴史、子育て支援やコミュニティへの支援など
第 9 回	図書館サービスと著作権	図書館と著作権との関り、権利制限規定などについて、実例をもとに考えます。
第 10 回	障害者サービス	障害者サービスとはなにか、障害者サービスを積極的に実施している図書館の事例を参考に、学びます。
第 11 回	高齢者サービス	高齢者への図書館サービスの概要と実践例について
第 12 回	集会・文化活動	集会文化活動その歴史と意義について学びます。 講演会・フォーラム・講座・ワークショップ 児童文学講座・読書ボランティア講座・フォーラム、読書会・講演会・展示会・コンサート・映画会・その他の活動について

第 13 回　。　。
第 14 回　。　。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習として、テキストの関連するページをよく読む。
身近な大学図書館や公共図書館を直接利用したり、各図書館のホームページのコンテンツを見て、図書館サービスのよい点や課題について理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『図書館サービス概論』　小黒浩司著　ミネルヴァ書房　2018　本体 2,800 円＋税
ISBN ： 9784623083961

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）　期末課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】
実際の図書館における事例紹介は授業の理解を促しました。今年度も実例をあげながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン
司書課程授業支援システム「Hulic」を用いて、資料の配布、レポート提出を行います。

【Outline and objectives】
In this lesson, you understand the significance and way of thinking of library services and master basic knowledge. We will also learn about practical examples at the library. Library services are conducted not only in public libraries but in all libraries. Understand the challenges of the current library service and consider ways to solve problems by group discussion.

FRI200MA

情報サービス演習【通年】

田中　順子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：金・3　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館において、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスと情報検索サービス能力を習得する。

【到達目標】
図書館における情報サービスの中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスにおける実践的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を育成する。
「学習支援システム」で授業が開始されるのは、４月２４日（金）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスの設計	情報サービスの設計
2	情報源	レファレンスサービスのための情報源
3	レファレンス・コレクション	レファレンスコレクションの整備
4	レファレンス・プロセス	レファレンスサービスのプロセスについて
5	レファレンス・インタビュー	レファレンスインタビュー実践
6	文字や言語検索	情報検索実践（文字や言語を調べる）
7	文字や言語検索評価	調査結果の評価
8	事柄や事象検索	情報検索実践（事柄や事象を調べる）
9	事柄や事象検索評価	調査結果の評価
10	歴史や日時検索	情報検索実践（歴史や日時に関する情報を調べる）
11	歴史や日時検索評価	調査結果の評価
12	地理や地名検索	情報検索実践（地理に関する情報や地名について調べる）
13	地理や地名検索評価	調査結果の評価
14	人物や団体検索	情報検索実践（人物や団体について調べる）
15	人物や団体検索評価	調査結果の評価
16	新聞記事検索	情報検索実践（新聞記事について調べる）
17	新聞記事検索評価	調査結果の評価
18	物語や小説検索	情報検索実践（物語や小説について調べる）
19	物語や小説検索評価	調査結果の評価
20	統計検索	情報検索実践（統計について調べる）
21	統計検索評価	調査結果の評価
22	論文検索	情報検索実践（論文について調べる）
23	論文検索評価	調査結果の評価
24	言葉に関する文献検索	情報検索実践（海外の文献を調べる）
25	言葉に関する文献検索評価	調査結果の評価
26	レファレンス・ツール検索	情報検索実践（レファレンスツールを調べる）
27	レファレンス・ツール検索評価	調査結果の評価
28	全体のまとめ	要点の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で課題を調査する。（各回 2 時間以上）
他者の課題発表や解説を受けて、さらに 2 時間の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
授業中に必要な資料を提示

【参考書】
井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
隔週で、図書館で文献を調査する課題を出す。
各自調査した内容を授業中に発表。
課題の提出と授業内発表によって成績を評価する。
課題提出（７０％）

授業内発表（３０％）
前期はオンライン授業となり、図書館利用も制限されているので、他の方法による演習を実施し、前期分の評価とする。
後期に関しては、状況が分かり次第連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
課題調査に時間がかかるので、出題分量を調整。

【Outline and objectives】
In this class, students learn about reference work. They will visit a library to research many materials in order to answer user's questions.

FRI200MA

情報サービス演習【通年】

奥泉　和久

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**土・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】
情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、パスファインダーの作成などをとおして、情報発信型サービスについても学びます。【初回授業日： 4 月 25 日】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本（1）	コンピュータ検索の技術　① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本（2）	コンピュータ検索の技術　②論理演算
4	情報検索の基本（3）	コンピュータ検索の技術　③トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方（1）	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方（2）（3）	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習（1）	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習（2）	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習（3）	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習（4）	医学文献の探し方
12	情報検索基礎演習（5）	レファレンスブック解題・評価
13	情報検索基礎演習（6）	データベース解題・評価
14	情報検索基礎演習（7）/春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき・統計」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	レファレンス事例の作成・評価
26	情報発信型サービスの実際 (1)	パスファインダーの解説・作成
27	情報発信型サービスの実際 (2)	パスファインダーの改訂・発表
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	プログラムの計画・作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、授業が軌道に乗るまで、講義形式の授業を併行して行いますが、ほとんどが演習です。配布資料を参考に復習をしたり、事前に提示する課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が多いのですが、それによって実践への対応力を身につけることができます。そうしたことが理解できるよう取り組んでいきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

FRI200MA

情報サービス演習

菅原　真悟

単位数：**4 単位** ｜ 開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**月・6** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。
1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】
利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようになる。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム（https://hoppii.hosei.ac.jp/）で提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。図書館の情報サービスについて調査し発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC の使い方。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索（基礎）。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索（応用）。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第 28 回	発表会 (2) 新しい発信型情報サービス	新しい発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システム（https://hoppii.hosei.ac.jp/）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(http://lc.i.hosei.ac.jp/) も使います。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】
講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内演習への参加　30%
小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%
グループまたは個人発表　30%
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
発信型情報サービスについての理解を深めるために、CMS 演習の時間を増やします。

【その他の重要事項】
情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
.Purpose and Goal
1. Learn how to search information sources (databases).
2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

FRI200MA

図書館情報資源概論

小黒　浩司

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】
図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。
　なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講の見込みである。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とする。具体的なオンライン授業の方法などについては、すでに学習支援システムで提示している「試行版」を見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源とは何か	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第 2 回	図書館情報資源の類型	『日本目録規則　1987 年版改訂 3 版』の類型に従って、図書館情報資源の概略を説明する。
第 3 回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第 4 回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第 5 回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第 6 回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第 7 回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第 8 回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第 9 回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第 10 回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第 11 回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第 12 回	出版流通 1	日本の出版流通の現状を、メディア別に概説する。
第 13 回	出版流通 2	日本の出版流通の現状を、流通過程から概説する。→ 第 12 回に統合する。

第 14 回　まとめ　　試験・まとめ → 各回提出の課題レポートで代替する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定であったが、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となる見込みであることから、成績評価の方法と基準も変更する。おおよその方法と基準は、すでに「試行版」に提示しているが、より詳細な方法などは、今後学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】
Learn the characteristics of various library information resources.

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**土・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
(可能であれば Zoom を使ったオンライン＋オンデマンド方式)
この授業は 5 月 2 日 2 限の時間帯 (10 : 40) を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネット
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）ワーク情報資源等
6	課題	紙の博物館か印刷博物館への実地見学及び小レポート
7	メディアの発展史（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
9	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
10	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
11	図書館資料コレクション構築の理論 (選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
12	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポート	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA　図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座　8）
志保田務［ほか］編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30 %）、（2）小レポート（20 %）、（3）学期末レポート（50 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】
Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：木・5　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】
・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループデスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。
(可能であれば Zoom を使ったオンライン＋オンデマンド方式)
この授業は 5 月 2 日 2 限の時間帯 (10 : 40) を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネット
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）ワーク情報資源等
6	課題	紙の博物館か印刷博物館への実地見学及び小レポート
7	メディアの発展史（印刷革命 (1) 木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史
8	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
9	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
10	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
11	図書館資料コレクション構築の理論 (選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
12	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
13	学期末レポート	まとめ
14	学期末レポート	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA　図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

【参考書】
小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座　8）
志保田務［ほか］編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の確認クイズ（30 %）、（2）小レポート（20 %）、（3）学期末レポート（50 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更した。

【学生の意見等からの気づき】
ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】
Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

FRI200MA

図書館情報資源特論

小黒　浩司

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**月・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】
図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の電子化	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	マイクロ資料	図書館におけるマイクロ資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。

第 14 回　まとめ　　試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】
新訂図書館資料論　小黒浩司編著　東京書籍　2008

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】
Learn about information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土・2**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書（30 %）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（3）個人のレポート（40 %）
全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】
Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上　郷子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木・5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】
現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。
グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。
また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①　専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション②　利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決案を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。
　授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】
（1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書（30 %）
（2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（3）個人のレポート（40 %）
全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 %を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。
全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。
また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】
Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

FRI200MA

読書と豊かな人間性

有吉　末充

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における読書教育についての今日的課題と教育行政の動きを知る。読書教育について、そのねらい、発達段階に応じた方法について学び、学校図書館ができることを考える。学びの基礎であり、読書の世界の入り口である本そのものを知る。

【到達目標】
まずは読書教育そのものをどう考えるかにとりくみ、学校図書館が行うべき活動と意義を自分なりにまとめる。学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
子どもの読書、読書教育への関心が高まっているが現時点では読書教育の理念、方法論は確立しているとは言いがたい。ねらいとは何か、発達段階をどう考えるか、方法は、など、既存のものを比較検討し、そのあり方を考える。同時に学校図書館における多様な読書材、さまざまな本を知る。毎時間、本紹介の発表の時間を設ける。さらに本の魅力を伝えるための工夫、心構え、方法を学ぶ。読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを学ぶ。1 回はゲスト講師による実演を味わう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書と豊かな人間性とは 最近の動き	読書教育をどうとらえるか
第 2 回	子どもの読書をめぐる状況	子どもの読書に関する法律など 読書と本についての発表「本を知ろう」（2 回以降毎回行う）
第 3 回	文部科学省の施策	OECD 学習到達度調査 文部科学省　読解力向上プログラム
第 4 回	読書教育を考える 1　日本では	朝の読書 読書感想文コンクール
第 5 回	読書教育を考える 2　ねらい	文献比較、日米比較
第 6 回	読書教育を考える 3　発達段階	発達段階の例 どう考えるか？
第 7 回	読書教育を考える 4 方法	日米の違い フィンランド・メソッド
第 8 回	ゲスト講師による実演	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク実演
第 9 回	本の面白さを伝えるために 1	読み聞かせ
第 10 回	本の面白さを伝えるために 2	ブックトーク
第 11 回	本の面白さを伝えるために 3	ブックトークプランのつくり方
第 12 回	本の面白さを伝えるために 4	フランスのアニマシオン
第 13 回	子どもに読書をすすめること	さまざまなメディアと読書
第 14 回	子どもの読書に関わる政策、動きなど	文部科学省の動向など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「本を知ろう」の発表、及び 3 回目の課題「ブックトークプランの作成」では、児童向けの本（絵本や児童文学を含める）を扱う。公共図書館の子どもセクションに行くことをすすめる。授業に必要な研究、調査を含めて、授業の予習、復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『読み聞かせ　この素晴らしい世界』　ジム・トレリース　亀井よし子訳　高文研 1987
『鍛えよう！　読むチカラ　学校図書館で育てる 25 の方法』　桑田てるみ監修　「読むチカラ」プロジェクト　明治書院　2012
『読書と豊かな人間性　新版』　朝比奈代作　米谷茂則　放送大学教育振興会　2015

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度、本紹介の発表「本を知ろう」、レポート課題など。
平常点（授業時の発言など授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %
課題（「本を知ろう」の発表、提出レポート①子どものときに出会った本、②読書教育を考える、③ブックトークプランの作成、の 3 回）：60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。
しかし、読書に関心があれば、司書教諭資格を必要としない学生も受講できる。

【Outline and objectives】
Reading is the basic of learning. Students learn the knowledge of reading education and various books. They also learn the skill of introducing books and sharing the pleasure of reading.

FRI200MA

情報メディアの活用

坂本　旬

単位数：**2 単位** ｜ 開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3** ｜ 配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】
(1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
(2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
(3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
(4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディア・リテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
司書課程用授業支援システム (HULiC) を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂本旬『メディア情報教育学』(法政大学出版局)2014 年

【参考書】
ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』
右のサイトからダウンロードできます。http://amilec.org/

【成績評価の方法と基準】
小テスト 50%、提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】
積極的に授業にワークショップを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
授業用コンピュータ (資格課程準備室備品を使用する)

【その他の重要事項】
授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline and objectives】
To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians
To produce digital storytelling video about books and reading life

FRI200MA

情報メディアの活用

村上　郷子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火・1　｜　配当年次：2〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における情報メディア全般の特性を理解し、基本的なメディア情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
司書教諭に必要なメディア情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法－ 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるブレインストーミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作（その１）、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作（その２）、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作（その３）広報誌の校正
12	学校図書館からの情報発信④	プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作を行う。課題をしっかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】
- 井上真琴著『図書館に訊け!』、筑摩書房、2004（ちくま新書）
- 山本 順一・二村健監修、緑川信之編集『学校図書館メディアの構成』、最新版、学文社
- 五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語―図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】
課題（40 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30 %）、個人のプロジェクト作品（30 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】
課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身についているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】
授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline and objectives】
Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.

CUM100MA

ミュージアム資料論

田中　裕二

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土・1**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】
博物館を、「資料」という観点から理解することを目ざす。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通した教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】
授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）： 50 %
期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は授業外学習をしていない生徒がほとんどだったため、より具体的な課題を設定して発言の場を多く設けたい。

【Outline and objectives】
Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

CUM100MA

ミュージアム教育論

荒川　裕子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**木・2**　｜　配当年次：**1〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】
幼児から社会人まで、さまざまな年齢や立場の人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状を知るとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となります。それに伴う各回の授業計画の変更などについては、その都度「学習支援システム」に提示します。本授業の開始日は４月２３日（木）２限です。Zoom 会議の形式で行う予定ですので、「学習支援システム」の「教材」に載せたパワーポイントに提示した URL から参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第 2 回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第 3 回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第 4 回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の理論的枠組みを理解する。
第 5 回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第 6 回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第 7 回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第 8 回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通した情報公開について学ぶ。
第 9 回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について、具体例を手がかりに学ぶ。
第 10 回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第 11 回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 12 回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 13 回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリントを配布します。

【参考書】
黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、
ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、授業評価の方法や基準も変更されます。具体的な方法や基準については、授業開始日に「学習支援システム」で提示します。

【学生の意見等からの気づき】
教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline and objectives】
In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called ‘museum education’ from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it

CUM100MA

ミュージアム教育論

山下　治子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・3　｜　配当年次：1〜4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】
①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。 美術館での学び、ワークショップ
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。 自然史系博物館での学び①
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。 特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。 自然史系博物館での学び②
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】
雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート (30%) ＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

EDU200MA

社会教育演習

笹川　孝一

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**火・4**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自分史」を書き、自分自身に関する知識を創りだす。そして、自分史学習が人間の司令塔としての「コアコンピテンス」=人格機能を豊かにする方法であることについて考察する。
自分自身を軸に世界をとらえ直す方法と、世界を軸に自分自身をとらえ直す方法と、この両者を重ね合わせるところで、他の物事や人々との関係性を含む、「自分」を知ることができる。
そして、自分を知らなければ、いくら努力しても、自己形成やキャリアデザインはうまくいかない。
自分自身に関する知識は、どんなにお金があっても手に入らない。それは、自分自身の手で作り出す必要がある。
そこで、この授業では、「自分を軸に社会を捉え直し、自分自身に関する知識を豊かにする方法としての自分史」を実際に駆使して、自分史を書く。そして、あらためて自分史学習に関しての認識を深め、他の人々の自分史学習支援やカウンセリング、コンサルテーションの能力を高める。

【到達目標】
1)　1 年間かけて、演習（ゼミ）参加者が、それぞれの「自分史（自己形成史・生活史）」を書く。
2)　自分史を書くことを通して、自分自身について振りかえる。
3)　自分が育った家庭、地域、時代、そこで出会った人々、影響を受けた文化・生活スタイルとの関係で、自分をとらえる。
4)　演習参加者（ゼミ生）によるグループ作業によって、自分史作成における相互支援を学ぶ。
5)　「自分史・生活史・自己形成史」と「就職のための自己分析」との移動などを検討し、「自己・社会把握の方法」についての認識を深める。
6)　中間まとめの集中授業、パーティー実習、レポート集作成、グループワーク実施等によって、地域や職場、ＮＧＯ等におけるファシリテーターとしての能力を高める。
7)　レポート集と 1 年間のまとめについての映像ＤＶＤを作成し、編集能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
1)　この授業のテーマにかかわって、授業の節目節目において、教員が必要な講義を行い、学生とディスカッションして、全体の日程、進行方法などを決める。
2)　学生は、グループワーク、調査活動等によって、実際に自分史を書きながら、必要な文献の検討を行う。
3)　夏の集中授業で中間まとめを行い、秋学期の作業に弾みをつける。
4)　レポート集とＤＶＤ作成を行って、自分たちの足跡を作品化する。
5)　演習（ゼミ）運営のために係り分担を行い、みんなで協力し合い、カバーしあって、授業運営の主人公になる。
6)　卒業生組織である「笹川ゼミ同窓会」の「ライフヒストリーを語る」研究会等に参加するとともに、この授業のイベントに卒業生を招き、視野を広げ交流を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要と進め方について	授業の内容と進め方をを説明し、受講希望者と協議する。
2	講義と事例研究①「私の知識は私が創る」〜「自分史」を書く意味について〜	現代社会で生きる上で、自分史を書くことが、私自身を認識するうえで不可欠であることを学ぶ。社会教育演習で「自分史」を書いた先輩たちの話を聞く。
3	グループワークと発表①	講義①の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
4	講義②「自分史の書き方」〜年代によって書き方が異なる「自分史」〜	自分史は、年代等によって書き方が異なることを学ぶ。
5	グループワーク②	講義②の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
6	講義③「自分史」の認識・心理過程	自分史を書くことによって、どのような認識力・意志・実行力がつくのか、「自己肯定感」「コンピテンス」に焦点を当てて学ぶ。
7	グループワーク③	講義③の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
8	講義④「自分史」と「就職のための自己分析」との比較検討	「自分史」と「就職のための自己分析」との共通点と相違点について検討し、「自己分析」の発展方向を考える。
9	グループワーク④	講義④の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
10	講義⑤自分史の歴史とその背景、および諸外国の動向	日本における「自分史」の歴史とその背景を、俳句・川柳、短歌・狂歌、生活記録などとの関係を含む庶民の自己表現として、また「自伝」との関係において、考える。また、近年アメリカ・カナダなどで取り組まれ始めている”Guided Autobiography” との比較検討も行う。
11	グループワーク⑤	講義⑤の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
12	中間まとめ準備とパーティ実習準備	以上の作業を通じて考えたこと、感じたことについて議論し、中間まとめに向けた「レポート集①」準備をし、作成する。また、社会教育主事・地域学習支援士等に必須なイベント企画と実行、ファシリテーションの技術を習得するためにパーティー実習の企画を練る。
13	自分史を語る①	「5 つの質問」への答えを基礎に、自分史を語る。グループを作り、グループ内で行う。
14	自分史を語る②	自分史を語る作業を続ける。同時に、そこから、夏休みにインタビュー等によって調べる課題と計画をを明らかにする。 また、夏の集中授業の準備をする。
15	春学期のまとめと夏の課題、秋学期授業計画	夏の課題の振り返りと、秋学期の授業計画について、検討する。
16	夏の課題の成果報告①	各自の夏の調査結果を持ち寄り発表する。
17	夏の課題の成果報告②	夏の調査結果の発表を継続する。
18	夏の課題成果についての討論①	発表を踏まえて討論する。
19	夏の課題成果についての討論②	上記の作業の続き
20	「自分史」を書き進む①	「自分史」を具体的に書き進め、進捗状況を報告し合う。
21	「自分史」を書き進める②〜年表の作成〜	上記の作業を継続する。特に、年表の作成状況を報告し合う。
22	「自分史」を書き進める③〜インタビューの補強〜	上記の作業を継続する。とくに、インタビューの補強状況について報告し合う。 この時期に、自分史の具体的な書き方について、教員とゼミ生との個別面談を行い、意見交換と添削等を行う。
23	「自分史」を書き加え発表し合う①〜私の自立と親の期待	書き加えた自分史をそれぞれ検討し、親の期待とその効果・逆効果について議論する。
24	「自分史」を書き加え発表し合う②（私の自立と「親離れ・子離れ」）	上記の作業を進める。とくに親離れ、子離れについて検討する。また、レポート集②パーティー実習②の進捗状況を確認する。
25	「自分史」を書き加え発表し合う③（私の自立と大学での勉学と進路選択）	上記の作業を進める。とくに、大学での勉学と進路選択について検討する。また、レポート集②パーティー実習②について、振り返りを行う。
26	「自分史」を書き加え発表し合う④（友情と恋愛、結婚イメージ）	上記の作業の続き。特に、友情と恋愛、結婚イメージについて検討する。 この時期に、2 回目の個人面談と添削を行う。
27	「自分史」の発表およびレポート集作成	あらためて、全体会でそれぞれの自分史のアウトライン、発見したこと、課題について発表する。並行してレポート集を作る。
28	レポート集についての合評	レポート集についての合評会を行う。 また、修了式の準備をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート集作成。夏季集中授業 1 回、パーティー実習と修了式（2 月第 1 週の火曜日を予定）等。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
笹川「コア・コンピテンスを豊かにする『自分史』学習について」（『資格課程年報』第 1 号、法政大学資格課程、2012 年 3 月）
笹川「自分史・生活史・自己形成史と『就職のための自己分析』についての研究ノート」（同上第 2 号、2013 年 3 月）

【参考書】
笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
ゼミにおける積極的参加（40 %）
ゼミ報告の十分な準備（10 %）
集中授業、レポート集作成、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）
レポートの内容と形式（30 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業はハードだが、きちんと参加し、貢献している場合には、学生の満足度が高いことが確認された。

【学生が準備すべき機器他】
ワード、パワーポイント、エクセル／プロジェクター操作／デジタルカメラ、ビデオカメラ／ DVD 編集ソフト／ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】
☆「自分史」を書きたい人、就職活動における「自己分析」に関心のある人、「『自己肯定感が薄い』ので何とかしたい」と思っている人には、役に立つはず。
☆社会教育主事の資格認定授業でもあるので、実際に書くこと、調べること、まとめること、意見交換すること、協力し合うこと、イベントを企画・実施・振り返ること、成果物=作品を作り上げること、を重視する。
☆学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。学生側の積極的な参加を望む。

【Outline and objectives】
Making Autobiography and Thinking on Meaning of Autobiography Learning

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅰ

鈴木　悌遍

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域と企業　と「職場における学び」の関係性について学ぶ。
授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。
つぎに会津若松市とランドセル業界の変遷を解説する。2 つの変遷を踏まえた上で、具体的な事例としてランドセル会社羅羅屋による「職場における学び」について学ぶ。
その後ランドセル業界以外の地域企業の事例を示す。
学期後半では学生各位が興味を持った地域企業について調べ、発表、学生同士で議論を行い、理解を深める。
希望者にはランドセル工場見学の実習を行う。

【到達目標】
・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。
・そのために、ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。
・また特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。
・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。
・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう。
①この授業は 5 ／ 6 から開始される
②授業方法については第 1 回までに検討します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを学期の講義内容の説明とともに学ぶ。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育 1	企業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域の資源と企業と社会教育 2	地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 4 回	地域の資源と企業と社会教育 3	社会教育の視点から、地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 5 回	地域と地域企業の変遷と社会教育	会津若松市を素材に、地域の産業の移り変わりと地域の社会教育の変化について学ぶ。
第 6 回	地域と産業の変遷と社会教育	ランドセル業界を素材に、業界中心地の移り変わりと業界に携わる人々の社会教育の変化について学ぶ。

第 7 回	地域と企業と社会教育 1	会津若松市に主力工場を持つ創業 46 年のランドセル会社羅羅屋の歴史・特徴を学ぶ。
第 8 回	地域と企業と社会教育 2	羅羅屋が会津若松にもたらした変化、会津若松が羅羅屋にもたらした変化を解説する。事例をもとに地域と企業と社会教育の関係について学ぶ。
第 9 回	地域企業と社会教育 1	事例研究において、事例を探す、決定する、調査する、まとめる、発表する、議論する方法について学ぶ。
第 10 回	地域企業と社会教育 2	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 1）
第 11 回	地域企業と社会教育 3	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 2）
第 12 回	地域企業と社会教育 4	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 3）
第 13 回	.	.
第 14 回	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業内の発表やコメントペーパー等（80%）、定期試験（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】
外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を経営。
実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について講義を進める。
講義を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努る。
授業で使用したスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

【Outline and objectives】
In this lecture, students will learn about the relationship between local communities, companies and “learning in the workplace”.
The case study is Raraya, which produces Japanese traditional school bag (called “Randoseru”) company in Aizuwakamatsu.
Afterwards, other local companies case studies will be introduced.
In the second half of the semester, students will conduct case studies and make presentations.
Fieldwork will be conducted for those who are interested.

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木　美貴

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水・3**　｜　配当年次：**2〜4 年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりを調べ報告することや、社会教育プログラムを作る作業も行う。また、私たちの暮らしと身近な自然に関係が深い生物多様性条約やラムサール条約の精神と社会教育との関係、日本各地で実践されている自然の恵みを活用した暮らしや地域づくりと、それを支える知恵や技の具体例、交流・力量形成・教育・参加・気づき (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA) の実践例等を取り上げる。

【到達目標】
①人々の暮らしは自然の恵みに依存して成り立っていること、②日本各地には身近な自然を保全しながら暮らしや地域づくりに役立てるための知恵や技 (文化と技術) が数多く蓄積され、現在も発展されていること、③それらをふまえて行われている社会教育実践の実際の姿、以上 3 点を理解することが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を生かした地域づくりについて調べ報告することや、社会教育プログラムを作り、発表・ディスカッションする作業も行う。また、毎回の授業の最後に、授業の感想・質問などを記入して提出する。この内容については、次回の授業の最初に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価基準など、この授業について説明する。身近な自然を生かした暮らしについて考える。
第 2 回	私たちの暮らしと自然の恵み	飲み水や海産物・農作物などの食料等、自然の恵みによって、私たちの暮らしが支えられていることを考える。
第 3 回	私たちの暮らしと自然を生かした地域づくり・まちづくり	身近な自然を生かした地域づくり・まちづくりについて、具体例を調べ・報告し、クラス内でディスカッションする。
第 4 回	私たちの暮らしと生物多様性条約・ラムサール条約	暮らしを支える、水田や干潟、湖沼などの「湿地」、多様な生物の保全や活用を支える二つの国際条約とその構造について考える。
第 5 回	二つの条約と「交流・力量形成・教育・参加・気づき」=CEPA	ラムサール条約を中心に、保全や活用を支える CEPA の役割や実際の活動を考える。
第 6 回	CEPA と「社会教育」	二つの条約の CEPA と「環境教育」「持続可能な開発のための教育 (ESD) 」との関係、「社会教育」「生涯教育」との関係を考える。
第 7 回	国際社会、国、地方自治体、NGO・NPO などの役割と協力	保全、活用、CEPA をふくむ「自然の恵みの文化」に関わる、国、地方自治体等の役割と協力について、「日本国際湿地保全連合」を例に考える。
第 8 回	自然の恵みの文化① (保全・再生)	新潟の「渇普請」などに即して、保全や再生にかかわる活動を考える。
第 9 回	自然の恵みの文化② (ワイズユース)	「ふゆみずたんぼ米」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる活動を考える。
第 10 回	自然の恵みの文化③ (CEPA)	ふるさと絵屏風やワークショップ等の事例に即して、CEPA にかかわる活動を考える。
第 11 回	これからの社会教育と身近な自然を生かした「地域の活性化」	自然を身近に感じ、地域の活性化につなげるための社会教育について考える。
第 12 回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る①	「生きもの調査」や世代間を結ぶワークショップ等の身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作るための手順を考える。
第 13 回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る②	①で考えた手順に即して、自分が行いたい社会教育プログラムを実際に作る。また、互いのプログラムに評価する手法を考え、実際に評価する。

第 14 回　まとめ　　授業全体を振り返り、この授業への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自然の恵みと自分との関わりを観察しておくこと。自分にとっての身近な自然を１つ探し、そこを生かした地域づくりやまちづくりの事例がないか、調べること。自然にかかわる大人を対象とした社会教育プログラムを作成するため、関心のある事例を調べること。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『湿地の文化と技術 33 選～地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合　2012 年　授業内で配布

【参考書】
生物多様性条約とラムサール条約の本文及び決議、『干潟生物調査ガイドブック～東日本編』、環境省『日本のラムサール条約湿地』『ラムサール条約湿地とワイズユース』パンフレット等

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50%）と定期試験（50%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝えるようにしている。生物多様性について身近に感じられるよう、ビデオ等を使った授業を行っている。

【Outline and objectives】
Focusing on lectures and videos, we also conduct research and report on community development that takes advantage of nearby nature, and work on social education programs. Also, biodiversity closely related to our lives and the nature around us The relationship between the spirit of the Convention and the Ramsar Convention and social education, living and community development utilizing the blessings of nature practiced throughout Japan, and specific examples of wisdom and skills that support it, exchange, capacity building, education, and participation · Practice examples of awareness (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA)

【2016 年度以前入学者用】社会・地歴科教育法

石出　法太

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**火 6**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑などで毎回提出物がある。状況により計画・授業形態が変更されることもある。オンライン授業の開始は 4 月 21 日。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について―教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計 (1)：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。

25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、毎時間提出の感想・レポート提出（20 %）、学習指導案（10 %）、二回の試験（60 %）を総合的に勘案して評価する。授業の形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

【2016 年度以前入学者用】社会・地歴科教育法

本山　明

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**金 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
5 月 11 日を開始日とする。
学習支援システムに教材・資料を掲示し課題を課すなどの方法でオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と小・中・高の授業体験
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科 教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）（11 回に統合）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）（12 回に統合）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第 15 回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第 16 回	授業の設計 (1) ：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 17 回	授業の設計 (2) ：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 21 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する

第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 28 回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習してくること。②夏季休業中における課題の作成。※必須③宿題※必須
※必須の提出ができないときは単位修得困難。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編

【参考書】
授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート　　50 %
宿題・レポート　　50 %

【学生の意見等からの気づき】
学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】
質問、相談は授業支援システムで受け付ける。
実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

【2016 年度以前入学者用】社会・地歴科教育法

石出　法太

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**木 6**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回提出物がある。状況により授業形態・計画の変更もありうる。オンライン授業の開始は 4 月 23 日。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について―教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計 (1) ：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計 (2) ：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な問題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。

25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学歴史教科書『社会科中学の歴史　日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】
授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省　中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、毎時間提出の感想・レポート（20 %）、学習指導案（10 %）、二回の試験（60 %）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

【2016 年度以前入学者用】社会・公民科教育法

八木橋　正之

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**月 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

【到達目標】
中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第 2 回	社会・公民科教育の歴史	教育勅語と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第 3 回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第 4 回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第 5 回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第 6 回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第 7 回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第 8 回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第 9 回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第 10 回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第 11 回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第 12 回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第 13 回	実践研究及び授業評価の視点	実践研究及び授業評価の視点
第 14 回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れー地理的分野・歴史的分野との関連
第 15 回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について
第 16 回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第 17 回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第 18 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）-私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第 19 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）-私たちと経済・社会	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第 20 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）-世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第 21 回	模擬授業（高校「公共」）	人間の尊厳と平等、個人の尊重、法の支配などを中心に
第 22 回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理についてー生命倫理、環境倫理を中心
第 23 回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第 24 回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第 25 回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第 26 回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業ごとにプリントを配布します。

【参考書】
＜新版＞社会・地歴・公民科教育法　臼井嘉一・柴田義松編著　学文社
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（40 %）、課題（40 %）、レポート（20 %）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

【2016 年度以前入学者用】社会・公民科教育法

松尾　知明

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**水 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は 22 日から開始する。対面での授業ができるようになるまでは、学習支援システムを活用し、授業日に教材や課題を提示する。教科書や教材を読んで課題に答え、日曜日の 12 ： 00（昼）の締切までに学習支援システムに提出する。課題の提出をもってその週の授業への出席（参加）とする。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法
17	実践研究（高校「公共」）	地方の政治と自治
18	実践研究（高校「倫理」）	対立と合意形成
19	実践研究（高校「政治・経済」）	正義とは
20	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	実践研究　発表(1)
21	高校社会・公民科の授業実践の課題	実践研究　発表(2)
22	実践研究	主権者教育
23	模擬授業（中学社会科公民的分野）	基本的な授業態度
24	模擬授業（中学社会科公民的分野）	教授・学習活動の展開
25	模擬授業（高校「公共」）	授業の実施と検討
26	模擬授業（高校「倫理」）	授業の実施と検討
27	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業の実施と検討
28	授業のまとめ	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。また、文献や資料などを読み、課題に応えてレポートを作成する。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019 年。その他、授業において指示する。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

【2016 年度以前入学者用】社会・公民科教育法

石出　法太

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**木 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。現実の様々な課題について問題関心を持ち、自己学習に努め、様々な授業実践に学び、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】
教員として社会・公民科がもつ意義や役割を理解し、現代社会を分析できる能力を養い、現代社会の課題を様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期には、社会・公民科の内容やあゆみを現代の課題や問題とむすびつけて学ぶ。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚機材・情報機器等を介した能動的な学習となる。状況により計画・授業形態の変更もありうる。オンライン授業の開始は 4 月 23 日。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス―授業の進め方の確認	１年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	戦前の社会科の歴史をたどる―教育勅語と修身	明治以降の近代化の中で学制から教育勅語の発布までを学ぶ。
3	戦前の社会科の歴史をたどる―大正期の教育と公民科の成立	明治から大正期までの教育をおさえ、国定教科書の果たした役割を考える。
4	戦前の社会科の歴史をたどる―皇国民の育成と国民科	戦争と靖国、国民学校などの教育を学ぶ。
5	植民地と教育―朝鮮・台湾・占領地での皇民化教育	大日本帝国の中における戦前の社会科の歴史をたどる。
6	敗戦と教育－修身と公民科	敗戦が何をもたらしたのか、修身を総括し公民科の構想などを社会科前史として学ぶ。
7	日本国憲法と社会科の成立	社会科成立の経過、とくに憲法との関わり、学習指導要領の成立などを学ぶ。
8	社会科のあゆみ－社会科の解体	戦後の社会の変化と学習指導要領の変遷から学ぶ。
9	現在の社会科－社会科と公民科と地歴科	現学習指導要領の内容や課題について学ぶ。
10	公民科について	中学校社会科の公民、高等学校の公民科の成立とその内容を学ぶ。
11	社会科・公民科の授業実践研究①－中学	社会科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
12	社会科・公民科の授業実践研究②―高校	公民科における優れた実践事例について班別に調べて演習を行う。
13	学習指導案の作成について演習	指導計画・学習指導案の作成方法などについて演習を行う。夏季課題の説明。
14	春学期の授業のまとめ・確認試験を含む	春学期の授業について総括する。いくつかのテーマについて試験を授業時間内に作成する。
15	秋学期の授業予定の確認・夏季課題の学習指導案の講評・検討	夏季課題の学習指導案を取り上げ、具体的に改善点を示し受講生と共に検討する。
16	模擬授業に向けての実践授業研究	社会・公民科の一つの授業実践をとりあげて検討する。
17	学習指導案の検討・模擬授業の予備知識および授業準備の確認	学習指導案作成上の留意点を確認する。模擬授業に関する全体的な課題について説明する。
18	模擬授業の準備のための演習	前回の学習成果をふまえ、模擬授業実施上の留意点を全体で確認し、班ごとに模擬授業の準備を行う。
19	模擬授業①―社会科	人権と日本国憲法について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。

20	模擬授業②―社会科	人権と共生社会について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
21	模擬授業③―社会科	現代の民主政治について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
22	模擬授業④―公民科	消費生活と経済について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
23	模擬授業⑤―公民科	資源・エネルギー問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
24	模擬授業⑥―公民科	戦争と平和の問題について各班ごとに代表者が模擬授業を行い、全体で参観・講評し感想をレポートにして提出する。
25	模擬授業に関するまとめの演習①―社会科	各班の模擬授業について中学社会科という視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
26	模擬授業に関するまとめの演習②―公民科	各班の模擬授業について高校公民科としう視点から総括的に講評し、さらに改善点を指摘して全体で共有する。
27	社会科・公民科の授業の方法-多極化する国際関係と多様なナショナリズムをどうとらえるか	公民科の教材として、現代の国際関係論・ナショナリズム論の基本を学ぶ。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習してくること。
②各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
③毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。
④本授業の準備・復習時間は各２時間、計４時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校公民教科書『新編新しい社会　公民』東京書籍

【参考書】
授業時に適宜指示する。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、授業時の感想・レポートの提出（20 %）、学習指導案（10 %）、二回の試験（60 %）をもとに総合的に勘案してして評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
広い視野や異なる視点から学ぶことを考えると、この「社会・公民科教育法」を履修した場合には、他の担当者の「社会・地歴科教育法」の履修が望ましい。授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

【2016 年度以前入学者用】商業科教育法

加藤　美樹雄

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：金 6　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春・秋学期の授業を通して，商業教育，特に高等学校の教科 (商業) の基礎知識を学ぶとともに，商業教育の現状と今後の課題について，理論的かつ実践的に学んでいく事を目標とする。
具体的には，平成 30 年に改訂された新学習指導要領に基づいて，商業教育の本質と実践的な取り組みを十分理解し，商業科の教員として実行力を身につけることである。
春学期の授業では，新学習指導要領における商業科の科目の特徴や学習指導計画，学習形態と学習指導法などについて学習する。その際，具体的な商業高校の取組例を参考に各商業高校の特徴を探る。
秋学期は，商業の 20 科目の中から，いくつかの科目の性格・目標，内容などやその学習指導法について考え，模擬授業等を試みる。その際，最新の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。その後，教員採用試験 (商業) の過去問題にも触れてみる。

【到達目標】
教員として，学校における全ての教育活動において貢献できるようになること。そして，商業科教員として必要な基本的な教材研究ができるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義一辺倒にならぬように，例えば，アクティブラーニング的な課題学習や模擬授業のようなものを取り入れたり，多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと考えている。4/24(金) から授業を始める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	高等学校における教育と商業教育について	高等学校の教育に位置づけられる「商業教育」について理解する
2	教科「商業」について	学習指導要領に記載ある科目名とその概要について理解する
3	商業教育と各種検定試験の取組み	商業科目と検定試験との関係について理解する
4	マーケティング分野の教育	学習指導要領の 20 科目のうち，マーケティング分野の科目の特徴について学習する
5	ビジネス経済分野の教育	学習指導要領の 20 科目のうち，ビジネス経済分野の科目の特徴について学習する
6	会計分野の教育	学習指導要領の 20 科目のうち，会計分野の科目の特徴について学習する
7	ビジネス情報分野の教育	学習指導要領の 20 科目のうち，ビジネス情報分野の科目の特徴について学習する
8	基礎的な必修科目「ビジネス基礎」について	学習指導要領の 20 科目のうち，必修科目であるビジネス基礎の特徴について学習する
9	総合的な必修科目「課題研究」について	学習指導要領の 20 科目のうち，総合的な科目である課題研究の科目の特徴について学習する
10	商業高校の学外における課外活動	生徒商業研究発表大会への取組み例を調べる
11	商業高校でのキャリア教育	商業高校におけるキャリア教育の意義や役割を理解する
12	新学習指導要領における教育課程の編制	商業科の課程における教育課程編制上の留意点をまとめる
15	新学習指導要領のねらい	平成 30 年告示学習指導要領のポイントについて理解する
16	教科「商業」の科目と構成	商業科 20 科目の概要と構成について理解する
17	商業科目における観点別評価について	4 つの観点について、その具体的評価方法を研究する
18	年間指導計画の作成	商業科目の年間指導計画について研究する
19	学習指導案の作成	商業科目の学習指導案について研究する
20	ビジネス基礎における模擬授業	補助教材 (プリント) の作成法や黒板の使い方を研究する
21	マーケティング分野における模擬授業	補助教材 (プリント) の作成法や黒板の使い方を研究する

22	会計分野における模擬授業	補助教材 (プリント) の作成法や黒板の使い方を研究する
23	ビジネス情報分野における模擬授業	補助教材 (プリント) の作成法や黒板の使い方を研究する
24	アクティブラーニングの実践	アクティブラーニングの方法と実践例－ブレンスト-ンミング－
25	アクティブラーニングの実践	アクティブラーニングの方法と実践例－ディベート－
26	教員採用試験 (商業) の特徴	マーケティング分野の出題傾向や意図について研究する
27	教員採用試験 (商業) の特徴	会計分野の出題傾向や意図について研究する
28	教員採用試験 (商業) の特徴	ビジネス情報分野の出題傾向や意図について研究する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員への志を持ち、主体的かつ積極的な授業準備や復習を期待する。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　商業編』＜平成 30 年 5 月＞実教出版

【参考書】
　他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また，授業内容に関係する参考文献・資料などについては，最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　この授業の成績評価は，春・秋学期ともに，レポート (50%)，授業への参加意欲 (20%)，発表 (30%) を総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】
特記事項無し

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【その他の重要事項】
ビジネスに関する基本的事項を理解していること。

【Outline and objectives】
This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it.　Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored.

【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論

土屋　創

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：水 5　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方に関するガイダンスを行うとともに、道徳教育を学ぶ意義について考察する。
第 2 回	道徳教育の現状と課題―「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、「道徳の教科化」をめぐる議論、「評価」のあり方について検討する。
第 3 回	道徳教育の歴史	戦前および戦後の道徳教育について検討する。
第 4 回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	「心の教育」をめぐる議論について検討する。
第 5 回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	「いのちの教育」、「死の教育」について検討する。
第 6 回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	「人権教育」の視点から道徳教育のあり方を検討する。
第 7 回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論について検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験と自己の変容、教育の限界点について考察する。
第 9 回	情報モラル	情報モラルおよび情報モラルに関する実践について検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の意義と、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の分類、「道徳」における〈評価〉について検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深める。（本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業内にて資料を配付し、参考文献を紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？ —「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011 年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更のため、特記事項なし。

【その他の重要事項】
授業の進め方については、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論

田口　賢太郎

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。①道徳教育の現状と課題について把握する。②道徳の本質を説明できる。③道徳教育の歴史について理解する。④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーションを行う。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	1 道徳、倫理、マナー、ルールと「教育」 2 現代社会と学校の役割
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	1 資質・能力と道徳教育 2 道徳の時間と道徳科 3 学習評価方法の課題
第 3 回	道徳教育の歴史	1 修身科と教育勅語 2 戦後の道徳教育
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	1 心のありか 2 共鳴・共振の倫理
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	1 生命の尊さ、崇高なもの 2 生命を通じた教育／生命についての教育
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	1 人権の基本 2 差別について 3 いじめについて
第 7 回	道徳性の発達理論	1 ピアジェの理論 2 コールバーグの理論
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	1 善い子の悪さと悪い子の善さ 2 道徳を超える体験の意味
第 9 回	情報モラル	1 情報化社会における「私」の居場所 2 情報モラル
第 10 回	シティズンシップ教育について	1 市民としての教育 2 自己の政治性
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	1 モラルジレンマ型授業の基本（考え方と方法） 2 モラルジレンマ型授業展開上の注意
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	1 「道徳科」指導案 2 本時の展開 3 発問の工夫
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	1 指導案から実践へ 2 導入の工夫 3 展開の構想 4 終末の注意点
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	1 道徳教育と学校教育の課題 2 教師としてのリフレクション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。

授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」
文部科学省『中学校学習指導要領　解説　特別の教科　道徳編』 2017 年

【参考書】
特に指定しないが、毎回の授業において、プリントを配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と 1 4回目に行う達成度テスト（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論

渡邉　優子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金 5　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義について検討する。
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置付け、道徳の教科化、その評価などについて検討する。
第 3 回	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育について検討する。
第 4 回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえ、心の教育について検討する。
第 5 回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	学指導要領を踏まえ、いのちの教育について検討する。
第 6 回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえ、人権教育について検討する。
第 7 回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論とそれへの批判を踏まえ、道徳性の発達について検討する。
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
第 9 回	情報モラルについて	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育の事例について検討する。
第 10 回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の授業の意義を踏まえ、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の仕方など、指導案作成のポイントについて検討する。
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深めるとともに、課題については必ず取り組んだうえで授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、必要に応じて授業中に資料を配布、参考文献を紹介する。

【参考書】
井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？』（日本図書センター、2011 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と各自作成する道徳の学習指導案（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやディスカッションを実施する際には、履修者が活動しやすいように授業の展開において工夫する。授業中に実施するワークのねらい等を示すことで、履修者自身による能動的な学びをサポートする。

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

【2016 年度以前入学者用】道徳教育指導論

田口　賢太郎

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火 5　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。①道徳教育の現状と課題について把握する。②道徳の本質を説明できる。③道徳教育の歴史について理解する。④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道徳教育を学ぶ意義について	1 道徳、倫理、マナー、ルールと「教育」 2 現代社会と学校の役割
第 2 回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	1 資質・能力と道徳教育 2 道徳の時間と道徳科 3 学習評価方法の課題
第 3 回	道徳教育の歴史	1 修身科と教育勅語 2 戦後の道徳教育
第 4 回	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	1 心のありか 2 共鳴・共振の倫理
第 5 回	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	1 生命の尊さ、崇高なもの 2 生命を通じた教育／生命についての教育
第 6 回	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	1 人権の基本 2 差別について 3 いじめについて
第 7 回	道徳性の発達理論	1 ピアジェの理論 2 コールバーグの理論
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	1 善い子の悪さと悪い子の善さ 2 道徳を超える体験の意味
第 9 回	情報モラル	1 情報化社会における「私」の居場所 2 情報モラル
第 10 回	シティズンシップ教育について	1 市民としての教育 2 自己の政治性
第 11 回	モラルジレンマ型の道徳教育	1 モラルジレンマ型授業の基本（考え方と方法） 2 モラルジレンマ型授業展開上の注意
第 12 回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	1 「道徳科」指導案 2 本時の展開 3 発問の工夫
第 13 回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	1 指導案から実践へ 2 導入の工夫 3 展開の構想 4 終末の注意点
第 14 回	全体のふりかえりとまとめ	1 道徳教育と学校教育の課題 2 教師としてのリフレクション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。
授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領」
文部科学省『中学校学習指導要領　解説　特別の教科　道徳編』 2017 年

【参考書】
特に指定しないが、毎回の授業において、プリントを配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と 1 4回目に行う達成度テスト（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

【2016 年度以前入学者用】特別活動論

中村　岳夫

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**水 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。
春学期は当面オンライン授業となる。各回の計画の変更等は学習支援システムで提示する。本授業の開始は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善 ※第 5 回目に統合	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話合い活動とその指導 ※第 8 回目に統合	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動 指導案プレゼン①	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動 指導案プレゼン②	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）
以上を原則とするが、当面オンライン授業になったことにともない変更する場合は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

【2016 年度以前入学者用】特別活動論

中村　岳夫

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。
春学期は当面オンライン授業となる。各回の計画の変更等は学習支援システムで提示する。本授業の開始は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善 ※第 5 回目に統合	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話合い活動とその指導 ※第 8 回目に統合	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動 指導案プレゼン①	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動 指導案プレゼン②	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）
以上を原則とするが、当面オンライン授業になったことにともない変更する場合は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

【2016 年度以前入学者用】特別活動論

児玉　洋介

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：春学期
曜日・時限：金 1 ｜ 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始は 5 月 8 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価等についての説明等。
第 2 回	教育課程の中の特別活動	一日の学校生活の流れ、一年間の学校行事などを見ながら特別活動の位置を考える。
第 3 回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史。学級、学校行事、儀式等の成立と役割。
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領の変遷と特別活動の位置付けの変化。
第 5 回	特別活動の目標と展開	特別活動は何を育てるのか。生徒の実態に即した創造的とりくみを黎明期の新制中学校実践から学ぶ。
第 6 回	学級・ホームルーム活動	ホームルームの活動とその指導。中学校の学級組織とその活動。高校ホームルーム活動の歴史と現状。
第 7 回	話合い活動とその指導	生徒との対話、生徒同士が本音で語り合うクラス討論、意見交換の場の設定など、コミュニケーション力の育成。
第 8 回	特別活動の評価と改善	生徒の生活実態や社会環境等の背景とかかわった学級・学年のとりくみ指導。「学級だより」「班ノート」などのコミュニケーションツールの活用。
第 9 回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導の在り方。
第 10 回	学校行事	学校文化の創造と特別活動を考える。文化的活動の意義、学校文化論を、「南中ソーラン」の歴史に学ぶ。
第 11 回	部活動	教育課程外の活動と、教育課程との関連。部活動・クラブ活動の歴史的位置。部活動の今日的課題と将来展望。
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	学びを育てる特別活動。共同の学びを通じた生徒たちの問題意識の深化。
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力、地域再生の力を活用した地域産業や職業への学び。国際理解教育や高校生の国際交流。
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団」活動を通した「個」の発達成長という特別活動の持つ固有の教育的意義をとらえ、学びの発展の可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、授業の中で教員が適宜、参考文献等を指示する。

【参考書】
『中学校学習指導要領/特別活動編』、『高等学校学習指導要領/特別活動編』（最新版　文部科学省）
※　PDF でダウンロード可。

【成績評価の方法と基準】
オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の人数が多いので講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】
講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc.　This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

【2016 年度以前入学者用】特別活動論

中村　岳夫

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水 5　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動 指導案プレゼン①	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動 指導案プレゼン②	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 11 回	部活動	民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習等の時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（50 %）、課題プレゼン（25 %）、授業内試験（25 %）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

【2016 年度以前入学者用】特別活動論

森本　扶

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木 4**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 10 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 11 回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第 12 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 13 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 14 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】
今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】
都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論

岩本　俊一

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火 4**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代日本の学校教育における生徒指導、進路指導 (それを包括するキャリア教育）の理論と方法について論じる。

【到達目標】
学校教育における生徒指導、進路指導の位置およびその意義を理解するとともに、
生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導の在り方、方針や方法を理解できるようにする。また、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえつつ、学校教育における生徒指導および進路指導（(それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。
授業方法は、授業支援システムを使用し、教材、資料等の情報を掲示し、課題を課す等の方法でオンラインで実施する。
初回授業は　5 月 11 日（月）とする。
　＊本講義は火曜開講授業であるが、便宜上、初回は 5 月 11 日（月）とし、２回目以降は 5 月 19（火）、5 月 26（火）と火曜開講とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	教育の論理で考えるということ － COVID-19 感染抑制対策としての「休校要請」を手掛かりに－ COVID-19 の感染防止（抑制）対策として総理大臣が 3 月に要請した休校要請について「教育の論理から」考察し、理解することは、本講義が取り扱う内容と密接に関連する。そこでまず、本講義受講者にはまず、講義開始前に「休校要請」の問題を「教育の」観点から考えていただき、2000 字程度のレポートを作成してもらいたい。 その上で、本件について関連する重要な問題について提示し、関連する参考文献を提示する。参考文献を読んだ後に課題を課す予定である。
2	生徒指導の意義と役割（1）	教育課程上の位置づけ、基本的な考え方
3	生徒指導の意義と役割（2）	生徒指導の方法
4	生徒指導における集団指導（1）	さまざまな指導場面
5	生徒指導における集団指導（2）	組織的な推進体制
6	生徒指導における個別指導（1）	暴力行為、いじめにどう対応するか
7	生徒指導における個別指導（2）	不登校にどう対応するか
8	生徒指導における個別指導（3）	今日的な生徒指導の課題への対応
9	進路指導の意義と役割（1）	教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
10	進路指導の意義と役割（2）	進路指導の方法
11	キャリア教育の意義と役割	ガイダンスの役割と方法
12	進路指導・キャリア教育における集団指導	ガイダンスの役割と方法
13	進路指導・キャリア教育における個別指導（1）	キャリア・カウンセリングの役割と方法
14	進路指導・キャリア教育における個別指導（1）	ポートフォリオの活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内で示された参考文献等に目を通すなど、復習を通じて講義内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】
教科書及び資料については講義中に指示する予定である。

【参考書】
参考書として、『中学校学習指導要領』および『中学校学習指導要領解説―特別活動編―』『生徒指導提要』を準備しておくこと。

【成績評価の方法と基準】
　このままオンラインのみで講義が行われる場合にはそれぞれに課した課題が単位修得のための評価の対象となる。成績評価の対象者は原則として課されたレポートを全て提出した者に限られる。
　対面授業が再開された場合には、講義の進め方や成績評価方法については改めて公表する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
　ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し

【その他の重要事項】
特に無し

【Outline and objectives】
Discuss the theory and method of guidance and career guidance(career education)in modern Japanese school education.

【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論

渡部　忠治

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**金 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。
通常授業を行う場合は、その流れは下記の通りとなる。
最初に各テーマについての資料や実践例などの説明。
次にその話題について感想・意見の交換。
最後にリアクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	生徒・進路指導の意味や意義について アンケート（各自の学校体験を振り返る）
第 2 回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第 3 回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第 4 回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第 6 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第 7 回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第 8 回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第 9 回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第 10 回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常的生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて

第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒が抱える社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・パスポートの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014 年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013 年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014 年
青柳健隆・岡部祐介『部活動の論点』旬報社,2019 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパー等）40 %、試験（小論文）60 %で、総合的に判断し、成績評価を行う。
※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
例年、学生のリアクションペーパーでは意見交換を望む声が多い。通常授業では、意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論

児玉　洋介

単位数：2 単位 ｜ 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金 1 ｜ 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
生徒指導・進路指導いずれも、生徒集団全体に対する指導と、個々の生徒に対する指導、それぞれについての指導の在り方、方針や方法を理解できるようにする。また、理論講義を踏まえ、あらためて学生自らが体験してきた学校生活での生徒指導・進路指導を振り返りながら、そこに現時点からの検証を加える。生徒指導論では「いじめ」をめぐる諸問題、進路指導論では「受験と進路」「学校と職場の接続」をめぐる諸問題に焦点をあてて、これを深く掘り下げる。
多人数の授業であっても、学生同士の学びあいが充実するよう、授業内容へのコメント・意見を大切に、フィードバックしながら進めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、ねらい、すすめ方、評価等についての説明と、「課題レポート①」について
第 2 回	生徒指導の意義と役割	「生活」指導と「生徒」指導。教育活動としての「指導」の広がりと教育課程上の位置づけ。
第 3 回	生徒指導の方法	生徒指導の方法、教育相談、法的制度と学校外の児童自立支援施設等。『生徒指導提要』（文部科学省）
第 4 回	生徒指導における集団指導	学級と生活指導。学習集団と生活集団。生活指導の中心舞台（学級・HR）と担任教師
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	学校における組織的推進体制と、生徒の自治的自律的とりくみ。今日の生徒指導の焦点的課題、「規範意識」「校則指導」「体罰」等をめぐって
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、非行、いじめ加害等への対処）	学校における事故管理としての処分と、教育活動としての問題行動指導のあり方。「規範意識の醸成」「ゼロ・トレランス」
第 7 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題等への教育課題としての対応）	「いじめ防止対策推進法」と今日の「いじめ問題」。
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導をめぐる管理的アプローチと教育的アプローチ。不登校生徒や、発達障害等の課題を抱えた生徒とのかかわりと支援。
第 9 回	進路指導の意義と役割（進路指導の教育課程上の位置づけ）	「生徒の進路」が「指導」の対象となることの意味を考える。進路指導の基礎理論。
第 10 回	進路指導の歴史と方法	中等教育の歴史的役割の変化と、その現段階。学校と社会の接続。普通教育と職業教育。
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	「進路指導」と「キャリア教育」それぞれの概念、基本的考え方。今日の雇用情勢と日本の若者の社会参加をめぐる課題。
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	集団的進路指導、ガイダンスの役割と方法。中学生にとっての「学ぶこと」「働くこと」を考える授業。
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における個別指導。キャリアカウンセリングの役割と方法。
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用　進路指導論のまとめもふくめて	学校での「学び」と「ポートフォリオ」、進路先への接続。学校と社会の接続をめぐる歴史的転換点に立って。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、授業の中で教員が適宜、参考文献を指示する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社，2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社，2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）
『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
授業への主体的な参加状況（リアクションペーパー等を活用）及び授業テーマに関連した課題レポート（3 回予定）などから総合的に評価する。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の人数が多い場合は講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】
講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論

児美川　孝一郎

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火 4　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえつつ、学校教育における生徒指導および進路指導（(それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第 3 回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第 4 回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第 7 回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第 9 回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第 10 回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社，2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社，2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験 100 %で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

【2016 年度以前入学者用】生徒・進路指導論

綿貫　公平

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火 5　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
最初に各テーマについての資料や実践例などの説明。
次にその話題について感想・意見の交換。
最後にリアクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	講義計画とその概要説明、講義アンケート
第 2 回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第 3 回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第 4 回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第 6 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第 7 回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第 8 回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第 9 回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第 10 回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常的生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第 12 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒が抱える社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第 13 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第 14 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の際、適宜指示する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014 年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013 年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加の姿勢，リアクションペーパーの内容等）40 %，試験 60 % で，総合的に判断し，成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
例年、学生のリアクションペーパーでは、意見交換を望む声が多い。

意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

【2016 年度以前入学者用】図書館制度・経営論

森　智彦

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**水 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。
利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えたい。
図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、ＰＦＩ、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】
・公立図書館の運営について説明ができる。
・ＰＦＩ、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で何度か簡単な課題の提出を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館法の成り立ち (1)	図書館法の位置づけ
第 2 回	図書館法の成り立ち (2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第 3 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第 4 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第 5 回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第 6 回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第 7 回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実際と限界 新しい図書館財務の考え方
第 8 回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計 書庫管理
第 9 回	ＰＲとマーケティング	ＰＲとは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング
第 10 回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第 11 回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第 12 回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第 13 回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第 14 回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおいてください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
柳与志夫著.『図書館制度・経営論（ライブラリー図書館情報学４）　学文社, 2019

【参考書】
糸賀雅児、薬袋秀樹編.『図書館・制度経営論』(現代図書館情報学シリーズ２) 樹村房, 2013
その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題（30 %）、レポート（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
授業の要点をわかりやすくする。

【Outline and objectives】
Achieving the effectiv service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).
This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI, the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.

【2016 年度以前入学者用】児童サービス論

田中　順子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：月 3　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】
児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定した範囲のテキストの読み込みを含め、
本授業の準備・復習時間に、各２時間を充てること。

【テキスト（教科書）】
植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房　2014

【参考書】
笠原良郎編『楽しい読み聞かせ　学校図書館入門シリーズ３』全国学校図書館協議会
『図書館をつくる　教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】
平常点、授業内の発表 (20%) と中間レポートの提出 (30 %)、学期末のレポート (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline and objectives】
The child age is very important for reading. When meeting a good book, children will love and continue reading, and when it isn't so, they might give up reading. In this class,
students learn about child's book suitable for a reading ability, about history of children's service and various challenges in the library. Students visit a children's library actually to research it. They learn about service necessary to children and how to offer that service.

【2016 年度以前入学者用】情報サービス論（2013 年度より開設）

田中　順子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月 3　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】
図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。
「学習支援システム」で授業が開始されるのは、４月２７日（月）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定した範囲のテキストを読んでくることを含め、
本授業の準備・復習時間に、各２時間を充てること。

【テキスト（教科書）】
山崎久道監修『情報サービス論』樹村房

【参考書】
井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
平常点、授業内発表 (20%) と課題調査 (30%)、学期末のレポート (50%)。
前期はオンライン授業になるので、授業内発表はメールでの返信とする。
詳細は、「学習支援システム」による授業の中で報告します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline and objectives】
In this class,students learn about library service and think about various challenges in the future library. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織論

丹　一信

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：月 1　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
図書館情報資源の組織化の理論および技術について、講義を中心に学習する。特に印刷資料、非印刷資料だけではなく、電子資料やネットワーク上の情報資源についても、組織化の理論を学ぶ。
これを通じて情報や知識資源の組織化全般について理解を深めることを目的とする。
なお、本科目は情報資源組織演習を受講するにあたっても重要であるので、出来るだけ早い学年で受講することを勧めたい。

【到達目標】
図書館の基本業務である情報資源の組織化について、理論を中心に基礎的な事柄を学習する。特に情報資源組織演習の基礎となるよう目録法、件名法、分類法、書誌コントロールなどを学習する。また、できる限り実際の業務の様子などを PC 画面に提示しながら解説し、情報資源組織演習で必要となる事項を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「情報資源組織演習（資料組織演習）」の授業を履修するためには、本授業の知識は重要となる。本授業では、「目録法」「分類法」「件名法」の三つの技術を活用する。「目録法」では目録の重要性と『日本目録規則』の使用法について、「分類法」と「件名法」では、『日本十進分類法』と『基本件名標目表』の構成と使用法を中心に解説する。メタデータの扱いについても解説する。
授業は講義形態が中心である。
初回授業は、25 日に配信予定です。履修登録をする上での注意点、ガイダンスが中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 情報資源組織化の意義	オリエンテーション 情報資源組織化の意義と理論
2	情報・知識の概念について	情報・知識の概念を学ぶ
3	書誌コントロールの意義と役割	書誌コントロールの基本について学ぶ
4	書誌記述法（記述目録法）	記述目録法の概要を解説
5	主題目録法（主題分析の意義）	主題による分析の手法を学ぶ
6	分類法（主要な分類法について）	各種の分類法について、その詳細を学習する
7	件名とシソーラス	基本件名標目標を中心に、シソーラスについても学ぶ
8	書誌情報の作成と流通	現代の図書館をめぐる書誌情報の流通経路を中心に学ぶ
9	MARC, 書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティーの役割と MARC について
10	OPAC　Web OPAC	OPAC の進化の歴史について
11	書誌情報の提供（OPAC その運用）	実際の図書館業務における OPAC の運用方法を中心に学ぶ
12	ネットワーク情報資源の組織化	ネットワーク上に存在する情報源の組織化について学習する
13	メタデータ	データのためのデータとも呼ばれるメタデータについて学習する
14	多様な情報資源の組織化	多種多様な情報資源の組織化について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
公共図書館や大学図書館をよく利用し，OPAC や排架について馴染んでおくこと。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】
別途、学習支援システム内にて指示します。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末課題　70%　平常点（小 web テスト含む）　30%

【学生の意見等からの気づき】
・実際の実務を念頭においた授業を展開する。
・図書館関連業種への就職を考えている学生への情報提供も行う。

・前年度のアンケートでも、コメントシートを通じて、あらゆる質問に答えることは好評であった。本年度も継続して実施する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
時々 PC を使用

【その他の重要事項】
なるべくコミュニケーションのとれる授業を心がけているので、わからない点は遠慮なく問い合わせてほしい。

【Outline and objectives】
This course will teach you the theory and techniques of organizing library information resources.
In particular, I will learn not only printed materials but also electronic information resources and information resources on the network.
The purpose of this subject is to deepen the understanding of general information and composition of knowledge resources.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

丹　一信

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**火 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。
なお現時点では、秋学期は通学し対面授業が可能であるとの前提で記述しています。
この授業では、図書館司書の重要な業務のひとつである情報資源の組織化（目録データの記述・排列、メタデータの作成、資料の主題分類）の演習を行ないます。
図書館司書の実務能力を得られることを目的としています。
また情報資源組織論の授業と連動しています。

【到達目標】
多種多様な情報資源についての書誌データの作成、主題分析、分類作業、シソーラス、メタデータの作成などの演習を行い、情報資源組織業務における実務的能力、実践力の育成を目標とする。
①図書、継続資料、電子資料等の書誌を正確に記述できること
②各分野の情報資源の分類記号を付与できるようになること
③基本件名標目表を正しく使いこなせるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報資源組織業務の基本となる目録・件名・分類を理解し、例題と演習問題の実習により、その技法の習得をめざします。具体的には目録・件名・分類について、それぞれ日本目録規,BSH, 日本十進分類法を用いて、演習問題の解説、演習を中心に学習します。なお昨今はコンピュータ目録が中心となっている為、シミュレーションによる Nacsis-CAT の演習やメタデータ作成の実習なども行う予定です。
尚、本授業は演習形式のため、欠席が多いと理解および習得が困難になりかねません。また「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修するのが望ましいです。
人数超過の場合は、抽選となります。20 名までです。**必ず学習支援システムに仮登録した上で、抽選を受けてください。**
初回授業は、24 日に配信予定です。配信内容は授業を履修登録する上でのガイダンスです。
なお下記の授業計画のうち第２回目以降は、後日、改訂します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスが中心
2	単行資料の書誌記述１ タイトル・責任表示	単行資料の書誌記述を学ぶ１ タイトル及び責任表示の記述について学習する
3	単行資料の書誌記述２ 版・出版に関する事項	単行資料の書誌記述を学ぶ２ 版の記述、出版地、出版年などの記述について学習する
4	単行資料の書誌記述３ 形態・シリーズ、注記・標準番号	単行資料の書誌記述を学ぶ３ 大きさなどの形態、シリーズに関する事項、ISBN の記述について学習する
5	継続資料の書誌記述	雑誌などの継続資料の書誌記述の実際について
6	各種資料の記述　（録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料）	録音資料や映像資料等々の記述の実際について
7	各種資料の記述（電子資料及びその他の資料）	電子資料の記述方法
8	コンピュータ目録の演習１	MARC を用いた組織業務について（JAPAN　MARC を例に）
9	コンピュータ目録の演習２ NACSIS-CAT その実際	NACSIS-CAT のような共同目録の実際について説明する
10	ネットワーク情報資源について（メタデータ作成の実際）	ダブリンコアに基づきメタデータの演習を行う
11	・主題分析について ・件名標目の付与１	・主題の分析の仕方 ・基本件名標目表の概要
12	件名標目の付与２	細目について
13	件名標目の付与３	・分類記号からの付与 ・件名規定
14	件名標目の付与４	件名標目総合演習課題
15	日本十進分類法による分類作業	NDC の基本原則について
16	分類記号付与の実際１	形式区分について

17	分類記号付与の実際２	地理区分・海洋区分について
18	分類記号付与の実際３	言語区分について
19	分類記号付与の実際４	言語共通区分・文学共通区分
20	分類記号付与の実際５	分類規程に基づいて付与する
21	分類記号付与の実際６	分類規程 特殊分類規定に基づいて付与する
22	分類記号付与の実際７	分類・件名総合演習１ 1 類から 5 類を中心に分類と件名の付与の演習
23	分類記号付与の実際８	分類・件名総合演習２ 6 類～9 類、0 類を中心に分類と件名の付与の演習
24	分類記号付与総合演習	各類の総合演習課題を行う
25	書誌データ管理、検索システムの構築	書誌データベースを実際に構築し、データ入力も行い、実務の疑似体験を行う
26	書誌データ管理、検索システムの構築２	書誌データベースの構築（論文・記事データベースの構築）
27	書誌データベースその運用	構築した書誌データベースに、データを入力し運用を試みる。抄録の作成、シソーラスによるキーワード付与、書誌分類の付与など
28	総合演習課題	春学期の記述目録法、秋学期の主題目録法に基づいて、演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を毎授業ごとに課します。また本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美 共著. 情報資源組織演習. 新訂版. 日本図書館協会, 2016.3. 278p ; ISBN 978-4-8204-1515-2

【参考書】
(1) 蟹瀬 智弘. やさしく詳しい NACSIS-CAT. , 樹村房, 2017, xiii, 249p, 図版 1] 枚 p.

【成績評価の方法と基準】
授業時、夏季及び冬季の課題、期末試験にて評価します。
演習課題　50%　　期末試験　30%（定期試験期間内）
平常点　20%
授業への積極的な参加姿勢、課題への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
ポイントを絞った授業進行にします。
また図書館関連の就職情報も踏まえた授業内容にします。
アンケート結果を更に反映し、実務に則した事例を多く演習する様にします。

【学生が準備すべき機器他】
PC を利用します
また授業では、Hulic を使用します。http://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】
PC については、私物のものでも構いません。
PC の操作になれておいてください。
教科書は必須です。
毎回、課題が課されます。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー・目録担当者としての実務経験を踏まえて、実務における目録作成の技法、データベース構築の基礎を中心に授業を行います。
初回授業時に履修者の抽選を行います。20 名まで。
必ず学習支援システムに仮登録してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, I will learn about organizing information resources, which is one of the important tasks of the librarian. In particular, we will learn to create catalogs, create metadata, and classify themes of documents.
It is aimed at obtaining the practical ability of the librarian.
It is also linked with lesson of information resource organization theory.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

村上　郷子

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**水 1**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報資源組織論 (資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】
書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実際についてのスキルを学ぶ。(オンラインオンデマンド方式)
この授業は 5 月 6 日 1 限の時間帯 (8 ： 50) を初回開始とします。原則として毎週同じ曜日・時間に授業が始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期情報資源組織演習 (資料組織演習）のガイダンス（Unit0-1）	情報資源組織演習 (資料組織演習）概要について
2	記述に関する総則（Unit2-4）	記述に関する総則
3	図書の記述（Unit5・6）　タイトルと責任表示等	タイトルと責任表示、版、資料の特性、出版・頒布等
4	図書の記述 （Unit7・8）　形態・シリーズ、注記、標準番号	形態・シリーズ、注記、標準番号
5	図書の記述①（単行書中心）	図書の記述①　（単行書中心）
6	図書の記述②（単行書＋シリーズ）	図書の記述②　（単行書＋シリーズ）
7	継続資料の記述①（Unit9・10）通則および記述	通則および記述
8	継続資料の記述②（Unit9・10）記述及び所蔵事項	記述及び所蔵事項
9	課題 例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
10	標目、典拠、排列（Unit13-16）	標目、典拠、排列
11	コンピュータ目録（Unit17・18） MARC フォーマット（Unit19・20） NACSIS-CAT（Unit21）	コンピュータ目録、OPAC、コピー目録、オリジナル目録、MARC、UNIMARC、 NACSIS-CAT、JAPAN-MARC など
12	例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
13	9 回目の課題に統合	図書の記述演習を中心に行う
14	9 回目の課題に統合	図書の記述演習を中心に行う
15	主題組織法、日本十進法の構成（Unit27-30）	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か NDC の構成、形式区分
16	日本十進法による分類作業 （Unit31）	地理区分、海洋区分、言語区分
17	分類記号付与の実際（Unit32-35）	分類作業、分類規定、分類表の改訂
18	人文科学①（Unit36）	哲学・宗教 (1 類)
19	人文科学②（Unit37）	歴史・地理・伝記（2 類）
20	社会科学①（Unit38）	政治・法律・経済他（3 類前半）
21	社会科学②（Unit39）	社会・教育他（3 類後半）
22	自然科学・技術（Unit40・41）	自然科学・技術 (4・5 類)
23	技術・産業（Unit41）	技術・産業 (5・6 類)
24	人文科学④　芸術（Unit42）	芸術（7 類）
25	言語・文学（Unit43）	言語・文学　（8・9 類）
26	文学・総記（Unit43・44）	文学・総記 (9・0 類)

27	図書記号・別置記号の付与（Unit45・46）・総合演習	図書記号・別置記号の付与・総合演習
28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト（教科書）】
『情報資源組織演習』日本図書館協会、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10) の最新版

【参考書】
木原 通夫 [ほか]　著 『情報資源組織法―資料組織法』、最新版、第一法規
日本図書館協会　編『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】
通年授業のため、春学期は 40 %、秋学期は 60 %とする。40 %の内、出席・毎回の小クイズ（20 %）、課題（20 %）によって総合的に評価する。
出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生は司書資格課程のポータルサイトから、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】
この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline and objectives】
Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

鈴木　祐滋

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**土 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では図書館司書の基本的かつ重要な仕事である情報資源組織の手法について学びます。目録データの記述・登録・排列、メタデータ作成、主題分析・件名標目付与、資料分類等の演習を通じて、情報資源組織のスキルを獲得することを目的としています。

【到達目標】
受講学生が、図書館資料の目録データの記述・登録・排列、流用入力、Web コンテンツのメタデータ作成、資料の主題分析および、それに基づく件名標目付与・資料分類に関する手法を理解し、実践できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
★授業開始は 4 月 25 日（土）です。
日本目録規則、基本件名標目表、日本十進分類法を使って、目録データの記述・排列、件名標目付与、及び資料分類の演習を行います。この他、メタデータ作成法、図書記号付与、地域資料の分類についても学びます。演習に使用するツール数に制限があるため、定員は最大 20 名です。希望者多数の場合は、上級生を優先とし、最後は抽選となります。抽選以降、履修決定者以外は出席できません。予めご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報資源組織演習の概要	情報資源組織の概説および、使用するツールの紹介。演習の進め方や年間スケジュール等の説明。
2	目録規則の解説	目録情報の記述ルールである目録規則の概説。特に日本目録規則（NCR）を中心に解説。
3	書誌の階層レベル	書誌階層の概要説明および、階層レベル理解のための演習。
4	単行資料の記述	単行資料の目録データ作成方法の解説と演習。
5	録音資料、映像資料の記述	録音資料、映像資料の目録データ作成方法の解説と演習。
6	地図、継続資料の記述	地図資料、継続資料の目録データ作成方法の解説と演習。
7	電子資料の記述	物理的形態を持つ電子資料の目録データ作成方法の解説と演習。
8	標目の概要	標目の役割・意義についての解説と標目付与演習。
9	標目および典拠ファイル	タイトル標目、著者標目、件名標目、分類標目および、典拠ファイルに関する解説と演習。
10	目録データの排列規則	目録データ排列規則の解説と排列の演習。
11	データベースを用いたコンピュータ目録作成（書誌データ登録）	目録データベースへの各種資料の書誌データ登録演習。（グループワーク含む）
12	コンピュータ目録の流用入力による作成方法	書誌ユーティリティを利用した流用入力による目録データ登録方法の解説、演習。（グループワーク含む）
13	メタデータ付与	メタデータの解説、メタデータ付与事例紹介および、メタデータ付与演習。
14	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）
15	主題分析	要約主題、網羅的主題の解説・演習。自然語と統制語の解説。統制語である件名標目と分類記号の概説。
16	基本件名標目表による件名作業（1）	基本件名標目表の解説と件名標目付与の演習。
17	基本件名標目表による件名作業（2）	件名標目付与の演習。
18	日本十進分類法（使用方法および一般補助表）	日本十進分類法の使用方法解説及び一般補助表の説明。一般補助表を用いた分類記号作成演習。
19	日本十進分類法（固有補助表）	固有補助表の解説と使用法の演習。
20	分類規程	分類規程の解説と規程に基づく分類の演習。

21	社会科学分野の資料分類	3 類「社会科学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
22	自然科学、技術・工学分野の資料分類	4 類「自然科学」、5 類「技術・工学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
23	産業分野、総記の資料分類	6 類「産業」分野、0 類「総記」の資料分類の解説と分類記号付与演習。
24	言語・文学分野の資料分類	8 類「言語」、9 類「文学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
25	総合演習（資料分類）	各類の資料分類演習。
26	図書記号	受入順記号法、年代記号法、著者記号法についての解説と演習。
27	地域資料	地域資料の解説。地域資料に独自分類を使用している公共図書館の事例紹介。地域資料の分類演習。
28	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 11 回の演習で行った方法で、Hulic 上のデータベースへの書誌データ登録演習（夏季休暇中の宿題）を行う。

【テキスト（教科書）】
『情報資源組織演習 (新訂版)』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-10 巻) 和中幹雄ほか著、日本図書館協会発行、2016 年 3 月刊、1900 円（税別）、ISBN: 978-4-8204-1515-2

【参考書】
関連の資料は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（演習状況および宿題)50%、到達度レベル確認演習問題（春学期・秋学期の合計得点）50%によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ポイントをまとめたレジメは好評だったため、本年度も配布予定です。

【学生が準備すべき機器他】
HULIC 上のデータベースへのデータ登録演習を行う予定です。アカウントの取得方法は授業の中で連絡します。

【その他の重要事項】
大学図書館司書、企業図書館及び情報調査部門のマネジメント等の経験も踏まえ、図書館情報学の理論と図書館/情報調査の実情を合わせて解説。

【Outline and objectives】
This course introduces the methods of information resources organization that is a basic, important librarian's work. The aim of this course is to help students acquire the skills of the information resources organization
(e.g. the bibliographic data description, registration, array, the metadata making, the subject analysis, the subject heading addition, and the classification of library materials).

【2016 年度以前入学者用】情報資源組織演習

菅原　真悟

単位数：4 単位 ｜ 開講セメスター：年間
曜日・時限：金 6 ｜ 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力の習得をめざす。

【到達目標】
(1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等のスキルを身につける。
(2) 書誌データベースの仕組みと機能を理解し，実際にデータベースを構築する。
(3)XML や WebAPI 等についての知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム（https://hoppii.hosei.ac.jp/）で提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
春学期は、書誌データの作成、主題分析、分類作業を中心に演習を行う。
秋学期は、春学期に行ったことを踏まえて、実際に書誌データベースを構築する演習を通して、情報資源組織業務に関する知識と技術を習得することを目指す。また、XML や WebAPI 等についての理解も深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容について
第 2 回	日本十進分類法	日本十進分類法（NDC）の構造
第 3 回	分類作業の実際 (1)	日本十進分類法を用いた演習（主題分析）
第 4 回	分類作業の実際 (2)	日本十進分類法を用いた演習（補助表）
第 5 回	分類作業の実際 (3)	日本十進分類法を用いた演習（0・1 類）
第 6 回	分類作業の実際 (4)	日本十進分類法を用いた演習（2・3 類）
第 7 回	分類作業の実際 (5)	日本十進分類法を用いた演習（4・5 類）
第 8 回	分類作業の実際 (6)	日本十進分類法を用いた演習（6・7 類）
第 9 回	分類作業の実際 (7)	日本十進分類法を用いた演習（8・9 類）
第 10 回	件名作業の実際 (1)	基本件名標目表 (BSH) の概要
第 11 回	件名作業の実際 (2)	基本件名標目表 (BSH) を用いた演習
第 12 回	目録作成の実際 (1)	書誌コントロールと図書館目録
第 13 回	目録作成の実際 (2)	日本目録規則 (NCR) の構成演習
第 14 回	春学期振り返り	春学期に学んだことを振り返る
第 15 回	課題発表会	夏季課題についての発表会
第 16 回	書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティと共同分担目録
第 17 回	NACSIS-CAT	NACSIS-CAT、NII の教育研究・事業
第 18 回	データベース (1)	データベースの仕組み。リレーショナルデータベース
第 19 回	データベース (2)	SQL 入門
第 20 回	メタデータ (1)	図書館におけるメタデータの活用
第 21 回	メタデータ (2)	XML、RDF
第 22 回	メタデータ (3)	ダブリンコア、junii
第 23 回	図書館システム演習 (1)	OPAC の概要
第 24 回	図書館システム演習 (2)	書誌データベースの構築（Enju）
第 25 回	図書館システム演習 (3)	書誌データベースの構築（DC-NDL(RDF) を利用）
第 26 回	図書館システム演習 (4)	書誌データベースの構築（目録作成）
第 27 回	図書館システム演習 (5)	書誌データベースの構築（件名作業・分類作業）
第 28 回	まとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で行った演習内容を復習すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題提出状況をふまえて総合的に評価する。
授業内演習への参加（50%）
小課題（数回出す予定です）および夏季課題の発表（30%）
期末レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】
演習時間を増やしたいと考えています。また、授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（https://hoppii.hosei.ac.jp/）のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(http://lc.i.hosei.ac.jp/) も使います。

【その他の重要事項】
演習教室での授業のため、人数超過の場合は抽選となります（定員 20 名）。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
We learn about
(1)NDC: Nippon Decimal Classification
(2)BSH: Basic Subject Headings
(3)NCR: Nippon Cataloging Rules
(4)Metadata and WebAPI

【2016 年度以前入学者用】学校経営と学校図書館

松田　ユリ子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土 4　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】
講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 4/25	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
第 2 回 5/2	学校図書館の意義	教科書の第 1 章～第 5 章を熟読し、課題を提出する
第 3 回 5/9	学校図書館の歴史と制度	教科書の第 6 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する
第 4 回 5/16	学校図書館法	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 5 回 5/23	学校図書館の歴史と制度	教科書の第 6 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する
第 6 回 5/30	学校図書館専門職	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 7 回 6/6	学校図書館のサービス	教科書の第 10 章を熟読し、課題を提出する
第 8 回 6/13	学校図書館のサービス	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 9 回 6/20	学校図書館における教育活動	教科書の第 11 章を熟読し、課題を提出する
第 10 回 6/27	学校図書館における教育活動	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
第 11 回 7/4	学校図書館の設計とマネジメント	教科書の第 12 章から 14 章を熟読し、課題を提出する。
第 12 回 7/11	学校図書館の設計とマネジメント／まとめ／最終レポート提示	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。最終レポートを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】
中村百合子編著『学校経営と学校図書館 (司書教諭テキストシリーズ II・1)』樹村房, 2015

【参考書】
金沢みどり編著『学校司書の役割と活動:学校図書館の活性化の視点から』学文社, 2017
全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版, 悠光堂, 2017
野口武悟, 前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版, 放送大学教育振興会, 2017
堀川照代編著『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂, 2018

【成績評価の方法と基準】
各レポートの提出が必須である。
レポート 60 %（各レポート 10 %づつ）、最終レポート 40 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
課題を出すタイミングを的確にする

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline and objectives】
Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.
To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

【2016 年度以前入学者用】学習指導と学校図書館

松田　ユリ子

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**土 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えていくかを考える。

【到達目標】
授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義だけでなく、ワーク、発表、討論といった活動も行う。この授業自体が、学校図書館での学習指導の方法を体験する場となるはずである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のすすめ方　/　学校図書館における教科学習体験の共有
第 2 回	学校図書館と学習指導の関わり	戦後の教育政策と学校図書館
第 3 回	情報リテラシー教育	情報リテラシーの概念と情報リテラシー教育
第 4 回	メディア・リテラシー教育	メディア・リテラシーの概念とメディア・リテラシー教育
第 5 回	言語活動	言語活動と学校図書館
第 6 回	探究型学習	探究型学習を支える理論とツール
第 7 回	コラボレーション	探究型学習の支援におけるコラボレーション
第 8 回	学校図書館における授業の実際	学校図書館における授業事例
第 9 回	授業案を考える（1）	教科教諭の視点　司書教諭の視点
第 10 回	授業案を考える（2）	テーマ設定ワークショップ
第 11 回	授業案を考える（3）	パスファインダーづくりワークショップ
第 12 回	発表「こんな授業がやりたい！」1	授業案の発表および討議
第 13 回	ふりかえり	授業案再検討
第 14 回	まとめ	様々なリテラシー教育と学校図書館

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回プリントを配付する。

【参考書】
随時参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表を行うこととレポート提出が最低条件である。その上で、授業への積極的な貢献度 40 %・発表 20 %・レポート 40 %の総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し

【Outline and objectives】
Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.
To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

【2016 年度以前入学者用】学校図書館メディアの構成

有吉　末充

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：水 2　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】
学校図書館の現場で必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館のメディアと教育の関わり
2	学校図書館メディアの授業での活用	複数のメディアを活用した授業事例
3	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等
4	学校図書館メディア、組織化の流れ	選択・購入から配架まで
5	学校図書館メディアの選択 1	考慮するポイント, 収集方針等
6	学校図書館メディアの選択 2	予算、組織、方法等
7	分類 1	分類の意義、種類
8	分類 2	NDC のしくみと応用
9	分類 3	分類演習 1
10	分類 4	分類演習 2
11	目録 1	目録の意義、種類、NCR　目録演習 1
12	目録 2	記述と記述を構成する書誌的事項　目録演習 2
13	図書館レイアウト	レイアウト計画
14	学校図書館メディアの実際	最近の動き等　まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
きるだけ学校図書館に実際に行って、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『改訂新版　学校図書館メディアの構成』北克一　平井尊士　放送大学教育振興会　2016
『学校図書館メディアの構成』小田光宏編　樹村房　2016

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。
平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %
提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20 %
演習課題①分類②目録：40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】
Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy.　This subject is a weak point in Japanese schoollibrary.　To realize that teaching needs using school library, librarystaffs(teacher librarian and school librarian)have to appeal the meaning of school library to teachers.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論

今野　農

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：土 4　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 25 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
配布資料	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第 6 回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 7 回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 8 回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第 9 回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第 10 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第 11 回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
配布資料	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。このテーマについては、資料の配布のみで代替とする。
第 12 回	試験・まとめと解説	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・博物館に関する情報を Web などで積極的に収集し、多くの館が開館された後は、資料保存の観点から、資料や、館の立地、建築、設備、展示手法、博物館建築などを観察する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画
・金山喜昭・他（監修）（2020.1）『博物館を支える学芸員の仕事』第１巻　資料の収集と保管（DVD）

【成績評価の方法と基準】
春オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的には、平常点： 70%程度、最終レポート： 30%程度とする。

【学生の意見等からの気づき】
知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。配布資料のレイアウト（余白）については、必要があれば、各自でメモ用のノートを用意しておくこと。

【Outline and objectives】
This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム資料保存論

清水　玲子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金 3　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】
博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は基本的には講義形式であるが、資格取得の為の授業であっても、聞くという受身ではなく、自ら考える姿勢が学芸員には必須な素養であることから、ワークショップと発表を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション・博物館資料とは何か	講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1（温・湿度）	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2（光）	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光について
講義	生物被害と IPM	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM ： Integrated Pest Management）について
講義	保存の諸条件 3（その他）	温湿度、光、生物以外の劣化要因と留意点について
講義	収蔵と展示	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
講義	修復・修理	美術資料を中心に修復の方法とこれまで修復された文化財を見ていく
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
ワークショップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークショップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・多種多様な博物館を見学する。
・ただ、見学するのではなく、自ら疑問点を見つける。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】
『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会 (地域づくりの基礎知識 1)』神戸大学出版会、2018 年 1 月
吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と渓谷社、2018 年 8 月
*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（50%）通常レポート（講義内課題提示）（40%）平常点（10%）及び出席状況、授業態度などから総合的に評価する。
資格取得の為の授業ではあるが、到達目標に書いた通り、学生自身が自ら考えることを求めているので、「自ら考え、自ら言葉で語っているか」を評価基準とする。
＊ 14 回の講義の内、数回の課題を課す予定。
＊詳細は、第 1 回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・協力を得ることができれば、「野上記念法政大学能楽研究所」における見学を実施したいと考えている。履修者の状況などを考慮し、確定予定である。
・授業スライドの写真撮影は許可しない。筆記することが望ましいが、間に合わない場合などは対応するので申し出て欲しい。

【Outline and objectives】
Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム展示論

渡邉　尚樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期**
曜日・時限：**木 4**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】
"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム展示論

渡邉　尚樹

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**土 1**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】
1．「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2．博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3．展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4．展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。
学習支援システムで授業が開始されるのは４月２５日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ、展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
4	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
5	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
6	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ、物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
7	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
8	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
9	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
10	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
11	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
12	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 30 %（講義再開後）、課題 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップを取り入れることで、さらに興味を持たせる工夫が必要と感じた。

【Outline and objectives】
"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論

柏女　弘道

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期**
曜日・時限：**火 1**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】
博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は 4 月 28 日（火）を初回授業開始日とする。
本授業は学習支援システムにレジュメ等を掲示し、それに対して課題を課す等でオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館における情報	【オンラインで実施】 授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	【第 2 回以降は今後適宜修正を行う】 メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ICT 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化①	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化②	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 10 回	博物館情報の管理と公開	情報管理や情報公開の方法を説明するとともに、情報の整備・管理・発信時における課題や、博物館情報を支える人々についても触れる。
第 11 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 12 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 13 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、如何に知的財産として整備していくのかについても触れる。
第 14 回	まとめ	市民が自らの学習成果、生き方や活動を発信したり、交流をする場としての地域博物館のあり方を、実際の地域博物館の活動を事例に紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003 年）
日本展示学会編『展示論―博物館の展示をつくる―』（雄山閣、2010 年）
大堀哲、水島英治編『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら―市民・自治体・地域の連携―』（同成社、2012 年）
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 55 %、レポート 45 %。詳しくは初回授業の 4 月 28 日（火）にガイダンス資料を学習支援システムに掲示し、説明を行う。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
博物館について日ごろから興味関心をもち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】
Think about how to make use of information in museums

【2016 年度以前入学者用】ミュージアム情報・メディア論

石川　貴敏

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：金 5　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。

【到達目標】
将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ＩＣＴ社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化＜調査研究活動＞	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動＞	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第 14 回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けるつもりです。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】
『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著，学文社，2012 年）
『博物館情報・メディア論 (放送大学教材)』（西岡貞一・篠田謙一編著，放送大学教育振興会，2013 年）
『博物館情報・メディア論 (放送大学教材)』（稲村哲也・近藤智嗣編著，放送大学教育振興会，2018 年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編，ぎょうせい，2013 年)
『展示論－博物館の展示をつくる－』（日本展示学会編，雄山閣，2010 年）
『博物館展示論 (ＫＳ理工学専門書)』（黒沢浩編著，講談社，2014 年）

【成績評価の方法と基準】
期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 ％（40 点）」「レポート課題 60 ％（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講者と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
本講義では、講義資料（パワーポイント等）・配布資料（授業時に配布します）とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（スマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料や講義で紹介した事例（取組）のＵＲＬは授業支援システムを利用して掲載することを考えています。

【その他の重要事項】
ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、約 30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めてきました。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】
We will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also present about the present situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, we will try to devise new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅰ

田中　裕二

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**土２**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】
博物館に係る実務に則しながら、学芸員としての心得や技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるが、その中でも資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は４月２５日（土）から学習支援システムを利用してオンラインでの授業を開始する予定。詳細については学習支援システムを参照のこと。後期は各種資料の取り扱いや資料の展示方法を学び、博物館活動の基礎となる実務を修得するため実習形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（凧）の整理・実測（１）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（凧）の整理・実測（２）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（凧）の整理・実測（３）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（凧）の整理・実測（４）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（凧）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類の調査・観察・記録（１）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類の調査・観察・記録（２）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類の調査・観察・記録（３）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類の調査・観察・記録（４）
第 13 回	博物館資料の取り扱いⅩⅠ	文書類の調査・観察・記録（５）
第 14 回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第 16 回	コレクション調査　Ⅰ（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査　Ⅱ（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査　Ⅲ（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査　Ⅳ（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第 24 回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料（掛軸・巻子・画帳）の取り扱いと展示作業
第 25 回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料（掛軸・巻子・画帖）の取り扱いと展示作業
第 26 回	パネルの作成　Ⅰ	解説文を書き、パネルを作成する。
第 27 回	パネルの作成　Ⅱ	作成したパネルを展示する。
第 28 回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み期間中に資料の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらう予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50 %）と課題の提出（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業で希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示などを適宜確認すること。

【Outline and objectives】
This course aims to undertake a practicum for practical operations at a museum.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅰ

金山　喜昭

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：木 3　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】
博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の授業の開始は 5 月 7 日にする。以後、7 月 9 日までの毎週木曜日の授業時間内 (3 時限）に資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに出す。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。7 月 16 日までに提出する。平常点は毎回授業で出題する宿題の提出をもってそれにあてる。また、シラバスの内容を 10 回の授業回数に集約するため、授業の進行は必ずしもシラバスに示した順序に従うものではない。
後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶなど、博物館活動の基礎となる実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	学芸員の仕事	映像学習
第 4 回	学芸員の仕事	映像学習
第 5 回	学芸員の仕事	映像学習
第 6 回	学芸員の仕事	映像学習
第 7 回	学芸員の仕事	映像学習
第 8 回	学芸員の仕事	映像学習
第 9 回	学芸員の仕事	映像学習
第 10 回	学芸員の仕事	映像学習
第 11 回	学芸員の仕事	映像学習
第 12 回	学芸員の仕事	映像学習
第 13 回	学芸員の仕事	映像学習
第 14 回	総括	春学期の授業内容を整理する。
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する
第 16 回	コレクション調査　Ⅰ（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査　Ⅱ（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査　Ⅲ（調査報告）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査　Ⅳ（調査報告）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻　Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻　Ⅱ	篆刻の製作
第 28 回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40 %）と課題レポートの提出（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】
This course aims to undertake a practicum for practical operations atthe museum.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ

小西　雅徳

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：月 3　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施過程の手法を学んでいきます。日本の博物館ではコレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象ですが、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、個人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。今年はコロナウイルスの関係で前期は学習支援システムからの教材提供と授業内容確認となりますが、規制が解除となった時点で講義へと移行します。

【到達目標】
日本の博物館活動では企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため学芸員も企画展を前提に活動をすることが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え基本となる企画展実施の工程・過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて企画展実施までの様々な手法やその時々の流行を捉え、博物館現場の実際をシミュレーションして学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築と同時に豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表し到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③グループ発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライドで紹介し、後期はグループ発表準備にあてます。個々人の企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。前期は学習支援システムからの講義資料配布となりますが、規制解除後は講義となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス　博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介します。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的推移について（概説）	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介します。
第 3 回	日本と海外の企画展の違いについて	日本と海外における企画展の実態を紹介します。国内の企画展数は約 1 万件近くに上る一方で、海外で時間をかけた展示が多いようです。
第 4 回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第 5 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順―その 1 －展示のための素材探し、種- ヒントの探し方を考える。
第 6 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみること	企画展実施までの工程手順―その 2 －成功した企画展例を基に、自分なりにシュミレーションしてみる。
第 7 回	展示構想と企画書　企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成する。
第 8 回	レポート課題	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第 9 回	展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示室の空間やケースの配置、照明計画のあり方を説明する。
第 10 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員存在理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第 11 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第 12 回	展示図録・パンフレット等の作成手順	図録やポスター等の印刷物作成手順を学ぶ。
第 13 回	借用交渉と調書	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調書を作成する。
第 14 回	資料保存修復の仕方について	展示を実施する際に資料の修復等を行うことがある。どのような状況で行うのかその実際例を紹介する。
第 15 回	資料目録の作成手順	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の１次候補から２次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始める。
第 16 回	企画展を構想する②	学生自身で企画展を構想提示し発表する。優れた企画案について議論を深める。
第 17 回	情報端末導入について	大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 18 回	企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	５人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 19 回	企画展実施②　グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 20 回	企画展実施③　展示企画の具体像を提示していく	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 21 回	企画展実施④　展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 22 回	企画展実施⑤　教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第 23 回	中間発表－まとめ	グループ発表の仮題目を決め中間発表を行う。展示構想を具体化していく。
第 24 回	企画展実施⑥　発表に向けた準備	発表内容の構成やポイントを整理する。パワーポイント情報への整理を行う。
第 25 回	企画展実施⑦　ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグズウがある。独自のグッズを考えてみよう。
第 26 回	企画展実施⑧　最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表　グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが１５分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。１年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低３回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】
特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】
出席７割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリテイを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価については適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】
机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】
グループ討議では☒を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☒を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く、実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline and objectives】
Learn how to organize exhibitions at the museum.In the first half the lesson,you will learn various steps besed on the text.In the second half,we will organize a group and present a special exhibition. At the same time,learn about the differences between the world and japan in their approach to museum activities.

【2016 年度以前入学者用】博物館実習Ⅱ

杉山　享司

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：土 6　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】
この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を企画して展覧会概要にまとめ、最終的にはそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要となる知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 9 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館実習の目的・方法	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	展覧会と学芸員	学芸員の役割と展覧会の意義について解説する
3	展覧会からたどる博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本の博物館がどのように発展していったのかを解説する。
4	私立美術館における展示活動の紹介	日本民藝館の概要と展示活動について紹介する
5	公立美術館における展示活動の紹介	静岡市立芹沢銈介美術館の概要と展示活動について紹介する
6	国立博物館における展示活動の紹介	東京国立博物館の概要と展示活動について紹介する
7	動物園施設における展示活動の紹介	旭山動物園の概要と展示活動について紹介する
8	海外の博物館における展示活動の紹介	大英博物館の概要と展示活動について紹介する。
9	企画展の開催とその意義について	企画展の持つ意味やそれを開催するための方法等について解説する。
10	展覧会実施までのプロセス①	企画書の立案から作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	企画書の作成からプレゼンテーションまでの過程を解説する
12	展覧会実施までのプロセス③	展示の準備から展覧会実施までの過程を解説する
13	出品交渉の心得について	作品の借用交渉について説明する
14	展示の方法や種類について	展示方法の紹介やその作業について解説する
15	展覧会企画に向けて	春学期授業の内容確認と、展覧会の企画書の作成方法について説明する。
16	受講生による 1 回目の展覧会企画の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。
17	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、特に展示内容とその構成の仕方について解説する
18	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では特に展覧会会場の設定に関して解説する
19	前回発表の振り返りと、受講生による 4 回目の発表	受講生による 4 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、料金設定の仕組みについて解説する
20	前回発表の振り返りと、受講生による 5 回目の発表	受講生による 5 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定に関して解説する
21	前回発表の振り返りと、受講生による 6 回目の発表	受講生による 6 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、プレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会企画の発表の総括	受講生各自の発表を基に、問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る
23	展覧会見学	学芸員の案内による東京都内の美術館見学を行う
24	受講生によるフライヤーを用いた 1 回目の本発表	企画書を基にして作成したフライヤー（展覧会チラシ）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による 2 回目の本発表	展示内容に意識しながら 2 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による 3 回目の本発表	フライヤー（展覧会チラシ）のデザイン面に留意しながら 3 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による 4 回目の本発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら 4 回目の本発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による 5 回目の本発表	企画者としてのメッセージに留意しながら 5 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】
レジュメを授業中に配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.
In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論

御園生　純

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：月 5　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主体的な学びのスタイルとは？
★学習キーワード―脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など
私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。
社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。
実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】
社会教育計画立案にかかわる
・プレゼン能力
・現状調査能力
・企画立案力
・イベントプロモーションの在り方
・広報宣伝/集客テクニック
などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。
秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビューン度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画 ・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタヴューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する 次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビューン結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビューン結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビューン結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。
受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。
担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】
· Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.
· Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
Will be able to have your own thoughts about social education issues.

【2016 年度以前入学者用】社会教育経営論

御園生　純

単位数：4 単位　｜　開講セメスター：年間
曜日・時限：木 3　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主体的な学びのスタイルとは？
★学習キーワード―脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など
私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。
社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。
実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】
社会教育計画立案にかかわる
・プレゼン能力
・現状調査能力
・企画立案力
・イベントプロモーションの在り方
・広報宣伝/集客テクニック
などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。
秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビューン度の実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画 ・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタヴューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	インターヴュー/ヒアリングを実践する 次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビューン結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビューン結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビューン結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。
受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。
担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】
· Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.
· Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
Will be able to have your own thoughts about social education issues.

【2016 年度以前入学者用】社会教育活動Ⅰ

桔川　純子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期
曜日・時限：火６　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、持続可能な社会を形成していくにあたり必要不可欠な、マイノリティの問題、特に外国籍、外国にルーツをもつ人、女性たの問題に焦点を当て、「自分」に引きつけて考えていきます。
そして国内外のさまざまな取り組みを通じて、「ダイバーシティ」「内なる国際化」とは何かについて考察し、「ジェンダー」「エスニシティ」「マイノリティー」の問題について、グルーバルな視点から分析できるようにします。そして、現在の全世界の状況に目を向けながら、「コロナ後の世界」を一緒に考えてみましょう。
初回のガイダンスを通じて受講生の興味・関心を把握し、講義に反映させる予定です。

【到達目標】
1. 国際社会における
日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて、自分の身にひきつけて考察します。そして、社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較しながら理解し、ディスカッションを重ね、思考を深めていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
本授業の開始日は５月２１日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。
また、現在世界が大変な状況にあります。コロナ時代における課題を考えながら、授業を進めていきたいと思います。詳細は学習支援システムで確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「コロナの時代」において何を考えるのか	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方、評価などについて。
2	ジェンダーとは何か	ジェンダーの定義。 女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	エスニシティとは何か	エスニシティの定義。日本における「多文化共生」の現状
4	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT（Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender）とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
5	＜人権＞と社会教育	憲法で保障されている＜人権＞、関連する法律などを確認し、日常のなかの＜人権意識＞について考察する。
6	< ことば> のもつ意味と識字教育	差別を助長する＜ことば＞、配慮のある＜ことば＞について考える。
7	しくみ（法律、制度）について考えてみる	意識変容を促す< 制度> とは
8	地域における実践の考察①	日本の< 地域> について調べてみる。
9	地域における実践の考察②	日本の< 地域> について調べてみる。
10	世界の実践の考察①	世界の取り組みについて調べてみる
11	世界の実践の考察②	世界の取り組みについて調べてみる
12	まとめ：意見交換	「コロナ後の社会」を見据えて、ジェンダー、エスニシティ、マイノリティが大切にされる社会をつくっていくために
13	省略	省略
14	省略	省略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】
講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】
■富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）
■移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！ NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中長期在留者のための Q&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のための Q&A』、『改定入管特例法 特別永住者のための Q&A』（2011）
■ソーシャルデザイン会議実行委員会 (著, 編集)『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議、2013）

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。毎回の課題提出６０％、期末レポート４０％とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【その他の重要事項】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will learn about minority issues throuth various social education activities.
Also for a sustainable society, will consider about issues, of "diversity" ,"gender","ethnicity"and so on.

【2016 年度以前入学者用】社会教育活動Ⅱ

佛木　完

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期
曜日・時限：火 6　｜　配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、社会状況と活動内容を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学習し、人間関係を築き、社会に発信し、主体的な生き方を形成する様子を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】
地域青年団の性格や活動状況を理解しつつ、青年活動によって若者が成長する姿を学ぶと共に、その時代背景と青年活動や社会教育活動の意義について考察を深めます。
あわせて、雇用・労働環境、地域共同体や人間のコミュニケーションの変容の中で、若者が自己の価値観を形成し、多様な人間関係に向き合い、社会に能動的に働きかけながら主体的に生きる姿勢と視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回、テーマに応じたレジメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めながら、地域青年団の活動や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域青年団の概要と授業概説	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第 2 回	青年団と歴史背景の概観	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく 50 年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。
第 3 回	映画「同胞」に見る青年	過疎の村で劇団公演に取り組む青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第 4 回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究集会を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第 5 回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようにかかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていったのか、地域活動の系譜や各地でさまざまに繰り広げられる青年団の地域活動の具体的事例について学びます。
第 6 回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第 7 回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのようにかかわっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第 8 回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。
第 9 回	青年団の平和運動（その 1）	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を解説します。
第 10 回	青年団の平和運動（その 2）	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶもの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。
第 11 回	若者と子どもや他世代とのかかわり	子どもが育っていく社会環境の変化をふり返り、子どもたちの課題と、若者が他世代にかかわりながら若者自身が成長することを考えます。
第 12 回	現代の生きづらさと青年運動	貧困の問題、自殺、児童虐待、ＤＶ、介護など各世代を通じた現代の生きづらさ、人間の相互扶助と青年運動の果たす役割を考えます。
第 13 回	青年問題と青年運動	若者の雇用不安や自立の困難さ、孤立や疎外を越えて今後の展望をどう考えるのか。青年の問題と青年運動の果たす役割を考えます。
第 14 回	まとめ	これまで学んだことをふり返り、これからの社会の中で自分の生き方、共に支える人間関係のあり方、青年運動、社会教育について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げた活動事例に関連する時代状況や社会的背景をできるだけ自己学習して、青年の置かれた環境や状況と社会の関係への理解を深め、疑問点は授業の中で再度確認をしてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せずに、授業の中でその都度、レジメや資料、青年たちの活動レポートなどを配布し、適宜、ビデオも活用し、参考文献を紹介します。

【参考書】
特に指定しませんが、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
秋学期の終了前に提示したテーマに沿って、レポートを提出していただきます。授業への積極的な姿勢と授業で学んだことの考察のされ方を参考に、レポートを採点します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
若者たちはいつの時代も、進路や仕事、人間関係での模索、どう生きていくかという葛藤を抱えています。それを同世代の青年たちで共有し、社会に向けて何らかの発信をしていきながら、若者は自分自身をも形成していくものです。若者は、社会の未来を創造する主体者でもあります。そんな若者の活動や生き方を共に考えてみたいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn about social education activities conducted by the youth of every era in our history ;the circumstances surrounding young people, their own anxieties, demands, and how they have been in contact with their colleagues and the society.
As for lecture materials, we will study about "Seinendan(Japanese traditional youth organization)" activities carried out by the youth throughout Japan. We will learn about how young people have been learning, making up relationships with others, communicating with the society and forming the way to live independently. Let's consider about modern youth's problems and the role played by social education and youth activities.

【2016 年度以前入学者用】職業指導（仕事の場と学び）

高橋　浩

単位数：**4 単位**　｜　開講セメスター：**年間**
曜日・時限：**水 5**　｜　配当年次：**年**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるような職業指導（進路指導）のための諸理論および方法を学ぶ。職業指導の場面は単に学校から社会へ移行する際の職業選択の支援だけにとどまらない。社会人になってから遭遇する様々なライフイベントや転機を乗り越えるための支援や、より良い職業生活へと導く開発的支援を習得する必要がある。

【到達目標】
職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論とその方法について理解し、自他の今後のキャリアに応用できる。
職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を習得し、他者に対する支援的な態度と言動を取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 22 日（記入 4 月 20 日）。オンデマンド型（資料・課題の提示と課題回収・採点）で実施する。
職業指導（進路指導）は個人の人生に関わる分野である。職業を選択するプロセスや、働くことの意味・意義を理解した上で指導をする態度や知識・技法を身につける必要がある。オンデマンド型授業では、職業指導（進路指導）およびキャリアカウンセリングの諸理論・技法について実践場面を想定したテーマについて、事例や資料を通じて学習し、また課題について各自が調べることによって習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業指導・進路指導の歴史①（米国編）	米国において職業指導・進路指導がどのような歴史をたどって発展してきたのかについて理解する。
2	職業指導・進路指導の歴史②（日本編）	日本における職業指導・進路指導の発展の歴史と今日的課題および意義（学習指導要領を含む）について理解する。
3	職業選択としての職業指導・進路指導の理論①（マッチング理論）	人の特性と職業のマッチングの理論であるパーソンズおよびホランドの理論を理解し、その活用方法を学ぶ。
4	職業選択としての職業指導・進路指導の理論②（意思決定の理論）	ジェラットやヒルトンの理論をもとに、職業選択の合理性と不確実性について理解し、その活用方法を学ぶ。
5	職業選択としての職業指導・進路指導の理論③（学習と偶発性）	クルンボルツの理論をもとに、職業選択の学習による影響と偶発性について理解し、その活用方法を学ぶ。
6	職業選択としての職業指導・進路指導の理論④（転機への対処）	シュロスバーグの理論をもとに、転機への対処について理解し、その活用方法を学ぶ。
7	生涯発達としての職業指導・進路指導の理論①（発達段階とアイデンティティ）	エリクソンの心理－社会的発達理論をもとにライフステージ毎の発達課題やアイデンティティについて理解し、職業との関連について学ぶ。
8	生涯発達としての職業指導（進路指導）の理論②（キャリア・ステージ理論）	ギンズバーグやスーパー、レビンソンの理論をもとにキャリアの発達段階と発達課題について理解し、その活用方法を学ぶ。
9	意味形成としての職業指導・進路指導の理論①（働く意味の形成）	ハンセンやサビカスの理論をもとに、働く意味の形成とキャリア発達との関連について理解を深める。
10	意味形成としての職業指導・進路指導の理論②（関係性アプローチ）	ホールの関係性アプローチについて理解し、キャリア形成と人間関係の関連について学ぶ。
11	組織における職業指導・進路指導の理論	企業・組織における人事制度、特に年功賃金制と成果主義（目標管理制度など）について理解する。
12	まとめ	各種理論の有効性と限界、活用方法について各自のまとめを行う。
13	第 12 回に統合	・
14	第 12 回に統合	・
15	キャリア支援の種類と機能	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア教育のそれぞれの意味と機能について学ぶ。
16	キャリアカウンセリングの概要	キャリアカウンセリングとは何か、面談による支援・指導とは何かについて、ディスカッションを通じて学ぶ。
17	支援者としての自己理解と他者理解①（無意識と自己）	フロイト、ユング、バーンの理論にもとづいて無意識と抑圧など心の働きについて学ぶ。
18	支援者としての自己理解と他者理解②（認知理論）	ベックの認知療法やエリスの論理療法などの認知理論にもとづいて、認知変容・自己理解と問題解決について学ぶ。
19	支援者としての自己理解と他者理解③（学習理論）	３つの学習理論（古典的学習、オペラント学習、観察学習）にもとづいて、行動変容と問題解決の関係について学ぶ。
20	支援者としての自己理解と他者理解④（自己理論・来談者中心療法）	ロジャーズの自己理論（来談者中心療法）にもとづいて自己概念の働きと、自己一致／自己不一致について学ぶ。
21	アセスメントのしくみと解釈①（フォーマルアセスメント）	フォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
22	アセスメントのしくみと解釈②（インフォーマルアセスメント）	インフォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
23	職業指導の演習①（関係構築：態度と関わり技法）	面談初期の関係構築で必要となる基本的態度や関わり技法について、ロールプレイを通じて学ぶ。
24	職業指導の演習②（自己探索支援：質問技法）	面談中期の自己探索支援において用いられる質問技法の種類や効果、問いの立て方について、ロールプレイを通じて学ぶ。
25	職業指導の演習③（行動化支援：目標設定と計画・実行の支援）	面談後期の行動化支援で行われる目標設定とその計画・実行の支援について、解決志向アプローチに基づいた支援を学ぶ。
26	職業指導の演習④（支援の構造化：支援のプロセス）	複数の汎用的なカウンセリング・プロセス・モデルを学び、面談の組み立て方（構成）について、ロールプレイを通じて学ぶ。
27	総合的演習	これまで学んだ理論・技法を総合的に用いたロールプレイを行い、職業指導の導入部における望ましい支援方法を体験的に習得する。
28	試験とまとめ	試験として、面談場面を想定したロールプレイを行い、結果についてのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各理論・技法については、授業前後でテキストおよび参考図書などで概要の把握と、疑問点や意見をまとめて整理をする。各回の課題に十分対応できるように関連図書や Web とうで調べること。
本事業の準備・復習時間は、１回につき４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新時代のキャリアコンサルティング―キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研修機構編（労働政策研究・研修機構）2016 年、2,037 円

【参考書】
『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠翰著（日本文化科学社）
『新版 キャリアの心理学』渡辺三枝子編著（ナカニシヤ出版）
『カウンセリングの理論』國分康孝著（誠信書房）
『小学校学習指導要領』https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf
『中学校学習指導要領』
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/05/07/1384661_5_4.pdf

【成績評価の方法と基準】
オンデマンド型の授業の場合
・各回の課題への回答（50%）
・学期中および学期末の計２回のレポート課題（50%）
対面型の授業の場合
・職業指導（進路指導、キャリア）の理論のその方法の理解について：春学期末のレポート課題（５０%）、平常点（５０%）
・カウンセリング理論とその支援技法について：秋学期末の演習（５０%）、平常点（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
実際の指導場面を踏まえたディスカッションとロールプレイをより多く行い実践力を強化する。

【Outline and objectives】
In this class, students learn theories and methods for career guidance that can cope with career turning points from school to work. Scenes of career guidance are not limited to just assisting vocational selection in transitioning from school to work. It is necessary to master support skills to overcome various life events and turning points encountered after becoming a worker, and development skills to lead to a better life career.

法政大学
HOSEI University